

枚方市

子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

枚方市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学

目次

はじめに	2
I 調査概要	3
1. 調査の趣旨・目的	3
2. 調査の方法	3
3. 配付数・回収数・回収率	3
4. 大阪府内全自治体の調査結果について.....	3
5. 調査実施主体	5
6. 研究者一覧	5
7. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い.....	5
II 調査結果	7
1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕	7
2. 単純集計結果〔保護者〕	84
3. クロス集計および分析結果	182
3－1. 基本情報	182
(1) 経済状況	182
(2) 家庭状況（制度等）	201
3－2. 雇用	248
3－3. 健康	256
3－4. 家庭生活、学習	299
3－5. 対人関係	359
III 総合考察	426
1) 大阪府共同調査の意義	426
2) 単純集計	426
3) クロス集計	429
IV 資料編	433

はじめに

2014年1月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行されたことをスタートに、2014年8月「子供の貧困対策に関する大綱」が策定された。これら政府の動きを受けて、大阪市や大阪府内自治体含む大阪府は約10万件にも及ぶ子どもの生活に関する実態調査に共同で取り組んだ。府内すべてを網羅したこと、同じ調査で実施したことの意味は、大きい。なぜなら、各自治体がばらばらに実施し結果を見せても共通の指標にならず、この数値がどうなのか、意味があるのか、よくわからない実態も少なくない。世間でもかなり話題になり、マスコミに多数取り上げられた。この頃には、子どもの貧困が広く知られ社会問題化されつつあったが、この大規模な調査の動きは拍車をかけたのみならず、データ数の多さから、全て実証され、以下に示す政策にも少なからず影響をもたらした。

2019年6月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が5年ぶりに見直され、「こどもの貧困対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」が施行された。それを受けて、同年11月「子供の貧困対策に関する大綱～日本の将来を担う子供たちを誰一人取り残すことがない社会に向けて～」が再策定された。大綱では、「支援が届いていない、又は届きにくい子ども・家庭に配慮して対策を推進する」、「困窮層が多様であること」、「社会的孤立に陥ることのないように配慮する」など新たな視点が基本方針として追加され、ヤングケアラーと思われる子どもや、外国籍や障がいを持つ子どもたちなど、具体的な困窮層の子どもや家庭が示された。同時に、2023年4月にこども家庭庁が発足され、貧困をはじめとする子どもを取り巻く社会問題にシームレスに向き合い、途切れない政策・支援を打ち立てていくことが期待されている。

こうして子どもの貧困に関する社会的認知や政策が知られるようになったが、子どもの実態はどう変わったのであろうか。政策の効果は表れたであろうか。そんな思いをもって、大阪府では再度府内自治体とともに子どもの生活に関する実態調査が共同実施されることになった。全国的にここまで一体的に実施する都道府県は存在せず、大阪府が、大阪府内の大半を占める大阪市も含めて牽引した役割は大きい。

子どもの貧困については、前回と同様に、その国の貧困線未満の所得で暮らす相対的貧困の17歳以下の子どもの存在および生活状況を指す相対的貧困率でとらえる。OECDや厚生労働省調査の貧困率には等価可処分所得の中央値の50%が使用されているが、絶対的なものではなく、EU、ユニセフは公式の貧困基準のひとつに中央値の60%を使用（ただし、常に60%基準採用ではない）している。前回同様、60%のラインも含め検討している。子どもの相対的貧困率については、発表主体、統計利用データ年次によって変動する。内容的には、タウンゼンドの定義を元にChild Poverty Action Group (CPAG) が示している、①所得や資産など経済的資本 (capital) の欠如、②健康や教育など人的資本 (human capital) の欠如、③つながりやネットワークなど社会関係資本 (social capital) の欠如、の3つの資本の欠如を基本的な枠組みとしてとらえる。

I 調査概要

1. 調査の趣旨・目的

本調査は、子どもの生活実態や学習環境を把握するため、枚方市内の小学5年生及び中学2年生とその保護者を対象に行ったもので、枚方市を含む大阪府内18市町が大阪府と共同実施したものである。

とりまとめた調査結果については、こども子どもの貧困対策など、支援を必要とする子どもやその家庭に対する効果的な支援策の検討やこども等に活用していく。

【参考】大阪府と共同実施している18市町

大阪市、豊中市、池田市、守口市、枚方市、八尾市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、和泉市、柏原市、羽曳野市、門真市、摂津市、四條畷市、交野市、大阪狭山市、能勢町

2. 調査の方法

	内 容
調査対象	小学5年生とその保護者 1, 886世帯 中学2年生とその保護者 1, 872世帯 合計 3, 758世帯 ※市立全44小学校と全19中学校に対し、約半数のクラスに対し、学校での配付、Webもしくは郵送による回収を行った。
調査期間	令和5年7月12日～令和5年7月31日

3. 配付数・回収数・回収率

	配付数	回収数	回収率
小学5年生	1, 886件	815件	43.2%
小学5年生の保護者	1, 886件	800件	42.4%
中学2年生	1, 872件	606件	32.4%
中学2年生の保護者	1, 872件	593件	31.7%
合計（小学5年生と中学2年生）	3, 758件	1, 432件	38.1%
合計（小学5年生保護者と中学2年生保護者）	3, 758件	1, 527件	40.6%

※小学5年生と中学2年生の合計には、学年不明の11名が含まれており、小学5年生保護者と中学2年生保護者の合計には、学年不明の134名が含まれている。

4. 大阪府内全自治体の調査結果について

子どもと保護者を対象とした調査結果については、枚方市の調査結果のほか、参考に、大阪府内の全自治体（全市町村）の調査結果を掲載している。（調査期間：令和5年6月27日～令和5年9月30日）

大阪府内全自治体の調査結果については、共同実施している１８市町の結果と、大阪府が郵送調査を行ったその他の２５市町村の結果を統合したものである（ただし、各市町村によって回収数には差が生じている）。

【参考】大阪府内全自治体回収状況配布・回収方法別

		回収率(%)	回収数	配布数
学校配布・学校回収	小学５年生	61.6	15,927	25,852
	小学５年生の保護者	62.6	16,178	25,852
	中学２年生	58.3	13,712	23,539
	中学２年生の保護者	58.2	13,707	23,539
	小学５年生・中学２年生合計	60.1	29,674	49,391
	小学５年生保護者・中学２年生保護者合計	60.7	29,977	49,391
	計	60.4	59,651	98,782
学校配布・郵送回収	小学５年生	22.6	1,401	6,191
	小学５年生の保護者	22.2	1,376	6,191
	中学２年生	15.3	936	6,099
	中学２年生の保護者	15.5	943	6,099
	小学５年生・中学２年生合計	19.2	2,362	12,290
	小学５年生保護者・中学２年生保護者合計	19.2	2,361	12,290
	計	19.2	4,723	24,580
郵送配布・郵送回収	小学５年生	21.3	2,003	9,415
	小学５年生の保護者	21.0	1,978	9,415
	中学２年生	17.8	1,646	9,273
	中学２年生の保護者	17.8	1,653	9,273
	小学５年生・中学２年生合計	19.7	3,676	18,688
	小学５年生保護者・中学２年生保護者合計	19.7	3,675	18,688
	計	19.7	7,351	37,376
学校配布・WEB回答	小学５年生	23.0	3,007	13,068
	小学５年生の保護者	17.0	2,228	13,068
	中学２年生	21.3	2,714	12,718
	中学２年生の保護者	16.0	2,037	12,718
	小学５年生・中学２年生合計	22.2	5,723	25,786
	小学５年生保護者・中学２年生保護者合計	19.2	4,949	25,786
	計	20.7	10,672	51,572
郵送配布・WEB回答	小学５年生	10.1	951	9,415
	小学５年生の保護者	11.2	1,059	9,415
	中学２年生	10.6	982	9,273
	中学２年生の保護者	11.3	1,050	9,273
	小学５年生・中学２年生合計	10.4	1,935	18,688
	小学５年生保護者・中学２年生保護者合計	12.8	2,396	18,688
	計	11.6	4,331	37,376

※各配布・回収方法の小学５年生・中学２年生合計、小学５年生保護者・中学２年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学５年生、小学５年生保護者、中学２年生、中学２年生保護者、小学５年生・中学２年生合計、小学５年生保護者・中学２年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学５年生・中学２年生合計」と「小学５年生保護者・中学２年生保護者合計」の合計となっている。

5. 調査実施主体

枚方市

調査研究業務受託者

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

6. 研究者一覧

担当者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

教授 山野 則子（業務責任者）

特任講師 橋本 磨和

シニア研究員 永田 麻衣 佐伯 厘咲 李 孟

協力者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

准教授 嵯峨 嘉子

研究補助者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 経済学研究科

准教授 牛 冰

武庫川女子大学 社会情報学部 社会情報学科 助教 駒田 安紀

大阪商業大学 公共学部 公共学科 助教 林 萍萍

奈良佐保短期大学 地域こども学科 講師 河村 信子

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

研究員 黄 健育 渡邊 陽亮

大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 専攻社会福祉学分野 林 慎吾

松浦 孝範 久地井 寿哉 渡邊 祐作

7. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い

本報告書においては、枚方市と大阪府内全自治体をそれぞれ掲載している。枚方市のデータについては既に「I 調査概要 2～4」で述べた方法で収集したものである。大阪府内全自治体については、大阪府25市町村のデータに共同実施18市町のデータを統合したものである。これら全自治体においては、小学生・中学生27問、保護者26問をそれぞれ共通設問として調査項目を設計し、全体を統合して扱うあるいは比較することが可能なものとした。なお、一部の市においては、これらの共通設問とは別途把握したい内容がある場合に限り、追加で独自設問を設けている。

調査の結果、府と他共同実施18市町との間で回収率や回収数に差が生じた。府では、予めサンプリングした対象8000件への配布を行いその約30%の回収となったのに対し、他共同実施市ではほとんどの市が全数配布の結果、高いところでは70%を超える回収率となっている。このため、自治体間で回収率あるいはサンプルサイズの補正を行うか否かについて検討し、補正は行わないとの結論に達した。

1点目の理由としては、今回の調査では調査票配布の方法に郵送配布と学校配布の2種類があり、いずれを用いるかは自治体の状況に基づいて決定された。配布方法が異なることで回収率に差が生じることは避けられないものであった。

2点目の理由としては、このような状況に対して、例えば回収率の高かった自治体についてデータの再サンプリングなどの方法を用いて削減を行うことも意見が出された。しかし、その

場合、どのような基準で選択するのかが恣意的になってしまうこと、削減後の結果を提示した場合、施策を提言するための貴重な調査結果であるにもかかわらずその一部が掬い取られないことになり、全数調査をした市においては意義が失われてしまう。

このような理由から、大阪府内全自治体のデータは回収したデータをすべて統合したものとなっている。

本報告書では、「枚方市」、「大阪府内全自治体」両者のグラフを掲載しているため、このように書き分けて論じていく。

なお、報告書においてはパーセンテージを用いて記述し、議論を進める。この中で、パーセンテージで示される数値同士の加・減・除を行う（合計する・差を把握する・何倍かに着目する）ことがあるが、実際に示された数値で算出しても結果が異なることがある。これは、示されている数値は小数第二位以下を四捨五入しているものであり、算出には四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものである。

Ⅱ 調査結果

1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕

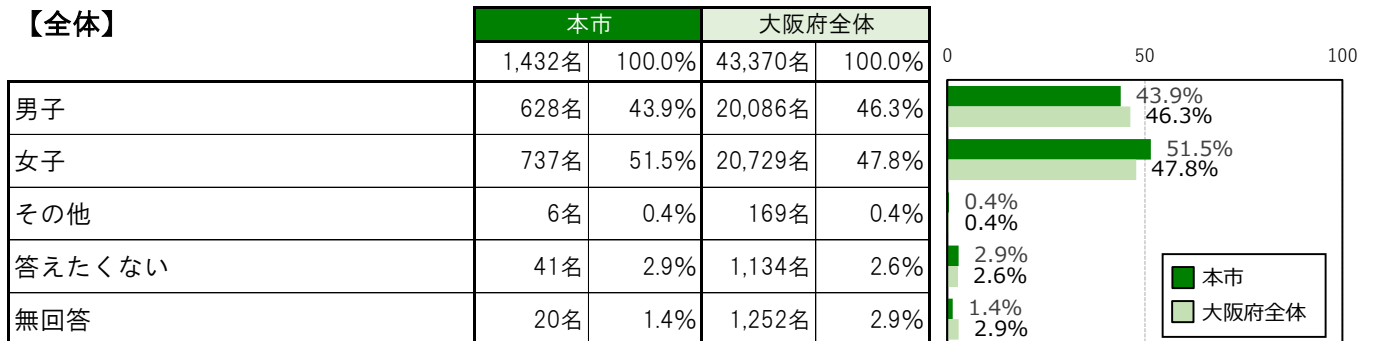
枚方市

回答者の属性

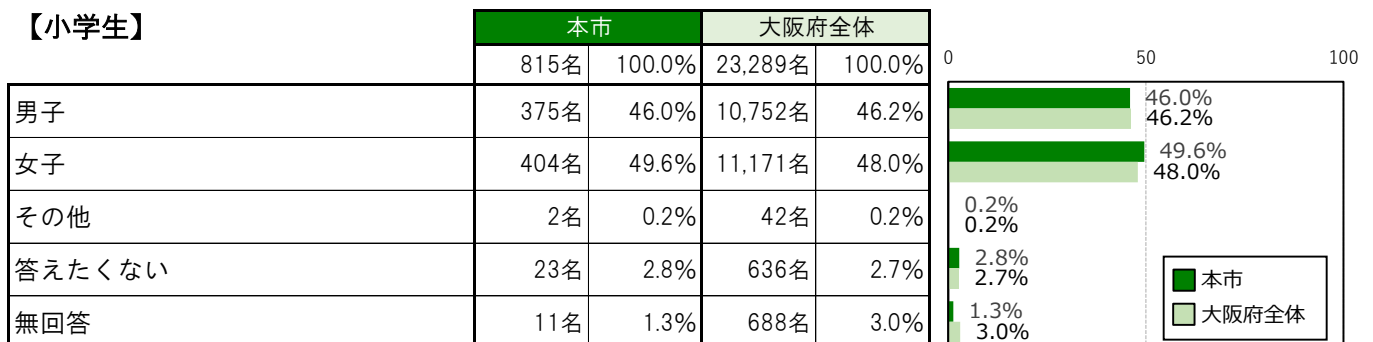
問27 性別

全体は、「男子」が43.9%、「女子」が51.5%となっている。
小学生は、「男子」が46.0%、「女子」が49.6%となっている。
中学生は、「男子」が41.3%、「女子」が54.0%となっている。

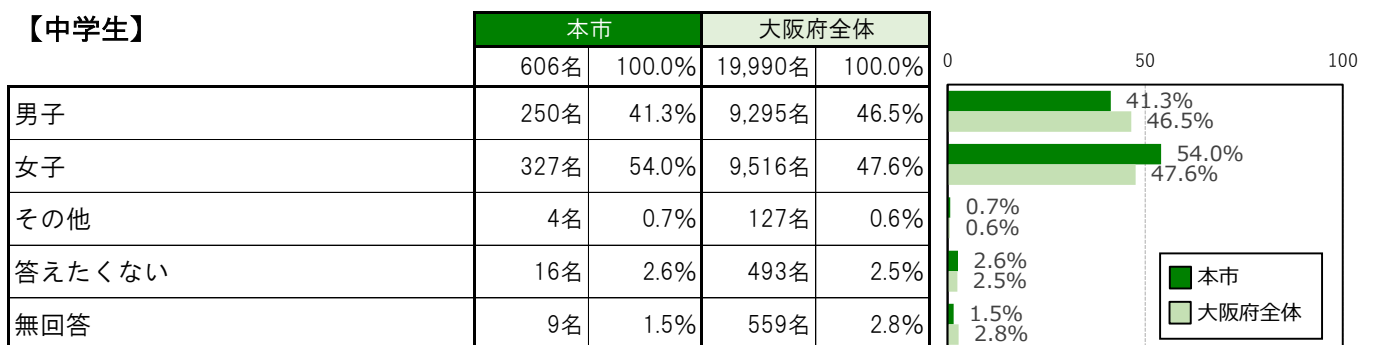
【全体】



【小学生】



【中学生】



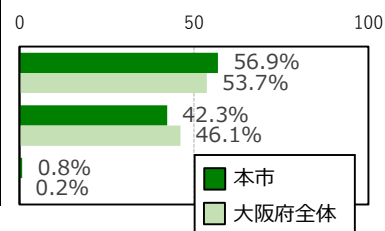
回答者の属性

問1 学年

回答者の学年は、「小学生」が815名・56.9%、「中学生」が606名・42.3%となっている。

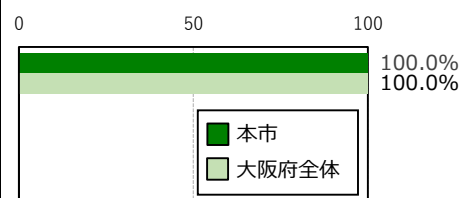
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
小学生	815名	56.9%	23,289名	53.7%
中学生	606名	42.3%	19,990名	46.1%
無回答	11名	0.8%	91名	0.2%



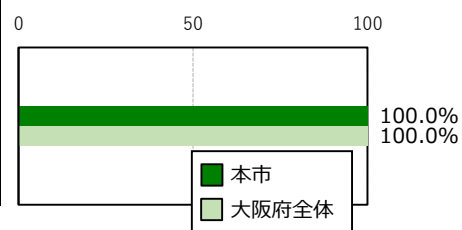
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
小学生	815名	100.0%	23,289名	100.0%
中学生	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
小学生	-	-	-	-
中学生	606名	100.0%	19,990名	100.0%
無回答	-	-	-	-



ふだんの生活のことについて

問2 起床時間の規則性

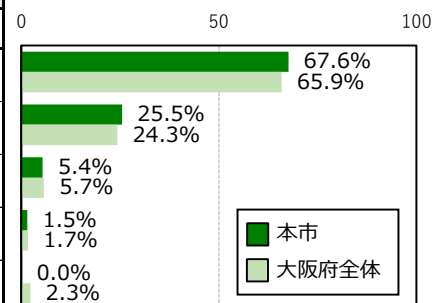
全体は、「起きている」が67.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が25.5%、「あまり、起きていない」が5.4%となっている。

小学生は、「起きている」が68.1%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が25.2%、「あまり、起きていない」が5.4%となっている。

中学生は、「起きている」が66.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が26.1%、「あまり、起きていない」が5.4%となっている。

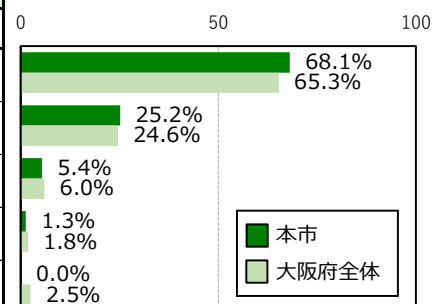
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
起きている	968名	67.6%	28,594名	65.9%
どちらかといえば、起きている	365名	25.5%	10,539名	24.3%
あまり、起きていない	78名	5.4%	2,478名	5.7%
起きていない	21名	1.5%	741名	1.7%
無回答	-	-	1,018名	2.3%



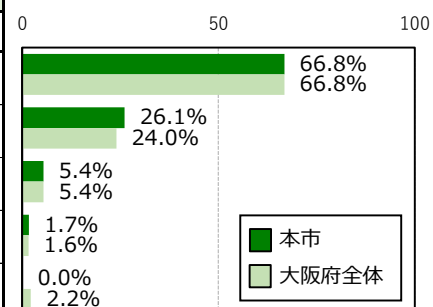
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
起きている	555名	68.1%	15,198名	65.3%
どちらかといえば、起きている	205名	25.2%	5,722名	24.6%
あまり、起きていない	44名	5.4%	1,386名	6.0%
起きていない	11名	1.3%	410名	1.8%
無回答	-	-	573名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
起きている	405名	66.8%	13,344名	66.8%
どちらかといえば、起きている	158名	26.1%	4,791名	24.0%
あまり、起きていない	33名	5.4%	1,088名	5.4%
起きていない	10名	1.7%	328名	1.6%
無回答	-	-	439名	2.2%



ふだんの生活のことについて

問3 就寝時間

全体は、「午後10時台」が37.1%で最も多く、次いで「午後11時台」が23.7%、「午後9時台」が22.2%、「午前0時台」が6.6%となっている。

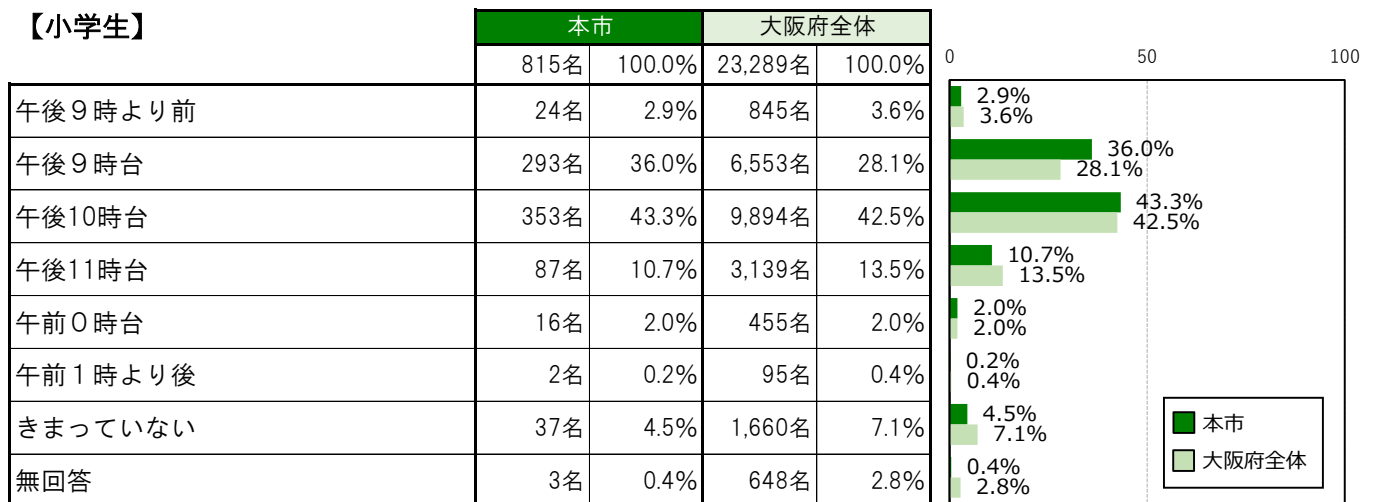
小学生は、「午後10時台」が43.3%で最も多く、次いで「午後9時台」が36.0%、「午後11時台」が10.7%、「きまっていない」が4.5%となっている。

中学生は、「午後11時台」が41.4%で最も多く、次いで「午後10時台」が28.7%、「午前0時台」が12.9%、「きまっていない」が9.1%となっている。

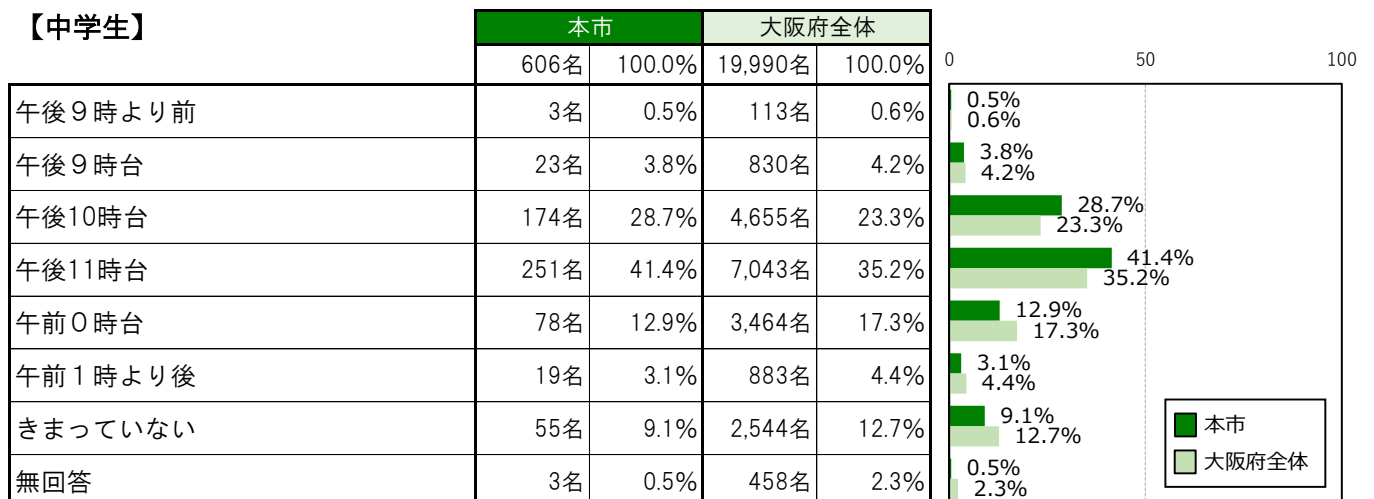
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問4（1）朝食の頻度

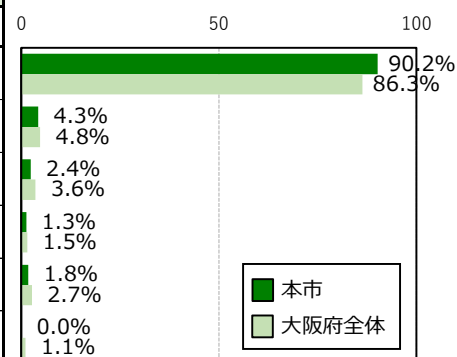
全体は、「毎日またはほとんど毎日」が90.2%で最も多く、次いで「週に4～5回」が4.3%、「週に2～3回」が2.4%、「食べない」が1.8%となっている。

小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が93.4%で最も多く、次いで「週に4～5回」が3.6%、「週に2～3回」が1.8%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が85.8%で最も多く、次いで「週に4～5回」が5.1%、「食べない」が3.5%、「週に2～3回」が3.3%となっている。

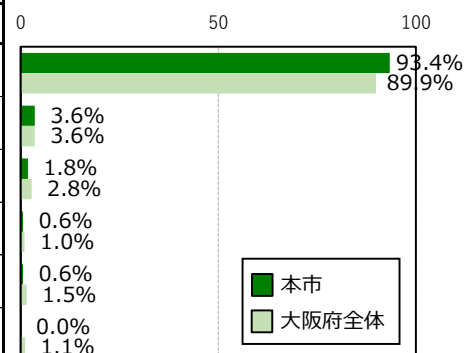
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	1,291名	90.2%	37,447名	86.3%
週に4～5回	61名	4.3%	2,062名	4.8%
週に2～3回	35名	2.4%	1,564名	3.6%
週に1回程度	19名	1.3%	649名	1.5%
食べない	26名	1.8%	1,180名	2.7%
無回答	-	-	468名	1.1%



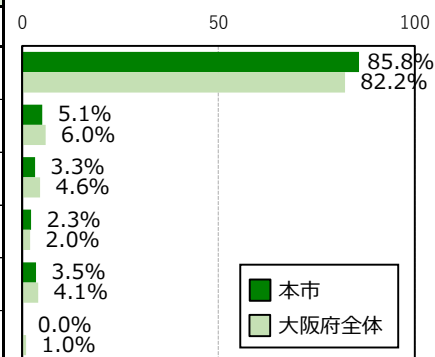
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	761名	93.4%	20,939名	89.9%
週に4～5回	29名	3.6%	849名	3.6%
週に2～3回	15名	1.8%	647名	2.8%
週に1回程度	5名	0.6%	241名	1.0%
食べない	5名	0.6%	359名	1.5%
無回答	-	-	254名	1.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	520名	85.8%	16,433名	82.2%
週に4～5回	31名	5.1%	1,207名	6.0%
週に2～3回	20名	3.3%	913名	4.6%
週に1回程度	14名	2.3%	408名	2.0%
食べない	21名	3.5%	820名	4.1%
無回答	-	-	209名	1.0%



ふだんの生活のことについて

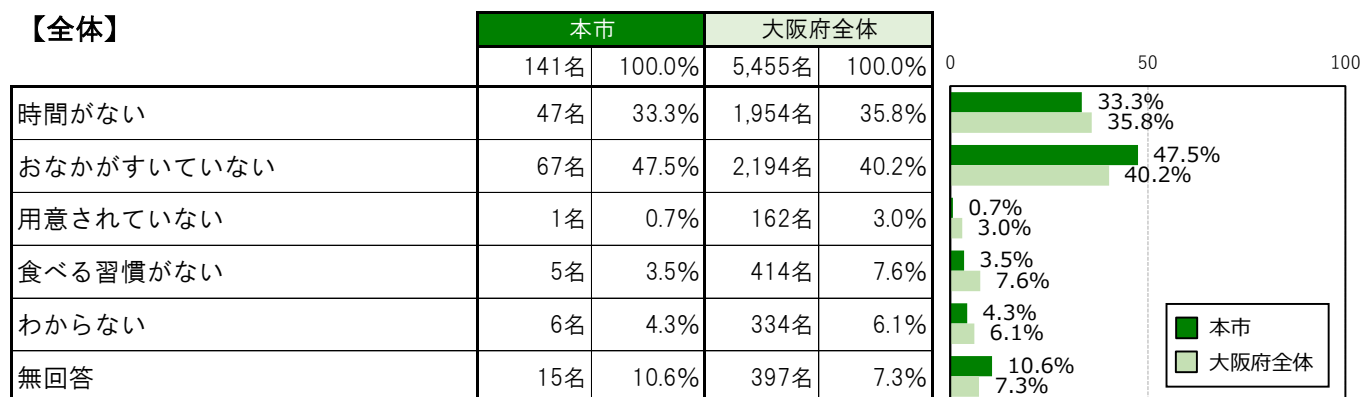
問4（2）朝食を食べない理由

全体は、「おなかがすいていない」が47.5%で最も多く、次いで「時間がない」が33.3%、「食べる習慣がない」が3.5%となっている。

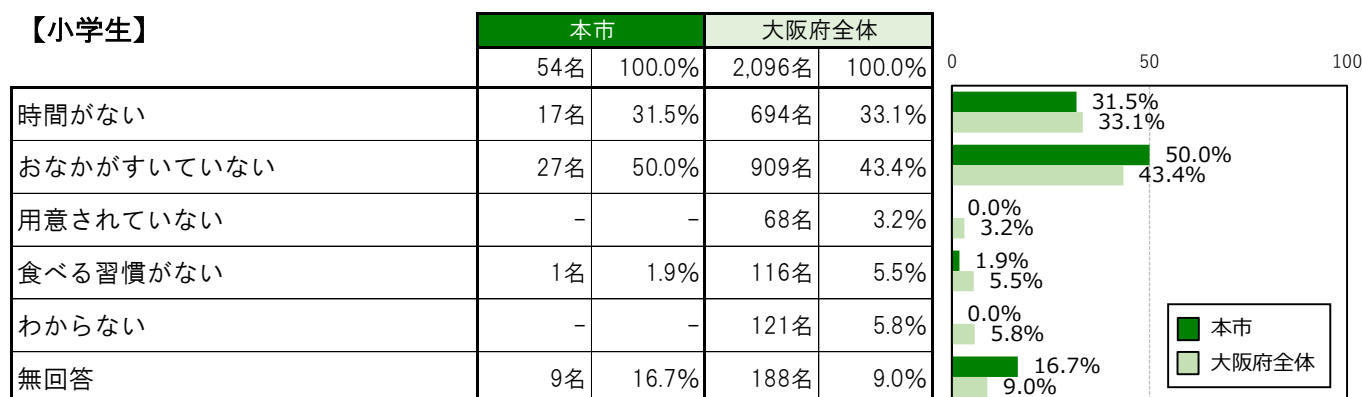
小学生は、「おなかがすいていない」が50.0%で最も多く、次いで「時間がない」が31.5%、「食べる習慣がない」が1.9%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が46.5%で最も多く、次いで「時間がない」が34.9%、「食べる習慣がない」が4.7%となっている。

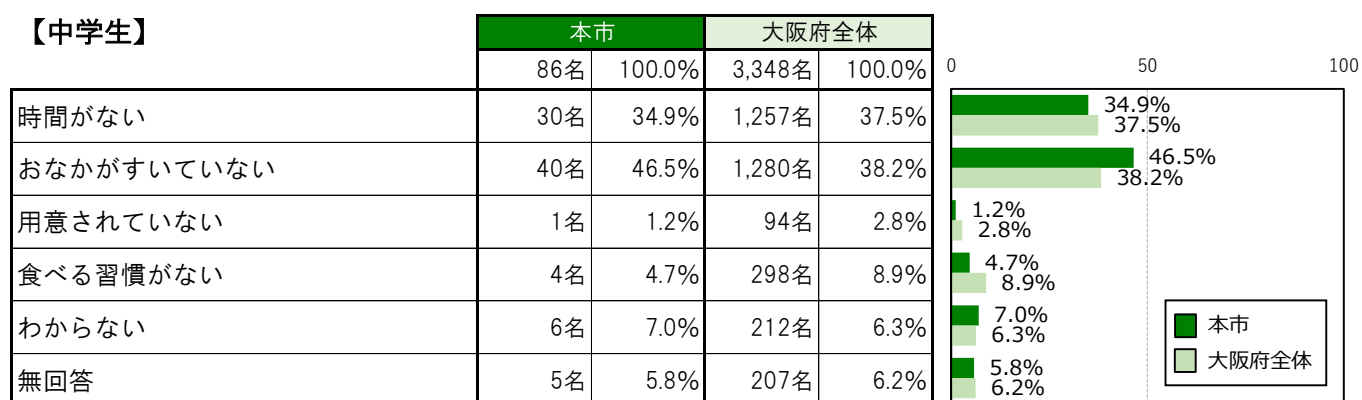
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問5（１）夕食の頻度

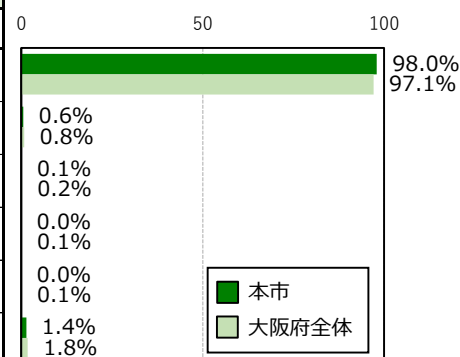
全体は、「毎日またはほとんど毎日」が98.0%で最も多く、次いで「週に4～5回」が0.6%となっている。

小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が98.0%で最も多く、次いで「週に4～5回」が0.4%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が98.2%で最も多く、次いで「週に4～5回」が0.8%となっている。

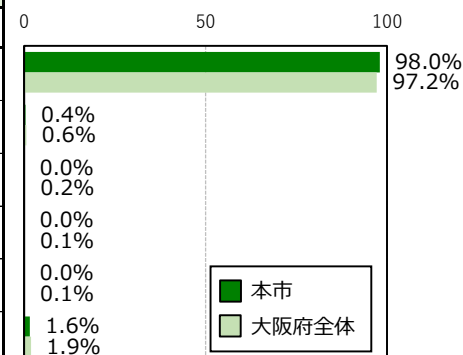
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	1,403名	98.0%	42,110名	97.1%
週に4～5回	8名	0.6%	327名	0.8%
週に2～3回	1名	0.1%	100名	0.2%
週に1回程度	-	-	31名	0.1%
食べない	-	-	32名	0.1%
無回答	20名	1.4%	770名	1.8%



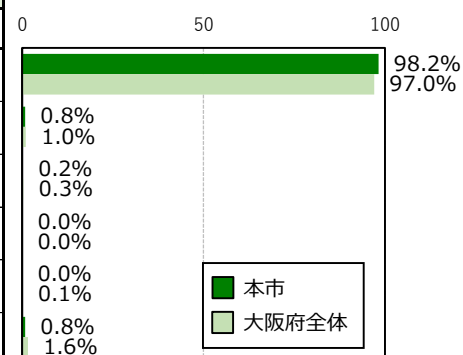
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	799名	98.0%	22,637名	97.2%
週に4～5回	3名	0.4%	132名	0.6%
週に2～3回	-	-	39名	0.2%
週に1回程度	-	-	23名	0.1%
食べない	-	-	16名	0.1%
無回答	13名	1.6%	442名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	595名	98.2%	19,393名	97.0%
週に4～5回	5名	0.8%	195名	1.0%
週に2～3回	1名	0.2%	60名	0.3%
週に1回程度	-	-	8名	0.0%
食べない	-	-	16名	0.1%
無回答	5名	0.8%	318名	1.6%



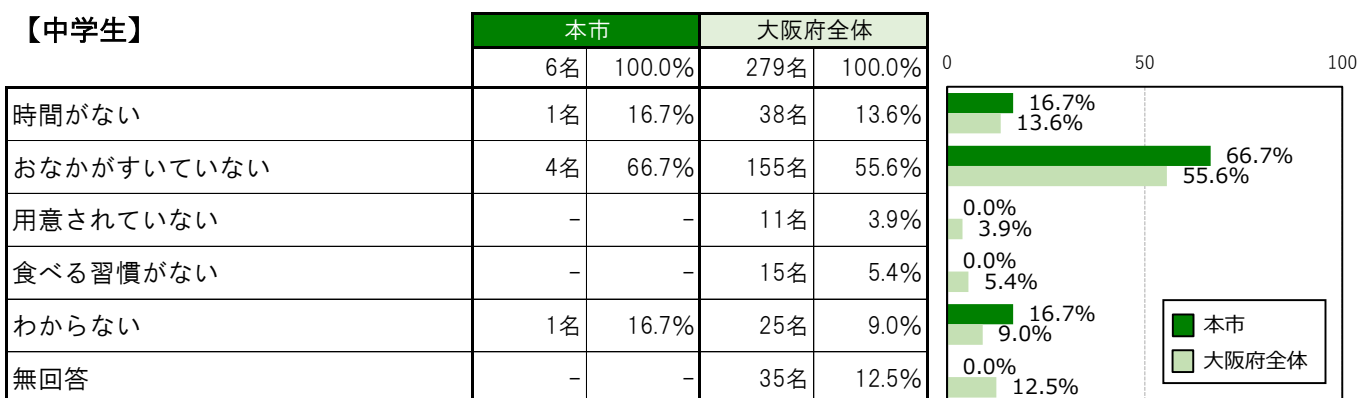
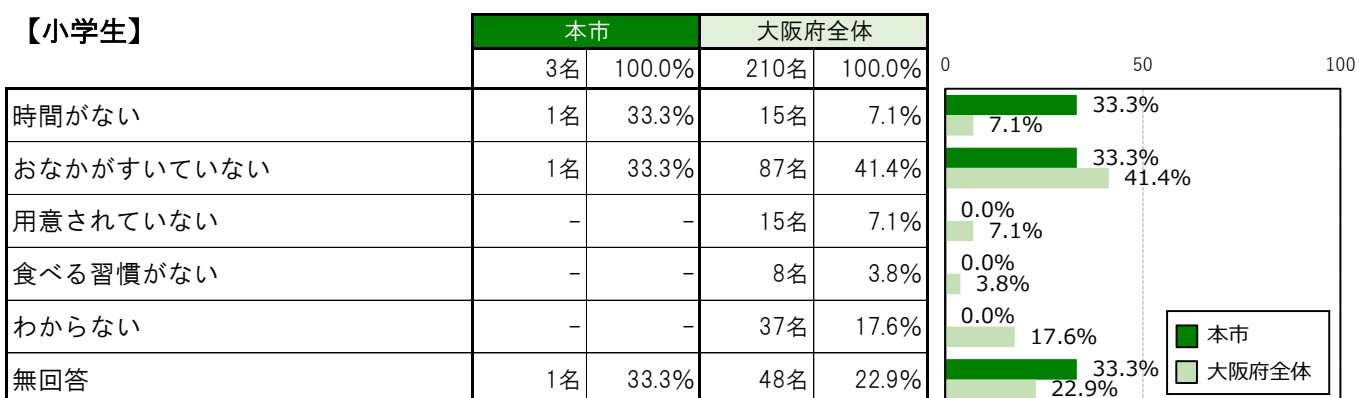
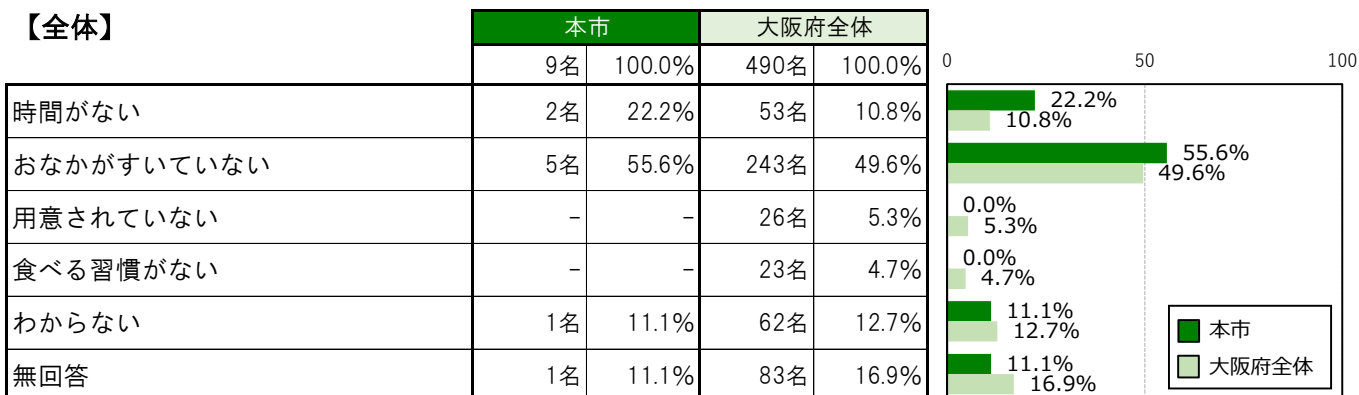
ふだんの生活のことについて

問5（2）夕食を食べない理由

全体は、「おなかがすいていない」が55.6%（5名）で最も多く、次いで「時間がない」が22.2%（2名）となっている。

小学生は、「時間がない」、「おなかがすいていない」がそれぞれ33.3%（1名）となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が66.7%（4名）で最も多く、次いで「時間がない」が16.7%（1名）となっている。



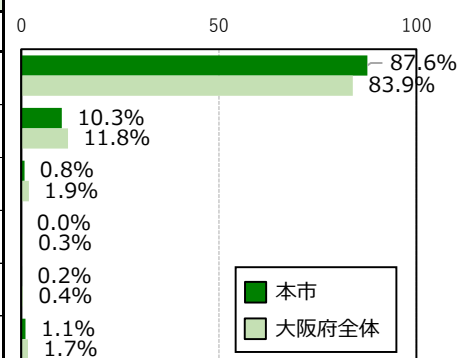
ふだんの生活のことについて

問6（１）休日の昼食の頻度

全体は、「必ず食べる」が87.6%で最も多く、次いで「食べることが多い」が10.3%となっている。
 小学生は、「必ず食べる」が89.7%で最も多く、次いで「食べることが多い」が8.5%となっている。
 中学生は、「必ず食べる」が84.8%で最も多く、次いで「食べることが多い」が13.0%となっている。

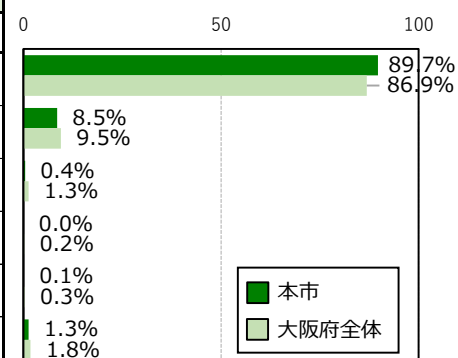
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
必ず食べる	1,254名	87.6%	36,388名	83.9%
食べるが多い	148名	10.3%	5,118名	11.8%
食べないことが多い	11名	0.8%	830名	1.9%
食べない	-	-	117名	0.3%
わからない	3名	0.2%	180名	0.4%
無回答	16名	1.1%	737名	1.7%



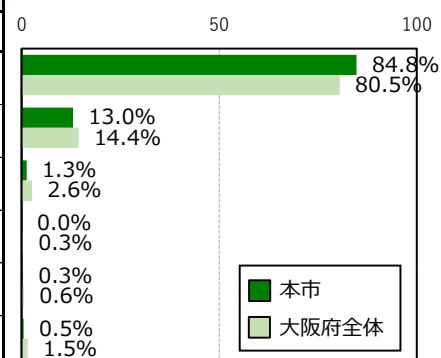
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
必ず食べる	731名	89.7%	20,227名	86.9%
食べるが多い	69名	8.5%	2,221名	9.5%
食べないことが多い	3名	0.4%	306名	1.3%
食べない	-	-	51名	0.2%
わからない	1名	0.1%	62名	0.3%
無回答	11名	1.3%	422名	1.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
必ず食べる	514名	84.8%	16,090名	80.5%
食べるが多い	79名	13.0%	2,886名	14.4%
食べないことが多い	8名	1.3%	524名	2.6%
食べない	-	-	66名	0.3%
わからない	2名	0.3%	117名	0.6%
無回答	3名	0.5%	307名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問6（２）休日に昼食を食べない理由

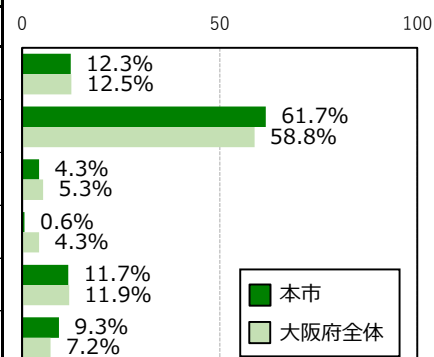
全体は、「おなかがすいていない」が61.7%で最も多く、次いで「時間がない」が12.3%、「用意されていない」が4.3%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が63.0%で最も多く、次いで「時間がない」が9.6%、「用意されていない」が5.5%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が60.7%で最も多く、次いで「時間がない」が14.6%、「用意されていない」が3.4%となっている。

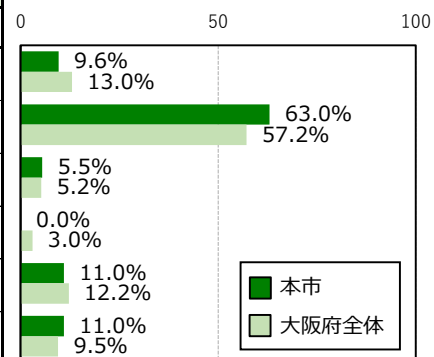
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
時間がない	20名	12.3%	783名	12.5%
おなかがすいていない	100名	61.7%	3,674名	58.8%
用意されていない	7名	4.3%	328名	5.3%
食べる習慣がない	1名	0.6%	266名	4.3%
わからない	19名	11.7%	744名	11.9%
無回答	15名	9.3%	450名	7.2%



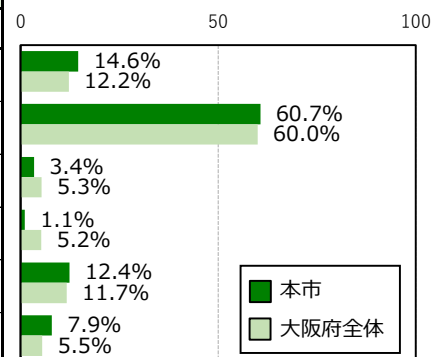
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
時間がない	7名	9.6%	343名	13.0%
おなかがすいていない	46名	63.0%	1,510名	57.2%
用意されていない	4名	5.5%	136名	5.2%
食べる習慣がない	-	-	78名	3.0%
わからない	8名	11.0%	321名	12.2%
無回答	8名	11.0%	252名	9.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
時間がない	13名	14.6%	438名	12.2%
おなかがすいていない	54名	60.7%	2,156名	60.0%
用意されていない	3名	3.4%	192名	5.3%
食べる習慣がない	1名	1.1%	188名	5.2%
わからない	11名	12.4%	422名	11.7%
無回答	7名	7.9%	197名	5.5%



ふだんの生活のことについて

問7 学校への遅刻

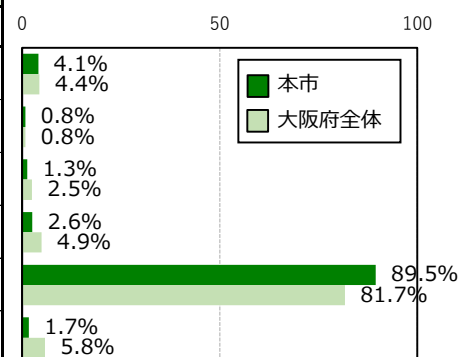
全体は、「遅刻はしない」が89.5%で最も多く、次いで「毎日またはほとんど毎日」が4.1%、「週に1回程度」が2.6%、「週に2～3回」が1.3%となっている。

小学生は、「遅刻はしない」が89.7%で最も多く、次いで「毎日またはほとんど毎日」が4.4%、「週に1回程度」が2.2%、「週に2～3回」が1.2%となっている。

中学生は、「遅刻はしない」が89.4%で最も多く、次いで「毎日またはほとんど毎日」が3.8%、「週に1回程度」が3.1%、「週に2～3回」が1.3%となっている。

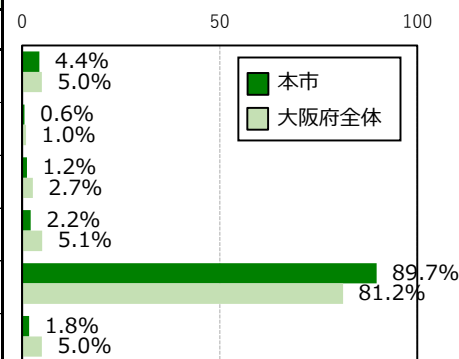
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	59名	4.1%	1,906名	4.4%
週に4～5回	11名	0.8%	333名	0.8%
週に2～3回	18名	1.3%	1,063名	2.5%
週に1回程度	37名	2.6%	2,132名	4.9%
遅刻はしない	1,282名	89.5%	35,435名	81.7%
無回答	25名	1.7%	2,501名	5.8%



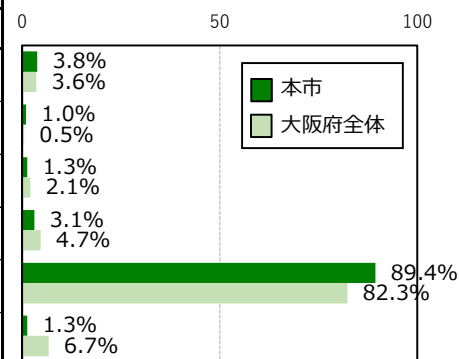
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	36名	4.4%	1,168名	5.0%
週に4～5回	5名	0.6%	223名	1.0%
週に2～3回	10名	1.2%	639名	2.7%
週に1回程度	18名	2.2%	1,194名	5.1%
遅刻はしない	731名	89.7%	18,907名	81.2%
無回答	15名	1.8%	1,158名	5.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	23名	3.8%	729名	3.6%
週に4～5回	6名	1.0%	109名	0.5%
週に2～3回	8名	1.3%	423名	2.1%
週に1回程度	19名	3.1%	935名	4.7%
遅刻はしない	542名	89.4%	16,459名	82.3%
無回答	8名	1.3%	1,335名	6.7%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ①おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べているか

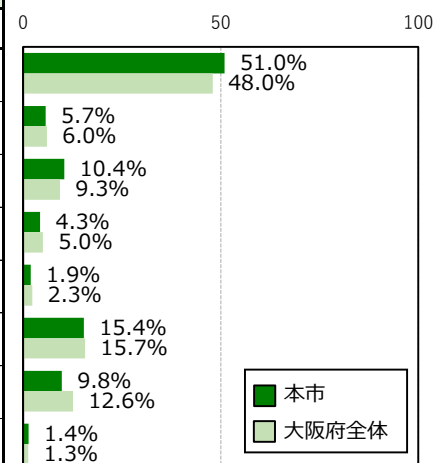
全体は、「ほとんど毎日」が51.0%で最も多く、次いで「ほとんどない」が15.4%、「週に2～3回」が10.4%、「まったくない」が9.8%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が55.2%で最も多く、次いで「ほとんどない」が13.0%、「週に2～3回」が10.9%、「まったくない」が8.1%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が45.4%で最も多く、次いで「ほとんどない」が18.8%、「まったくない」が12.2%、「週に2～3回」が9.7%となっている。

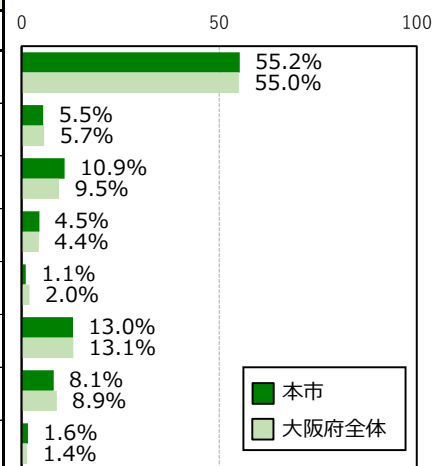
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	731名	51.0%	20,810名	48.0%
週に4～5回	82名	5.7%	2,583名	6.0%
週に2～3回	149名	10.4%	4,012名	9.3%
週に1回程度	61名	4.3%	2,155名	5.0%
月に1～2回	27名	1.9%	995名	2.3%
ほとんどない	221名	15.4%	6,794名	15.7%
まったくない	141名	9.8%	5,475名	12.6%
無回答	20名	1.4%	546名	1.3%



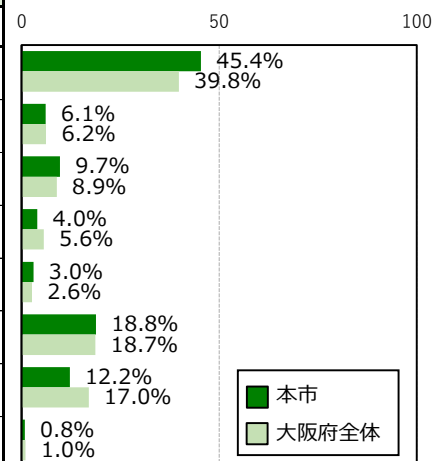
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	450名	55.2%	12,809名	55.0%
週に4～5回	45名	5.5%	1,328名	5.7%
週に2～3回	89名	10.9%	2,222名	9.5%
週に1回程度	37名	4.5%	1,023名	4.4%
月に1～2回	9名	1.1%	469名	2.0%
ほとんどない	106名	13.0%	3,042名	13.1%
まったくない	66名	8.1%	2,065名	8.9%
無回答	13名	1.6%	331名	1.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	275名	45.4%	7,962名	39.8%
週に4～5回	37名	6.1%	1,248名	6.2%
週に2～3回	59名	9.7%	1,780名	8.9%
週に1回程度	24名	4.0%	1,128名	5.6%
月に1～2回	18名	3.0%	526名	2.6%
ほとんどない	114名	18.8%	3,737名	18.7%
まったくない	74名	12.2%	3,400名	17.0%
無回答	5名	0.8%	209名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ②おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか

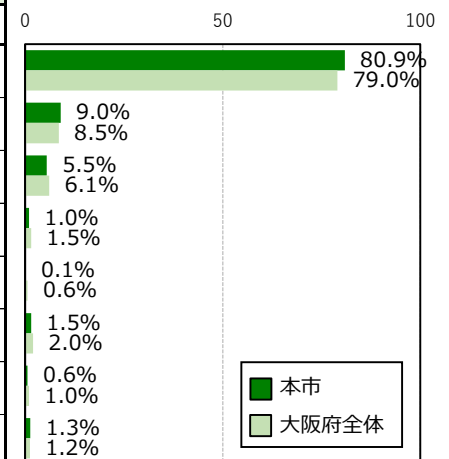
全体は、「ほとんど毎日」が80.9%で最も多く、次いで「週に4～5回」が9.0%、「週に2～3回」が5.5%、「ほとんどない」が1.5%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が85.0%で最も多く、次いで「週に4～5回」が6.4%、「週に2～3回」が4.8%、「ほとんどない」が1.2%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が75.6%で最も多く、次いで「週に4～5回」が12.5%、「週に2～3回」が6.6%、「ほとんどない」が1.8%となっている。

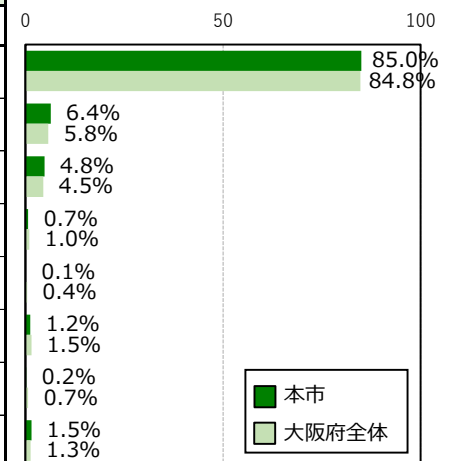
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	1,159名	80.9%	34,246名	79.0%
週に4～5回	129名	9.0%	3,679名	8.5%
週に2～3回	79名	5.5%	2,667名	6.1%
週に1回程度	15名	1.0%	656名	1.5%
月に1～2回	1名	0.1%	262名	0.6%
ほとんどない	21名	1.5%	889名	2.0%
まったくない	9名	0.6%	455名	1.0%
無回答	19名	1.3%	516名	1.2%



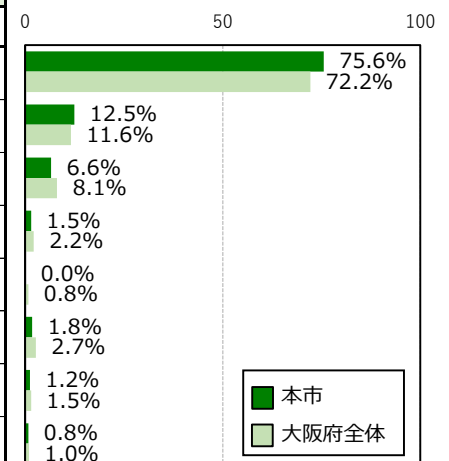
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	693名	85.0%	19,748名	84.8%
週に4～5回	52名	6.4%	1,360名	5.8%
週に2～3回	39名	4.8%	1,048名	4.5%
週に1回程度	6名	0.7%	222名	1.0%
月に1～2回	1名	0.1%	100名	0.4%
ほとんどない	10名	1.2%	349名	1.5%
まったくない	2名	0.2%	154名	0.7%
無回答	12名	1.5%	308名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	458名	75.6%	14,429名	72.2%
週に4～5回	76名	12.5%	2,310名	11.6%
週に2～3回	40名	6.6%	1,616名	8.1%
週に1回程度	9名	1.5%	431名	2.2%
月に1～2回	-	-	162名	0.8%
ほとんどない	11名	1.8%	539名	2.7%
まったくない	7名	1.2%	301名	1.5%
無回答	5名	0.8%	202名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ③おうちの大人の人に朝、起こしてもらうか

全体は、「ほとんど毎日」が44.8%で最も多く、次いで「ほとんどない」が14.0%、「まったくない」が12.1%、「週に4～5回」が11.2%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が46.7%で最も多く、次いで「ほとんどない」が13.6%、「週に4～5回」が12.4%、「まったくない」が11.3%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が42.6%で最も多く、次いで「ほとんどない」が14.5%、「まったくない」が12.9%、「週に2～3回」が10.7%となっている。

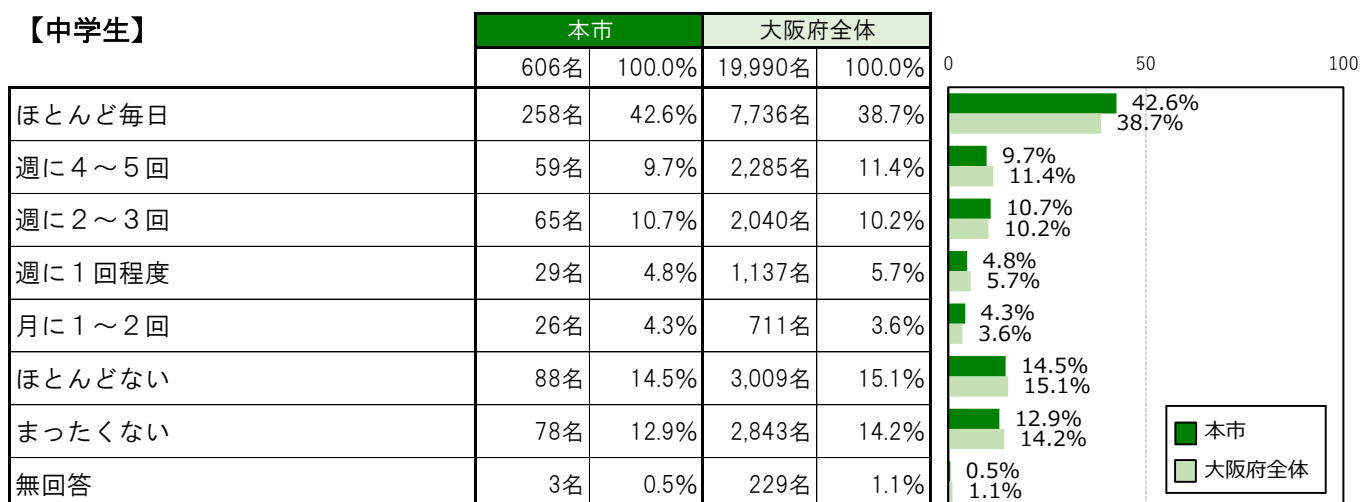
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ④おうちの手伝いをしているか

全体は、「ほとんど毎日」が24.5%で最も多く、次いで「週に2～3回」が17.2%、「ほとんどない」が15.8%、「週に1回程度」が13.6%となっている。

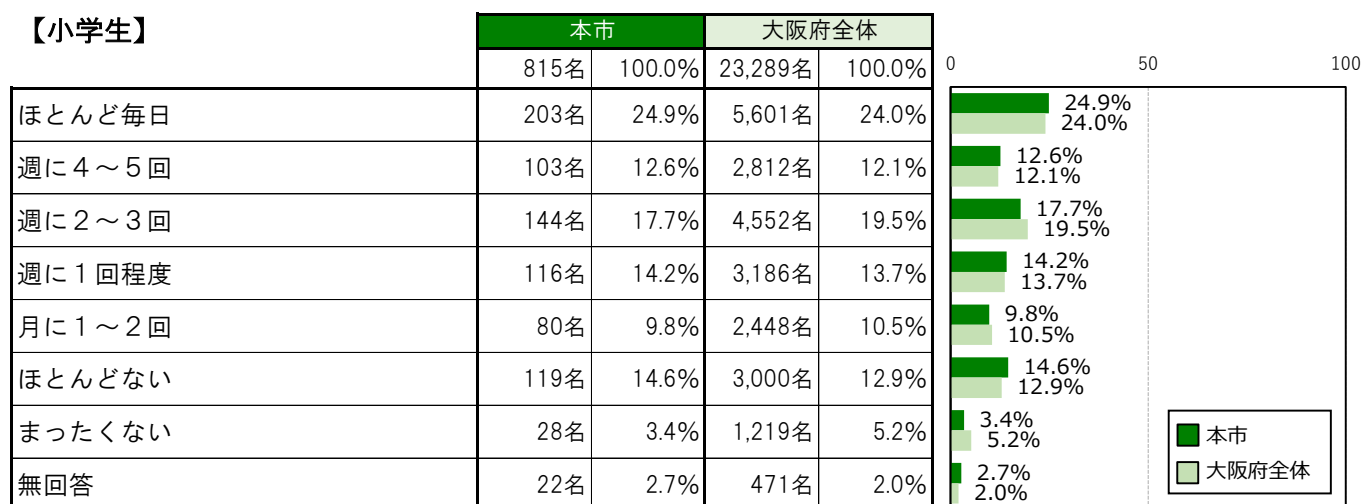
小学生は、「ほとんど毎日」が24.9%で最も多く、次いで「週に2～3回」が17.7%、「ほとんどない」が14.6%、「週に1回程度」が14.2%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が23.8%で最も多く、次いで「ほとんどない」が17.3%、「週に2～3回」が17.0%、「週に1回程度」が13.0%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑤おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

全体は、「ほとんどない」が26.0%で最も多く、次いで「まったくない」が24.2%、「ほとんど毎日」が13.5%、「月に1～2回」が9.8%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が22.3%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が19.1%、「まったくない」が15.2%、「週に2～3回」が13.1%となっている。

中学生は、「まったくない」が36.3%で最も多く、次いで「ほとんどない」が31.0%、「月に1～2回」が11.6%、「週に1回程度」が6.6%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑥おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか

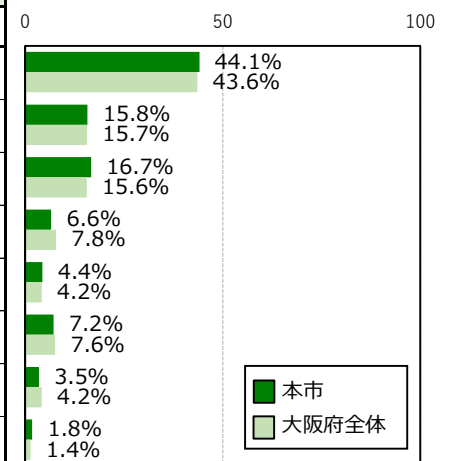
全体は、「ほとんど毎日」が44.1%で最も多く、次いで「週に2～3回」が16.7%、「週に4～5回」が15.8%、「ほとんどない」が7.2%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が48.2%で最も多く、次いで「週に4～5回」が16.1%、「週に2～3回」が15.2%、「ほとんどない」が6.4%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が38.8%で最も多く、次いで「週に2～3回」が18.5%、「週に4～5回」が15.7%、「週に1回程度」が8.6%となっている。

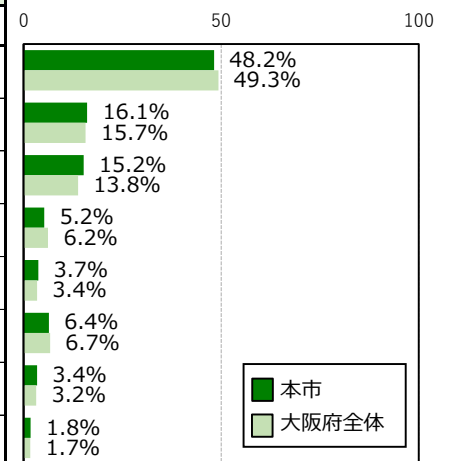
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	631名	44.1%	18,891名	43.6%
週に4～5回	226名	15.8%	6,809名	15.7%
週に2～3回	239名	16.7%	6,773名	15.6%
週に1回程度	94名	6.6%	3,386名	7.8%
月に1～2回	63名	4.4%	1,801名	4.2%
ほとんどない	103名	7.2%	3,283名	7.6%
まったくない	50名	3.5%	1,802名	4.2%
無回答	26名	1.8%	625名	1.4%



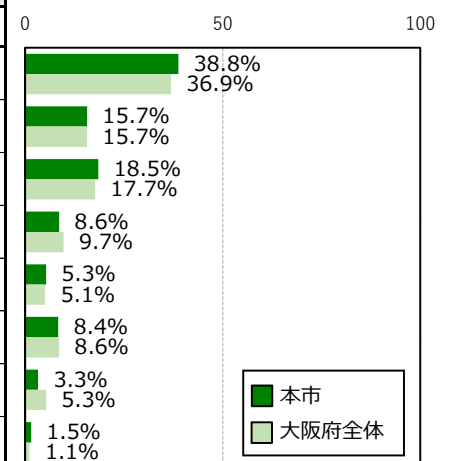
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	393名	48.2%	11,483名	49.3%
週に4～5回	131名	16.1%	3,660名	15.7%
週に2～3回	124名	15.2%	3,225名	13.8%
週に1回程度	42名	5.2%	1,447名	6.2%
月に1～2回	30名	3.7%	783名	3.4%
ほとんどない	52名	6.4%	1,558名	6.7%
まったくない	28名	3.4%	739名	3.2%
無回答	15名	1.8%	394名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	235名	38.8%	7,374名	36.9%
週に4～5回	95名	15.7%	3,138名	15.7%
週に2～3回	112名	18.5%	3,533名	17.7%
週に1回程度	52名	8.6%	1,933名	9.7%
月に1～2回	32名	5.3%	1,015名	5.1%
ほとんどない	51名	8.4%	1,716名	8.6%
まったくない	20名	3.3%	1,056名	5.3%
無回答	9名	1.5%	225名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑦おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか

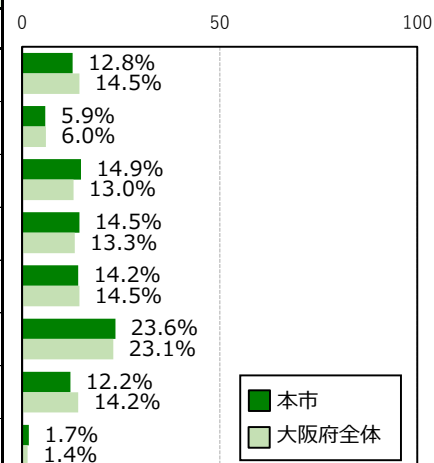
全体は、「ほとんどない」が23.6%で最も多く、次いで「週に2～3回」が14.9%、「週に1回程度」が14.5%、「月に1～2回」が14.2%となっている。

小学生は、「週に2～3回」が19.3%で最も多く、次いで「ほとんどない」が18.3%、「週に1回程度」が16.2%、「ほとんど毎日」が16.1%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が30.7%で最も多く、次いで「まったくない」が19.6%、「月に1～2回」が15.7%、「週に1回程度」が12.5%となっている。

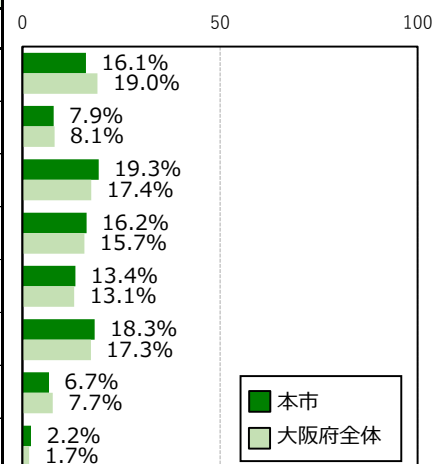
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	184名	12.8%	6,287名	14.5%
週に4～5回	84名	5.9%	2,582名	6.0%
週に2～3回	214名	14.9%	5,629名	13.0%
週に1回程度	208名	14.5%	5,782名	13.3%
月に1～2回	204名	14.2%	6,304名	14.5%
ほとんどない	338名	23.6%	10,004名	23.1%
まったくない	175名	12.2%	6,164名	14.2%
無回答	25名	1.7%	618名	1.4%



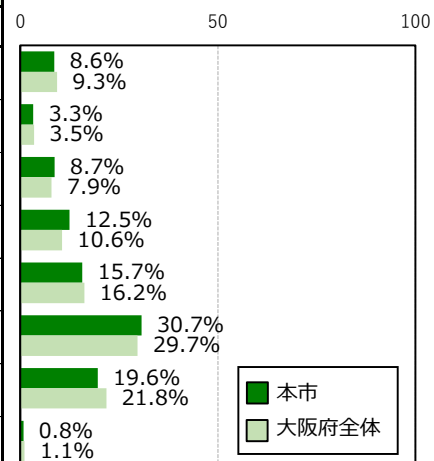
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	131名	16.1%	4,417名	19.0%
週に4～5回	64名	7.9%	1,880名	8.1%
週に2～3回	157名	19.3%	4,047名	17.4%
週に1回程度	132名	16.2%	3,656名	15.7%
月に1～2回	109名	13.4%	3,054名	13.1%
ほとんどない	149名	18.3%	4,038名	17.3%
まったくない	55名	6.7%	1,801名	7.7%
無回答	18名	2.2%	396名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	52名	8.6%	1,860名	9.3%
週に4～5回	20名	3.3%	693名	3.5%
週に2～3回	53名	8.7%	1,571名	7.9%
週に1回程度	76名	12.5%	2,114名	10.6%
月に1～2回	95名	15.7%	3,240名	16.2%
ほとんどない	186名	30.7%	5,944名	29.7%
まったくない	119名	19.6%	4,352名	21.8%
無回答	5名	0.8%	216名	1.1%



ふだんの生活のことについて

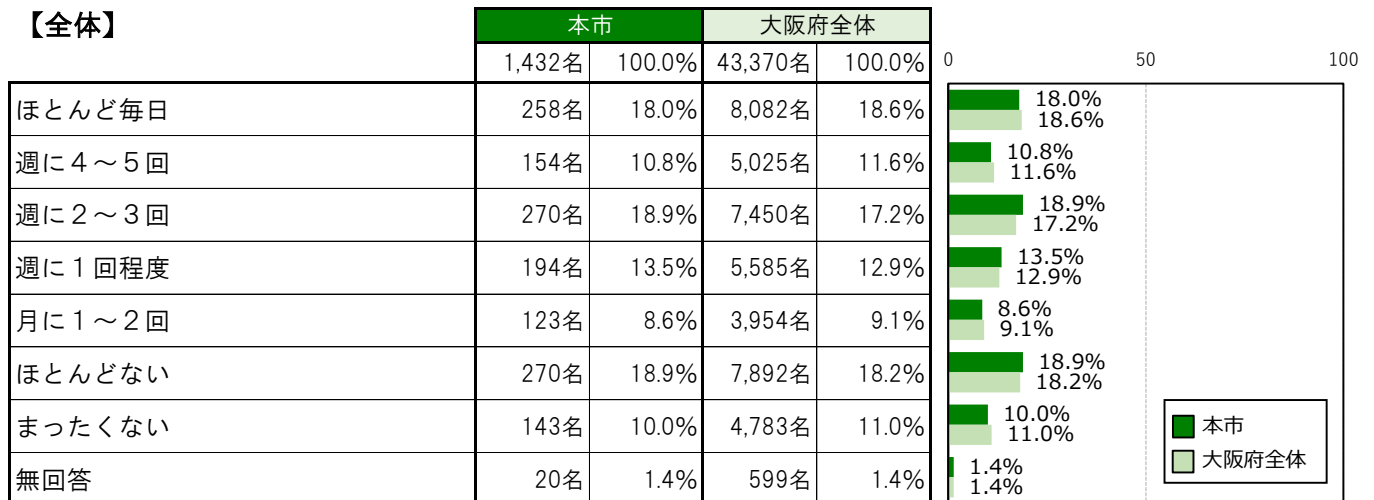
問8 保護者との関係性 ⑧おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか

全体は、「週に2～3回」、「ほとんどない」がそれぞれ18.9%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が18.0%、「週に1回程度」が13.5%、「週に4～5回」が10.8%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が20.0%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が19.3%、「週に2～3回」が18.9%、「週に1回程度」が13.1%となっている。

中学生は、「週に2～3回」が18.6%で最も多く、次いで「ほとんどない」が17.3%、「ほとんど毎日」が16.7%、「週に1回程度」が14.2%となっている。

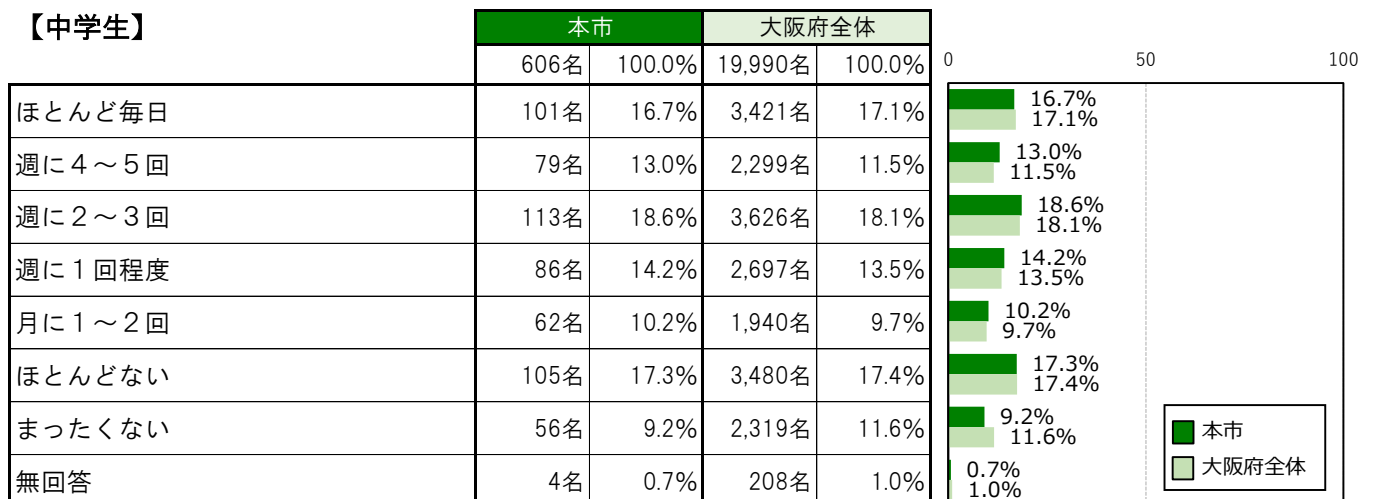
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問 8 保護者との関係性 ⑨おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をするか

全体は、「ほとんどない」が40.8%で最も多く、次いで「まったくない」が24.7%、「月に1～2回」が22.8%、「週に1回程度」が5.0%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が37.9%で最も多く、次いで「月に1～2回」が26.9%、「まったくない」が19.6%、「週に1回程度」が6.7%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が45.2%で最も多く、次いで「まったくない」が31.5%、「月に1～2回」が17.0%、「週に1回程度」が2.5%となっている。

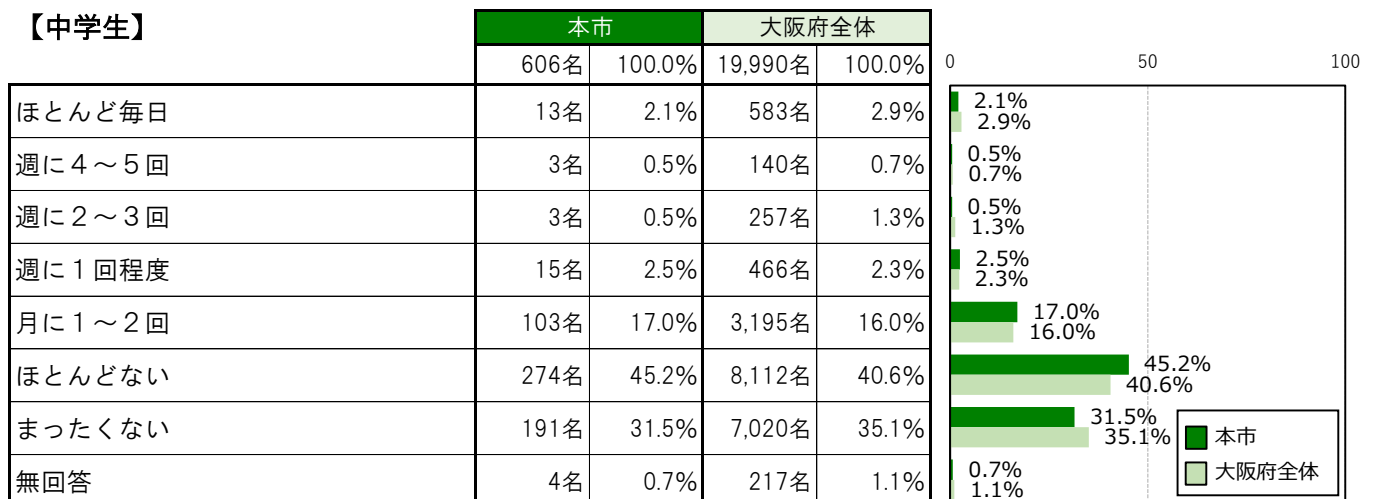
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問 8 保護者との関係性 ⑩おうちの大人のひとと一緒に外出するか（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）

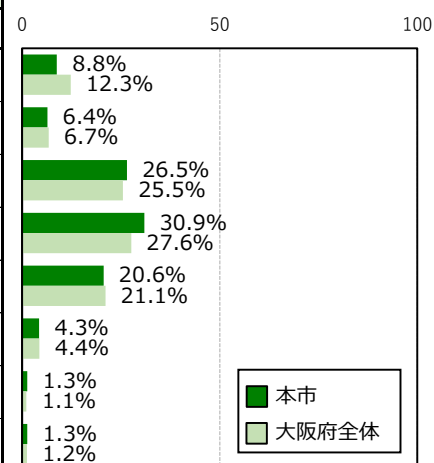
全体は、「週に1回程度」が30.9%で最も多く、次いで「週に2～3回」が26.5%、「月に1～2回」が20.6%、「ほとんど毎日」が8.8%となっている。

小学生は、「週に1回程度」が30.1%で最も多く、次いで「週に2～3回」が29.3%、「月に1～2回」が14.0%、「ほとんど毎日」が10.4%となっている。

中学生は、「週に1回程度」が32.2%で最も多く、次いで「月に1～2回」が29.4%、「週に2～3回」が22.8%、「ほとんど毎日」が6.6%となっている。

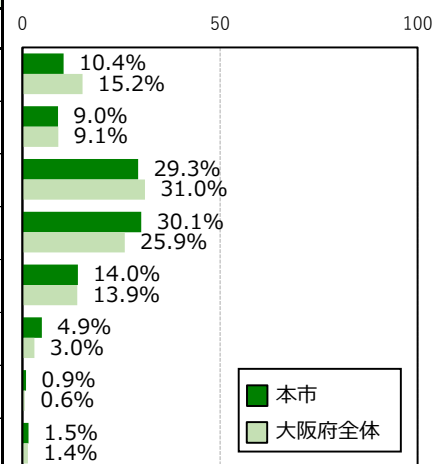
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	126名	8.8%	5,338名	12.3%
週に4～5回	91名	6.4%	2,912名	6.7%
週に2～3回	379名	26.5%	11,055名	25.5%
週に1回程度	442名	30.9%	11,977名	27.6%
月に1～2回	295名	20.6%	9,161名	21.1%
ほとんどない	62名	4.3%	1,915名	4.4%
まったくない	18名	1.3%	483名	1.1%
無回答	19名	1.3%	529名	1.2%



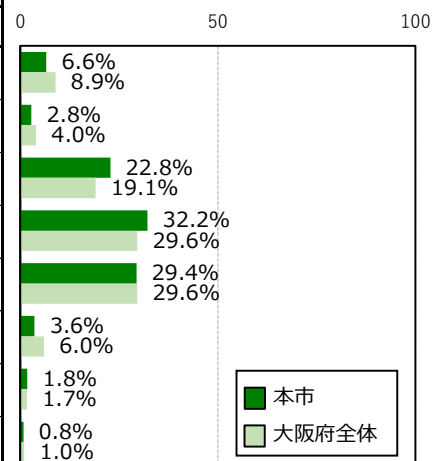
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	85名	10.4%	3,536名	15.2%
週に4～5回	73名	9.0%	2,109名	9.1%
週に2～3回	239名	29.3%	7,210名	31.0%
週に1回程度	245名	30.1%	6,032名	25.9%
月に1～2回	114名	14.0%	3,234名	13.9%
ほとんどない	40名	4.9%	705名	3.0%
まったくない	7名	0.9%	142名	0.6%
無回答	12名	1.5%	321名	1.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	40名	6.6%	1,787名	8.9%
週に4～5回	17名	2.8%	798名	4.0%
週に2～3回	138名	22.8%	3,820名	19.1%
週に1回程度	195名	32.2%	5,925名	29.6%
月に1～2回	178名	29.4%	5,911名	29.6%
ほとんどない	22名	3.6%	1,207名	6.0%
まったくない	11名	1.8%	340名	1.7%
無回答	5名	0.8%	202名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問9 毎日の生活で楽しいこと

全体は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が83.4%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が64.0%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が57.3%となっている。

小学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が82.9%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が73.4%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が57.1%となっている。

中学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が84.5%で最も多く、次いで「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」、「ひとりで過ごしているとき」がそれぞれ57.6%、「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が51.3%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

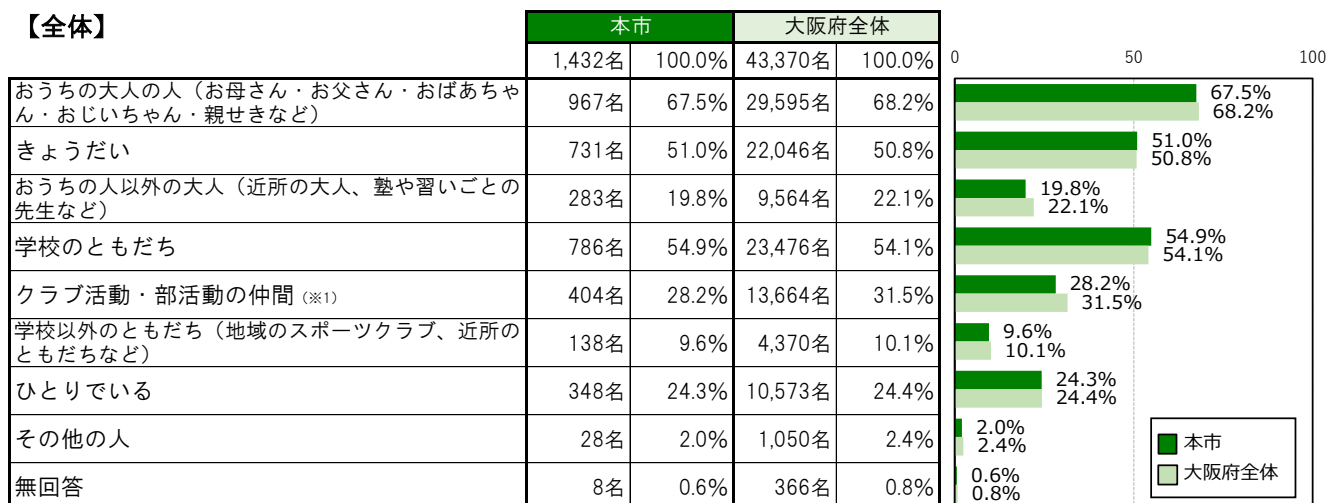
問10 放課後を一緒に過ごす人

全体は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が67.5%で最も多く、次いで「学校のともだち」が54.9%、「きょうだい」が51.0%、「クラブ活動・部活動の仲間」が28.2%となっている。

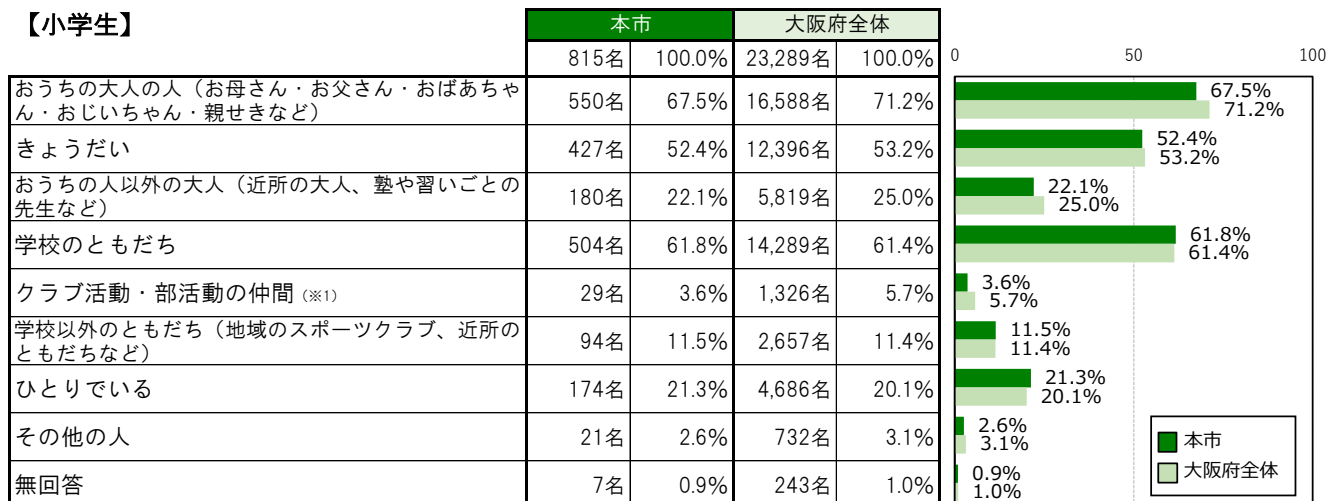
小学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が67.5%で最も多く、次いで「学校のともだち」が61.8%、「きょうだい」が52.4%、「おうちの人以上の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」が22.1%となっている。

中学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が67.5%で最も多く、次いで「クラブ活動・部活動の仲間」が61.4%、「きょうだい」が49.2%、「学校のともだち」が46.0%となっている。

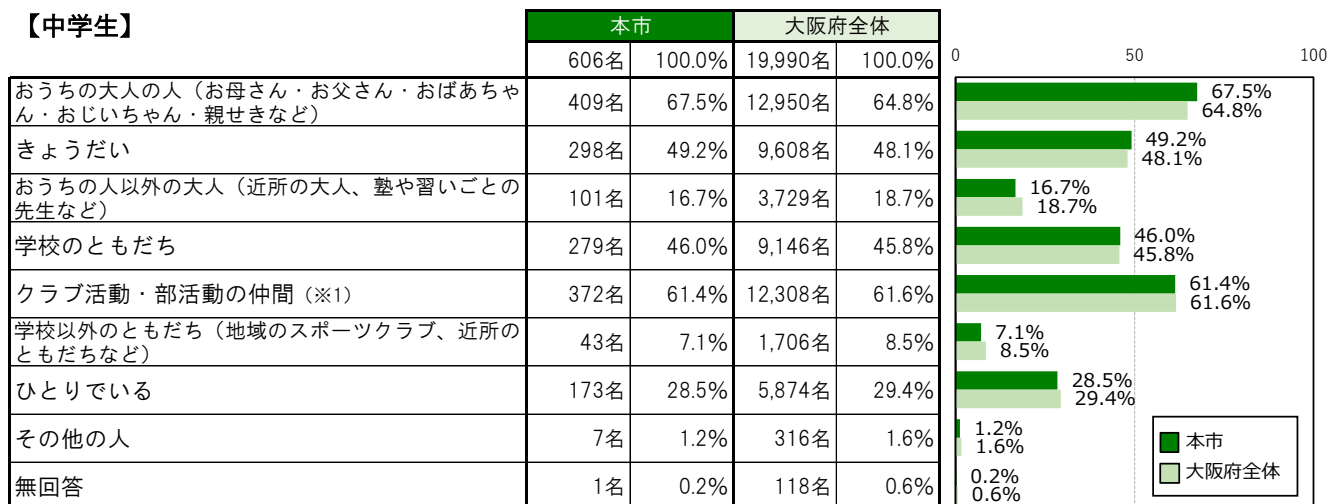
【全体】



【小学生】



【中学生】



※1 2016年調査では「クラブ活動の仲間」

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、全体は、「ひとりでいる」が5.6ポイント高いが、「クラブ活動・部活動の仲間」が9.5ポイント低くなっている。

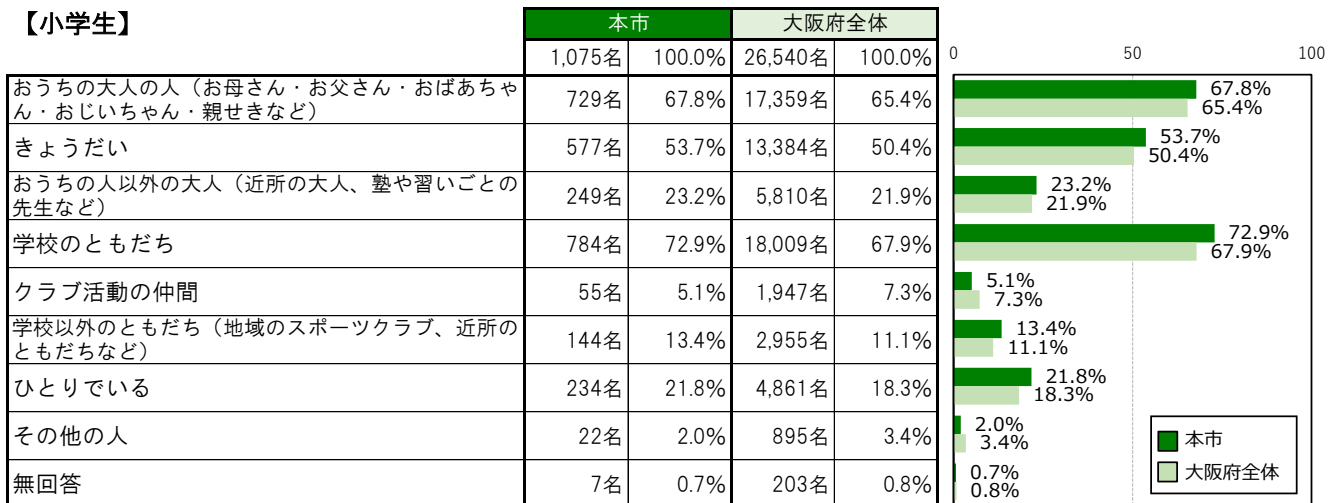
小学生は、「学校のともだち」が11.1ポイント低くなっている。

中学生は、「クラブ活動・部活動の仲間」が15.0ポイント低い、「ひとりでいる」が13.5ポイント高くなっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



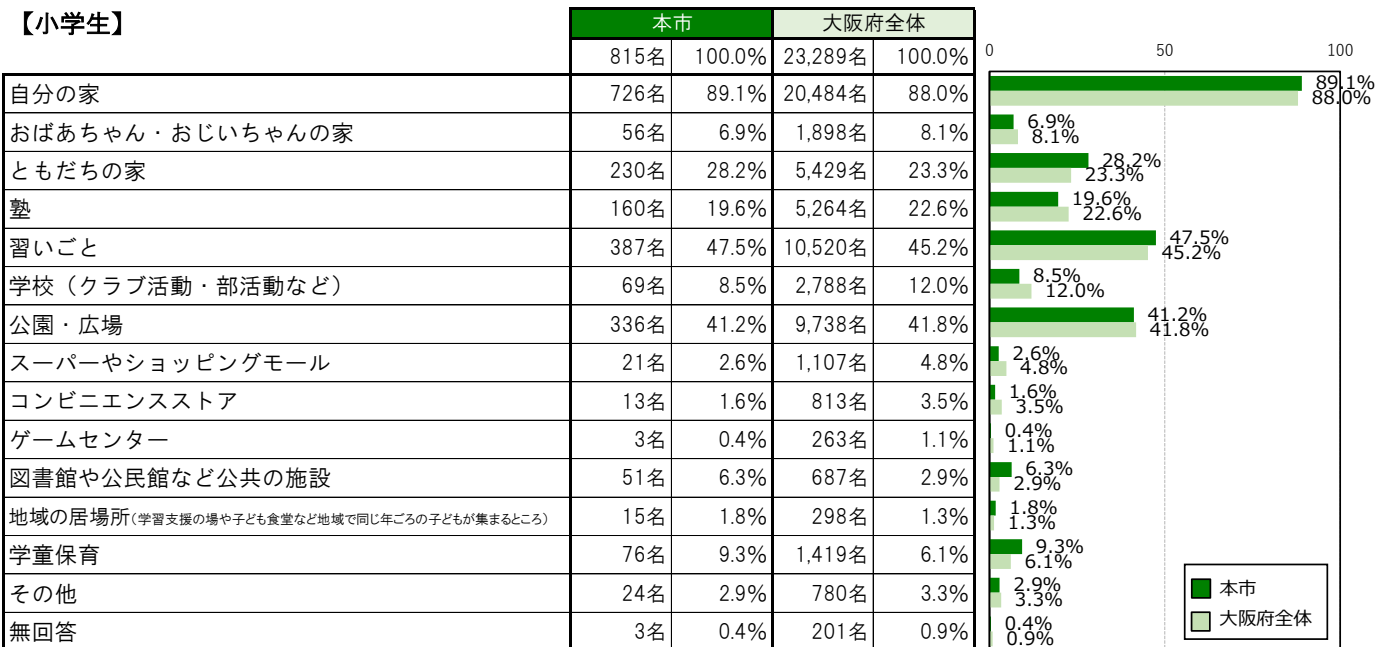
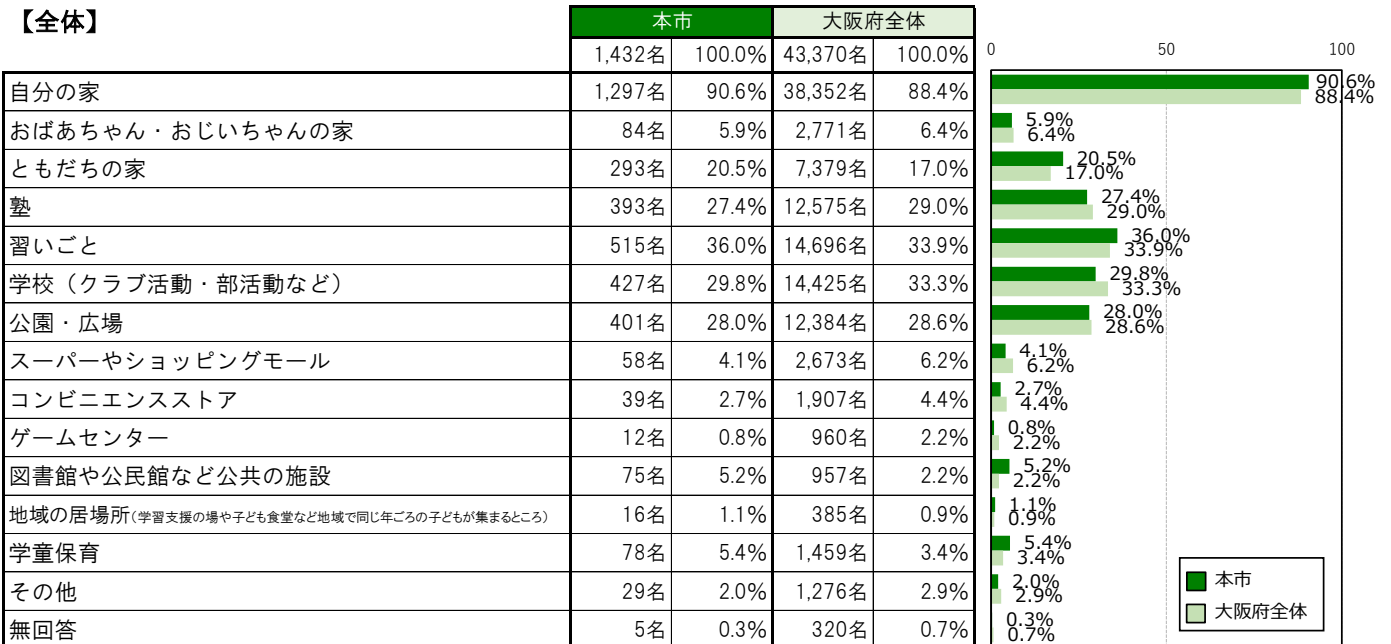
ふだんの生活のことについて

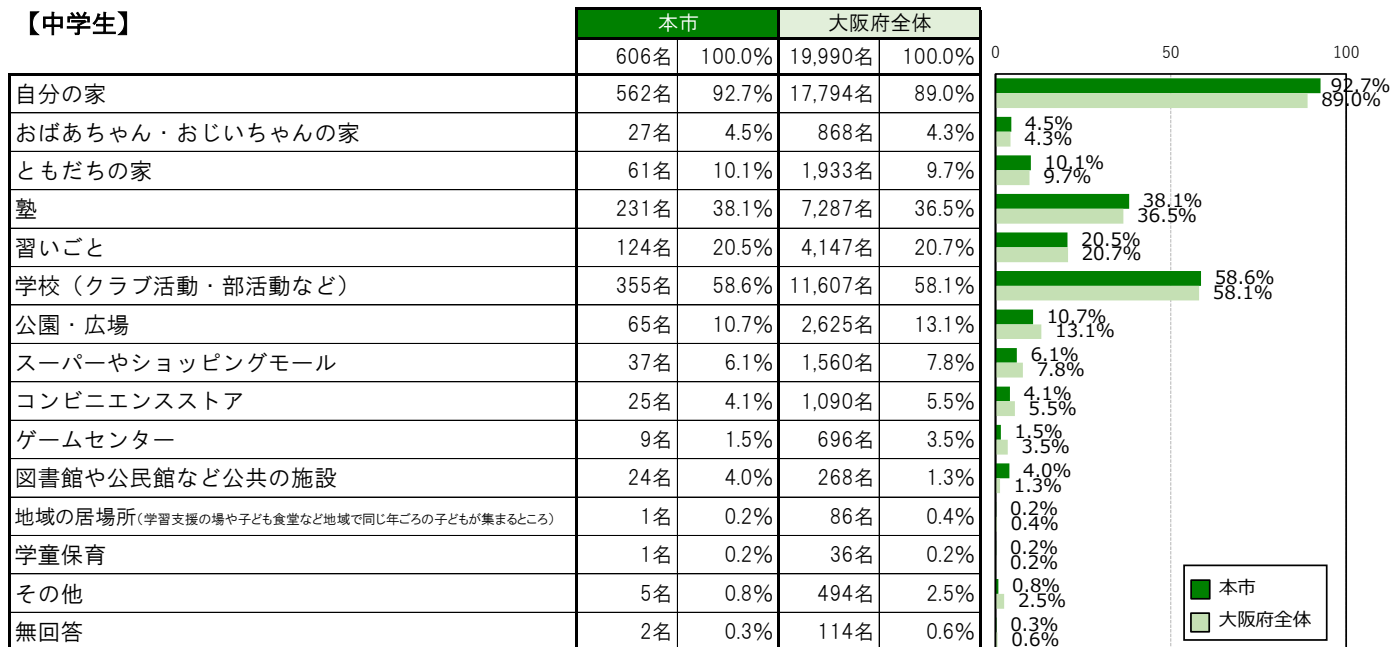
問11 放課後を過ごす場所

全体は、「自分の家」が90.6%で最も多く、次いで「習いごと」が36.0%、「学校（クラブ活動・部活動など）」が29.8%、「公園・広場」が28.0%となっている。

小学生は、「自分の家」が89.1%で最も多く、次いで「習いごと」が47.5%、「公園・広場」が41.2%、「ともだちの家」が28.2%となっている。

中学生は、「自分の家」が92.7%で最も多く、次いで「学校（クラブ活動・部活動など）」が58.6%、「塾」が38.1%、「習いごと」が20.5%となっている。





ふだんの生活のことについて

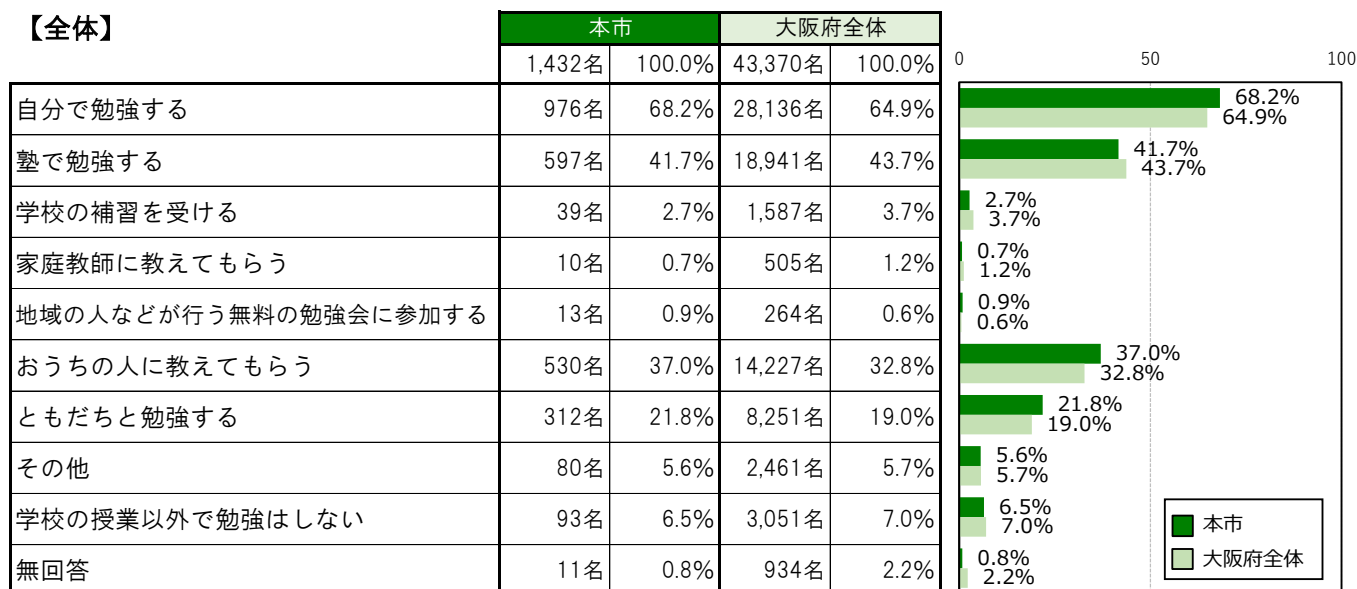
問12 授業以外の勉強状況

全体は、「自分で勉強する」が68.2%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が41.7%、「おうちの人に教えてもらう」が37.0%、「ともだちと勉強する」が21.8%となっている。

小学生は、「自分で勉強する」が69.7%で最も多く、次いで「おうちの人に教えてもらう」が47.4%、「塾で勉強する」が31.4%、「ともだちと勉強する」が23.7%となっている。

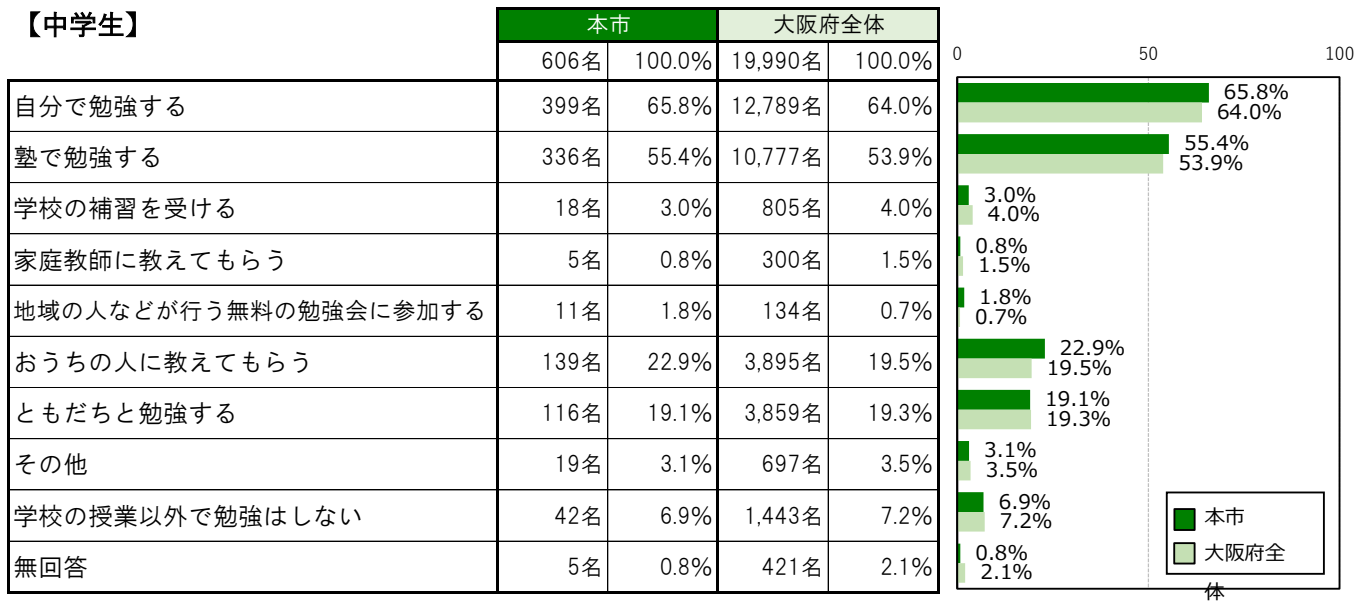
中学生は、「自分で勉強する」が65.8%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が55.4%、「おうちの人に教えてもらう」が22.9%、「ともだちと勉強する」が19.1%となっている。

【全体】



【小学生】





ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）

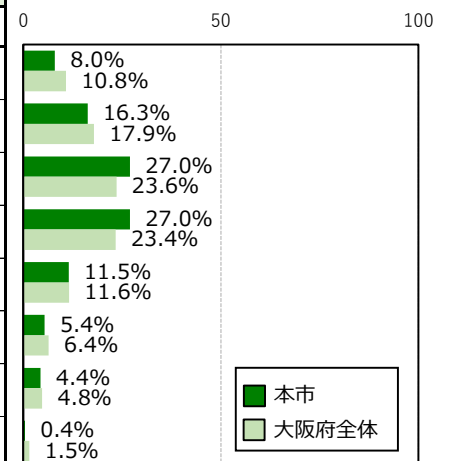
全体は、「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」がそれぞれ27.0%で最も多く、次いで「30分より少ない」が16.3%となっている。

小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が31.9%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が26.5%、「30分より少ない」が18.7%となっている。

中学生は、「1時間以上、2時間より少ない」が27.1%で最も多く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が20.3%、「2時間以上、3時間より少ない」が19.0%となっている。

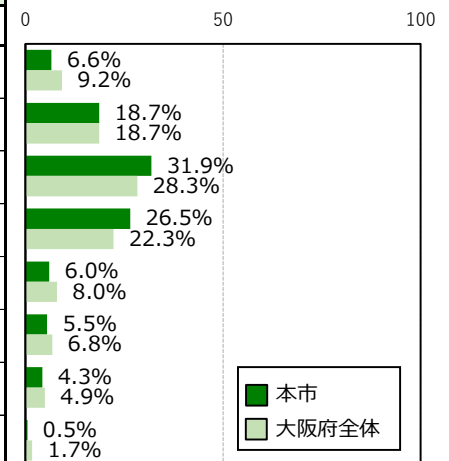
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
まったくしない	115名	8.0%	4,696名	10.8%
30分より少ない	233名	16.3%	7,745名	17.9%
30分以上、1時間より少ない	386名	27.0%	10,239名	23.6%
1時間以上、2時間より少ない	386名	27.0%	10,157名	23.4%
2時間以上、3時間より少ない	165名	11.5%	5,024名	11.6%
3時間以上	78名	5.4%	2,762名	6.4%
わからない	63名	4.4%	2,098名	4.8%
無回答	6名	0.4%	649名	1.5%



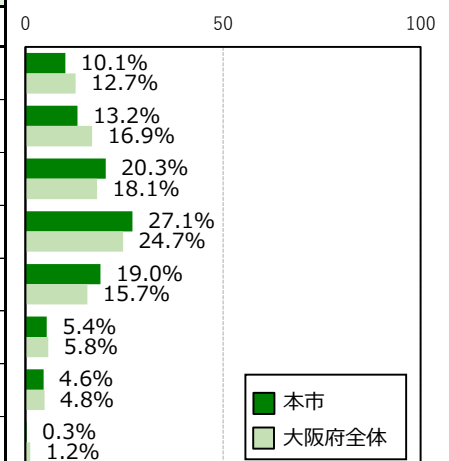
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
まったくしない	54名	6.6%	2,154名	9.2%
30分より少ない	152名	18.7%	4,360名	18.7%
30分以上、1時間より少ない	260名	31.9%	6,598名	28.3%
1時間以上、2時間より少ない	216名	26.5%	5,196名	22.3%
2時間以上、3時間より少ない	49名	6.0%	1,865名	8.0%
3時間以上	45名	5.5%	1,589名	6.8%
わからない	35名	4.3%	1,131名	4.9%
無回答	4名	0.5%	396名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
まったくしない	61名	10.1%	2,534名	12.7%
30分より少ない	80名	13.2%	3,373名	16.9%
30分以上、1時間より少ない	123名	20.3%	3,617名	18.1%
1時間以上、2時間より少ない	164名	27.1%	4,943名	24.7%
2時間以上、3時間より少ない	115名	19.0%	3,147名	15.7%
3時間以上	33名	5.4%	1,168名	5.8%
わからない	28名	4.6%	959名	4.8%
無回答	2名	0.3%	249名	1.2%



ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）

全体は、「30分以上、1時間より少ない」が22.0%で最も多く、次いで「30分より少ない」が21.9%、「まったくしない」が18.7%、「1時間以上、2時間より少ない」が16.5%となっている。

小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が25.0%で最も多く、次いで「30分より少ない」が24.7%、「まったくしない」が18.5%、「1時間以上、2時間より少ない」が14.4%となっている。

中学生は、「まったくしない」が19.3%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が19.0%、「30分以上、1時間より少ない」が18.2%、「30分より少ない」が18.0%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問14（１）学校の勉強で気持ちに近いもの

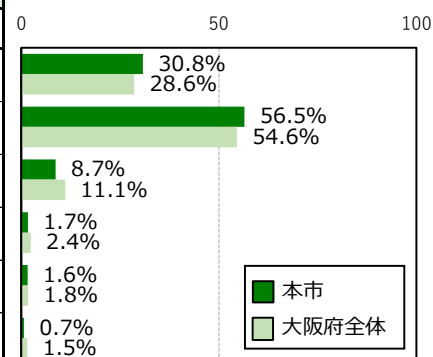
全体は、「だいたいわかる」が56.5%で最も多く、次いで「よくわかる」が30.8%、「あまりわからない」が8.7%となっている。

小学生は、「だいたいわかる」が54.1%で最も多く、次いで「よくわかる」が37.5%、「あまりわからない」が5.5%となっている。

中学生は、「だいたいわかる」が60.1%で最も多く、次いで「よくわかる」が21.6%、「あまりわからない」が12.5%となっている。

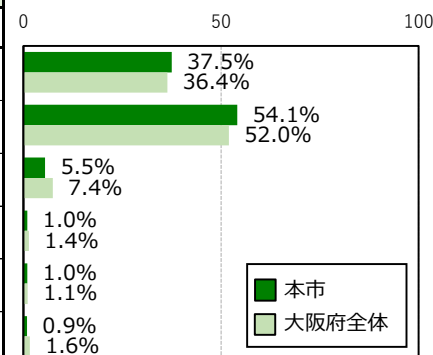
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
よくわかる	441名	30.8%	12,407名	28.6%
だいたいわかる	809名	56.5%	23,680名	54.6%
あまりわからない	124名	8.7%	4,834名	11.1%
ほとんどわからない	25名	1.7%	1,047名	2.4%
わからない	23名	1.6%	762名	1.8%
無回答	10名	0.7%	640名	1.5%



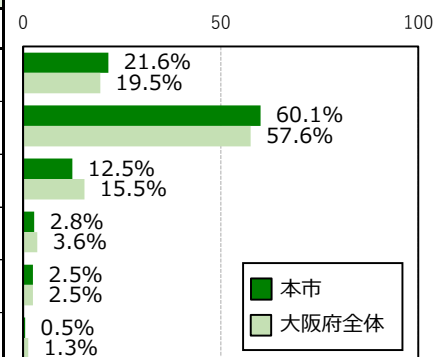
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
よくわかる	306名	37.5%	8,481名	36.4%
だいたいわかる	441名	54.1%	12,116名	52.0%
あまりわからない	45名	5.5%	1,721名	7.4%
ほとんどわからない	8名	1.0%	331名	1.4%
わからない	8名	1.0%	258名	1.1%
無回答	7名	0.9%	382名	1.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
よくわかる	131名	21.6%	3,902名	19.5%
だいたいわかる	364名	60.1%	11,516名	57.6%
あまりわからない	76名	12.5%	3,103名	15.5%
ほとんどわからない	17名	2.8%	715名	3.6%
わからない	15名	2.5%	500名	2.5%
無回答	3名	0.5%	254名	1.3%



ふだんの生活のことについて

問14（２）授業がわからなくなった時期

全体は、「中学１年生のころ」が30.8%で最も多く、次いで「小学３・４年生のころ」が24.4%、「小学５年生になってから」が23.8%、「小学１・２年生のころ」が11.0%となっている。

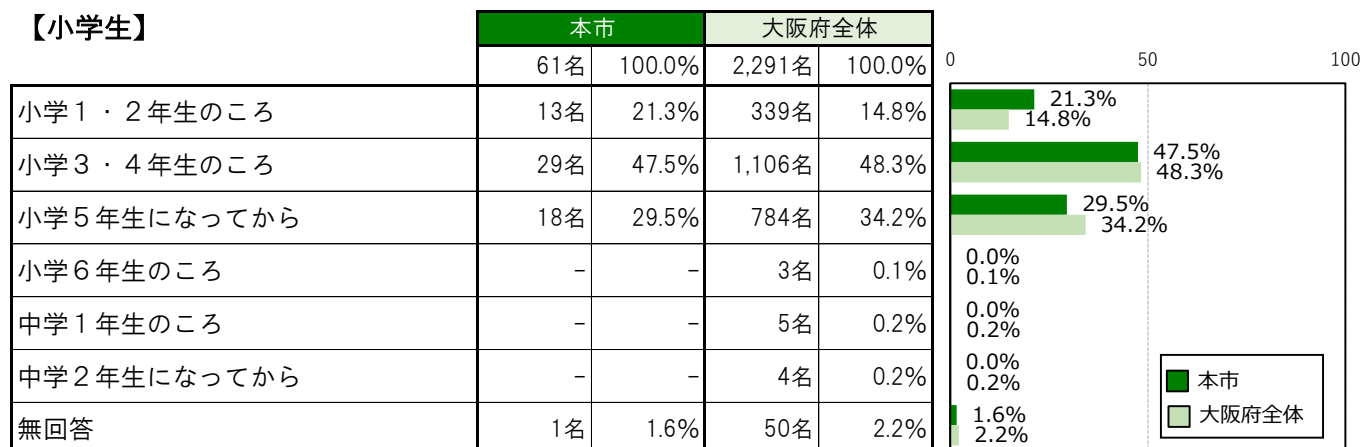
小学生は、「小学３・４年生のころ」が47.5%で最も多く、次いで「小学５年生になってから」が29.5%となっている。

中学生は、「中学１年生のころ」が49.1%で最も多く、次いで「小学５年生になってから」が20.4%、「小学３・４年生のころ」が11.1%、「中学２年生になってから」が10.2%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問15 授業以外の読書時間

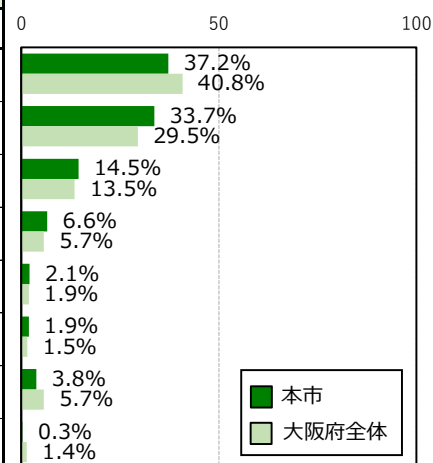
全体は、「まったくしない」が37.2%で最も多く、次いで「30分より少ない」が33.7%、「30分以上、1時間より少ない」が14.5%、「1時間以上、2時間より少ない」が6.6%となっている。

小学生は、「30分より少ない」が35.7%で最も多く、次いで「まったくしない」が33.3%、「30分以上、1時間より少ない」が15.7%、「1時間以上、2時間より少ない」が6.9%となっている。

中学生は、「まったくしない」が42.2%で最も多く、次いで「30分より少ない」が31.4%、「30分以上、1時間より少ない」が12.9%、「1時間以上、2時間より少ない」が6.1%となっている。

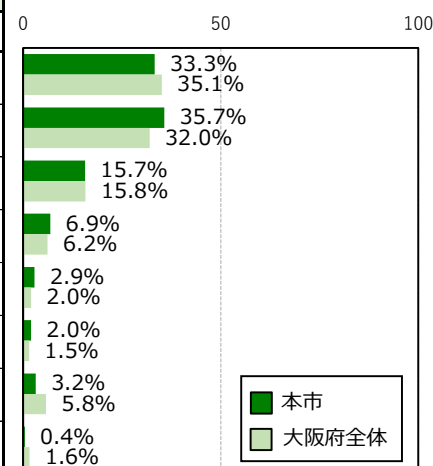
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
まったくしない	532名	37.2%	17,709名	40.8%
30分より少ない	483名	33.7%	12,811名	29.5%
30分以上、1時間より少ない	207名	14.5%	5,864名	13.5%
1時間以上、2時間より少ない	95名	6.6%	2,453名	5.7%
2時間以上、3時間より少ない	30名	2.1%	818名	1.9%
3時間以上	27名	1.9%	631名	1.5%
わからない	54名	3.8%	2,470名	5.7%
無回答	4名	0.3%	614名	1.4%



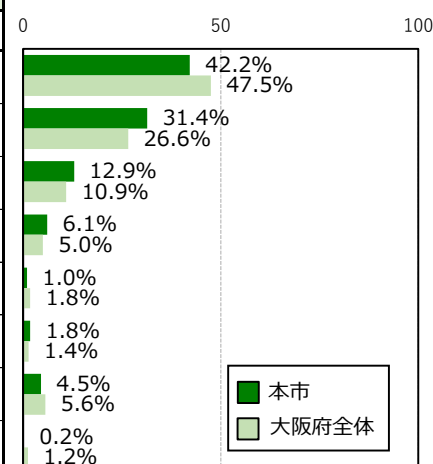
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
まったくしない	271名	33.3%	8,177名	35.1%
30分より少ない	291名	35.7%	7,458名	32.0%
30分以上、1時間より少ない	128名	15.7%	3,685名	15.8%
1時間以上、2時間より少ない	56名	6.9%	1,440名	6.2%
2時間以上、3時間より少ない	24名	2.9%	463名	2.0%
3時間以上	16名	2.0%	354名	1.5%
わからない	26名	3.2%	1,346名	5.8%
無回答	3名	0.4%	366名	1.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
まったくしない	256名	42.2%	9,496名	47.5%
30分より少ない	190名	31.4%	5,324名	26.6%
30分以上、1時間より少ない	78名	12.9%	2,169名	10.9%
1時間以上、2時間より少ない	37名	6.1%	1,008名	5.0%
2時間以上、3時間より少ない	6名	1.0%	354名	1.8%
3時間以上	11名	1.8%	277名	1.4%
わからない	27名	4.5%	1,118名	5.6%
無回答	1名	0.2%	244名	1.2%



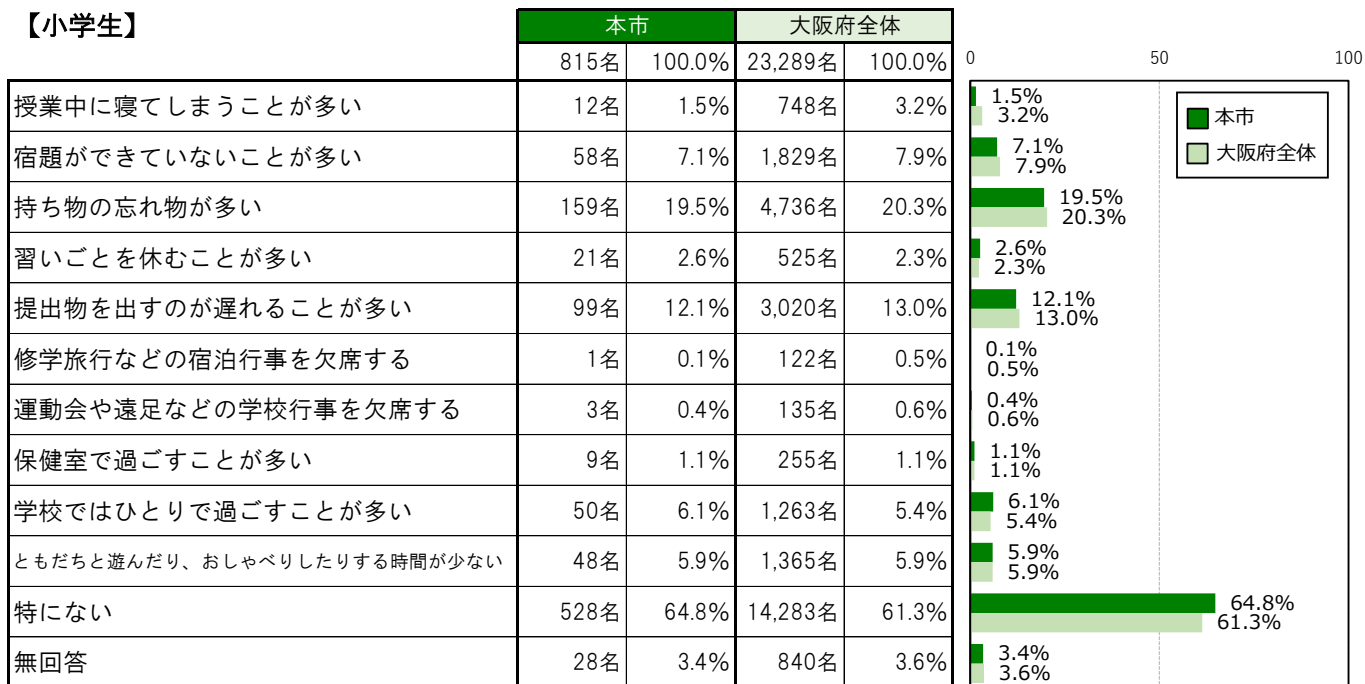
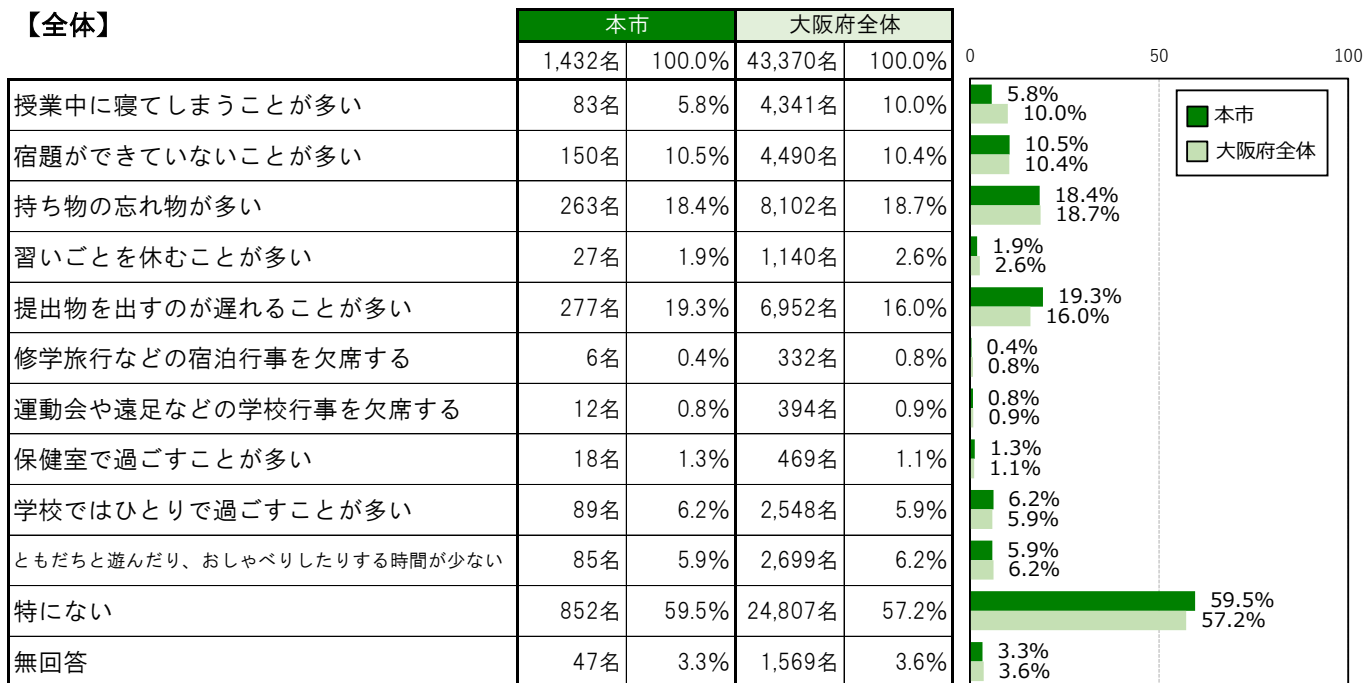
ふだんの生活のことについて

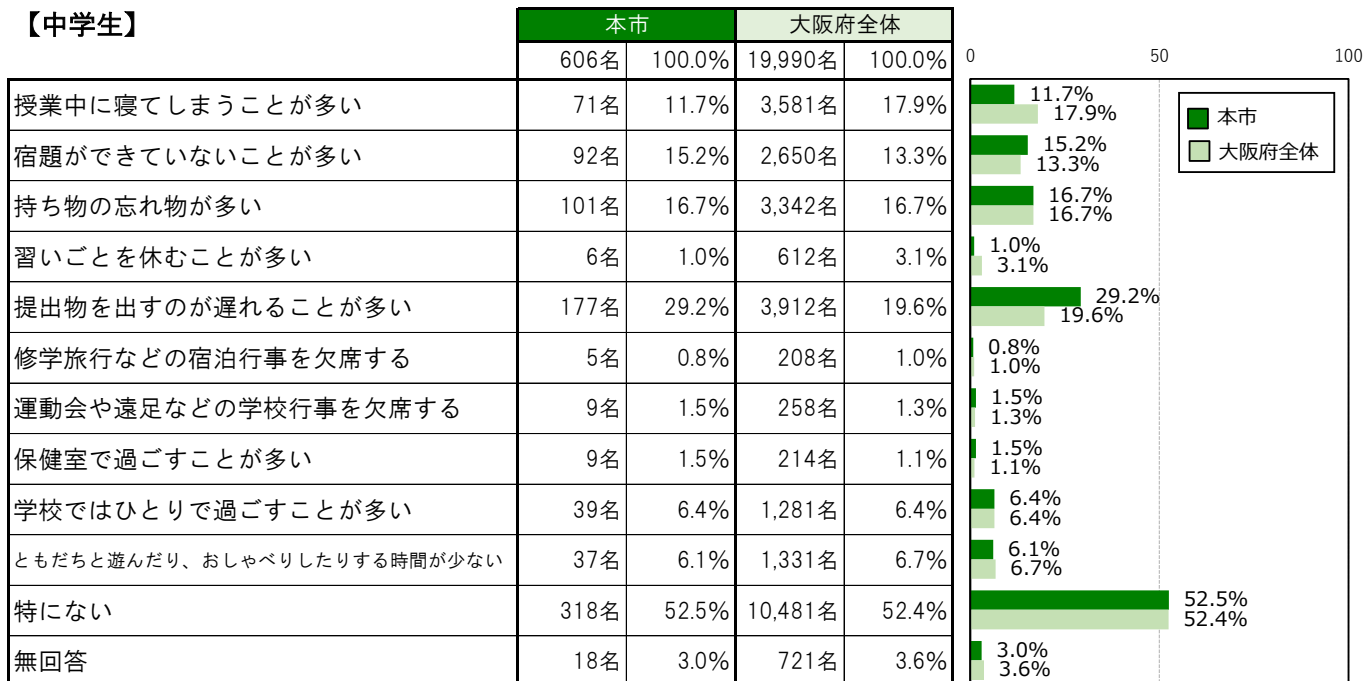
問16 学校や学校の行事等の状況

全体は、「提出物を出すのが遅れることが多い」が19.3%で最も多く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が18.4%、「宿題ができていないことが多い」が10.5%、「学校ではひとりで過ごすことが多い」が6.2%となっている。一方、「特にない」が59.5%となっている。

小学生は、「持ち物の忘れ物が多い」が19.5%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が12.1%、「宿題ができていないことが多い」が7.1%、「学校ではひとりで過ごすことが多い」が6.1%となっている。一方、「特にない」が64.8%となっている。

中学生は、「提出物を出すのが遅れることが多い」が29.2%で最も多く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が16.7%、「宿題ができていないことが多い」が15.2%、「授業中に寝てしまうことが多い」が11.7%となっている。一方、「特にない」が52.5%となっている。





ふだんの生活のことについて

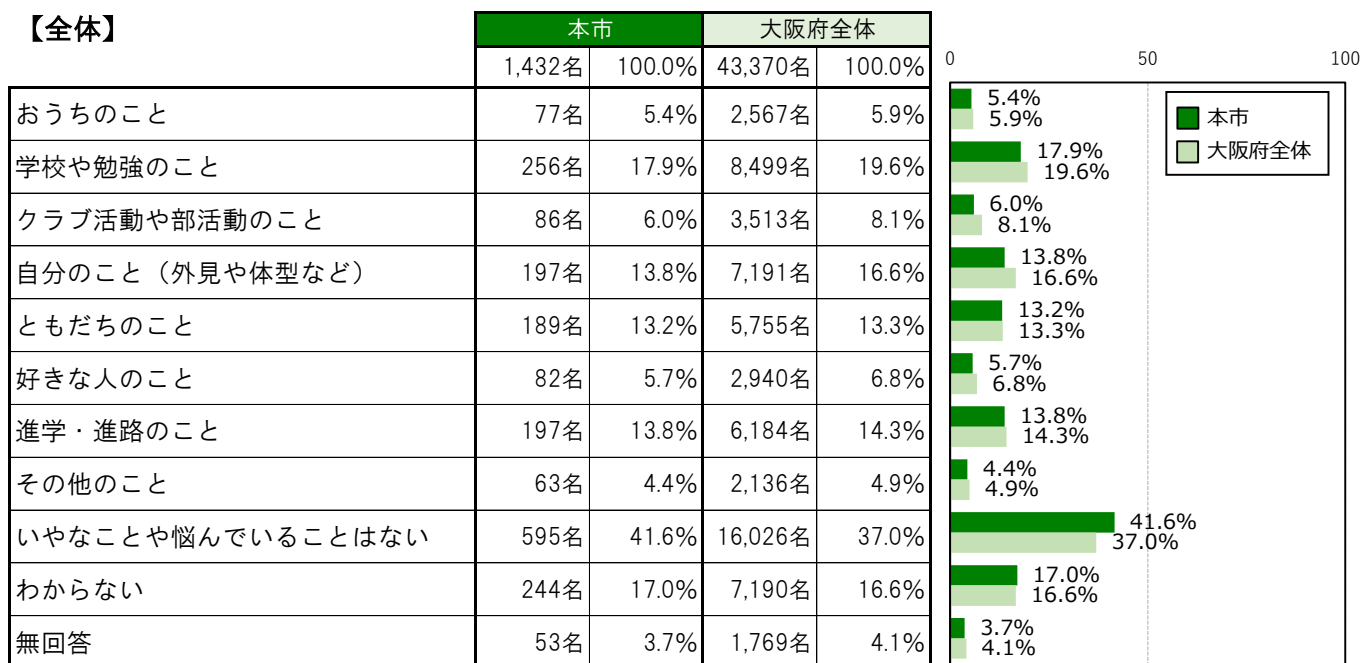
問17 嫌なことや悩んでいること

全体は、「いやなことや悩んでいることはない」が41.6%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が17.9%、「自分のこと（外見や体型など）」、「進学・進路のこと」がそれぞれ13.8%、「ともだちのこと」が13.2%となっている。

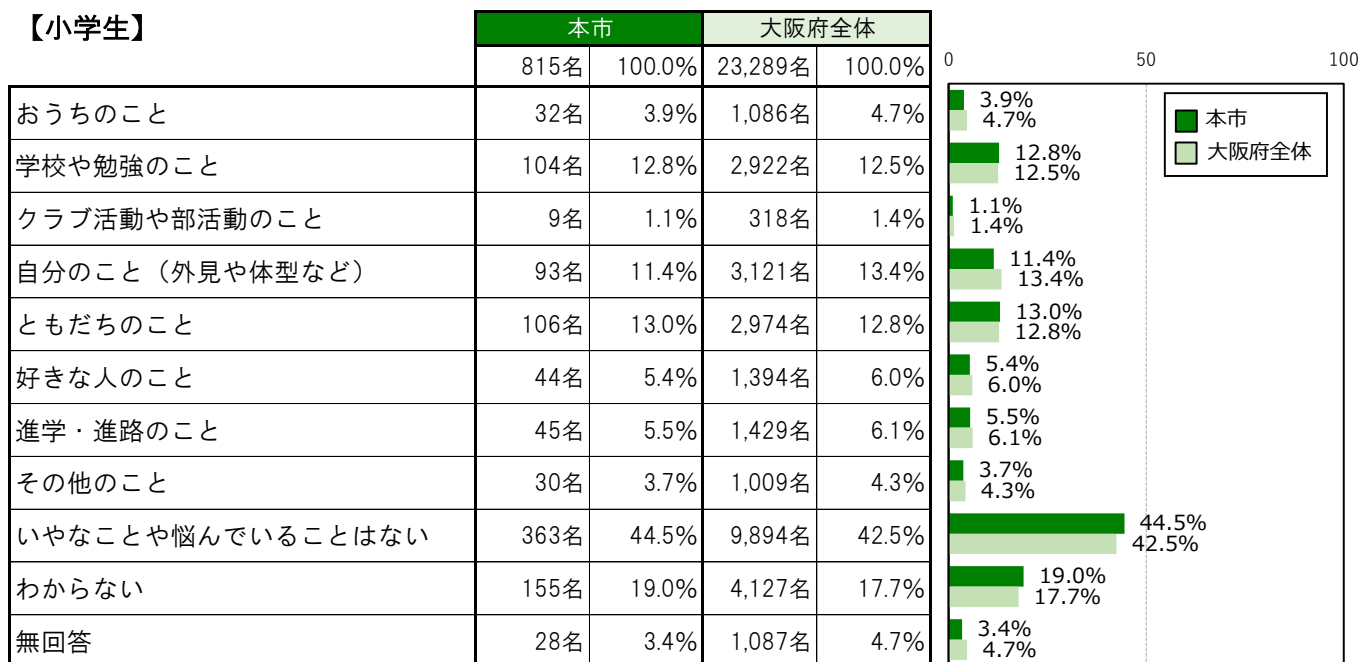
小学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が44.5%で最も多く、次いで「ともだちのこと」が13.0%、「学校や勉強のこと」が12.8%、「自分のこと（外見や体型など）」が11.4%となっている。

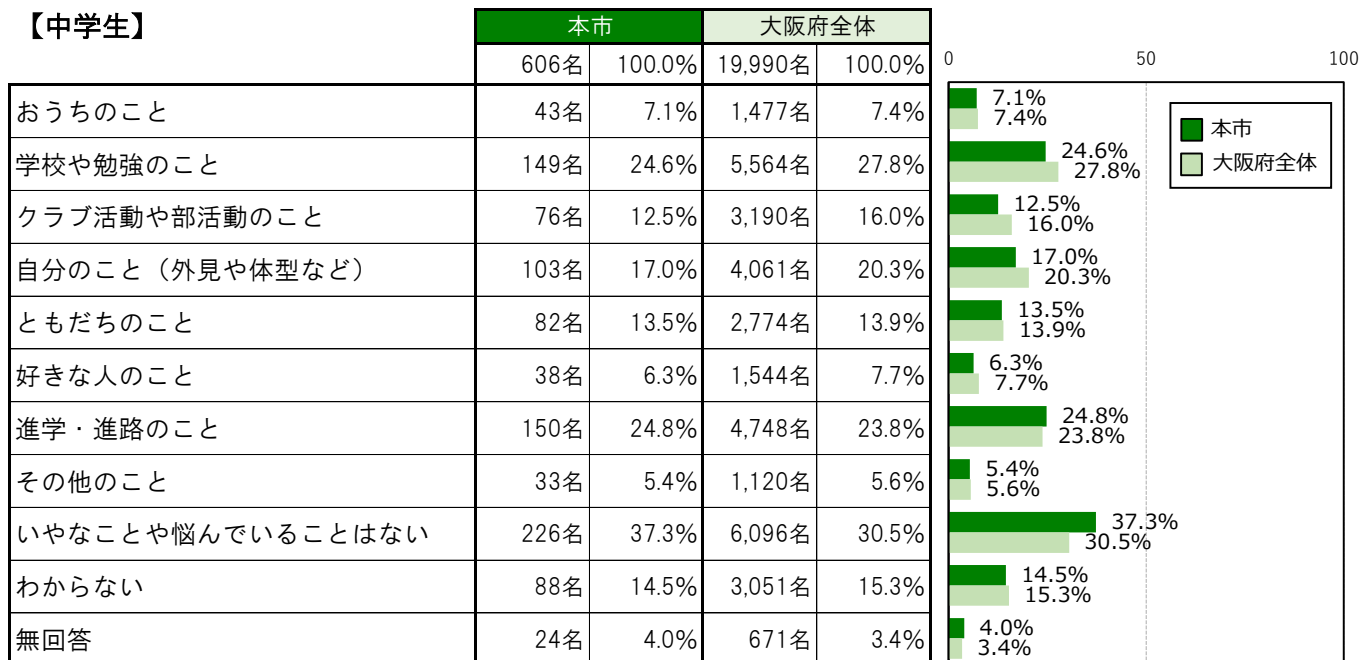
中学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が37.3%で最も多く、次いで「進学・進路のこと」が24.8%、「学校や勉強のこと」が24.6%、「自分のこと（外見や体型など）」が17.0%となっている。

【全体】



【小学生】





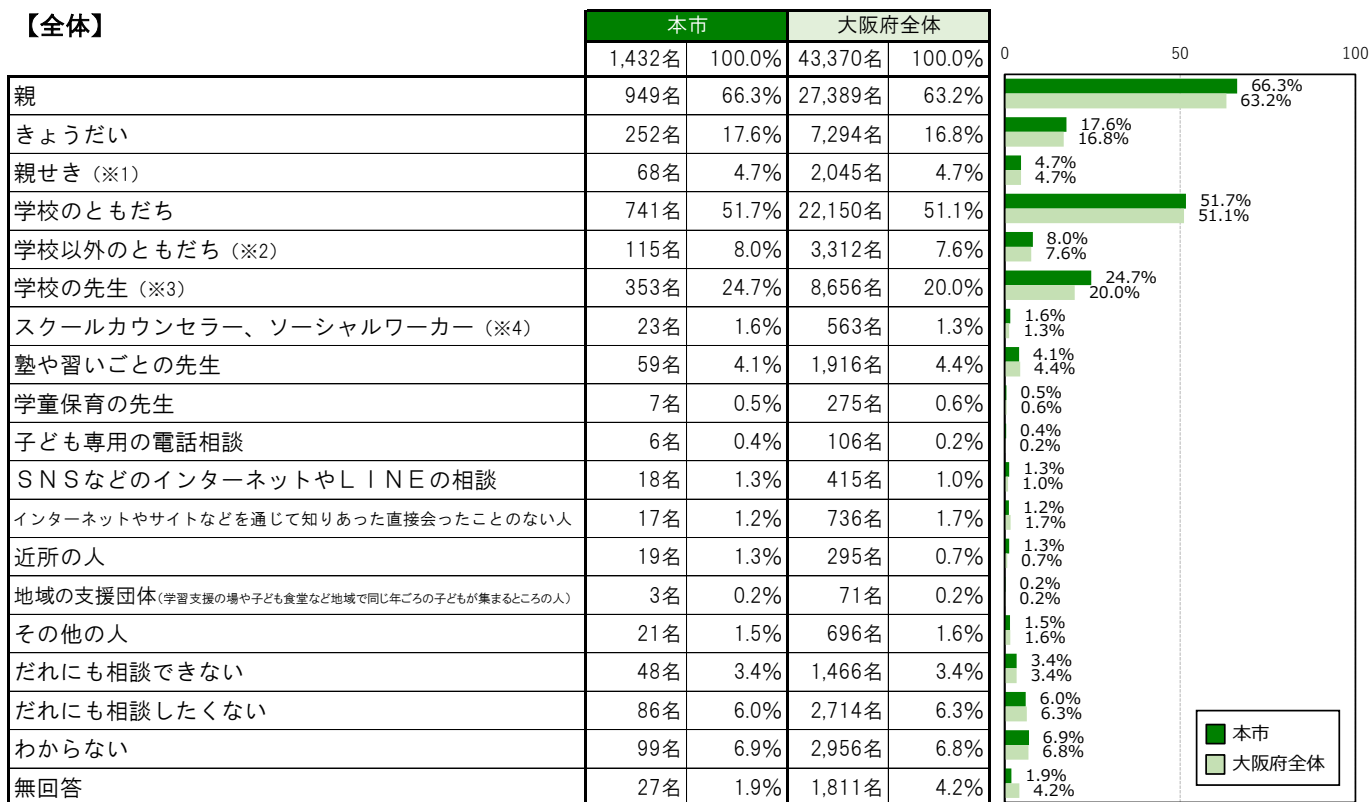
ふだんの生活のことについて

問18 嫌なことや悩んでいるときの相談相手

全体は、「親」が66.3%で最も多く、次いで「学校のともだち」が51.7%、「学校の先生」が24.7%、「きょうだい」が17.6%となっている。

小学生は、「親」が72.4%で最も多く、次いで「学校のともだち」が45.5%、「学校の先生」が27.2%、「きょうだい」が17.9%となっている。

中学生は、「学校のともだち」が60.2%で最も多く、次いで「親」が58.6%、「学校の先生」が21.6%、「きょうだい」が17.2%となっている。

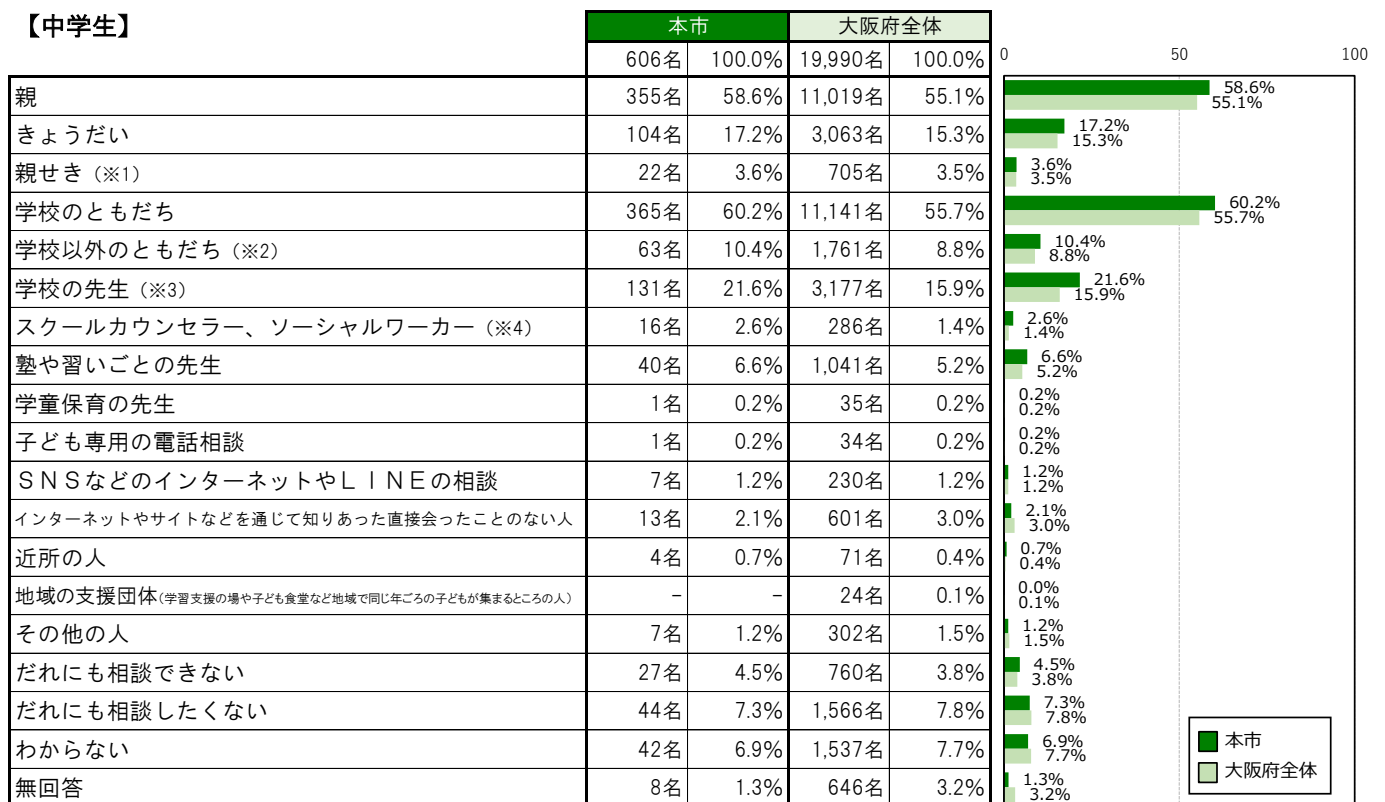
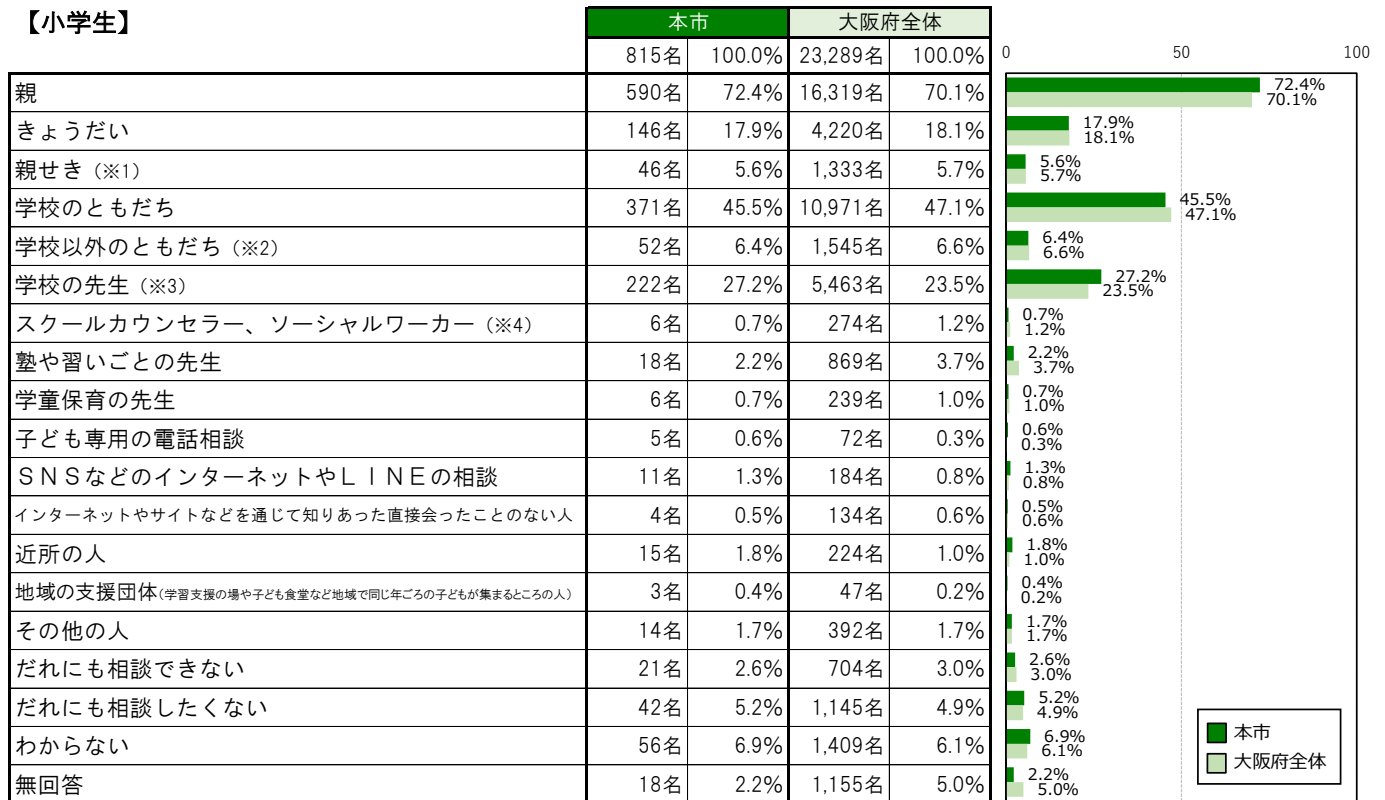


※1 2016年調査では「おじ、おばなど親戚」

※2 2016年調査では「塾や習いごとのともだち」「その他のともだち」

※3 2016年調査では「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」

※4 2016年調査では「スクールカウンセラー」



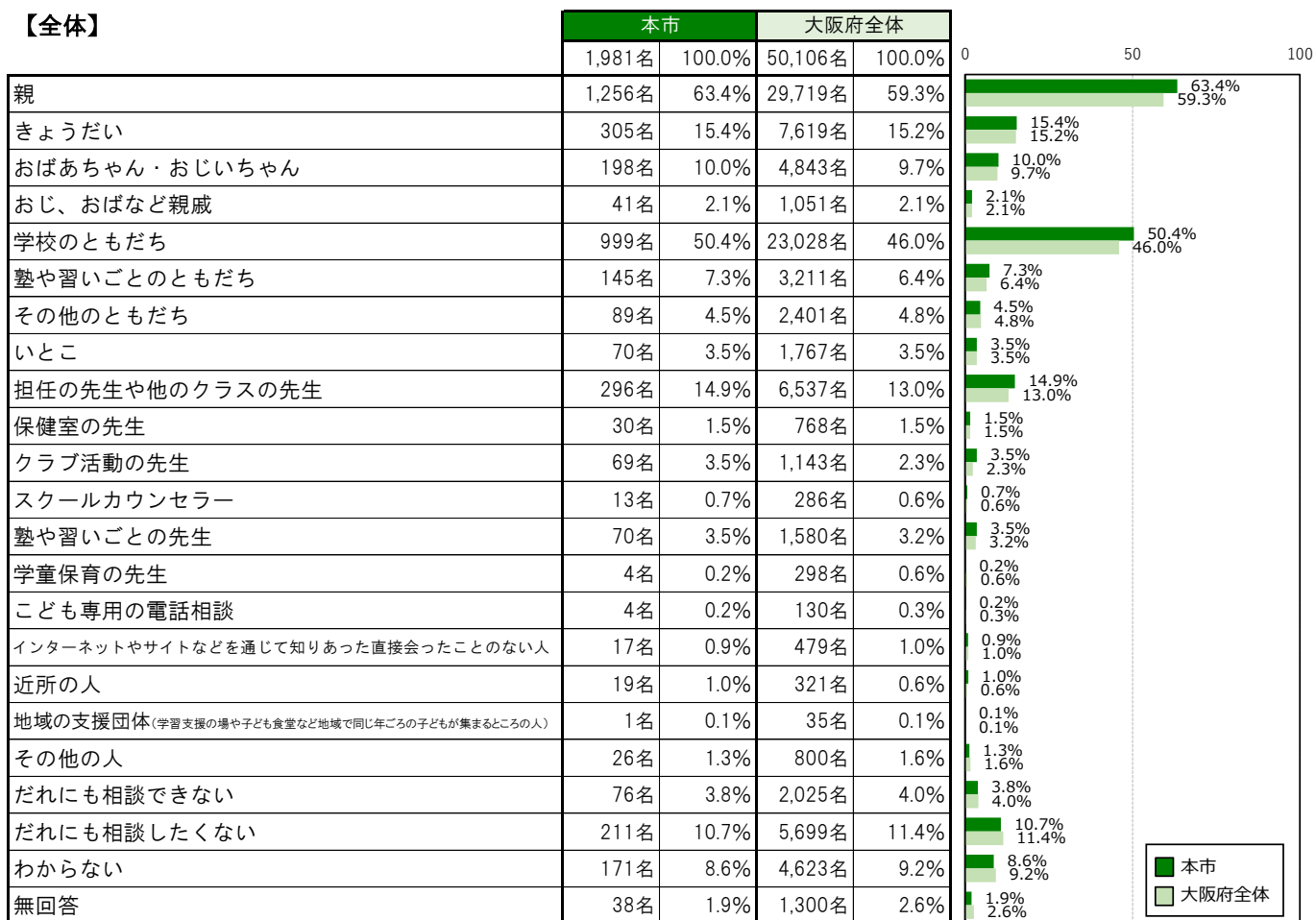
※1 2016年調査では「おじ、おばなど親戚」
 ※2 2016年調査では「塾や習いごとのともだち」「その他のともだち」
 ※3 2016年調査では「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」
 ※4 2016年調査では「スクールカウンセラー」

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

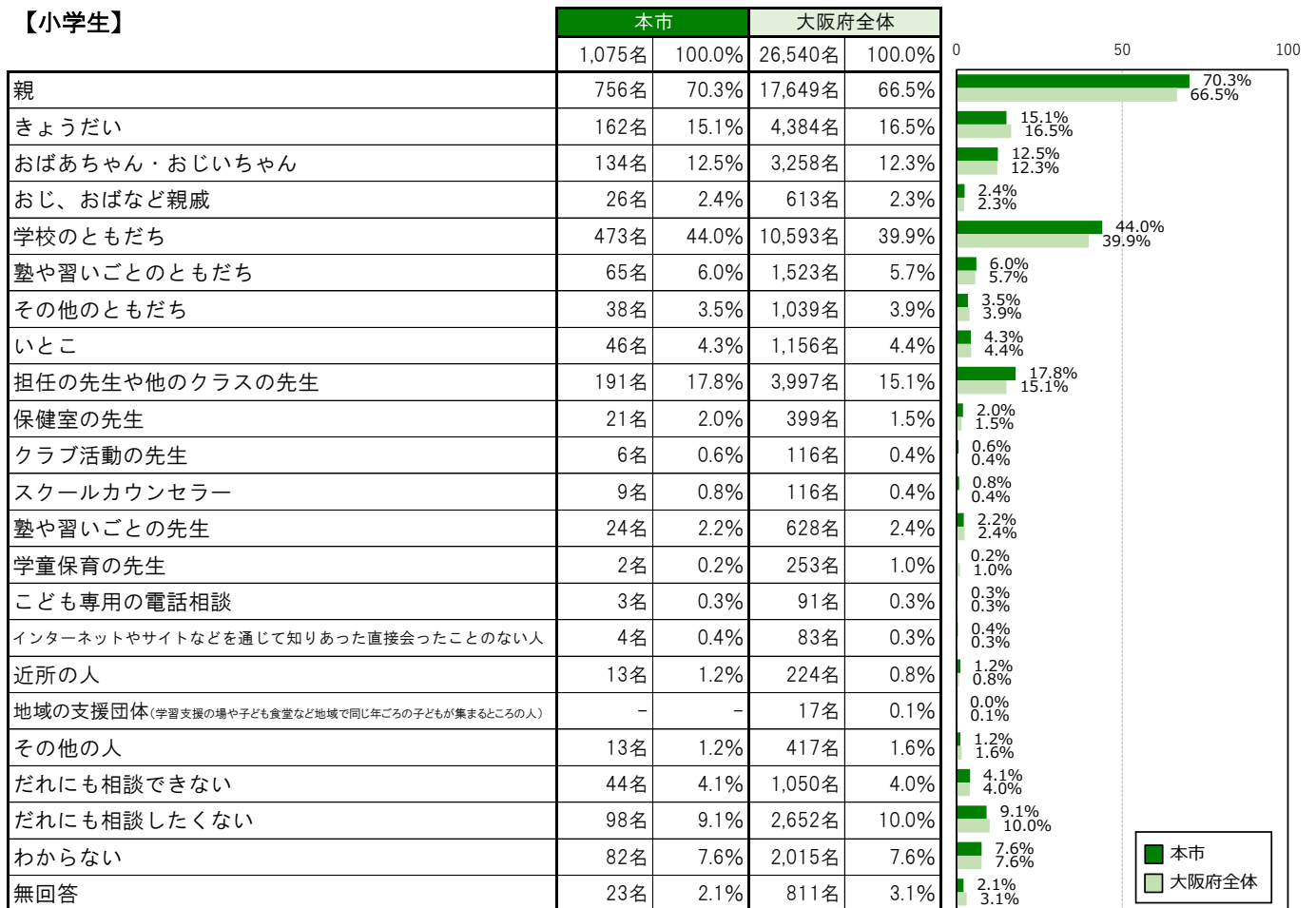
2016年度調査と比較すると、全体は、「学校の先生」（2016年度は「担任の先生や他のクラスの先生」と「保健室の先生」をあわせた割合）が8.3ポイント高くなっている。

小学生は、「学校の先生」が7.4ポイント高くなっている。

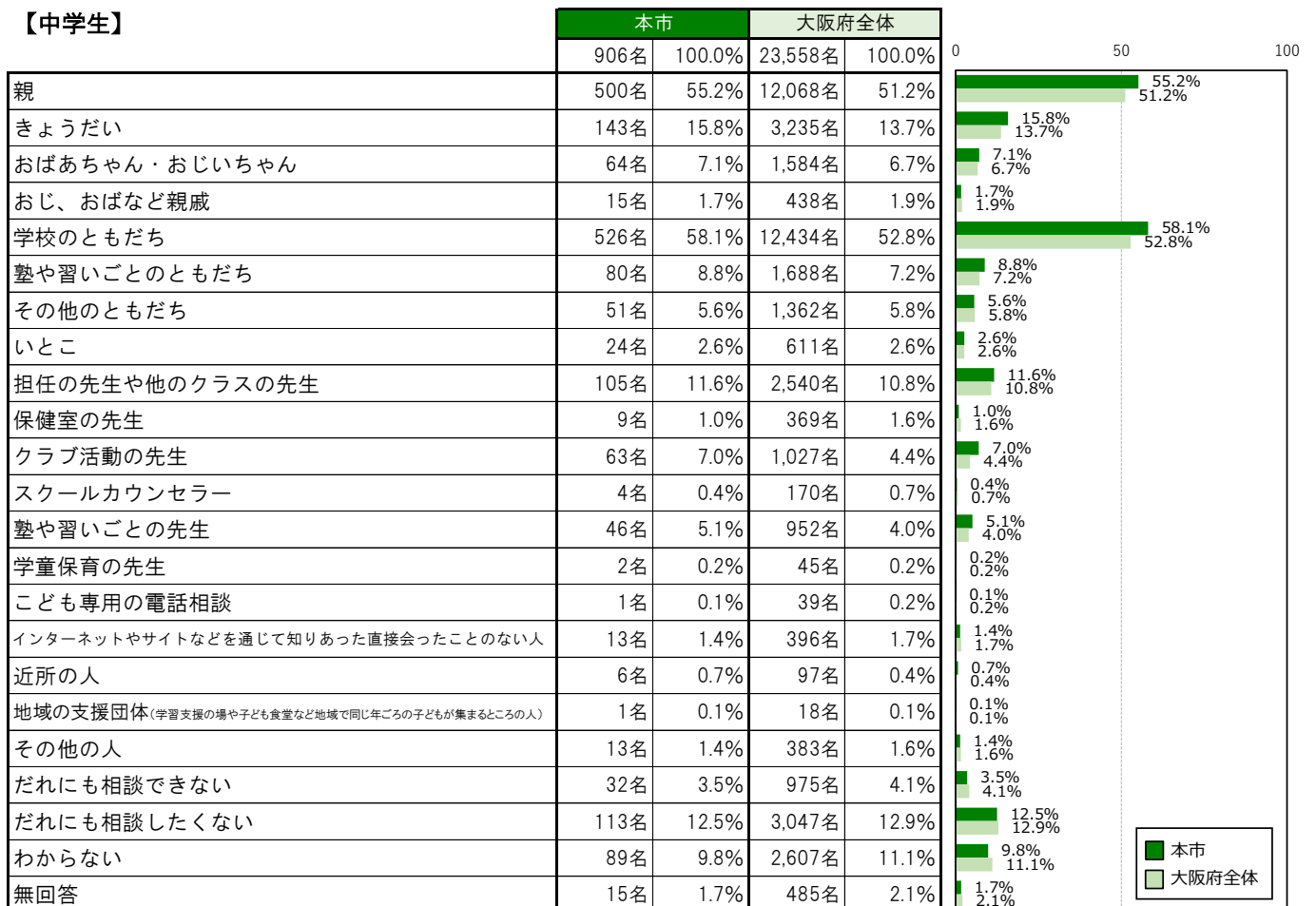
中学生は、「学校の先生」が9.0ポイント高くなっている。



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

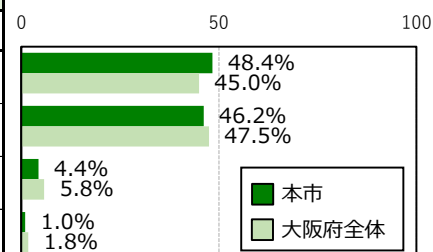
全体は、「いつもそうだ」が48.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が46.2%、「そんなことはない」が4.4%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が49.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が45.8%、「そんなことはない」が3.7%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」、「ときどきそうだ」がそれぞれ46.9%で最も多く、次いで「そんなことはない」が5.4%となっている。

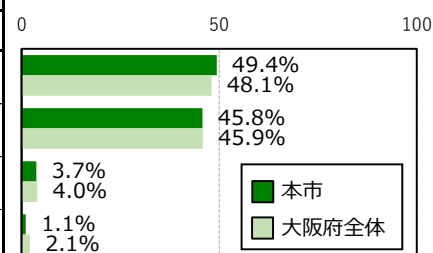
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	693名	48.4%	19,505名	45.0%
ときどきそうだ	661名	46.2%	20,583名	47.5%
そんなことはない	63名	4.4%	2,517名	5.8%
無回答	15名	1.0%	765名	1.8%



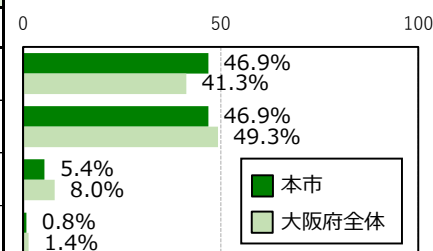
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	403名	49.4%	11,206名	48.1%
ときどきそうだ	373名	45.8%	10,683名	45.9%
そんなことはない	30名	3.7%	922名	4.0%
無回答	9名	1.1%	478名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	284名	46.9%	8,256名	41.3%
ときどきそうだ	284名	46.9%	9,858名	49.3%
そんなことはない	33名	5.4%	1,595名	8.0%
無回答	5名	0.8%	281名	1.4%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

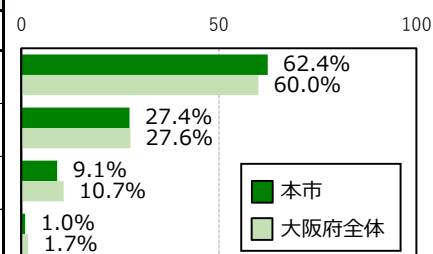
全体は、「いつもそうだ」が62.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が27.4%、「そんなことはない」が9.1%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が66.7%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が25.8%、「そんなことはない」が6.4%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が56.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が29.9%、「そんなことはない」が12.5%となっている。

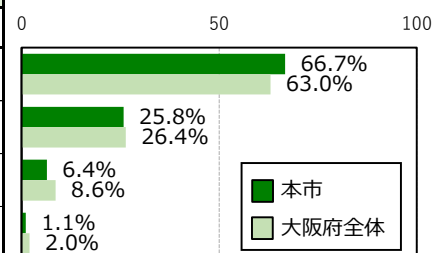
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	894名	62.4%	26,039名	60.0%
ときどきそうだ	393名	27.4%	11,956名	27.6%
そんなことはない	130名	9.1%	4,638名	10.7%
無回答	15名	1.0%	737名	1.7%



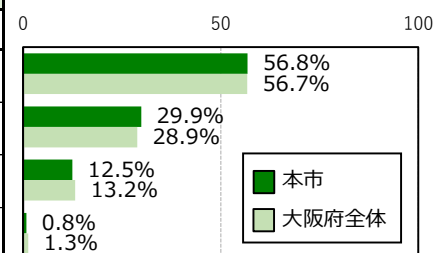
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	544名	66.7%	14,666名	63.0%
ときどきそうだ	210名	25.8%	6,154名	26.4%
そんなことはない	52名	6.4%	1,996名	8.6%
無回答	9名	1.1%	473名	2.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	344名	56.8%	11,325名	56.7%
ときどきそうだ	181名	29.9%	5,773名	28.9%
そんなことはない	76名	12.5%	2,634名	13.2%
無回答	5名	0.8%	258名	1.3%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ

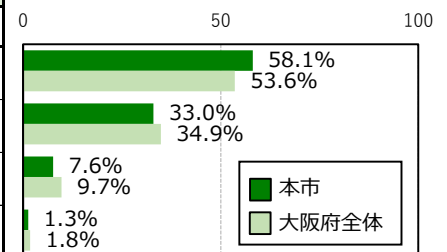
全体は、「いつもそうだ」が58.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が33.0%、「そんなことはない」が7.6%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が65.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が28.8%、「そんなことはない」が4.7%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が48.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が38.3%、「そんなことはない」が11.6%となっている。

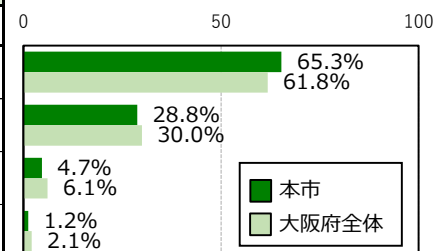
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	832名	58.1%	23,234名	53.6%
ときどきそうだ	472名	33.0%	15,146名	34.9%
そんなことはない	109名	7.6%	4,217名	9.7%
無回答	19名	1.3%	773名	1.8%



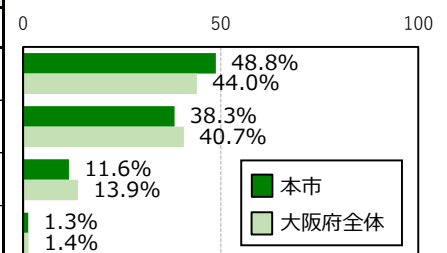
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	532名	65.3%	14,397名	61.8%
ときどきそうだ	235名	28.8%	6,978名	30.0%
そんなことはない	38名	4.7%	1,431名	6.1%
無回答	10名	1.2%	483名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	296名	48.8%	8,796名	44.0%
ときどきそうだ	232名	38.3%	8,128名	40.7%
そんなことはない	70名	11.6%	2,782名	13.9%
無回答	8名	1.3%	284名	1.4%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

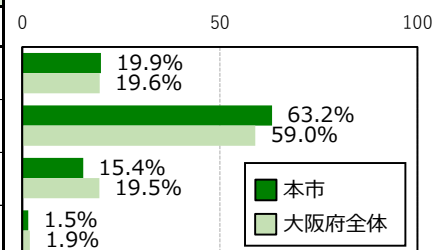
全体は、「ときどきそうだ」が63.2%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が19.9%、「そんなことはない」が15.4%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が63.9%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が21.8%、「そんなことはない」が12.6%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が62.4%で最も多く、次いで「そんなことはない」が19.1%、「いつもそうだ」が17.3%となっている。

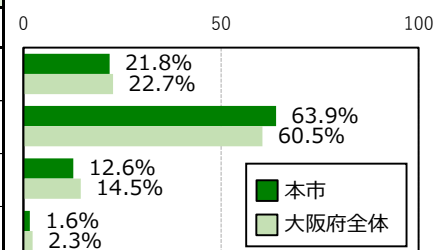
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	285名	19.9%	8,503名	19.6%
ときどきそうだ	905名	63.2%	25,567名	59.0%
そんなことはない	221名	15.4%	8,460名	19.5%
無回答	21名	1.5%	840名	1.9%



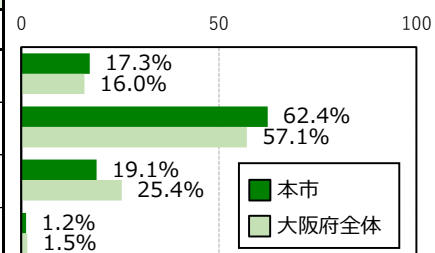
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	178名	21.8%	5,283名	22.7%
ときどきそうだ	521名	63.9%	14,099名	60.5%
そんなことはない	103名	12.6%	3,367名	14.5%
無回答	13名	1.6%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	105名	17.3%	3,199名	16.0%
ときどきそうだ	378名	62.4%	11,416名	57.1%
そんなことはない	116名	19.1%	5,081名	25.4%
無回答	7名	1.2%	294名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

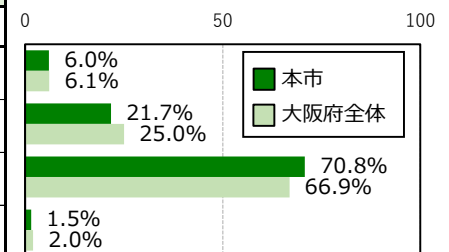
全体は、「そんなことはない」が70.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が21.7%、「いつもそうだ」が6.0%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が76.2%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が17.2%、「いつもそうだ」が4.9%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が63.7%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が27.9%、「いつもそうだ」が7.4%となっている。

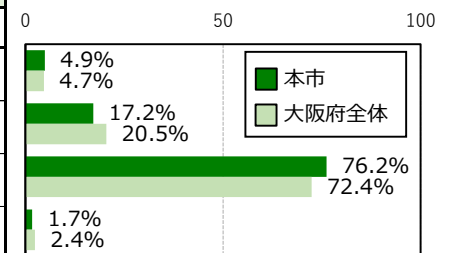
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	86名	6.0%	2,628名	6.1%
ときどきそうだ	311名	21.7%	10,860名	25.0%
そんなことはない	1,014名	70.8%	29,021名	66.9%
無回答	21名	1.5%	861名	2.0%



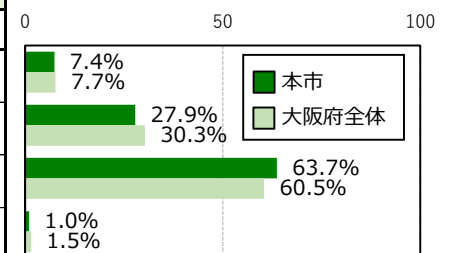
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	40名	4.9%	1,091名	4.7%
ときどきそうだ	140名	17.2%	4,776名	20.5%
そんなことはない	621名	76.2%	16,872名	72.4%
無回答	14名	1.7%	550名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	45名	7.4%	1,534名	7.7%
ときどきそうだ	169名	27.9%	6,057名	30.3%
そんなことはない	386名	63.7%	12,095名	60.5%
無回答	6名	1.0%	304名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

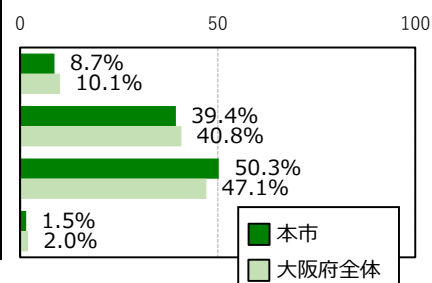
全体は、「そんなことはない」が50.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が39.4%、「いつもそうだ」が8.7%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が56.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が35.6%、「いつもそうだ」が6.1%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が44.7%で最も多く、次いで「そんなことはない」が41.6%、「いつもそうだ」が12.2%となっている。

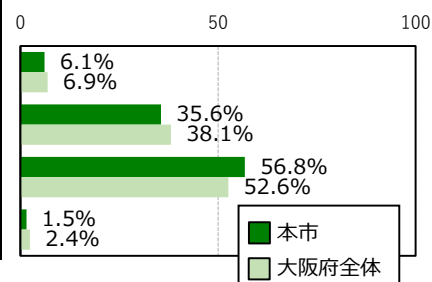
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	125名	8.7%	4,369名	10.1%
ときどきそうだ	564名	39.4%	17,713名	40.8%
そんなことはない	721名	50.3%	20,421名	47.1%
無回答	22名	1.5%	867名	2.0%



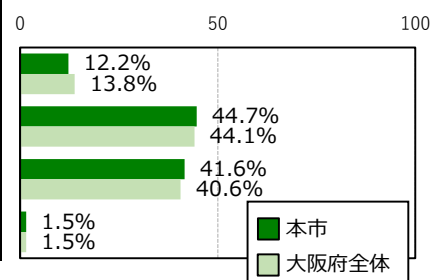
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	50名	6.1%	1,616名	6.9%
ときどきそうだ	290名	35.6%	8,865名	38.1%
そんなことはない	463名	56.8%	12,251名	52.6%
無回答	12名	1.5%	557名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	74名	12.2%	2,750名	13.8%
ときどきそうだ	271名	44.7%	8,814名	44.1%
そんなことはない	252名	41.6%	8,122名	40.6%
無回答	9名	1.5%	304名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

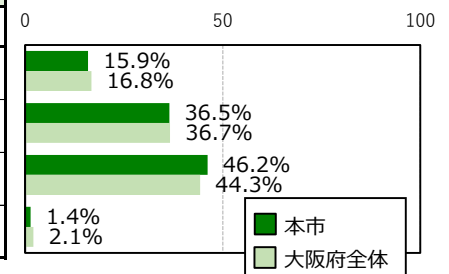
全体は、「そんなことはない」が46.2%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が36.5%、「いつもそうだ」が15.9%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が52.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が33.5%、「いつもそうだ」が12.4%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が40.9%で最も多く、次いで「そんなことはない」が37.5%、「いつもそうだ」が20.6%となっている。

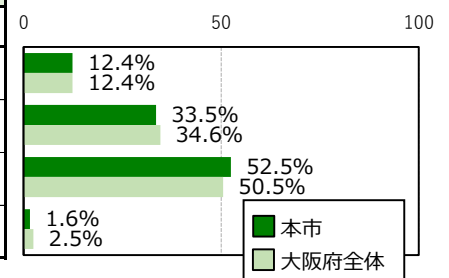
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	227名	15.9%	7,300名	16.8%
ときどきそうだ	523名	36.5%	15,932名	36.7%
そんなことはない	662名	46.2%	19,222名	44.3%
無回答	20名	1.4%	916名	2.1%



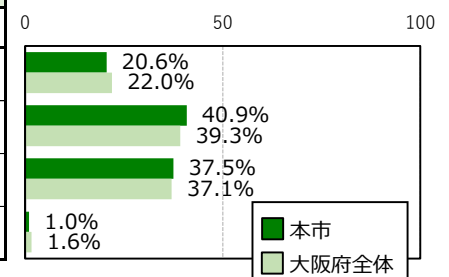
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	101名	12.4%	2,893名	12.4%
ときどきそうだ	273名	33.5%	8,049名	34.6%
そんなことはない	428名	52.5%	11,759名	50.5%
無回答	13名	1.6%	588名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	125名	20.6%	4,399名	22.0%
ときどきそうだ	248名	40.9%	7,848名	39.3%
そんなことはない	227名	37.5%	7,422名	37.1%
無回答	6名	1.0%	321名	1.6%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

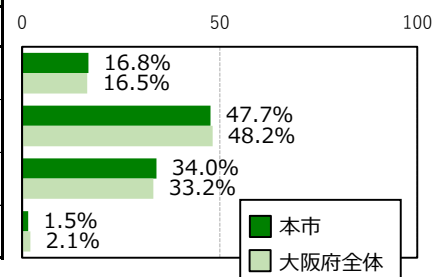
全体は、「ときどきそうだ」が47.7%で最も多く、次いで「そんなことはない」が34.0%、「いつもそうだ」が16.8%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が44.2%で最も多く、次いで「そんなことはない」が42.5%、「いつもそうだ」が11.7%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が52.3%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が24.1%、「そんなことはない」が22.6%となっている。

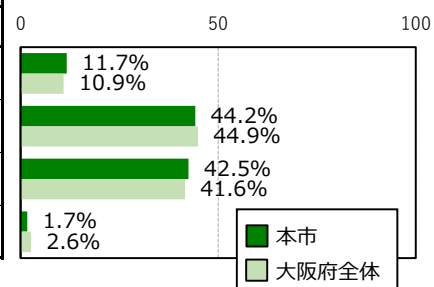
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	241名	16.8%	7,152名	16.5%
ときどきそうだ	683名	47.7%	20,902名	48.2%
そんなことはない	487名	34.0%	14,387名	33.2%
無回答	21名	1.5%	929名	2.1%



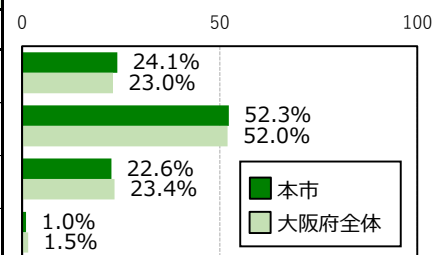
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	95名	11.7%	2,541名	10.9%
ときどきそうだ	360名	44.2%	10,454名	44.9%
そんなことはない	346名	42.5%	9,677名	41.6%
無回答	14名	1.7%	617名	2.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	146名	24.1%	4,606名	23.0%
ときどきそうだ	317名	52.3%	10,396名	52.0%
そんなことはない	137名	22.6%	4,682名	23.4%
無回答	6名	1.0%	306名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

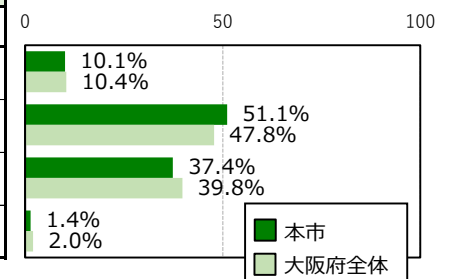
全体は、「ときどきそうだ」が51.1%で最も多く、次いで「そんなことはない」が37.4%、「いつもそうだ」が10.1%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が50.7%で最も多く、次いで「そんなことはない」が38.4%、「いつもそうだ」が9.3%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が51.7%で最も多く、次いで「そんなことはない」が36.0%、「いつもそうだ」が11.4%となっている。

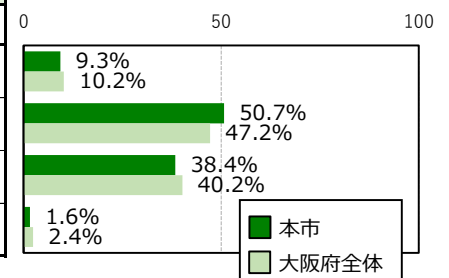
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	145名	10.1%	4,525名	10.4%
ときどきそうだ	732名	51.1%	20,712名	47.8%
そんなことはない	535名	37.4%	17,270名	39.8%
無回答	20名	1.4%	863名	2.0%



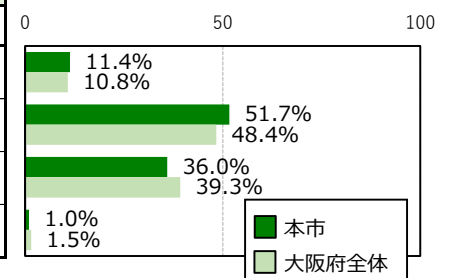
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	76名	9.3%	2,364名	10.2%
ときどきそうだ	413名	50.7%	10,997名	47.2%
そんなことはない	313名	38.4%	9,370名	40.2%
無回答	13名	1.6%	558名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	69名	11.4%	2,152名	10.8%
ときどきそうだ	313名	51.7%	9,674名	48.4%
そんなことはない	218名	36.0%	7,865名	39.3%
無回答	6名	1.0%	299名	1.5%



ふだんの生活のことについて

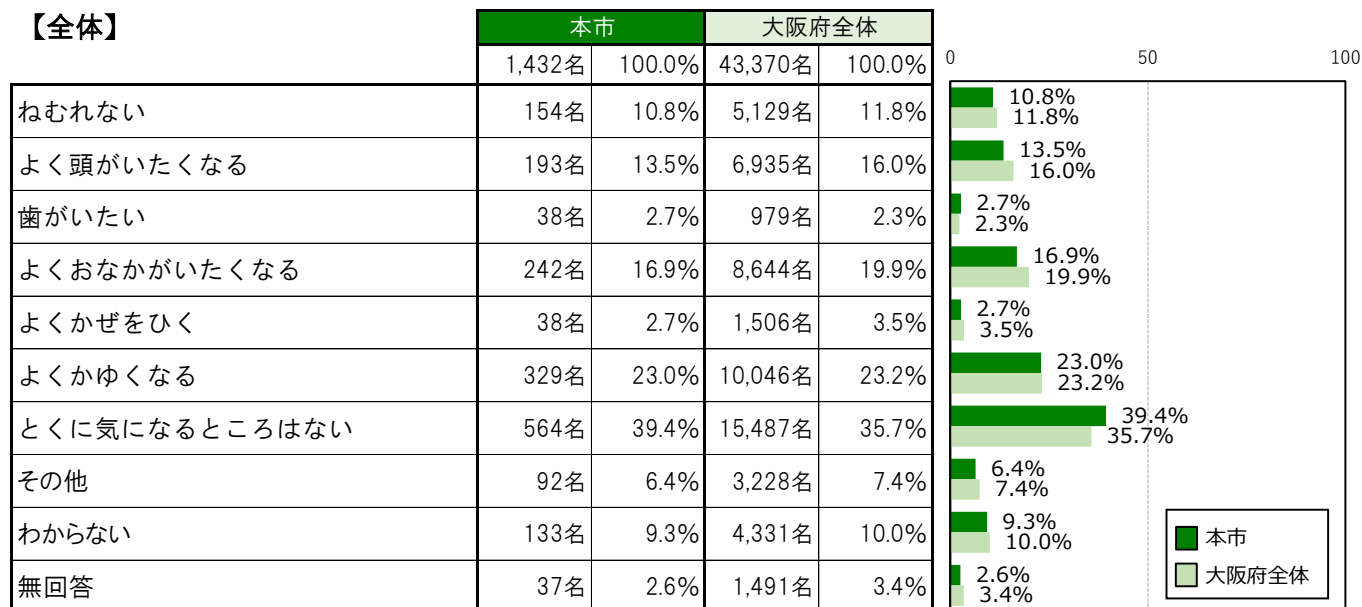
問20 自分の体の状態で気になること

全体は、「とくに気になるところはない」が39.4%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が23.0%、「よくおなかがいたくなる」が16.9%、「よく頭がいたくなる」が13.5%となっている。

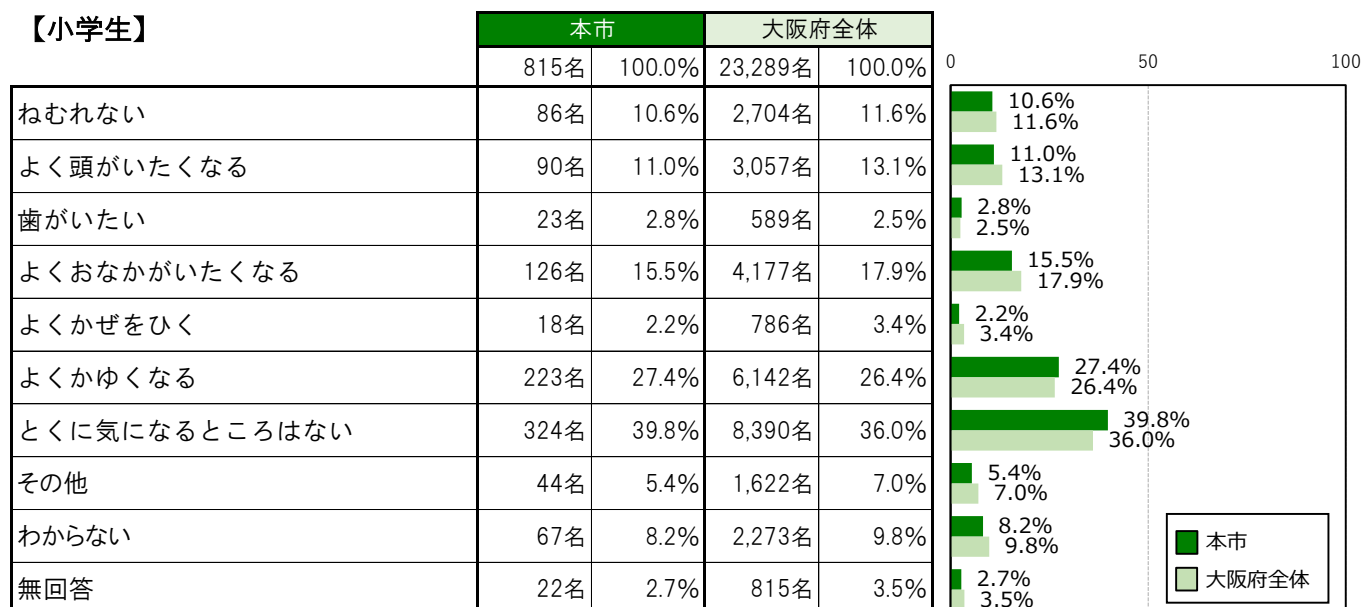
小学生は、「とくに気になるところはない」が39.8%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が27.4%、「よくおなかがいたくなる」が15.5%、「よく頭がいたくなる」が11.0%となっている。

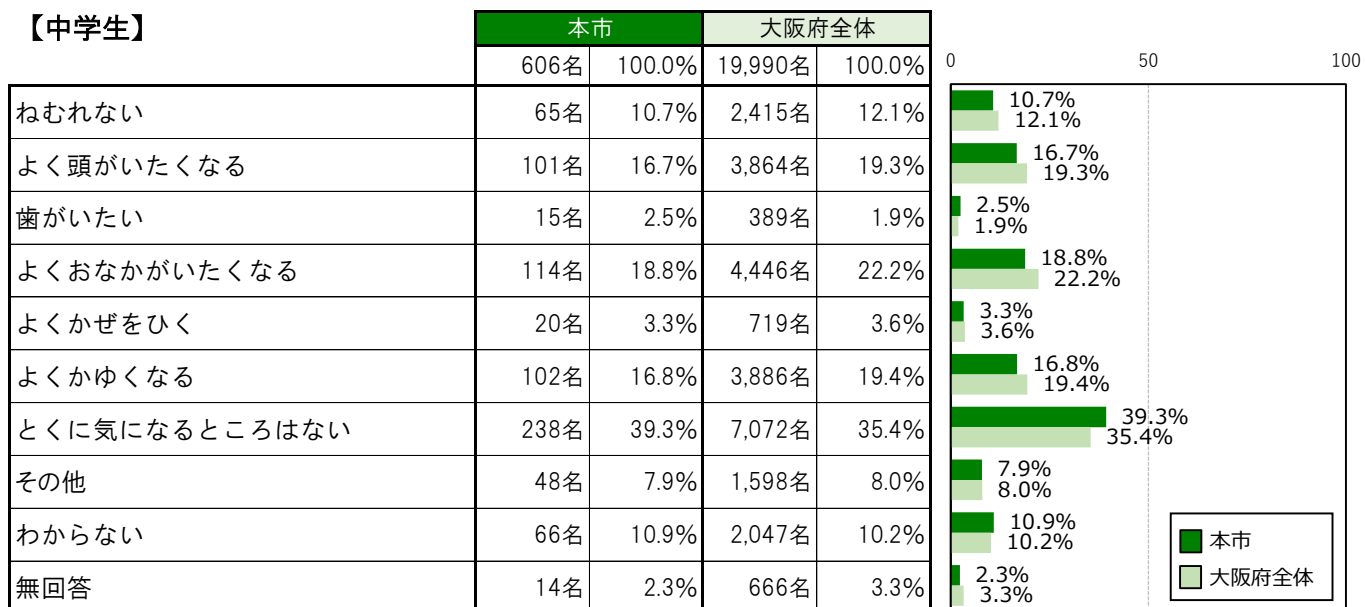
中学生は、「とくに気になるところはない」が39.3%で最も多く、次いで「よくおなかがいたくなる」が18.8%、「よくかゆくなる」が16.8%、「よく頭がいたくなる」が16.7%となっている。

【全体】



【小学生】





ふだんの生活のことについて

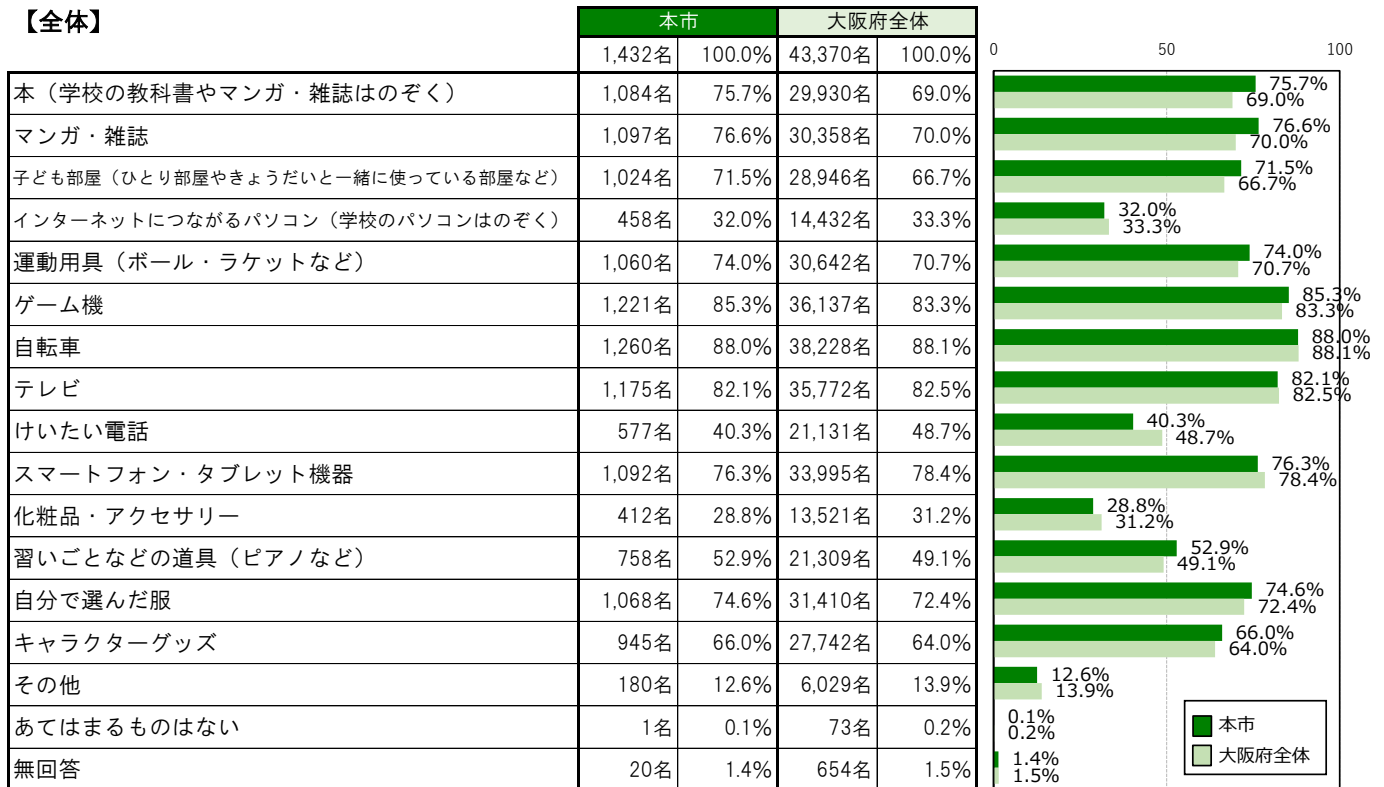
問21 持っているもの、使うことができるもの

全体は、「自転車」が88.0%で最も多く、次いで「ゲーム機」が85.3%、「テレビ」が82.1%、「マンガ・雑誌」が76.6%となっている。

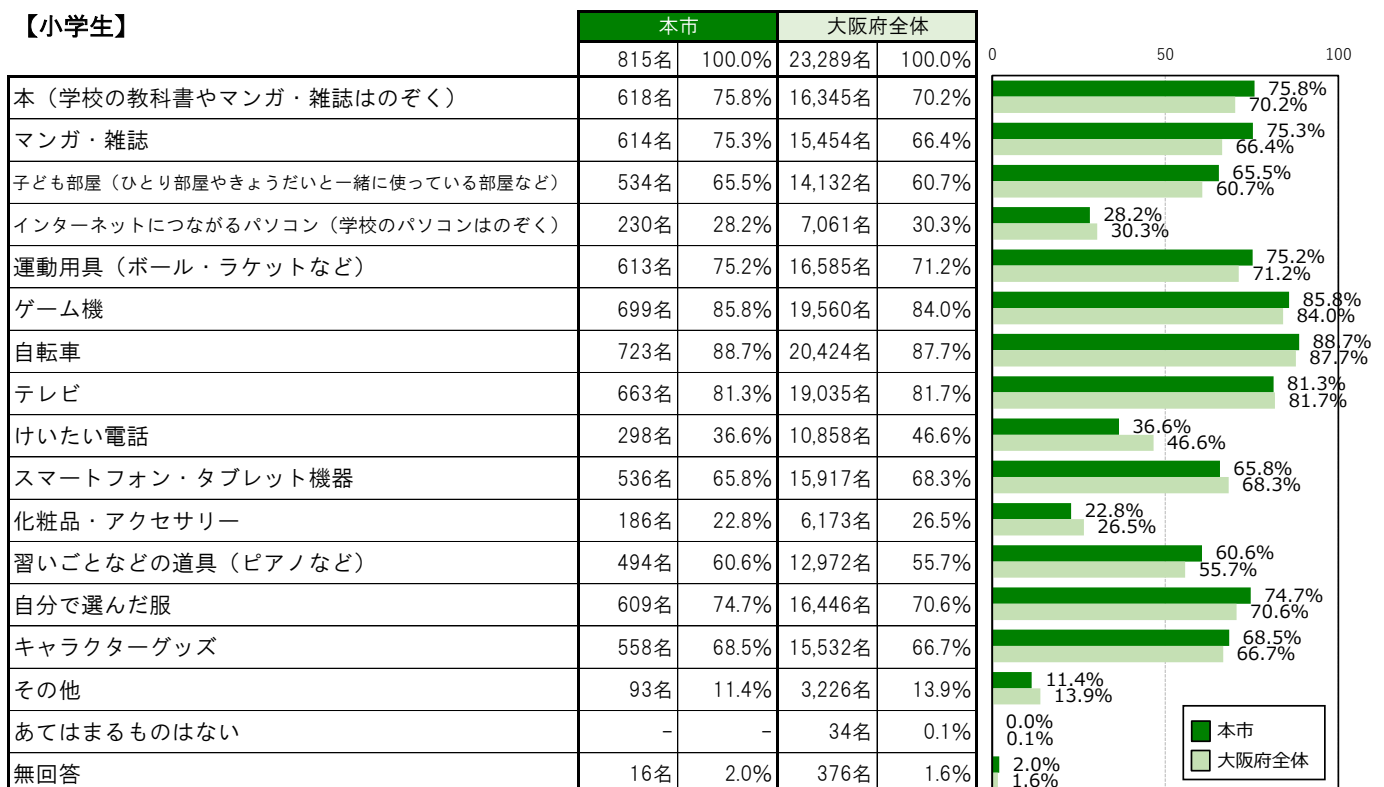
小学生は、「自転車」が88.7%で最も多く、次いで「ゲーム機」が85.8%、「テレビ」が81.3%、「本（学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく）」が75.8%となっている。

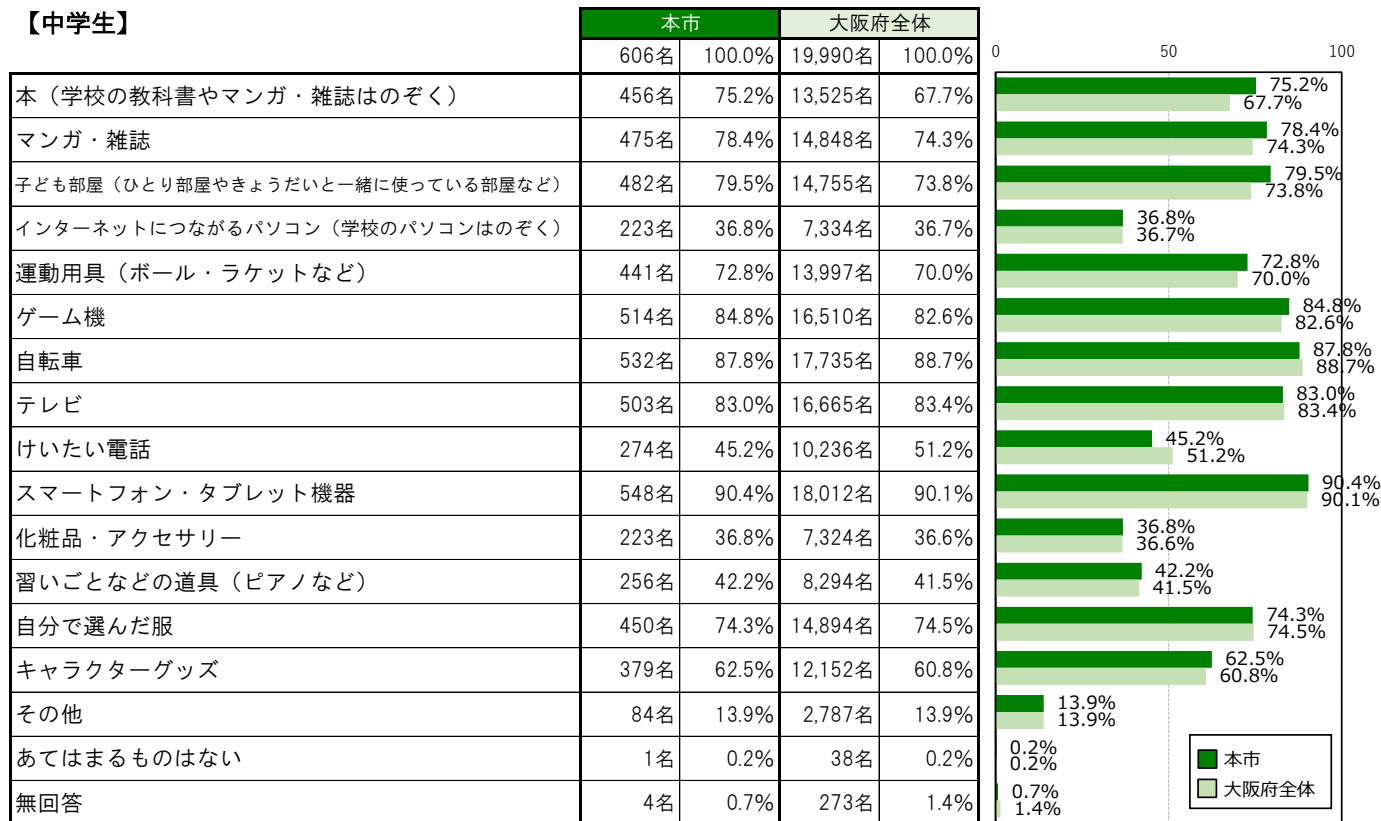
中学生は、「スマートフォン・タブレット機器」が90.4%で最も多く、次いで「自転車」が87.8%、「ゲーム機」が84.8%、「テレビ」が83.0%となっている。

【全体】



【小学生】





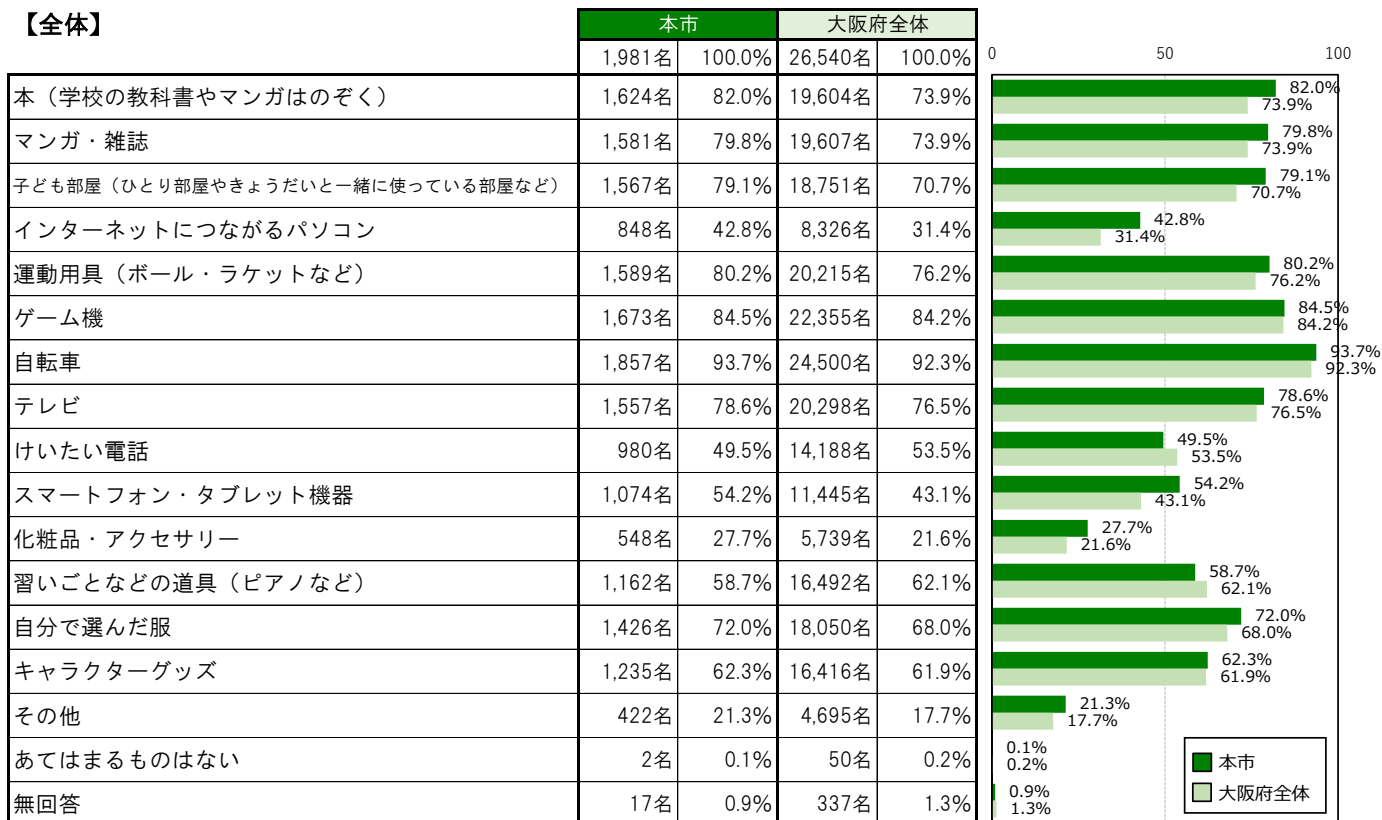
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、全体は、「スマートフォン・タブレット機器」は22.1ポイント高いが、「インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）」は10.8ポイント低くなっている。

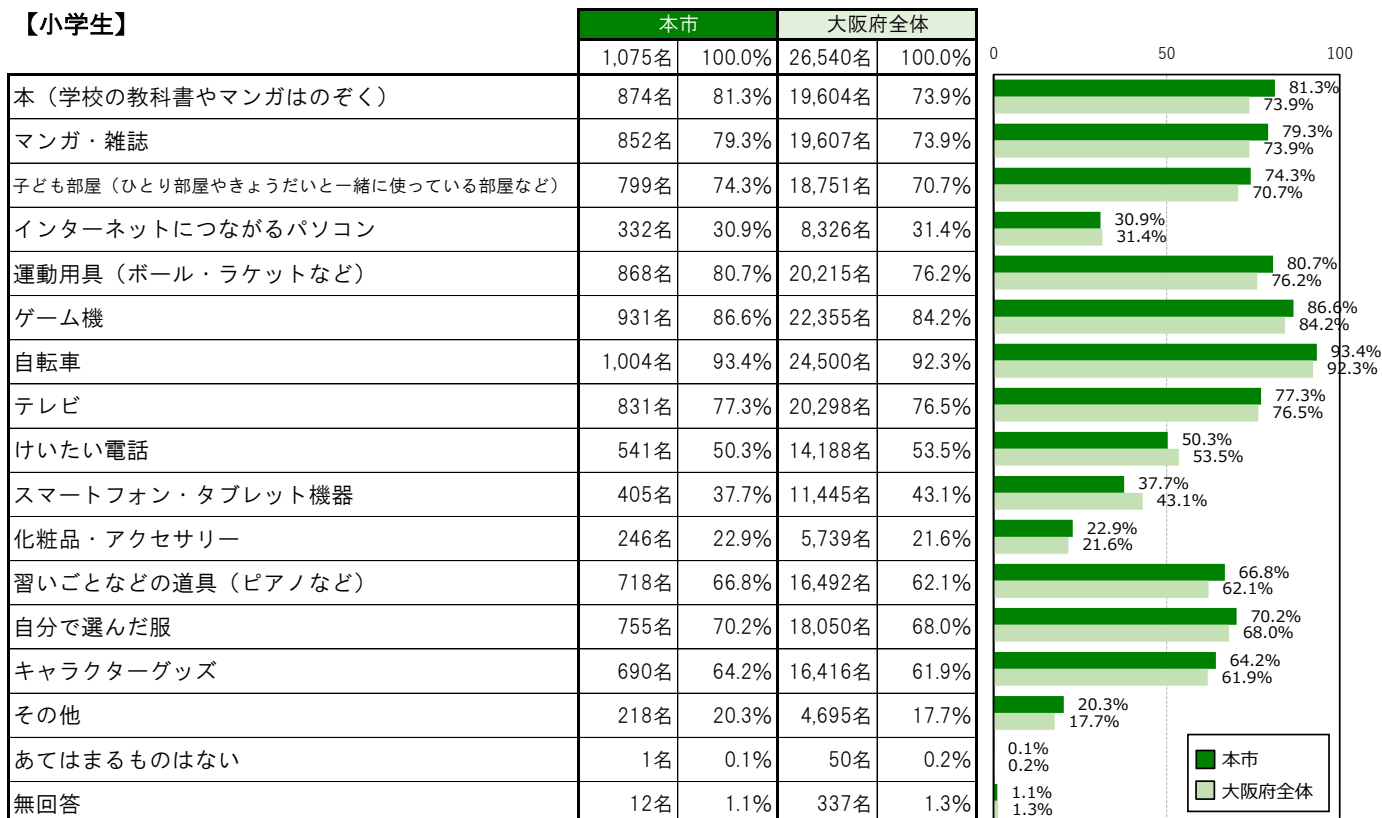
小学生は、「スマートフォン・タブレット機器」は28.1ポイント高いが、「けいたい電話」は13.7ポイント低くなっている。

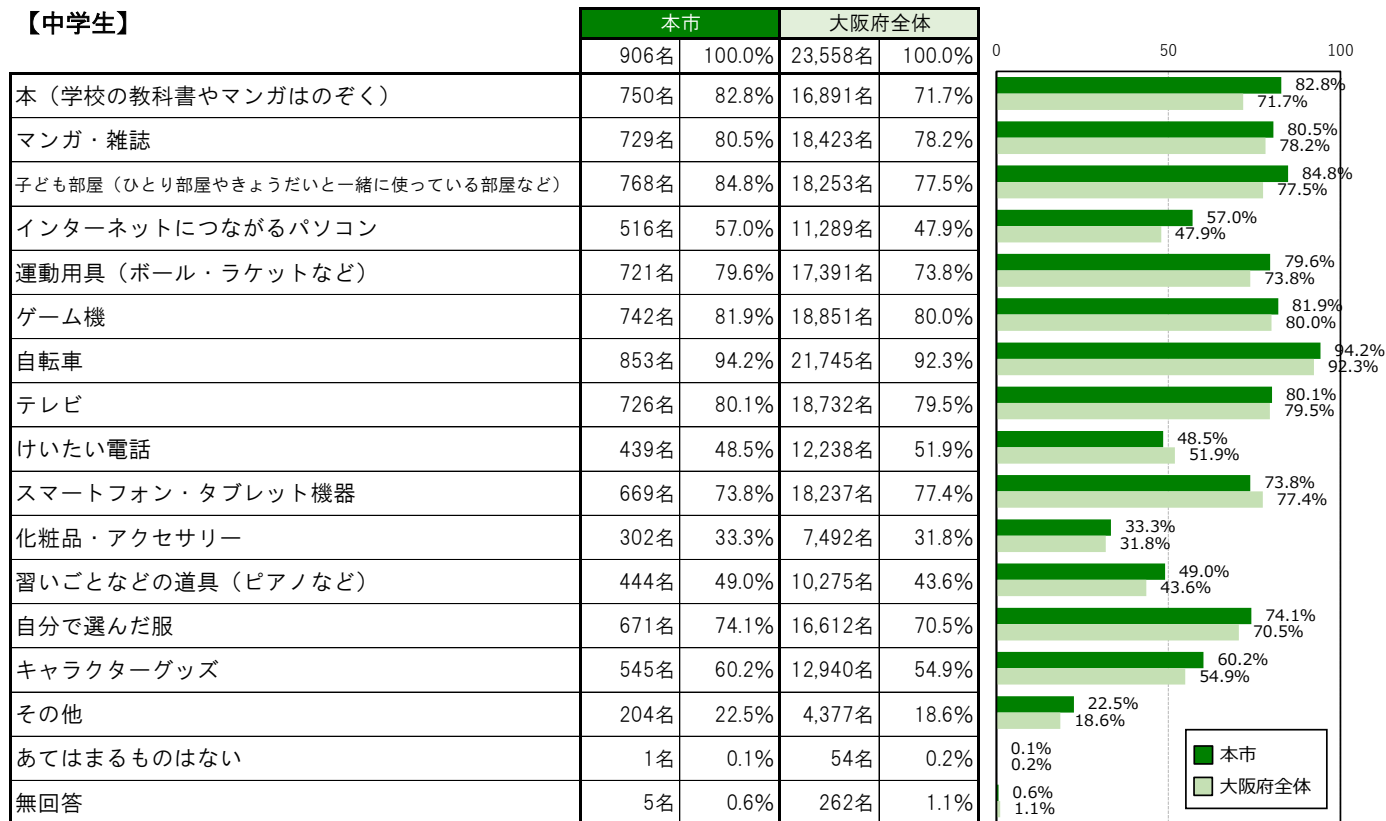
中学生は、「スマートフォン・タブレット機器」は16.6ポイント高いが、「インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）」は20.2ポイント低くなっている。

【全体】



【小学生】





ふだん考えていることについて

問22 すぐに立ち直ることができる

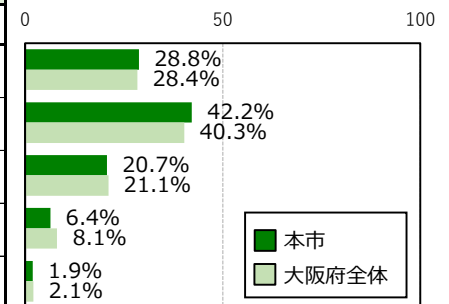
全体は、「どちらかというと思う」が42.2%で最も多く、次いで「そう思う」が28.8%、「どちらかというと思わない」が20.7%、「そう思わない」が6.4%となっている。

小学生は、「どちらかというと思う」が41.7%で最も多く、次いで「そう思う」が32.3%、「どちらかというと思わない」が18.8%、「そう思わない」が5.0%となっている。

中学生は、「どちらかというと思う」が43.4%で最も多く、次いで「そう思う」が23.9%、「どちらかというと思わない」が23.1%、「そう思わない」が8.1%となっている。

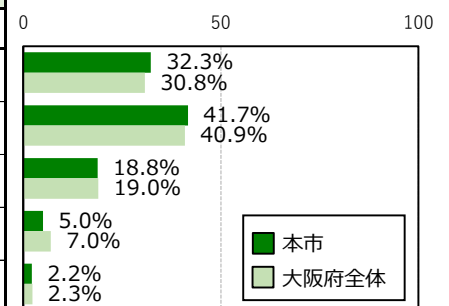
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
そう思う	412名	28.8%	12,318名	28.4%
どちらかというと思う	604名	42.2%	17,480名	40.3%
どちらかというと思わない	297名	20.7%	9,144名	21.1%
そう思わない	92名	6.4%	3,521名	8.1%
無回答	27名	1.9%	907名	2.1%



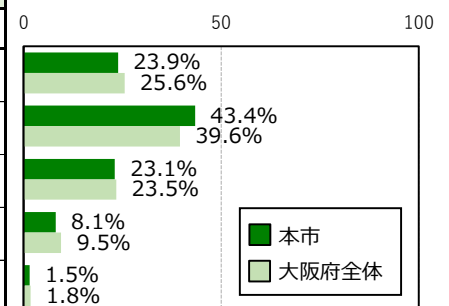
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
そう思う	263名	32.3%	7,172名	30.8%
どちらかというと思う	340名	41.7%	9,521名	40.9%
どちらかというと思わない	153名	18.8%	4,431名	19.0%
そう思わない	41名	5.0%	1,625名	7.0%
無回答	18名	2.2%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
そう思う	145名	23.9%	5,119名	25.6%
どちらかというと思う	263名	43.4%	7,917名	39.6%
どちらかというと思わない	140名	23.1%	4,703名	23.5%
そう思わない	49名	8.1%	1,891名	9.5%
無回答	9名	1.5%	360名	1.8%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（１）自分に自信がある

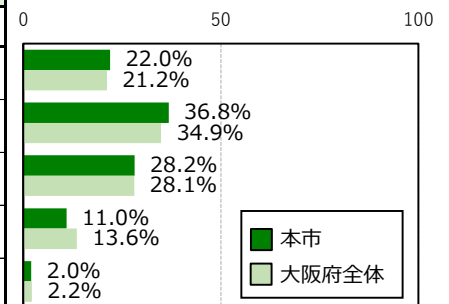
全体は、「どちらかというところがある」が36.8%で最も多く、次いで「どちらかというところはない」が28.2%、「ある」が22.0%、「ない」が11.0%となっている。

小学生は、「どちらかというところがある」が38.2%で最も多く、次いで「ある」が26.9%、「どちらかというところはない」が23.6%、「ない」が8.8%となっている。

中学生は、「どちらかというところがある」が34.7%で最も多く、次いで「どちらかというところはない」が34.7%、「ない」が14.0%、「ある」が15.3%となっている。

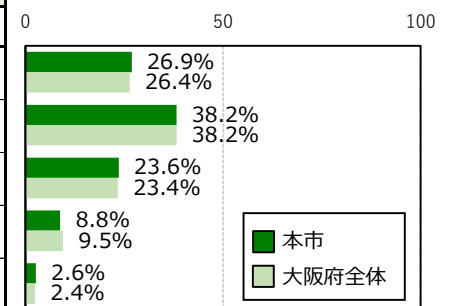
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	315名	22.0%	9,192名	21.2%
どちらかというところがある	527名	36.8%	15,132名	34.9%
どちらかというところはない	404名	28.2%	12,192名	28.1%
ない	157名	11.0%	5,898名	13.6%
無回答	29名	2.0%	956名	2.2%



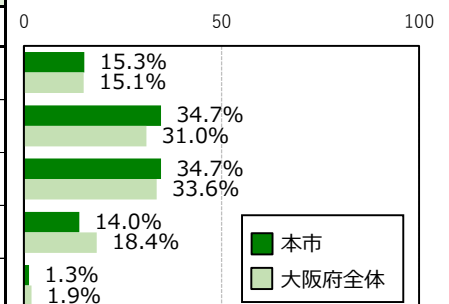
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	219名	26.9%	6,157名	26.4%
どちらかというところがある	311名	38.2%	8,904名	38.2%
どちらかというところはない	192名	23.6%	5,450名	23.4%
ない	72名	8.8%	2,211名	9.5%
無回答	21名	2.6%	567名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	93名	15.3%	3,011名	15.1%
どちらかというところがある	210名	34.7%	6,202名	31.0%
どちらかというところはない	210名	34.7%	6,716名	33.6%
ない	85名	14.0%	3,679名	18.4%
無回答	8名	1.3%	382名	1.9%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（2）自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

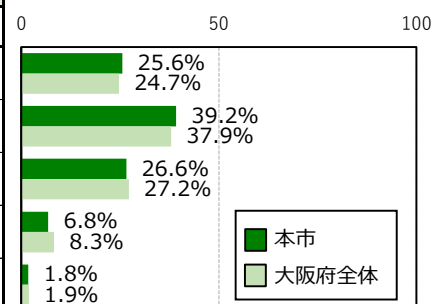
全体は、「どちらかというとできる」が39.2%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が26.6%、「できる」が25.6%、「できない」が6.8%となっている。

小学生は、「どちらかというとできる」が39.8%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が26.4%、「できる」が25.8%、「できない」が5.8%となっている。

中学生は、「どちらかというとできる」が38.0%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が26.9%、「できる」が25.7%、「できない」が8.3%となっている。

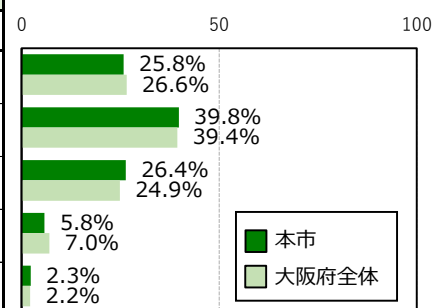
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
できる	366名	25.6%	10,725名	24.7%
どちらかというとできる	561名	39.2%	16,421名	37.9%
どちらかというとできない	381名	26.6%	11,801名	27.2%
できない	98名	6.8%	3,582名	8.3%
無回答	26名	1.8%	841名	1.9%



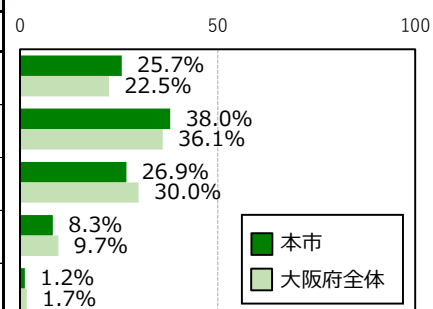
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
できる	210名	25.8%	6,187名	26.6%
どちらかというとできる	324名	39.8%	9,180名	39.4%
どちらかというとできない	215名	26.4%	5,791名	24.9%
できない	47名	5.8%	1,629名	7.0%
無回答	19名	2.3%	502名	2.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
できる	156名	25.7%	4,507名	22.5%
どちらかというとできる	230名	38.0%	7,209名	36.1%
どちらかというとできない	163名	26.9%	5,993名	30.0%
できない	50名	8.3%	1,947名	9.7%
無回答	7名	1.2%	334名	1.7%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（3）自分の将来の夢や目標を持っている

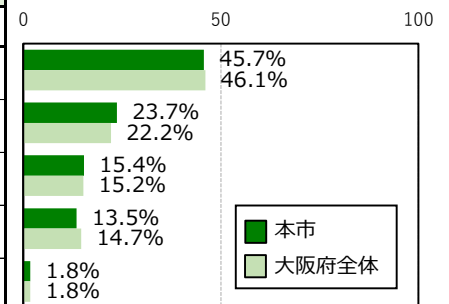
全体は、「持っている」が45.7%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が23.7%、「どちらかというを持っていない」が15.4%、「持っていない」が13.5%となっている。

小学生は、「持っている」が57.8%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が19.5%、「どちらかというを持っていない」が12.0%、「持っていない」が8.2%となっている。

中学生は、「持っている」が29.4%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が29.2%、「持っていない」が20.5%、「どちらかというを持っていない」が20.0%となっている。

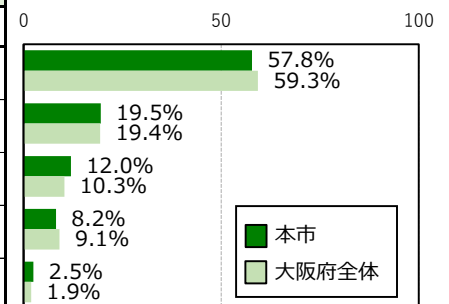
【全体】

	本市		大阪府全体	
	1,432名	100.0%	43,370名	100.0%
持っている	654名	45.7%	19,990名	46.1%
どちらかというを持っている	339名	23.7%	9,645名	22.2%
どちらかというを持っていない	220名	15.4%	6,609名	15.2%
持っていない	193名	13.5%	6,354名	14.7%
無回答	26名	1.8%	772名	1.8%



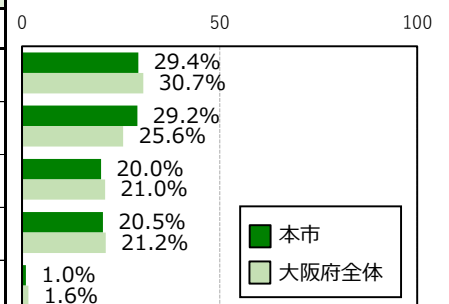
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	815名	100.0%	23,289名	100.0%
持っている	471名	57.8%	13,811名	59.3%
どちらかというを持っている	159名	19.5%	4,518名	19.4%
どちらかというを持っていない	98名	12.0%	2,398名	10.3%
持っていない	67名	8.2%	2,108名	9.1%
無回答	20名	2.5%	454名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	606名	100.0%	19,990名	100.0%
持っている	178名	29.4%	6,139名	30.7%
どちらかというを持っている	177名	29.2%	5,108名	25.6%
どちらかというを持っていない	121名	20.0%	4,195名	21.0%
持っていない	124名	20.5%	4,235名	21.2%
無回答	6名	1.0%	313名	1.6%



ふだん考えていることについて

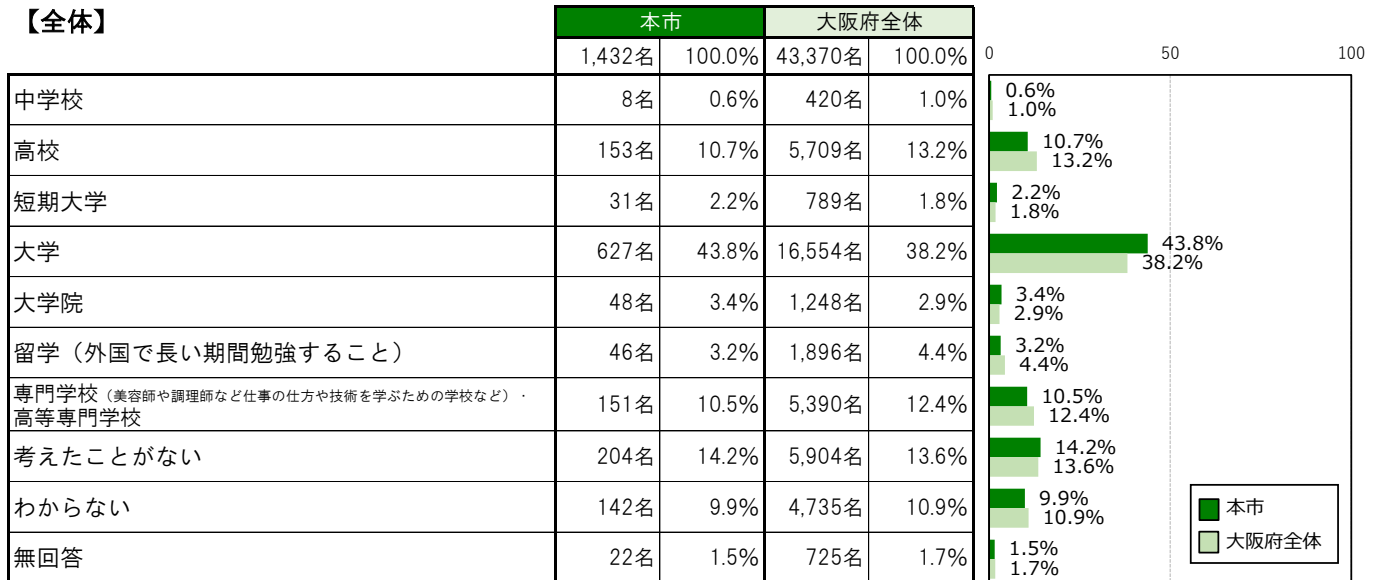
問24 希望する進学先

全体は、「大学」が43.8%で最も多く、次いで「考えたことがない」が14.2%、「高校」が10.7%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が10.5%となっている。

小学生は、「大学」が39.6%で最も多く、次いで「考えたことがない」が18.2%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が11.8%、「高校」が9.2%となっている。

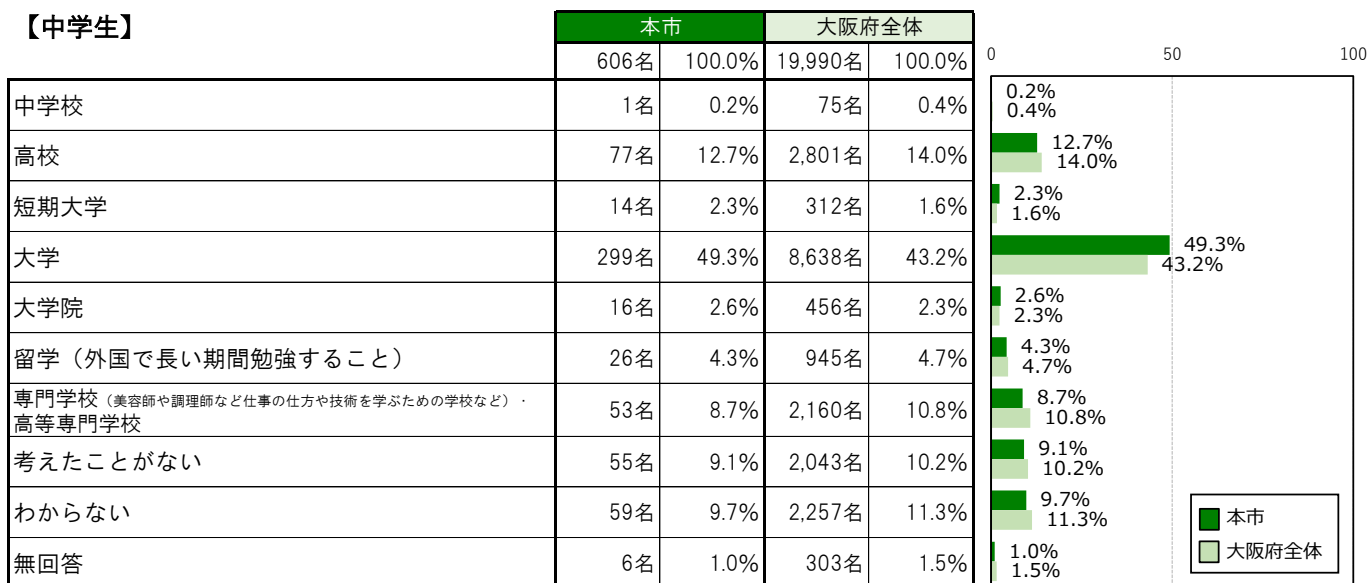
中学生は、「大学」が49.3%で最も多く、次いで「高校」が12.7%、「考えたことがない」が9.1%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が8.7%となっている。

【全体】



【小学生】





あなたのことについて

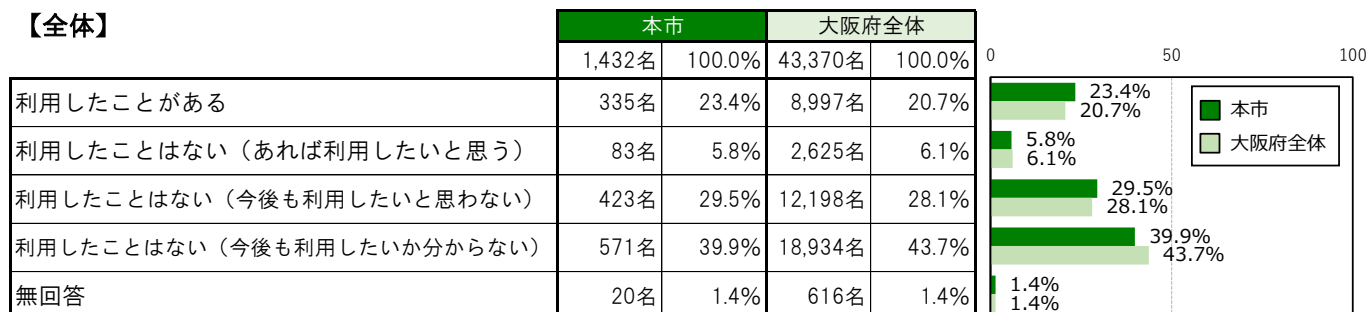
問25（１）子どもの居場所の利用状況 ①平日の夜や休日を過ごすことができる場所（学童保育など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が39.9%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が29.5%、「利用したことがある」が23.4%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が38.2%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.1%、「利用したことがある」が26.6%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が41.7%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が33.0%、「利用したことがある」が19.3%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況

②昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が46.6%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が25.1%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が16.5%となっている。

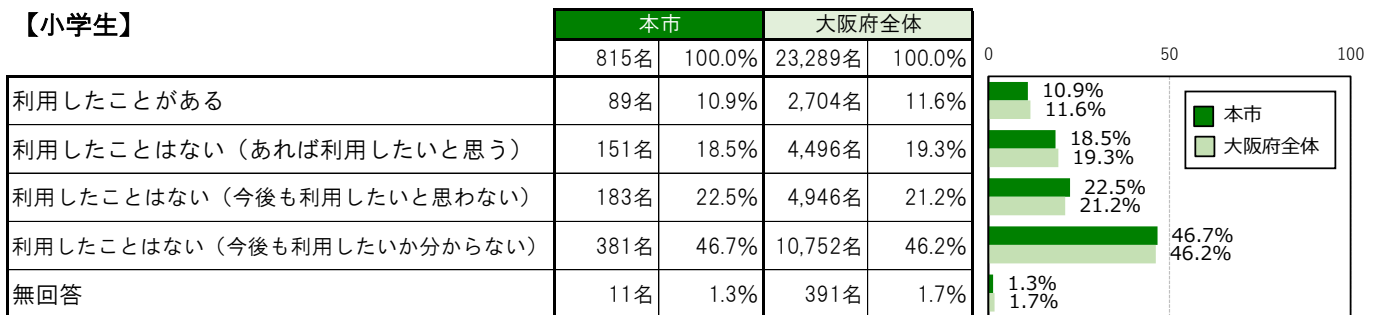
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が46.7%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が22.5%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が18.5%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が46.0%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が28.7%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が14.0%となっている。

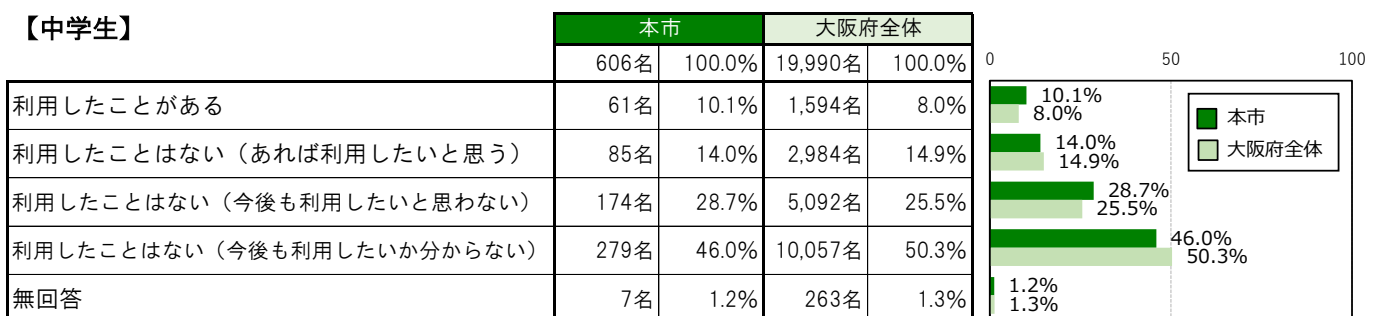
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況

③勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（一般的な学習塾とはちがう学習支援など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が49.2%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.6%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が17.2%となっている。

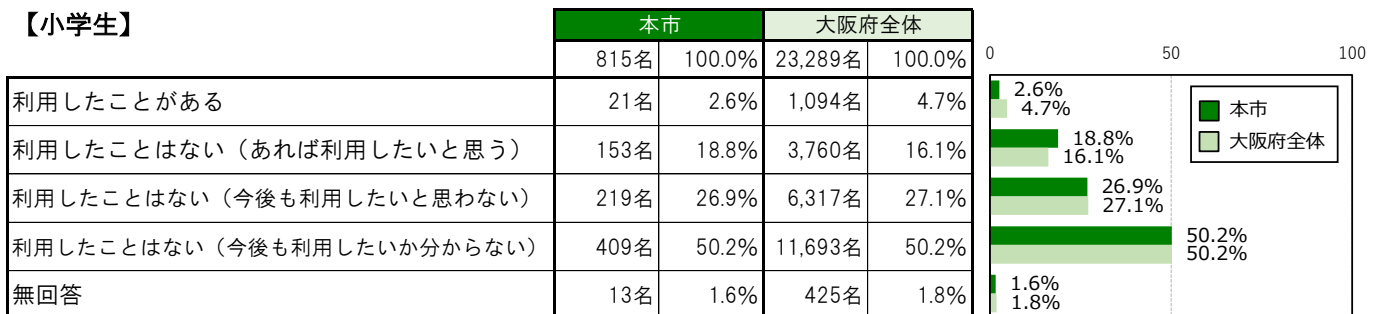
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が50.2%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が26.9%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が18.8%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が47.5%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が28.7%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が15.5%となっている。

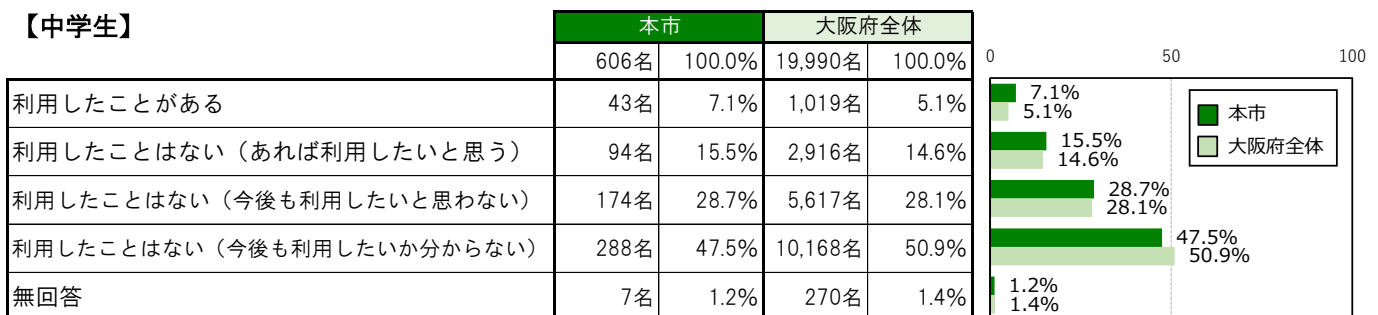
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

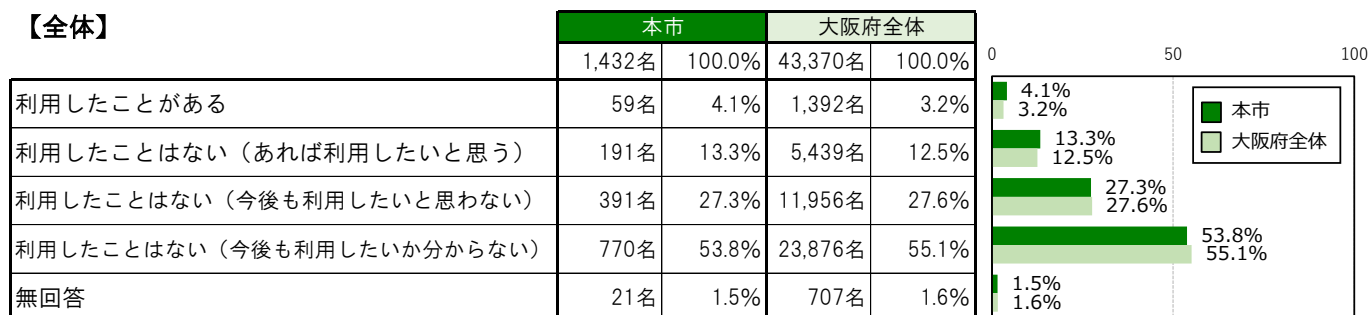
問25（１）子どもの居場所の利用状況 ④何でも相談できる場所（電話やネットの相談をふくむ。）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が53.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.3%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が13.3%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が53.0%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が26.3%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が15.0%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が54.5%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が29.0%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が11.4%となっている。

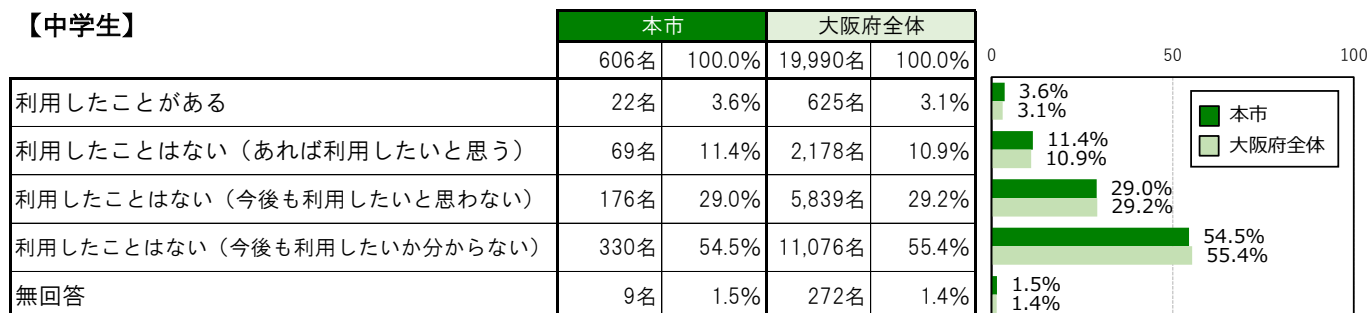
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

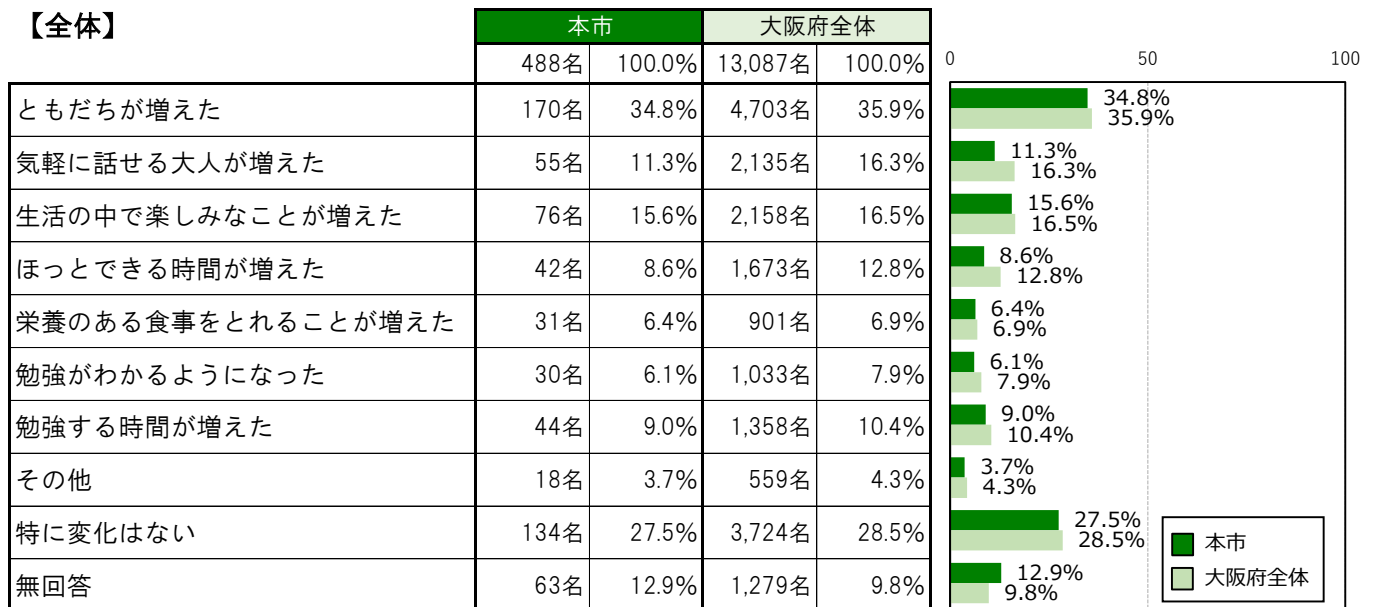
問25（2）子どもの居場所を利用したときの変化

全体は、「ともだちが増えた」が34.8%で最も多く、次いで「生活の中で楽しいことが増えた」が15.6%、「気軽に話せる大人が増えた」が11.3%、「勉強する時間が増えた」が9.0%となっている。

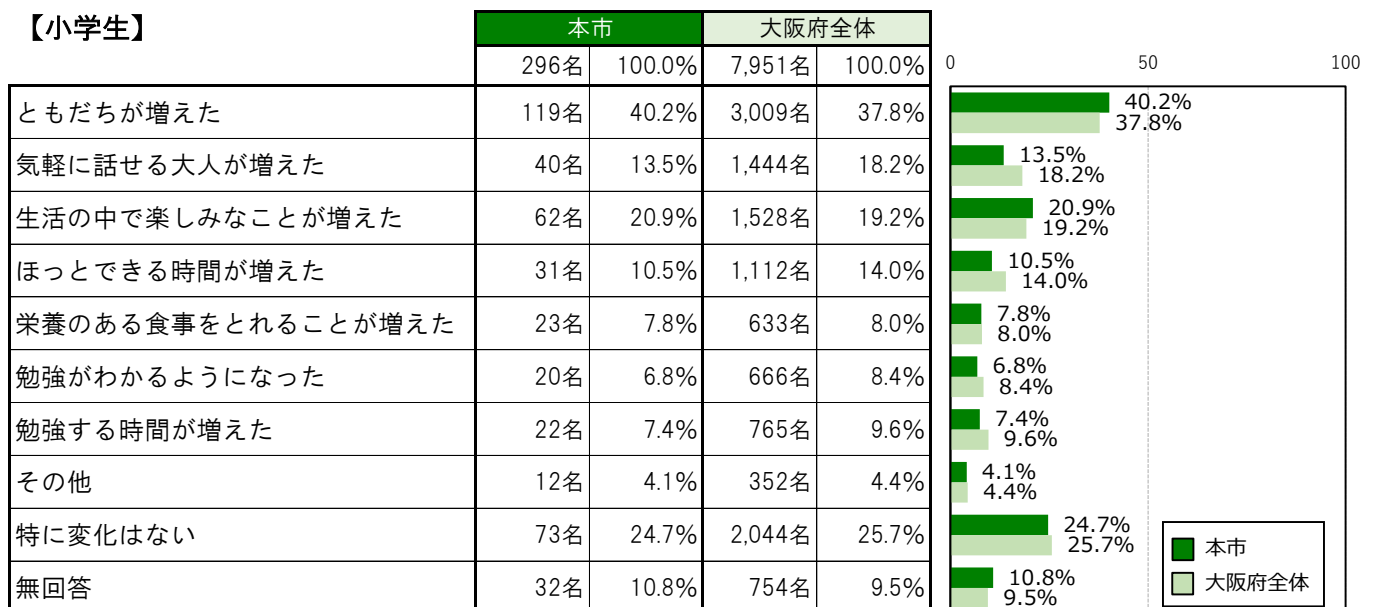
小学生は、「ともだちが増えた」が40.2%で最も多く、次いで「生活の中で楽しいことが増えた」が20.9%、「気軽に話せる大人が増えた」が13.5%、「ほっとできる時間が増えた」が10.5%となっている。

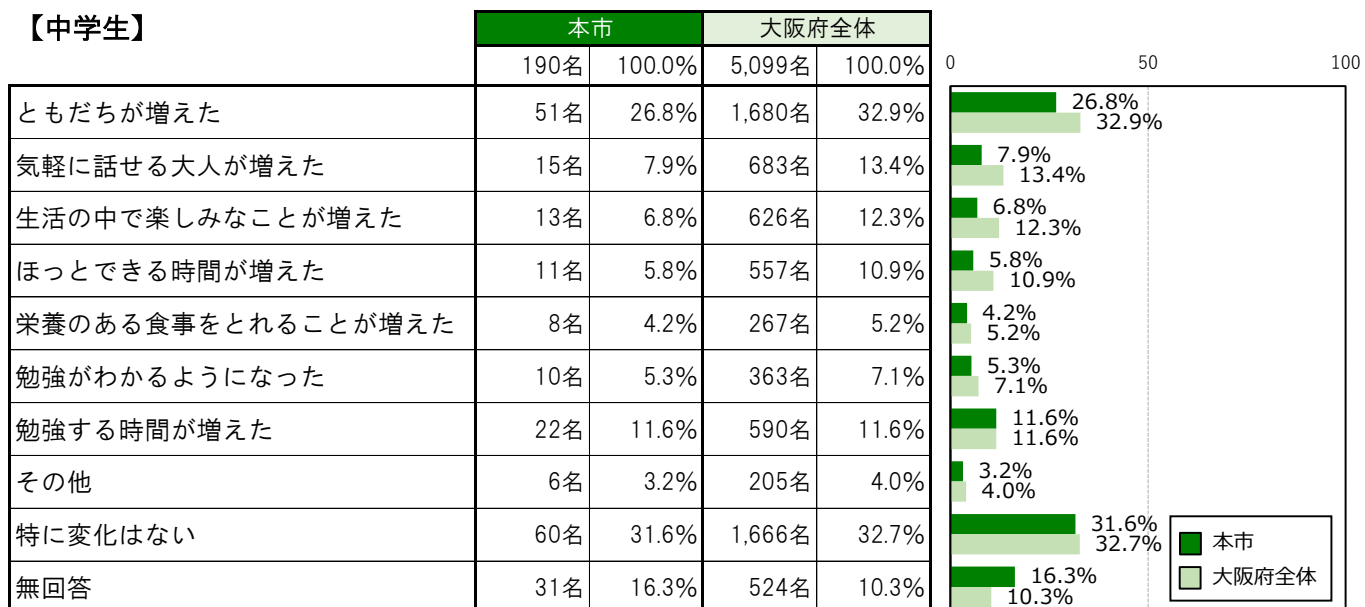
中学生は、「ともだちが増えた」が26.8%で最も多く、次いで「勉強する時間が増えた」が11.6%、「気軽に話せる大人が増えた」が7.9%、「生活の中で楽しいことが増えた」が6.8%となっている。

【全体】



【小学生】





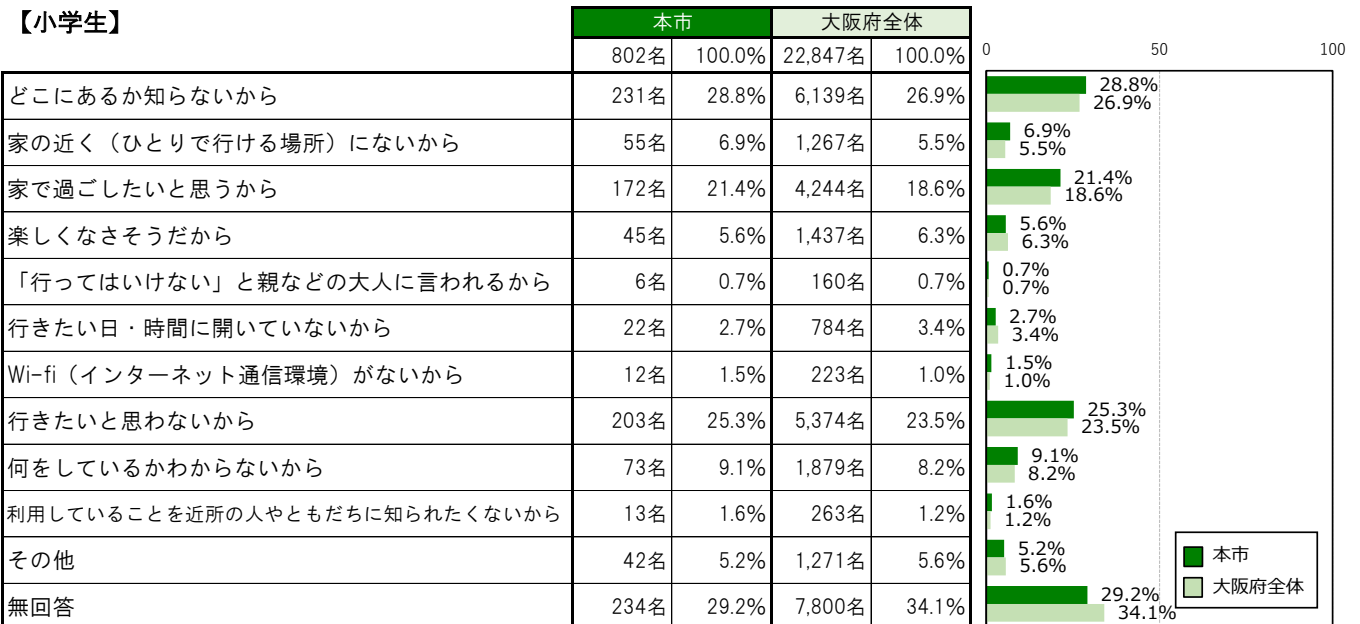
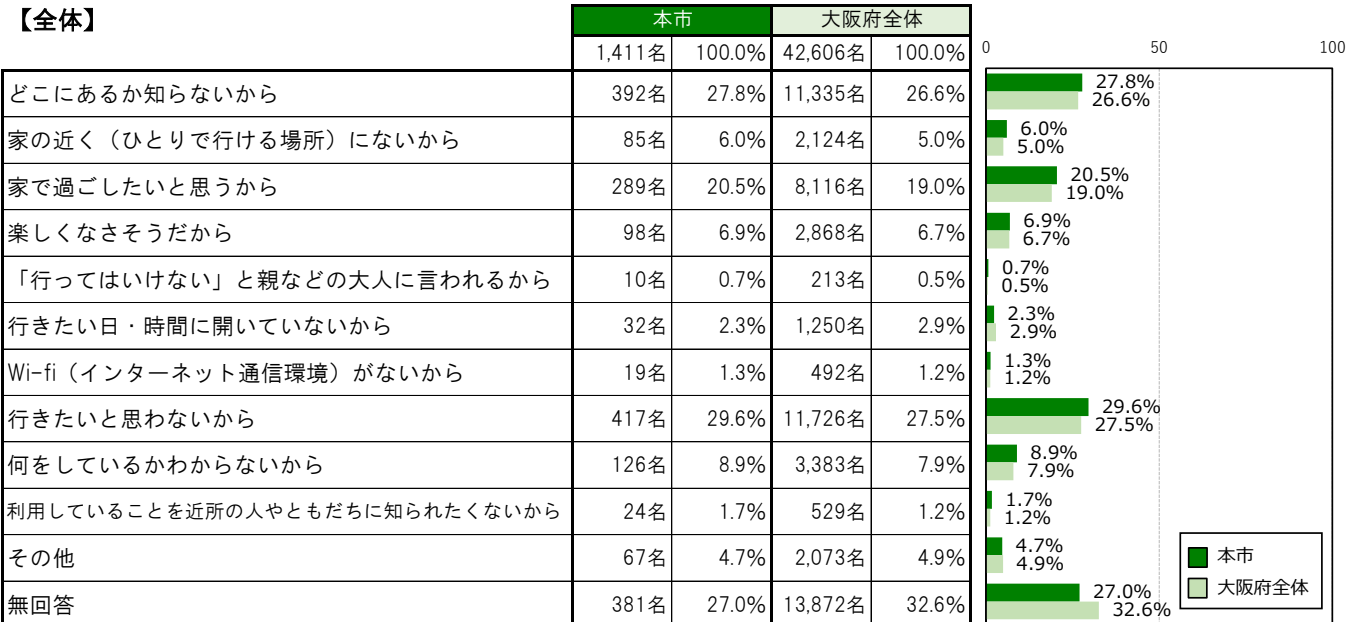
あなたのことについて

問25（3）子どもの居場所を利用したことがない理由

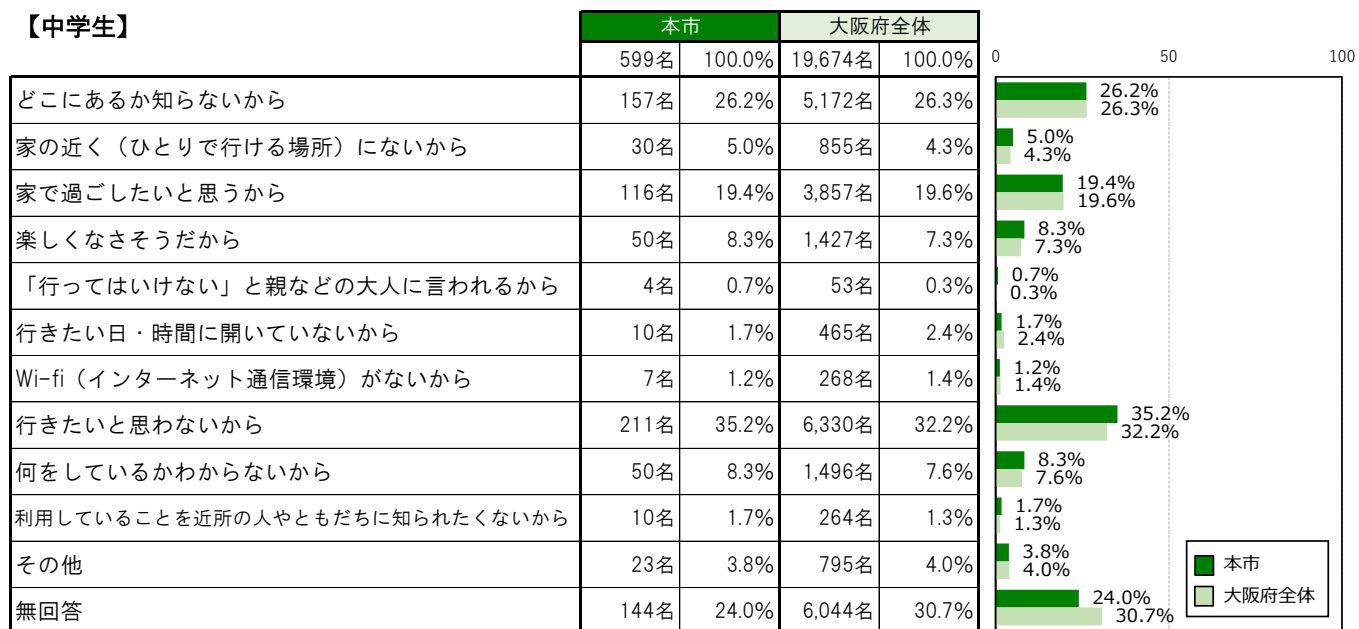
全体は、「行きたいと思わないから」が29.6%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が27.8%、「家で過ごしたいと思うから」が20.5%、「何をしているかわからないから」が8.9%となっている。

小学生は、「どこにあるか知らないから」が28.8%で最も多く、次いで「行きたいと思わないから」が25.3%、「家で過ごしたいと思うから」が21.4%、「何をしているかわからないから」が9.1%となっている。

中学生は、「行きたいと思わないから」が35.2%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が26.2%、「家で過ごしたいと思うから」が19.4%、「楽しくなさそうだから」、「何をしているかわからないから」がそれぞれ8.3%となっている。



【中学生】



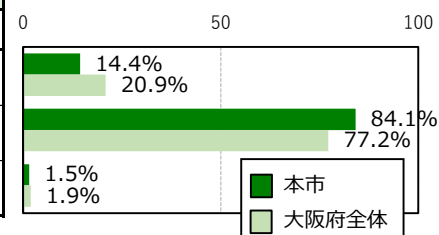
あなたのことについて

問26（１）自分が世話をしている人の有無

全体は、「いる」が14.4%、「いない」が84.1%となっている。
 小学生は、「いる」が18.2%、「いない」が80.9%となっている。
 中学生は、「いる」が9.1%、「いない」が88.9%となっている。

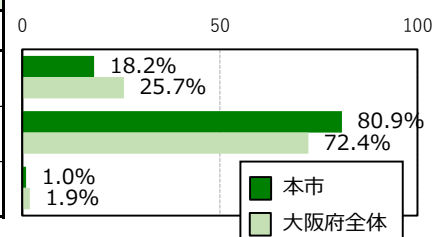
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	206名	14.4%	9,054名	20.9%
いない	1,205名	84.1%	33,476名	77.2%
無回答	21名	1.5%	840名	1.9%



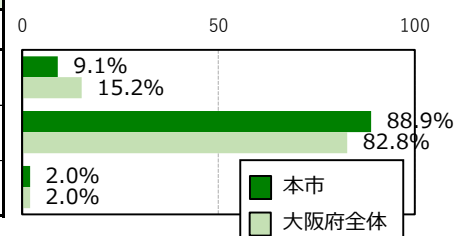
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	148名	18.2%	5,988名	25.7%
いない	659名	80.9%	16,856名	72.4%
無回答	8名	1.0%	445名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	55名	9.1%	3,045名	15.2%
いない	539名	88.9%	16,553名	82.8%
無回答	12名	2.0%	392名	2.0%



あなたのことについて

問26（2）世話をしている相手

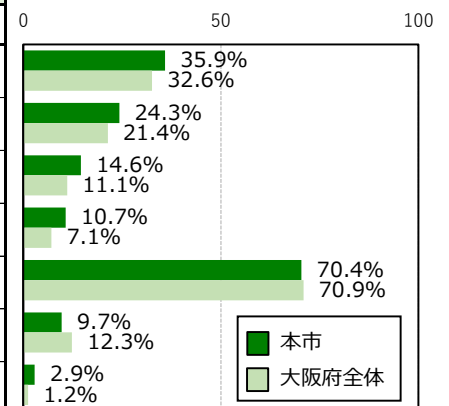
全体は、「きょうだい」が70.4%で最も多く、次いで「お母さん」が35.9%、「お父さん」が24.3%、「おばあちゃん」が14.6%となっている。

小学生は、「きょうだい」が73.0%で最も多く、次いで「お母さん」が38.5%、「お父さん」が24.3%、「おばあちゃん」が17.6%となっている。

中学生は、「きょうだい」が63.6%で最も多く、次いで「お母さん」が30.9%、「お父さん」が25.5%、「おばあちゃん」が7.3%となっている。

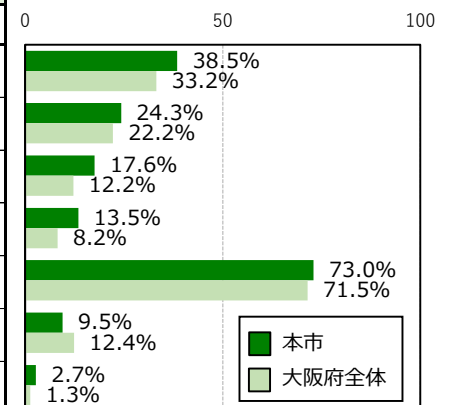
【全体】

	本市		大阪府全体	
	206名	100.0%	9,054名	100.0%
お母さん	74名	35.9%	2,954名	32.6%
お父さん	50名	24.3%	1,939名	21.4%
おばあちゃん	30名	14.6%	1,009名	11.1%
おじいちゃん	22名	10.7%	647名	7.1%
きょうだい	145名	70.4%	6,419名	70.9%
その他	20名	9.7%	1,117名	12.3%
無回答	6名	2.9%	112名	1.2%



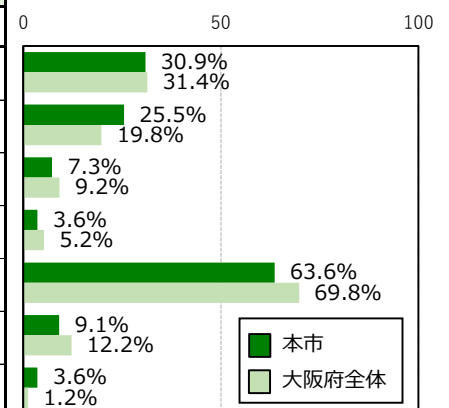
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	148名	100.0%	5,988名	100.0%
お母さん	57名	38.5%	1,990名	33.2%
お父さん	36名	24.3%	1,332名	22.2%
おばあちゃん	26名	17.6%	728名	12.2%
おじいちゃん	20名	13.5%	489名	8.2%
きょうだい	108名	73.0%	4,280名	71.5%
その他	14名	9.5%	741名	12.4%
無回答	4名	2.7%	75名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	55名	100.0%	3,045名	100.0%
お母さん	17名	30.9%	957名	31.4%
お父さん	14名	25.5%	604名	19.8%
おばあちゃん	4名	7.3%	280名	9.2%
おじいちゃん	2名	3.6%	157名	5.2%
きょうだい	35名	63.6%	2,125名	69.8%
その他	5名	9.1%	370名	12.2%
無回答	2名	3.6%	37名	1.2%



あなたのことについて

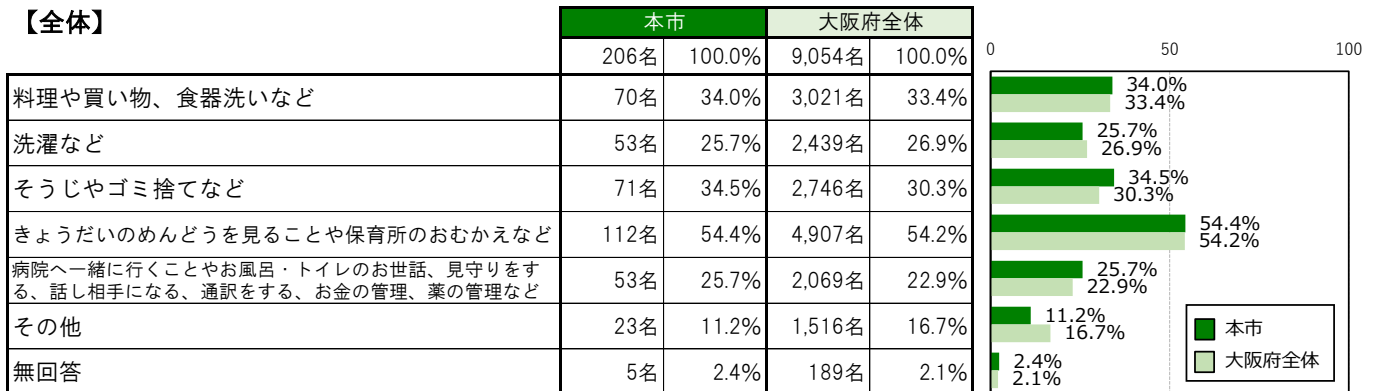
問26（3）世話をしている内容

全体は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が54.4%で最も多く、次いで「そうじやゴミ捨てなど」が34.5%、「料理や買い物、食器洗いなど」が34.0%となっている。

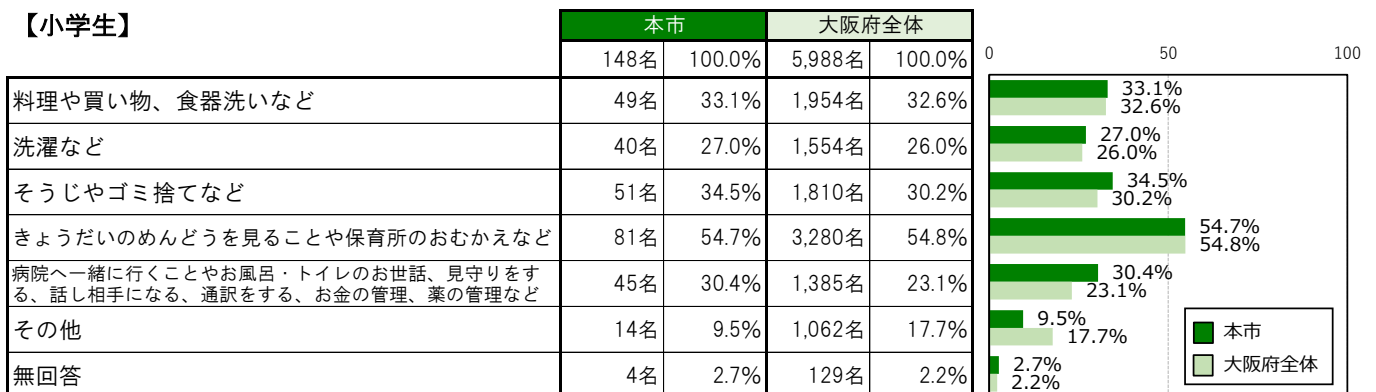
小学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が54.7%で最も多く、次いで「そうじやゴミ捨てなど」が34.5%、「料理や買い物、食器洗いなど」が33.1%となっている。

中学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が52.7%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が38.2%、「そうじやゴミ捨てなど」が34.5%となっている。

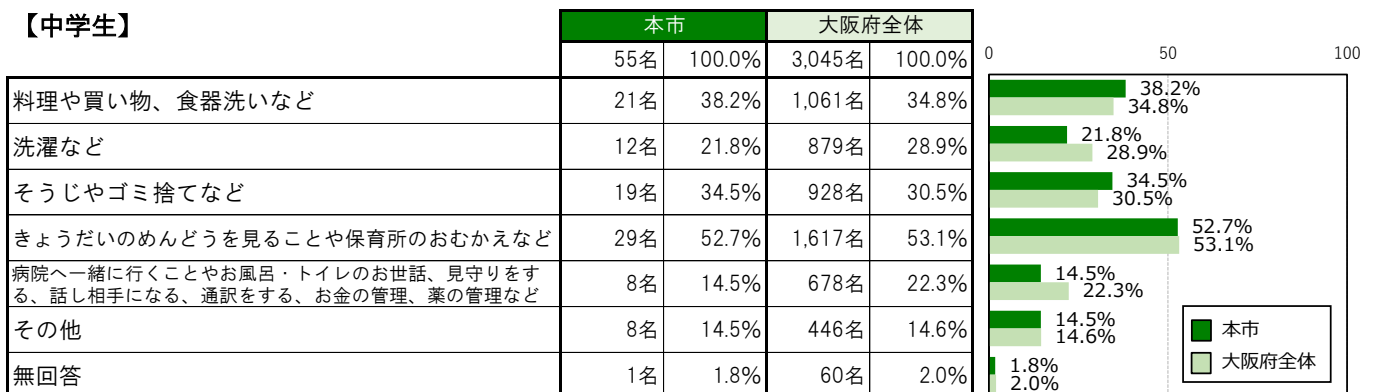
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問26（５）世話をする頻度

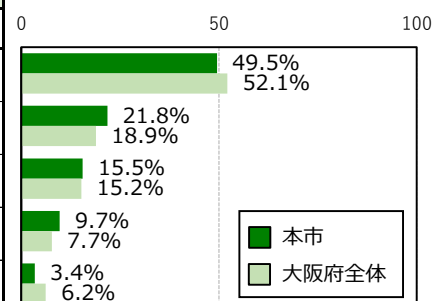
全体は、「ほぼ毎日」が49.5%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が21.8%、「週に1日または2日」が15.5%となっている。

小学生は、「ほぼ毎日」が54.1%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が21.6%、「週に1日または2日」が12.8%となっている。

中学生は、「ほぼ毎日」が38.2%で最も多く、次いで「週に3日～5日」、「週に1日または2日」がそれぞれ21.8%となっている。

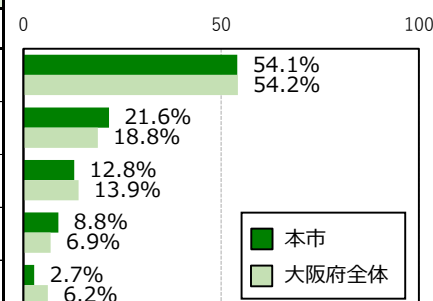
【全体】

	本市		大阪府全体	
	206名	100.0%	9,054名	100.0%
ほぼ毎日	102名	49.5%	4,716名	52.1%
週に3日～5日	45名	21.8%	1,708名	18.9%
週に1日または2日	32名	15.5%	1,375名	15.2%
1か月に数日	20名	9.7%	694名	7.7%
無回答	7名	3.4%	561名	6.2%



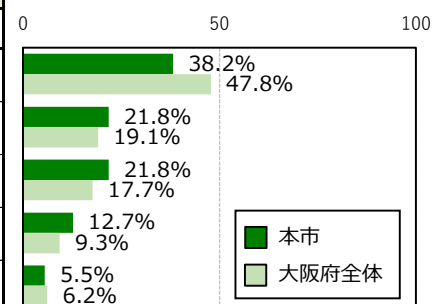
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	148名	100.0%	5,988名	100.0%
ほぼ毎日	80名	54.1%	3,246名	54.2%
週に3日～5日	32名	21.6%	1,125名	18.8%
週に1日または2日	19名	12.8%	832名	13.9%
1か月に数日	13名	8.8%	412名	6.9%
無回答	4名	2.7%	373名	6.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	55名	100.0%	3,045名	100.0%
ほぼ毎日	21名	38.2%	1,455名	47.8%
週に3日～5日	12名	21.8%	582名	19.1%
週に1日または2日	12名	21.8%	538名	17.7%
1か月に数日	7名	12.7%	282名	9.3%
無回答	3名	5.5%	188名	6.2%



あなたのことについて

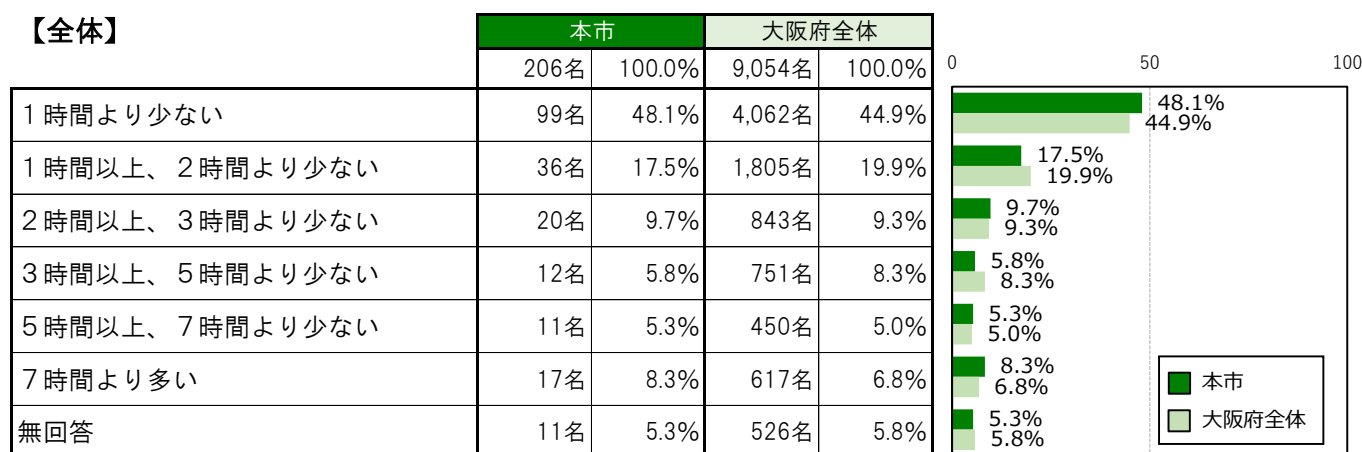
問26（6）学校がある日に世話をする1日の時間

全体は、「1時間より少ない」が48.1%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が17.5%、「2時間以上、3時間より少ない」が9.7%、「7時間より多い」が8.3%となっている。

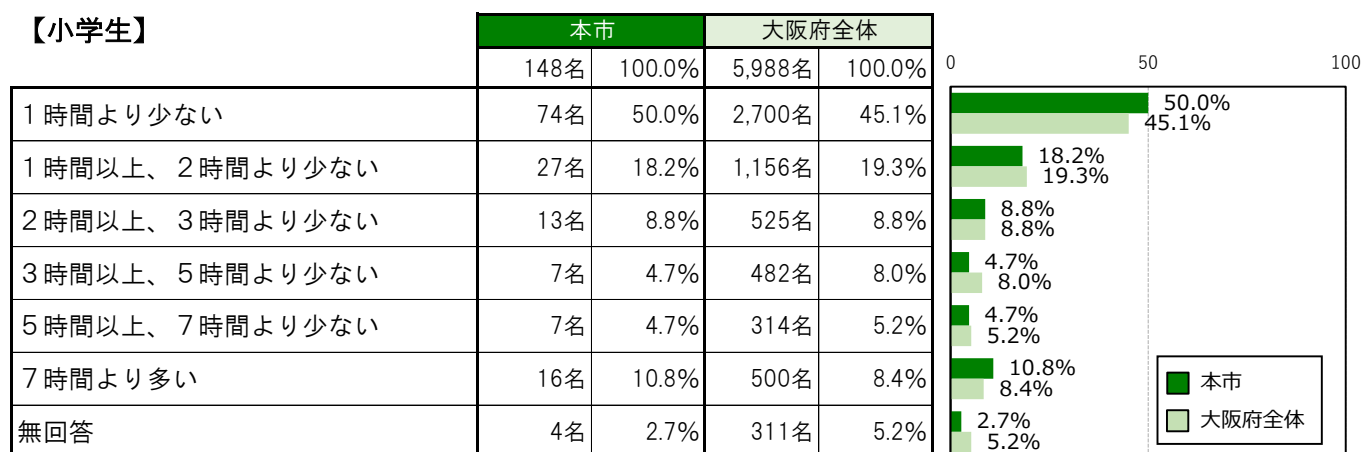
小学生は、「1時間より少ない」が50.0%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が18.2%、「7時間より多い」が10.8%、「2時間以上、3時間より少ない」が8.8%となっている。

中学生は、「1時間より少ない」が43.6%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が14.5%、「2時間以上、3時間より少ない」が12.7%、「3時間以上、5時間より少ない」、「5時間以上、7時間より少ない」がそれぞれ7.3%となっている。

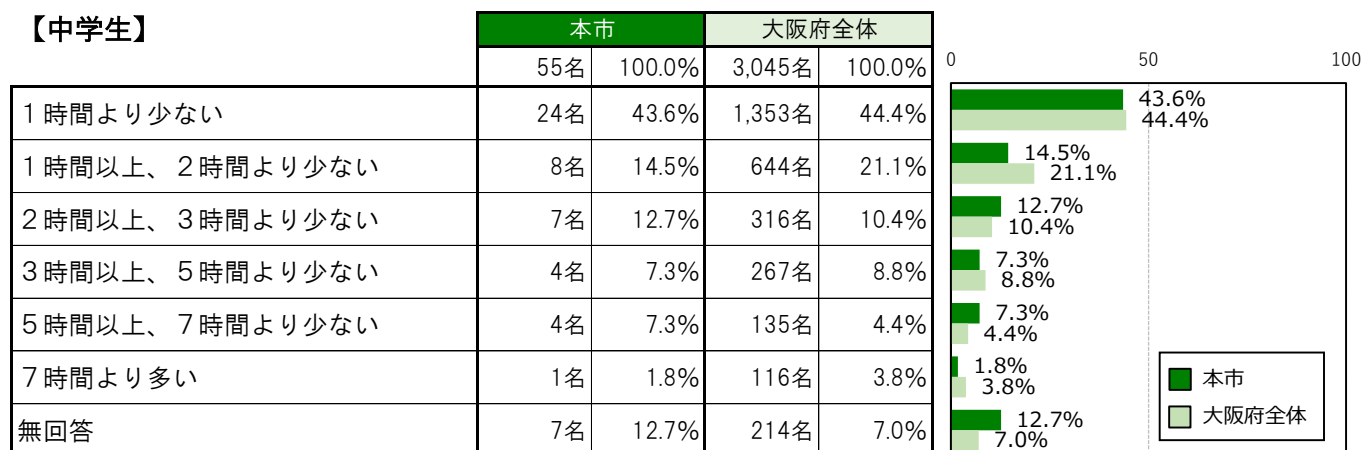
【全体】



【小学生】



【中学生】



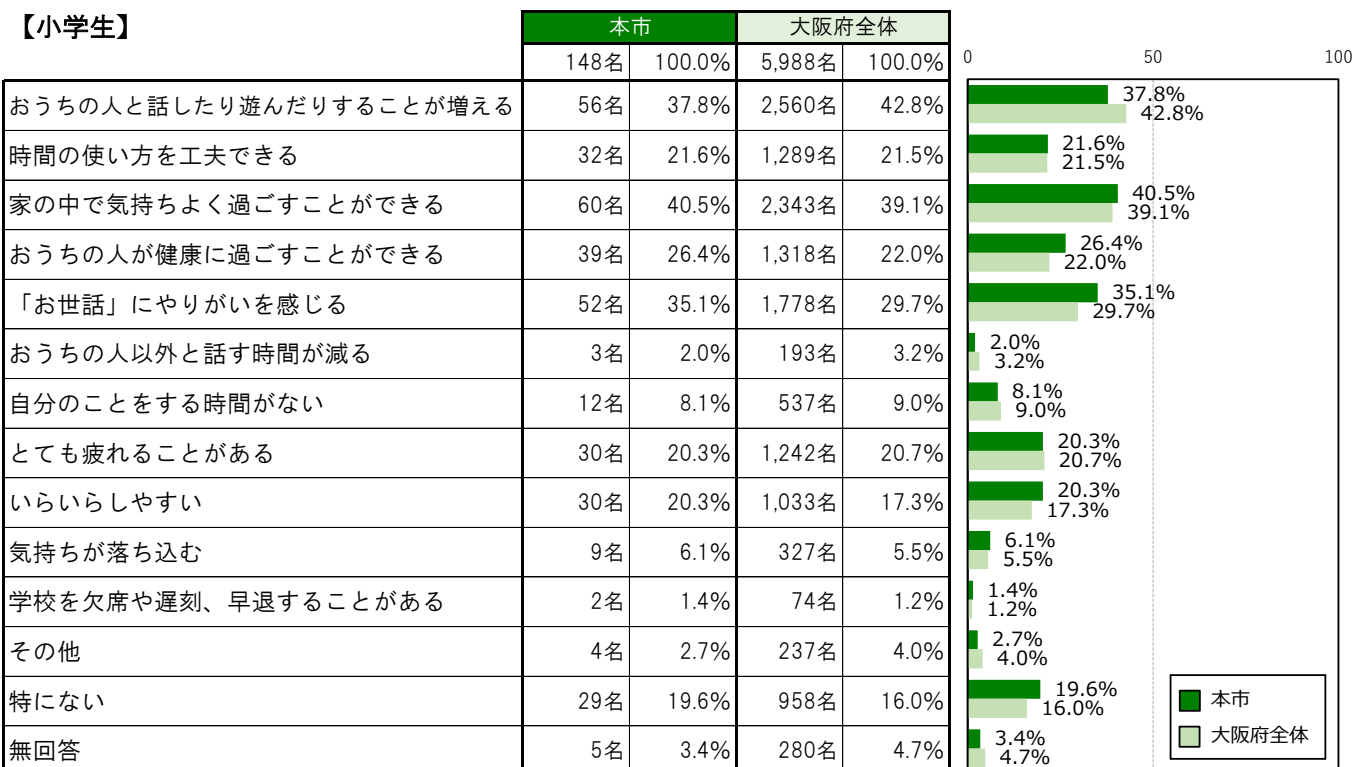
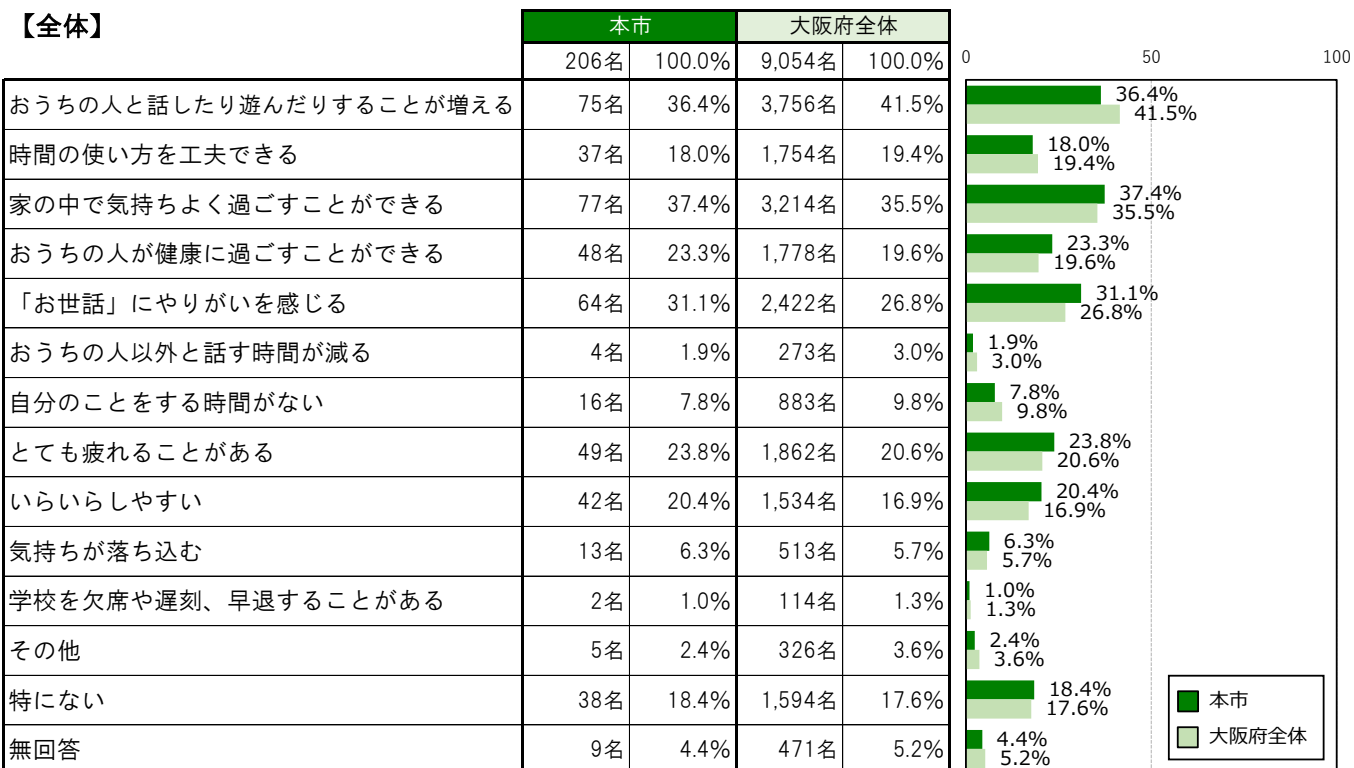
あなたのことについて

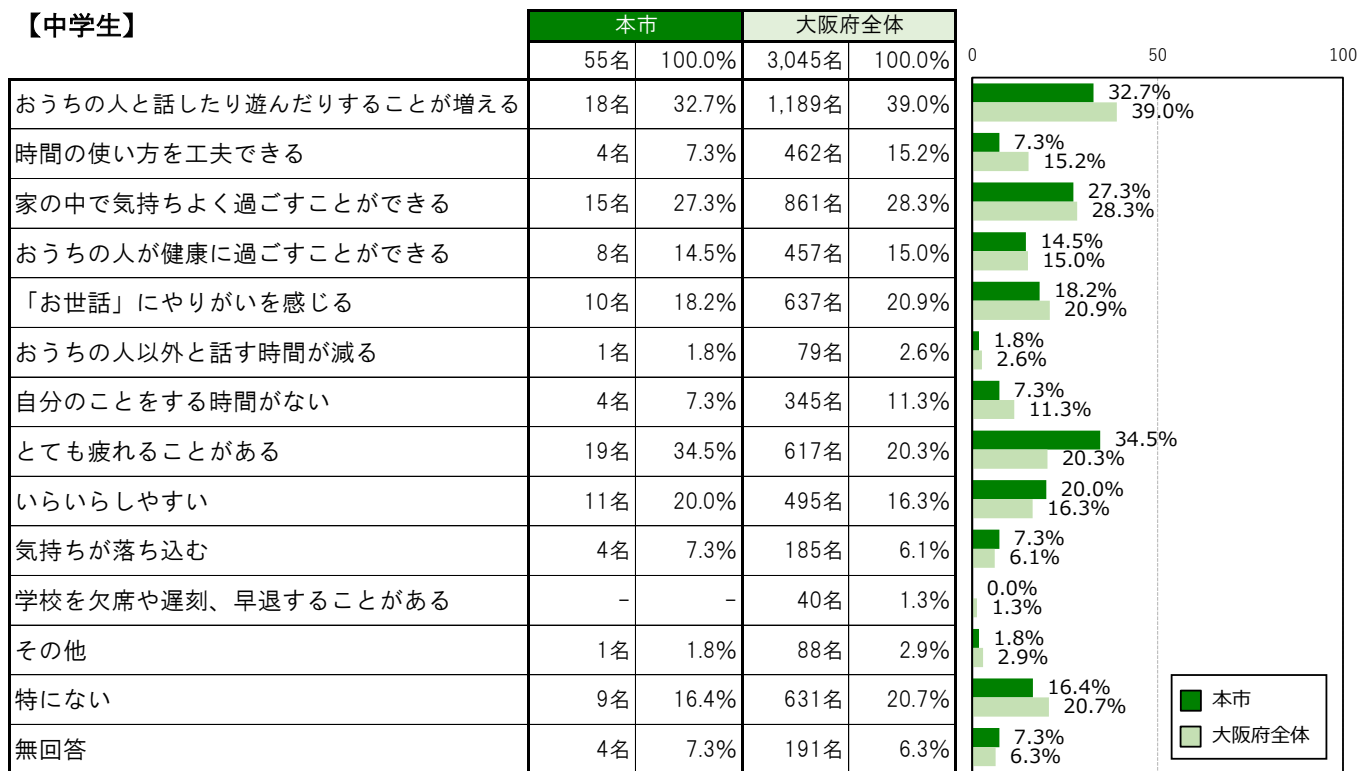
問26（7）世話をしていることの影響

全体は、「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が37.4%で最も多く、次いで「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が36.4%、「「お世話」にやりがいを感じる」が31.1%、「とても疲れることがある」が23.8%となっている。

小学生は、「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が40.5%で最も多く、次いで「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が37.8%、「「お世話」にやりがいを感じる」が35.1%、「おうちの人健康に過ごすことができる」が26.4%となっている。

中学生は、「とても疲れることがある」が34.5%で最も多く、次いで「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が32.7%、「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が27.3%、「いらいらしやすい」が20.0%となっている。





2. 単純集計結果〔保護者〕

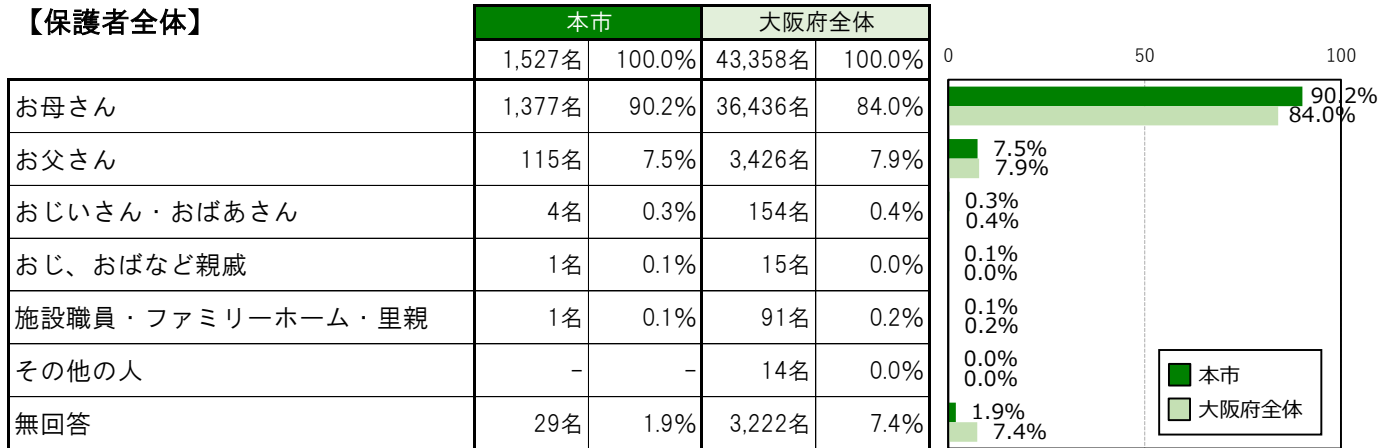
枚方市

子どもとの関係について

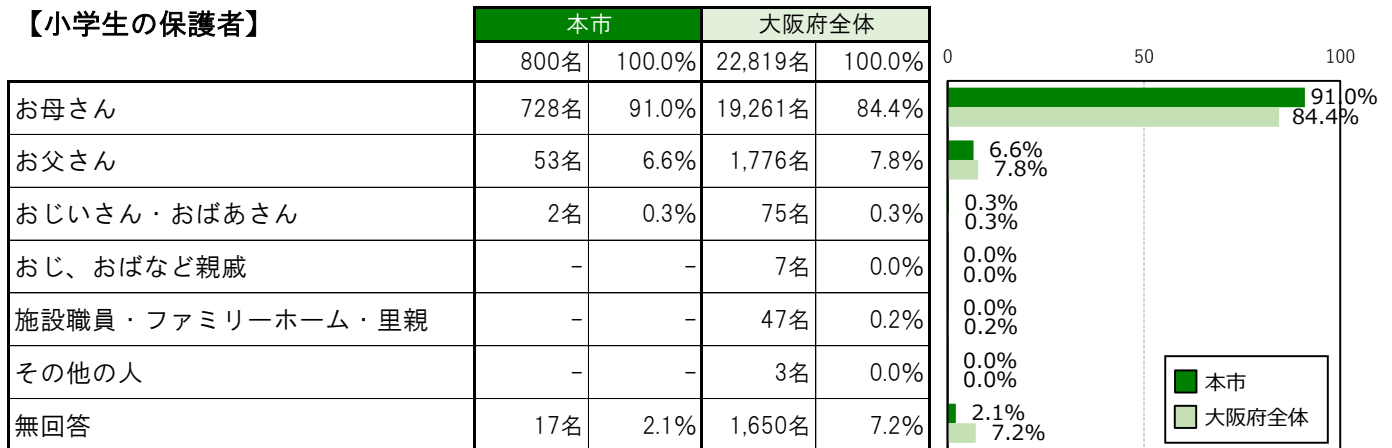
問1 子どもとの続柄

保護者全体は、「お母さん」が90.2%で最も多く、次いで「お父さん」が7.5%となっている。
小学生の保護者は、「お母さん」が91.0%で最も多く、次いで「お父さん」が6.6%となっている。
中学生の保護者は、「お母さん」が89.9%で最も多く、次いで「お父さん」が7.8%となっている。

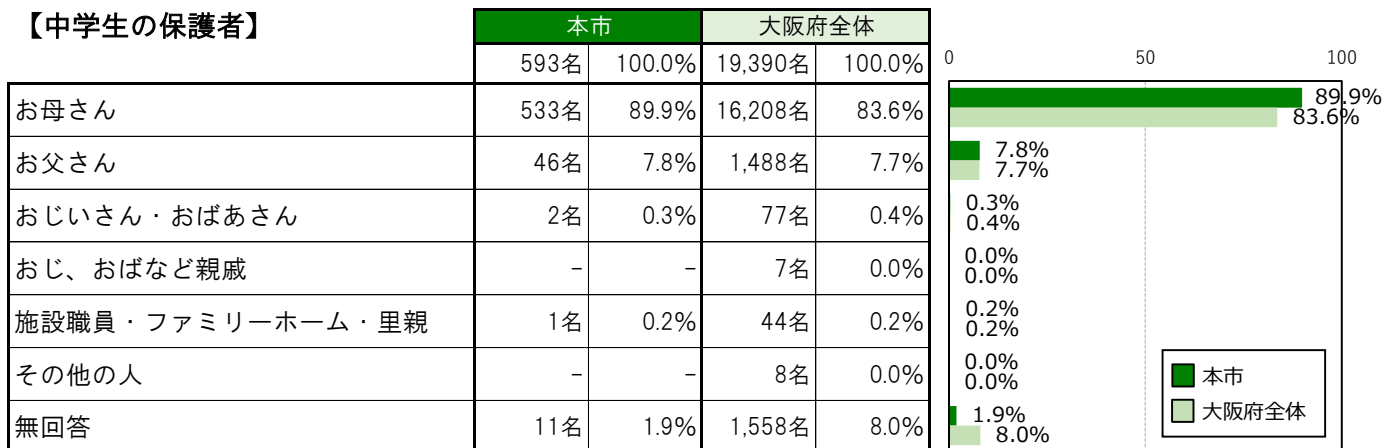
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



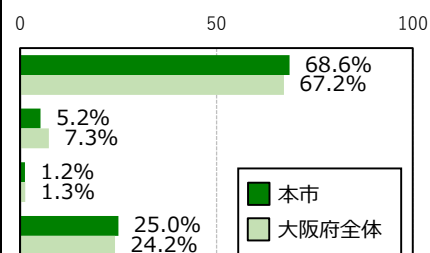
世帯の状況について

問2 世帯構成 ①おばあさん

保護者全体は、「いない」が68.6%で最も多く、次いで「1人」が5.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が69.6%で最も多く、次いで「1人」が6.3%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が70.0%で最も多く、次いで「1人」が4.4%となっている。

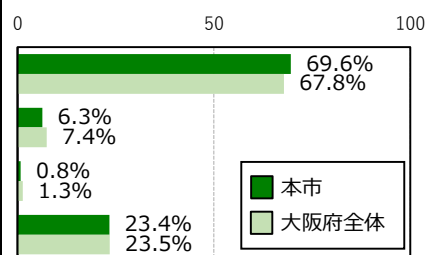
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	1,047名	68.6%	29,081名	67.2%
1人	79名	5.2%	3,181名	7.3%
2人	19名	1.2%	555名	1.3%
無回答	382名	25.0%	10,483名	24.2%



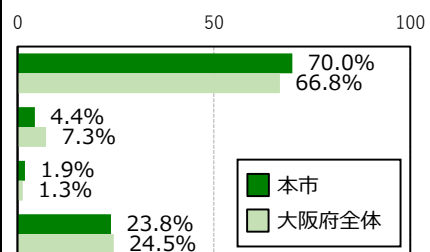
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	557名	69.6%	15,456名	67.8%
1人	50名	6.3%	1,681名	7.4%
2人	6名	0.8%	286名	1.3%
無回答	187名	23.4%	5,363名	23.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	415名	70.0%	12,942名	66.8%
1人	26名	4.4%	1,422名	7.3%
2人	11名	1.9%	257名	1.3%
無回答	141名	23.8%	4,744名	24.5%

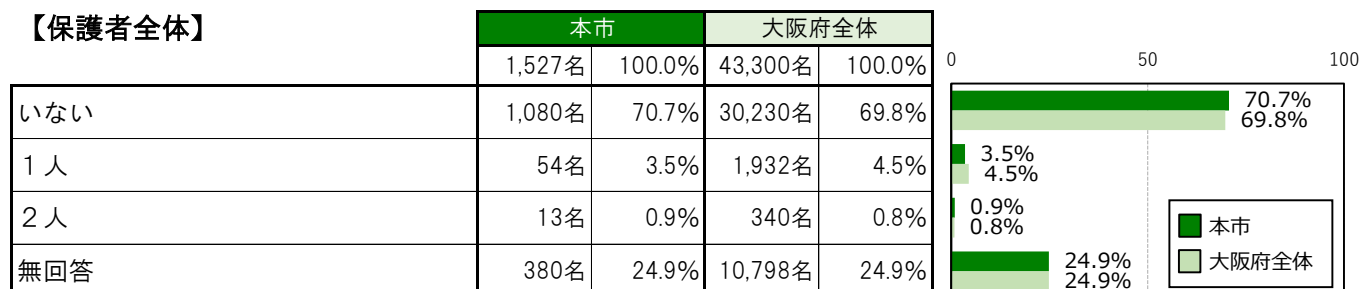


世帯の状況について

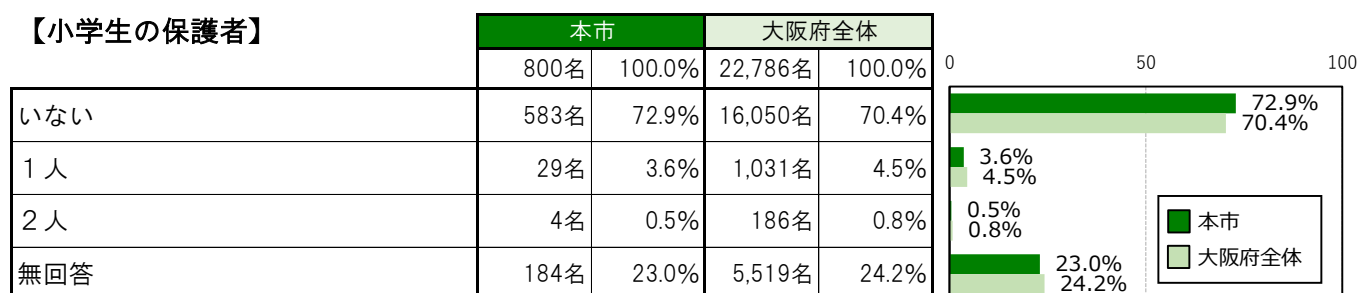
問2 世帯構成 ②おじいさん

保護者全体は、「いない」が70.7%で最も多く、次いで「1人」が3.5%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が72.9%で最も多く、次いで「1人」が3.6%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が71.0%で最も多く、次いで「1人」が4.0%となっている。

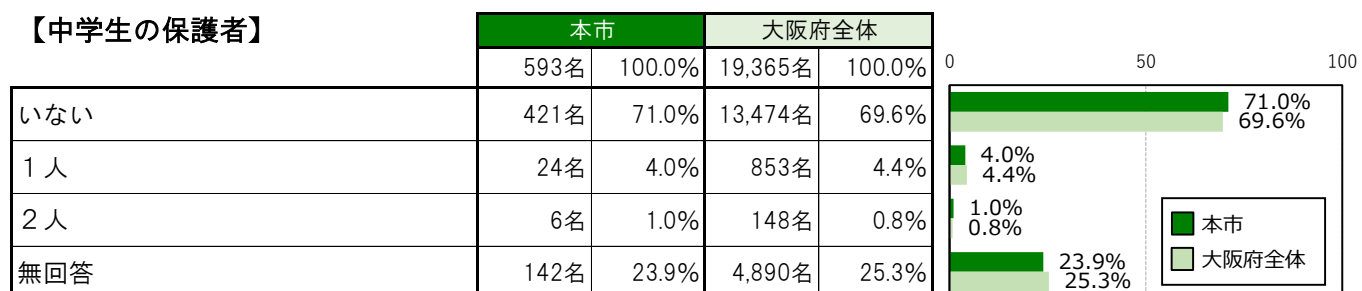
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



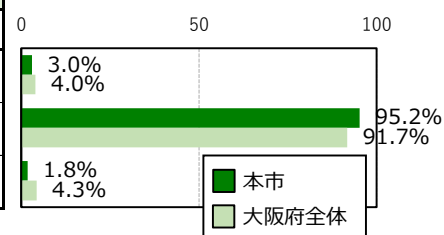
世帯の状況について

問2 世帯構成 ③お母さん

保護者全体は、「いない」が3.0%、「1人」が95.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が3.0%、「1人」が95.3%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が3.7%、「1人」が94.3%となっている。

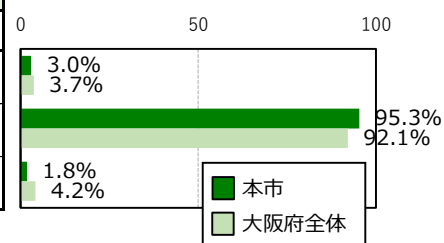
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	46名	3.0%	1,729名	4.0%
1人	1,453名	95.2%	39,706名	91.7%
無回答	28名	1.8%	1,865名	4.3%



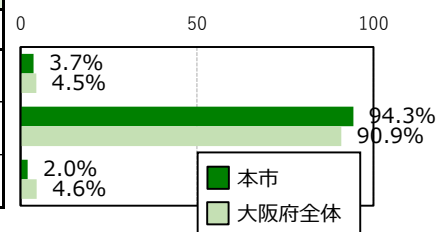
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	24名	3.0%	841名	3.7%
1人	762名	95.3%	20,990名	92.1%
無回答	14名	1.8%	955名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	22名	3.7%	872名	4.5%
1人	559名	94.3%	17,597名	90.9%
無回答	12名	2.0%	896名	4.6%



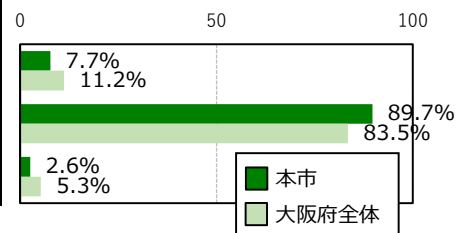
世帯の状況について

問2 世帯構成 ④お父さん

保護者全体は、「いない」が7.7%、「1人」が89.7%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が7.9%、「1人」が90.3%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が7.8%、「1人」が89.4%となっている。

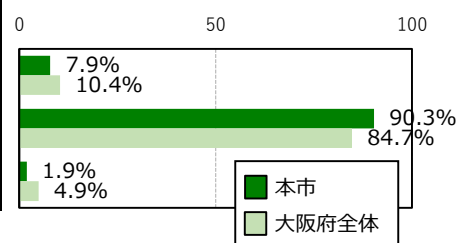
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	117名	7.7%	4,852名	11.2%
1人	1,370名	89.7%	36,166名	83.5%
無回答	40名	2.6%	2,282名	5.3%



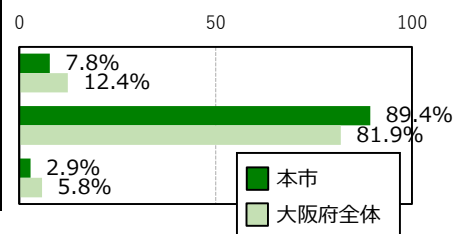
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	63名	7.9%	2,372名	10.4%
1人	722名	90.3%	19,301名	84.7%
無回答	15名	1.9%	1,113名	4.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	46名	7.8%	2,394名	12.4%
1人	530名	89.4%	15,852名	81.9%
無回答	17名	2.9%	1,119名	5.8%



世帯の状況について

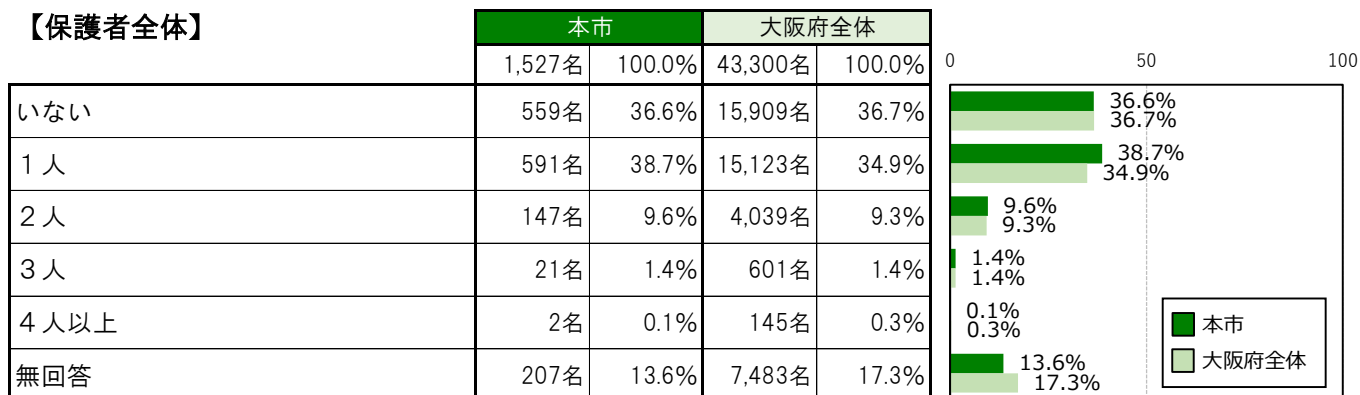
問2 世帯構成 ⑤姉・兄

保護者全体は、「1人」が38.7%で最も多く、次いで「いない」が36.6%、「2人」が9.6%、「3人」が1.4%となっている。

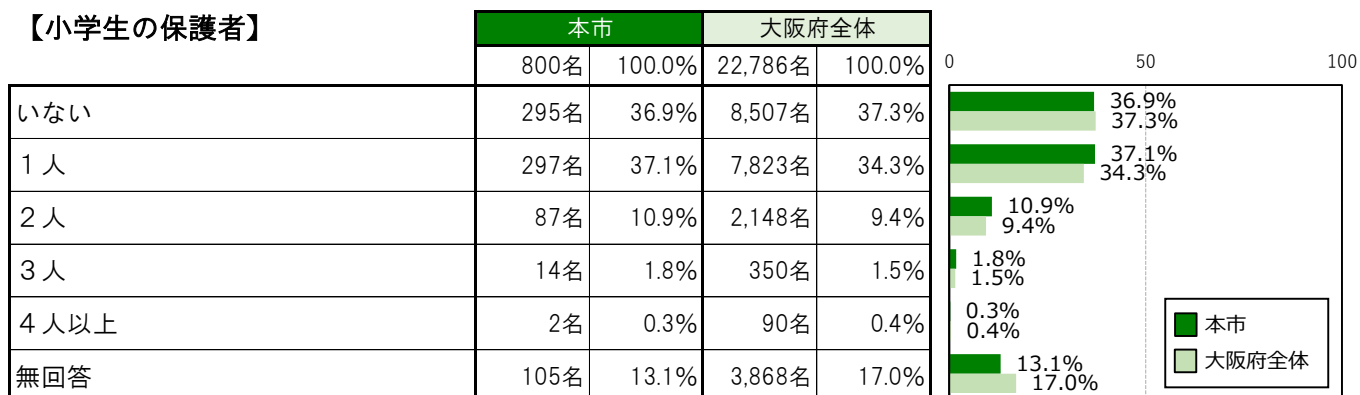
小学生の保護者は、「1人」が37.1%で最も多く、次いで「いない」が36.9%、「2人」が10.9%、「3人」が1.8%となっている。

中学生の保護者は、「1人」が39.5%で最も多く、次いで「いない」が37.1%、「2人」が8.8%となっている。

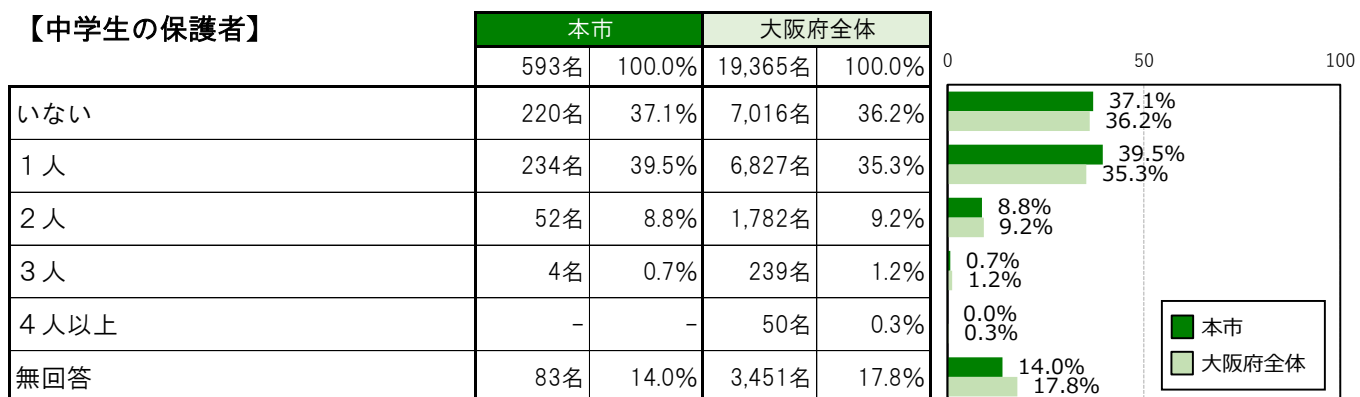
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

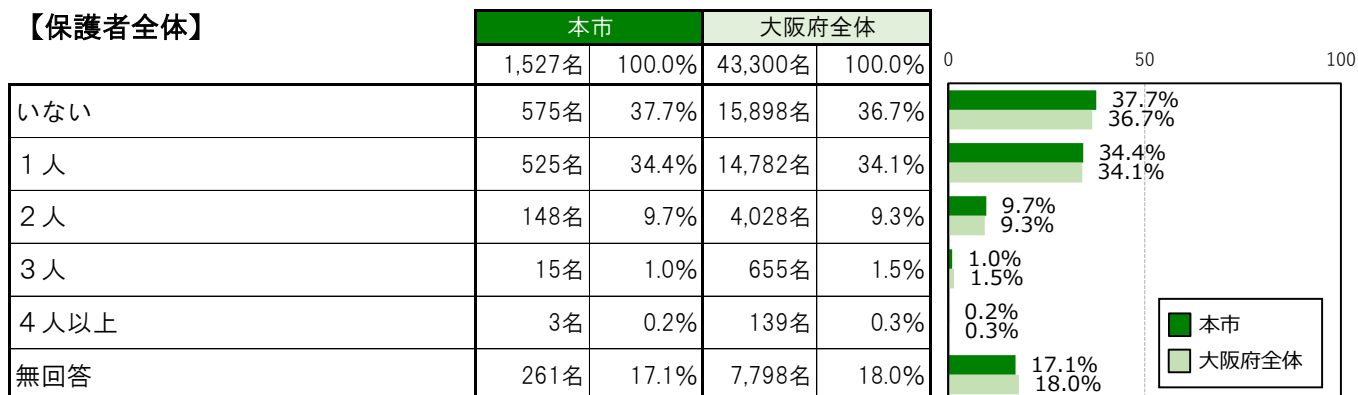
問2 世帯構成 ⑥妹・弟

保護者全体は、「いない」が37.7%で最も多く、次いで「1人」が34.4%、「2人」が9.7%、「3人」が1.0%となっている。

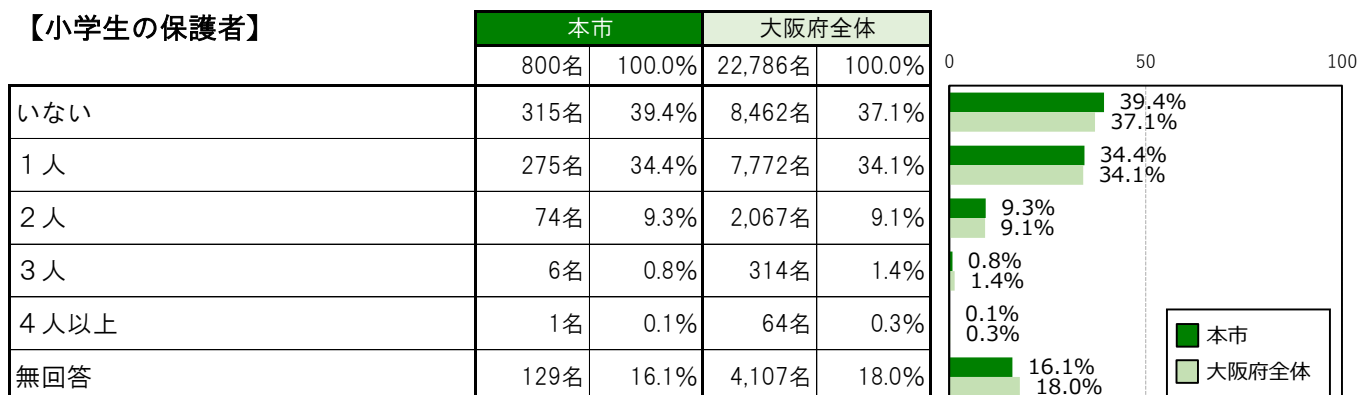
小学生の保護者は、「いない」が39.4%で最も多く、次いで「1人」が34.4%、「2人」が9.3%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が38.6%で最も多く、次いで「1人」が33.6%、「2人」が9.9%、「3人」が1.3%となっている。

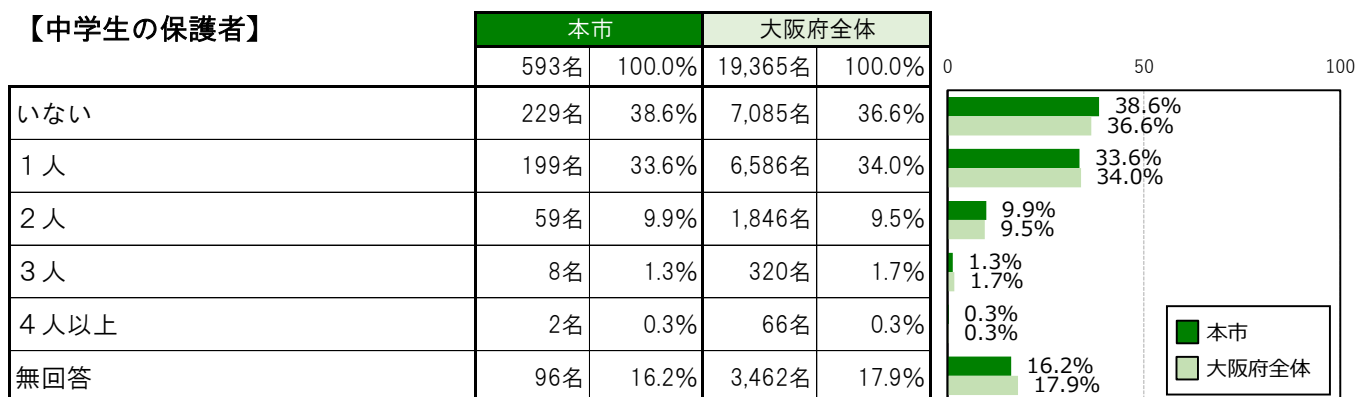
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



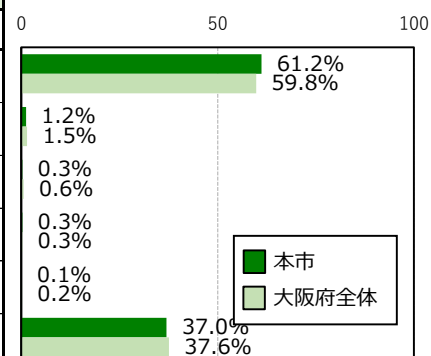
世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑦その他

保護者全体は、「いない」が61.2%で最も多く、次いで「1人」が1.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が61.3%で最も多く、次いで「1人」が1.3%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が64.8%で最も多く、次いで「1人」が1.3%となっている。

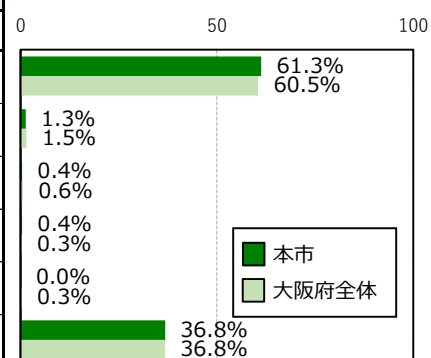
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	934名	61.2%	25,890名	59.8%
1人	18名	1.2%	628名	1.5%
2人	5名	0.3%	261名	0.6%
3人	4名	0.3%	133名	0.3%
4人以上	1名	0.1%	98名	0.2%
無回答	565名	37.0%	16,290名	37.6%



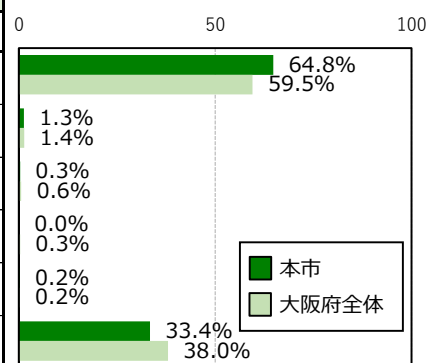
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	490名	61.3%	13,780名	60.5%
1人	10名	1.3%	347名	1.5%
2人	3名	0.4%	139名	0.6%
3人	3名	0.4%	73名	0.3%
4人以上	-	-	59名	0.3%
無回答	294名	36.8%	8,388名	36.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	384名	64.8%	11,529名	59.5%
1人	8名	1.3%	275名	1.4%
2人	2名	0.3%	119名	0.6%
3人	-	-	55名	0.3%
4人以上	1名	0.2%	36名	0.2%
無回答	198名	33.4%	7,351名	38.0%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ＜世帯員の続柄＞

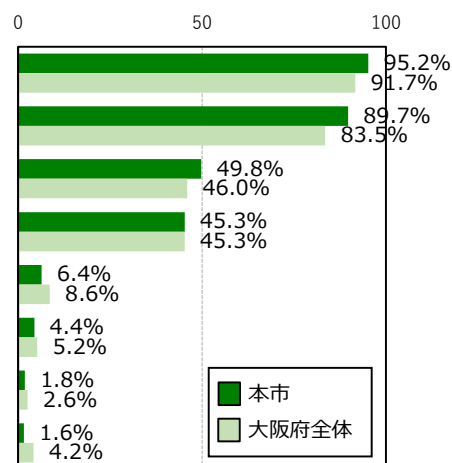
保護者全体は、「お母さん」が95.2%で最も多く、次いで「お父さん」が89.7%、「姉・兄」が49.8%、「妹・弟」が45.3%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が95.3%で最も多く、次いで「お父さん」が90.3%、「姉・兄」が50.0%、「妹・弟」が44.5%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が94.3%で最も多く、次いで「お父さん」が89.4%、「姉・兄」が48.9%、「妹・弟」が45.2%となっている。

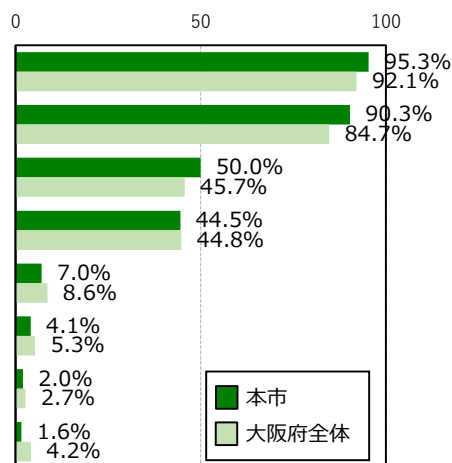
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
お父さん	1,370名	89.7%	36,166名	83.5%
姉・兄	761名	49.8%	19,908名	46.0%
妹・弟	691名	45.3%	19,604名	45.3%
おばあさん	98名	6.4%	3,736名	8.6%
おじいさん	67名	4.4%	2,272名	5.2%
その他	28名	1.8%	1,120名	2.6%
無回答	25名	1.6%	1,839名	4.2%



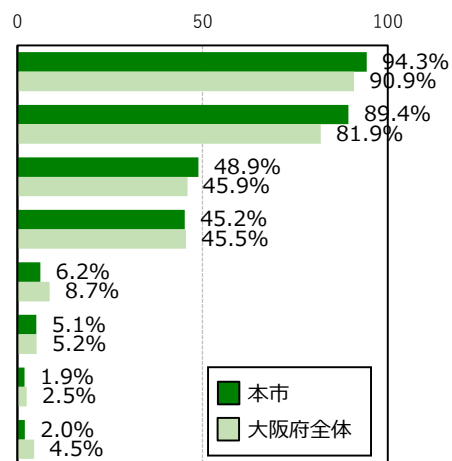
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	800名	100.0%	22,786名	100.0%
お父さん	722名	90.3%	19,301名	84.7%
姉・兄	400名	50.0%	10,411名	45.7%
妹・弟	356名	44.5%	10,217名	44.8%
おばあさん	56名	7.0%	1,967名	8.6%
おじいさん	33名	4.1%	1,217名	5.3%
その他	16名	2.0%	618名	2.7%
無回答	13名	1.6%	953名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	593名	100.0%	19,365名	100.0%
お父さん	530名	89.4%	15,852名	81.9%
姉・兄	290名	48.9%	8,898名	45.9%
妹・弟	268名	45.2%	8,818名	45.5%
おばあさん	37名	6.2%	1,679名	8.7%
おじいさん	30名	5.1%	1,001名	5.2%
その他	11名	1.9%	485名	2.5%
無回答	12名	2.0%	876名	4.5%



世帯の状況について

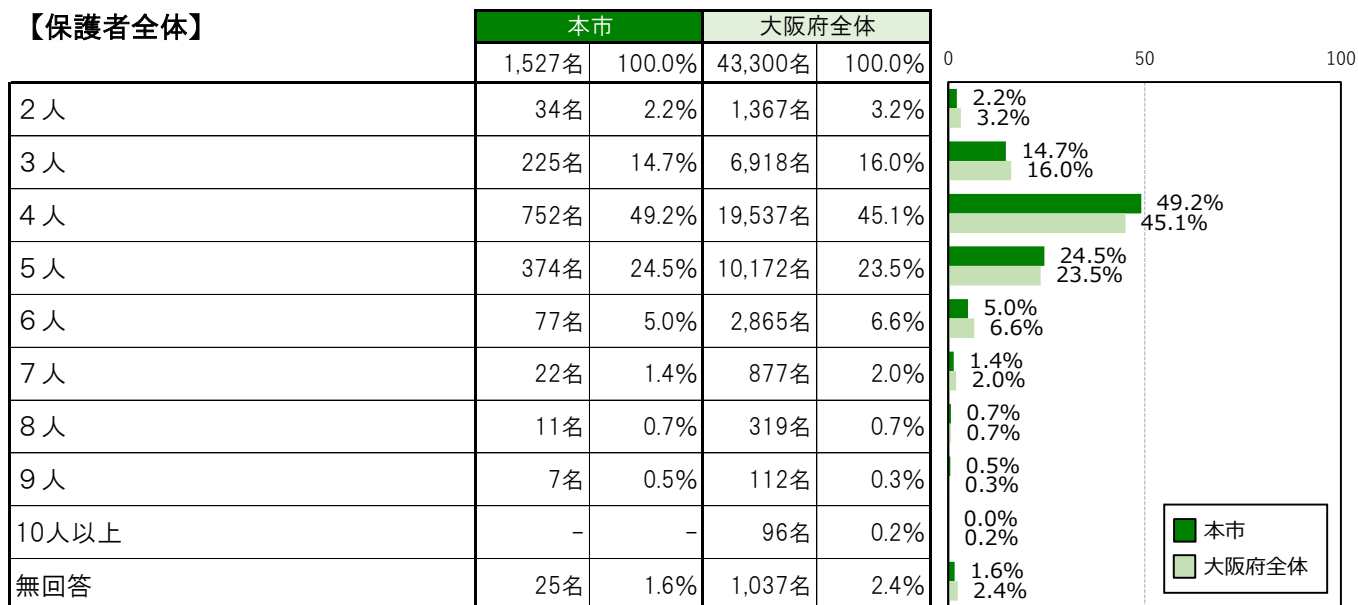
問2 世帯構成 ⑧世帯人数

保護者全体は、「4人」が49.2%で最も多く、次いで「5人」が24.5%、「3人」が14.7%、「6人」が5.0%となっている。

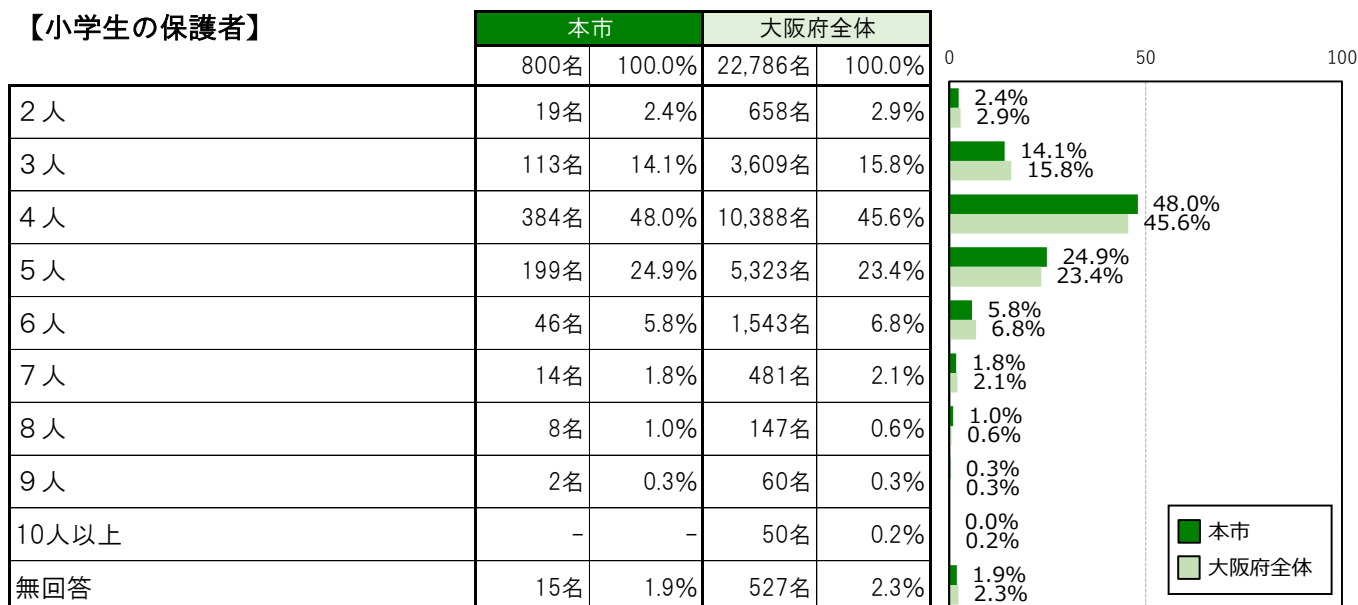
小学生の保護者は、「4人」が48.0%で最も多く、次いで「5人」が24.9%、「3人」が14.1%、「6人」が5.8%となっている。

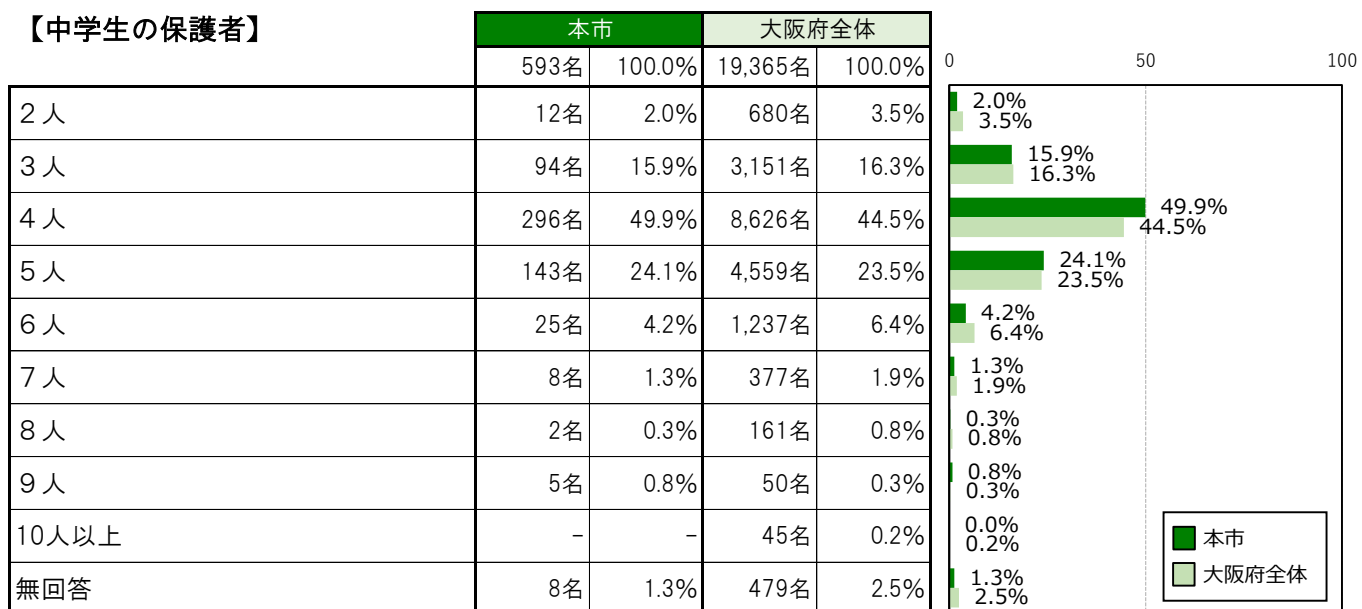
中学生の保護者は、「4人」が49.9%で最も多く、次いで「5人」が24.1%、「3人」が15.9%、「6人」が4.2%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】





世帯の状況について

問3 親の婚姻状況

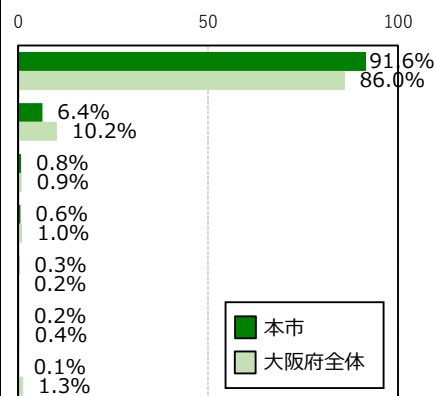
保護者全体は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が91.6%で最も多く、次いで「離婚」が6.4%となっている。

小学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が92.6%で最も多く、次いで「離婚」が5.9%となっている。

中学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が90.7%で最も多く、次いで「離婚」が6.7%、「死別」が1.5%となっている。

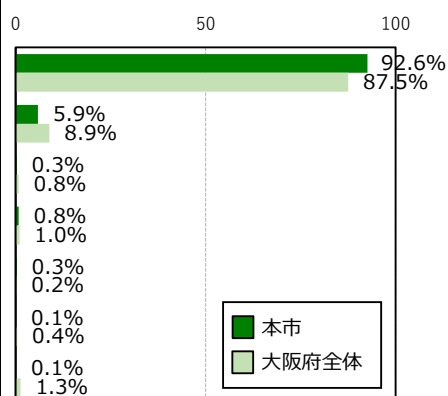
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	1,399名	91.6%	37,253名	86.0%
離婚	98名	6.4%	4,407名	10.2%
死別	12名	0.8%	400名	0.9%
未婚	9名	0.6%	412名	1.0%
わからない	4名	0.3%	77名	0.2%
いない	3名	0.2%	177名	0.4%
無回答	2名	0.1%	574名	1.3%



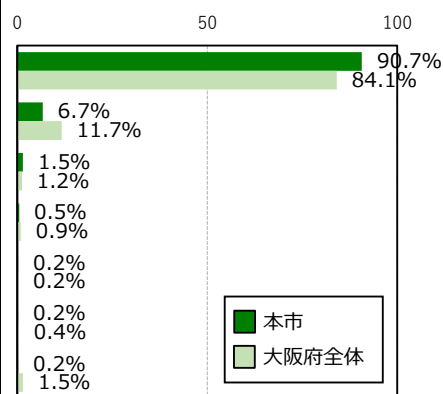
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	741名	92.6%	19,949名	87.5%
離婚	47名	5.9%	2,030名	8.9%
死別	2名	0.3%	172名	0.8%
未婚	6名	0.8%	224名	1.0%
わからない	2名	0.3%	39名	0.2%
いない	1名	0.1%	84名	0.4%
無回答	1名	0.1%	288名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	538名	90.7%	16,290名	84.1%
離婚	40名	6.7%	2,273名	11.7%
死別	9名	1.5%	223名	1.2%
未婚	3名	0.5%	181名	0.9%
わからない	1名	0.2%	34名	0.2%
いない	1名	0.2%	82名	0.4%
無回答	1名	0.2%	282名	1.5%



世帯の状況について

問4 離婚相手との養育費の取り決めや受け取り

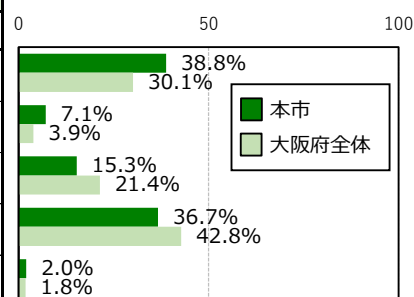
保護者全体は、「取り決めをしており、受け取っている」が38.8%で最も多く、次いで「取り決めをしておらず、受け取っていない」が36.7%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が15.3%となっている。

小学生の保護者は、「取り決めをしており、受け取っている」が40.4%で最も多く、次いで「取り決めをしておらず、受け取っていない」が38.3%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が10.6%となっている。

中学生の保護者は、「取り決めをしており、受け取っている」が37.5%で最も多く、次いで「取り決めをしておらず、受け取っていない」が30.0%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が22.5%となっている。

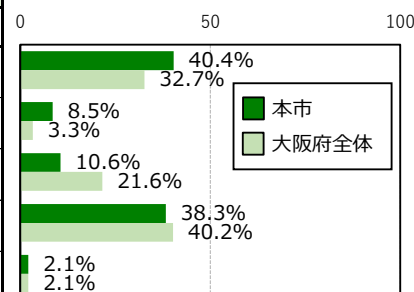
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	98名	100.0%	4,407名	100.0%
取り決めをしており、受け取っている	38名	38.8%	1,325名	30.1%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	7名	7.1%	174名	3.9%
取り決めをしているが、受け取っていない	15名	15.3%	941名	21.4%
取り決めをしておらず、受け取っていない	36名	36.7%	1,888名	42.8%
無回答	2名	2.0%	79名	1.8%



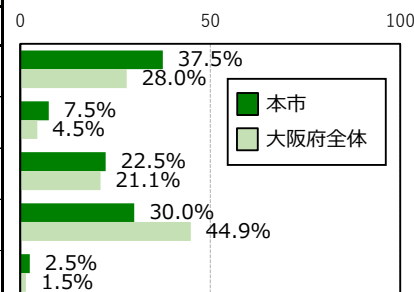
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	47名	100.0%	2,030名	100.0%
取り決めをしており、受け取っている	19名	40.4%	664名	32.7%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	4名	8.5%	68名	3.3%
取り決めをしているが、受け取っていない	5名	10.6%	438名	21.6%
取り決めをしておらず、受け取っていない	18名	38.3%	817名	40.2%
無回答	1名	2.1%	43名	2.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	40名	100.0%	2,273名	100.0%
取り決めをしており、受け取っている	15名	37.5%	636名	28.0%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	3名	7.5%	103名	4.5%
取り決めをしているが、受け取っていない	9名	22.5%	479名	21.1%
取り決めをしておらず、受け取っていない	12名	30.0%	1,020名	44.9%
無回答	1名	2.5%	35名	1.5%



世帯の状況について

問5 住居形態

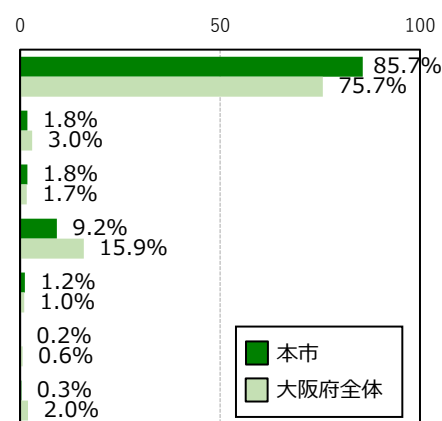
保護者全体は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が85.7%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が9.2%、「府営・市営の住宅」、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」がそれぞれ1.8%となっている。

小学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が85.3%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が9.4%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が1.8%、「府営・市営の住宅」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が85.3%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が9.3%、「府営・市営の住宅」が2.4%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が1.9%となっている。

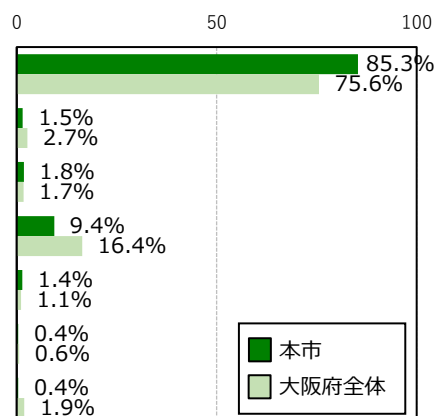
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	1,308名	85.7%	32,784名	75.7%
府営・市営の住宅	27名	1.8%	1,316名	3.0%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	27名	1.8%	752名	1.7%
民間の賃貸住宅	140名	9.2%	6,890名	15.9%
官舎・社宅	18名	1.2%	438名	1.0%
その他	3名	0.2%	257名	0.6%
無回答	4名	0.3%	863名	2.0%



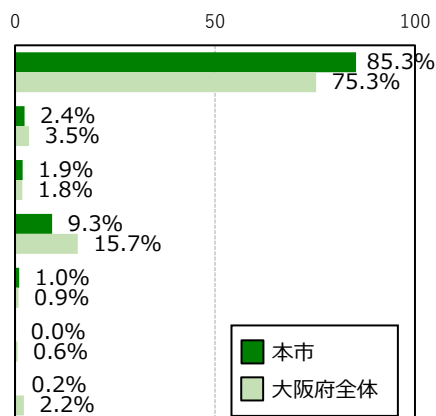
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	682名	85.3%	17,221名	75.6%
府営・市営の住宅	12名	1.5%	620名	2.7%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	14名	1.8%	386名	1.7%
民間の賃貸住宅	75名	9.4%	3,738名	16.4%
官舎・社宅	11名	1.4%	255名	1.1%
その他	3名	0.4%	129名	0.6%
無回答	3名	0.4%	437名	1.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	506名	85.3%	14,585名	75.3%
府営・市営の住宅	14名	2.4%	676名	3.5%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	11名	1.9%	356名	1.8%
民間の賃貸住宅	55名	9.3%	3,036名	15.7%
官舎・社宅	6名	1.0%	171名	0.9%
その他	-	-	121名	0.6%
無回答	1名	0.2%	420名	2.2%



世帯の状況について

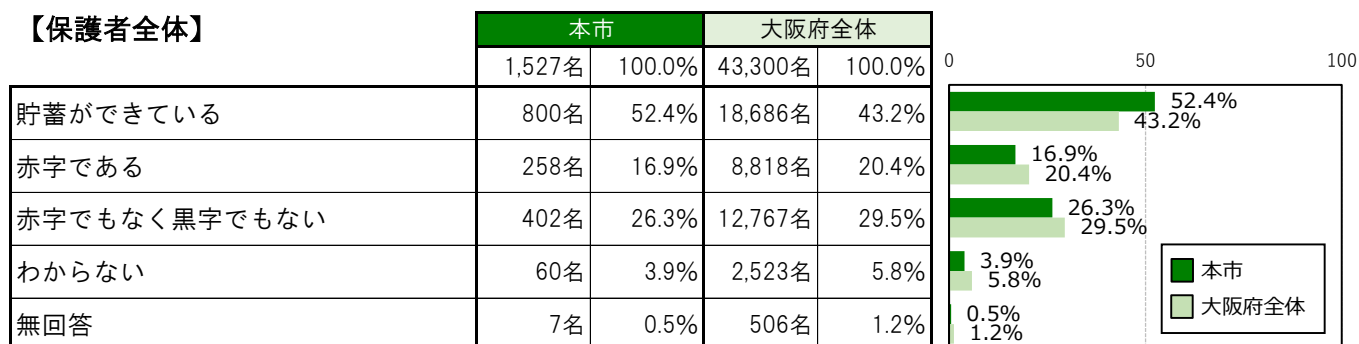
問6（1）家計の状況

保護者全体は、「貯蓄ができています」が52.4%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が26.3%、「赤字である」が16.9%となっている。

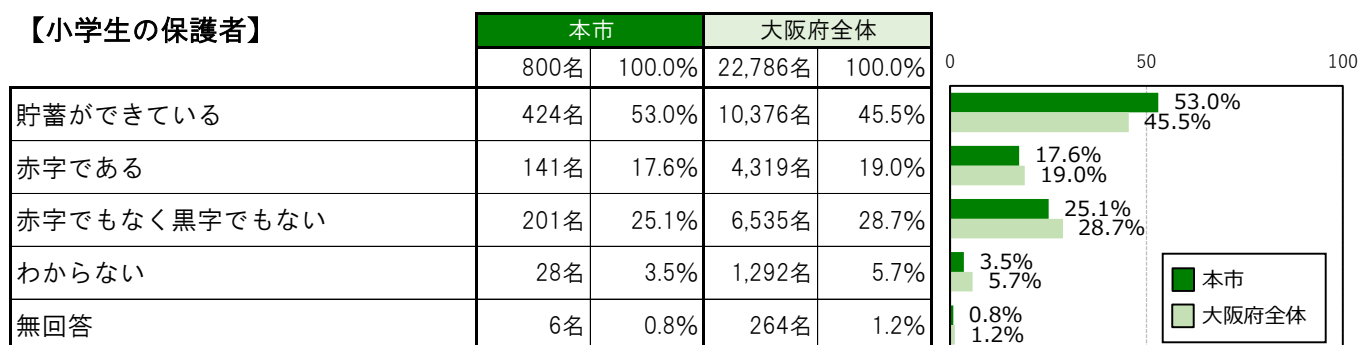
小学生の保護者は、「貯蓄ができています」が53.0%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が25.1%、「赤字である」が17.6%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄ができています」が52.1%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が27.5%、「赤字である」が16.4%となっている。

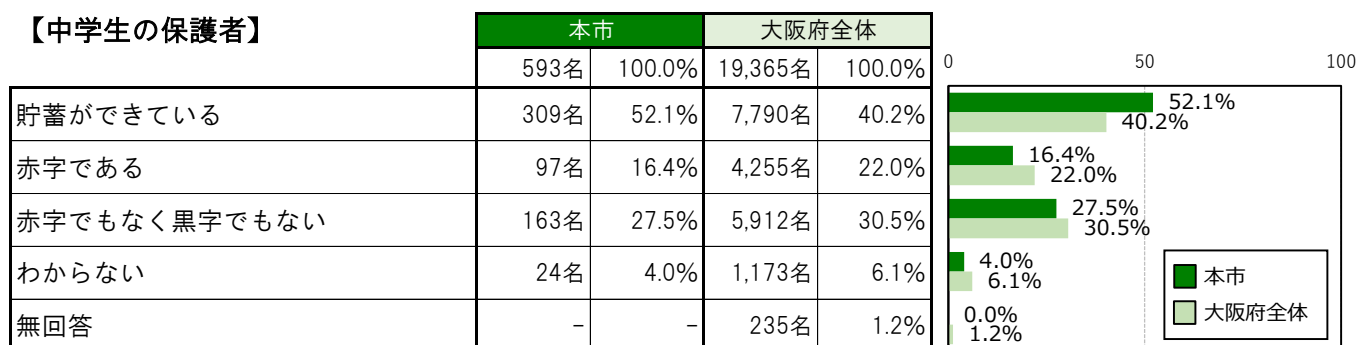
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問6（2）子どもの将来のための貯蓄状況

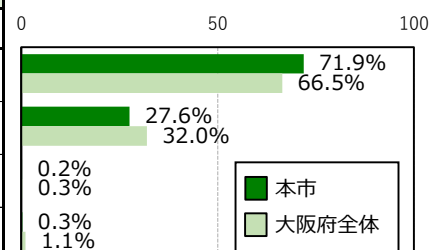
保護者全体は、「貯蓄をしている」が71.9%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が27.6%、「貯蓄をするつもりはない」が0.2%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄をしている」が72.3%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が27.0%、「貯蓄をするつもりはない」が0.3%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄をしている」が71.0%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が28.8%、「貯蓄をするつもりはない」が0.2%となっている。

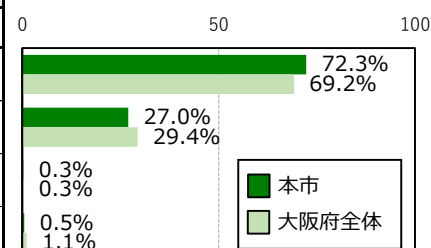
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	1,098名	71.9%	28,802名	66.5%
貯蓄をしたいが、できていない	421名	27.6%	13,877名	32.0%
貯蓄をするつもりはない	3名	0.2%	138名	0.3%
無回答	5名	0.3%	483名	1.1%



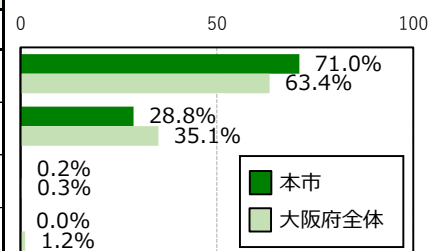
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	578名	72.3%	15,765名	69.2%
貯蓄をしたいが、できていない	216名	27.0%	6,698名	29.4%
貯蓄をするつもりはない	2名	0.3%	74名	0.3%
無回答	4名	0.5%	249名	1.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	421名	71.0%	12,277名	63.4%
貯蓄をしたいが、できていない	171名	28.8%	6,798名	35.1%
貯蓄をするつもりはない	1名	0.2%	63名	0.3%
無回答	-	-	227名	1.2%



世帯の状況について

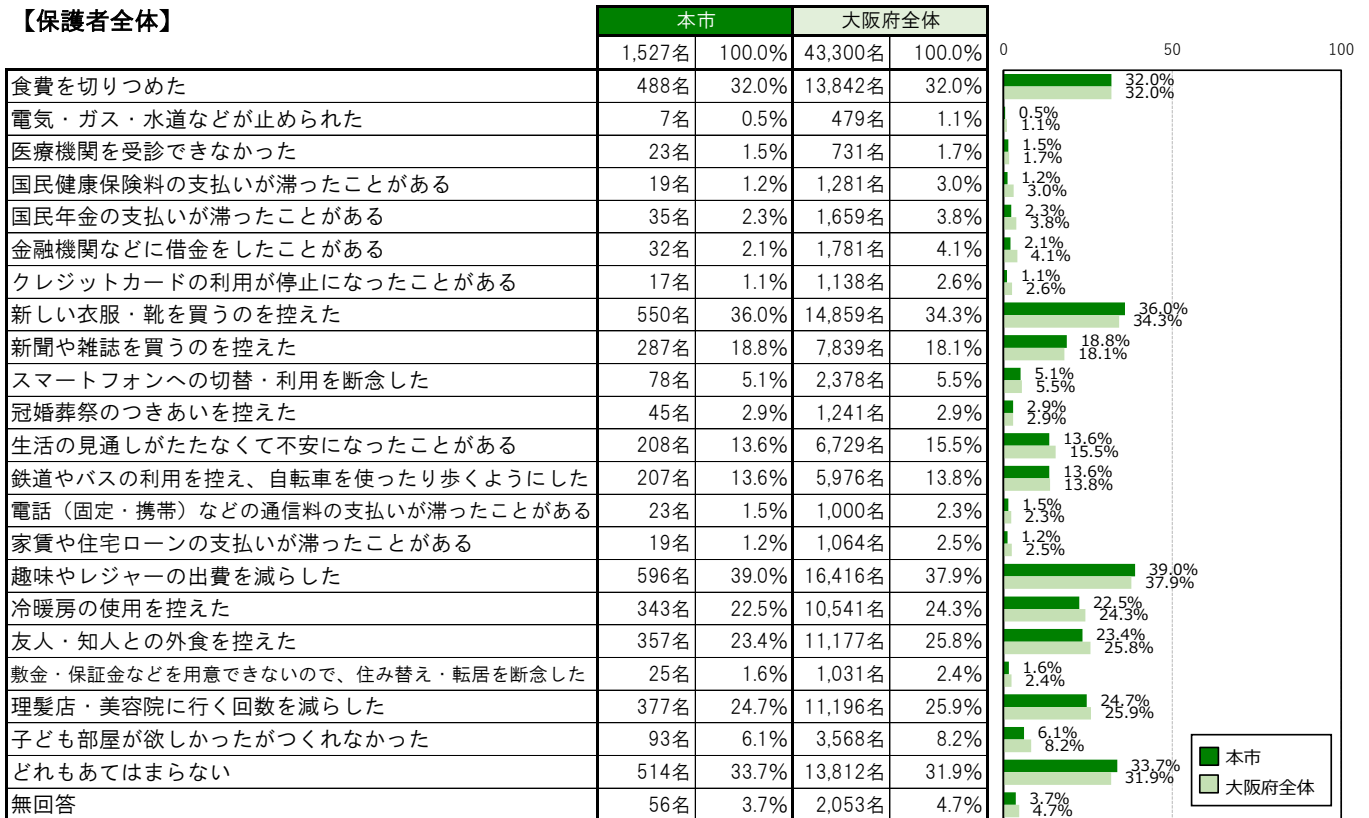
問7 経済的な理由による経験

保護者全体は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が39.0%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が36.0%、「どれもあてはまらない」が33.7%、「食費を切りつめた」が32.0%となっている。

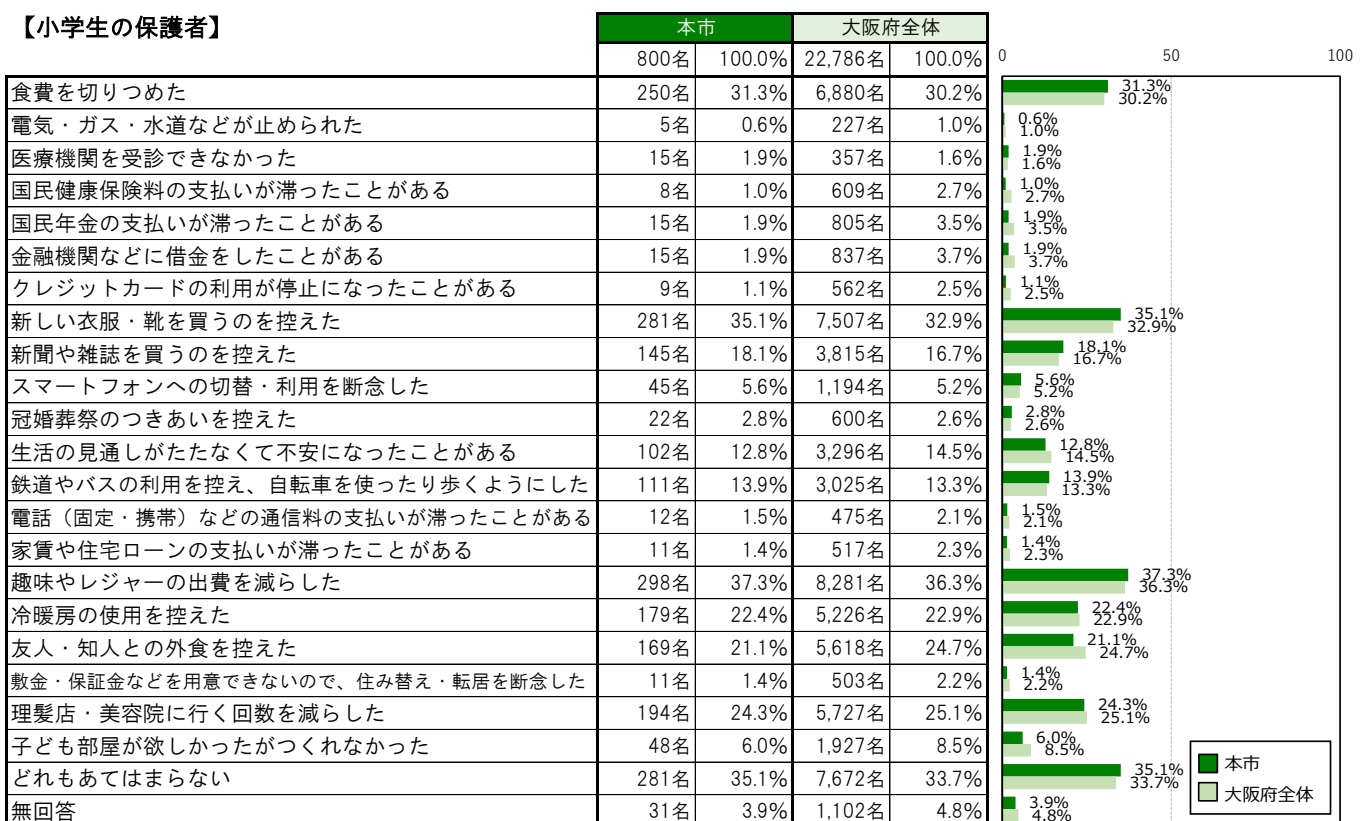
小学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が37.3%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」、「どれもあてはまらない」がそれぞれ35.1%、「食費を切りつめた」が31.3%となっている。

中学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が41.5%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が36.4%、「どれもあてはまらない」が32.9%、「食費を切りつめた」が32.7%となっている。

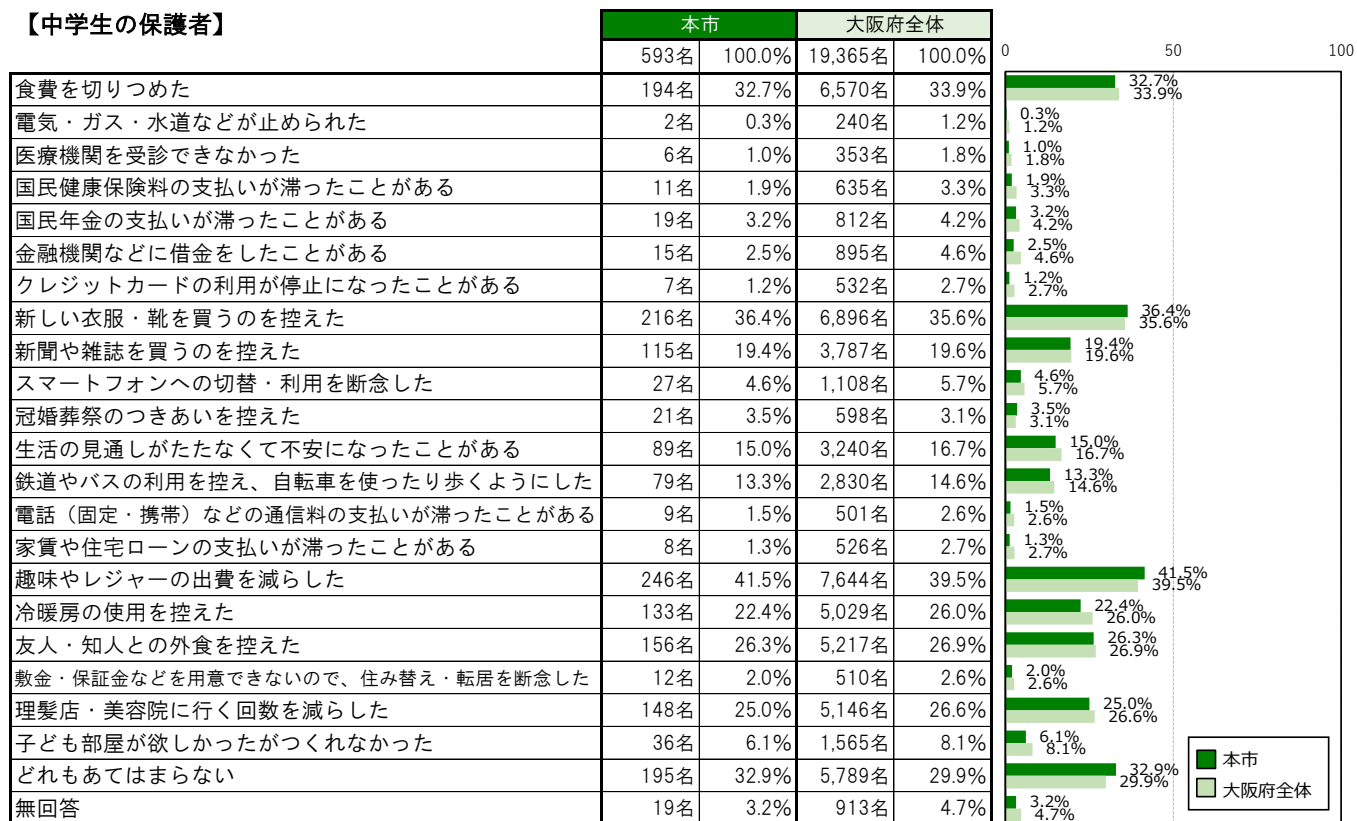
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



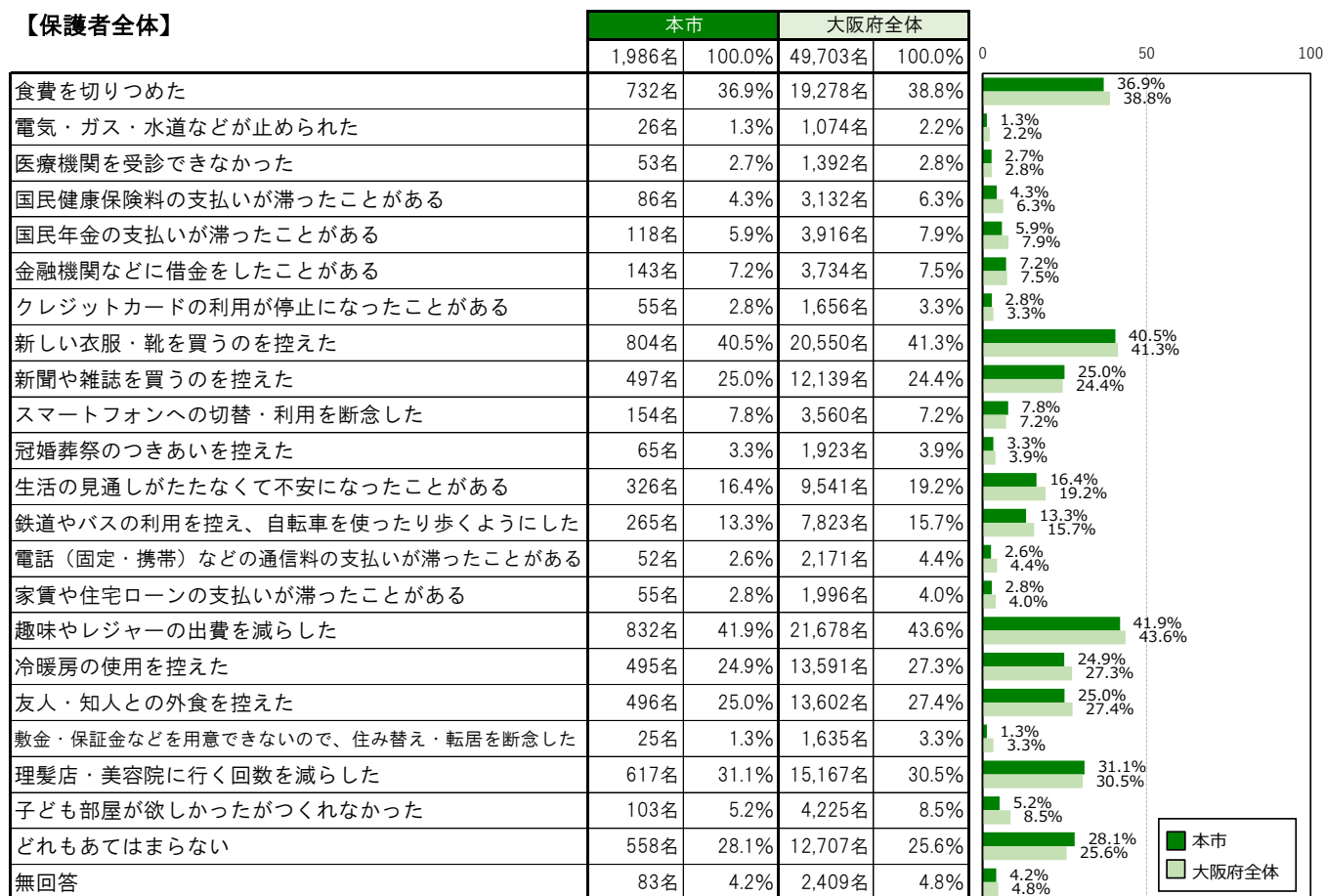
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「どれもあてはまらない」が5.6ポイント高いが、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が6.4ポイント、「新聞や雑誌を買うのを控えた」が6.2ポイント、それぞれ低くなっている。

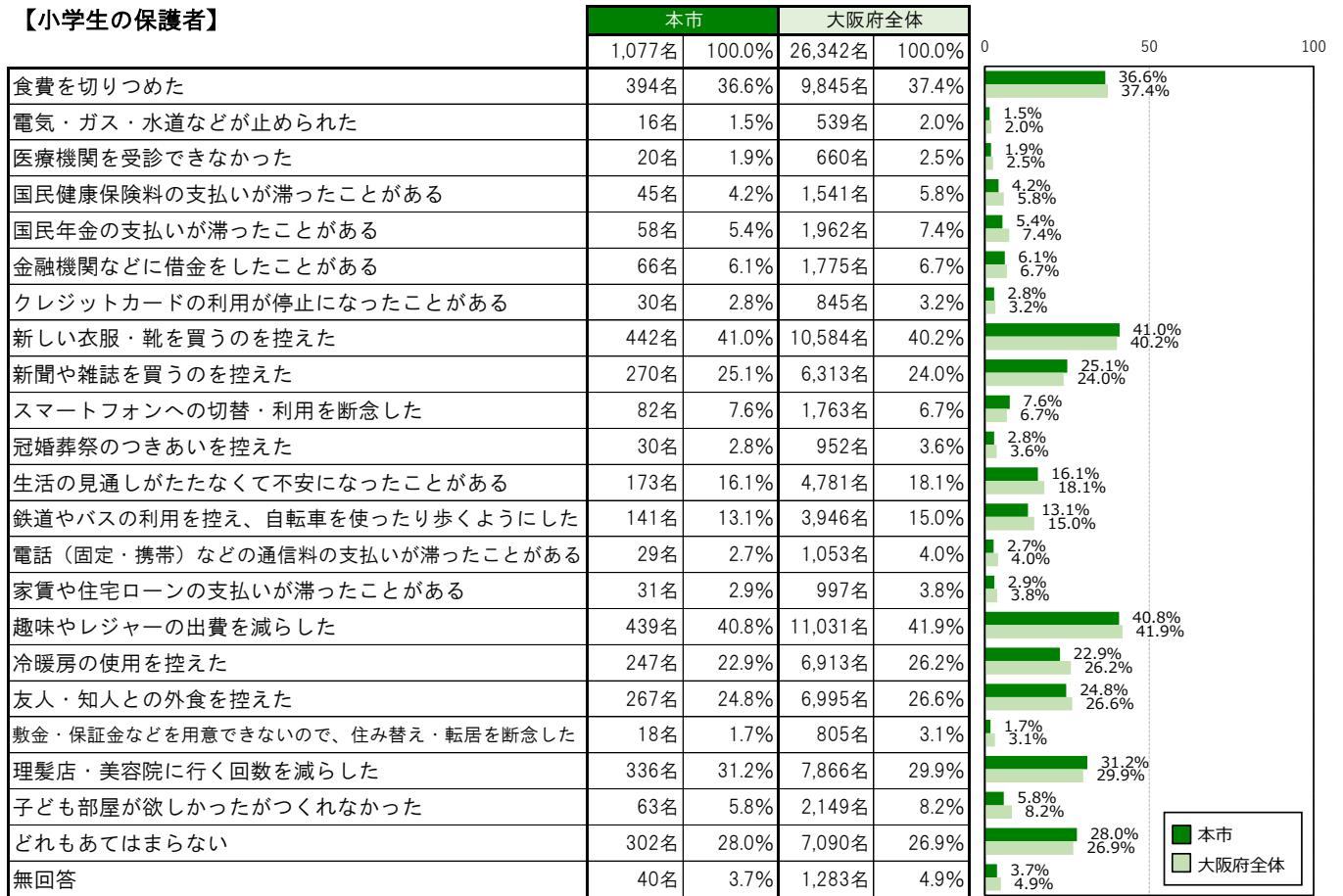
小学生の保護者は、「どれもあてはまらない」が7.1ポイント高いが、「新聞や雑誌を買うのを控えた」が7.0ポイント、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が6.9ポイント、それぞれ低くなっている。

中学生の保護者は、「金融機関などに借金をしたことがある」が6.0ポイント、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が5.9ポイント、それぞれ低くなっている。

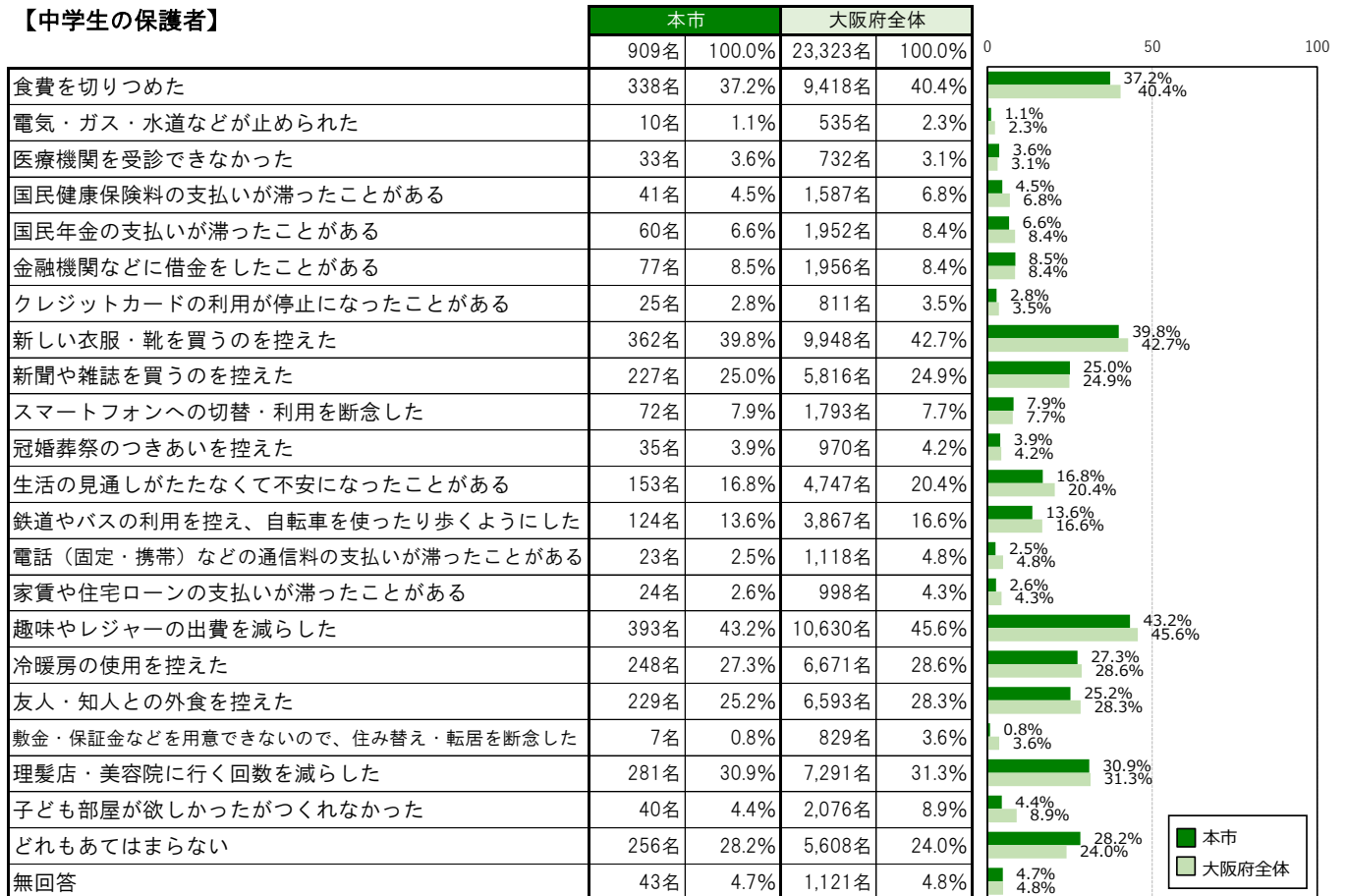
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

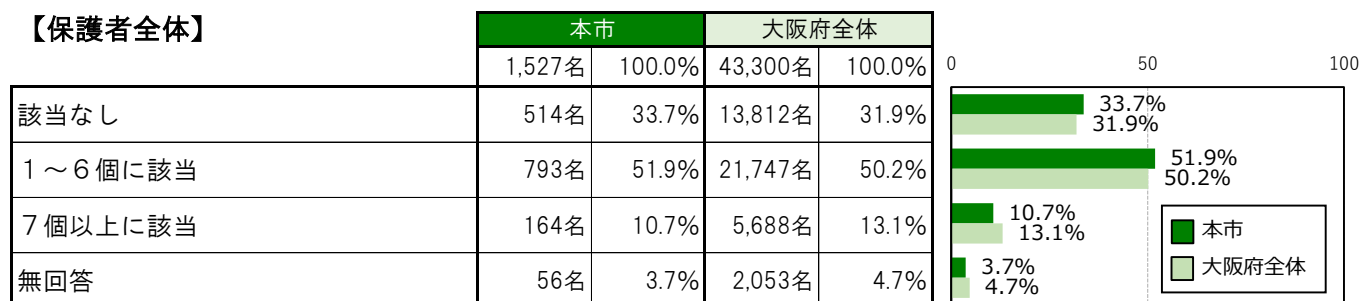
問7 経済的な理由による経験（はく奪指標）

保護者全体は、「1～6個に該当」が51.9%で最も多く、次いで「該当なし」が33.7%、「7個以上に該当」が10.7%となっている。

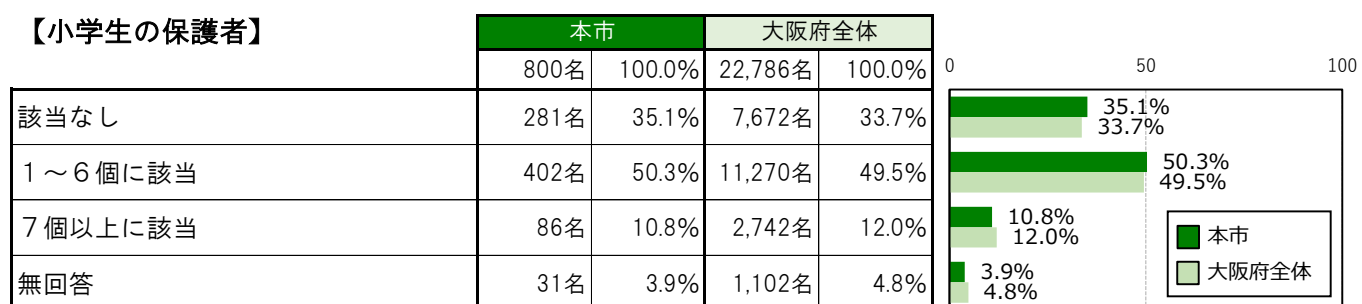
小学生の保護者は、「1～6個に該当」が50.3%で最も多く、次いで「該当なし」が35.1%、「7個以上に該当」が10.8%となっている。

中学生の保護者は、「1～6個に該当」が53.1%で最も多く、次いで「該当なし」が32.9%、「7個以上に該当」が10.8%となっている。

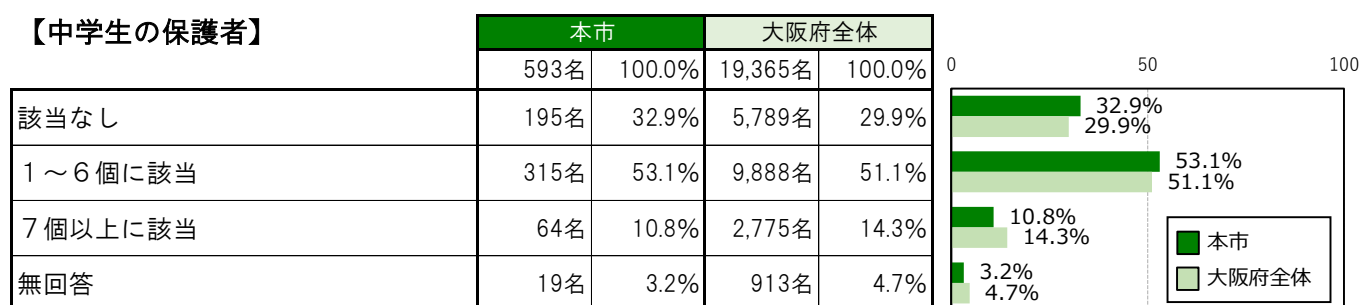
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

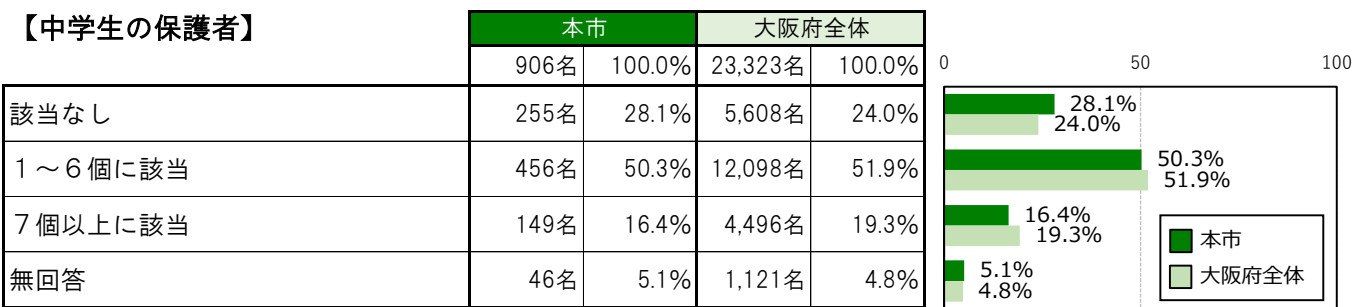
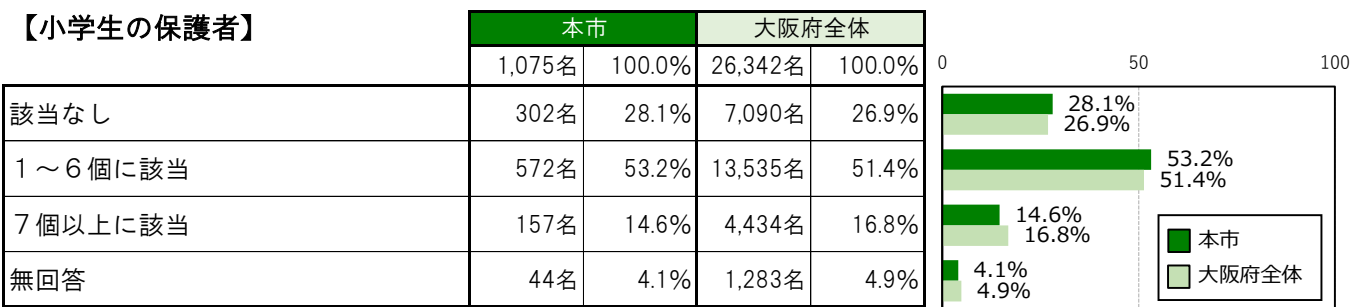
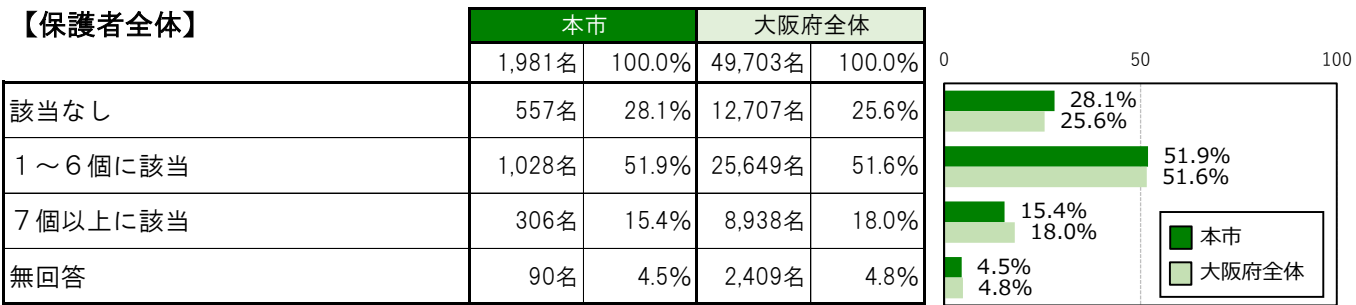


●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「該当なし」が5.6ポイント高いが、「7個以上に該当」が4.7ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「該当なし」が7.0ポイント高いが、「7個以上に該当」が3.8ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「該当なし」が4.8ポイント高いが、「7個以上に該当」が5.6ポイント低くなっている。



世帯の状況について

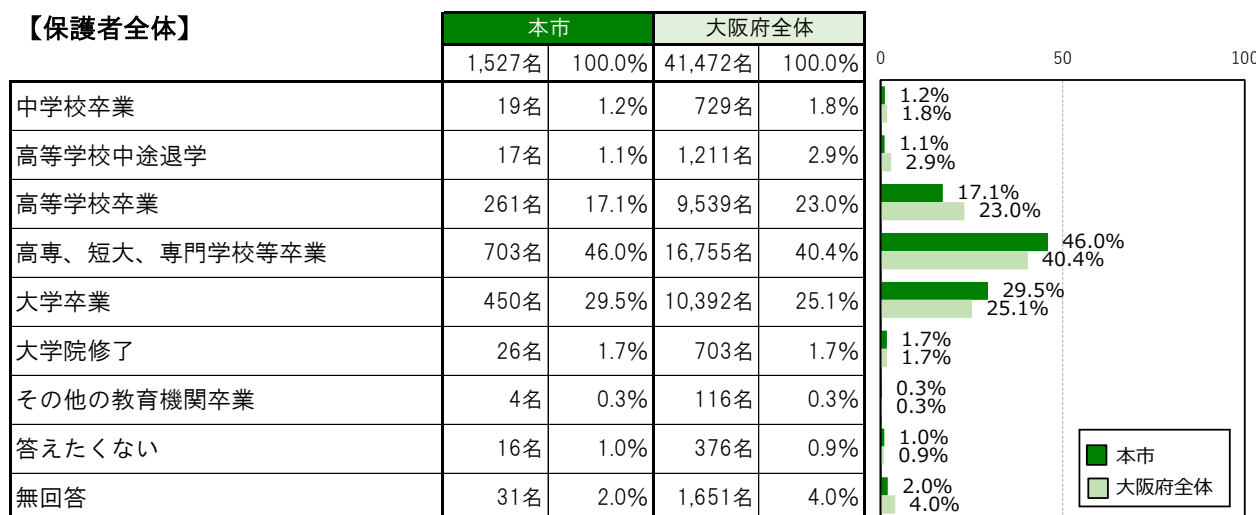
問8 お母さんの最終学歴

保護者全体は、「高専、短大、専門学校等卒業」が46.0%で最も多く、次いで「大学卒業」が29.5%、「高等学校卒業」が17.1%、「大学院修了」が1.7%となっている。

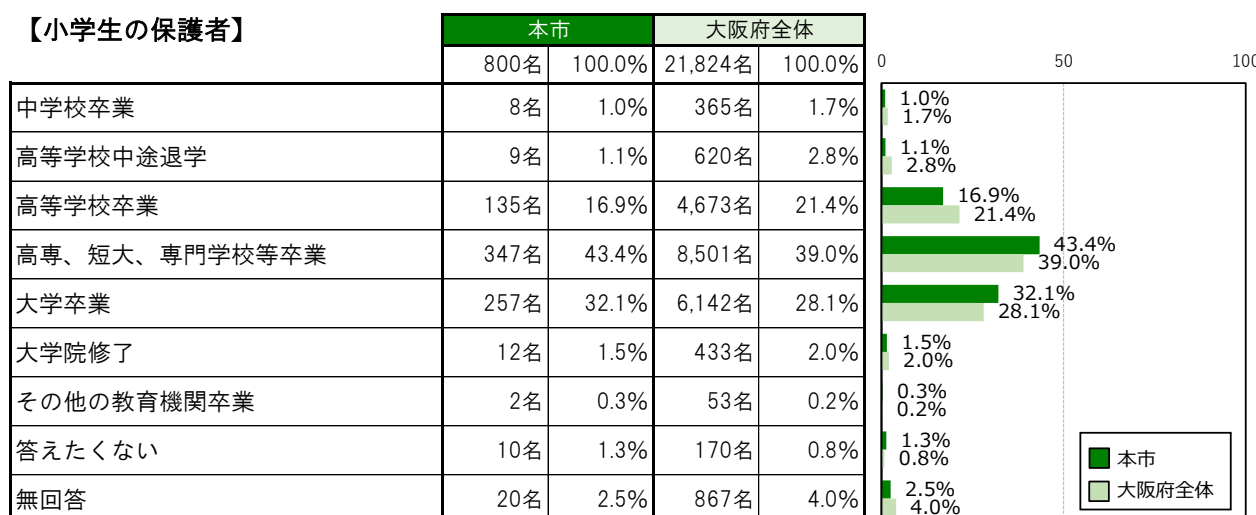
小学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が43.4%で最も多く、次いで「大学卒業」が32.1%、「高等学校卒業」が16.9%、「大学院修了」が1.5%となっている。

中学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が48.2%で最も多く、次いで「大学卒業」が26.5%、「高等学校卒業」が17.7%、「大学院修了」が2.2%となっている。

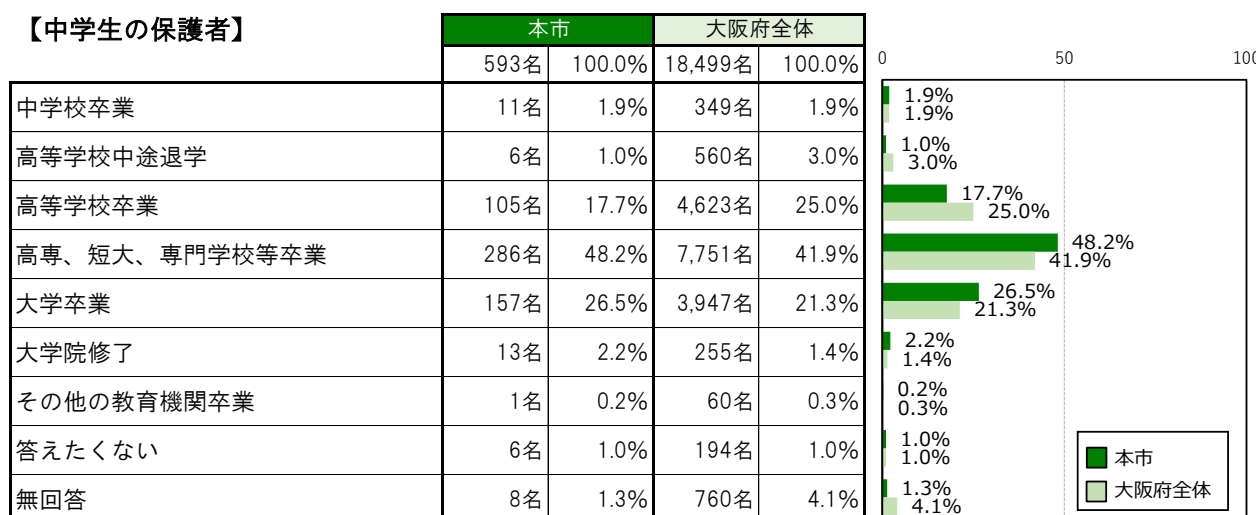
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

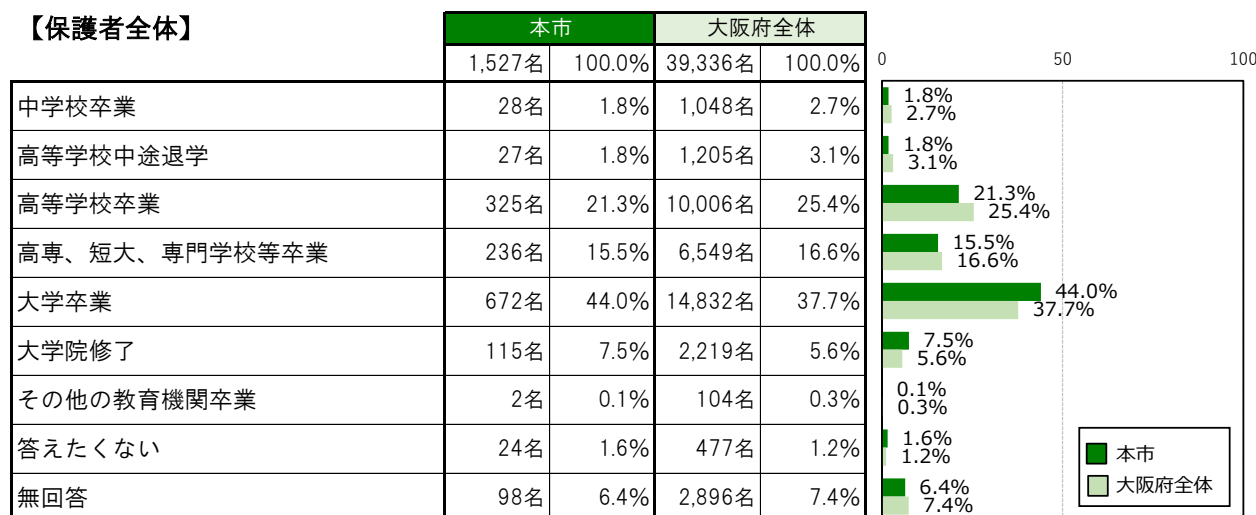
問 8 お父さんの最終学歴

保護者全体は、「大学卒業」が44.0%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が21.3%、「高専、短大、専門学校等卒業」が15.5%、「大学院修了」が7.5%となっている。

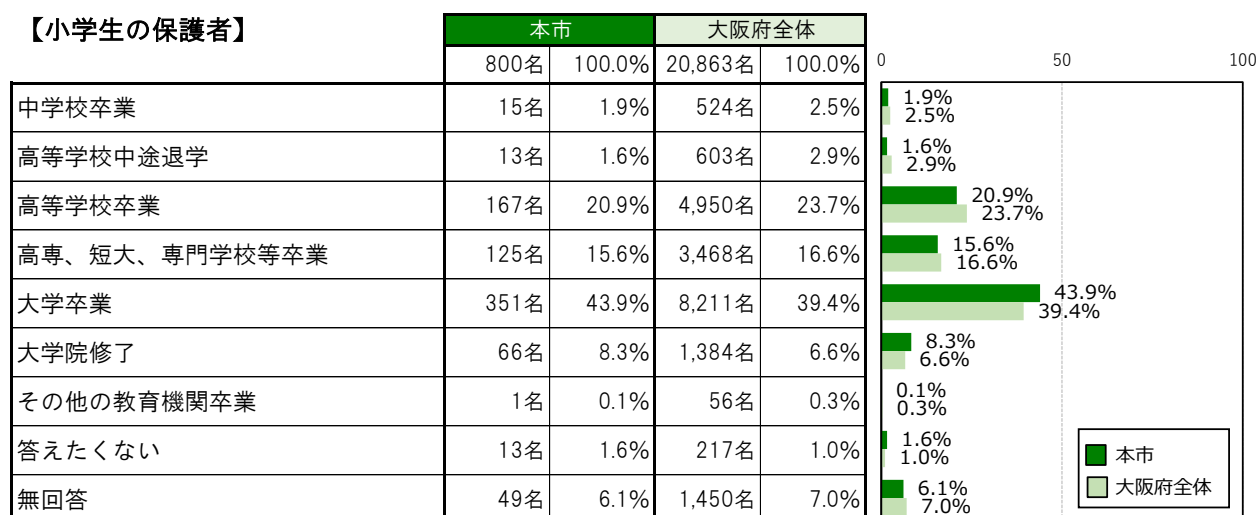
小学生の保護者は、「大学卒業」が43.9%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が20.9%、「高専、短大、専門学校等卒業」が15.6%、「大学院修了」が8.3%となっている。

中学生の保護者は、「大学卒業」が42.7%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が23.1%、「高専、短大、専門学校等卒業」が15.7%、「大学院修了」が6.4%となっている。

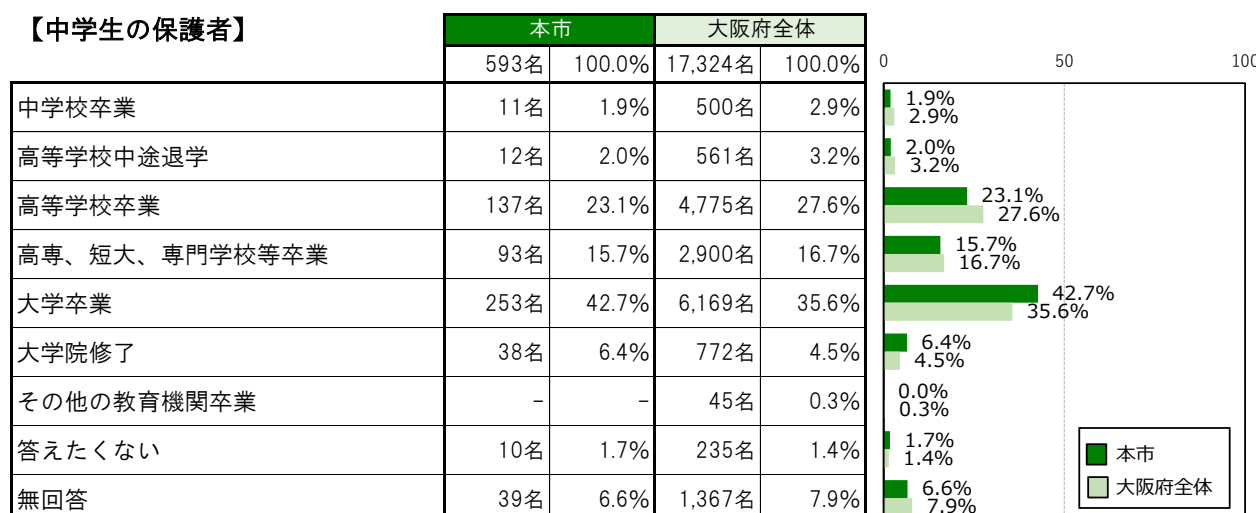
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



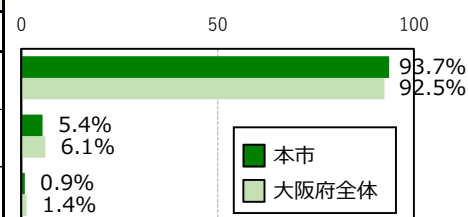
世帯の状況について

問9 お母さんの有無

保護者全体は、「いる」が93.7%、「いない」が5.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が93.8%、「いない」が5.4%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が93.8%、「いない」が5.4%となっている。

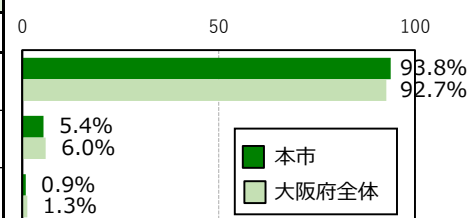
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,431名	93.7%	40,053名	92.5%
いない	83名	5.4%	2,634名	6.1%
無回答	13名	0.9%	613名	1.4%



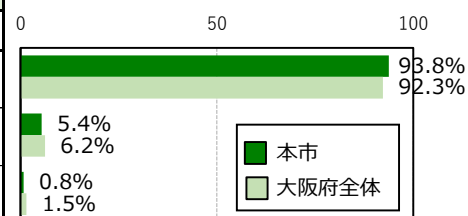
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	750名	93.8%	21,115名	92.7%
いない	43名	5.4%	1,368名	6.0%
無回答	7名	0.9%	303名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	556名	93.8%	17,877名	92.3%
いない	32名	5.4%	1,192名	6.2%
無回答	5名	0.8%	296名	1.5%



世帯の状況について

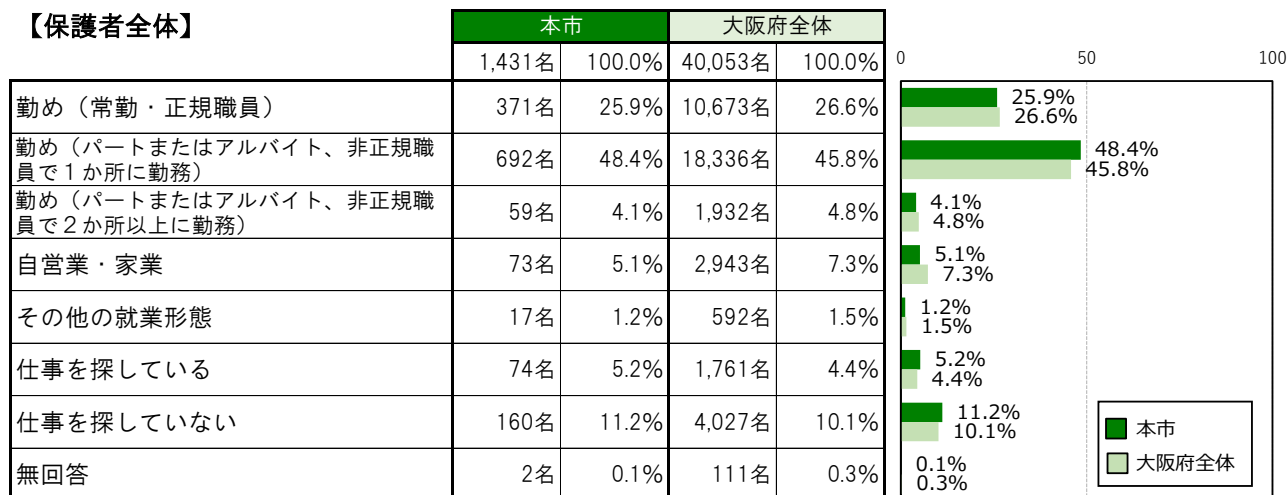
問9 お母さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が48.4%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が25.9%、「仕事を探していない」が11.2%、「仕事を探している」が5.2%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が44.8%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が27.6%、「仕事を探していない」が12.5%、「自営業・家業」が5.6%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が52.3%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が22.8%、「仕事を探していない」が11.0%、「仕事を探している」が5.2%となっている。

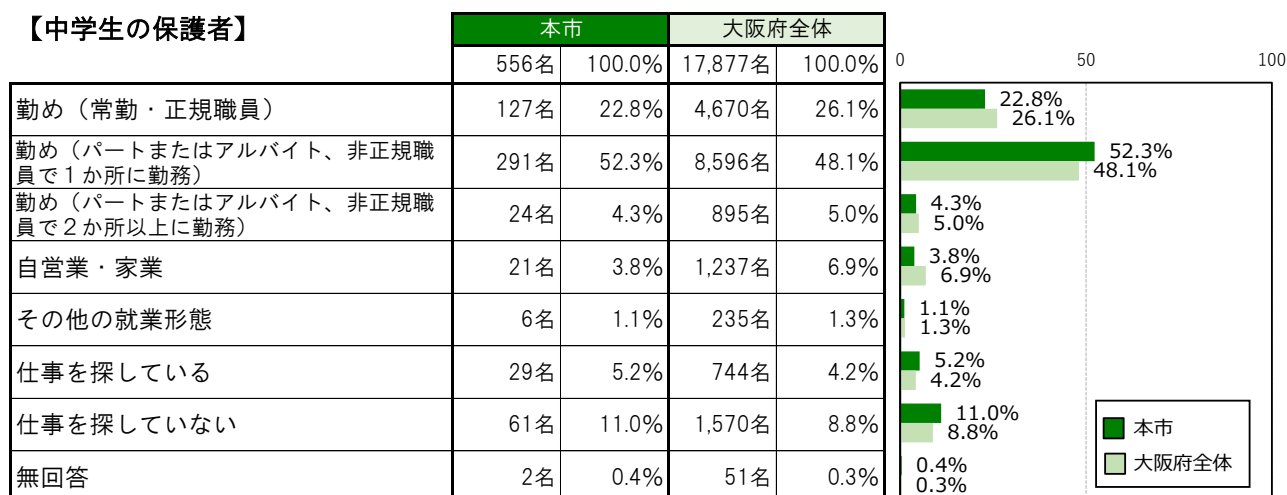
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

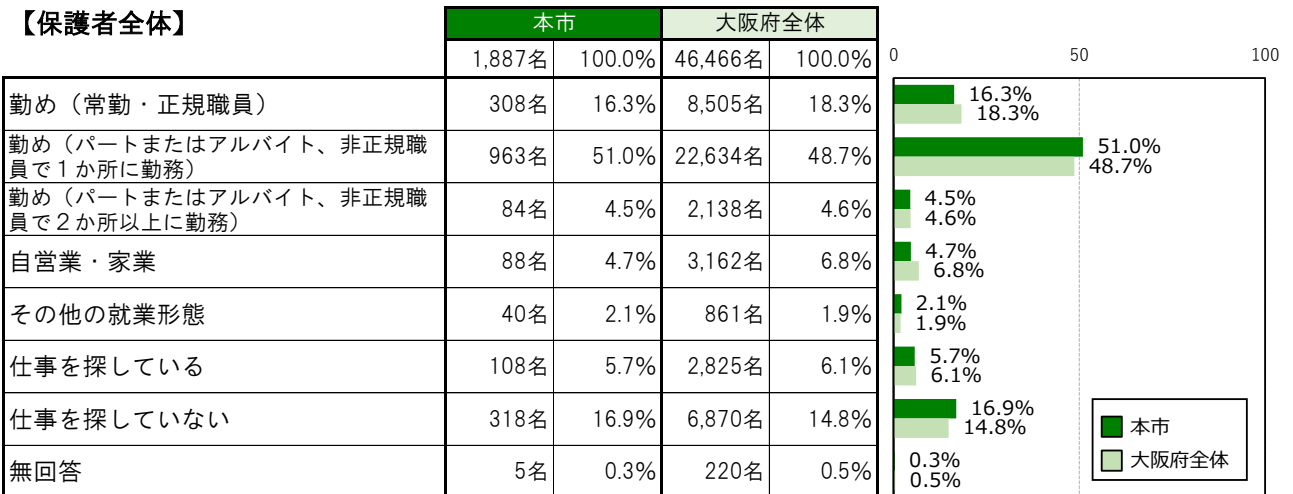


●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」は9.6ポイント高いが、「仕事を探していない」が5.7ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」は10.5ポイント高いが、「仕事を探していない」が5.9ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」は7.4ポイント高いが、「仕事を探していない」が4.0ポイント低くなっている。



世帯の状況について

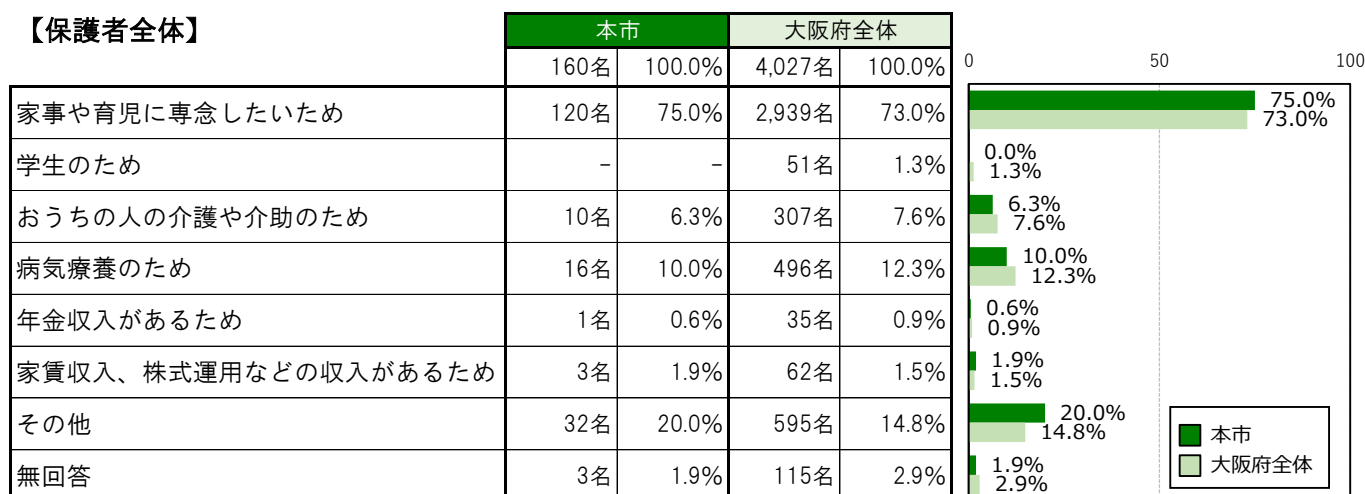
問9 お母さんが仕事を探していない理由

保護者全体は、「家事や育児に専念したいため」が75.0%で最も多く、次いで「病気療養のため」が10.0%、「おうちの人の介護や介助のため」が6.3%、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が1.9%となっている。

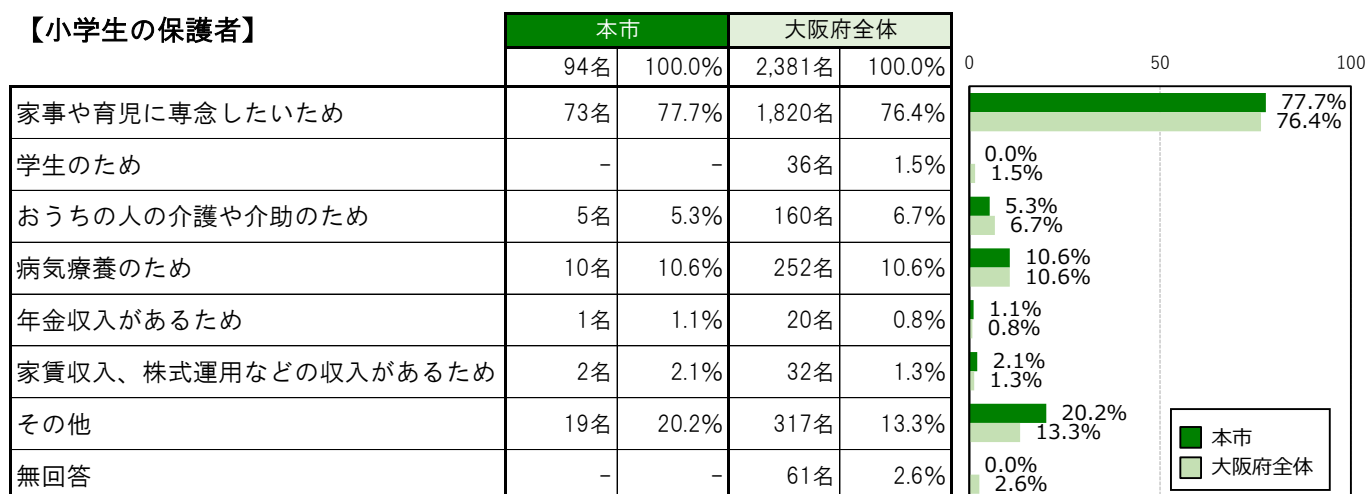
小学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が77.7%で最も多く、次いで「病気療養のため」が10.6%、「おうちの人の介護や介助のため」が5.3%、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が2.1%となっている。

中学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が70.5%で最も多く、次いで「病気療養のため」が8.2%、「おうちの人の介護や介助のため」が6.6%となっている。

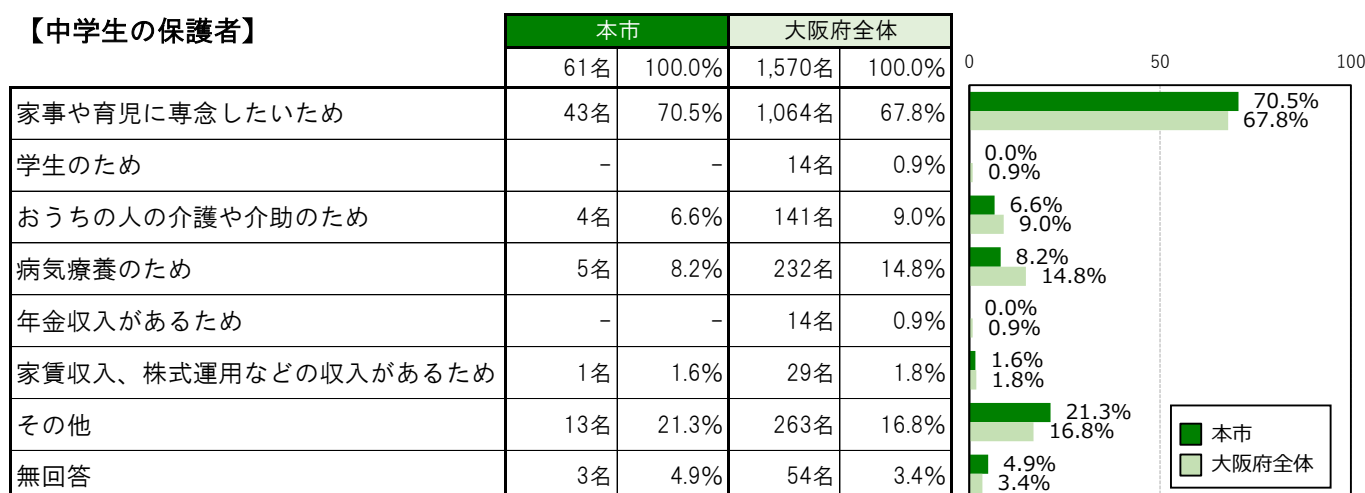
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



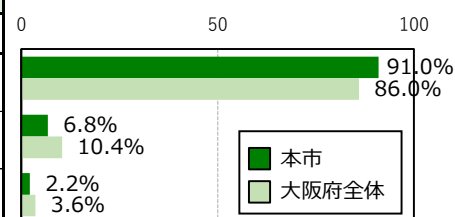
世帯の状況について

問9 お父さんの有無

保護者全体は、「いる」が91.0%、「いない」が6.8%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が91.8%、「いない」が6.3%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が90.2%、「いない」が7.6%となっている。

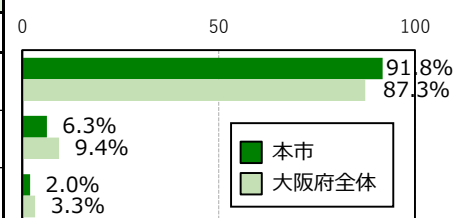
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,390名	91.0%	37,256名	86.0%
いない	104名	6.8%	4,504名	10.4%
無回答	33名	2.2%	1,540名	3.6%



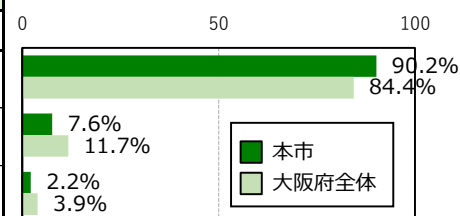
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	734名	91.8%	19,882名	87.3%
いない	50名	6.3%	2,149名	9.4%
無回答	16名	2.0%	755名	3.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	535名	90.2%	16,352名	84.4%
いない	45名	7.6%	2,261名	11.7%
無回答	13名	2.2%	752名	3.9%



世帯の状況について

問9 お父さんの就業状況

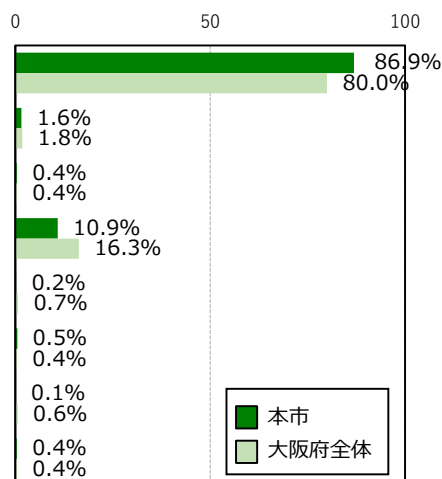
保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が86.9%で最も多く、次いで「自営業・家業」が10.9%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.6%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が86.8%で最も多く、次いで「自営業・家業」が11.6%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が88.2%で最も多く、次いで「自営業・家業」が8.6%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が2.6%となっている。

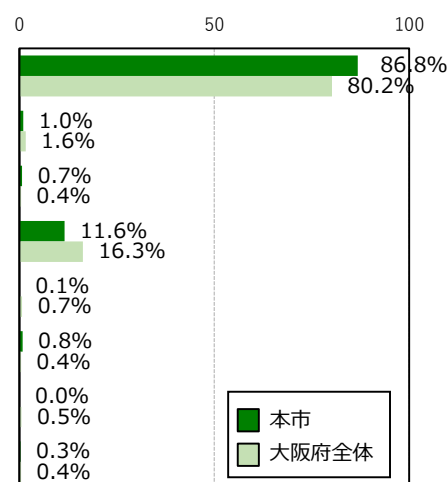
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,390名	100.0%	37,256名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	1,208名	86.9%	29,790名	80.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	22名	1.6%	660名	1.8%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	6名	0.4%	161名	0.4%
自営業・家業	151名	10.9%	6,063名	16.3%
その他の就業形態	3名	0.2%	258名	0.7%
仕事を探している	7名	0.5%	154名	0.4%
仕事を探していない	2名	0.1%	206名	0.6%
無回答	5名	0.4%	163名	0.4%



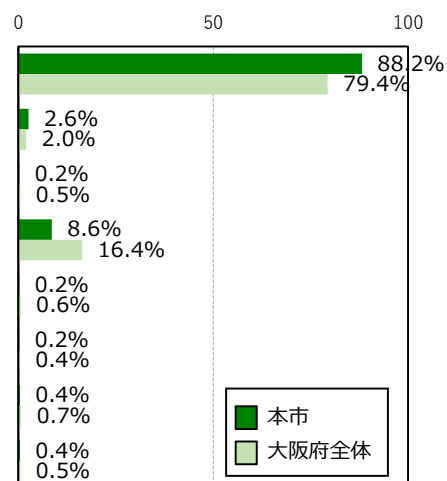
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	734名	100.0%	19,882名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	637名	86.8%	15,955名	80.2%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	7名	1.0%	324名	1.6%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	5名	0.7%	80名	0.4%
自営業・家業	85名	11.6%	3,232名	16.3%
その他の就業形態	1名	0.1%	143名	0.7%
仕事を探している	6名	0.8%	80名	0.4%
仕事を探していない	-	-	95名	0.5%
無回答	2名	0.3%	77名	0.4%



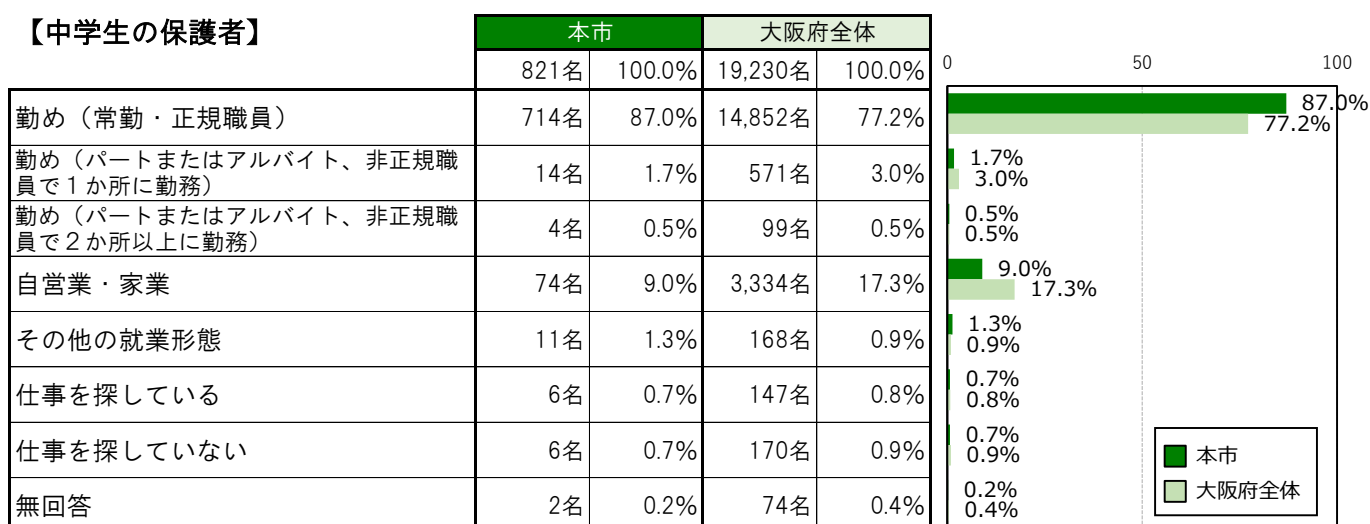
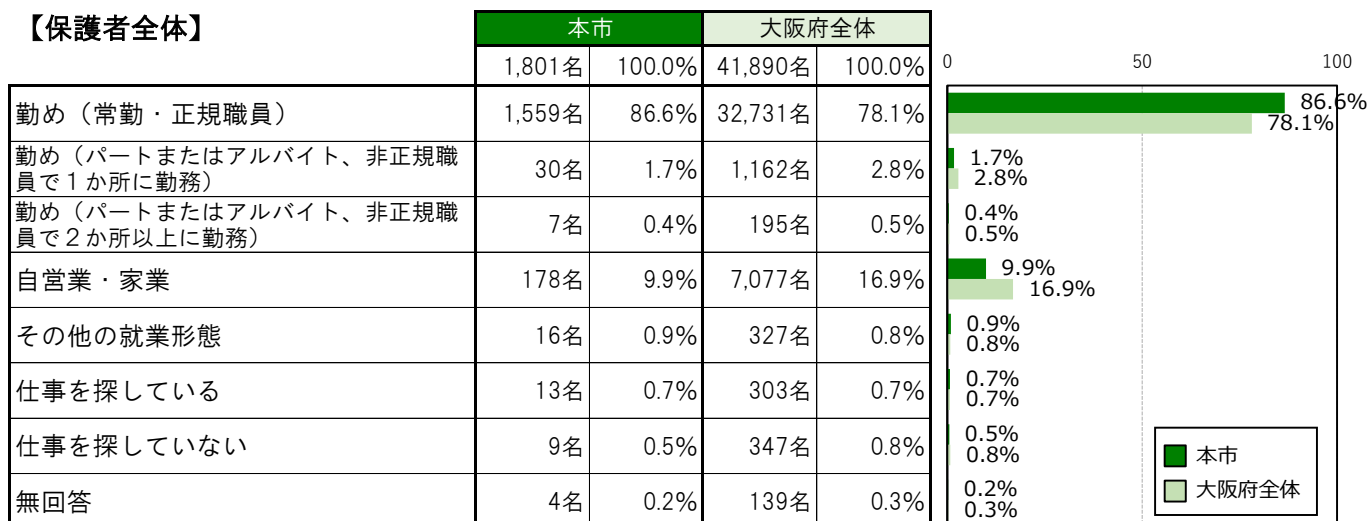
【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	535名	100.0%	16,352名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	472名	88.2%	12,988名	79.4%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	14名	2.6%	323名	2.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	1名	0.2%	79名	0.5%
自営業・家業	46名	8.6%	2,675名	16.4%
その他の就業形態	1名	0.2%	106名	0.6%
仕事を探している	1名	0.2%	72名	0.4%
仕事を探していない	2名	0.4%	109名	0.7%
無回答	2名	0.4%	82名	0.5%



●2016年度 調査結果〔参考データ〕

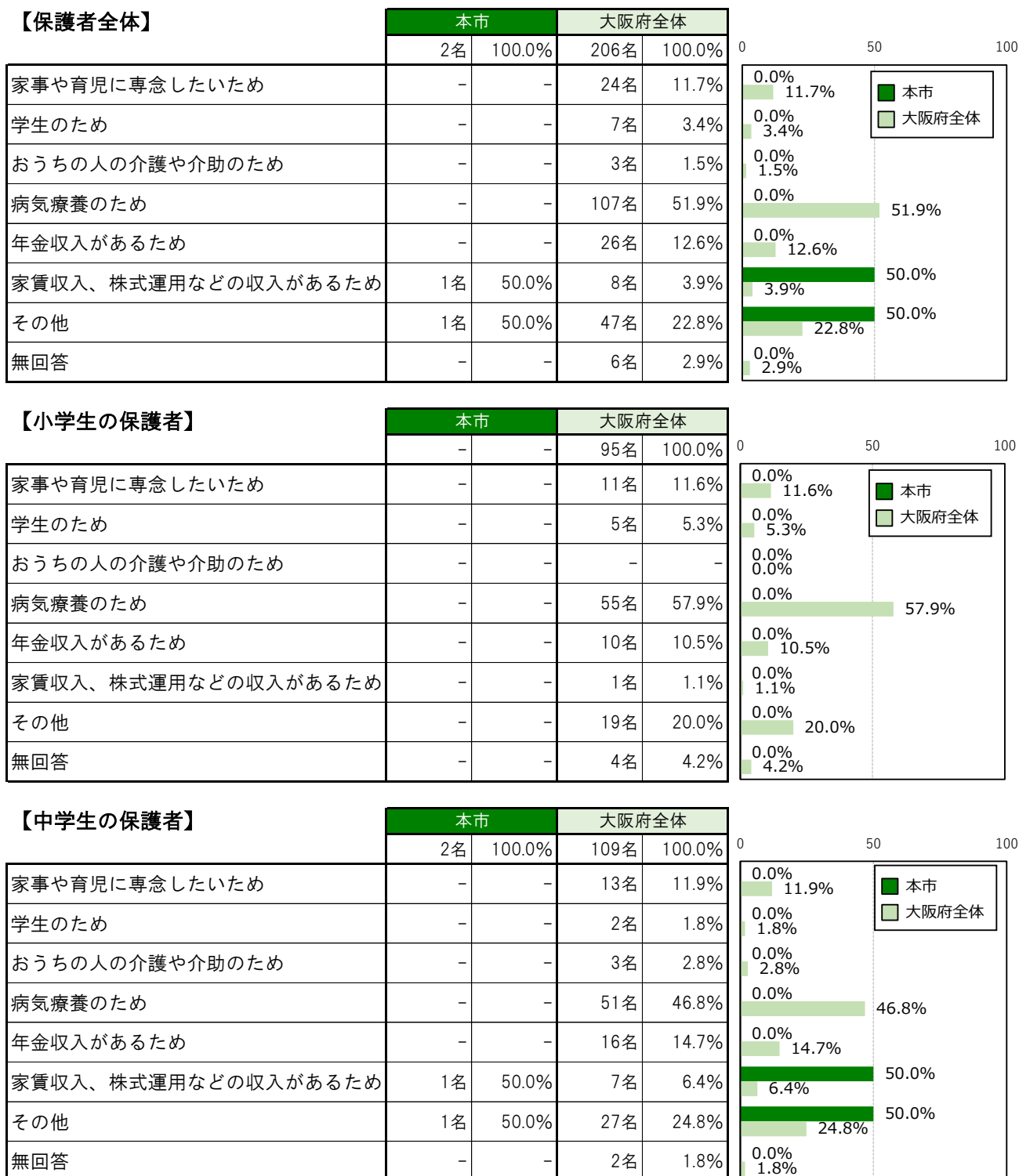
2016年度調査と比較すると、保護者全体、小学生の保護者、中学生の保護者のいずれも大きな差はみられない。



世帯の状況について

問9 お父さんが仕事を探していない理由

保護者全体、中学生の保護者は、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が50.0%（1名）となっている。



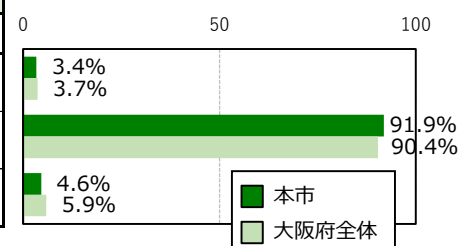
世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の有無

保護者全体は、「いる」が3.4%、「いない」が91.9%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が2.9%、「いない」が92.9%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が4.0%、「いない」が91.4%となっている。

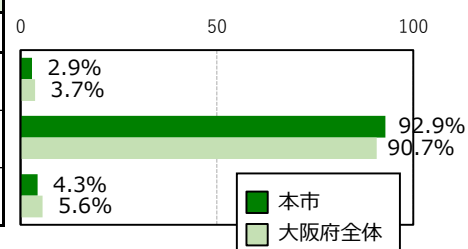
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	52名	3.4%	1,611名	3.7%
いない	1,404名	91.9%	39,140名	90.4%
無回答	71名	4.6%	2,549名	5.9%



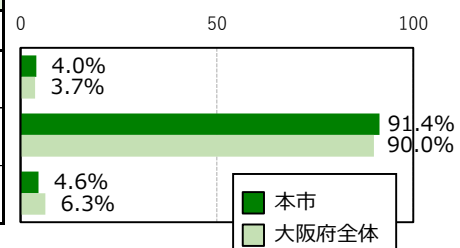
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	23名	2.9%	854名	3.7%
いない	743名	92.9%	20,666名	90.7%
無回答	34名	4.3%	1,266名	5.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	24名	4.0%	718名	3.7%
いない	542名	91.4%	17,432名	90.0%
無回答	27名	4.6%	1,215名	6.3%



世帯の状況について

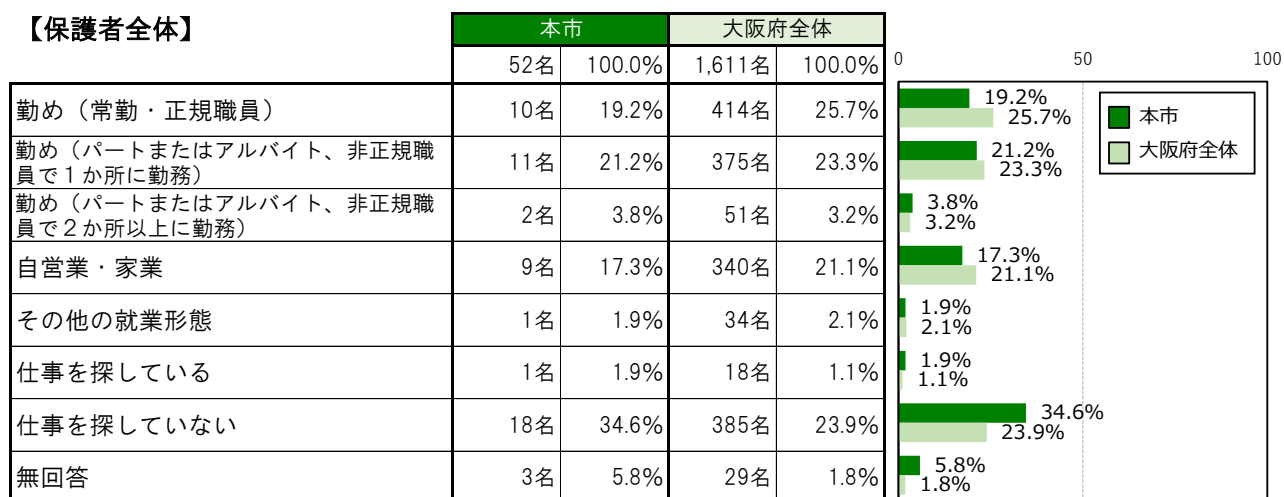
問9 親以外に主として家計を支えている人の就業状況

保護者全体は、「仕事を探していない」が34.6%で最も多く、次いで「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が21.2%、「勤め（常勤・正規職員）」が19.2%、「自営業・家業」が17.3%となっている。

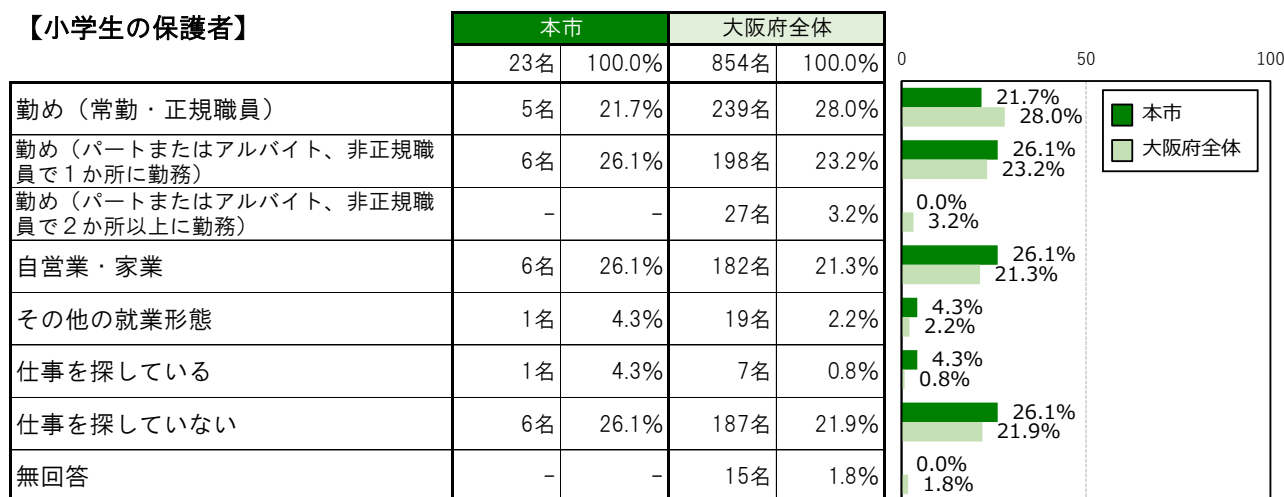
小学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」、「自営業・家業」、「仕事を探していない」がそれぞれ26.1%（6名）で最も多くなっている。

中学生の保護者は、「仕事を探していない」が50.0%（12名）で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」、「自営業・家業」がそれぞれ12.5%（3名）となっている。

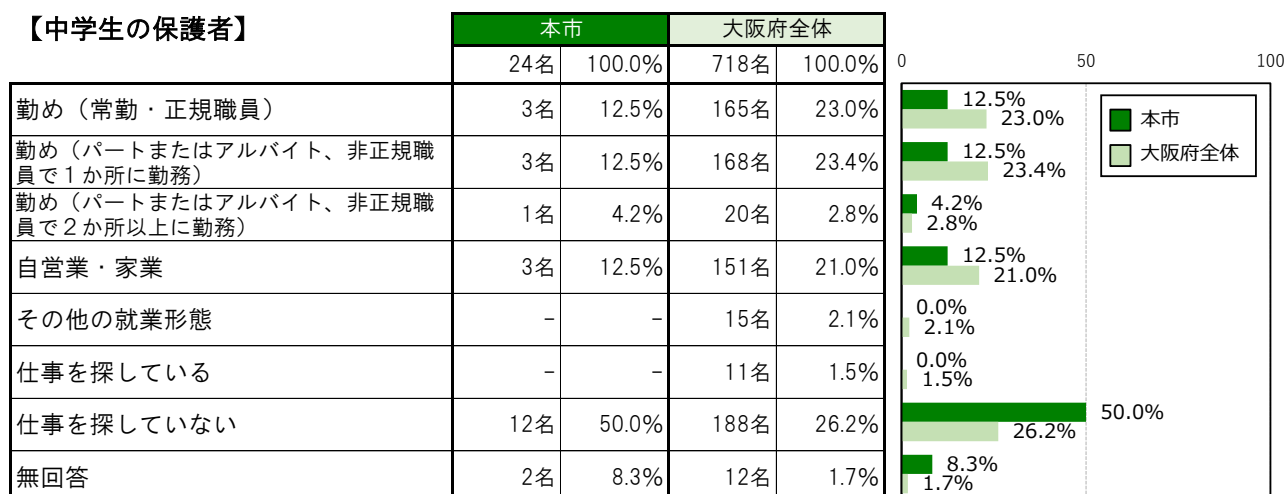
【保護者全体】



【小学生の保護者】

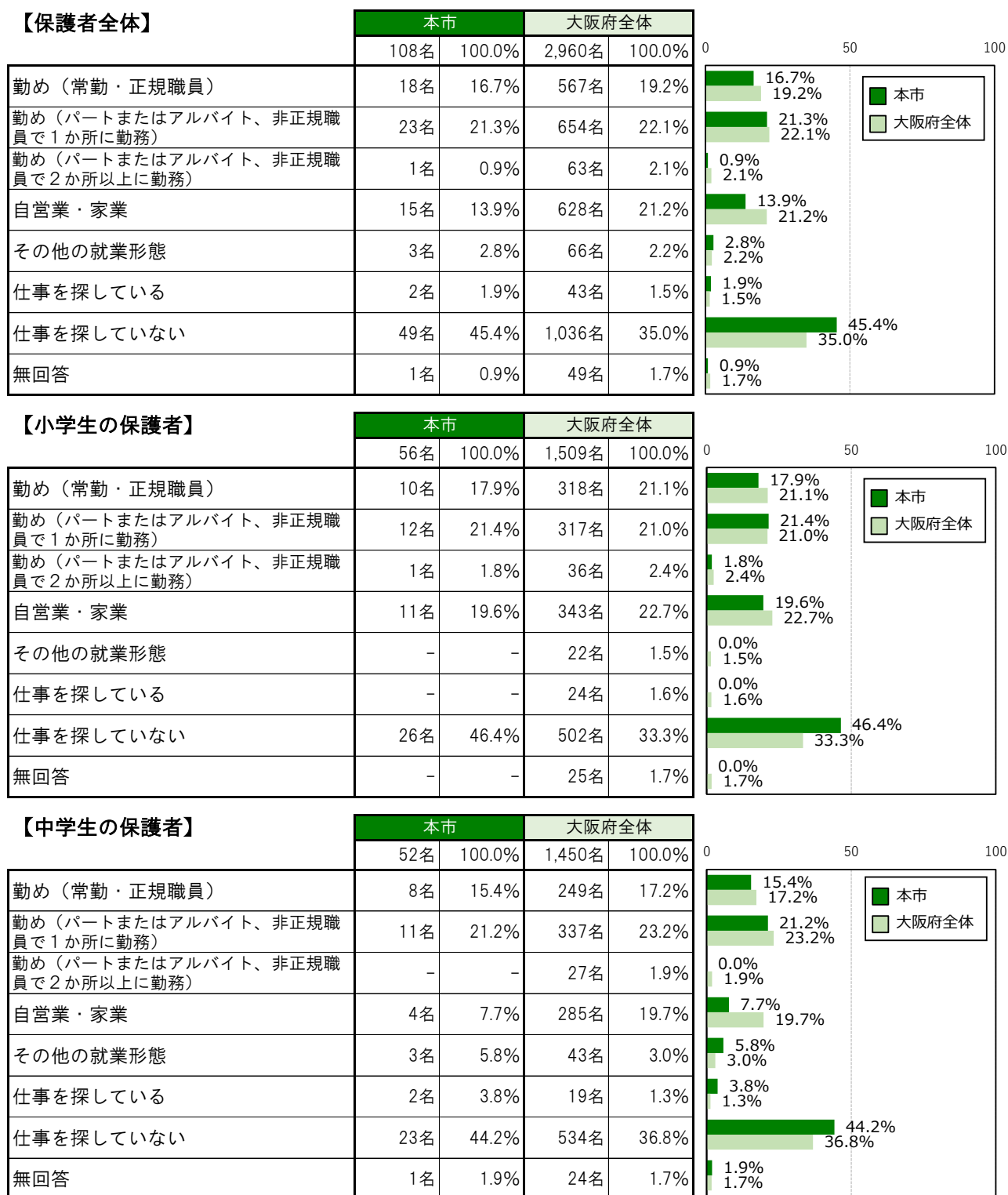


【中学生の保護者】



●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「仕事を探していない」が10.8ポイント低くなっている。
 小学生の保護者は、「仕事を探していない」が20.3ポイント低くなっている。
 中学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が8.7ポイント低くなっている。



世帯の状況について

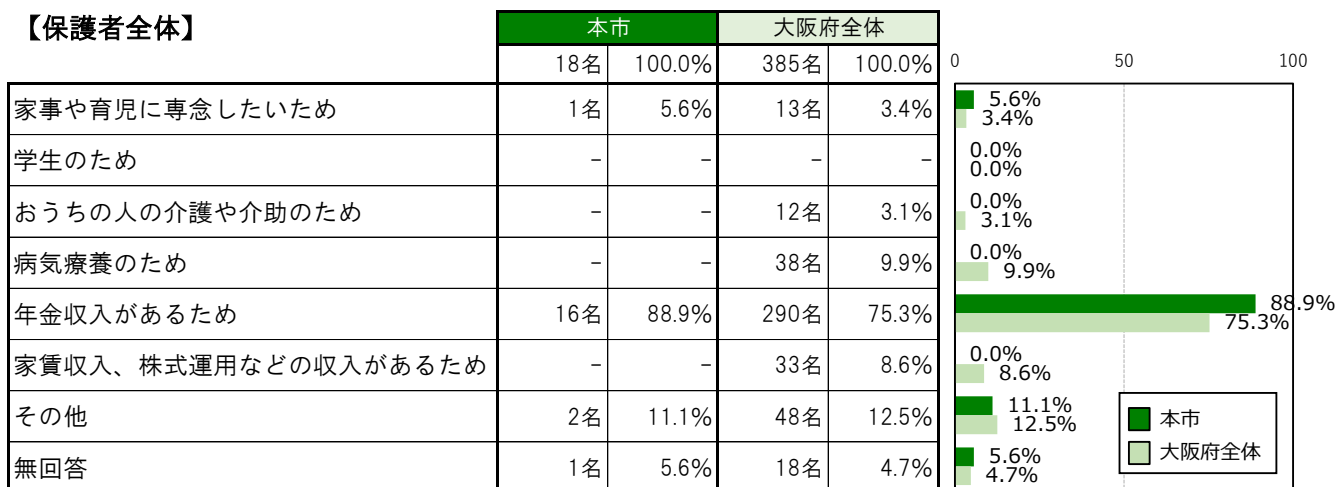
問9 親以外に主として家計を支えている人が仕事を探していない理由

保護者全体は、「年金収入があるため」が88.9%（16名）で最も多く、次いで「家事や育児に専念したいため」が5.6%（1名）となっている。

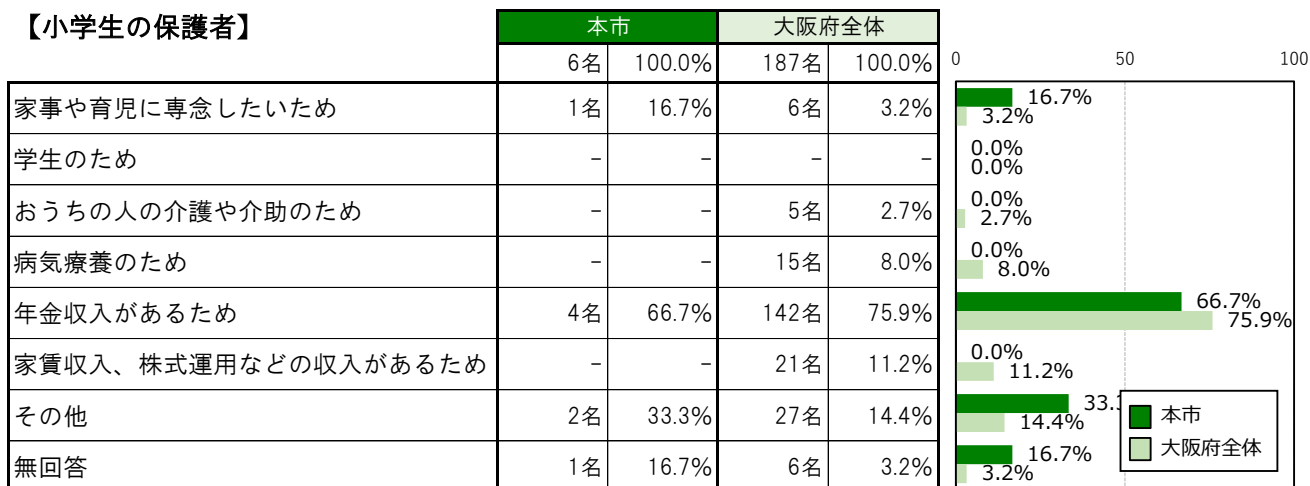
小学生の保護者は、「年金収入があるため」が66.7%（4名）で最も多く、次いで「家事や育児に専念したいため」が16.7%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「年金収入があるため」が100.0%（12名）となっている。

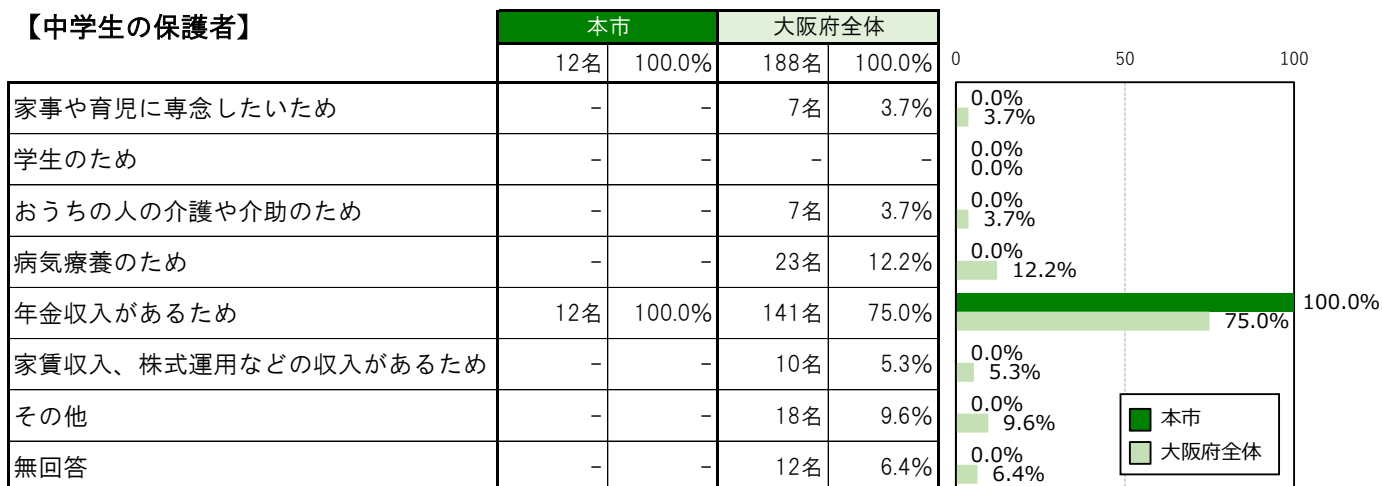
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問10 保護者が家にいる時間帯

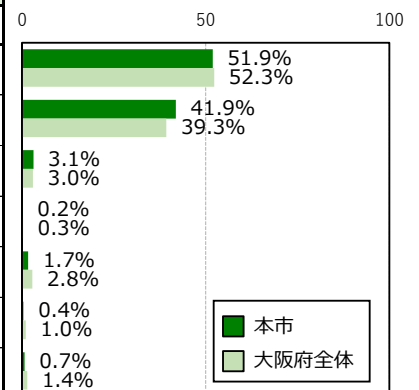
保護者全体は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が51.9%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が41.9%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が3.1%、「帰宅時間が決まっていない」が1.7%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が52.5%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が42.0%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が2.8%、「帰宅時間が決まっていない」が1.1%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が52.1%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が41.0%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が3.7%、「帰宅時間が決まっていない」が2.0%となっている。

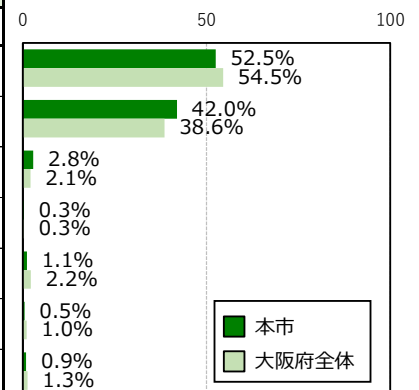
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	793名	51.9%	22,638名	52.3%
お子さんの夕食時間には家にいる	640名	41.9%	17,029名	39.3%
お子さんの寝る時間には家にいる	48名	3.1%	1,283名	3.0%
お子さんが寝た後に帰ってくる	3名	0.2%	129名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	26名	1.7%	1,212名	2.8%
その他	6名	0.4%	416名	1.0%
無回答	11名	0.7%	593名	1.4%



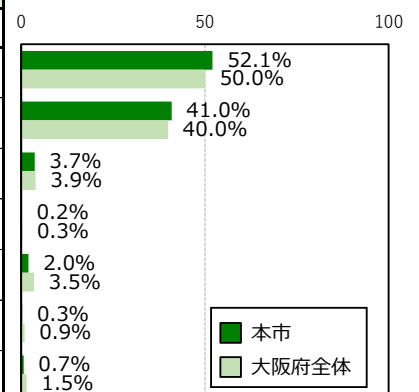
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	420名	52.5%	12,408名	54.5%
お子さんの夕食時間には家にいる	336名	42.0%	8,796名	38.6%
お子さんの寝る時間には家にいる	22名	2.8%	489名	2.1%
お子さんが寝た後に帰ってくる	2名	0.3%	66名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	9名	1.1%	505名	2.2%
その他	4名	0.5%	222名	1.0%
無回答	7名	0.9%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	309名	52.1%	9,674名	50.0%
お子さんの夕食時間には家にいる	243名	41.0%	7,739名	40.0%
お子さんの寝る時間には家にいる	22名	3.7%	747名	3.9%
お子さんが寝た後に帰ってくる	1名	0.2%	61名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	12名	2.0%	676名	3.5%
その他	2名	0.3%	182名	0.9%
無回答	4名	0.7%	286名	1.5%



世帯の状況について

問11 日本語以外の言語の使用状況

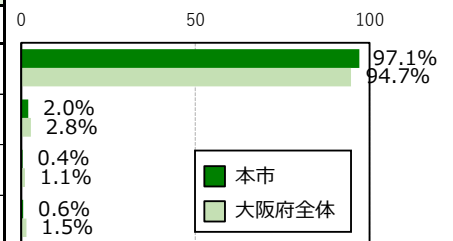
保護者全体は、「日本語のみを使用している」が97.1%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.0%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.4%となっている。

小学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が96.6%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.1%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.5%となっている。

中学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が97.1%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.0%、「日本語以外の言語を使うことが多い」が0.3%となっている。

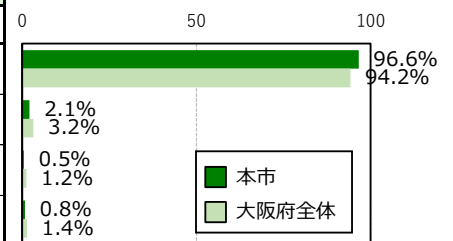
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
日本語のみを使用している	1,482名	97.1%	40,991名	94.7%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	30名	2.0%	1,201名	2.8%
日本語以外の言語を使うことが多い	6名	0.4%	476名	1.1%
無回答	9名	0.6%	632名	1.5%



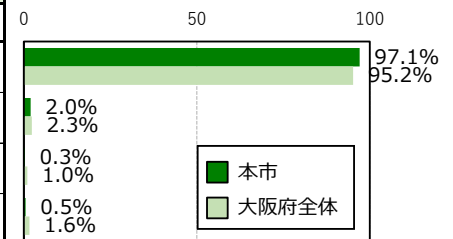
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
日本語のみを使用している	773名	96.6%	21,457名	94.2%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	17名	2.1%	729名	3.2%
日本語以外の言語を使うことが多い	4名	0.5%	280名	1.2%
無回答	6名	0.8%	320名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
日本語のみを使用している	576名	97.1%	18,426名	95.2%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	12名	2.0%	446名	2.3%
日本語以外の言語を使うことが多い	2名	0.3%	188名	1.0%
無回答	3名	0.5%	305名	1.6%



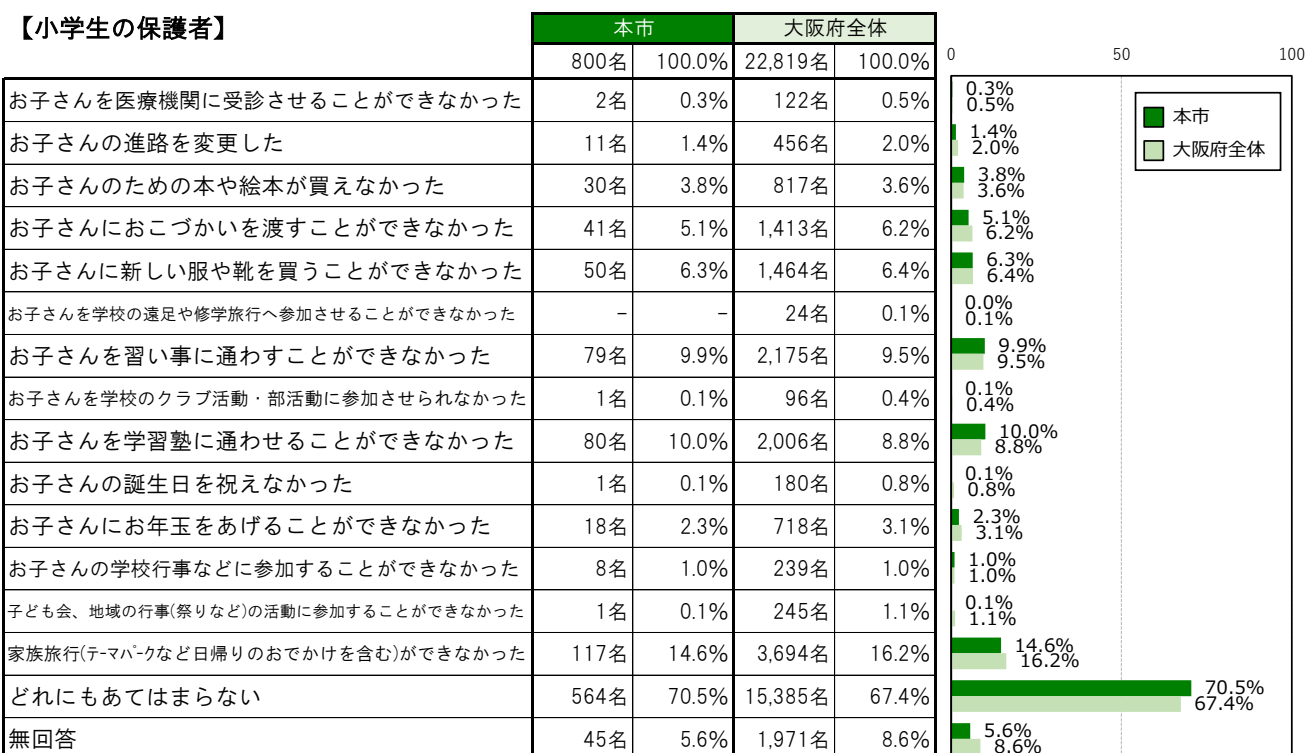
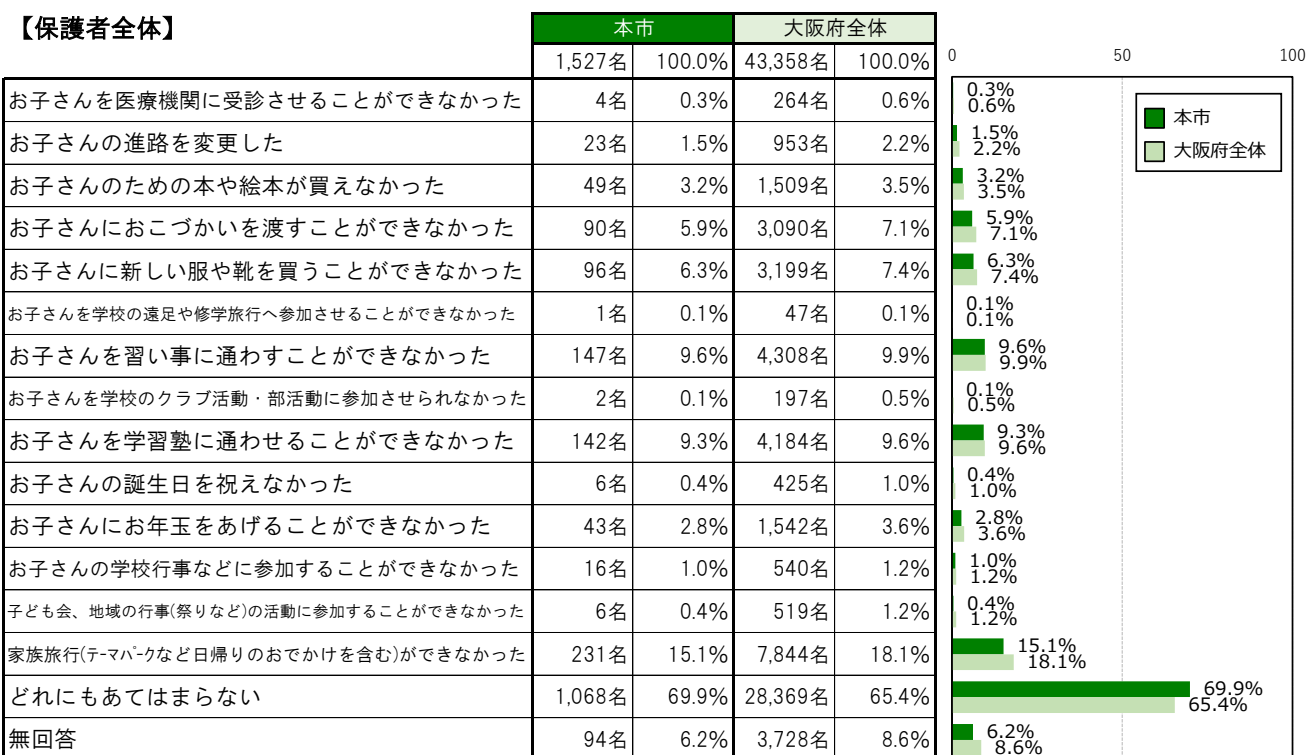
子どもに関することについて

問12 経済的な理由による子どもに関する経験

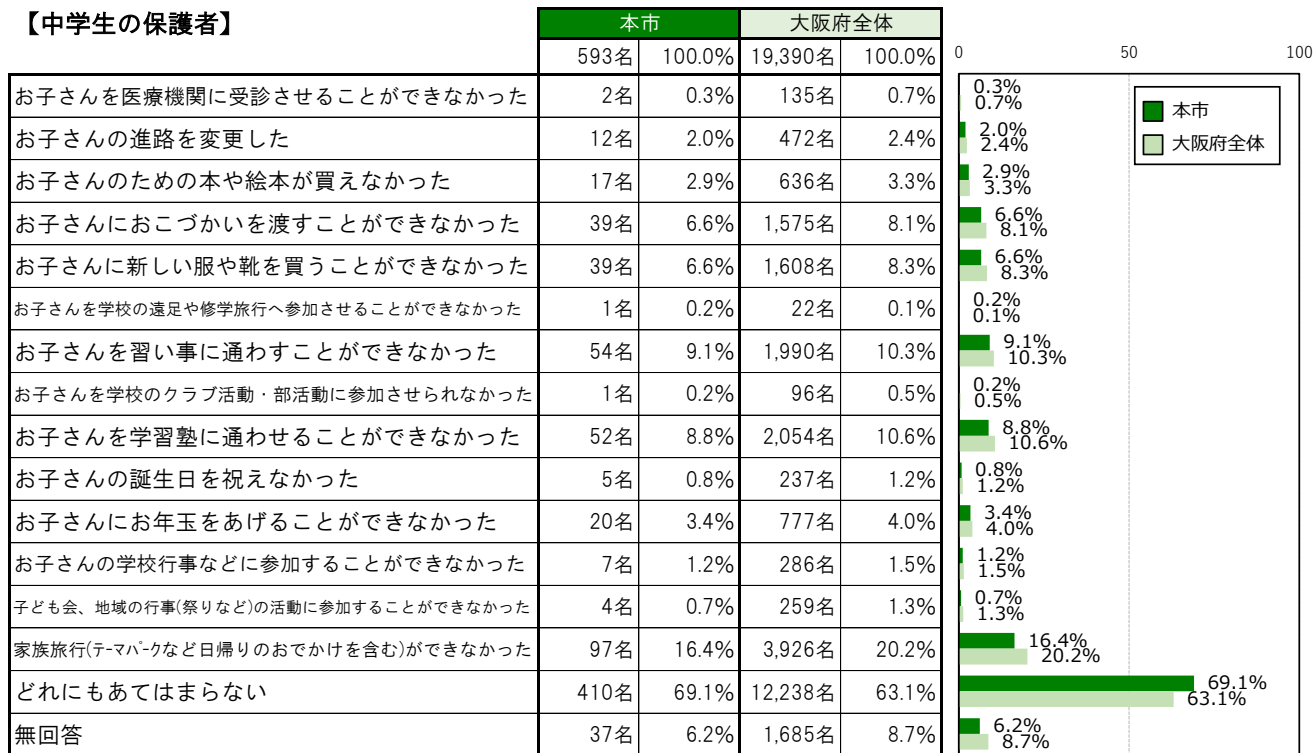
保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が69.9%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が15.1%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が9.6%となっている。

小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が70.5%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が14.6%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が10.0%となっている。

中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が69.1%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が16.4%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が9.1%となっている。

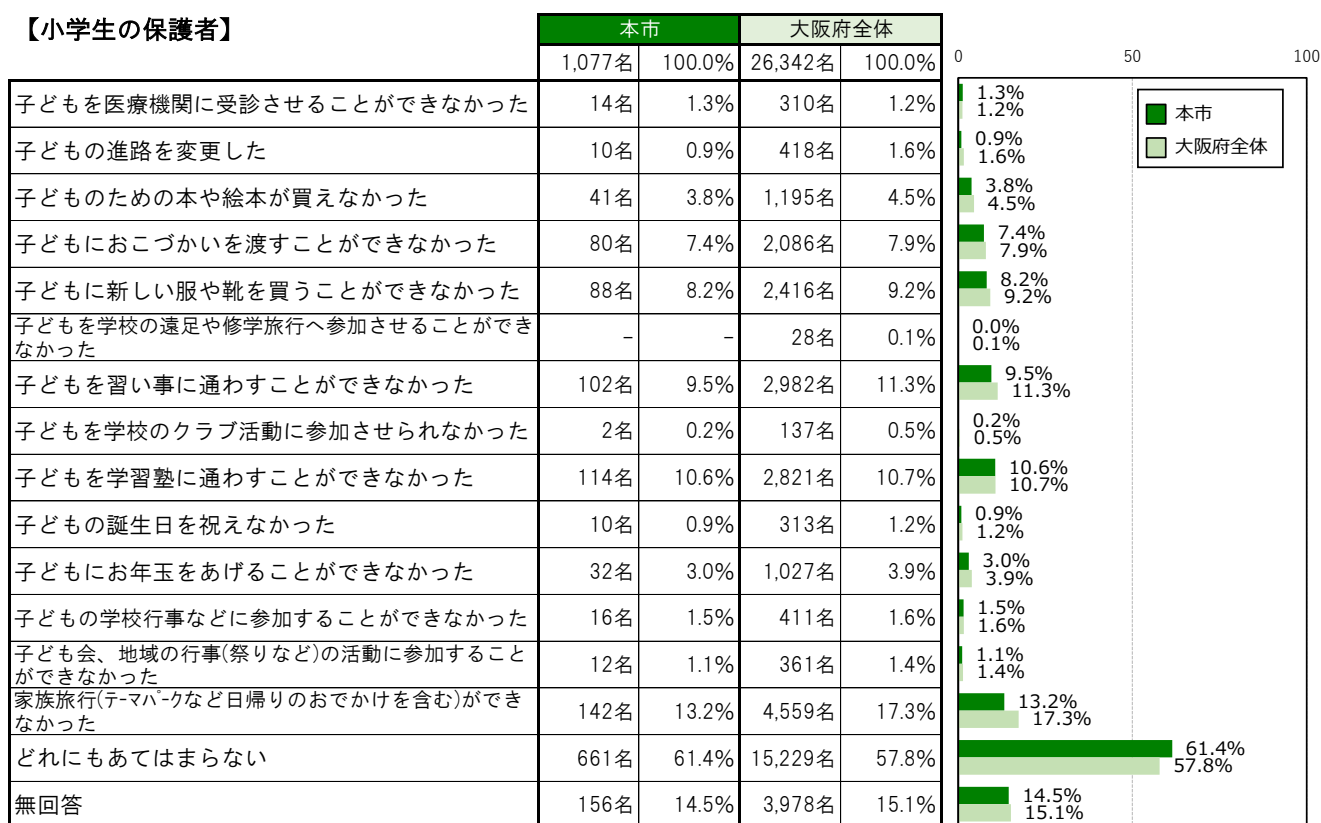
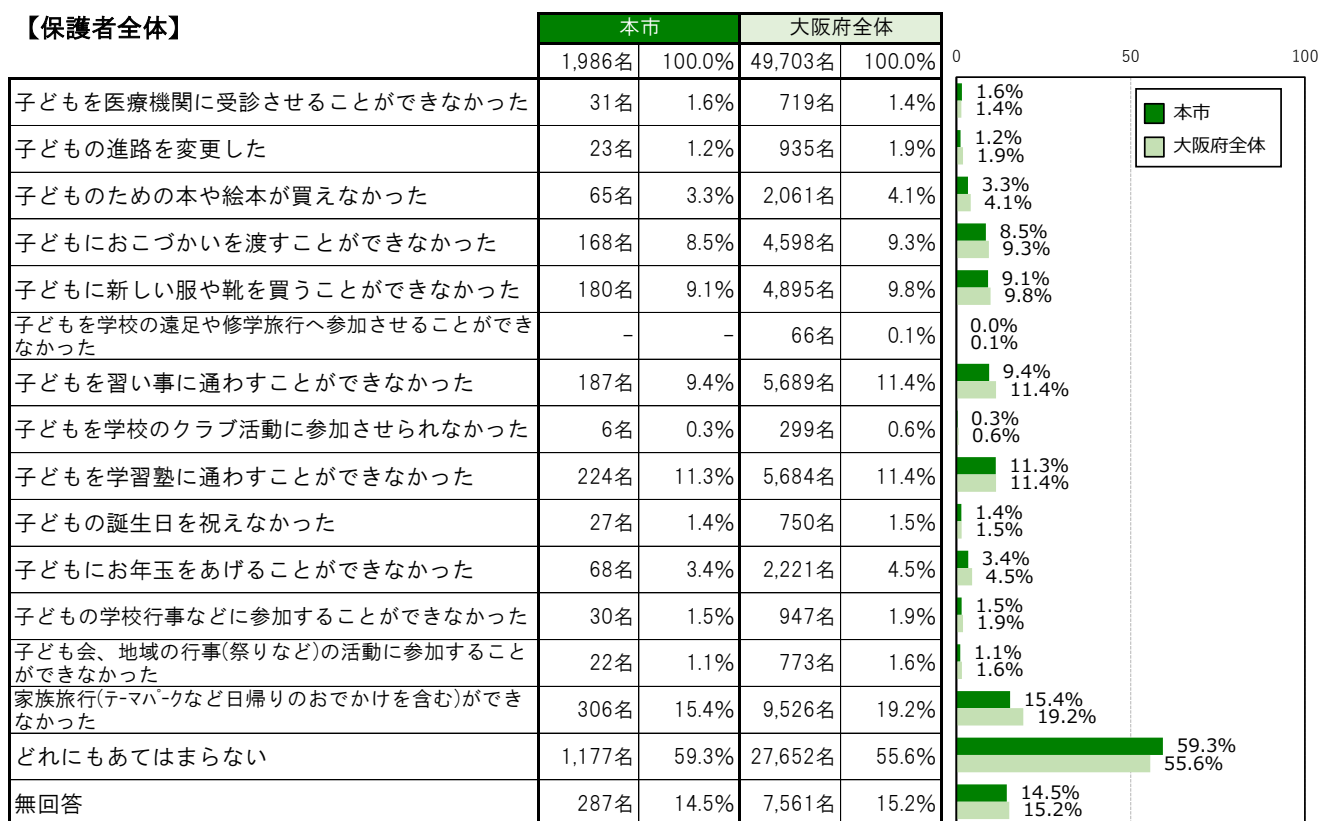


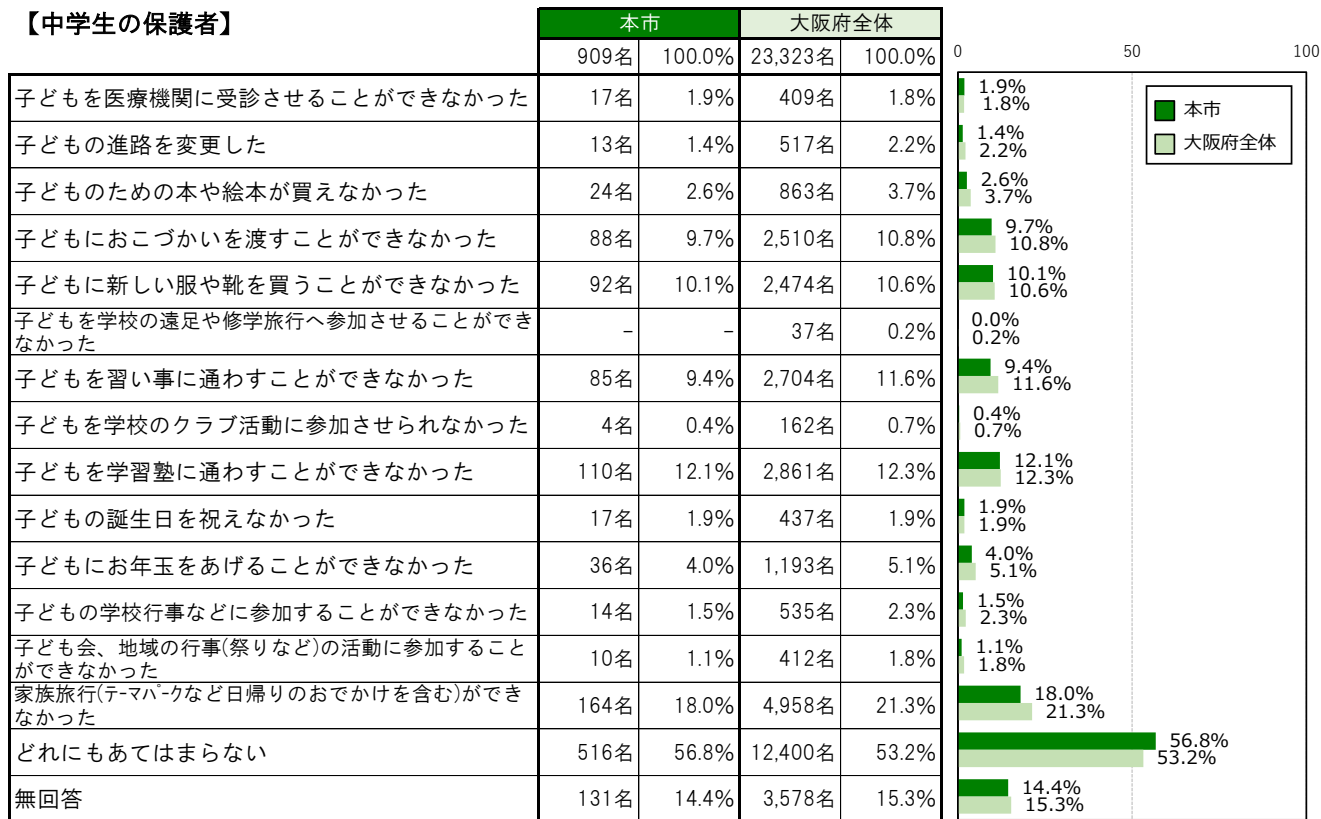
【中学生の保護者】



●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が10.6ポイント高くなっている。
小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が9.1ポイント高くなっている。
中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が12.3ポイント高くなっている。





子どもに関することについて

問13（１）子どもへの信頼度

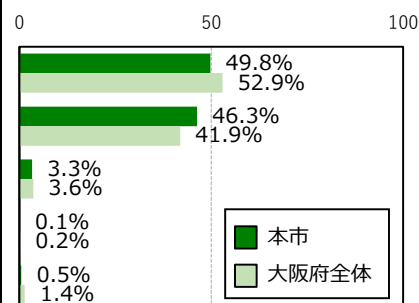
保護者全体は、「とても信頼している」が49.8%で最も多く、次いで「信頼している」が46.3%、「あまり信頼していない」が3.3%となっている。

小学生の保護者は、「とても信頼している」が49.6%で最も多く、次いで「信頼している」が46.5%、「あまり信頼していない」が3.1%となっている。

中学生の保護者は、「とても信頼している」が50.9%で最も多く、次いで「信頼している」が45.2%、「あまり信頼していない」が3.4%となっている。

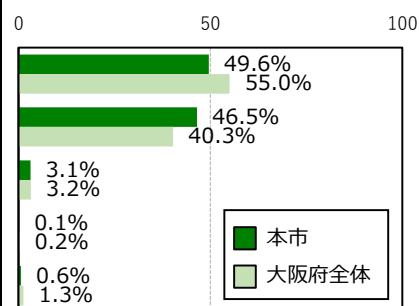
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,358名	100.0%
とても信頼している	761名	49.8%	22,948名	52.9%
信頼している	707名	46.3%	18,151名	41.9%
あまり信頼していない	50名	3.3%	1,566名	3.6%
信頼していない	2名	0.1%	101名	0.2%
無回答	7名	0.5%	592名	1.4%



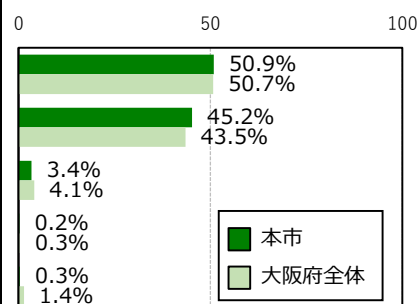
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,819名	100.0%
とても信頼している	397名	49.6%	12,553名	55.0%
信頼している	372名	46.5%	9,191名	40.3%
あまり信頼していない	25名	3.1%	720名	3.2%
信頼していない	1名	0.1%	48名	0.2%
無回答	5名	0.6%	307名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,390名	100.0%
とても信頼している	302名	50.9%	9,835名	50.7%
信頼している	268名	45.2%	8,429名	43.5%
あまり信頼していない	20名	3.4%	796名	4.1%
信頼していない	1名	0.2%	50名	0.3%
無回答	2名	0.3%	280名	1.4%



子どもに関することについて

問13（２）子どもとの会話頻度

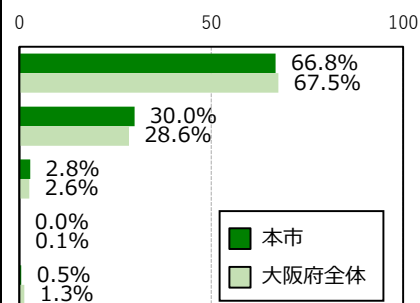
保護者全体は、「よくする」が66.8%で最も多く、次いで「する」が30.0%、「あまりしない」が2.8%となっている。

小学生の保護者は、「よくする」が70.5%で最も多く、次いで「する」が27.8%、「あまりしない」が1.1%となっている。

中学生の保護者は、「よくする」が63.1%で最も多く、次いで「する」が32.2%、「あまりしない」が4.4%となっている。

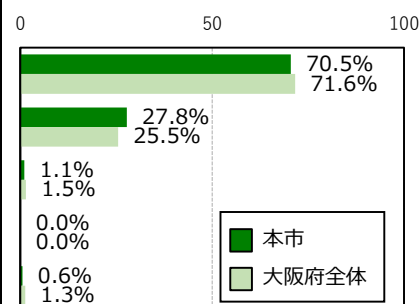
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	1,020名	66.8%	29,262名	67.5%
する	458名	30.0%	12,391名	28.6%
あまりしない	42名	2.8%	1,110名	2.6%
しない	-	-	30名	0.1%
無回答	7名	0.5%	565名	1.3%



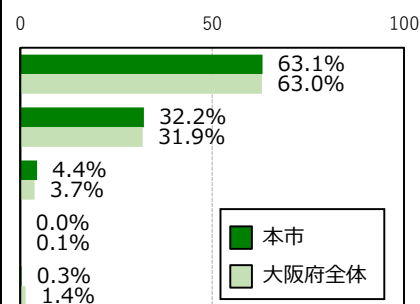
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	564名	70.5%	16,345名	71.6%
する	222名	27.8%	5,827名	25.5%
あまりしない	9名	1.1%	337名	1.5%
しない	-	-	10名	0.0%
無回答	5名	0.6%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	374名	63.1%	12,214名	63.0%
する	191名	32.2%	6,176名	31.9%
あまりしない	26名	4.4%	719名	3.7%
しない	-	-	19名	0.1%
無回答	2名	0.3%	262名	1.4%



子どもに関することについて

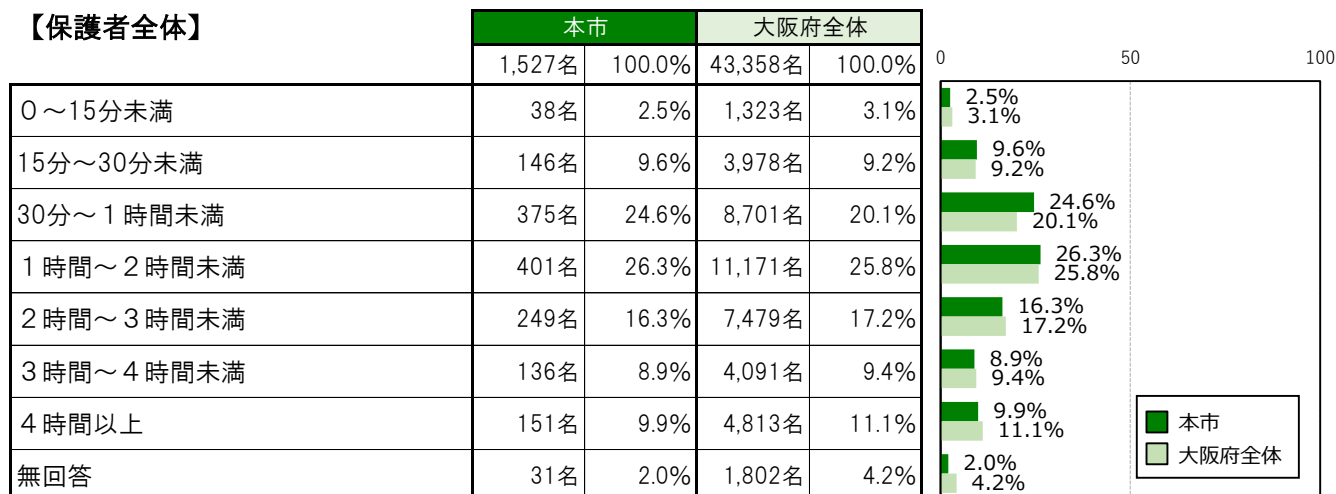
問13（３）平日での子どもとの関わり時間

保護者全体は、「１時間～２時間未満」が26.3%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」が24.6%、「２時間～３時間未満」が16.3%、「４時間以上」が9.9%となっている。

小学生の保護者は、「１時間～２時間未満」が24.9%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」が23.6%、「２時間～３時間未満」が17.8%、「４時間以上」が12.4%となっている。

中学生の保護者は、「１時間～２時間未満」が27.5%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」が23.6%、「２時間～３時間未満」が15.2%、「15分～30分未満」が12.1%となっている。

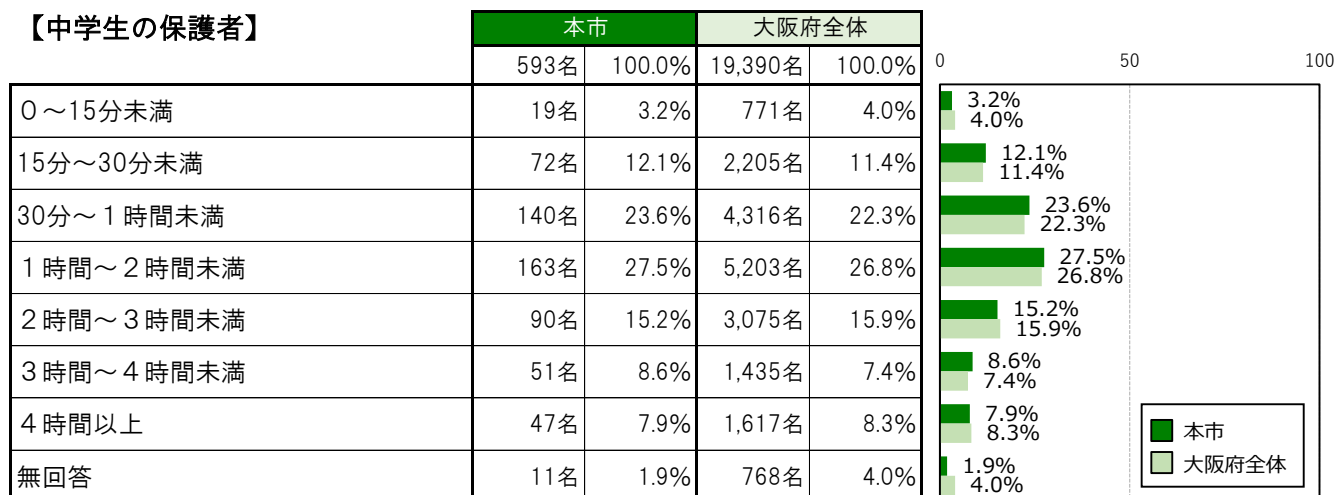
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13（３）休日での子どもとの関わり時間

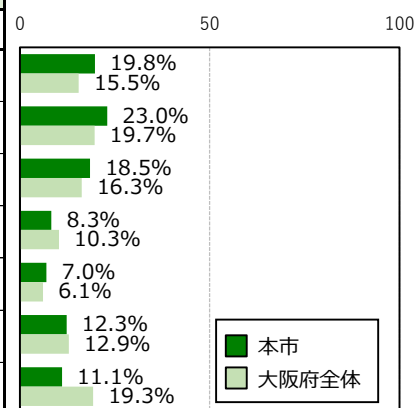
保護者全体は、「２時間～４時間未満」が23.0%で最も多く、次いで「２時間未満」が19.8%、「４時間～６時間未満」が18.5%、「10時間以上」が12.3%となっている。

小学生の保護者は、「２時間～４時間未満」が20.8%で最も多く、次いで「４時間～６時間未満」が18.5%、「10時間以上」が15.9%、「２時間未満」が14.4%となっている。

中学生の保護者は、「２時間～４時間未満」が24.8%で最も多く、次いで「２時間未満」が24.1%、「４時間～６時間未満」が18.7%、「10時間以上」が8.6%となっている。

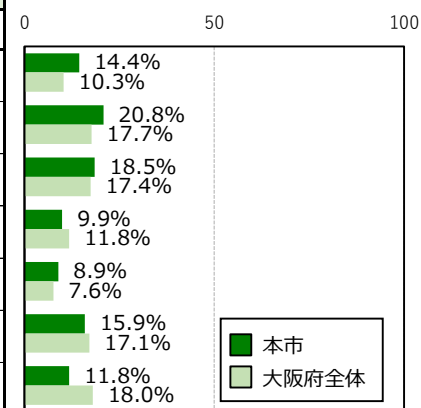
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,358名	100.0%
２時間未満	302名	19.8%	6,723名	15.5%
２時間～４時間未満	351名	23.0%	8,521名	19.7%
４時間～６時間未満	282名	18.5%	7,050名	16.3%
６時間～８時間未満	127名	8.3%	4,454名	10.3%
８時間～10時間未満	107名	7.0%	2,659名	6.1%
10時間以上	188名	12.3%	5,577名	12.9%
無回答	170名	11.1%	8,374名	19.3%



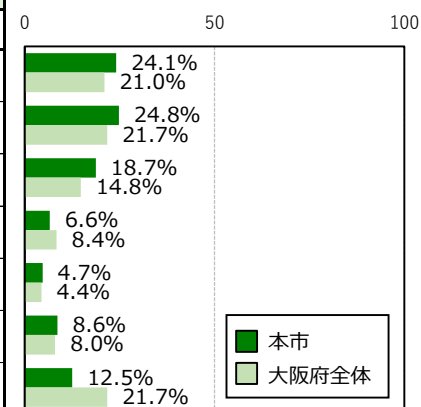
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,819名	100.0%
２時間未満	115名	14.4%	2,357名	10.3%
２時間～４時間未満	166名	20.8%	4,031名	17.7%
４時間～６時間未満	148名	18.5%	3,977名	17.4%
６時間～８時間未満	79名	9.9%	2,700名	11.8%
８時間～10時間未満	71名	8.9%	1,740名	7.6%
10時間以上	127名	15.9%	3,896名	17.1%
無回答	94名	11.8%	4,118名	18.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,390名	100.0%
２時間未満	143名	24.1%	4,070名	21.0%
２時間～４時間未満	147名	24.8%	4,216名	21.7%
４時間～６時間未満	111名	18.7%	2,876名	14.8%
６時間～８時間未満	39名	6.6%	1,632名	8.4%
８時間～10時間未満	28名	4.7%	845名	4.4%
10時間以上	51名	8.6%	1,542名	8.0%
無回答	74名	12.5%	4,209名	21.7%



子どもに関することについて

問13（４）子どもの将来への期待度

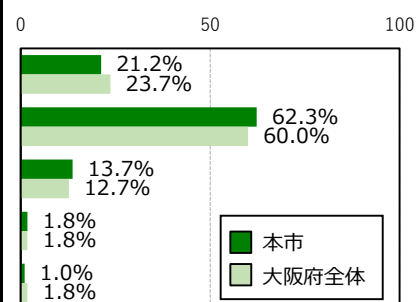
保護者全体は、「期待している」が62.3%で最も多く、次いで「とても期待している」が21.2%、「あまり期待していない」が13.7%となっている。

小学生の保護者は、「期待している」が61.9%で最も多く、次いで「とても期待している」が22.5%、「あまり期待していない」が12.6%となっている。

中学生の保護者は、「期待している」が63.2%で最も多く、次いで「とても期待している」が19.6%、「あまり期待していない」が14.8%となっている。

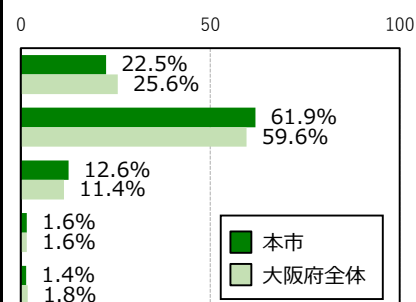
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	324名	21.2%	10,264名	23.7%
期待している	952名	62.3%	26,035名	60.0%
あまり期待していない	209名	13.7%	5,485名	12.7%
期待していない	27名	1.8%	779名	1.8%
無回答	15名	1.0%	795名	1.8%



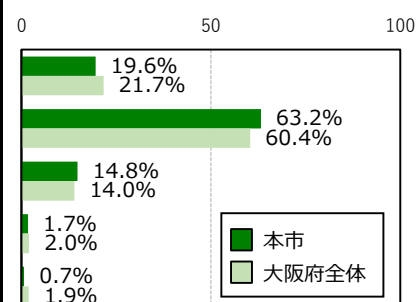
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	180名	22.5%	5,831名	25.6%
期待している	495名	61.9%	13,610名	59.6%
あまり期待していない	101名	12.6%	2,603名	11.4%
期待していない	13名	1.6%	363名	1.6%
無回答	11名	1.4%	412名	1.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	116名	19.6%	4,207名	21.7%
期待している	375名	63.2%	11,704名	60.4%
あまり期待していない	88名	14.8%	2,717名	14.0%
期待していない	10名	1.7%	388名	2.0%
無回答	4名	0.7%	374名	1.9%



子どもに関することについて

問13（５）子どもの授業参観や運動会などの学校行事への参加状況

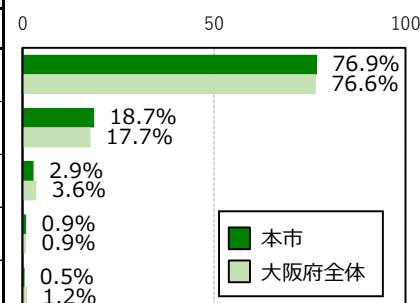
保護者全体は、「よく参加している」が76.9%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が18.7%、「あまり参加していない」が2.9%となっている。

小学生の保護者は、「よく参加している」が86.8%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が11.4%、「あまり参加していない」が1.1%となっている。

中学生の保護者は、「よく参加している」が64.8%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が27.5%、「あまり参加していない」が5.6%となっている。

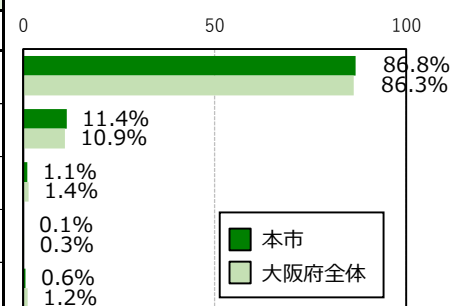
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	1,175名	76.9%	33,215名	76.6%
ときどき参加している	286名	18.7%	7,691名	17.7%
あまり参加していない	45名	2.9%	1,550名	3.6%
まったく参加していない	14名	0.9%	376名	0.9%
無回答	7名	0.5%	526名	1.2%



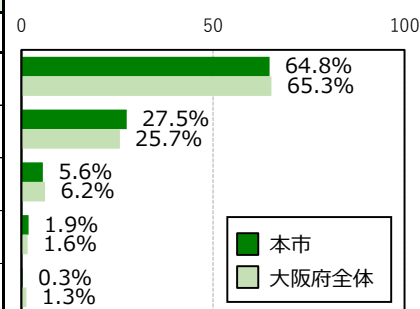
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	694名	86.8%	19,697名	86.3%
ときどき参加している	91名	11.4%	2,477名	10.9%
あまり参加していない	9名	1.1%	309名	1.4%
まったく参加していない	1名	0.1%	58名	0.3%
無回答	5名	0.6%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	384名	64.8%	12,665名	65.3%
ときどき参加している	163名	27.5%	4,975名	25.7%
あまり参加していない	33名	5.6%	1,202名	6.2%
まったく参加していない	11名	1.9%	304名	1.6%
無回答	2名	0.3%	244名	1.3%



子どもに関することについて

問14 子どもに希望する進学

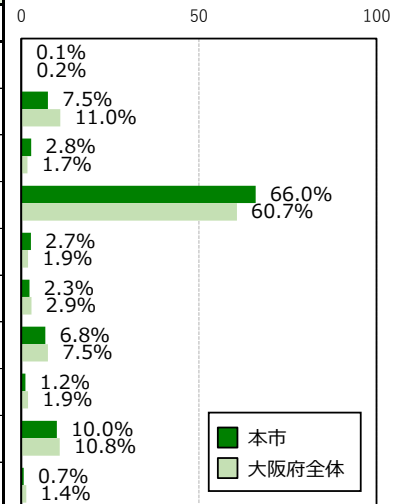
保護者全体は、「大学」が66.0%で最も多く、次いで「高校」が7.5%、「専門学校・高等専門学校」が6.8%、「短期大学」が2.8%となっている。

小学生の保護者は、「大学」が64.8%で最も多く、次いで「専門学校・高等専門学校」が6.5%、「高校」が6.4%、「大学院」が3.4%となっている。

中学生の保護者は、「大学」が66.8%で最も多く、次いで「高校」が9.6%、「専門学校・高等専門学校」が7.9%、「短期大学」が2.4%となっている。

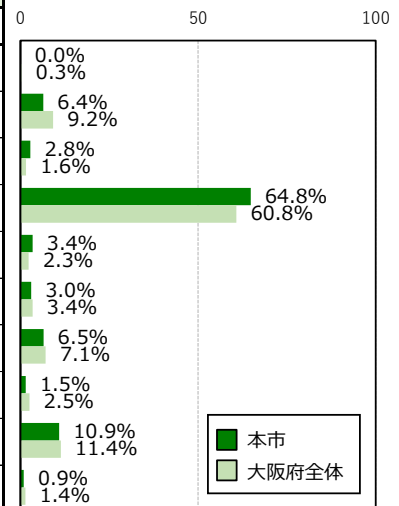
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,358名	100.0%
中学校	1名	0.1%	106名	0.2%
高校	115名	7.5%	4,765名	11.0%
短期大学	42名	2.8%	716名	1.7%
大学	1,008名	66.0%	26,334名	60.7%
大学院	41名	2.7%	827名	1.9%
留学	35名	2.3%	1,261名	2.9%
専門学校・高等専門学校	104名	6.8%	3,262名	7.5%
考えたことがない	18名	1.2%	818名	1.9%
わからない	152名	10.0%	4,674名	10.8%
無回答	11名	0.7%	595名	1.4%



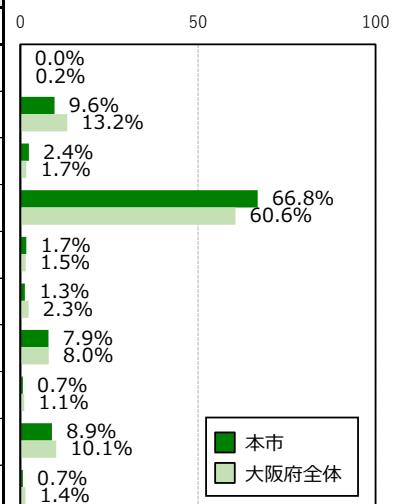
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,819名	100.0%
中学校	-	-	72名	0.3%
高校	51名	6.4%	2,090名	9.2%
短期大学	22名	2.8%	366名	1.6%
大学	518名	64.8%	13,868名	60.8%
大学院	27名	3.4%	519名	2.3%
留学	24名	3.0%	786名	3.4%
専門学校・高等専門学校	52名	6.5%	1,631名	7.1%
考えたことがない	12名	1.5%	579名	2.5%
わからない	87名	10.9%	2,592名	11.4%
無回答	7名	0.9%	316名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,390名	100.0%
中学校	-	-	31名	0.2%
高校	57名	9.6%	2,557名	13.2%
短期大学	14名	2.4%	322名	1.7%
大学	396名	66.8%	11,753名	60.6%
大学院	10名	1.7%	285名	1.5%
留学	8名	1.3%	451名	2.3%
専門学校・高等専門学校	47名	7.9%	1,548名	8.0%
考えたことがない	4名	0.7%	219名	1.1%
わからない	53名	8.9%	1,951名	10.1%
無回答	4名	0.7%	273名	1.4%



子どもに関することについて

問15 子どもの通学状況

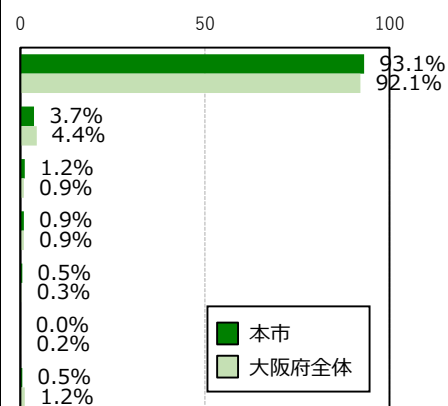
保護者全体は、「ほぼ毎日通っている」が93.1%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が3.7%、「欠席が年間30日以上、60日未満である」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が94.3%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が3.3%、「欠席が年間30日以上、60日未満である」、「欠席が年間60日以上、1年未満である」がそれぞれ0.8%となっている。

中学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が91.7%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が4.4%、「欠席が年間30日以上、60日未満である」、「欠席が年間60日以上、1年未満である」がそれぞれ1.3%となっている。

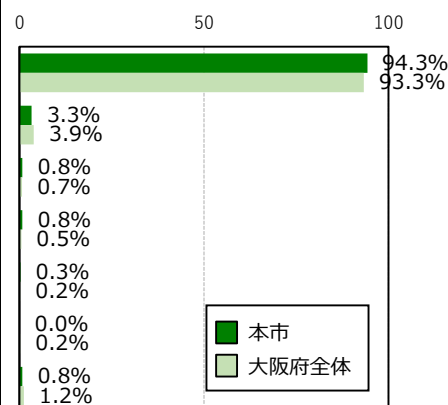
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	1,527名	100.0%	43,358名	100.0%
欠席は年間30日未満である	56名	3.7%	1,900名	4.4%
欠席が年間30日以上、60日未満である	19名	1.2%	406名	0.9%
欠席が年間60日以上、1年未満である	14名	0.9%	379名	0.9%
欠席が1年以上続いている	8名	0.5%	127名	0.3%
わからない	-	-	108名	0.2%
無回答	8名	0.5%	522名	1.2%



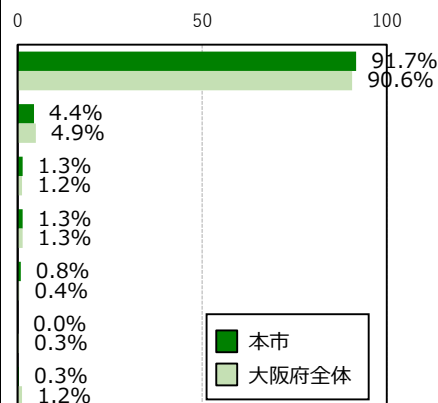
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	754名	94.3%	21,301名	93.3%
欠席は年間30日未満である	26名	3.3%	895名	3.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	6名	0.8%	158名	0.7%
欠席が年間60日以上、1年未満である	6名	0.8%	107名	0.5%
欠席が1年以上続いている	2名	0.3%	36名	0.2%
わからない	-	-	44名	0.2%
無回答	6名	0.8%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	544名	91.7%	17,568名	90.6%
欠席は年間30日未満である	26名	4.4%	945名	4.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	8名	1.3%	232名	1.2%
欠席が年間60日以上、1年未満である	8名	1.3%	257名	1.3%
欠席が1年以上続いている	5名	0.8%	86名	0.4%
わからない	-	-	62名	0.3%
無回答	2名	0.3%	240名	1.2%



子どもに関することについて

問16（１）子どもの居場所の利用経験

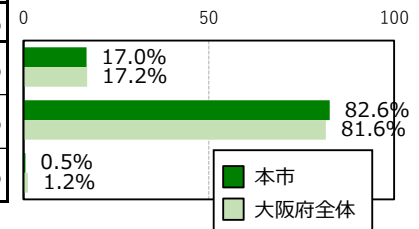
保護者全体は、「利用したことがある」が17.0%、「利用したことがない」が82.6%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがある」が20.6%、「利用したことがない」が78.8%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがある」が13.5%、「利用したことがない」が86.3%となっている。

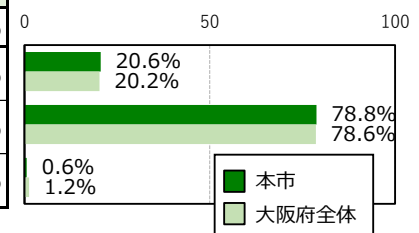
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,358名	100.0%
利用したことがある	259名	17.0%	7,459名	17.2%
利用したことがない	1,261名	82.6%	35,367名	81.6%
無回答	7名	0.5%	532名	1.2%



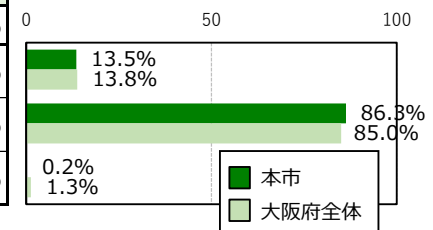
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,819名	100.0%
利用したことがある	165名	20.6%	4,599名	20.2%
利用したことがない	630名	78.8%	17,945名	78.6%
無回答	5名	0.6%	275名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,390名	100.0%
利用したことがある	80名	13.5%	2,667名	13.8%
利用したことがない	512名	86.3%	16,472名	85.0%
無回答	1名	0.2%	251名	1.3%



子どもに関することについて

問16（2）子どもの居場所を利用することで良いと思うこと

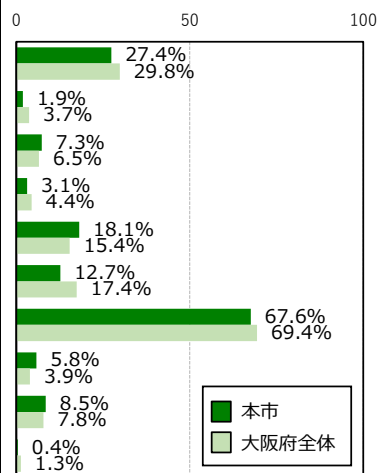
保護者全体は、「お子さんが楽しんでいるから」が67.6%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が27.4%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が18.1%、「宿題など勉強を見てくれるから」が12.7%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が72.1%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が25.5%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が17.6%、「宿題など勉強を見てくれるから」が11.5%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が56.3%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が32.5%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が20.0%、「宿題など勉強を見てくれるから」が13.8%となっている。

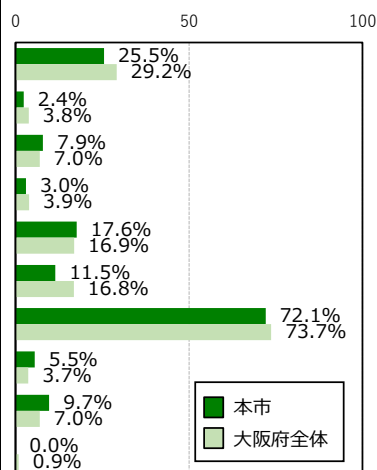
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	259名	100.0%	7,459名	100.0%
地域の人とつながれるから	71名	27.4%	2,226名	29.8%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	5名	1.9%	275名	3.7%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	19名	7.3%	484名	6.5%
運営者が相談に乗ってくれるから	8名	3.1%	329名	4.4%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	47名	18.1%	1,152名	15.4%
宿題など勉強を見てくれるから	33名	12.7%	1,301名	17.4%
お子さんが楽しんでいるから	175名	67.6%	5,178名	69.4%
特になし	15名	5.8%	291名	3.9%
その他	22名	8.5%	579名	7.8%
無回答	1名	0.4%	95名	1.3%



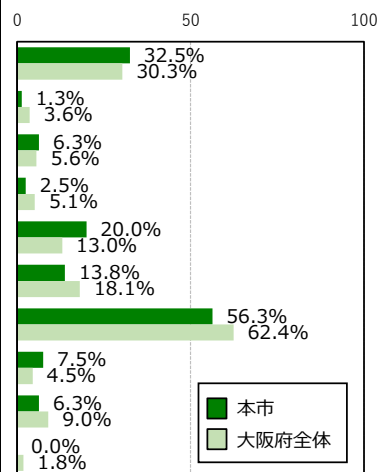
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	165名	100.0%	4,599名	100.0%
地域の人とつながれるから	42名	25.5%	1,344名	29.2%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	4名	2.4%	173名	3.8%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	13名	7.9%	322名	7.0%
運営者が相談に乗ってくれるから	5名	3.0%	180名	3.9%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	29名	17.6%	778名	16.9%
宿題など勉強を見てくれるから	19名	11.5%	773名	16.8%
お子さんが楽しんでいるから	119名	72.1%	3,388名	73.7%
特になし	9名	5.5%	168名	3.7%
その他	16名	9.7%	324名	7.0%
無回答	-	-	43名	0.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	80名	100.0%	2,667名	100.0%
地域の人とつながれるから	26名	32.5%	808名	30.3%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	1名	1.3%	97名	3.6%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	5名	6.3%	150名	5.6%
運営者が相談に乗ってくれるから	2名	2.5%	136名	5.1%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	16名	20.0%	348名	13.0%
宿題など勉強を見てくれるから	11名	13.8%	482名	18.1%
お子さんが楽しんでいるから	45名	56.3%	1,664名	62.4%
特になし	6名	7.5%	120名	4.5%
その他	5名	6.3%	241名	9.0%
無回答	-	-	47名	1.8%



子どもに関することについて

問16（3）子どもの居場所を利用しない理由

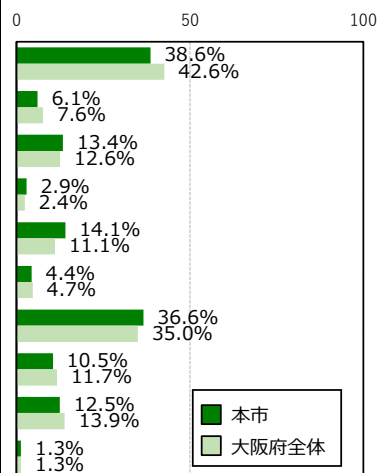
保護者全体は、「どこにあるか知らないから」が38.6%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が36.6%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が14.1%、「家で過ごしてほしいと思うから」が13.4%となっている。

小学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が41.6%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が31.6%、「何をしているかわからないから」が13.0%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が12.5%となっている。

中学生の保護者は、「利用したいと思わないから」が44.5%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が32.8%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が15.8%、「家で過ごしてほしいと思うから」が14.6%となっている。

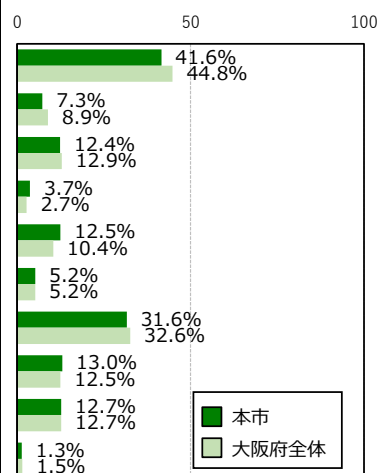
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,261名	100.0%	35,367名	100.0%
どこにあるか知らないから	487名	38.6%	15,060名	42.6%
家の近く（小学校区内）にないから	77名	6.1%	2,697名	7.6%
家で過ごしてほしいと思うから	169名	13.4%	4,452名	12.6%
居場所のイメージがよくないから	36名	2.9%	862名	2.4%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	178名	14.1%	3,936名	11.1%
行きたい日・時間に開いていないから	56名	4.4%	1,647名	4.7%
利用したいと思わないから	462名	36.6%	12,386名	35.0%
何をしているかわからないから	132名	10.5%	4,149名	11.7%
その他	157名	12.5%	4,908名	13.9%
無回答	16名	1.3%	473名	1.3%



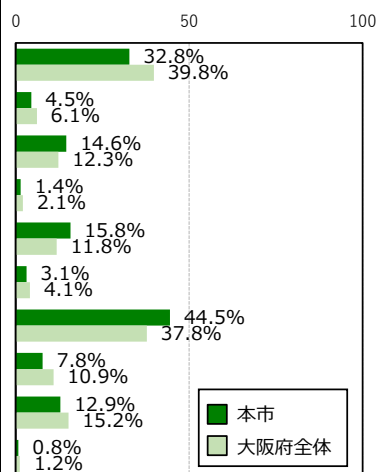
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	630名	100.0%	17,945名	100.0%
どこにあるか知らないから	262名	41.6%	8,048名	44.8%
家の近く（小学校区内）にないから	46名	7.3%	1,594名	8.9%
家で過ごしてほしいと思うから	78名	12.4%	2,318名	12.9%
居場所のイメージがよくないから	23名	3.7%	476名	2.7%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	79名	12.5%	1,873名	10.4%
行きたい日・時間に開いていないから	33名	5.2%	936名	5.2%
利用したいと思わないから	199名	31.6%	5,849名	32.6%
何をしているかわからないから	82名	13.0%	2,243名	12.5%
その他	80名	12.7%	2,278名	12.7%
無回答	8名	1.3%	261名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	512名	100.0%	16,472名	100.0%
どこにあるか知らないから	168名	32.8%	6,563名	39.8%
家の近く（小学校区内）にないから	23名	4.5%	1,006名	6.1%
家で過ごしてほしいと思うから	75名	14.6%	2,030名	12.3%
居場所のイメージがよくないから	7名	1.4%	347名	2.1%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	81名	15.8%	1,950名	11.8%
行きたい日・時間に開いていないから	16名	3.1%	673名	4.1%
利用したいと思わないから	228名	44.5%	6,227名	37.8%
何をしているかわからないから	40名	7.8%	1,797名	10.9%
その他	66名	12.9%	2,509名	15.2%
無回答	4名	0.8%	195名	1.2%



保護者のことについて

問17 初めて親となった年齢

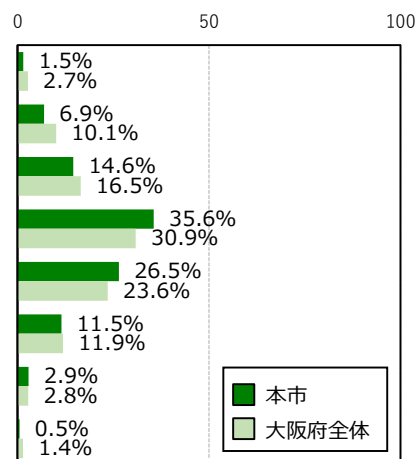
保護者全体は、「27～30歳」が35.6%で最も多く、次いで「31～34歳」が26.5%、「24～26歳」が14.6%、「35～39歳」が11.5%となっている。

小学生の保護者は、「27～30歳」が32.9%で最も多く、次いで「31～34歳」が27.1%、「24～26歳」が14.9%、「35～39歳」が13.1%となっている。

中学生の保護者は、「27～30歳」が37.9%で最も多く、次いで「31～34歳」が25.1%、「24～26歳」が14.0%、「35～39歳」が10.8%となっている。

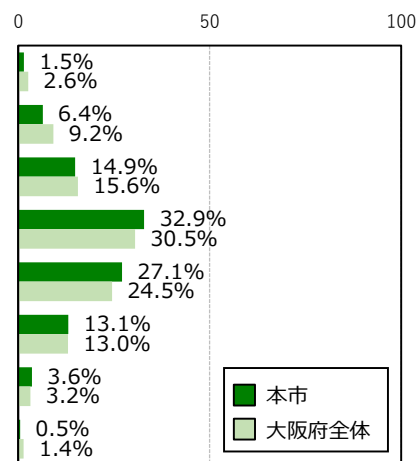
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
10代	23名	1.5%	1,166名	2.7%
20～23歳	106名	6.9%	4,373名	10.1%
24～26歳	223名	14.6%	7,159名	16.5%
27～30歳	544名	35.6%	13,389名	30.9%
31～34歳	404名	26.5%	10,233名	23.6%
35～39歳	175名	11.5%	5,150名	11.9%
40歳以上	45名	2.9%	1,206名	2.8%
無回答	7名	0.5%	624名	1.4%



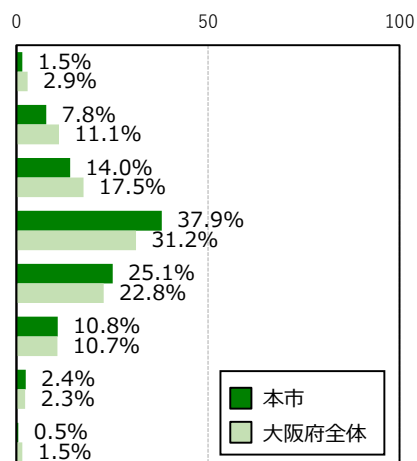
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
10代	12名	1.5%	587名	2.6%
20～23歳	51名	6.4%	2,104名	9.2%
24～26歳	119名	14.9%	3,559名	15.6%
27～30歳	263名	32.9%	6,941名	30.5%
31～34歳	217名	27.1%	5,575名	24.5%
35～39歳	105名	13.1%	2,969名	13.0%
40歳以上	29名	3.6%	735名	3.2%
無回答	4名	0.5%	316名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
10代	9名	1.5%	552名	2.9%
20～23歳	46名	7.8%	2,142名	11.1%
24～26歳	83名	14.0%	3,389名	17.5%
27～30歳	225名	37.9%	6,049名	31.2%
31～34歳	149名	25.1%	4,419名	22.8%
35～39歳	64名	10.8%	2,069名	10.7%
40歳以上	14名	2.4%	447名	2.3%
無回答	3名	0.5%	298名	1.5%



保護者のことについて

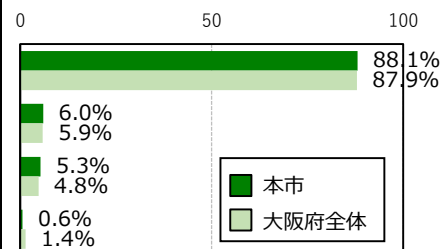
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

保護者全体は、「いる」が88.1%、「いない」が6.0%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が87.9%、「いない」が7.0%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が88.0%、「いない」が4.7%となっている。

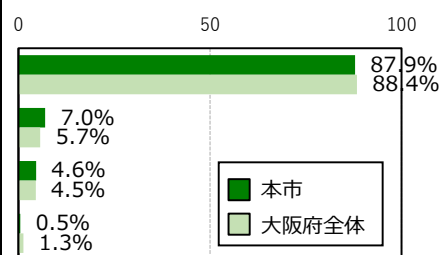
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,345名	88.1%	38,049名	87.9%
いない	92名	6.0%	2,548名	5.9%
わからない	81名	5.3%	2,099名	4.8%
無回答	9名	0.6%	604名	1.4%



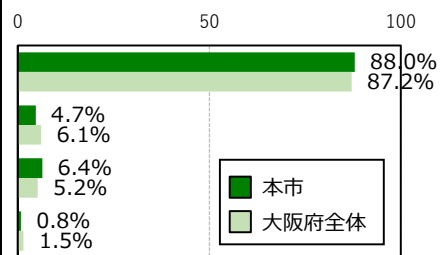
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	703名	87.9%	20,150名	88.4%
いない	56名	7.0%	1,304名	5.7%
わからない	37名	4.6%	1,026名	4.5%
無回答	4名	0.5%	306名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	522名	88.0%	16,885名	87.2%
いない	28名	4.7%	1,173名	6.1%
わからない	38名	6.4%	1,016名	5.2%
無回答	5名	0.8%	291名	1.5%



保護者のことについて

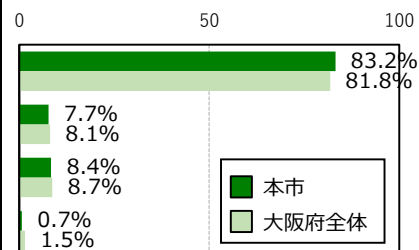
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

②気持ちを察して思いやってくれる人

保護者全体は、「いる」が83.2%、「いない」が7.7%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が82.9%、「いない」が8.5%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が83.3%、「いない」が6.4%となっている。

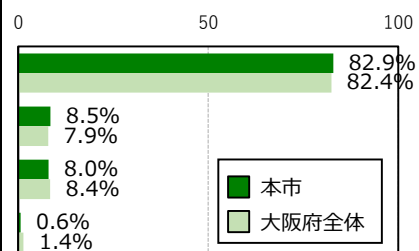
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,271名	83.2%	35,406名	81.8%
いない	117名	7.7%	3,491名	8.1%
わからない	128名	8.4%	3,748名	8.7%
無回答	11名	0.7%	655名	1.5%



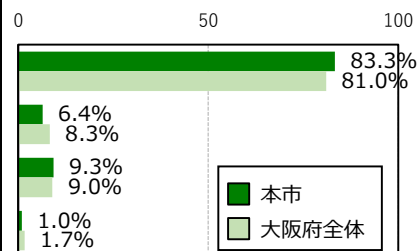
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	663名	82.9%	18,767名	82.4%
いない	68名	8.5%	1,791名	7.9%
わからない	64名	8.0%	1,904名	8.4%
無回答	5名	0.6%	324名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	494名	83.3%	15,691名	81.0%
いない	38名	6.4%	1,610名	8.3%
わからない	55名	9.3%	1,741名	9.0%
無回答	6名	1.0%	323名	1.7%



保護者のことについて

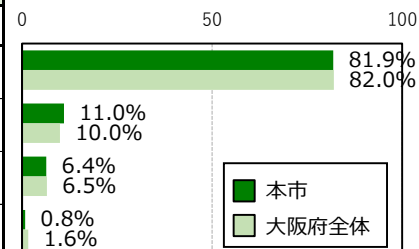
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

③趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人

保護者全体は、「いる」が81.9%、「いない」が11.0%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が81.8%、「いない」が10.6%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が81.1%、「いない」が11.6%となっている。

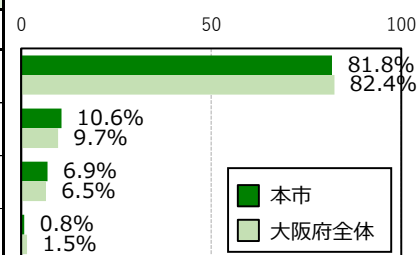
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,250名	81.9%	35,496名	82.0%
いない	168名	11.0%	4,317名	10.0%
わからない	97名	6.4%	2,806名	6.5%
無回答	12名	0.8%	681名	1.6%



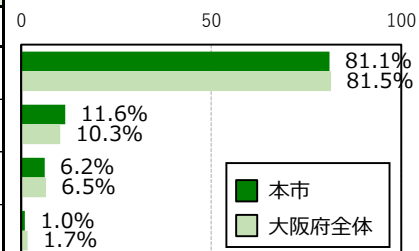
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	654名	81.8%	18,771名	82.4%
いない	85名	10.6%	2,201名	9.7%
わからない	55名	6.9%	1,474名	6.5%
無回答	6名	0.8%	340名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	481名	81.1%	15,782名	81.5%
いない	69名	11.6%	1,990名	10.3%
わからない	37名	6.2%	1,259名	6.5%
無回答	6名	1.0%	334名	1.7%



保護者のことについて

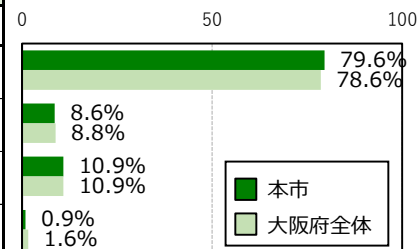
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

④子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

保護者全体は、「いる」が79.6%、「いない」が8.6%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が79.5%、「いない」が9.4%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が79.3%、「いない」が8.1%となっている。

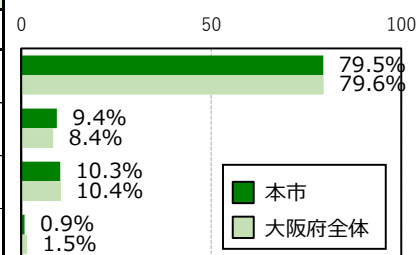
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,215名	79.6%	34,034名	78.6%
いない	132名	8.6%	3,824名	8.8%
わからない	166名	10.9%	4,731名	10.9%
無回答	14名	0.9%	711名	1.6%



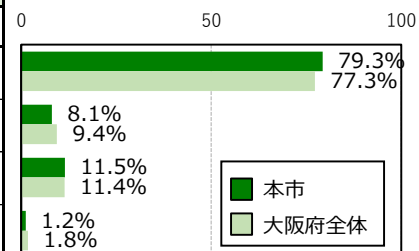
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	636名	79.5%	18,149名	79.6%
いない	75名	9.4%	1,912名	8.4%
わからない	82名	10.3%	2,381名	10.4%
無回答	7名	0.9%	344名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	470名	79.3%	14,966名	77.3%
いない	48名	8.1%	1,826名	9.4%
わからない	68名	11.5%	2,217名	11.4%
無回答	7名	1.2%	356名	1.8%



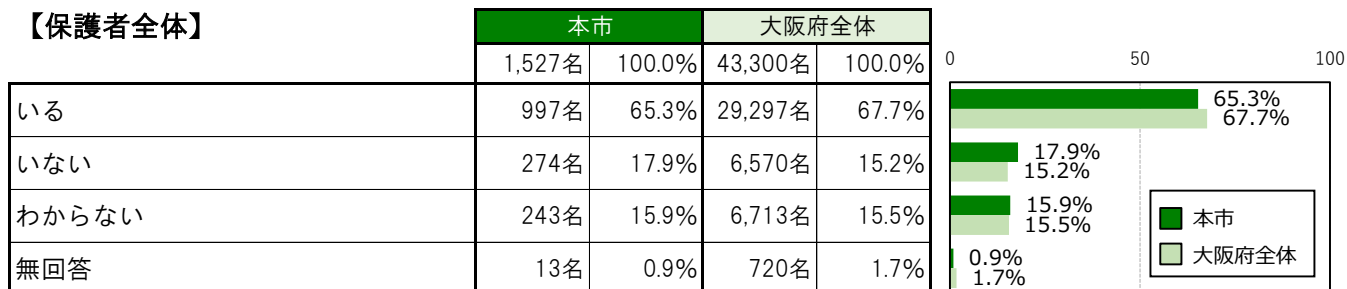
保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑤子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）

保護者全体は、「いる」が65.3%、「いない」が17.9%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が67.5%、「いない」が17.8%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が63.2%、「いない」が18.9%となっている。

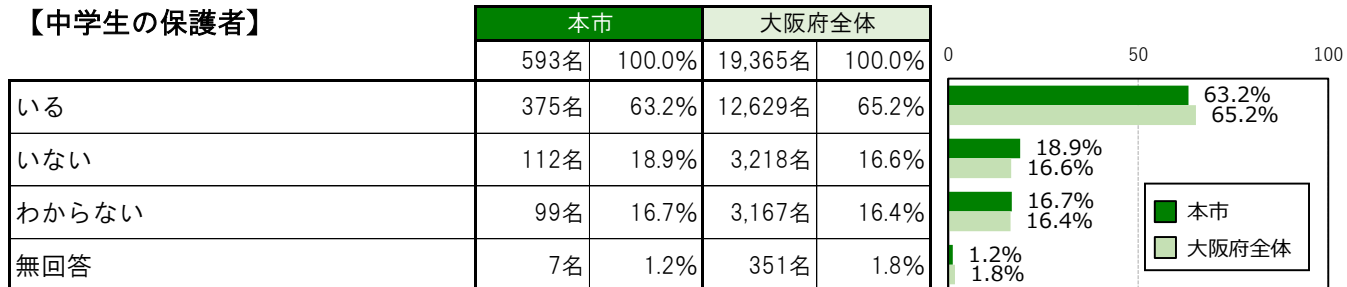
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

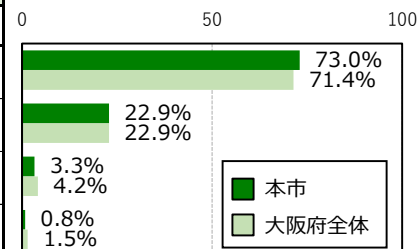
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑥子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人

保護者全体は、「いる」が73.0%、「いない」が22.9%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が71.6%、「いない」が24.4%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が75.0%、「いない」が20.9%となっている。

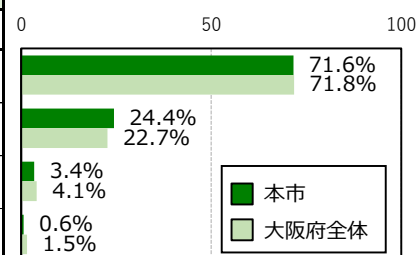
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,115名	73.0%	30,902名	71.4%
いない	350名	22.9%	9,922名	22.9%
わからない	50名	3.3%	1,822名	4.2%
無回答	12名	0.8%	654名	1.5%



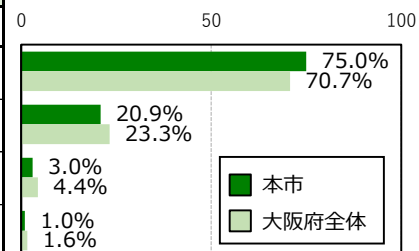
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	573名	71.6%	16,360名	71.8%
いない	195名	24.4%	5,164名	22.7%
わからない	27名	3.4%	930名	4.1%
無回答	5名	0.6%	332名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	445名	75.0%	13,687名	70.7%
いない	124名	20.9%	4,519名	23.3%
わからない	18名	3.0%	850名	4.4%
無回答	6名	1.0%	309名	1.6%



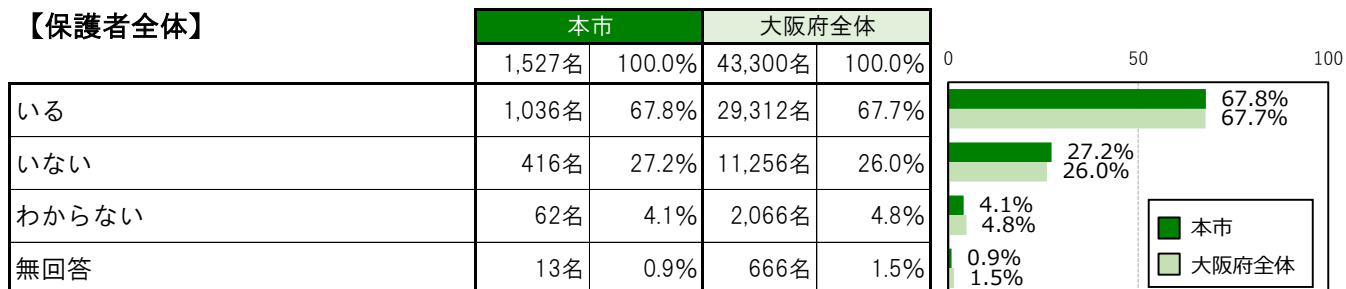
保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

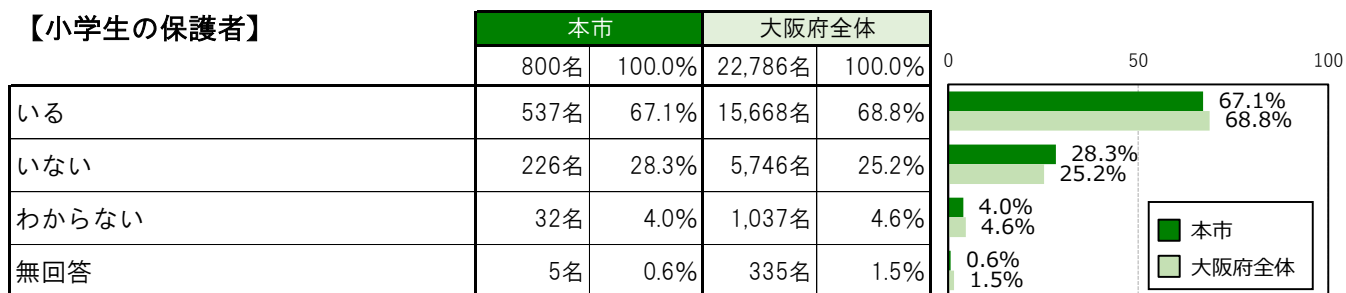
⑦留守を頼める人

保護者全体は、「いる」が67.8%、「いない」が27.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が67.1%、「いない」が28.3%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が70.2%、「いない」が24.6%となっている。

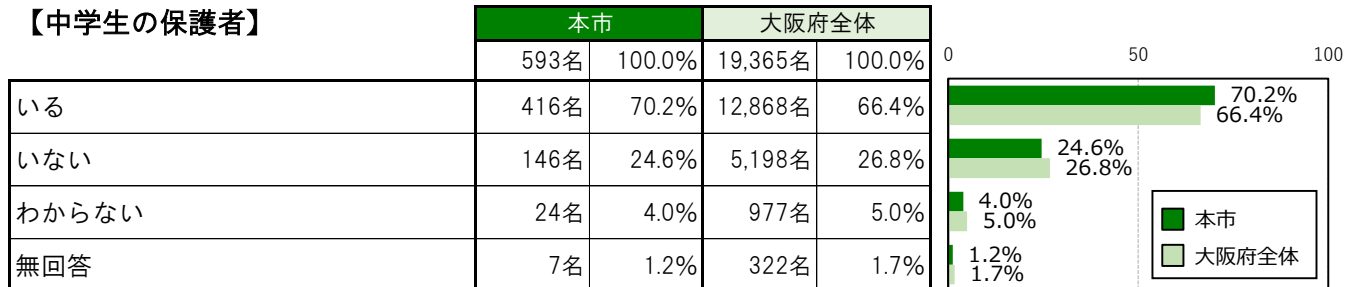
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

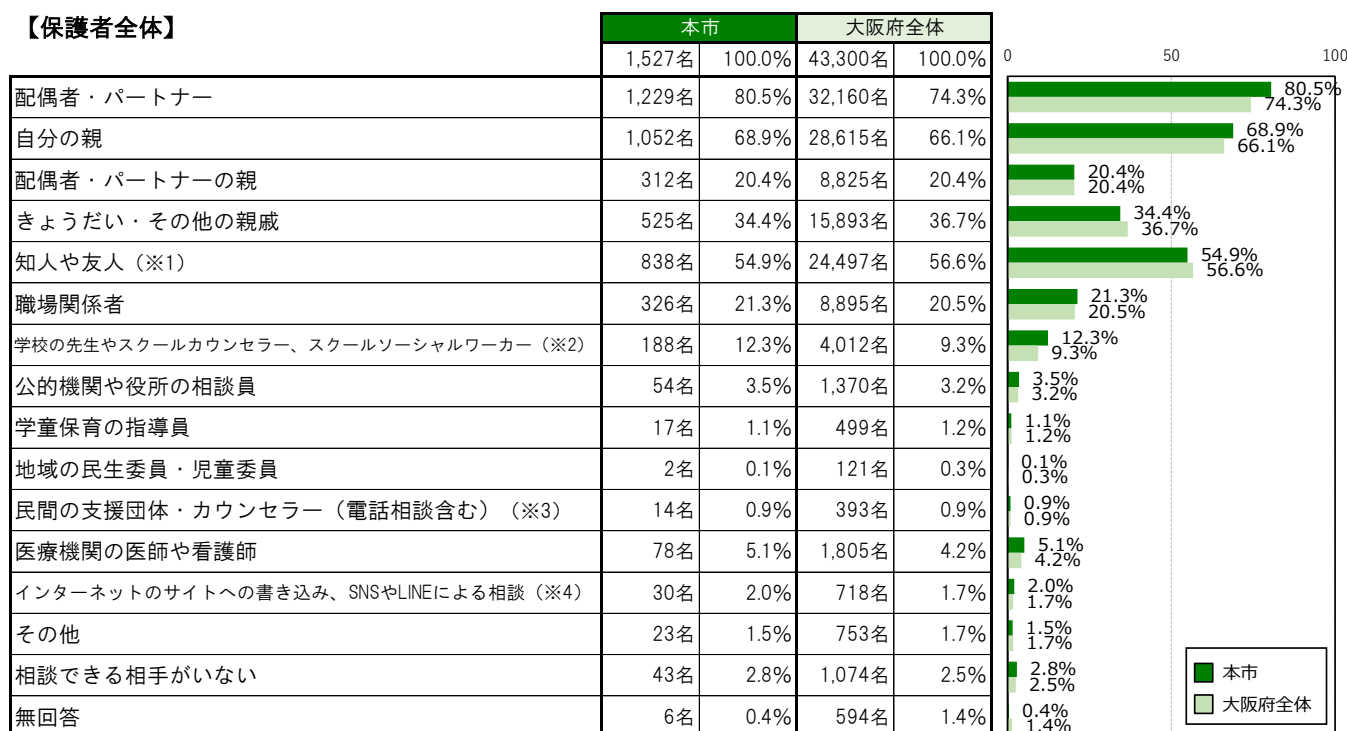
問19 本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

保護者全体は、「配偶者・パートナー」が80.5%で最も多く、次いで「自分の親」が68.9%、「知人や友人」が54.9%、「きょうだい・その他の親戚」が34.4%となっている。

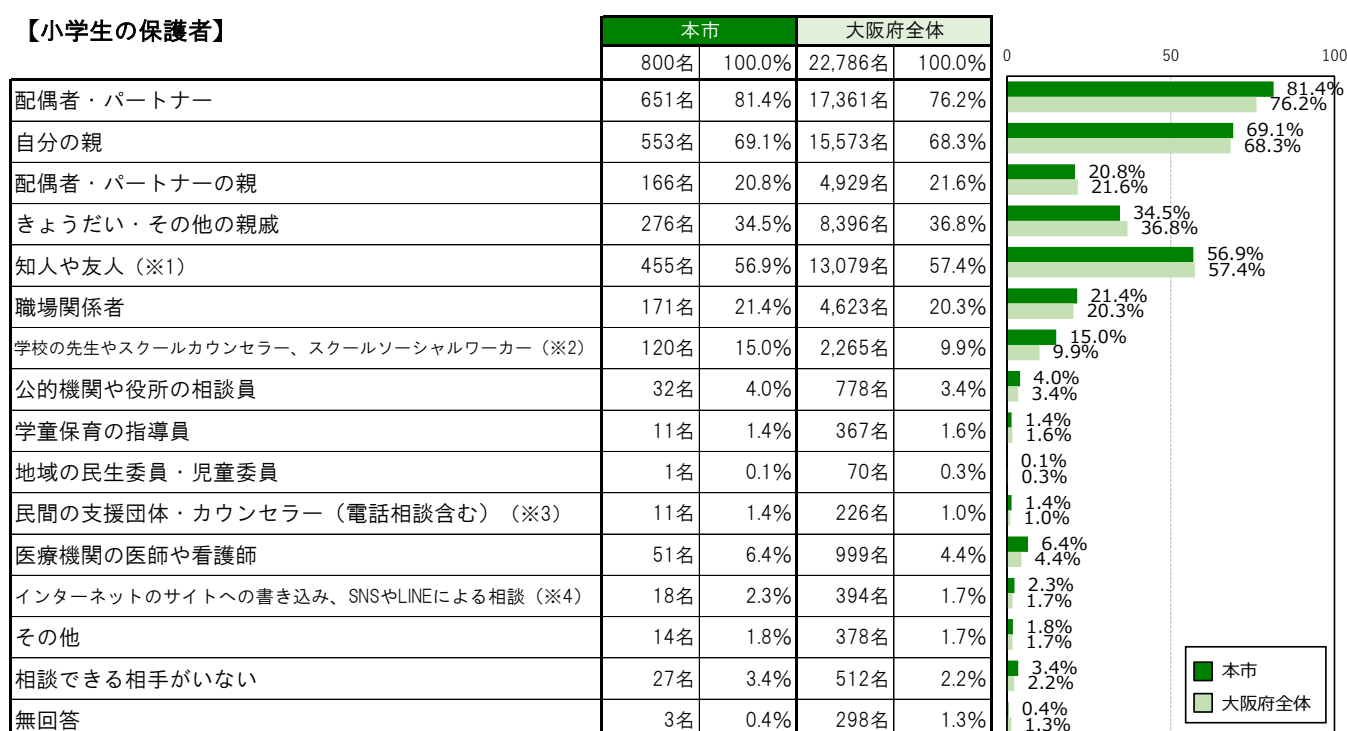
小学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が81.4%で最も多く、次いで「自分の親」が69.1%、「知人や友人」が56.9%、「きょうだい・その他の親戚」が34.5%となっている。

中学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が79.3%で最も多く、次いで「自分の親」が70.5%、「知人や友人」が51.8%、「きょうだい・その他の親戚」が35.4%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



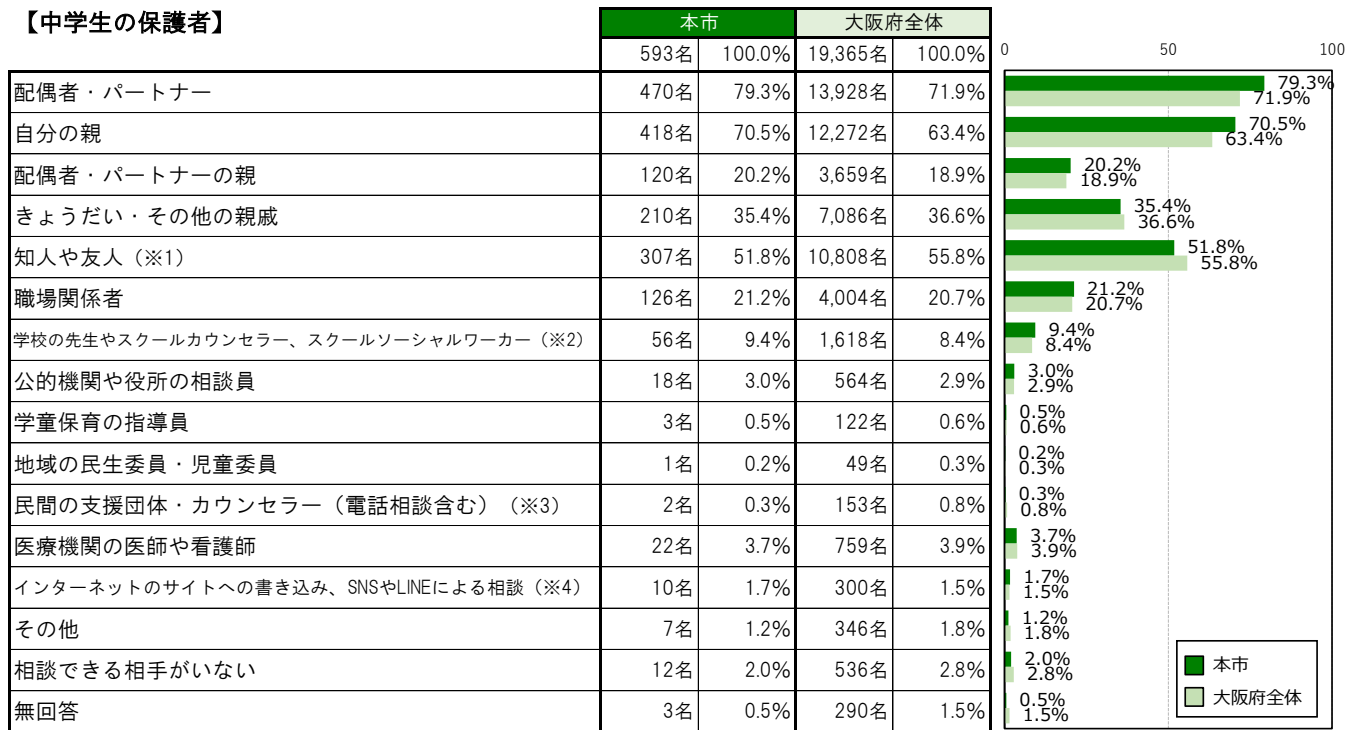
※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

【中学生の保護者】



※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

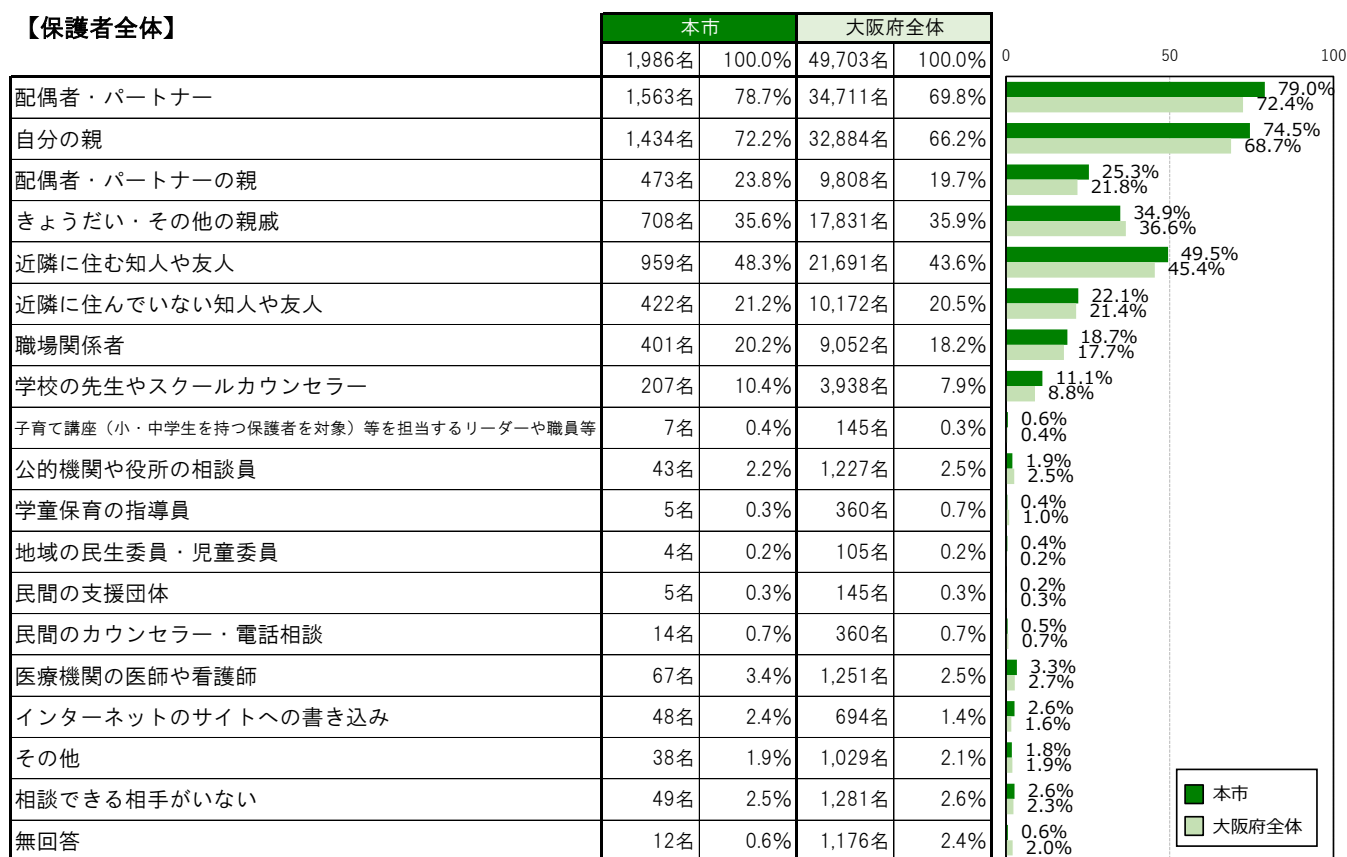
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「知人や友人」（2016年度は「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」の合計）が14.6ポイント低くなっている。

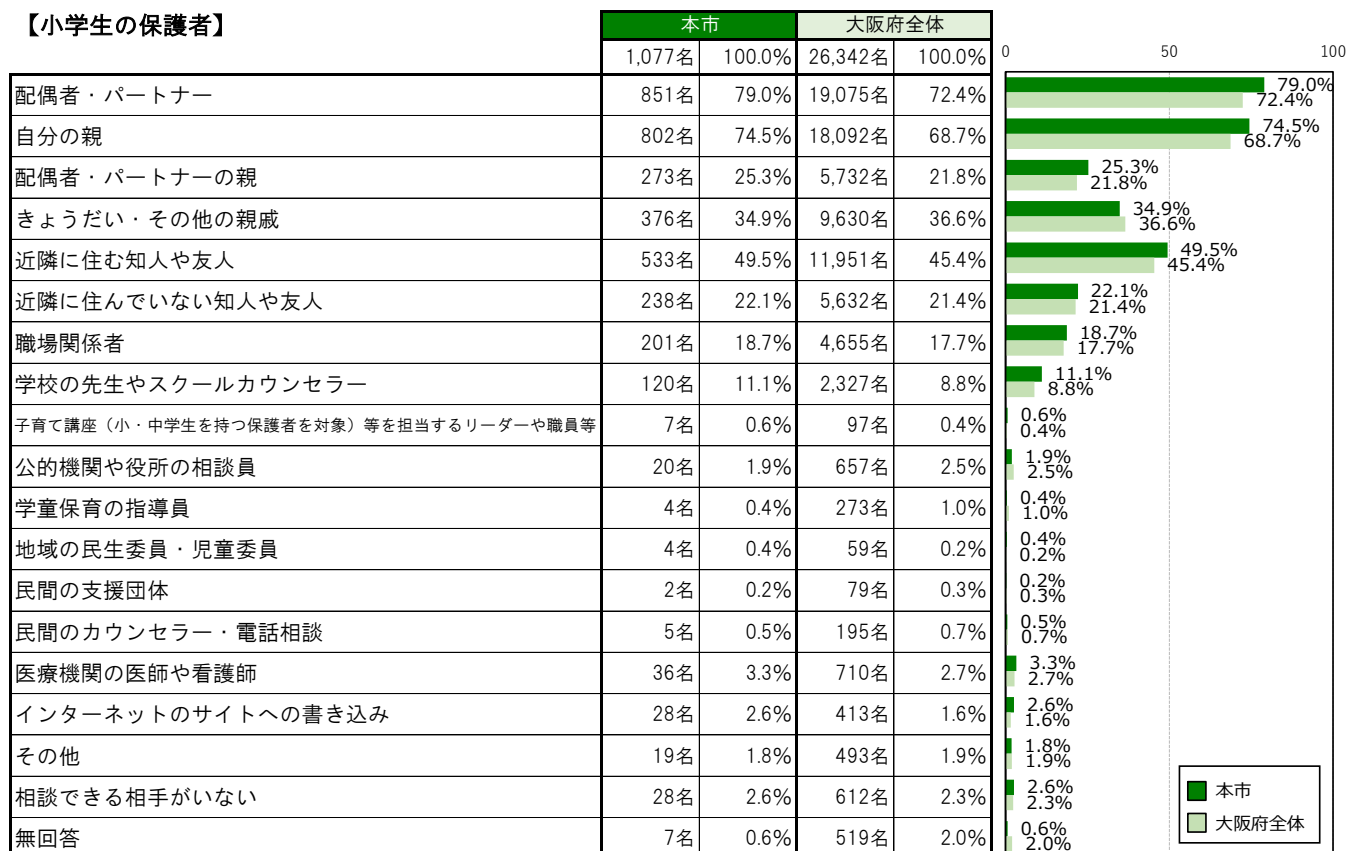
小学生の保護者は、「知人や友人」が14.7ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「知人や友人」が15.3ポイント低くなっている。

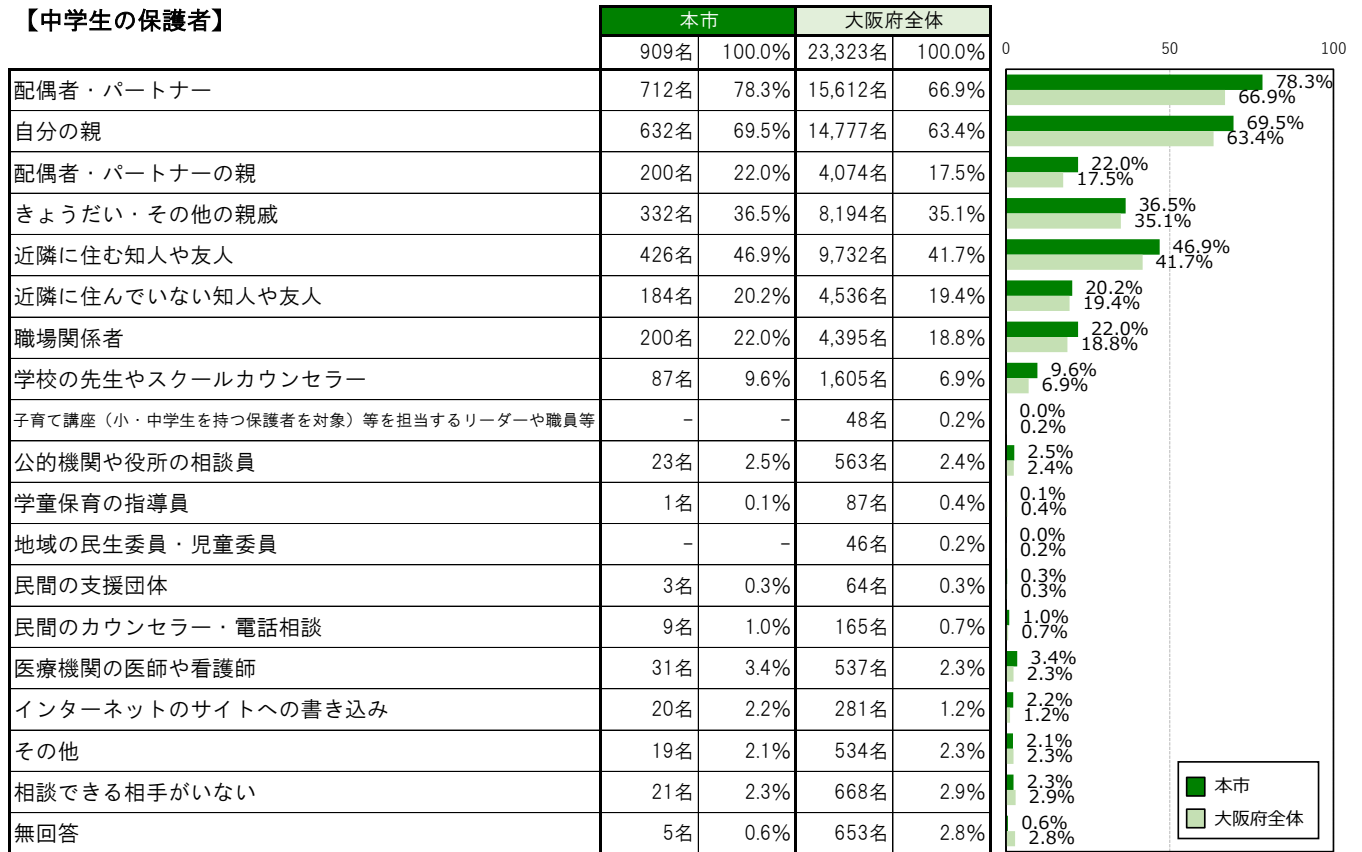
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



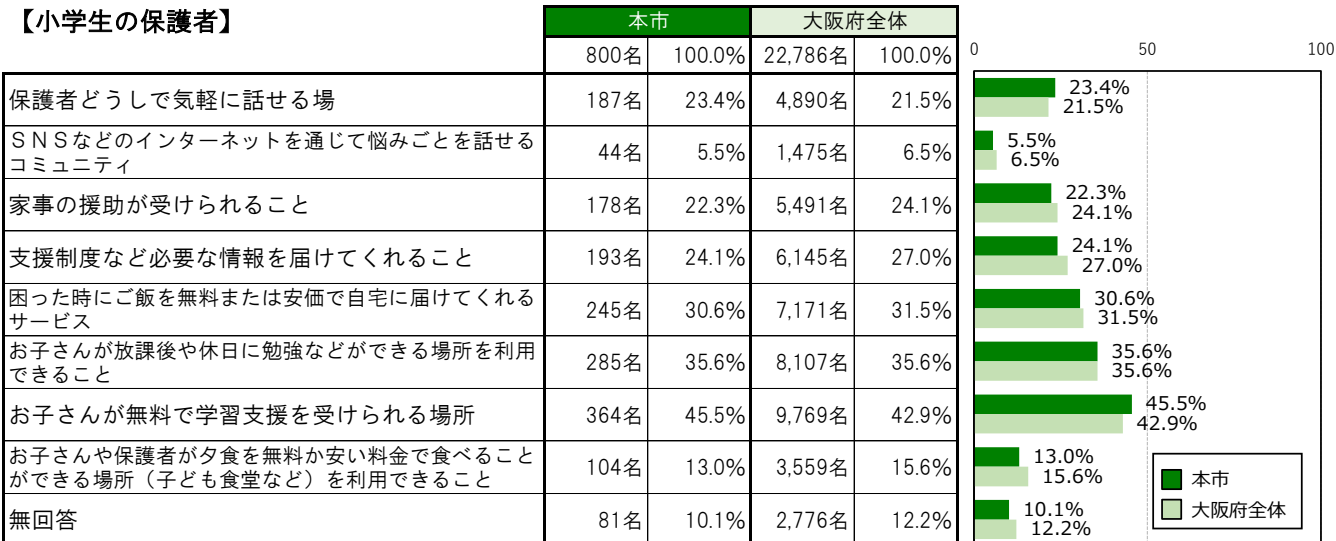
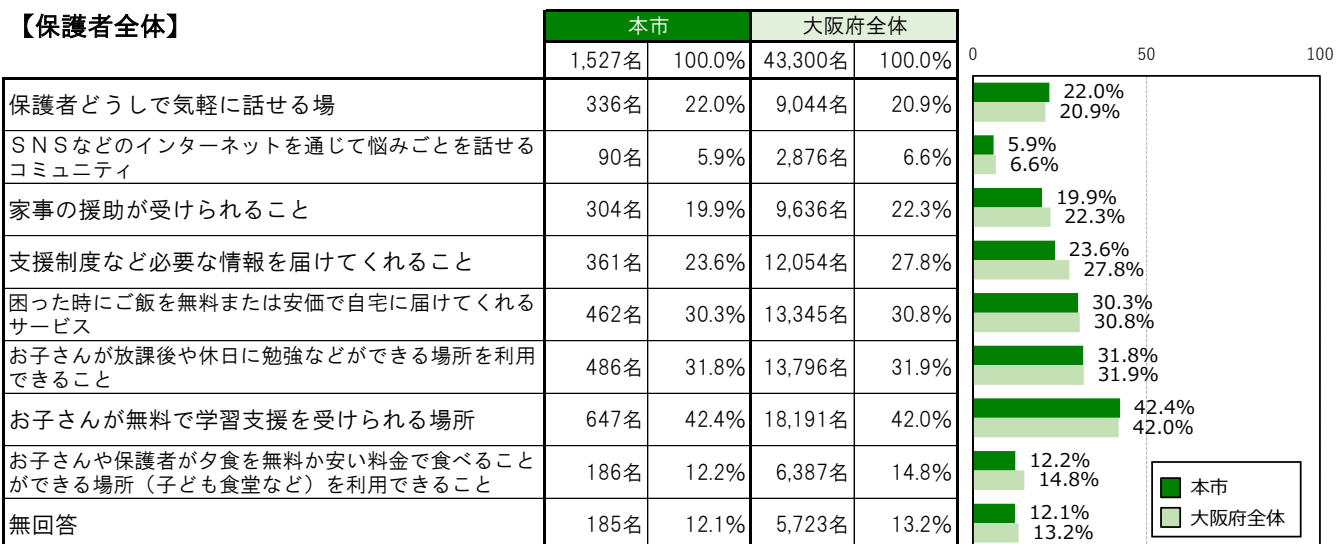
保護者のことについて

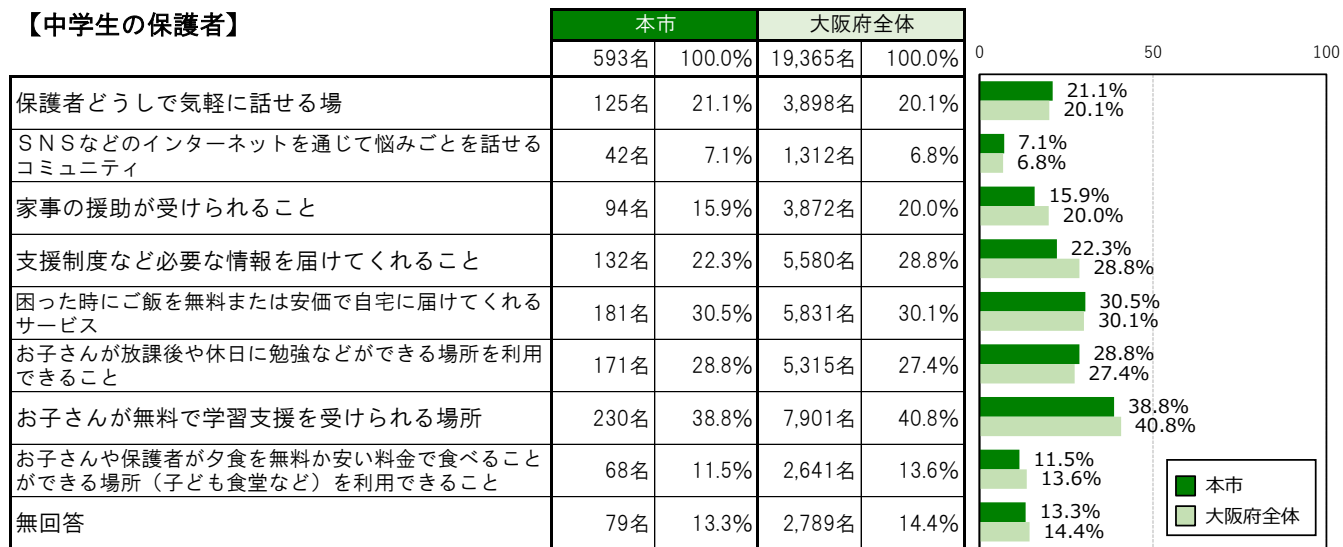
問20 身近にあると思うこと

保護者全体は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が42.4%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が31.8%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が30.3%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が45.5%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が35.6%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が30.6%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が38.8%で最も多く、次いで「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が30.5%、「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が28.8%となっている。





保護者のことについて

問21（１）生活を楽しんでいるか

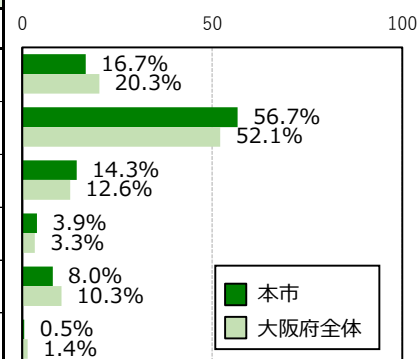
保護者全体は、「楽しんでいる」が56.7%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が16.7%、「あまり楽しんでいない」が14.3%、「楽しんでいない」が3.9%となっている。

小学生の保護者は、「楽しんでいる」が56.4%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が16.6%、「あまり楽しんでいない」が14.4%、「楽しんでいない」が3.6%となっている。

中学生の保護者は、「楽しんでいる」が56.0%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が16.9%、「あまり楽しんでいない」が14.5%、「楽しんでいない」が4.4%となっている。

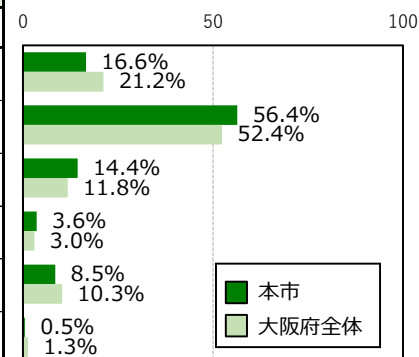
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
とても楽しんでいる	255名	16.7%	8,791名	20.3%
楽しんでいる	866名	56.7%	22,555名	52.1%
あまり楽しんでいない	218名	14.3%	5,466名	12.6%
楽しんでいない	59名	3.9%	1,411名	3.3%
わからない	122名	8.0%	4,473名	10.3%
無回答	7名	0.5%	604名	1.4%



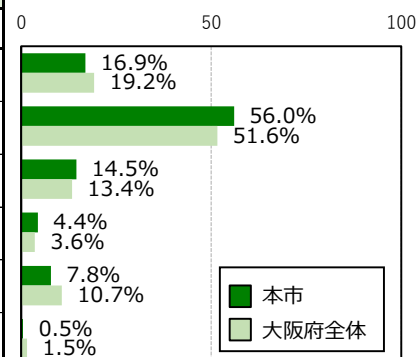
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
とても楽しんでいる	133名	16.6%	4,835名	21.2%
楽しんでいる	451名	56.4%	11,934名	52.4%
あまり楽しんでいない	115名	14.4%	2,699名	11.8%
楽しんでいない	29名	3.6%	680名	3.0%
わからない	68名	8.5%	2,340名	10.3%
無回答	4名	0.5%	298名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
とても楽しんでいる	100名	16.9%	3,719名	19.2%
楽しんでいる	332名	56.0%	9,994名	51.6%
あまり楽しんでいない	86名	14.5%	2,592名	13.4%
楽しんでいない	26名	4.4%	690名	3.6%
わからない	46名	7.8%	2,070名	10.7%
無回答	3名	0.5%	300名	1.5%



保護者のことについて

問21（２）将来に対して希望を持っているか

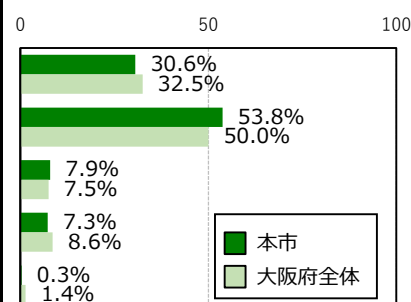
保護者全体は、「希望が持てる」ときもある、持てないときもある」が53.8%で最も多く、次いで「希望が持てる」が30.6%、「希望が持てない」が7.9%となっている。

小学生の保護者は、「希望が持てる」ときもある、持てないときもある」が53.1%で最も多く、次いで「希望が持てる」が31.3%、「希望が持てない」が8.3%となっている。

中学生の保護者は、「希望が持てる」ときもある、持てないときもある」が55.3%で最も多く、次いで「希望が持てる」が29.2%、「希望が持てない」が7.8%となっている。

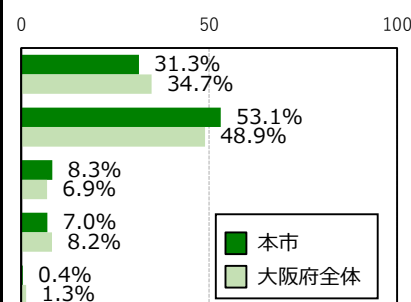
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
希望が持てる	468名	30.6%	14,080名	32.5%
希望が持てる」ときもある、持てないときもある	821名	53.8%	21,662名	50.0%
希望が持てない	121名	7.9%	3,239名	7.5%
わからない	112名	7.3%	3,718名	8.6%
無回答	5名	0.3%	601名	1.4%



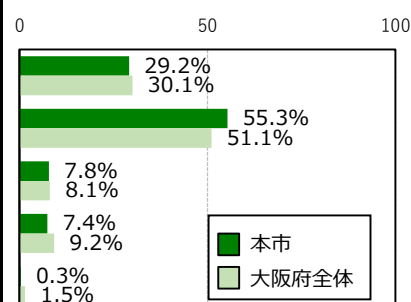
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
希望が持てる	250名	31.3%	7,896名	34.7%
希望が持てる」ときもある、持てないときもある	425名	53.1%	11,142名	48.9%
希望が持てない	66名	8.3%	1,575名	6.9%
わからない	56名	7.0%	1,874名	8.2%
無回答	3名	0.4%	299名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
希望が持てる	173名	29.2%	5,831名	30.1%
希望が持てる」ときもある、持てないときもある	328名	55.3%	9,890名	51.1%
希望が持てない	46名	7.8%	1,574名	8.1%
わからない	44名	7.4%	1,774名	9.2%
無回答	2名	0.3%	296名	1.5%



保護者のことについて

問21（３）ストレスを発散できるものがあるか

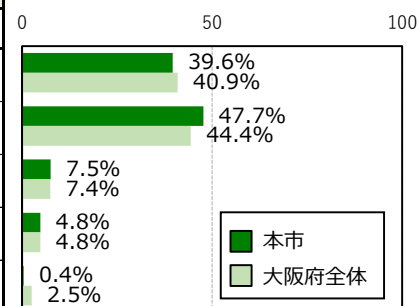
保護者全体は、「あるときもあれば、ないときもある」が47.7%で最も多く、次いで「ある」が39.6%、「ない」が7.5%となっている。

小学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が45.6%で最も多く、次いで「ある」が41.3%、「ない」が7.6%となっている。

中学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が50.3%で最も多く、次いで「ある」が36.9%、「ない」が7.6%となっている。

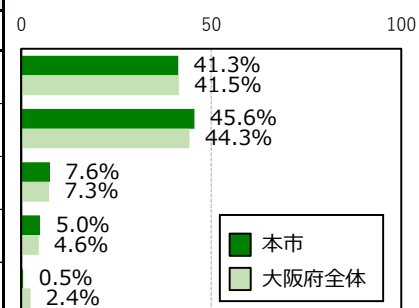
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
ある	605名	39.6%	17,707名	40.9%
あるときもあれば、ないときもある	728名	47.7%	19,240名	44.4%
ない	115名	7.5%	3,221名	7.4%
わからない	73名	4.8%	2,061名	4.8%
無回答	6名	0.4%	1,071名	2.5%



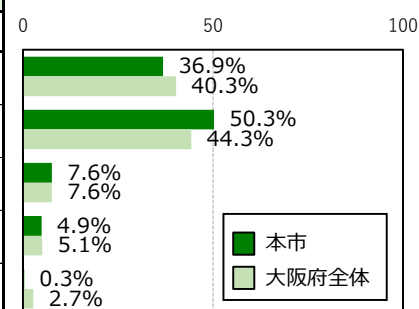
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
ある	330名	41.3%	9,455名	41.5%
あるときもあれば、ないときもある	365名	45.6%	10,090名	44.3%
ない	61名	7.6%	1,668名	7.3%
わからない	40名	5.0%	1,037名	4.6%
無回答	4名	0.5%	536名	2.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
ある	219名	36.9%	7,803名	40.3%
あるときもあれば、ないときもある	298名	50.3%	8,576名	44.3%
ない	45名	7.6%	1,467名	7.6%
わからない	29名	4.9%	990名	5.1%
無回答	2名	0.3%	529名	2.7%



保護者のことについて

問21（４）自分が幸せだと思うか

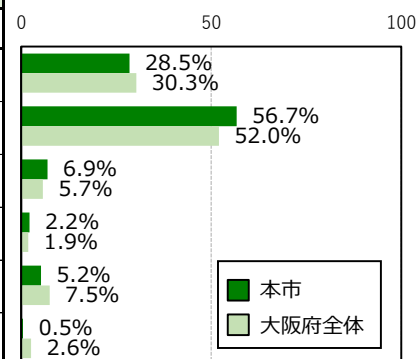
保護者全体は、「幸せだと思う」が56.7%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が28.5%、「あまり幸せだと思わない」が6.9%、「幸せだと思わない」が2.2%となっている。

小学生の保護者は、「幸せだと思う」が56.4%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が28.8%、「あまり幸せだと思わない」が6.1%、「幸せだと思わない」が2.8%となっている。

中学生の保護者は、「幸せだと思う」が58.9%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が26.3%、「あまり幸せだと思わない」が7.6%、「幸せだと思わない」が1.3%となっている。

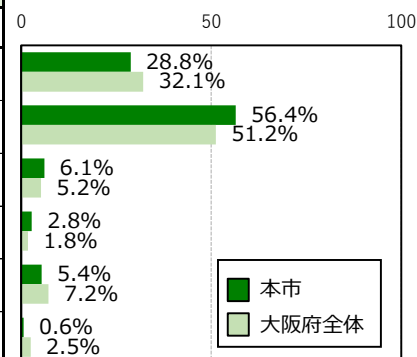
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
とても幸せだと思う	435名	28.5%	13,119名	30.3%
幸せだと思う	866名	56.7%	22,517名	52.0%
あまり幸せだと思わない	106名	6.9%	2,464名	5.7%
幸せだと思わない	33名	2.2%	819名	1.9%
わからない	80名	5.2%	3,246名	7.5%
無回答	7名	0.5%	1,135名	2.6%



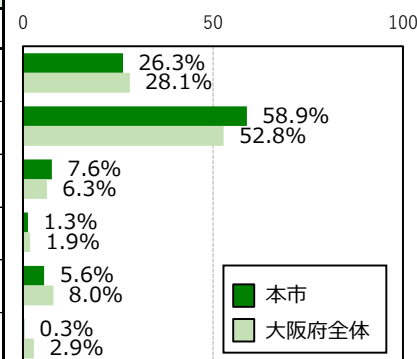
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
とても幸せだと思う	230名	28.8%	7,323名	32.1%
幸せだと思う	451名	56.4%	11,664名	51.2%
あまり幸せだと思わない	49名	6.1%	1,176名	5.2%
幸せだと思わない	22名	2.8%	413名	1.8%
わからない	43名	5.4%	1,640名	7.2%
無回答	5名	0.6%	570名	2.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
とても幸せだと思う	156名	26.3%	5,439名	28.1%
幸せだと思う	349名	58.9%	10,225名	52.8%
あまり幸せだと思わない	45名	7.6%	1,211名	6.3%
幸せだと思わない	8名	1.3%	376名	1.9%
わからない	33名	5.6%	1,555名	8.0%
無回答	2名	0.3%	559名	2.9%



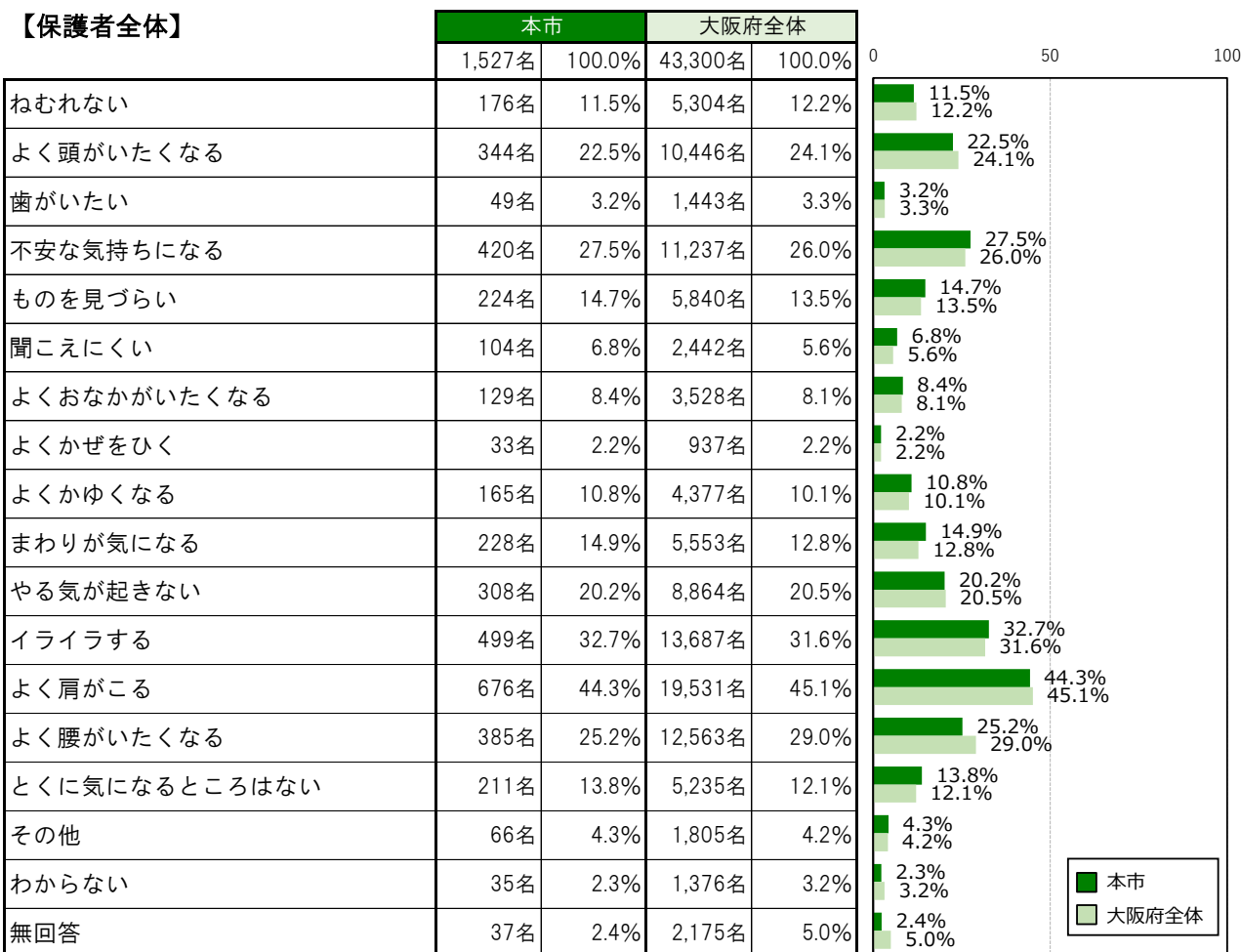
保護者のことについて

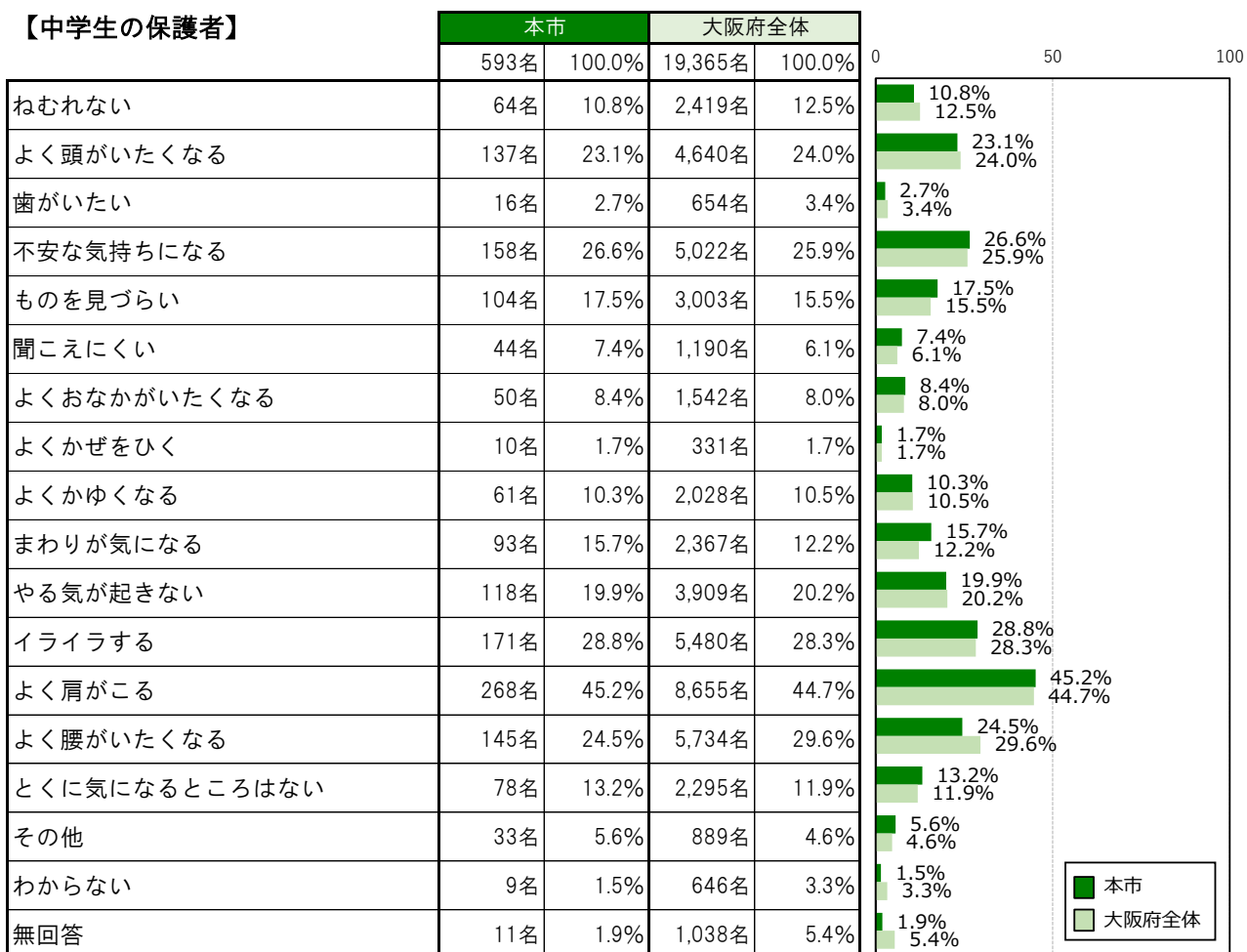
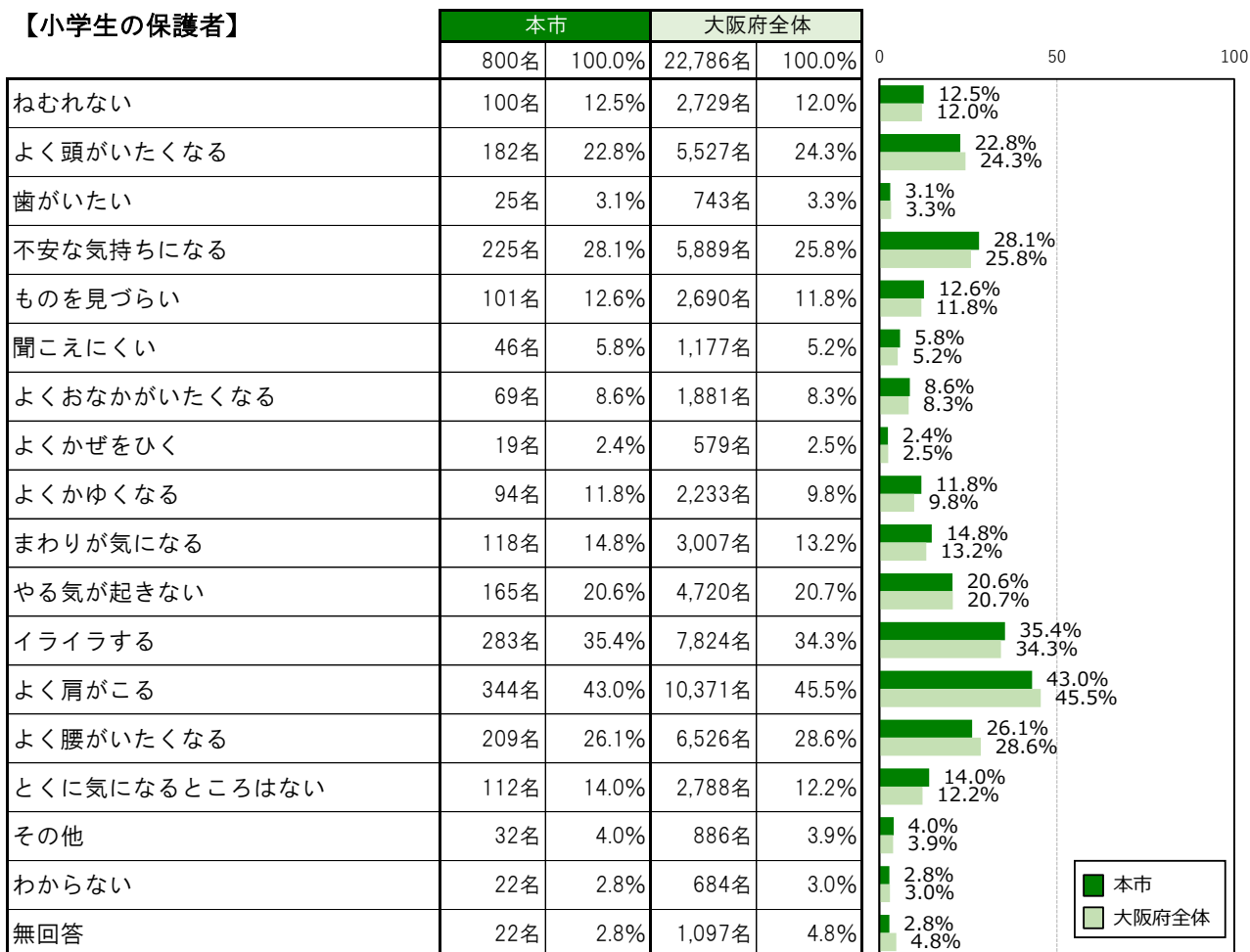
問22 自分の体や気持ちで気になること

保護者全体は、「よく肩がこる」が44.3%で最も多く、次いで「イライラする」が32.7%、「不安な気持ちになる」が27.5%、「よく腰がいたくなる」が25.2%となっている。

小学生の保護者は、「よく肩がこる」が43.0%で最も多く、次いで「イライラする」が35.4%、「不安な気持ちになる」が28.1%、「よく腰がいたくなる」が26.1%となっている。

中学生の保護者は、「よく肩がこる」が45.2%で最も多く、次いで「イライラする」が28.8%、「不安な気持ちになる」が26.6%、「よく腰がいたくなる」が24.5%となっている。





保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助

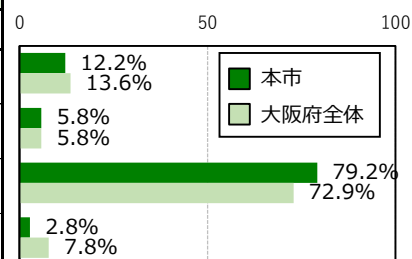
保護者全体は、「利用したことがない」が79.2%で最も多く、次いで「現在利用している」が12.2%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が5.8%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が78.0%で最も多く、次いで「現在利用している」が12.4%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が5.4%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が79.1%で最も多く、次いで「現在利用している」が12.6%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が6.7%となっている。

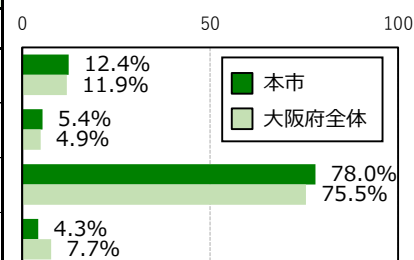
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	186名	12.2%	5,869名	13.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	89名	5.8%	2,503名	5.8%
利用したことがない	1,209名	79.2%	31,557名	72.9%
無回答	43名	2.8%	3,371名	7.8%



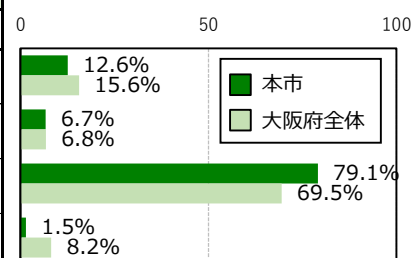
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	99名	12.4%	2,714名	11.9%
現在利用していないが、以前利用したことがある	43名	5.4%	1,110名	4.9%
利用したことがない	624名	78.0%	17,198名	75.5%
無回答	34名	4.3%	1,764名	7.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	75名	12.6%	3,020名	15.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	40名	6.7%	1,308名	6.8%
利用したことがない	469名	79.1%	13,453名	69.5%
無回答	9名	1.5%	1,584名	8.2%



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

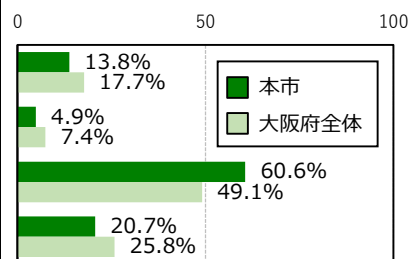
2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたこと
はない」）が18.6ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が16.1ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が20.1ポイント高くなっている。

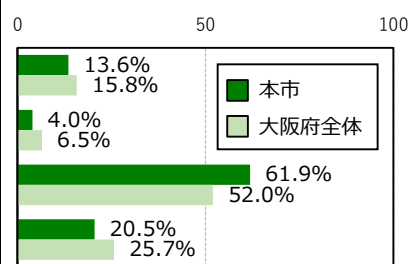
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,986名	100.0%	49,703名	100.0%
受けている	274名	13.8%	8,792名	17.7%
受けたことがある	97名	4.9%	3,669名	7.4%
受けたことはない	1,203名	60.6%	24,429名	49.1%
無回答	412名	20.7%	12,813名	25.8%



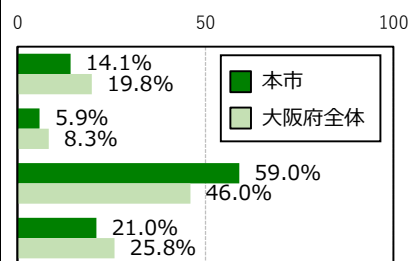
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,077名	100.0%	26,342名	100.0%
受けている	146名	13.6%	4,154名	15.8%
受けたことがある	43名	4.0%	1,724名	6.5%
受けたことはない	667名	61.9%	13,686名	52.0%
無回答	221名	20.5%	6,778名	25.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	909名	100.0%	23,323名	100.0%
受けている	128名	14.1%	4,628名	19.8%
受けたことがある	54名	5.9%	1,942名	8.3%
受けたことはない	536名	59.0%	10,733名	46.0%
無回答	191名	21.0%	6,020名	25.8%



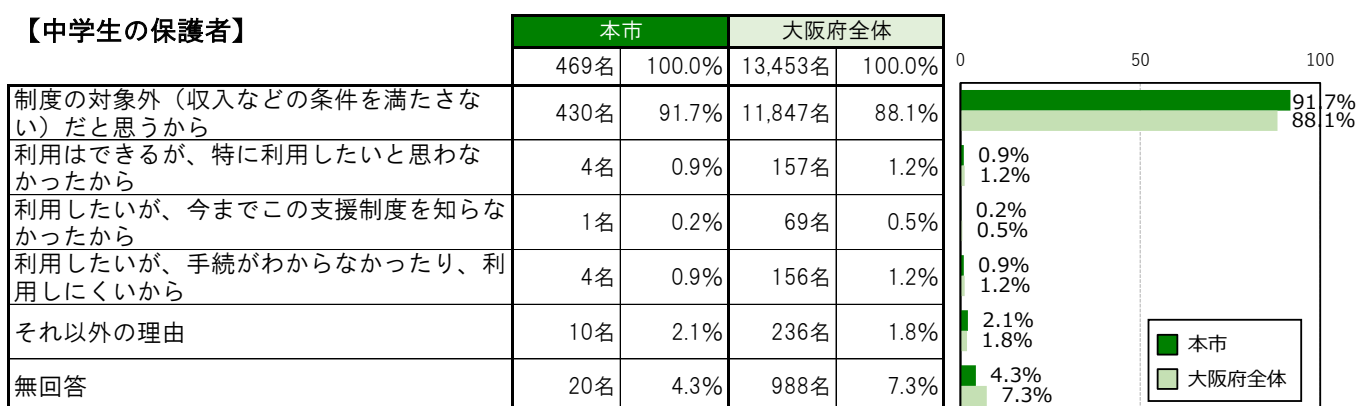
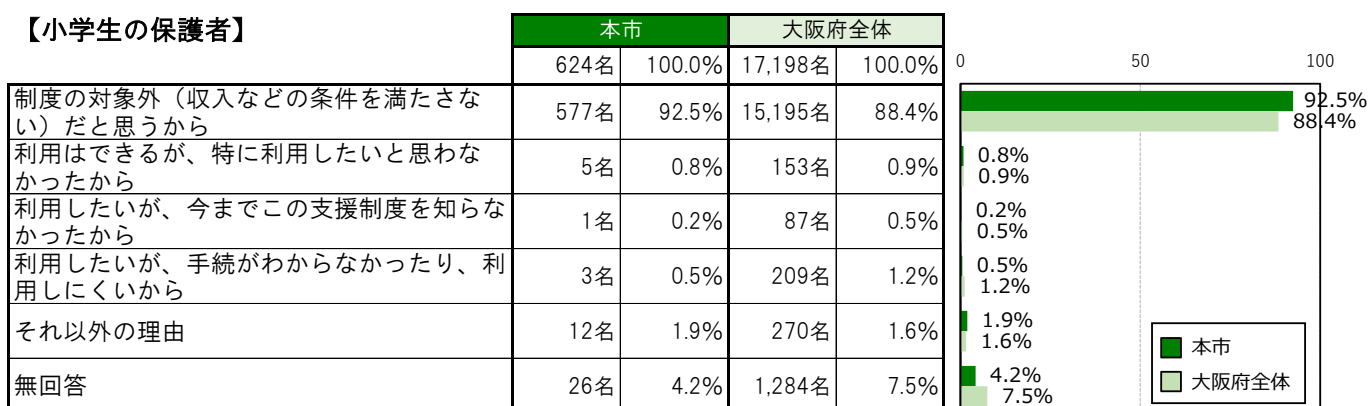
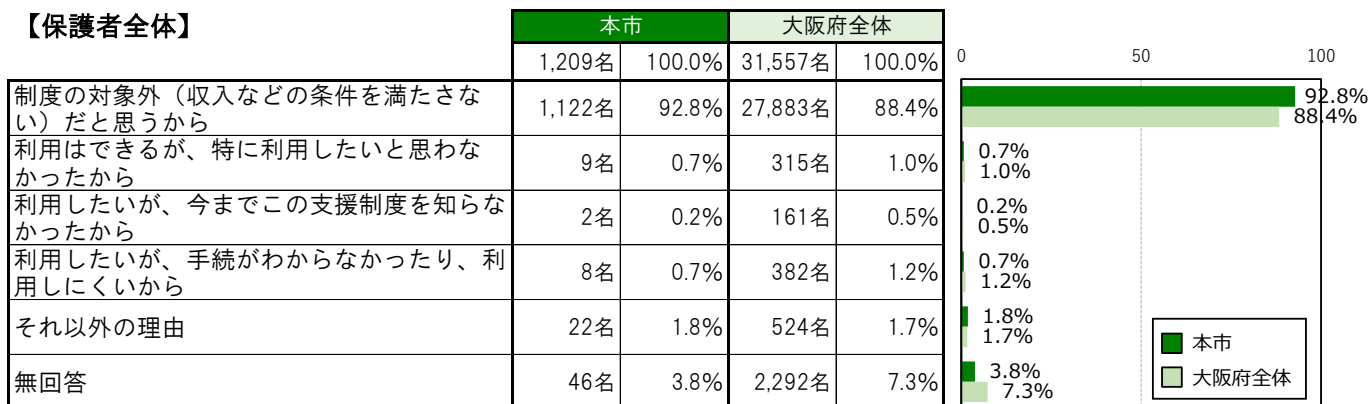
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が92.8%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.8%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が92.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.9%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.1%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護

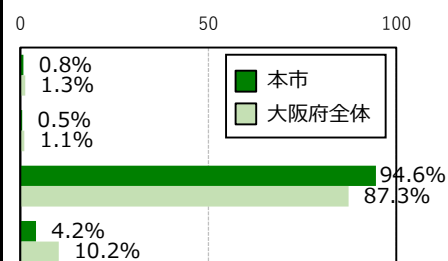
保護者全体は、「利用したことがない」が94.6%で最も多く、次いで「現在利用している」が0.8%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が93.6%で最も多く、次いで「現在利用している」が1.1%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が95.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.7%となっている。

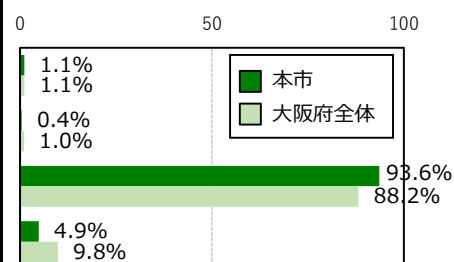
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	12名	0.8%	580名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	7名	0.5%	497名	1.1%
利用したことがない	1,444名	94.6%	37,793名	87.3%
無回答	64名	4.2%	4,430名	10.2%



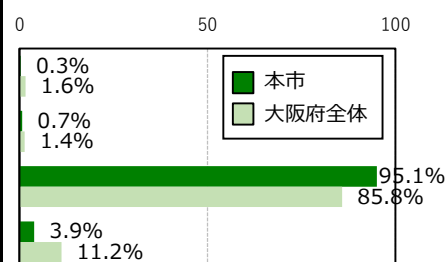
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	9名	1.1%	254名	1.1%
現在利用していないが、以前利用したことがある	3名	0.4%	218名	1.0%
利用したことがない	749名	93.6%	20,090名	88.2%
無回答	39名	4.9%	2,224名	9.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	2名	0.3%	316名	1.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	4名	0.7%	267名	1.4%
利用したことがない	564名	95.1%	16,608名	85.8%
無回答	23名	3.9%	2,174名	11.2%



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

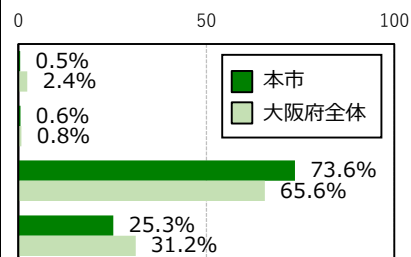
2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたこと
はない」）が21.0ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が19.4ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が22.3ポイント高くなっている。

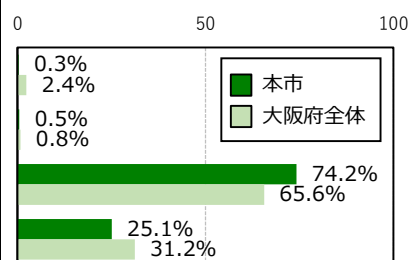
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,986名	100.0%	26,342名	100.0%
受けている	10名	0.5%	622名	2.4%
受けたことがある	12名	0.6%	211名	0.8%
受けたことはない	1,461名	73.6%	17,286名	65.6%
無回答	503名	25.3%	8,223名	31.2%



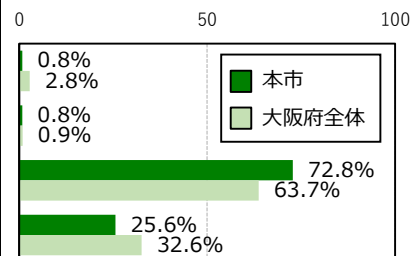
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,077名	100.0%	26,342名	100.0%
受けている	3名	0.3%	622名	2.4%
受けたことがある	5名	0.5%	211名	0.8%
受けたことはない	799名	74.2%	17,286名	65.6%
無回答	270名	25.1%	8,223名	31.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	909名	100.0%	23,323名	100.0%
受けている	7名	0.8%	650名	2.8%
受けたことがある	7名	0.8%	211名	0.9%
受けたことはない	662名	72.8%	14,855名	63.7%
無回答	233名	25.6%	7,607名	32.6%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護 <利用したことがない理由>

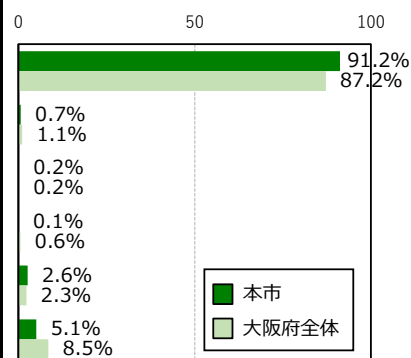
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.6%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が0.7%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が89.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.8%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が0.9%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.8%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が0.5%となっている。

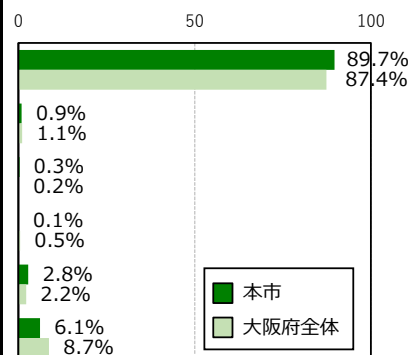
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,444名	100.0%	37,793名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,317名	91.2%	32,964名	87.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	10名	0.7%	434名	1.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	3名	0.2%	73名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	2名	0.1%	230名	0.6%
それ以外の理由	38名	2.6%	867名	2.3%
無回答	74名	5.1%	3,225名	8.5%



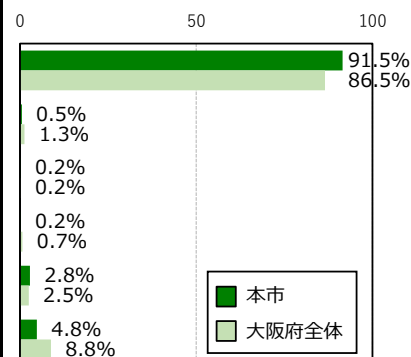
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	749名	100.0%	20,090名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	672名	89.7%	17,567名	87.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	7名	0.9%	211名	1.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	2名	0.3%	31名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	0.1%	104名	0.5%
それ以外の理由	21名	2.8%	433名	2.2%
無回答	46名	6.1%	1,744名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	564名	100.0%	16,608名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	516名	91.5%	14,367名	86.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	3名	0.5%	219名	1.3%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	0.2%	40名	0.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	0.2%	117名	0.7%
それ以外の理由	16名	2.8%	411名	2.5%
無回答	27名	4.8%	1,454名	8.8%



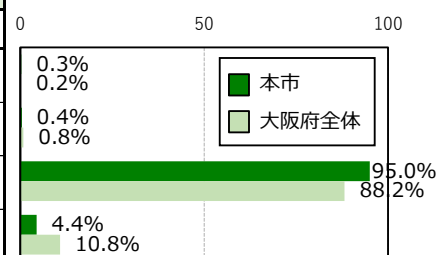
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口

保護者全体は、「利用したことがない」が95.0%で最も多くなっている。
 小学生の保護者は、「利用したことがない」が93.9%で最も多くなっている。
 中学生の保護者は、「利用したことがない」が95.8%で最も多くなっている。

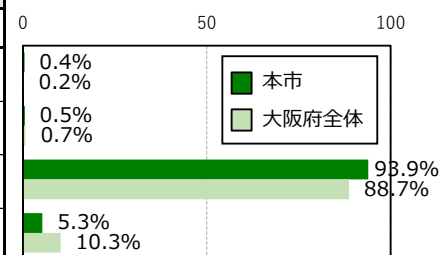
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	4名	0.3%	101名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	6名	0.4%	338名	0.8%
利用したことがない	1,450名	95.0%	38,173名	88.2%
無回答	67名	4.4%	4,688名	10.8%



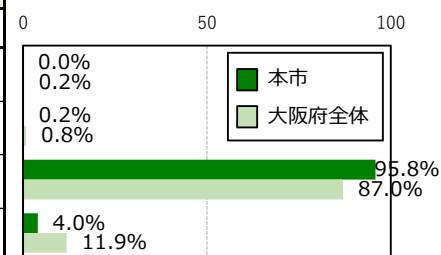
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	3名	0.4%	55名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	4名	0.5%	163名	0.7%
利用したことがない	751名	93.9%	20,220名	88.7%
無回答	42名	5.3%	2,348名	10.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	-	-	44名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	1名	0.2%	162名	0.8%
利用したことがない	568名	95.8%	16,851名	87.0%
無回答	24名	4.0%	2,308名	11.9%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口 <利用したことがない理由>

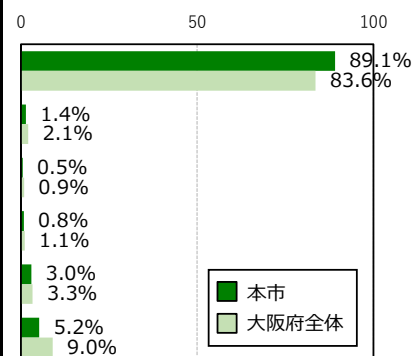
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が89.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.0%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.4%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.7%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.2%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.0%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が89.4%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.3%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.1%となっている。

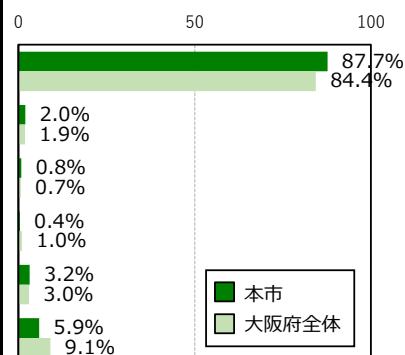
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,450名	100.0%	38,173名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,292名	89.1%	31,919名	83.6%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	20名	1.4%	790名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	7名	0.5%	332名	0.9%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	11名	0.8%	410名	1.1%
それ以外の理由	44名	3.0%	1,275名	3.3%
無回答	76名	5.2%	3,447名	9.0%



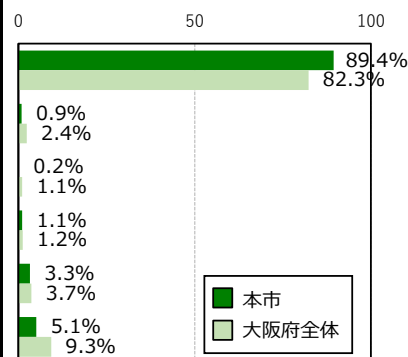
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	751名	100.0%	20,220名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	659名	87.7%	17,059名	84.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	15名	2.0%	382名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	6名	0.8%	134名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	3名	0.4%	193名	1.0%
それ以外の理由	24名	3.2%	609名	3.0%
無回答	44名	5.9%	1,843名	9.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	568名	100.0%	16,851名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	508名	89.4%	13,863名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	5名	0.9%	397名	2.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	0.2%	192名	1.1%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	6名	1.1%	204名	1.2%
それ以外の理由	19名	3.3%	625名	3.7%
無回答	29名	5.1%	1,570名	9.3%



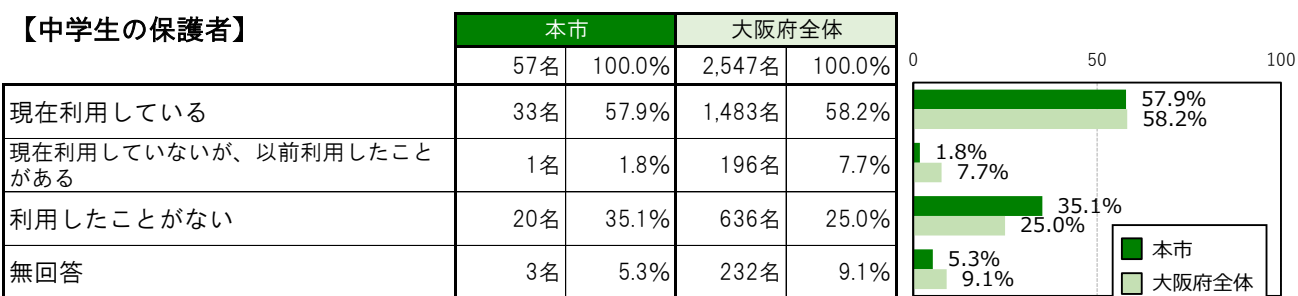
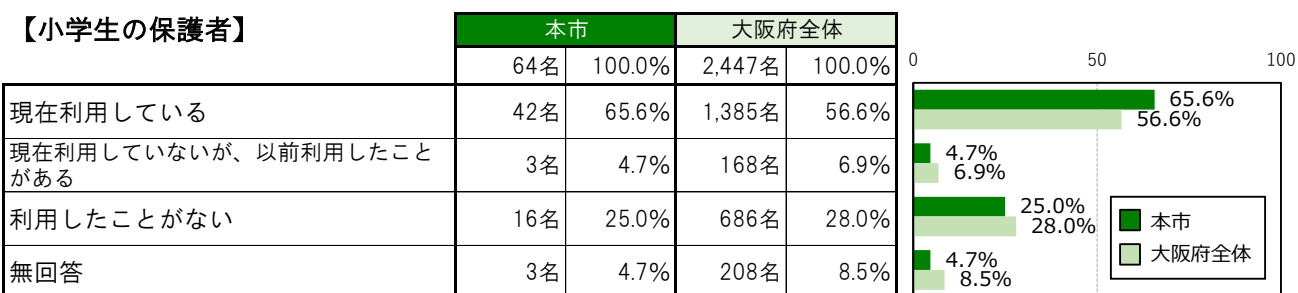
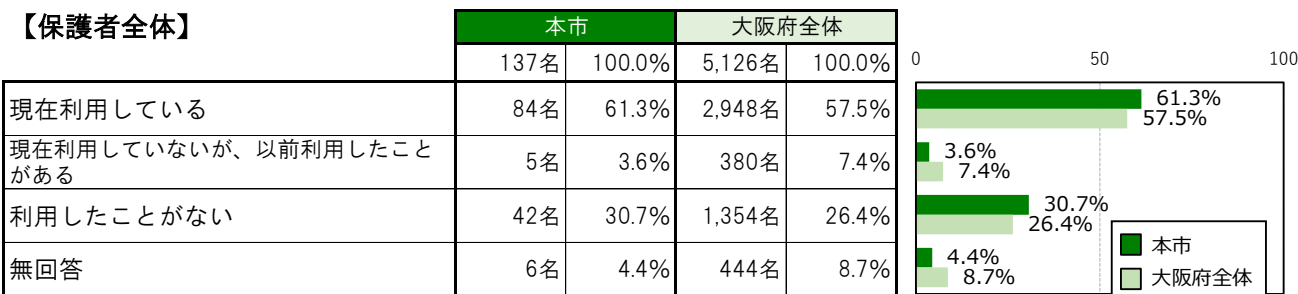
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当（ひとり親世帯のみ）

保護者全体は、「現在利用している」が61.3%で最も多く、次いで「利用したことがない」が30.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.6%となっている。

小学生の保護者は、「現在利用している」が65.6%で最も多く、次いで「利用したことがない」が25.0%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が4.7%となっている。

中学生の保護者は、「現在利用している」が57.9%で最も多く、次いで「利用したことがない」が35.1%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.8%となっている。



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

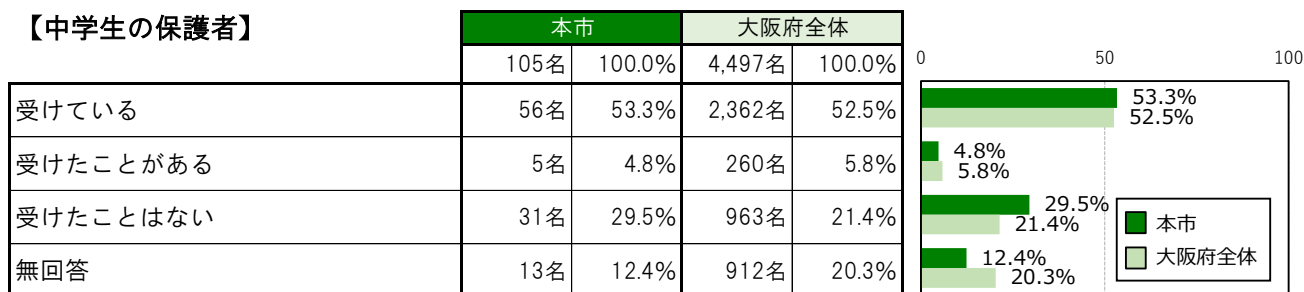
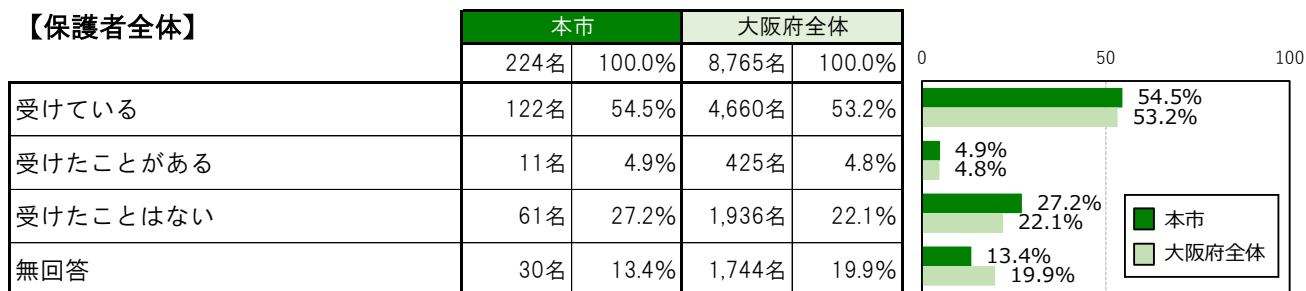
※ ひとり親世帯のみで集計。

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「現在利用している」（2016年度調査では「受けている」）が6.8ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「現在利用している」が10.1ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはない」）が5.6ポイント高くなっている。



※ ひとり親世帯のみで集計。

保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当 <利用したことがない理由> (ひとり親世帯のみ)

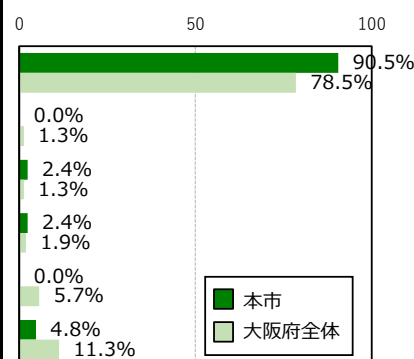
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.5%で最も多く、次いで「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」がそれぞれ2.4%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.5%で最も多く、次いで「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が6.3%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.0%で最も多く、次いで「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が5.0%となっている。

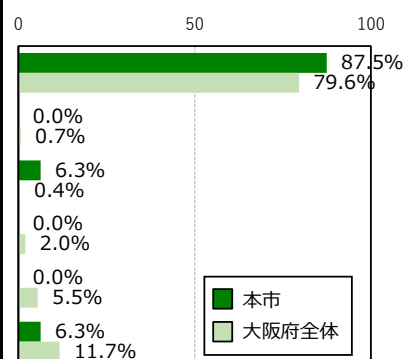
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	42名	100.0%	1,354名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	38名	90.5%	1,063名	78.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	-	-	17名	1.3%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	2.4%	18名	1.3%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	2.4%	26名	1.9%
それ以外の理由	-	-	77名	5.7%
無回答	2名	4.8%	153名	11.3%



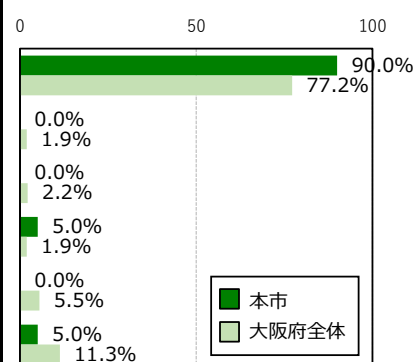
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	16名	100.0%	686名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	14名	87.5%	546名	79.6%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	-	-	5名	0.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	6.3%	3名	0.4%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	-	-	14名	2.0%
それ以外の理由	-	-	38名	5.5%
無回答	1名	6.3%	80名	11.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	20名	100.0%	636名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	18名	90.0%	491名	77.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	-	-	12名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	14名	2.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	5.0%	12名	1.9%
それ以外の理由	-	-	35名	5.5%
無回答	1名	5.0%	72名	11.3%



※ ひとり親世帯のみで集計。

保護者のことについて

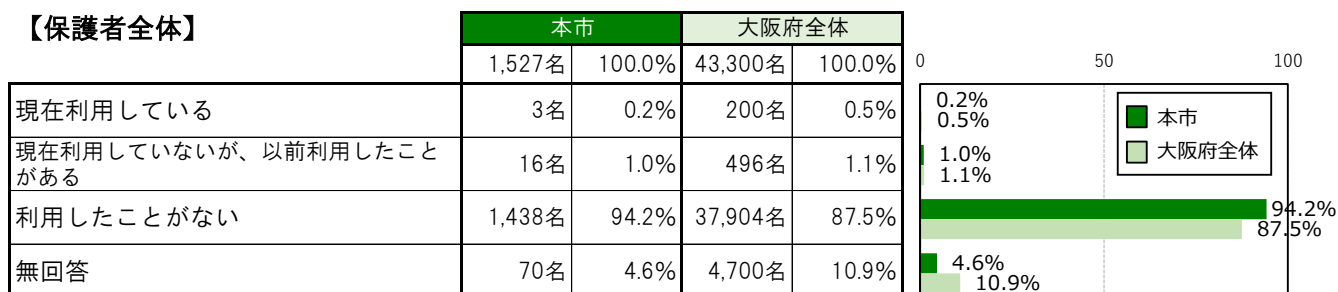
問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター

保護者全体は、「利用したことがない」が94.2%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.0%となっている。

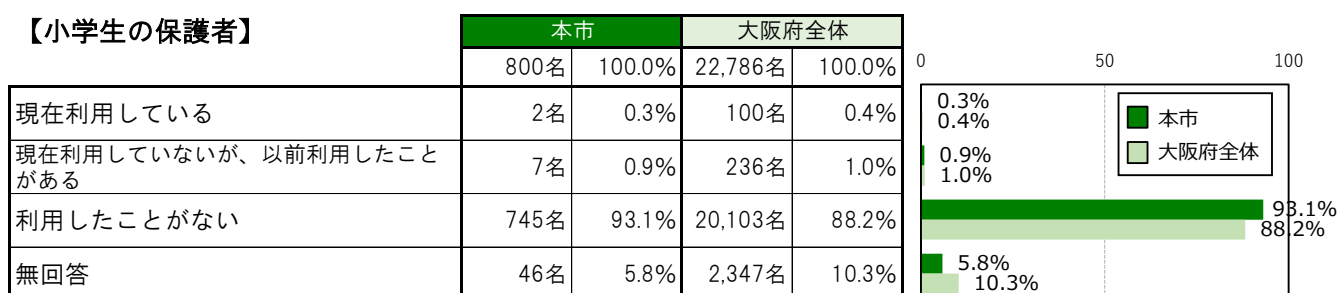
小学生の保護者は、「利用したことがない」が93.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.9%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が94.9%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.0%となっている。

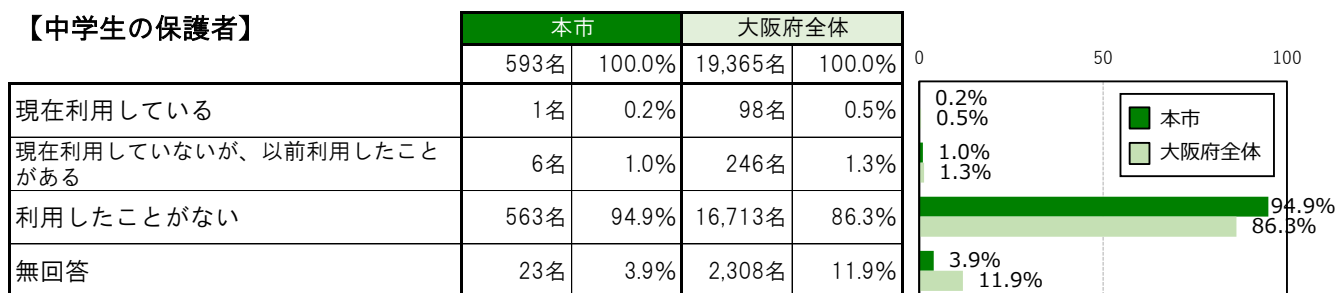
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター <利用したことがない理由>

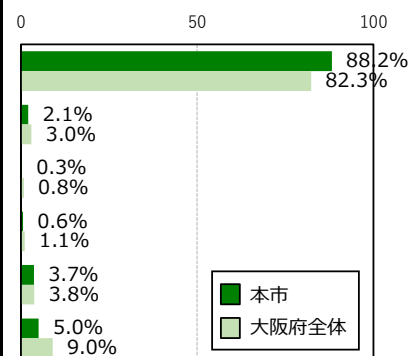
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.7%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.1%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.9%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.6%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.9%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.3%となっている。

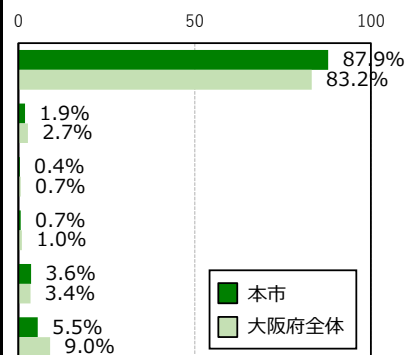
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,438名	100.0%	37,904名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,269名	88.2%	31,197名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	30名	2.1%	1,139名	3.0%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	5名	0.3%	316名	0.8%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	9名	0.6%	401名	1.1%
それ以外の理由	53名	3.7%	1,448名	3.8%
無回答	72名	5.0%	3,403名	9.0%



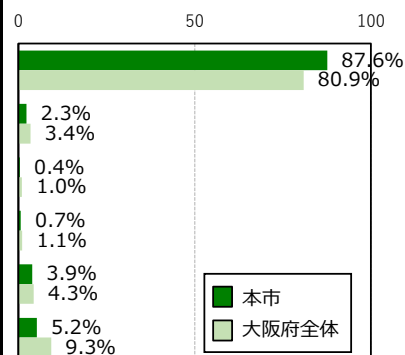
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	745名	100.0%	20,103名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	655名	87.9%	16,718名	83.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	14名	1.9%	540名	2.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	3名	0.4%	138名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	5名	0.7%	203名	1.0%
それ以外の理由	27名	3.6%	686名	3.4%
無回答	41名	5.5%	1,818名	9.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	563名	100.0%	16,713名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	493名	87.6%	13,516名	80.9%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	13名	2.3%	572名	3.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	2名	0.4%	169名	1.0%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	4名	0.7%	188名	1.1%
それ以外の理由	22名	3.9%	714名	4.3%
無回答	29名	5.2%	1,554名	9.3%



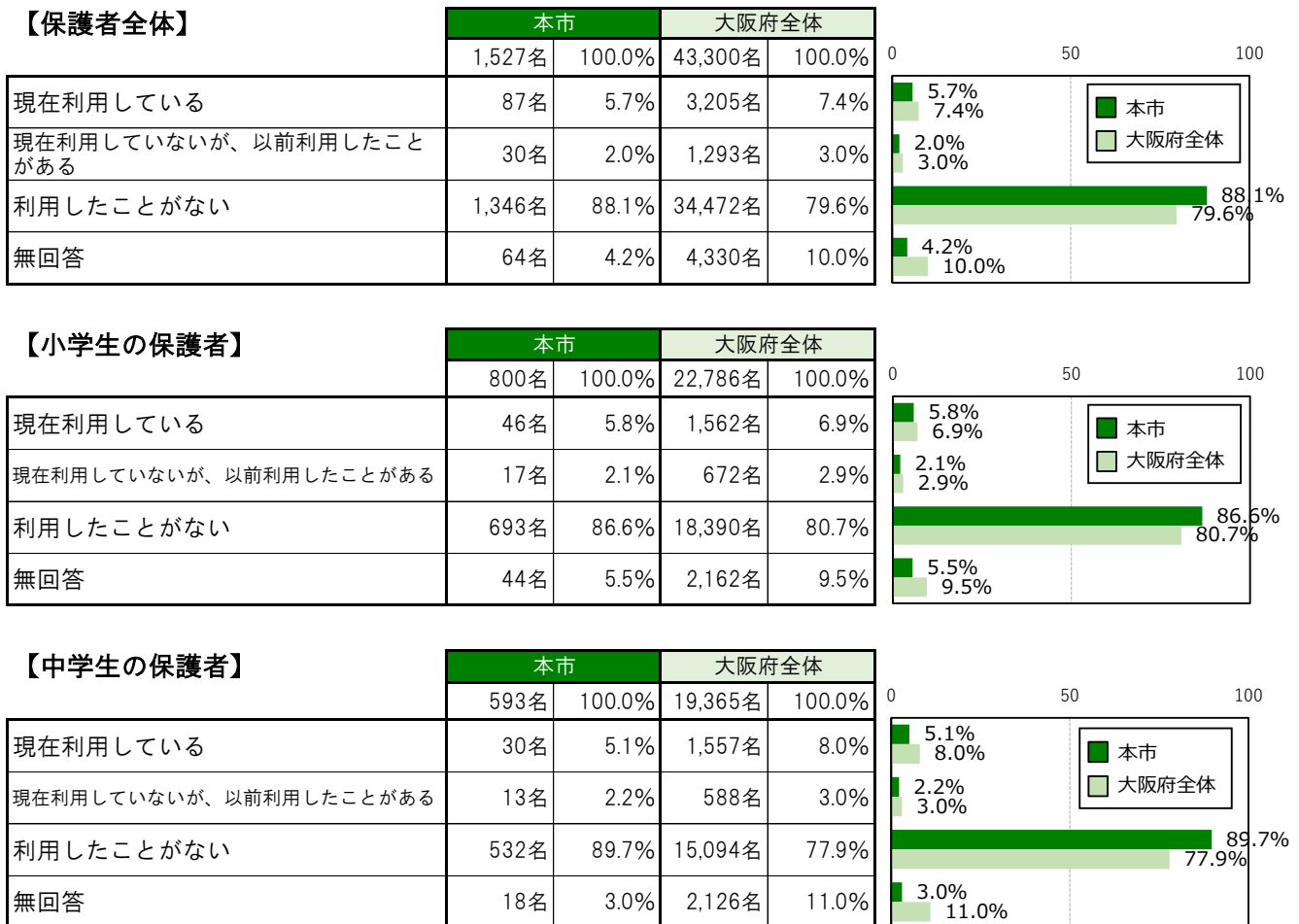
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金

保護者全体は、「利用したことがない」が88.1%で最も多く、次いで「現在利用している」が5.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.0%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が86.6%で最も多く、次いで「現在利用している」が5.8%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.1%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が89.7%で最も多く、次いで「現在利用している」が5.1%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.2%となっている。



保護者のことについて

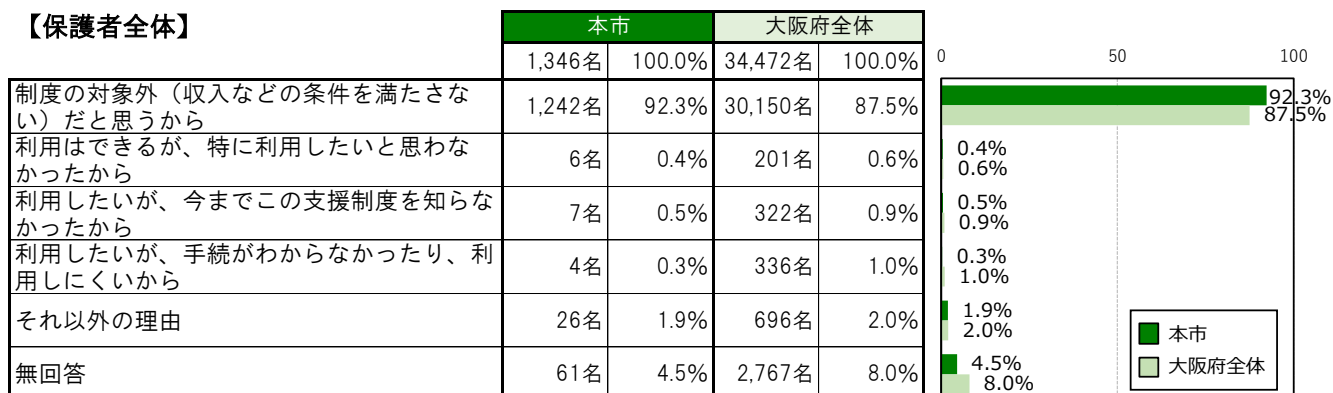
問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金
＜利用したことがない理由＞

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が92.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.9%となっている。

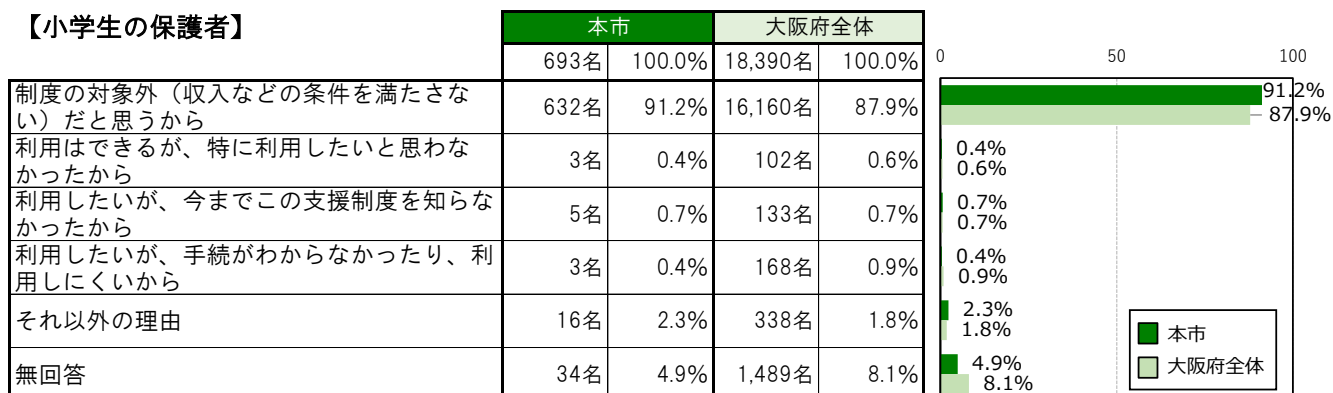
小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.3%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が92.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.9%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）

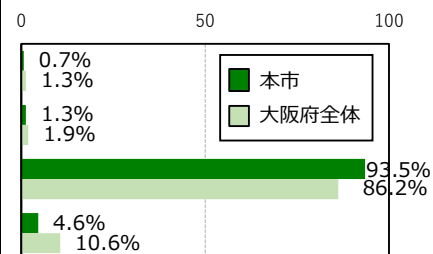
保護者全体は、「利用したことがない」が93.5%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.3%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が92.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が94.4%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.2%となっている。

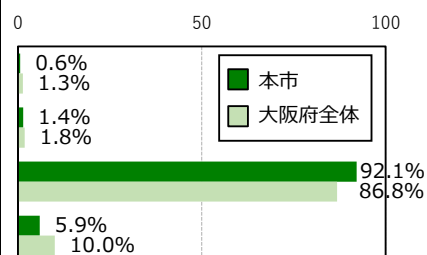
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	10名	0.7%	569名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	20名	1.3%	814名	1.9%
利用したことがない	1,427名	93.5%	37,313名	86.2%
無回答	70名	4.6%	4,604名	10.6%



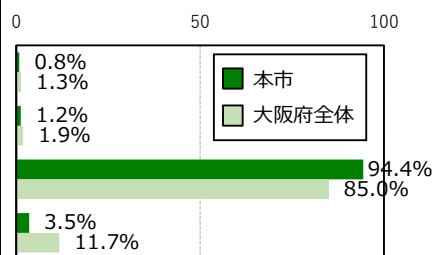
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	5名	0.6%	298名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	11名	1.4%	419名	1.8%
利用したことがない	737名	92.1%	19,782名	86.8%
無回答	47名	5.9%	2,287名	10.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	5名	0.8%	258名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	7名	1.2%	372名	1.9%
利用したことがない	560名	94.4%	16,467名	85.0%
無回答	21名	3.5%	2,268名	11.7%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）
＜利用したことがない理由＞

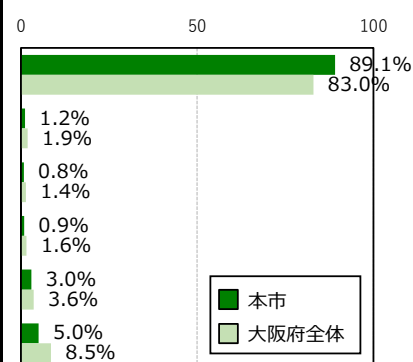
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が89.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.0%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.6%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.6%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.1%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が89.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.6%となっている。

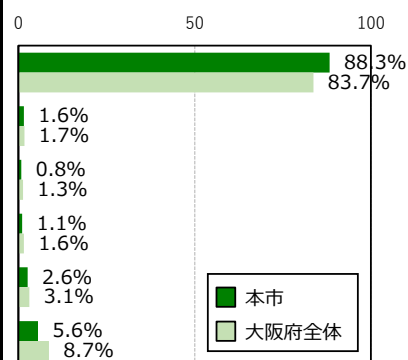
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,427名	100.0%	37,313名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,272名	89.1%	30,971名	83.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	17名	1.2%	708名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	11名	0.8%	529名	1.4%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	13名	0.9%	611名	1.6%
それ以外の理由	43名	3.0%	1,331名	3.6%
無回答	71名	5.0%	3,163名	8.5%



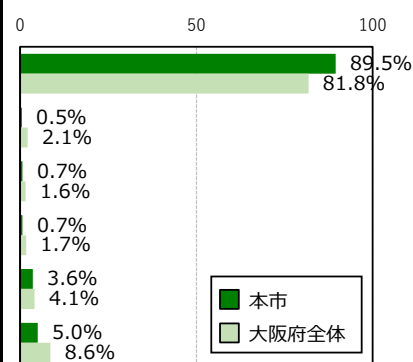
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	737名	100.0%	19,782名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	651名	88.3%	16,548名	83.7%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	12名	1.6%	343名	1.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	6名	0.8%	258名	1.3%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	8名	1.1%	308名	1.6%
それ以外の理由	19名	2.6%	613名	3.1%
無回答	41名	5.6%	1,712名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	560名	100.0%	16,467名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	501名	89.5%	13,474名	81.8%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	3名	0.5%	350名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	4名	0.7%	263名	1.6%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	4名	0.7%	284名	1.7%
それ以外の理由	20名	3.6%	675名	4.1%
無回答	28名	5.0%	1,421名	8.6%



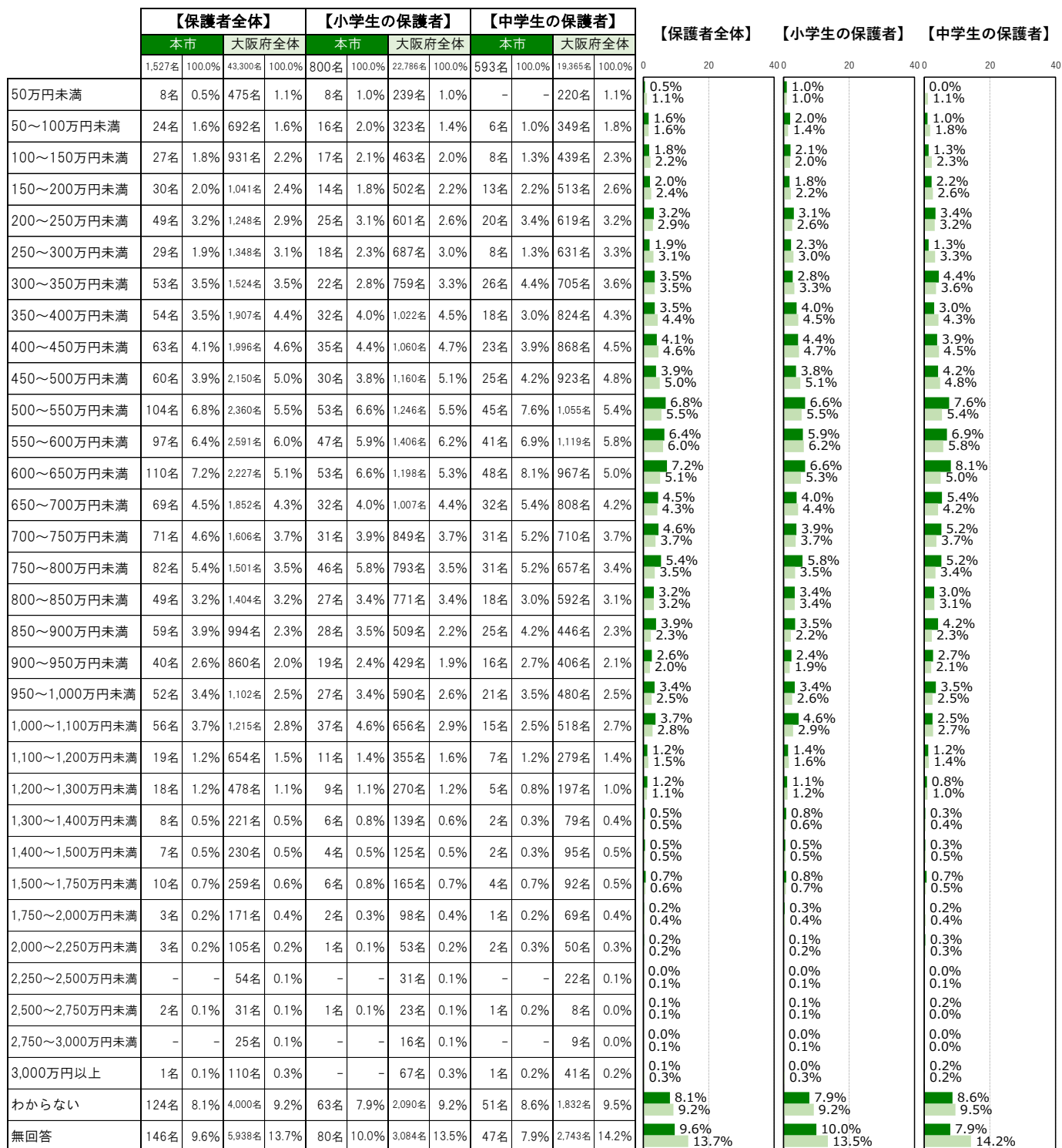
保護者のことについて

問24 世帯収入

保護者全体は、「600～650万円未満」が7.2%で最も多く、次いで「500～550万円未満」が6.8%、「550～600万円未満」が6.4%、「750～800万円未満」が5.4%となっている。

小学生の保護者は、「500～550万円未満」、「600～650万円未満」がそれぞれ6.6%で最も多く、次いで「550～600万円未満」が5.9%、「750～800万円未満」が5.8%、「1,000～1,100万円未満」が4.6%となっている。

中学生の保護者は、「600～650万円未満」が8.1%で最も多く、次いで「500～550万円未満」が7.6%、「550～600万円未満」が6.9%、「650～700万円未満」が5.4%となっている。



■ 本市

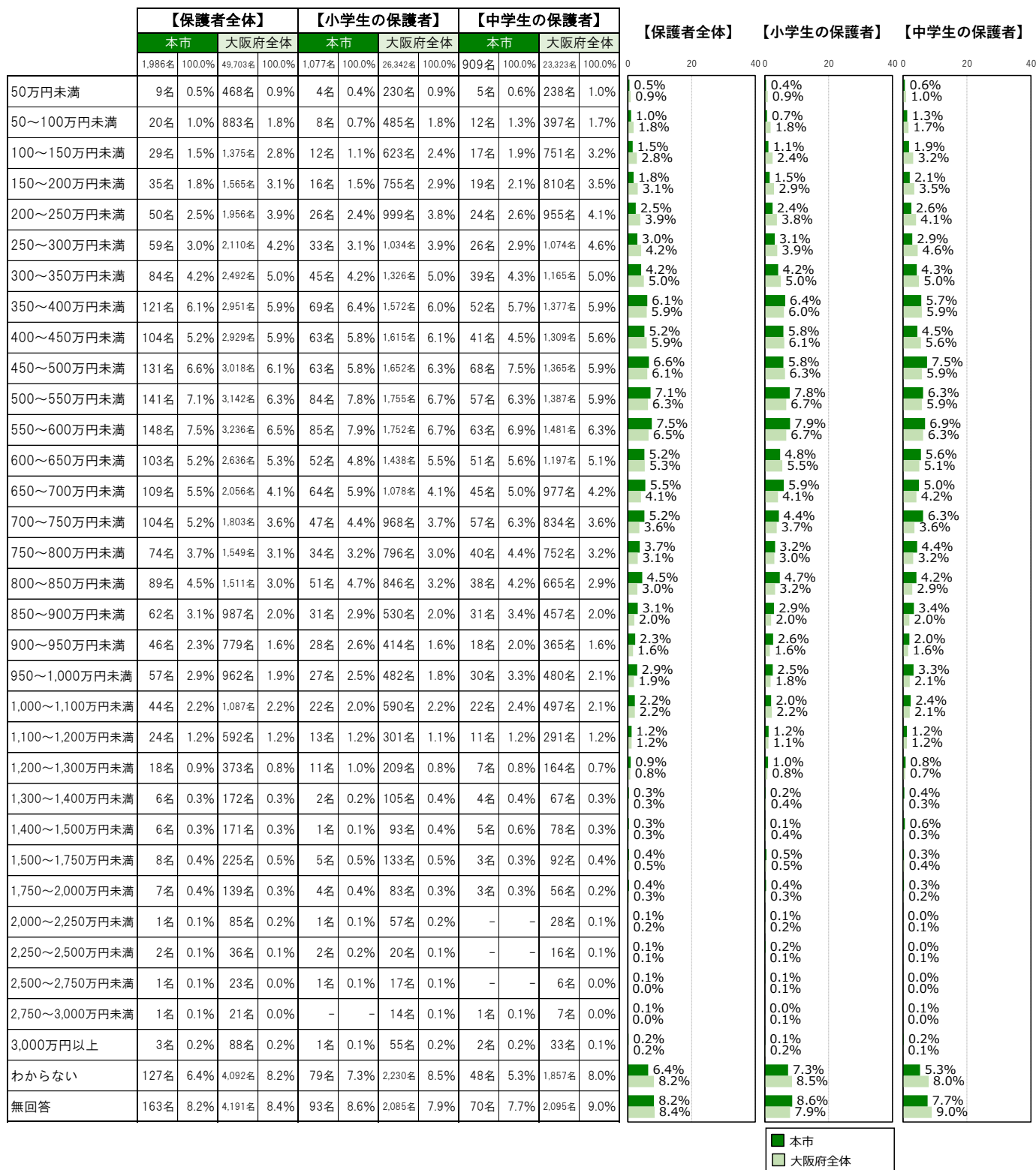
■ 大阪府全体

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「450～500万円未満」は2.7ポイント、「350～400万円未満」は2.6ポイントそれぞれ低くなっている。

小学生の保護者は、「750～800万円未満」、「1000～1100万円未満」がそれぞれ2.6ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「450～500万円未満」が3.3ポイント、「350～400万円未満」が2.7ポイント、それぞれ低くなっている。



世帯収入額と世帯人数に基づく等価可処分所得

今回の調査において世帯所得をたずねているが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできない。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、「等価可処分所得」およびそれらを基に区分した「困窮度」を用いている。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づく。EU、ユニセフ（ただし、常に60%基準採用ではない）は60%を採用している。

世帯の可処分所得はその世帯の世帯人員数に影響されるので、世帯人員数で調整する必要がある。最も簡単なのは「世帯の可処分所得÷世帯人員数」とすることであるが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が生活コストが割高になることを考慮する必要がある、このため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いている。

出典：厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21a-01.pdf>

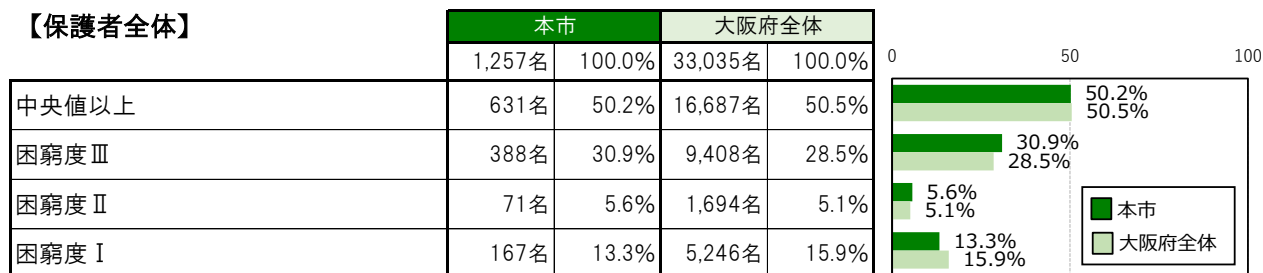
中央値以上	等価可処分所得最大値
困窮度Ⅲ	中央値 (端から数えて真ん中に位置する値)
困窮度Ⅱ	中央値の60%のライン
困窮度Ⅰ	中央値の50%のライン
	等価可処分所得最小値

図 困窮度の分類と基準

中央値は303万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は13.3%であった。

なお、大阪府内全自治体における相対的貧困率は15.9%であった。

【保護者全体】



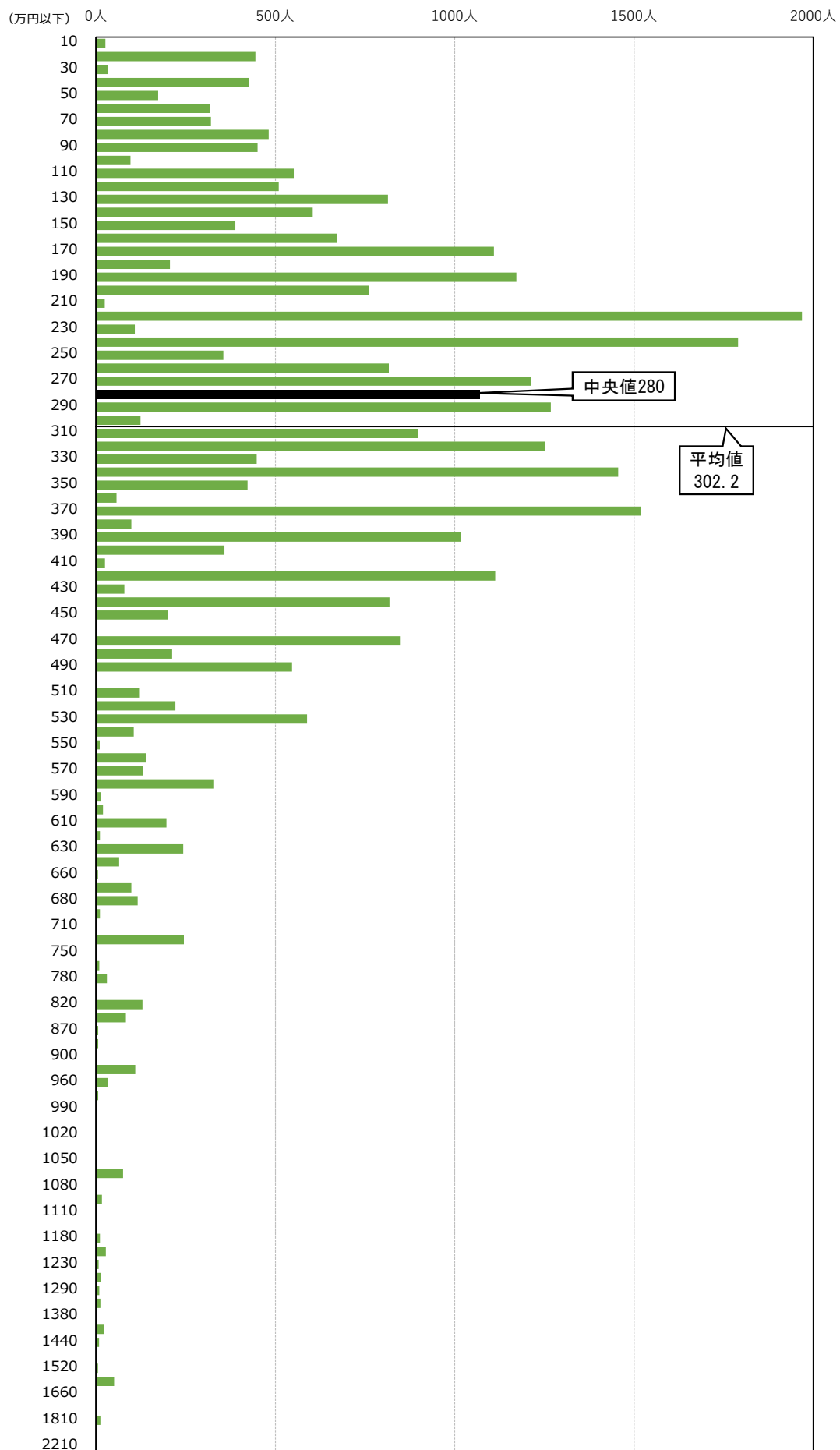
保護者全体は、「中央値以上」が50.2%で最も多く、次いで「困窮度Ⅲ」が30.9%、「困窮度Ⅰ」が13.3%、「困窮度Ⅱ」が5.6%となっている。

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「困窮度Ⅰ」が2.5ポイント高くなっている。

【保護者全体】





※ 2016年度調査では、中央値255万円、平均値272.7万円であった。
 注) 2023年度調査ではグラフ作成方法を改訂している。

図 大阪府内全自治体における等価可処分所得の分布

保護者のことについて

問25 同居家族が新型コロナウイルスに感染した延べ回数

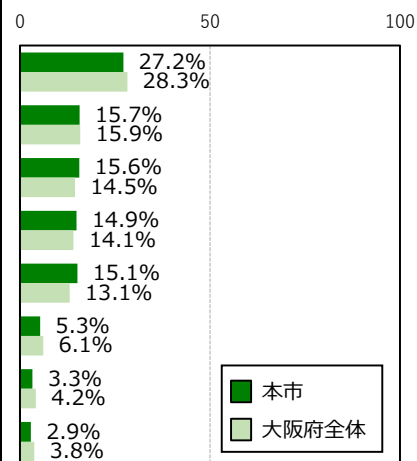
保護者全体は、「いない」が27.2%で最も多く、次いで「1回」が15.7%、「2回」が15.6%、「4回」が15.1%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が26.1%で最も多く、次いで「4回」が16.3%、「2回」が15.4%、「3回」が14.8%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が29.5%で最も多く、次いで「1回」が16.9%、「2回」が15.9%、「3回」が15.0%となっている。

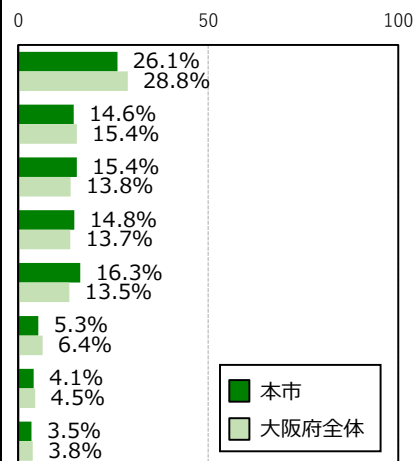
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	415名	27.2%	12,265名	28.3%
1回	240名	15.7%	6,894名	15.9%
2回	238名	15.6%	6,279名	14.5%
3回	228名	14.9%	6,098名	14.1%
4回	230名	15.1%	5,651名	13.1%
5回	81名	5.3%	2,637名	6.1%
6回以上	51名	3.3%	1,828名	4.2%
無回答	44名	2.9%	1,648名	3.8%



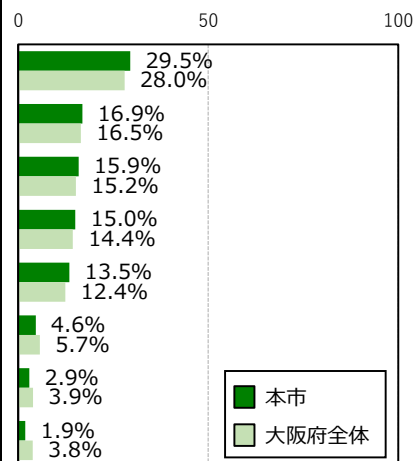
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	209名	26.1%	6,573名	28.8%
1回	117名	14.6%	3,508名	15.4%
2回	123名	15.4%	3,152名	13.8%
3回	118名	14.8%	3,119名	13.7%
4回	130名	16.3%	3,085名	13.5%
5回	42名	5.3%	1,457名	6.4%
6回以上	33名	4.1%	1,029名	4.5%
無回答	28名	3.5%	863名	3.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	175名	29.5%	5,415名	28.0%
1回	100名	16.9%	3,195名	16.5%
2回	94名	15.9%	2,948名	15.2%
3回	89名	15.0%	2,796名	14.4%
4回	80名	13.5%	2,410名	12.4%
5回	27名	4.6%	1,107名	5.7%
6回以上	17名	2.9%	758名	3.9%
無回答	11名	1.9%	736名	3.8%



保護者のことについて

問26（１）住居の間取り

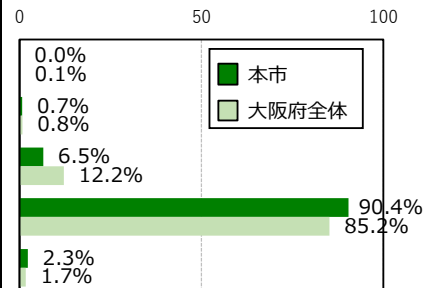
保護者全体は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が90.4%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が6.5%となっている。

小学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が88.8%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が7.4%となっている。

中学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が93.3%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が5.1%となっている。

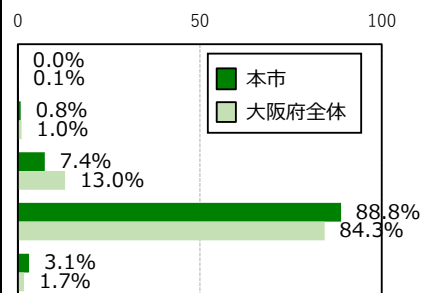
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	1,527名	100.0%	43,300名	100.0%
ワンルーム	-	-	43名	0.1%
居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）	11名	0.7%	358名	0.8%
居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）	100名	6.5%	5,272名	12.2%
居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上	1,381名	90.4%	36,876名	85.2%
無回答	35名	2.3%	751名	1.7%



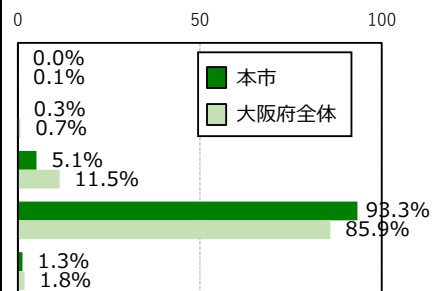
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	800名	100.0%	22,786名	100.0%
ワンルーム	-	-	21名	0.1%
居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）	6名	0.8%	217名	1.0%
居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）	59名	7.4%	2,951名	13.0%
居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上	710名	88.8%	19,206名	84.3%
無回答	25名	3.1%	391名	1.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	593名	100.0%	19,365名	100.0%
ワンルーム	-	-	21名	0.1%
居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）	2名	0.3%	134名	0.7%
居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）	30名	5.1%	2,233名	11.5%
居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上	553名	93.3%	16,638名	85.9%
無回答	8名	1.3%	339名	1.8%



保護者のことについて

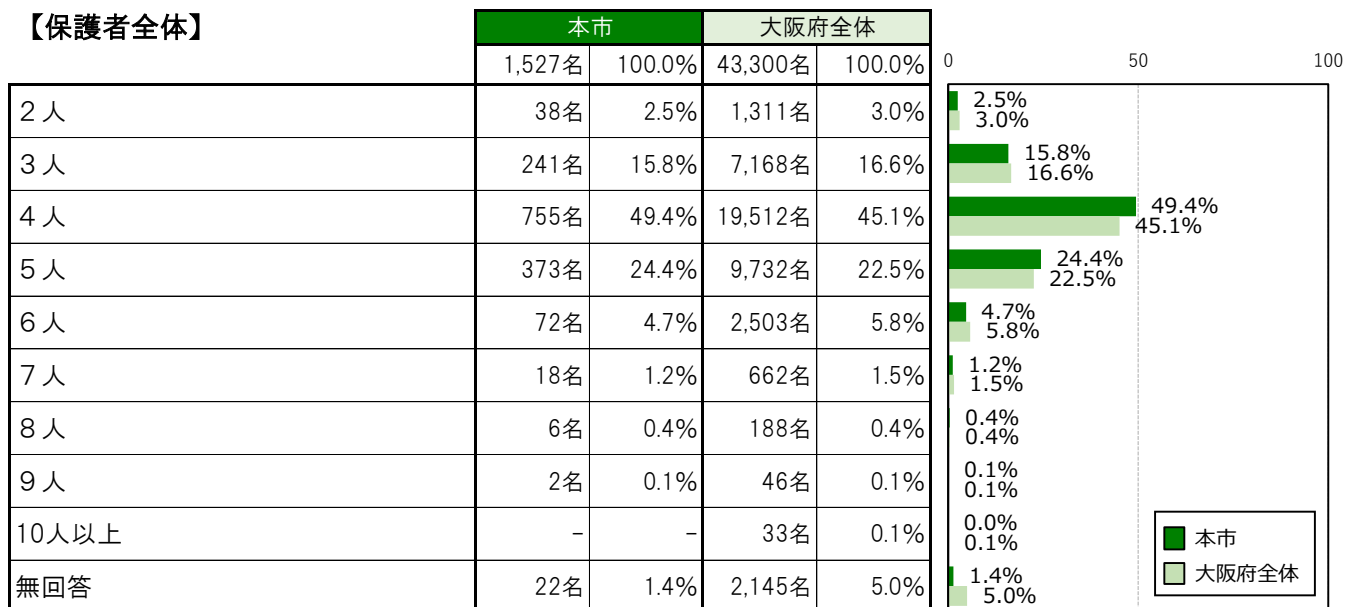
問26（2）同居人数

保護者全体は、「4人」が49.4%で最も多く、次いで「5人」が24.4%、「3人」が15.8%、「6人」が4.7%となっている。

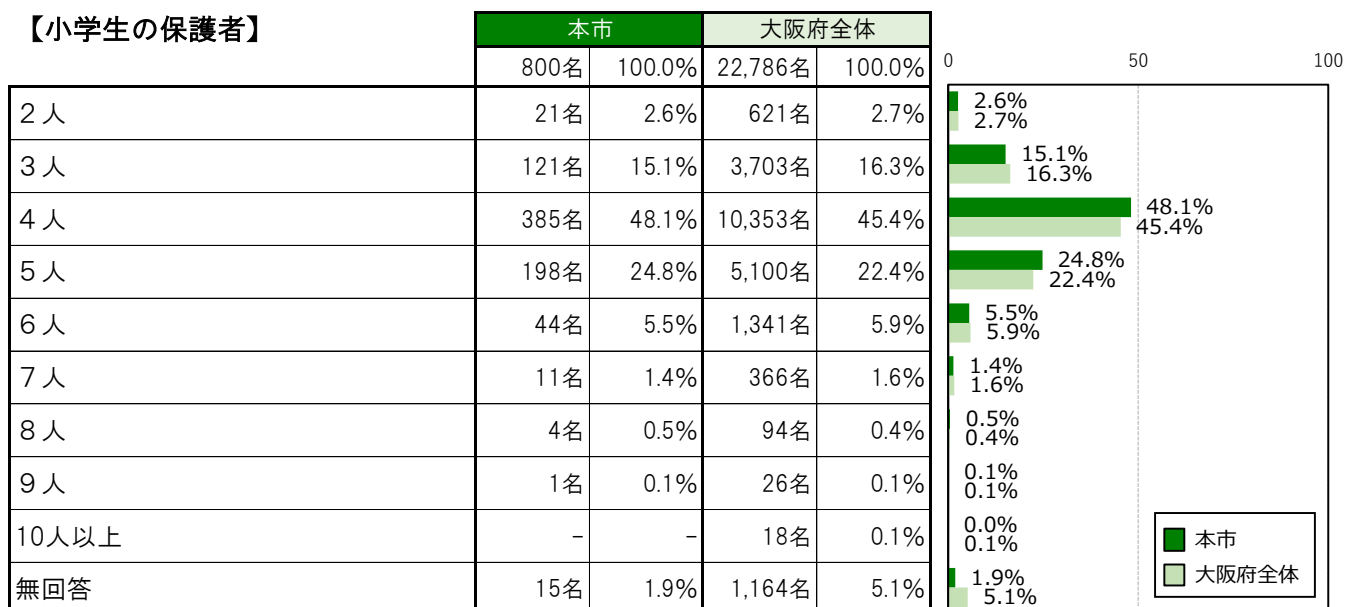
小学生の保護者は、「4人」が48.1%で最も多く、次いで「5人」が24.8%、「3人」が15.1%、「6人」が5.5%となっている。

中学生の保護者は、「4人」が50.3%で最も多く、次いで「5人」が24.3%、「3人」が16.9%、「6人」が3.9%となっている。

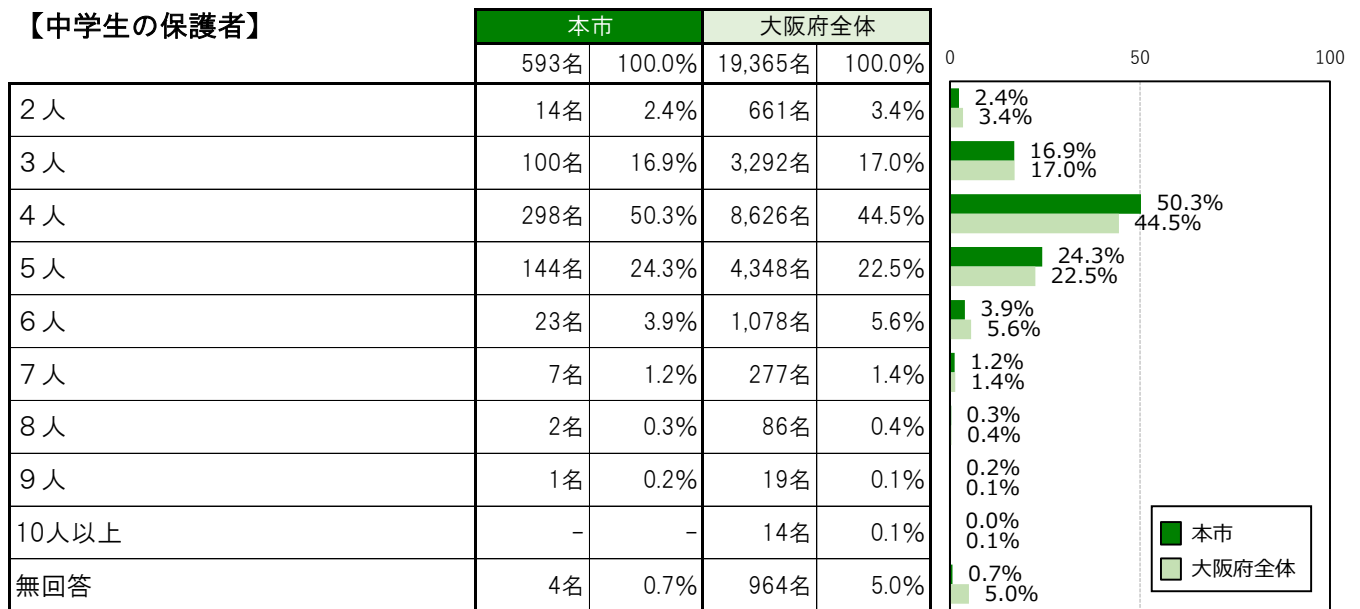
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



3. クロス集計および分析結果

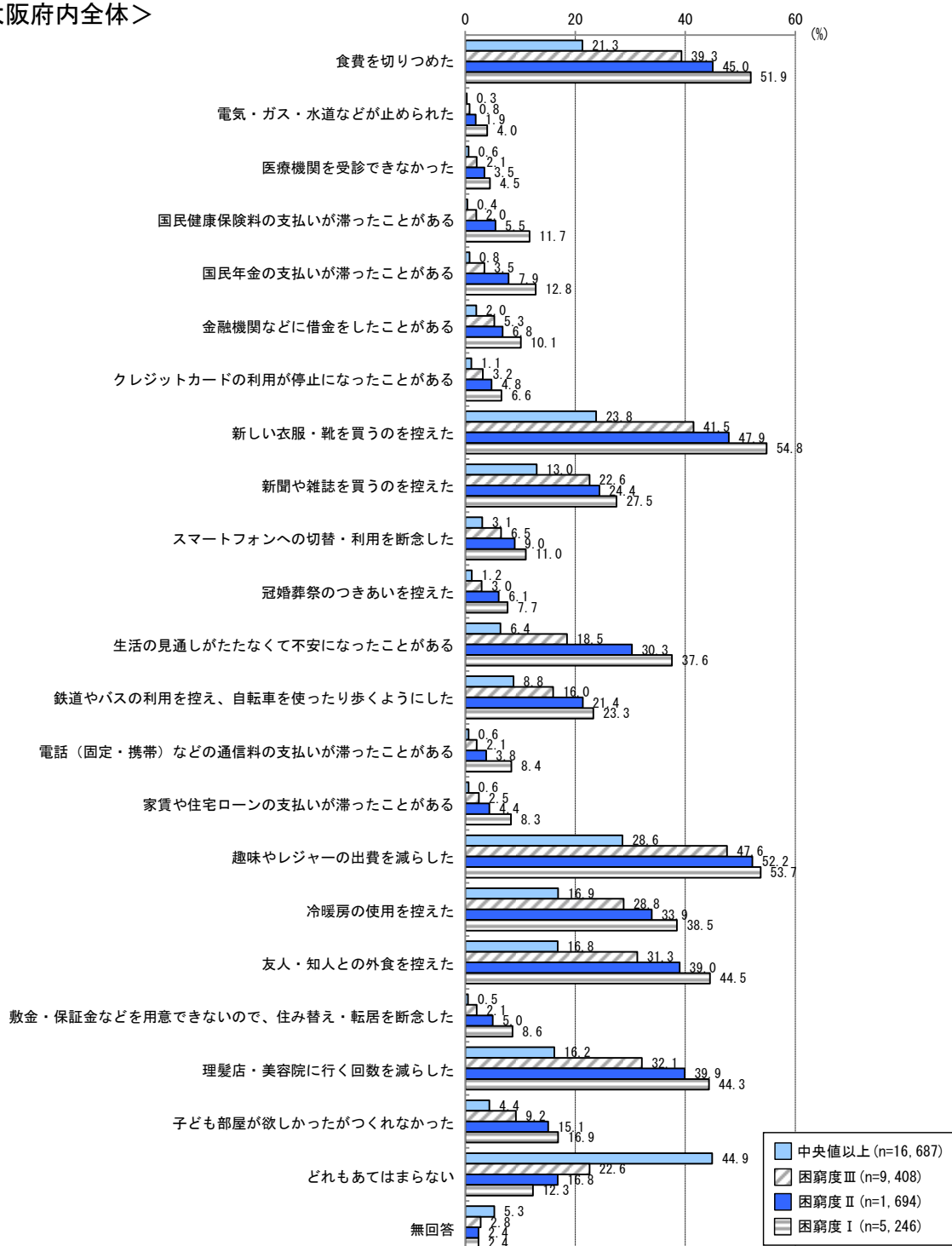
以下のグラフは、主に困窮度別に示している。大阪府内全自治体の傾向については記述していないが、多くにおいて、本自治体調査結果と同様の傾向が見られる。さらに顕著な傾向が見られるものもある。

3-1. 基本情報

(1) 経済状況

困窮度別に見た、経済的な理由による経験（保護者票問7）

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

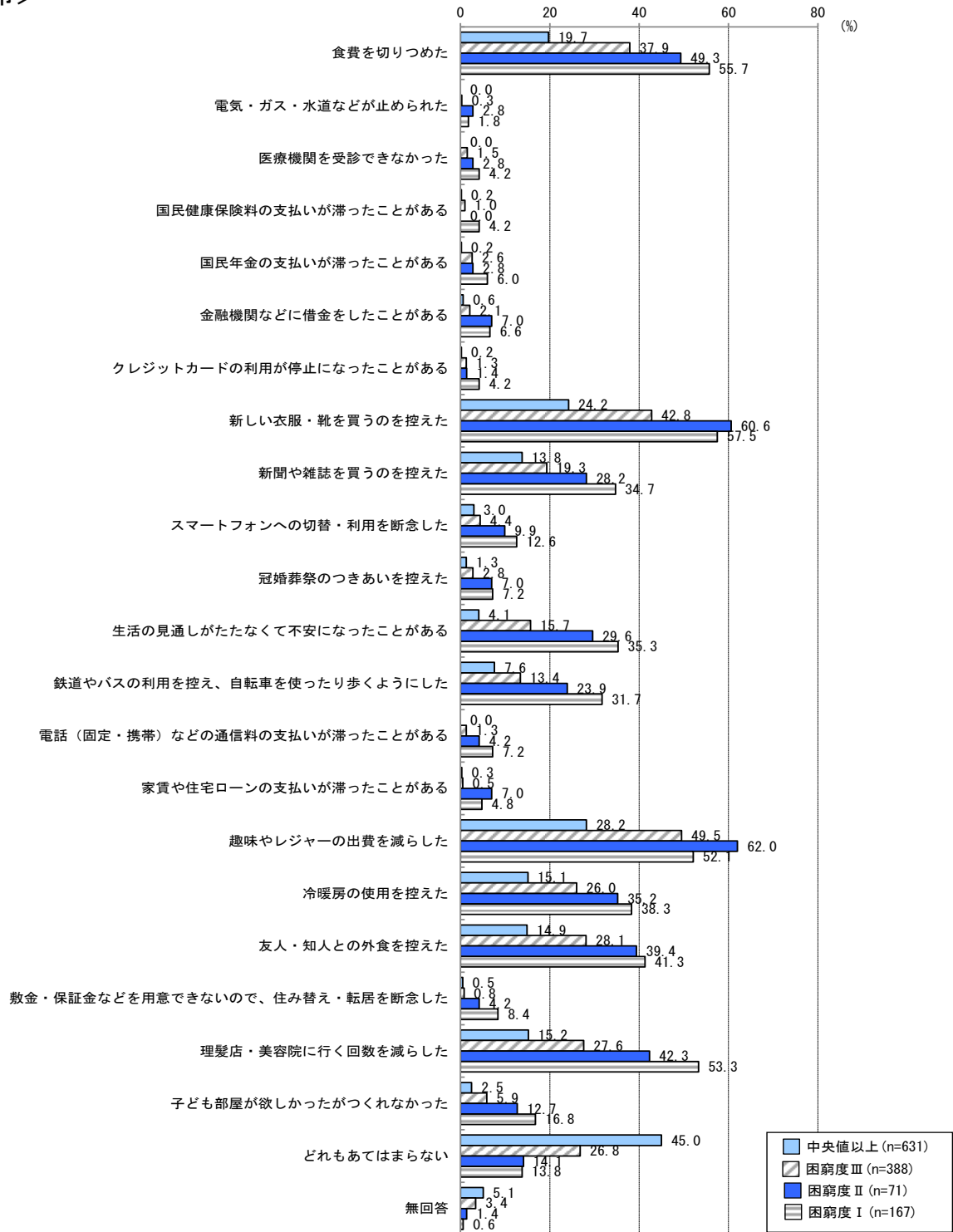
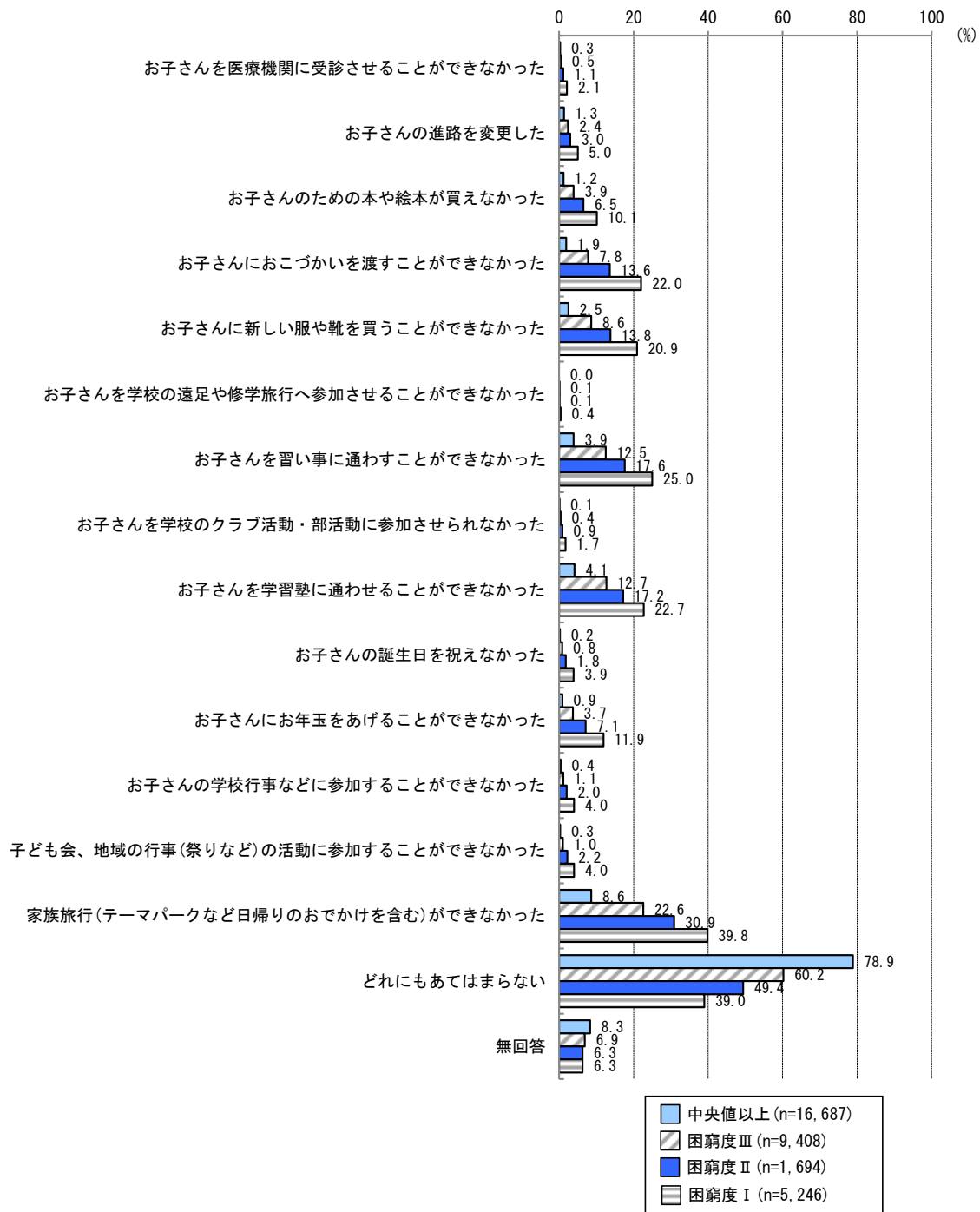


図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験

困窮度別に経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「国民年金の支払いが滞ったことがある」が6.0%（中央値以上群に対して30.0倍）、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」、「クレジットカードの利用が停止になったことがある」が4.2%（同じく21.0倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また「どれもあてはまらない」は中央値以上群で45.0%に対して、困窮度Ⅰ群において13.8%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<枚方市>

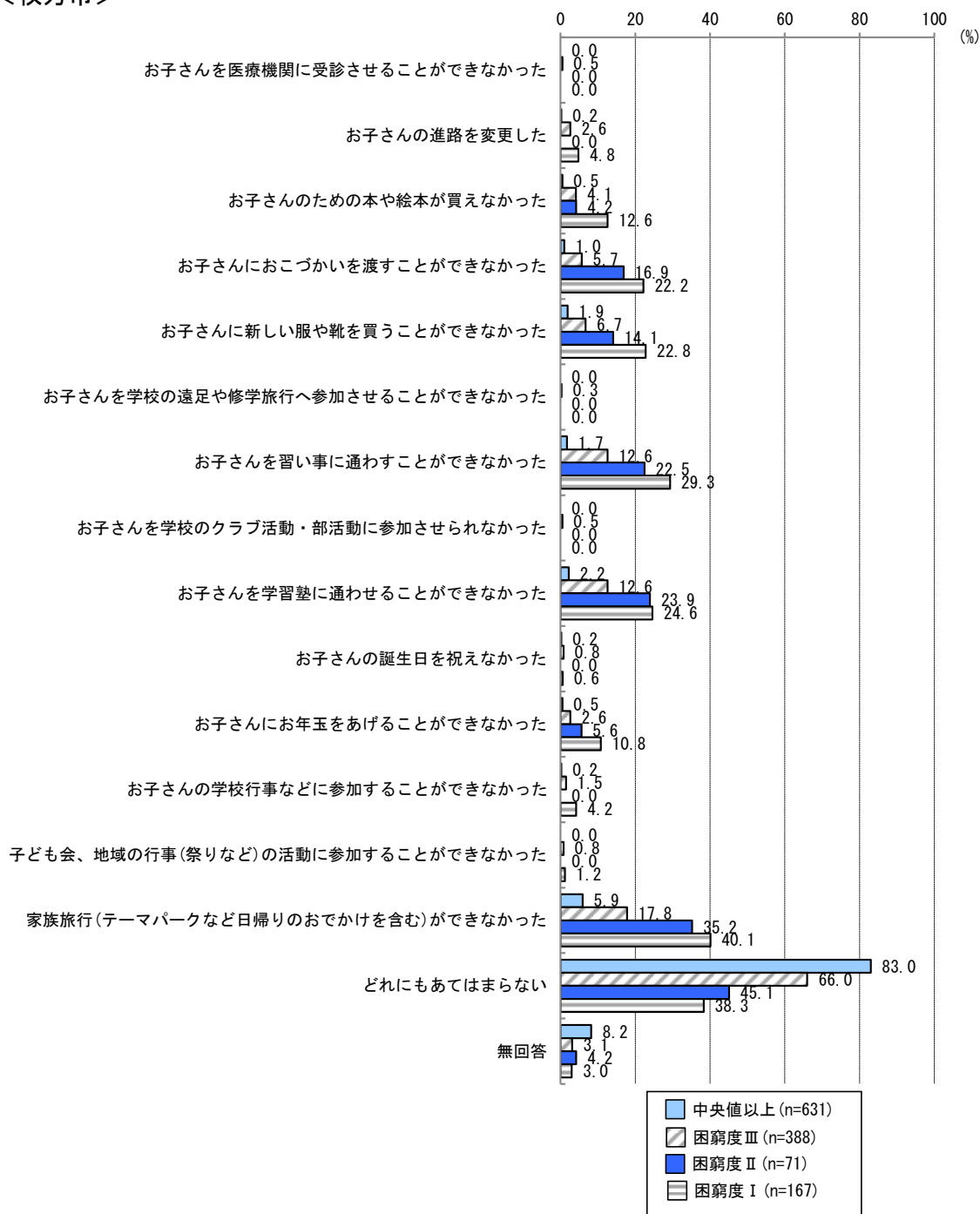


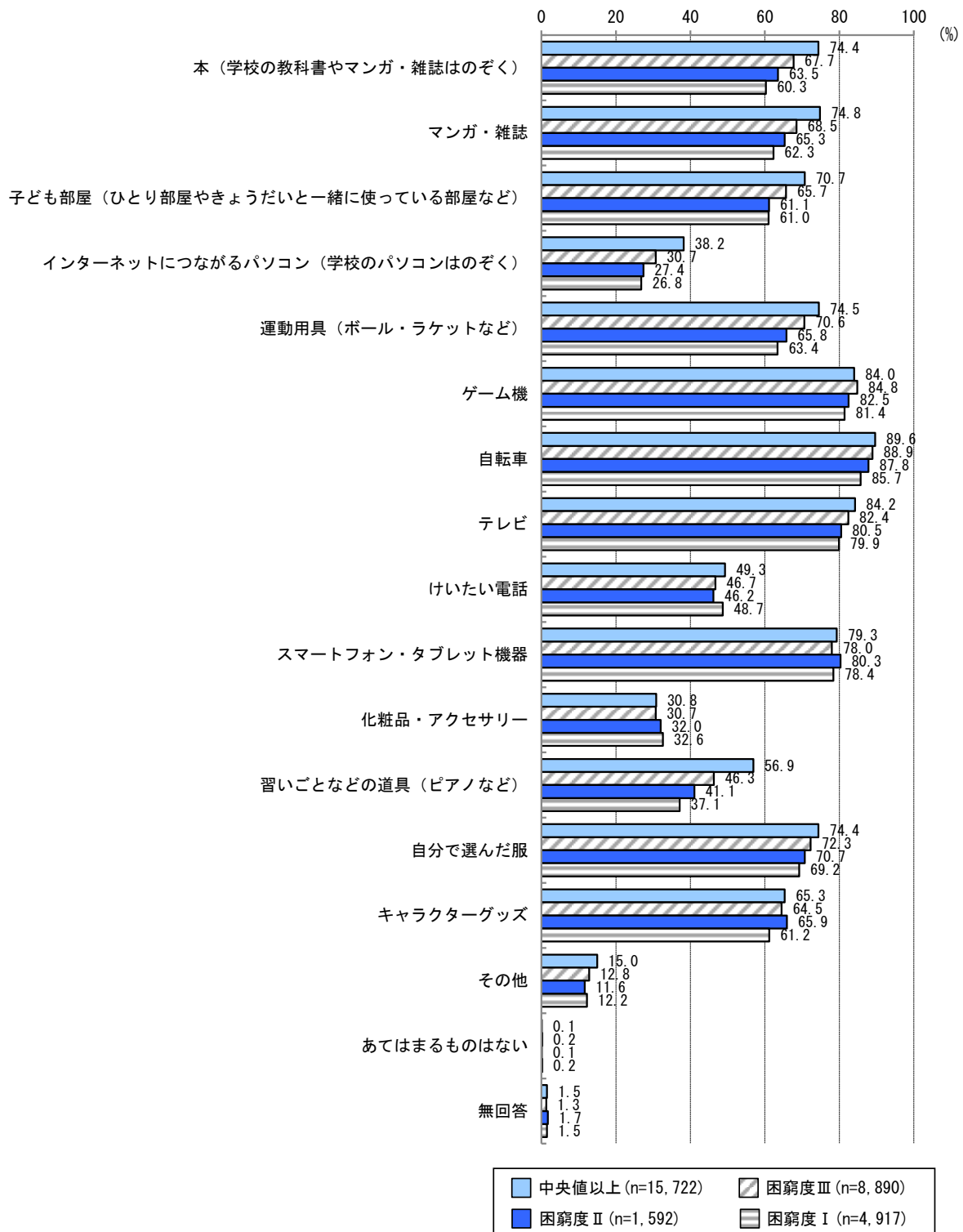
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験

困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「お子さんのための本や絵本が買えなかった」が12.6%（中央値以上群に対して25.2倍）、「お子さんの進路を変更した」が4.8%（同じく24.0倍）、「お子さんにおこづかいを渡すことができなかった」が22.2%（同じく22.2倍）となっている。

また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群で83.0%に対して、困窮度Ⅰ群において38.3%だった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

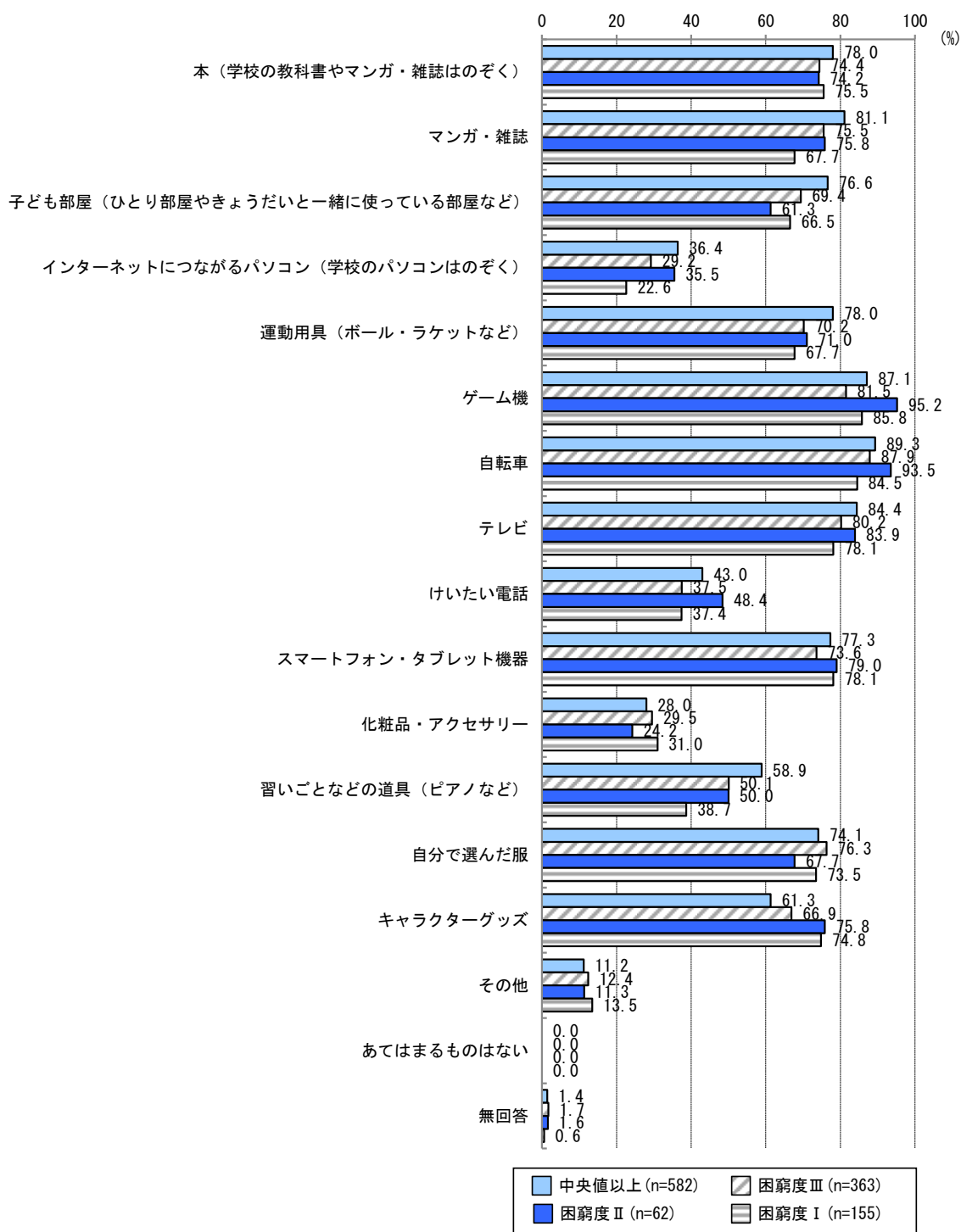
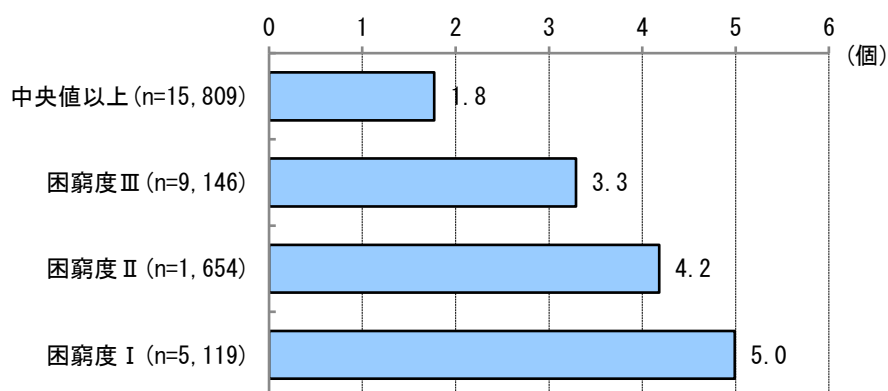


図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものを見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群を見ると、「インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）」が36.4%（困窮度 I 群に対して1.6倍）、「習いごとなどの道具（ピアノなど）」が58.9%（同じく1.5倍）、「マンガ・雑誌」が81.1%（同じく1.2倍）となり、中央値以上群において高い項目、すなわち困窮度 I 群においては低い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<枚方市>

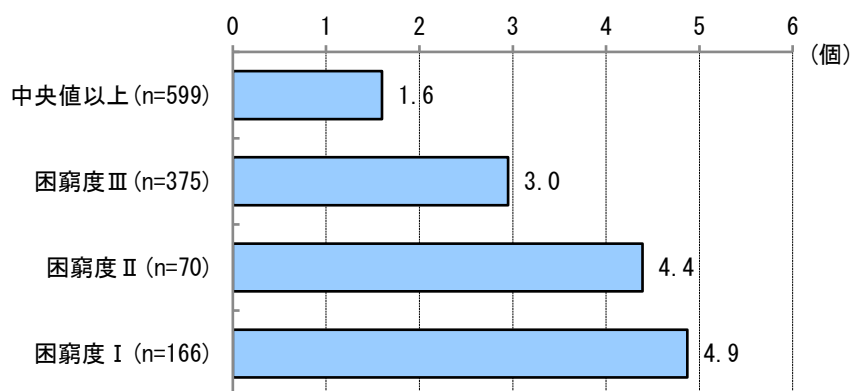


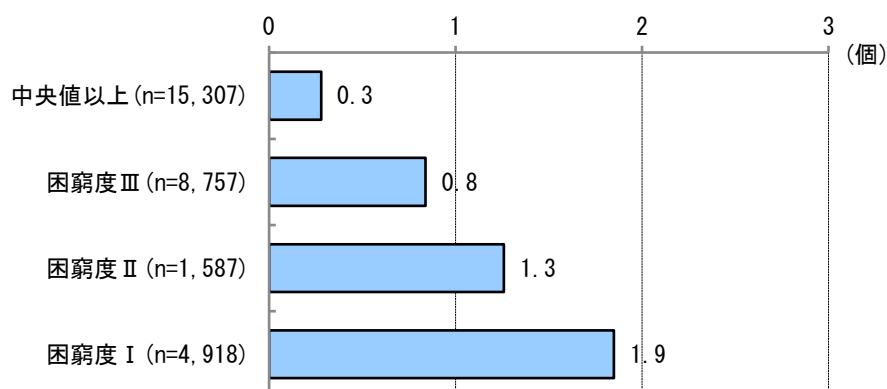
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験として示した21個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由による経験の該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<枚方市>

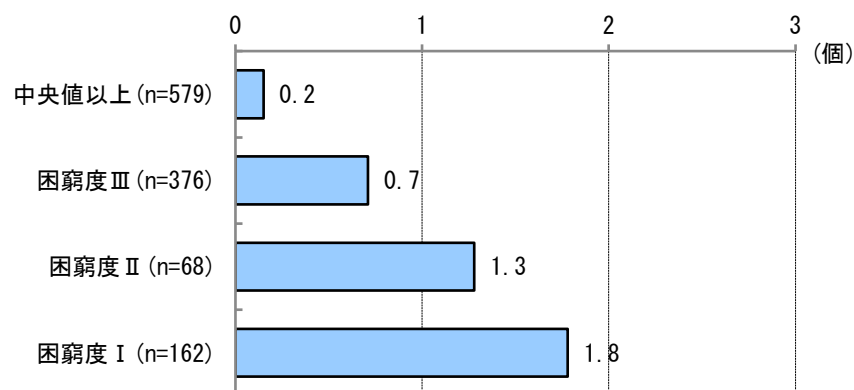


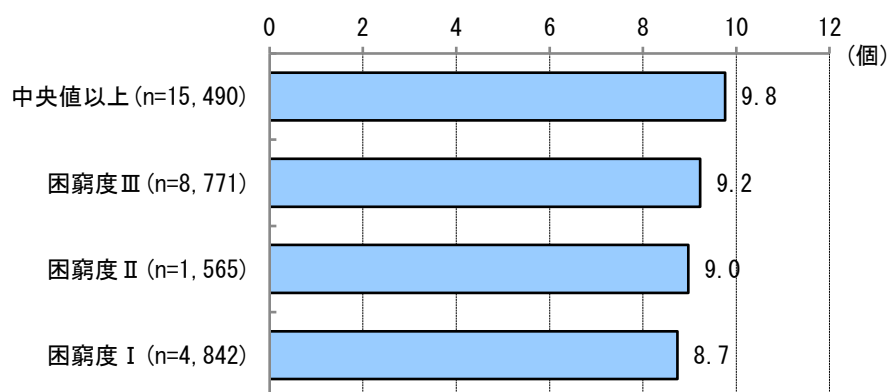
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもに関して経済的な理由による経験として示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<枚方市>

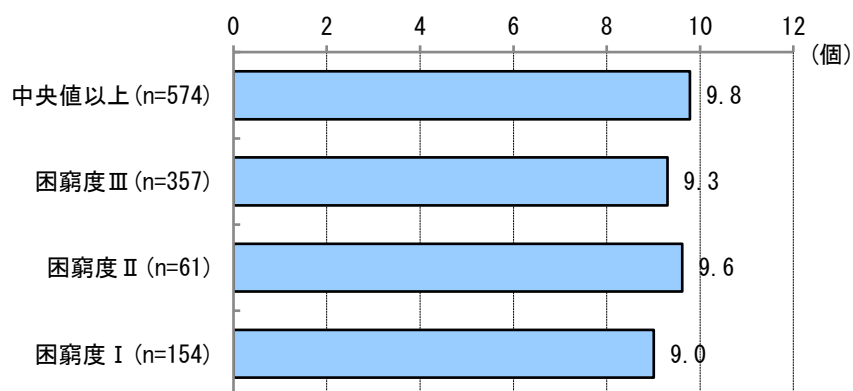


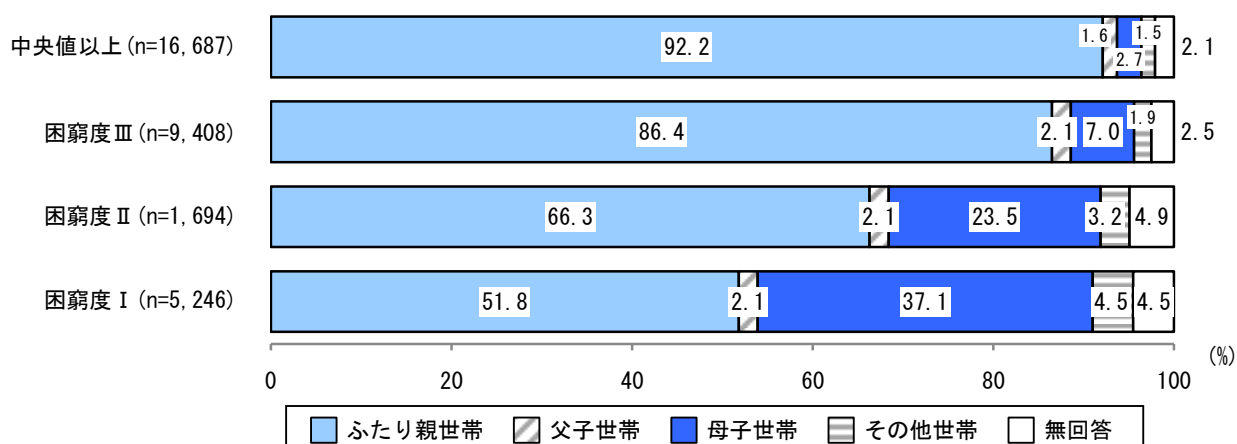
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるものとして示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度によって子どもの持ちもの、使えるものの該当数に大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<枚方市>

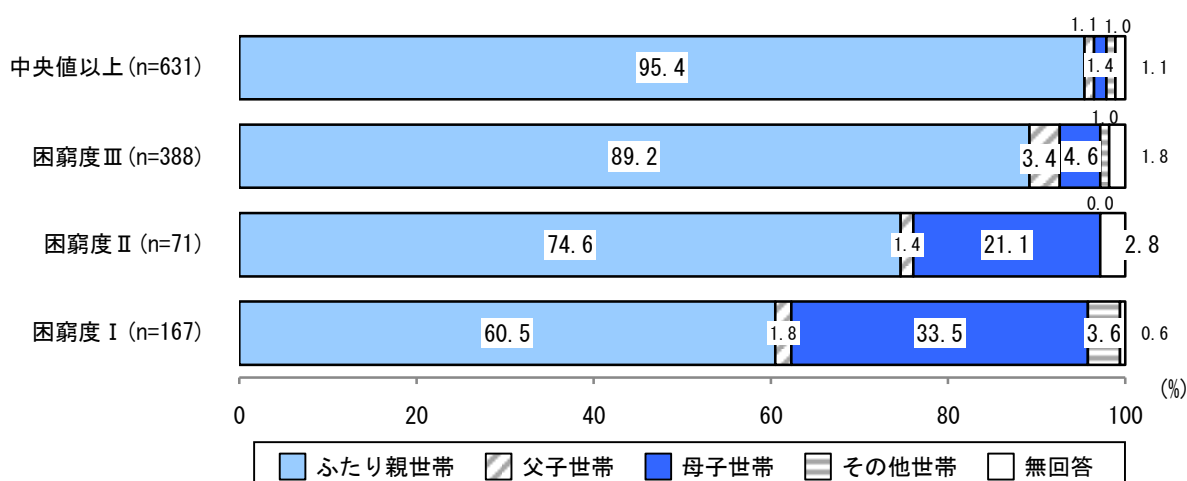


図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成

困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答したのは、中央値以上群が95.4%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は60.5%だった。また、「母子世帯」と回答したのは、中央値以上群が1.4%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は33.5%だった。

<2016年度調査との比較／枚方市>

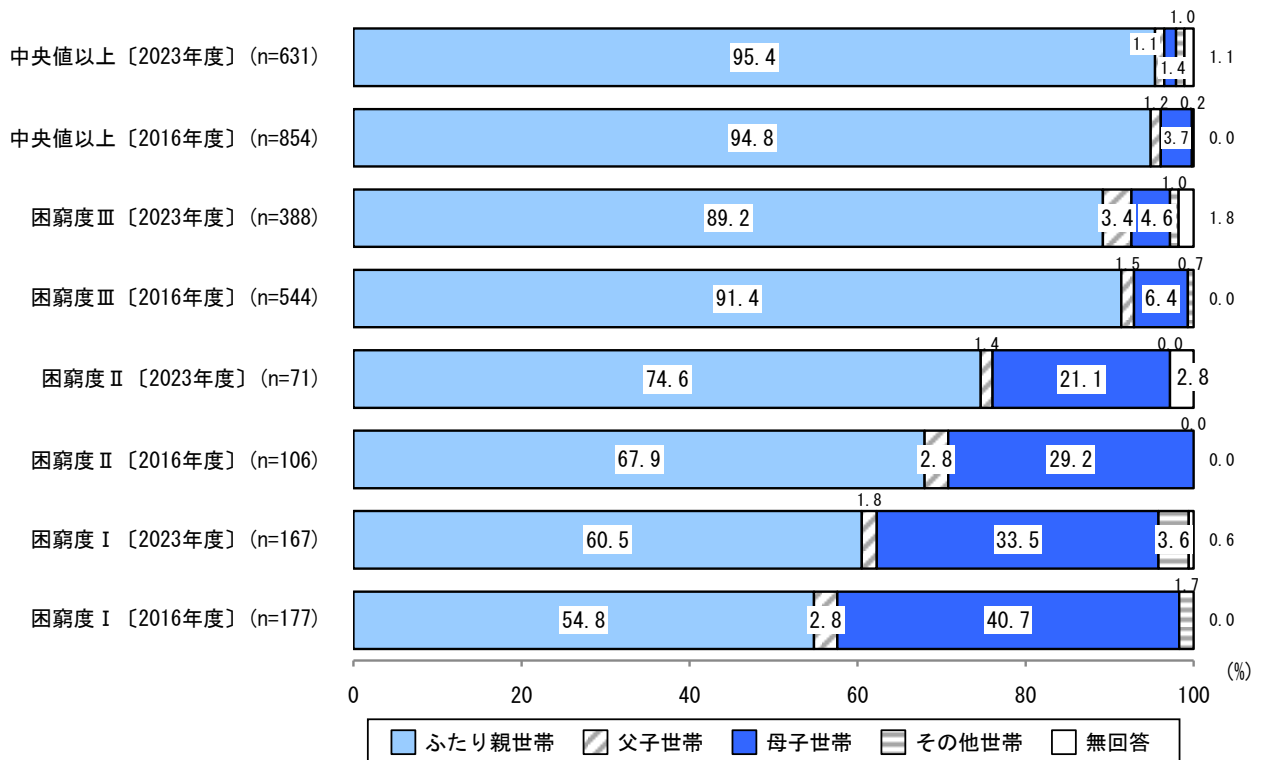
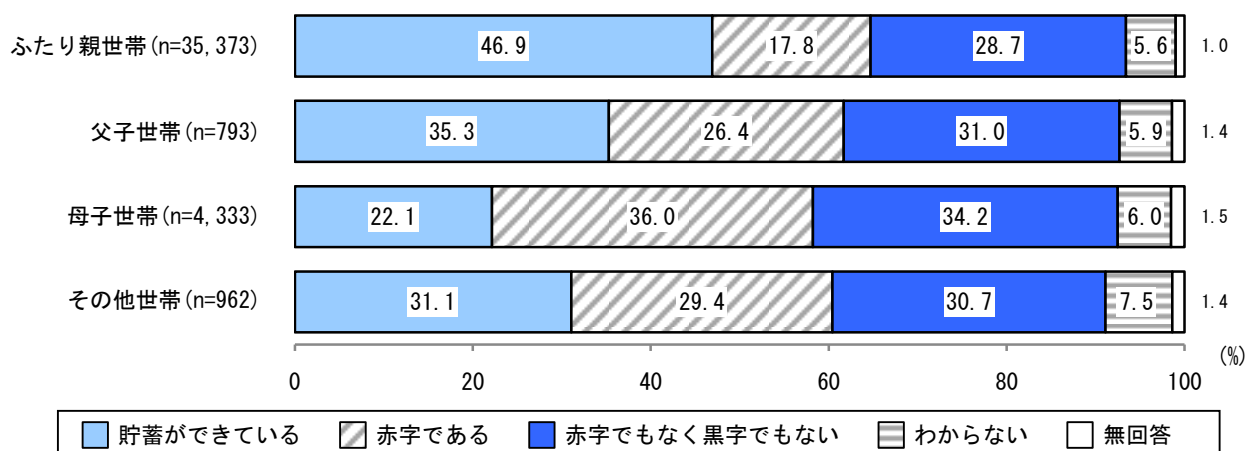


図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「ふたり親世帯」と回答した割合は、中央値以上群と困窮度Ⅱ群、困窮度Ⅰ群は2016年度調査に比べて高くなっているが、困窮度Ⅲ群は、2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

世帯構成別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

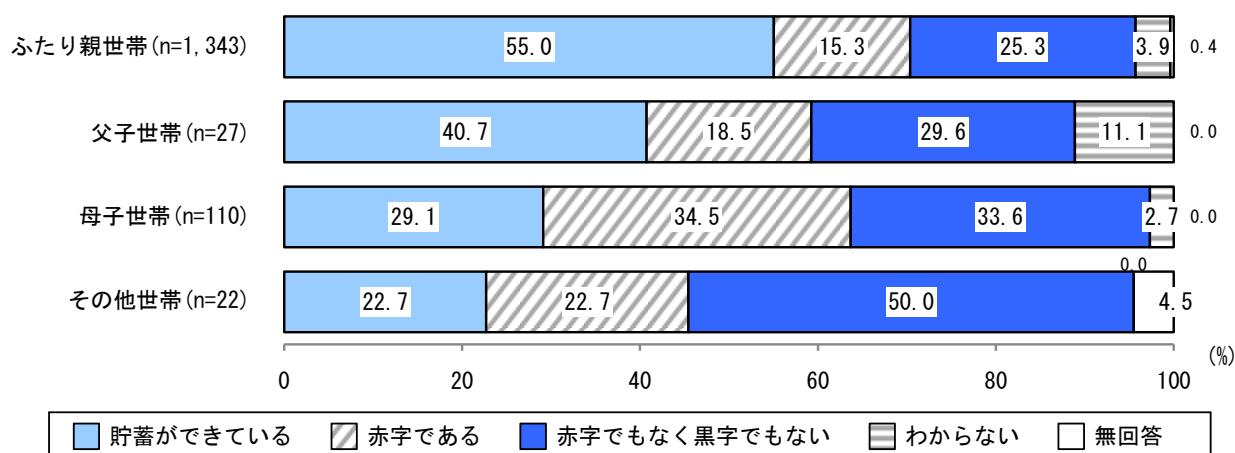
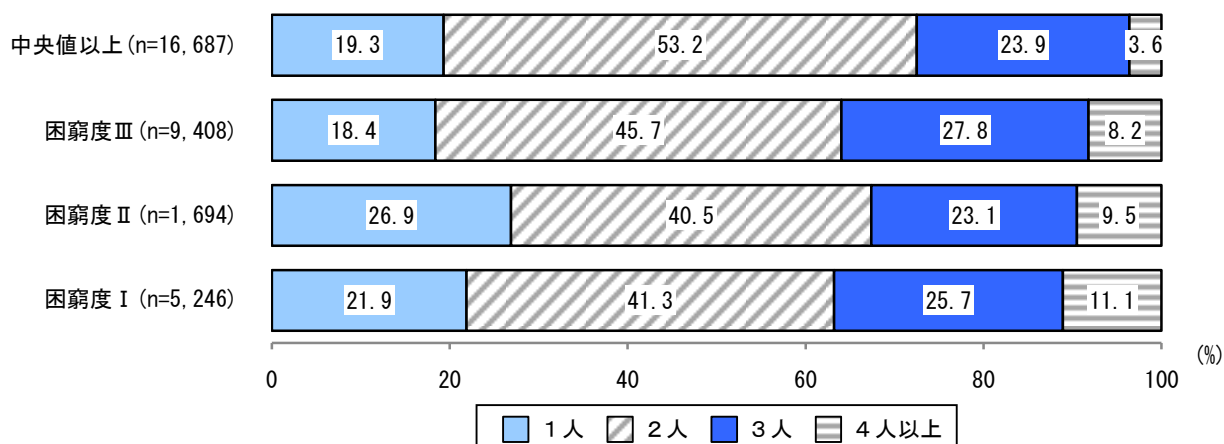


図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況

世帯構成別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができていない」と回答した割合は、ふたり親世帯が 55.0%なのに対して、父子世帯40.7%、母子世帯29.1%だった。また、「赤字である」と回答したのは、ふたり親世帯が15.3%なのに対して、母子世帯は34.5%だった。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<枚方市>

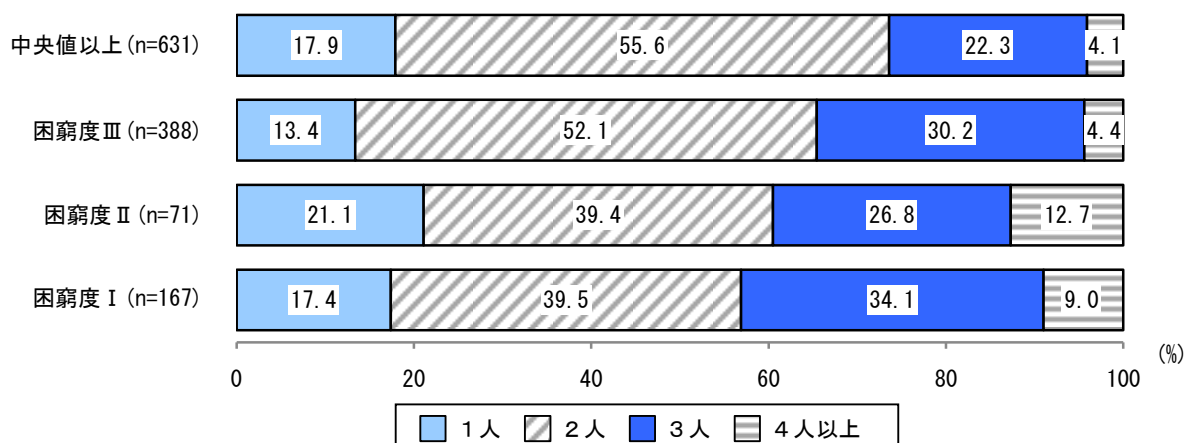
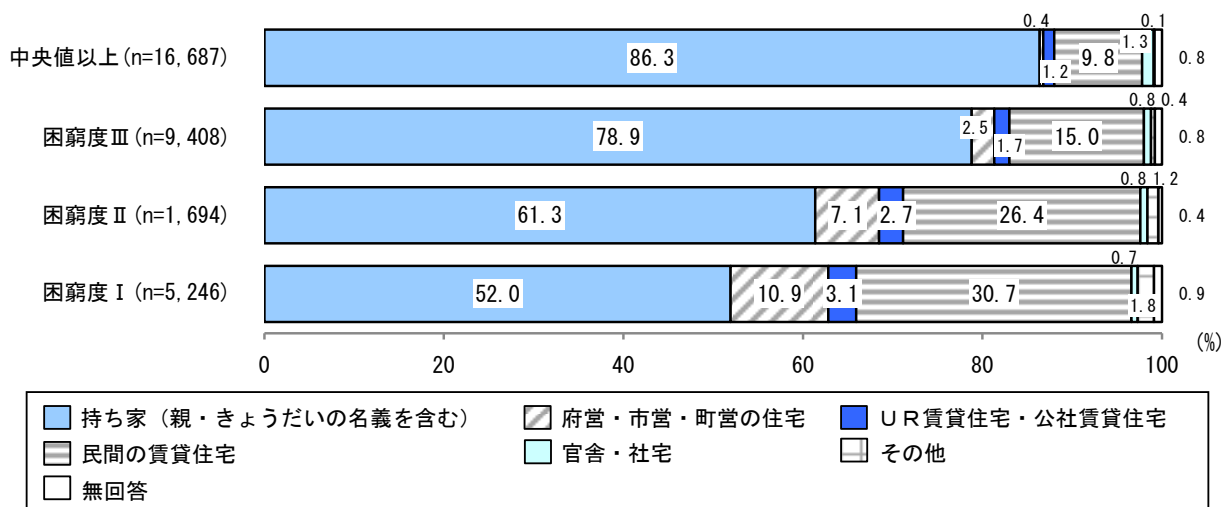


図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において3人以上が26.4%（3人22.3%、4人以上4.1%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、3人以上が43.1%（3人34.1%、4人以上9.0%）と高くなっている。

困窮度別に見た、住居形態（保護者票問5）

<大阪府内全体>



<枚方市>

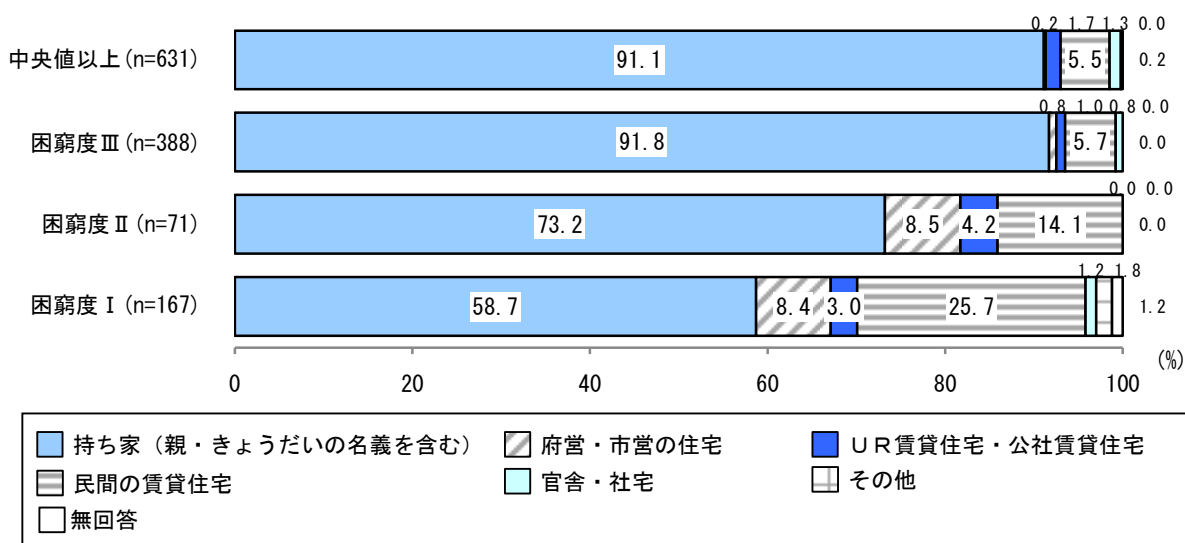
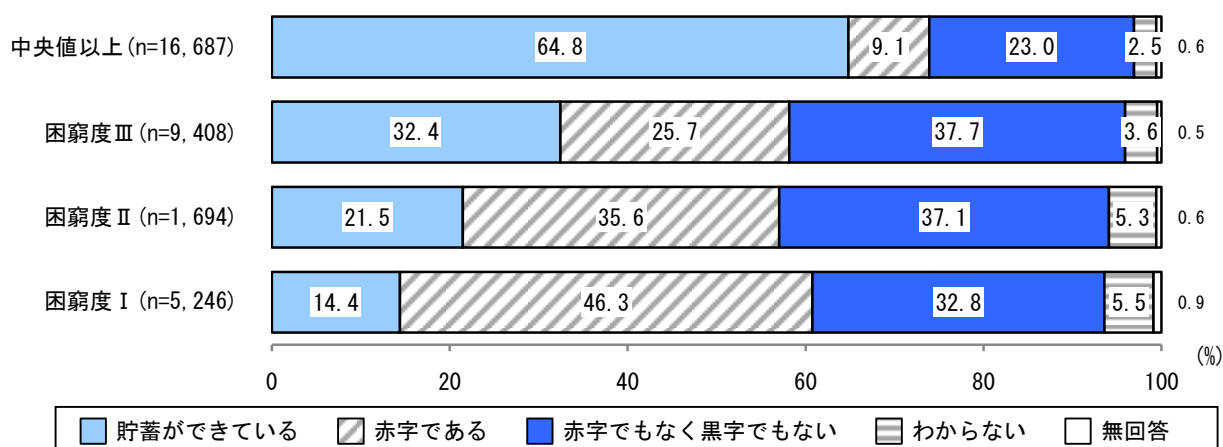


図 11. 困窮度別に見た、住居形態

困窮度別に住居形態を見ると、困窮度が高まるにつれ、持ち家の保有率は概ね低くなっている。中央値以上群と困窮度Ⅲ群では、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」と回答した割合は91.1%、91.8%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、58.7%にとどまっている。

困窮度別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

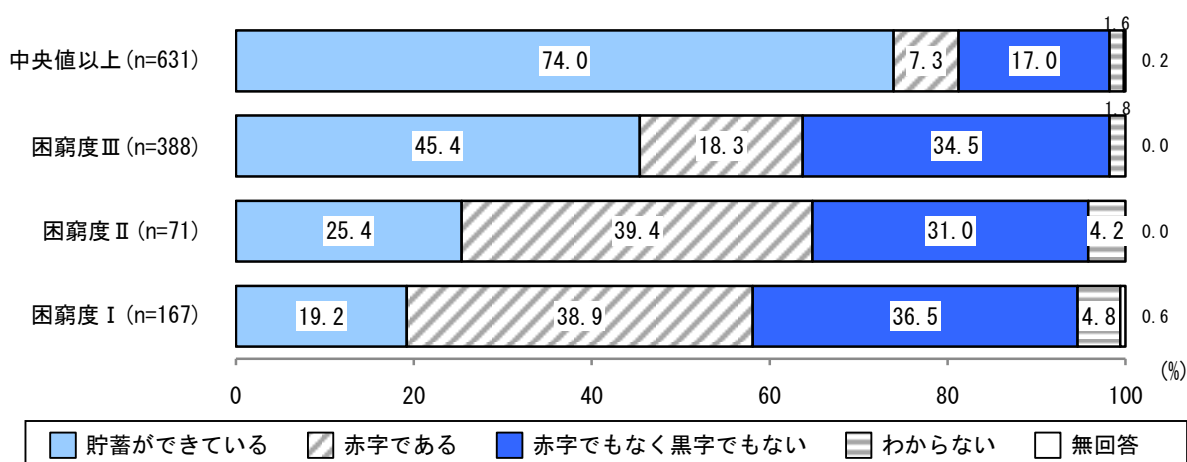
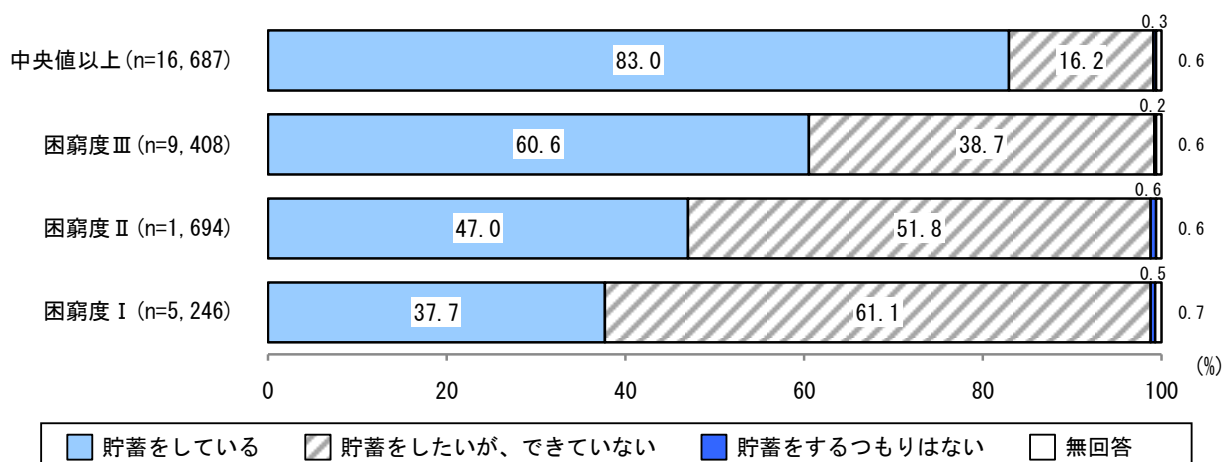


図 12. 困窮度別に見た、家計の状況

困窮度別に家計の状況を見ると、困窮度が高まるにつれて、「貯蓄ができています」と回答する割合が低くなり、逆に、「赤字である」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、7.3%であるのに対して、困窮度Ⅰ・Ⅱ群では、38.9%、39.4%となり、困窮度Ⅰ・Ⅱ群で約4割を占めている。

困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問 6(2)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

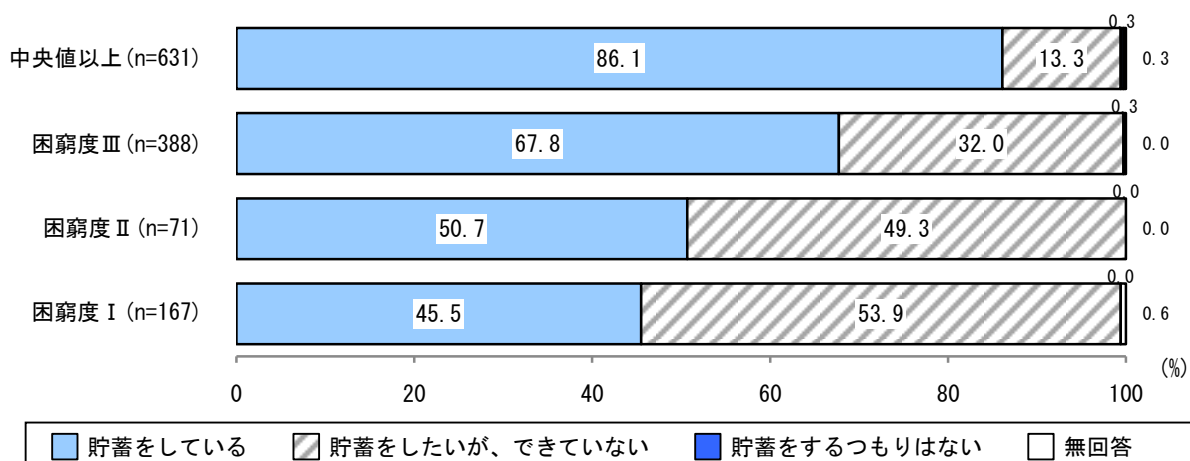
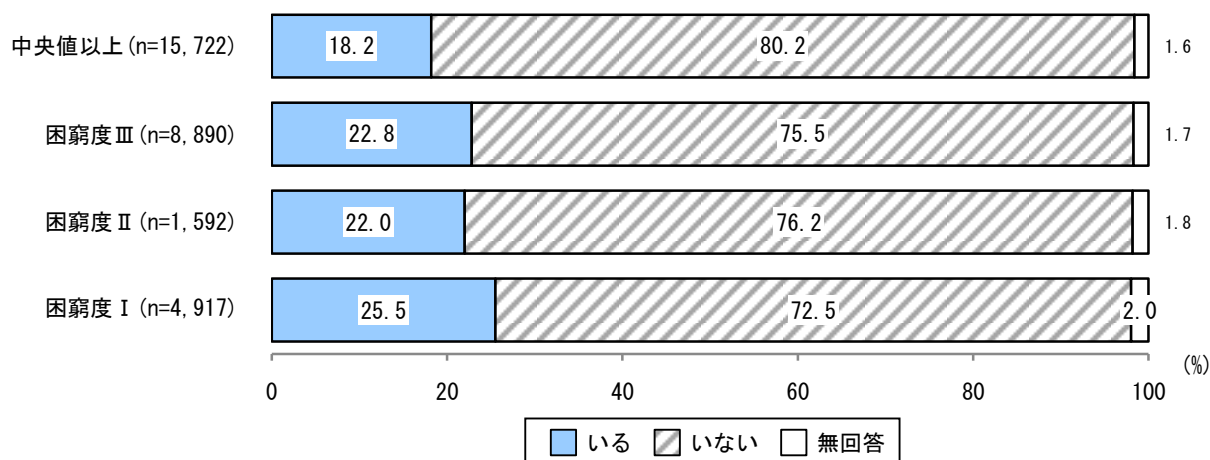


図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

困窮度別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「貯蓄をしたいが、できていない」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答した割合が86.1%を占めたが、困窮度Ⅰ群では45.5%にとどまり、約5割が「貯蓄をしたいが、できていない」と回答している。

困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無（子ども票問 26(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

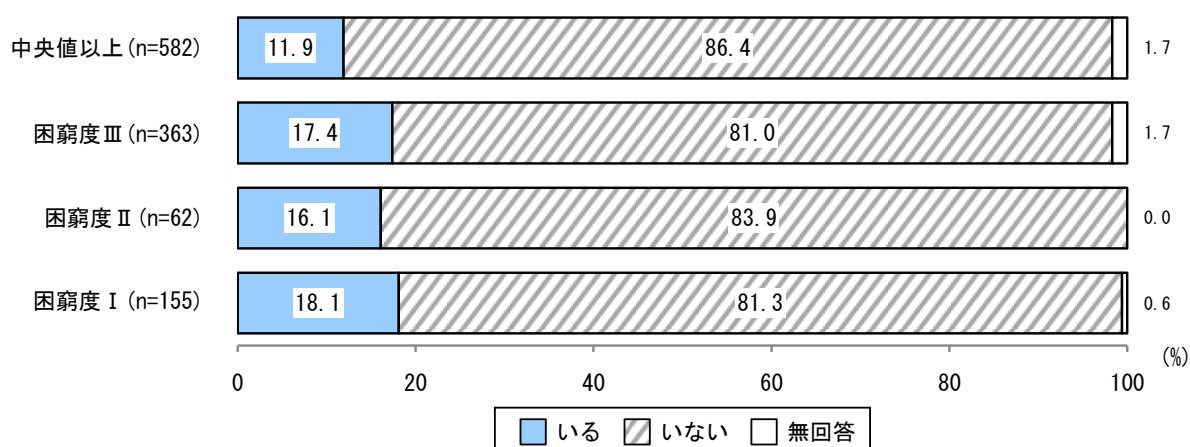


図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無

困窮度別に自分が世話をしている人の有無を見ると、自分が世話をしている人が「いる」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で18.1%と最も高くなっている。中央値以上群では、「いない」と回答した割合が86.4%を占め、最も高くなっている。

<経済状況に関する考察>

経済的理由で生じた生活上の困難についての質問項目は、現在の日本社会において、「通常であれば可能な生活」を基準に設定している。「どれもあてはまらない」という回答は、その基準に達していることを示すものであるが、中央値以上群で45.0%に対して、困窮度Ⅰ群では13.8%にすぎない。一方、困窮度が深刻化するにしたがい経済的理由から生活面での困難は増す傾向にあり、「食費を切り詰めた」(55.7%対19.7%)、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」(53.3%対15.2%)では中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群が30ポイント以上高く、嗜好的要因である「趣味やレジャーの出費を減らした」(52.1%対28.2%)、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」(57.5%対24.2%)でも中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群が20ポイント以上高くなっているほか、ほぼすべての項目で中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が高くなっており、生活面で大きな格差が存在する。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「国民年金の支払いが滞ったことがある」(6.0%対0.2%)でも中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が高く、子どもの親（保護者）の将来（老後）の生活困難を示唆するデータも見られた。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響しており、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」(35.3%対4.1%)では中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群が30ポイント以上高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、生活インフラへの支払いの滞りや年金支払いの義務が果たせなくなることに加え、将来への不安感が多いことが示唆される。

世帯の経済状況は、子どもの教育にも影響を及ぼしていることが確認できる。主な項目をあげると、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」(29.3%対1.7%)、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」(24.6%対2.2%)では、いずれも中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が20ポイント以上高く、象徴的には「お子さんの進路を変更した」(4.8%対0.2%)でも中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が高くなっており、子どもに与える教育の格差が示されている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの進路や学習環境、家族以外の社会的交流を行う機会が制限されることが示唆される。

同様に、学校以外での子どもの多様な「体験」の有無は、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験の機会に格差があることが示されている。具体的には、「家族旅行（日帰りのおでかけを含む）ができなかった」(40.1%対5.9%)では中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群が30ポイント以上高く、経験に大きな差がある。以上のように、所得階群によって体験の機会に差が見られるが、修学旅行への参加やクラブ・部活動への参加などでは大きな格差は見られず、子どもに対して貴重な体験や勉強の機会が提供しようとしている姿勢がデータから読み取れる。

また、経済的状況と世帯員の続柄の項目では、「お母さん」(96.8%対94.0%)では大きな差がないのに対して、「お父さん」(96.5%対62.3%)では中央値以上群の方が困窮度Ⅰ群より30ポイント以上高く、母子家庭の経済的困難が示唆されているほか、「姉・兄」(52.1%対49.4%)、「妹・弟」(50.9%対42.3%)、「おばあさん」(10.8%対4.0%)、「おじいさん」(7.2%対3.2%)といずれも中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が高くなっているほか、世帯児童数でも3人以上では中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が高くなっており、困窮度は世帯構成員が多い方で厳しい状況が示唆されている。「子どもの将来のための貯蓄状況」という質問項目に対して、中央値以上は困窮度Ⅰ群と比べ、「貯蓄をしている」(86.1%対45.5%)、と回答した割合が40ポイント以上高くなっているのに対して、「貯蓄をしたいが、できていない」(53.9%対13.3%)と回答した割合では、中央値以上群よりも困窮度Ⅰ群の方が40ポイント以上高くなっており、貯蓄の状況に大きな差があることが確認できる。これらの結果から、経済的困難な家庭では、貯蓄不足により、将来

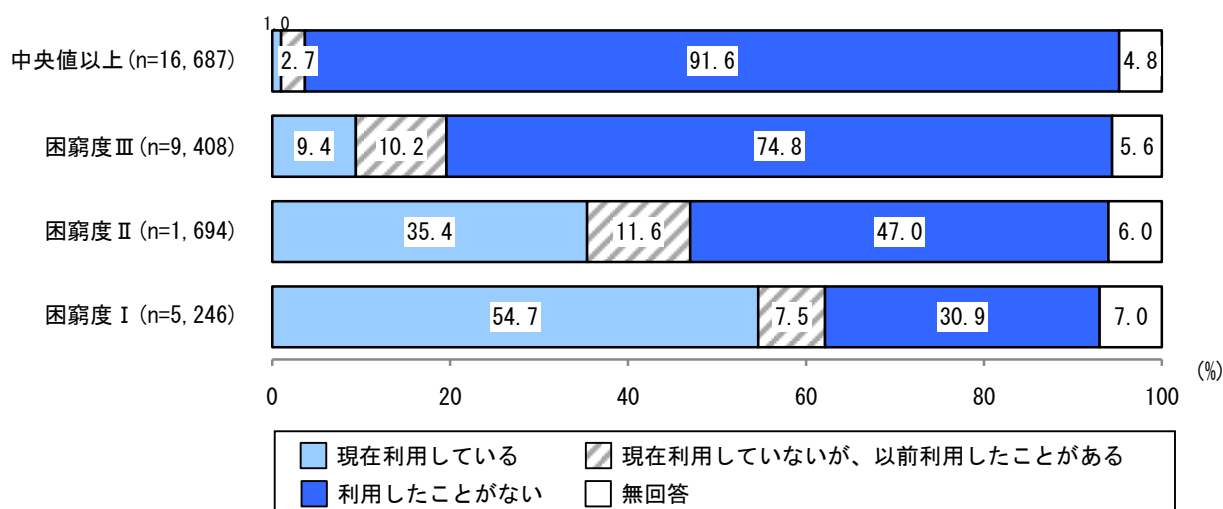
子どもに起こり得るリスク（病気や進路選択など）に備えることや、子どもに対しての投資が難しくなると予想される。

近年、子どもの貧困やヤングケアラーへの社会的関心が深まりつつあり、経済状況との関係で本調査では、「自分が世話をしている人の有無」という質問に対して「いる」と答えている割合は、全体においては14.3%であるが、中央値以上群と比べて困窮度Ⅰ群の方が「いる」(18.1%対11.9%)と答えた割合が高くなっている。これらの結果から、枚方市ではヤングケアラーと思われる子どもの割合は、経済的困難な家庭で高いことが読み取れる。

(2) 家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、就学援助の利用状況（保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<枚方市>

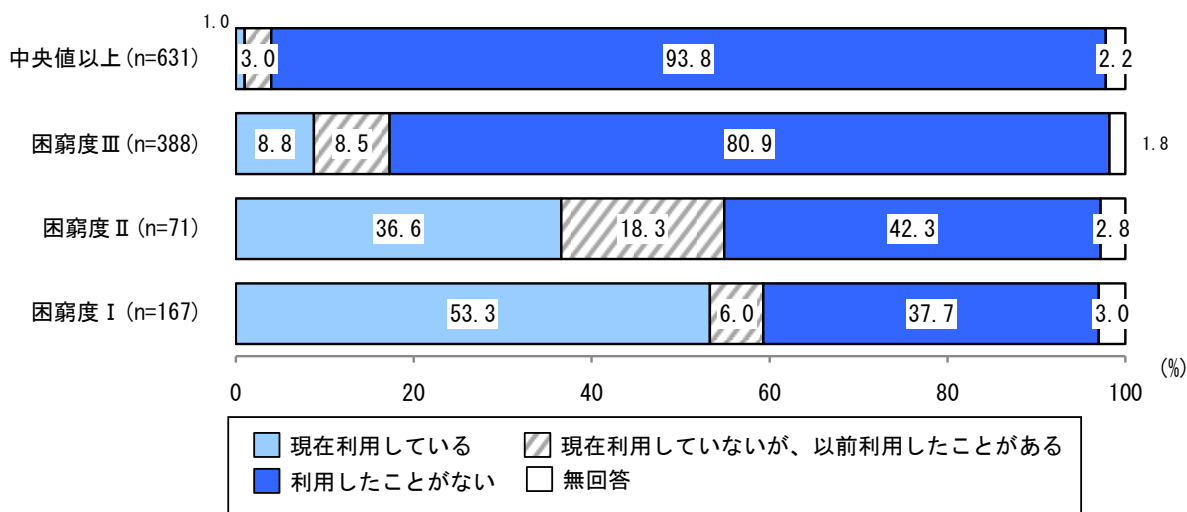
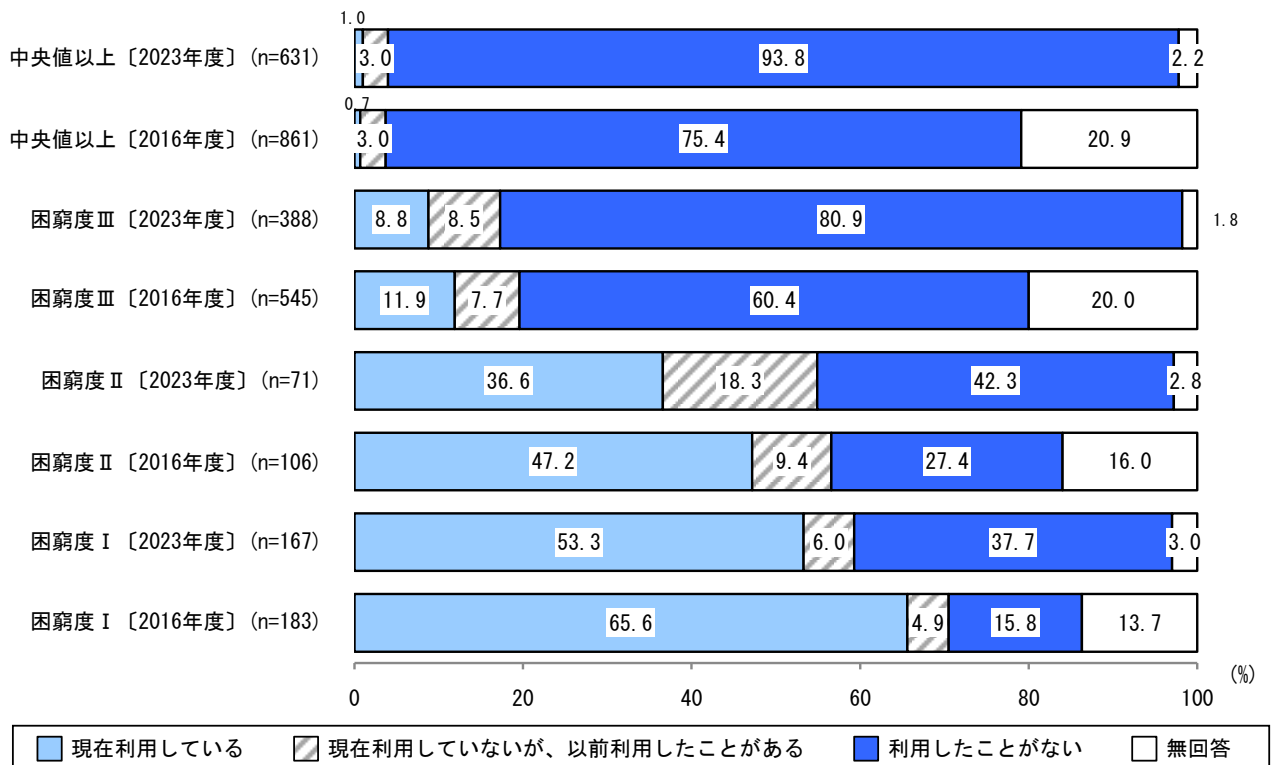


図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況

困窮度別に就学援助の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

<2016年度調査との比較／枚方市>



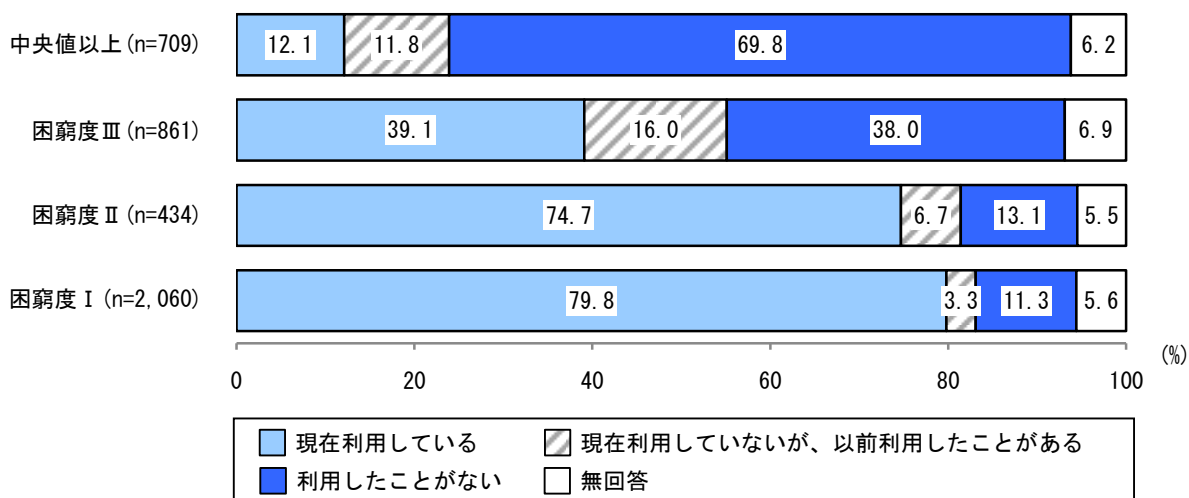
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、中央値以上群は2016年度調査に比べて高くなっており、一方で、困窮度Ⅲ・Ⅱ・Ⅰ群では2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（保護者票問 23-d）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

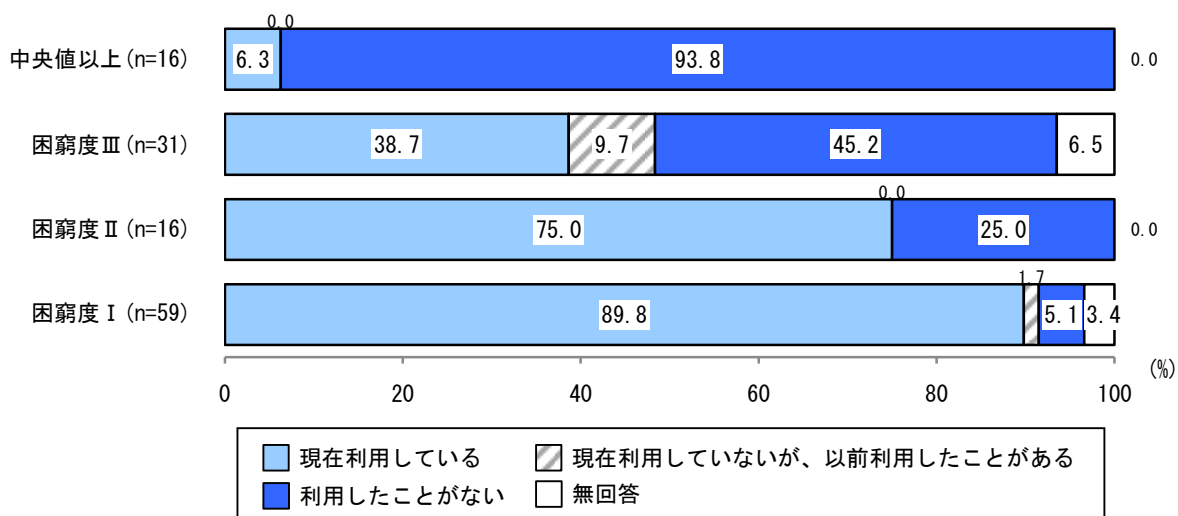


図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に児童扶養手当の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「利用したことがない」と回答した割合は5.1%となっている。

<2016年度調査との比較／枚方市>

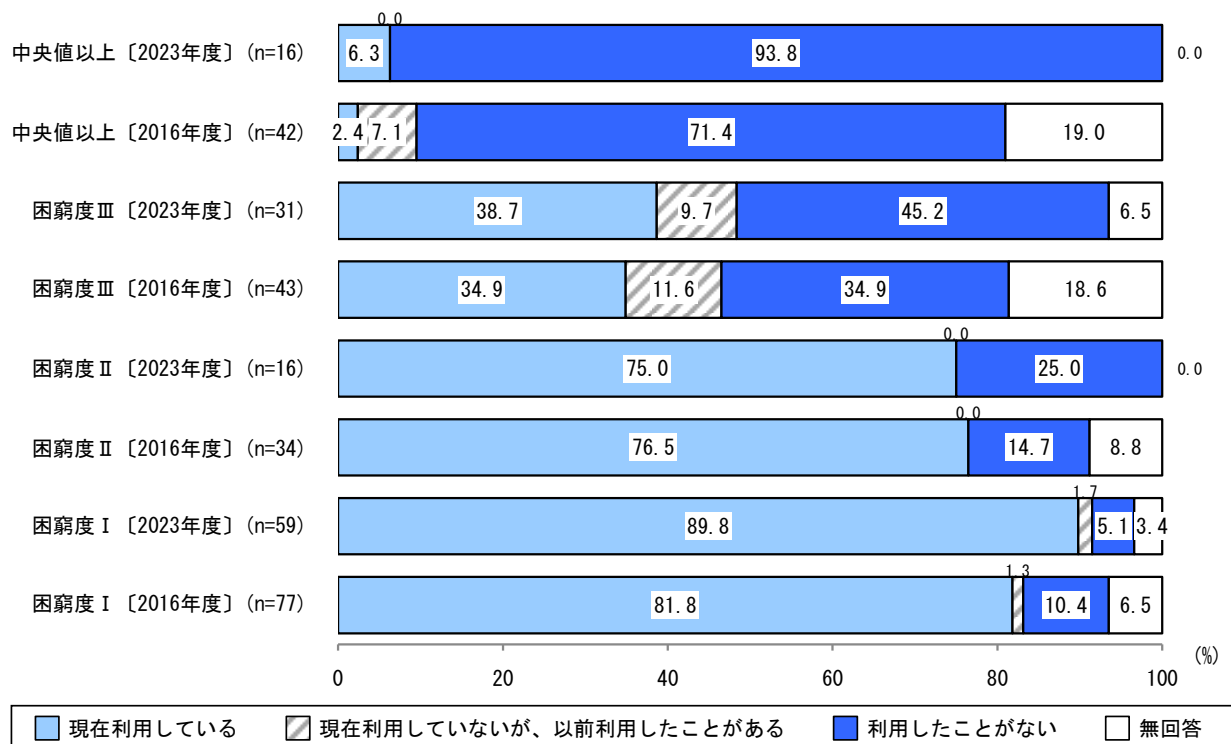
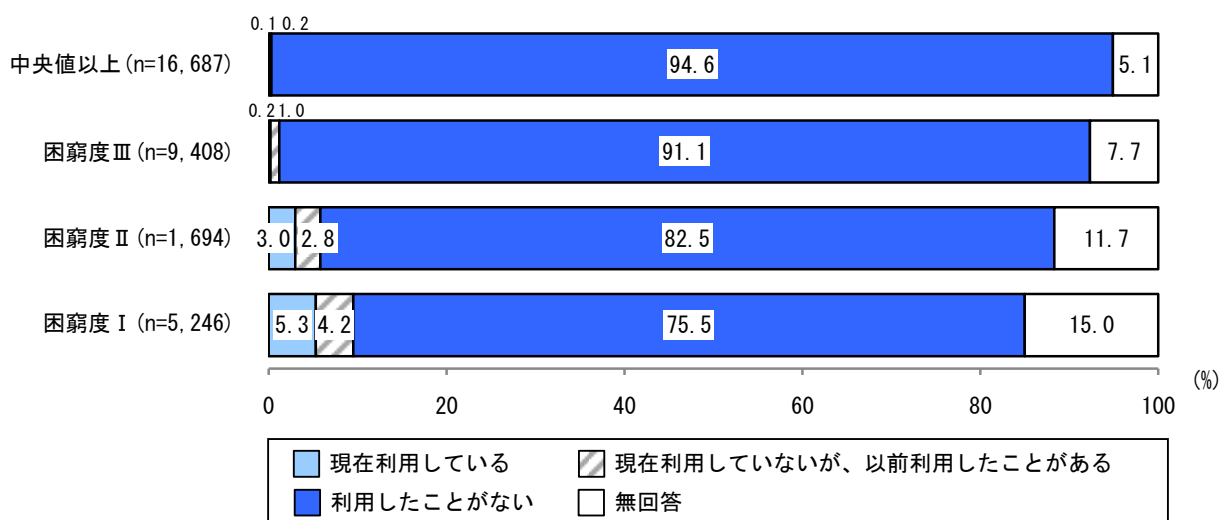


図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群では2016年度調査より割合が低い、困窮度Ⅲ群と困窮度Ⅰ群では2016年度調査よりも高くなっている。

困窮度別に見た、生活保護の利用状況（保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<枚方市>

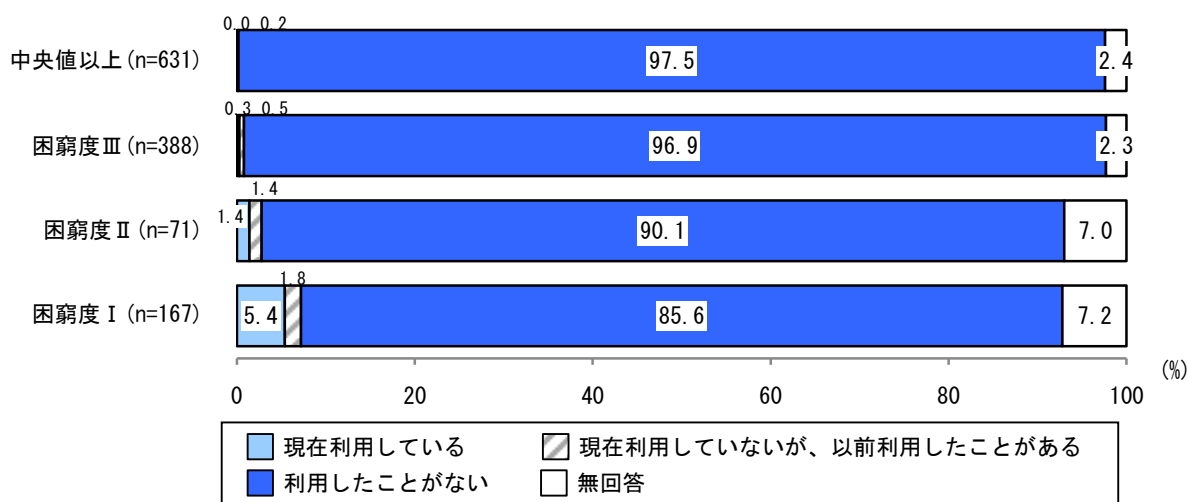


図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況

困窮度別に生活保護の利用状況を見ると、困窮度Ⅰ群においては「現在利用している」と回答した割合は5.4%となっている。困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」の割合が高くなっている。

<2016年度調査との比較／枚方市>

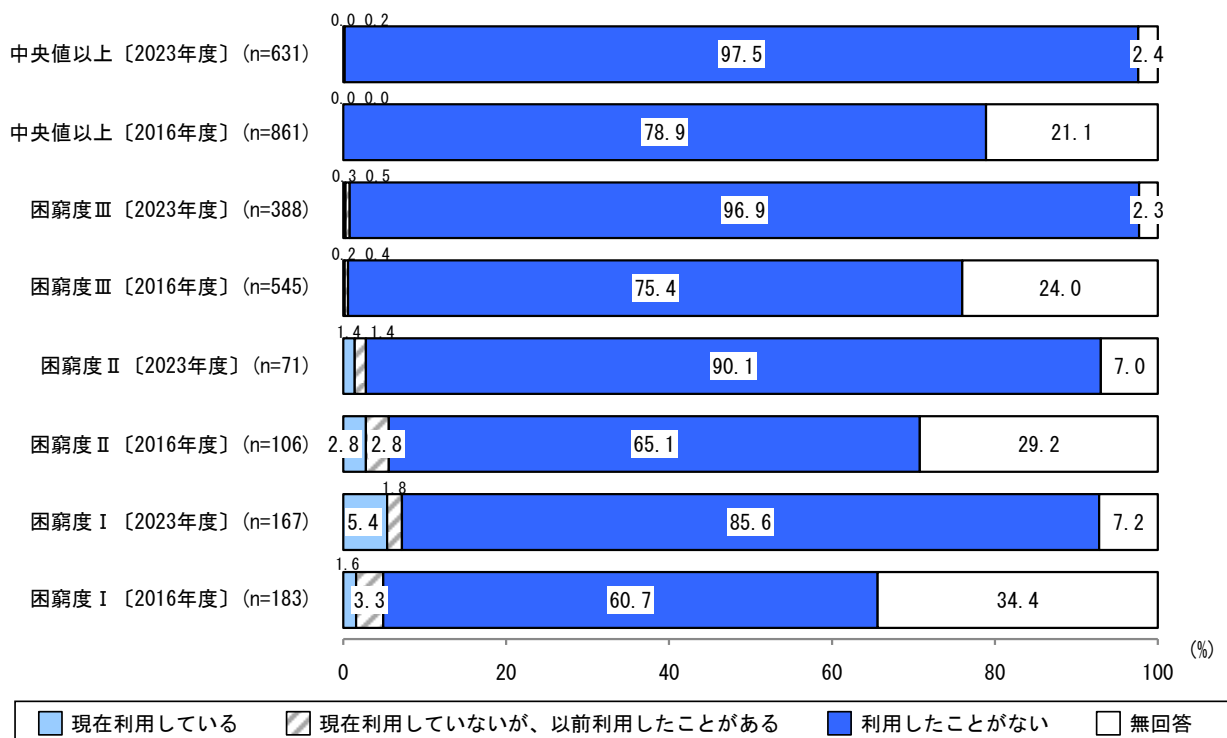
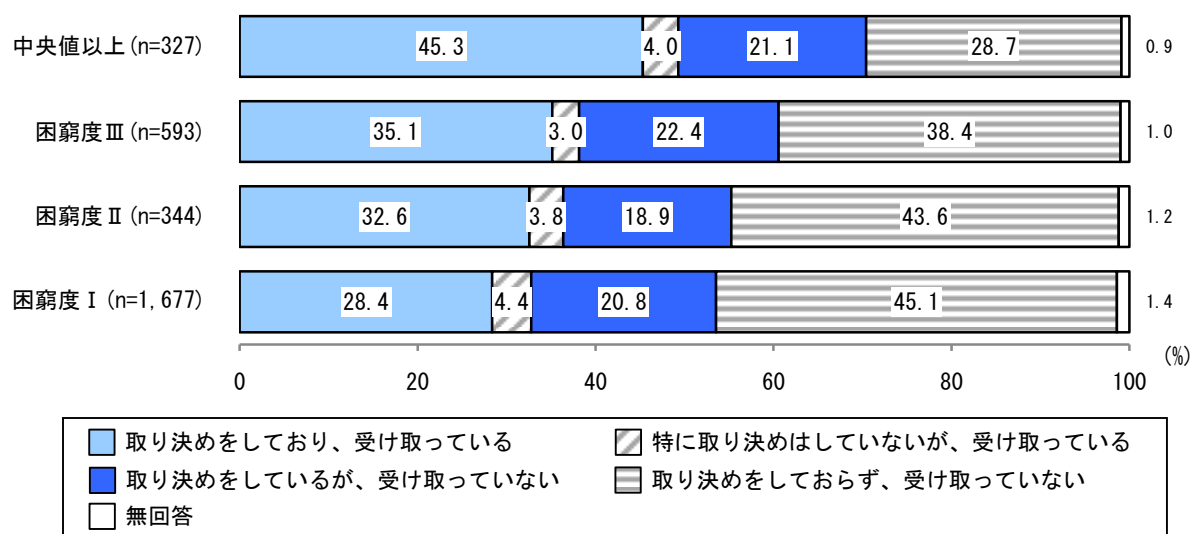


図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群は2016年度調査より割合が低くなっているが、困窮度Ⅲ群と困窮度Ⅰ群は高くなっている。

困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（保護者票問4）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

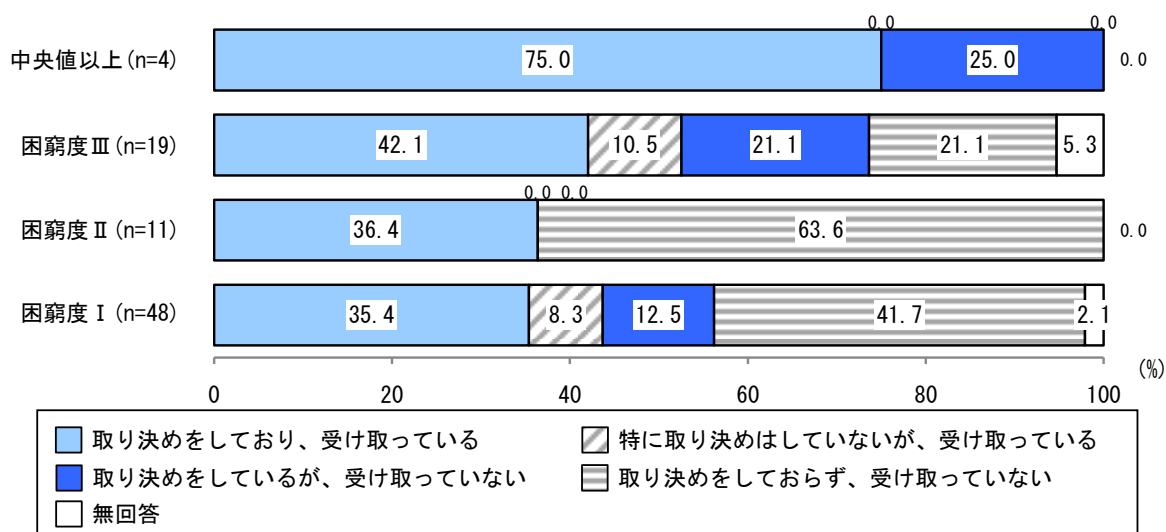
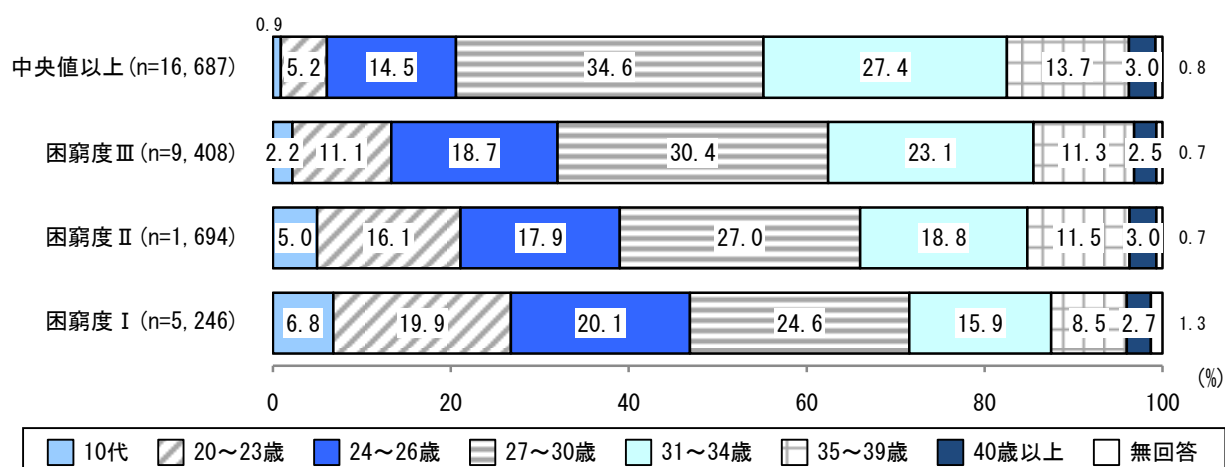


図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に離婚相手との養育費の取り決めや受け取りを見ると、困窮度Ⅰ群においては「取り決めをしており、受け取っている」と回答した割合は35.4%であり、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が41.7%と高く「取り決めをしているが、受け取っていない」の12.5%をあわせた養育費を受け取っていない人が54.2%となっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）

<大阪府内全体>



<枚方市>

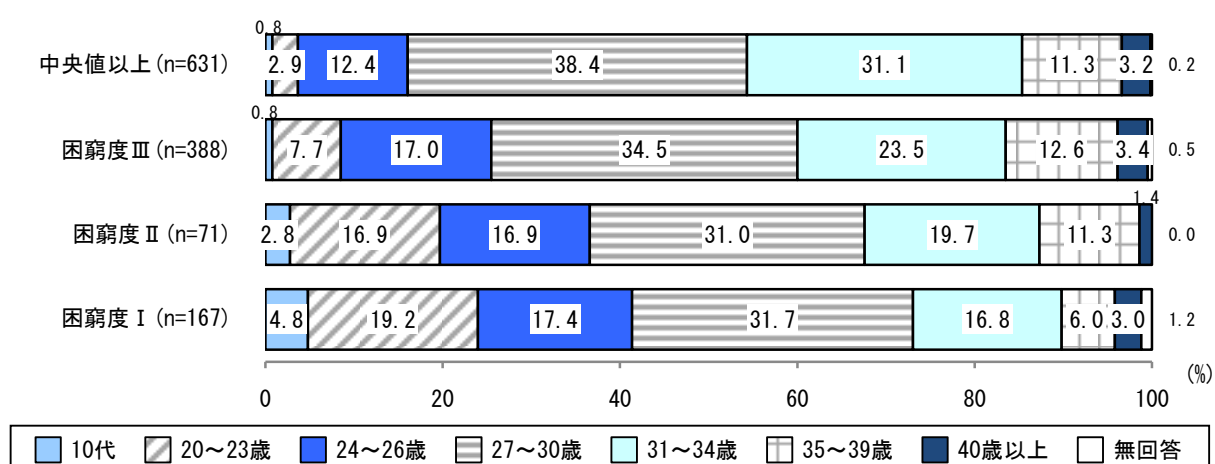
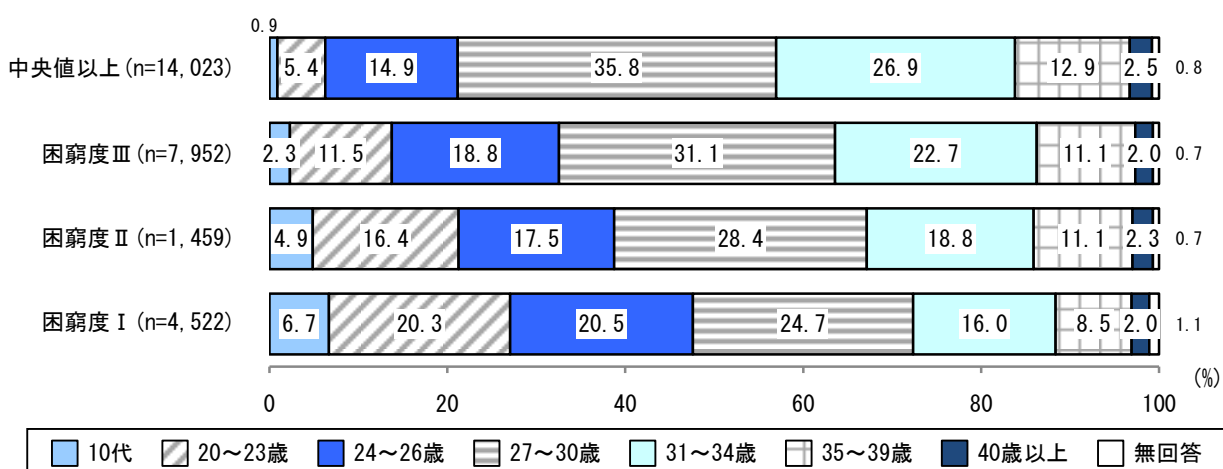


図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、「10代」で初めて親となったと回答した割合が高くなっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）・母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

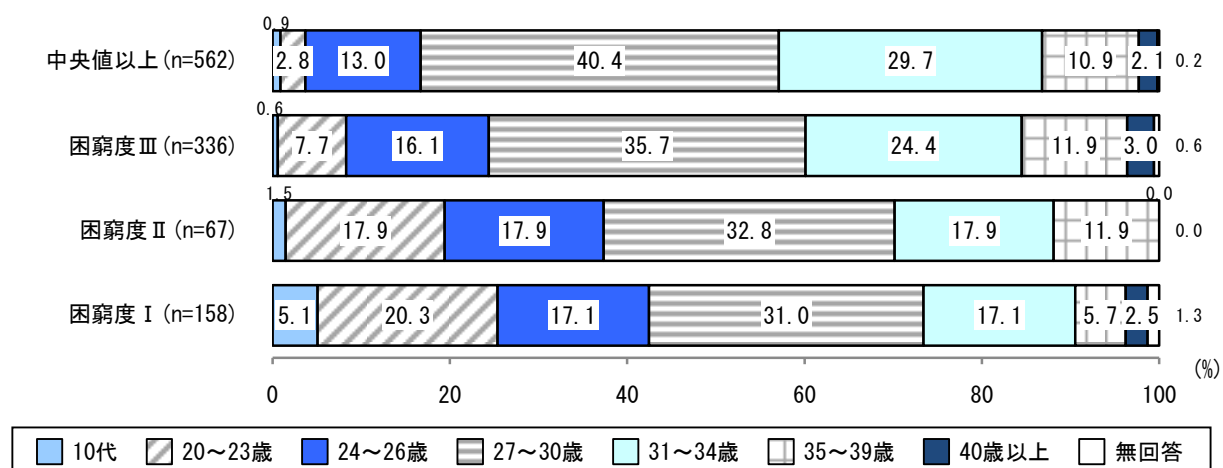
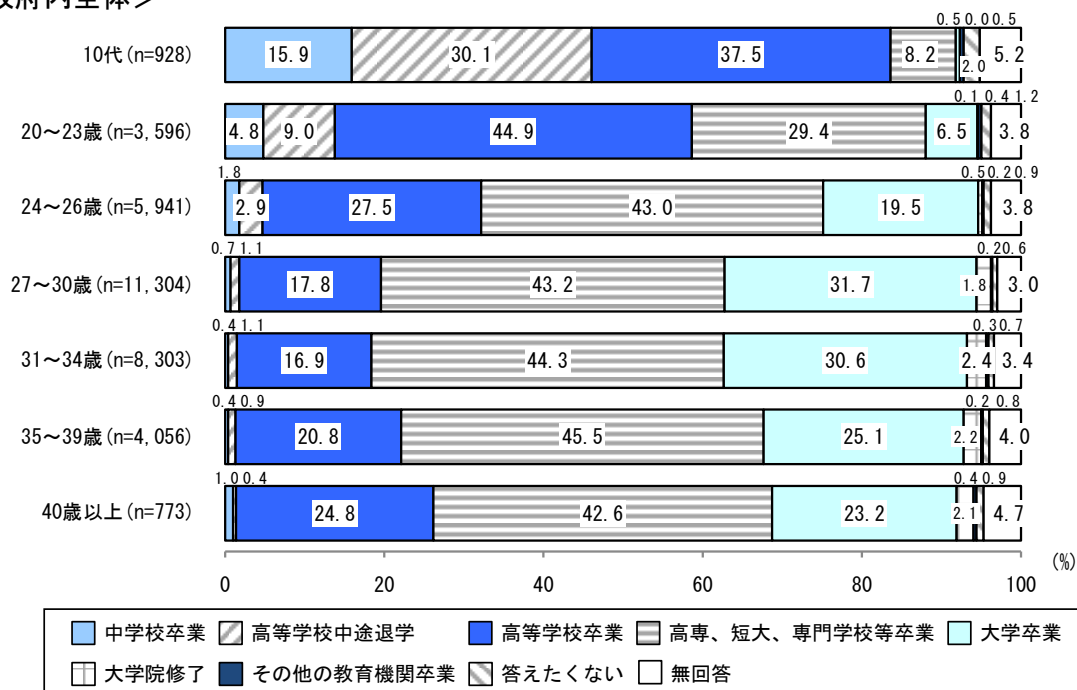


図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、「10代」で初めて親となったと回答した割合が高くなっている。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

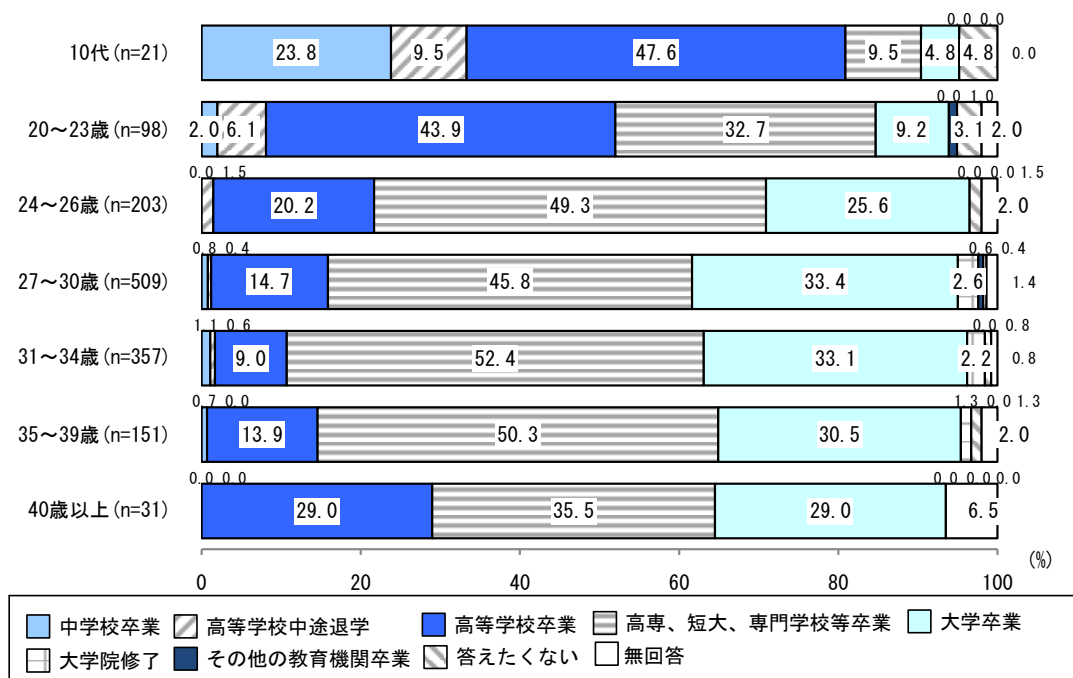
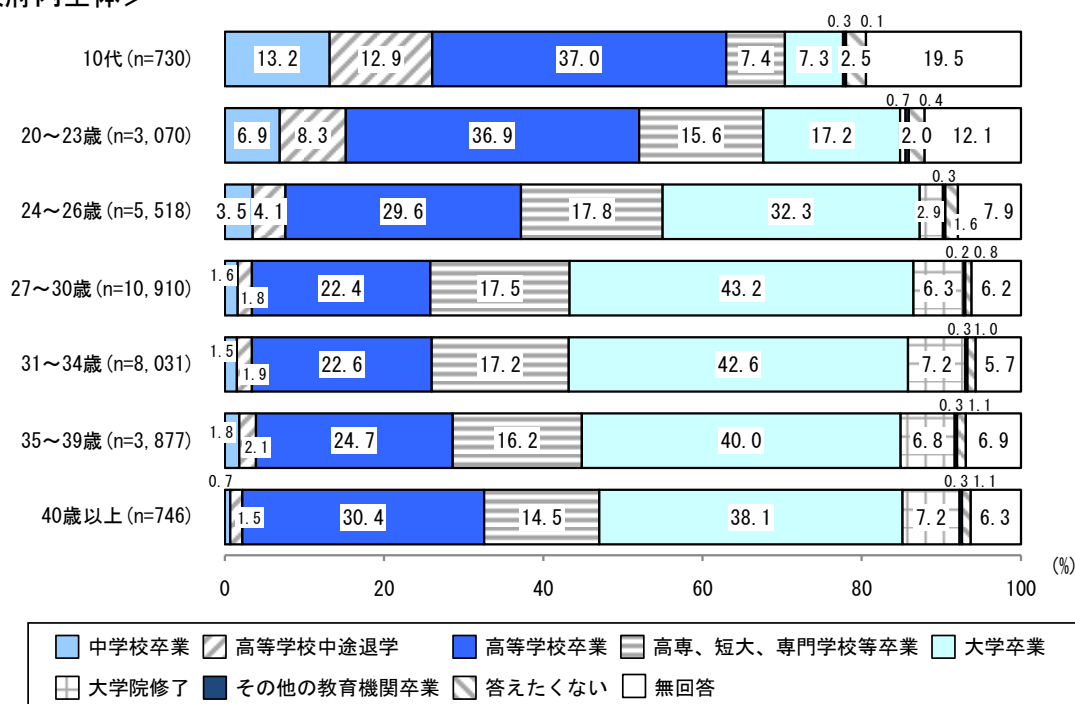


図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親自身の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（23.8%）または「高等学校卒業」（47.6%）と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

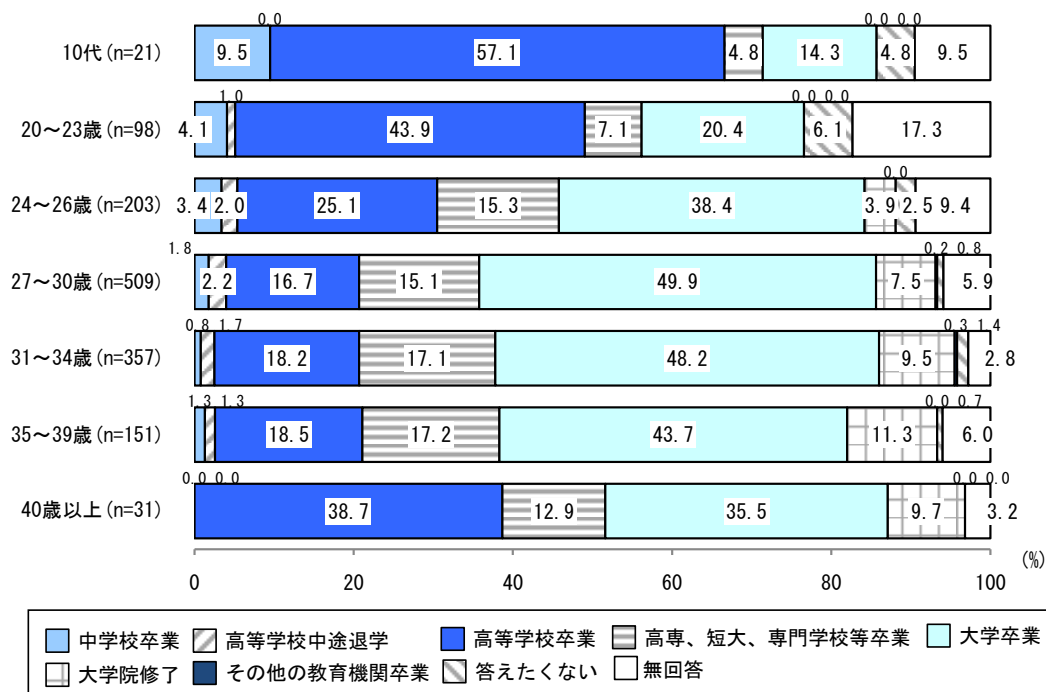
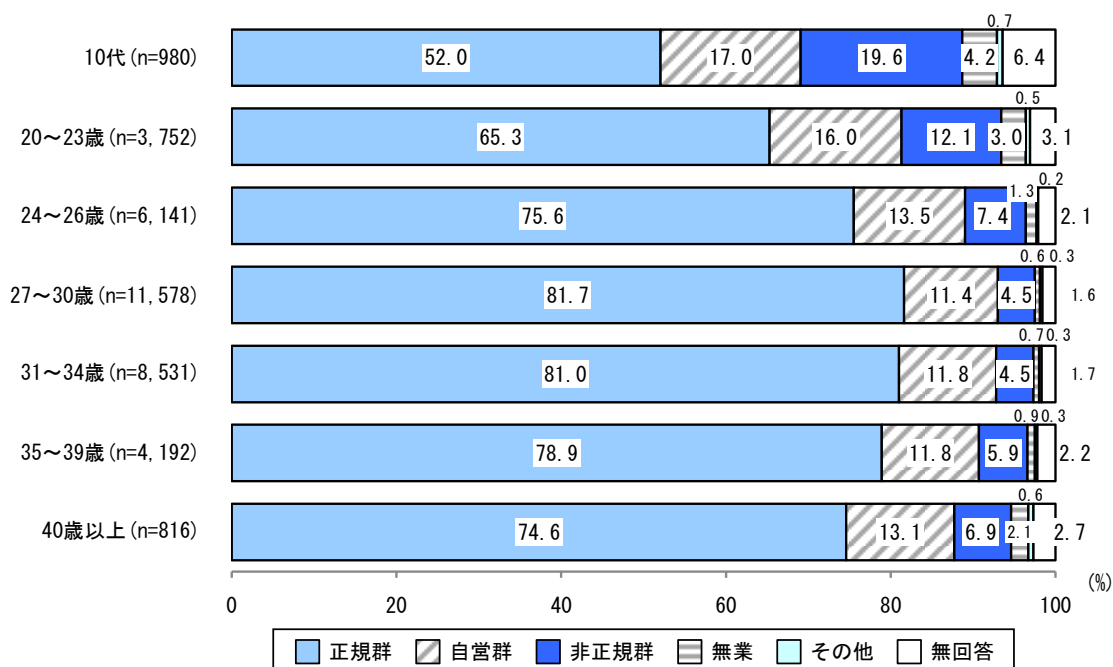


図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に父親の最終学歴を見ると、10代において「高等学校卒業」（57.1%）と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票問 17×保護者票問 9）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

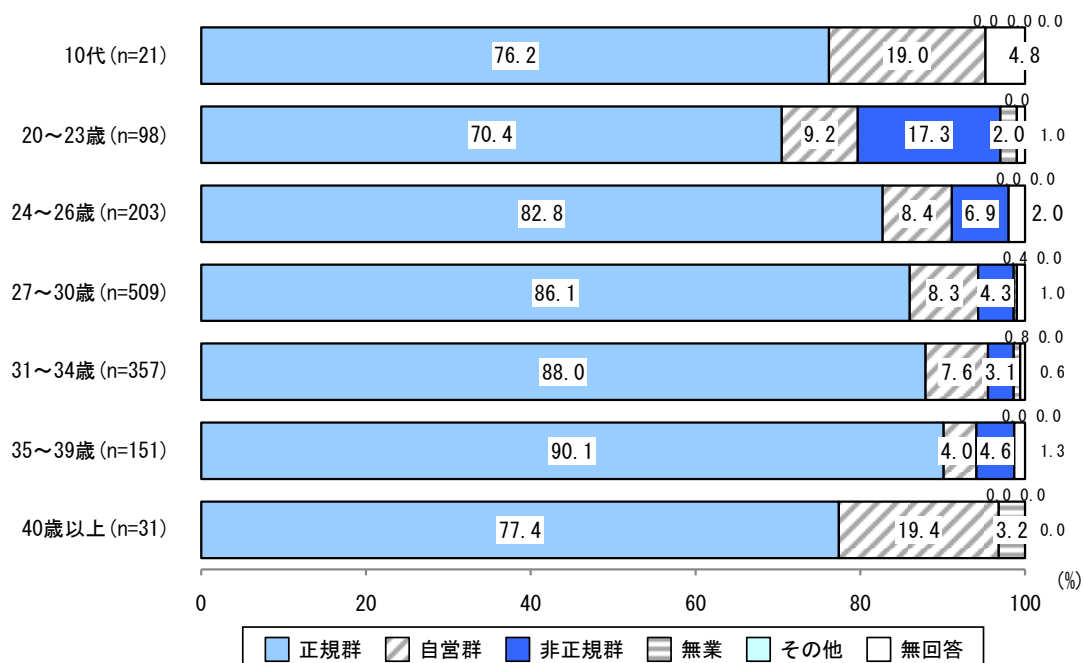
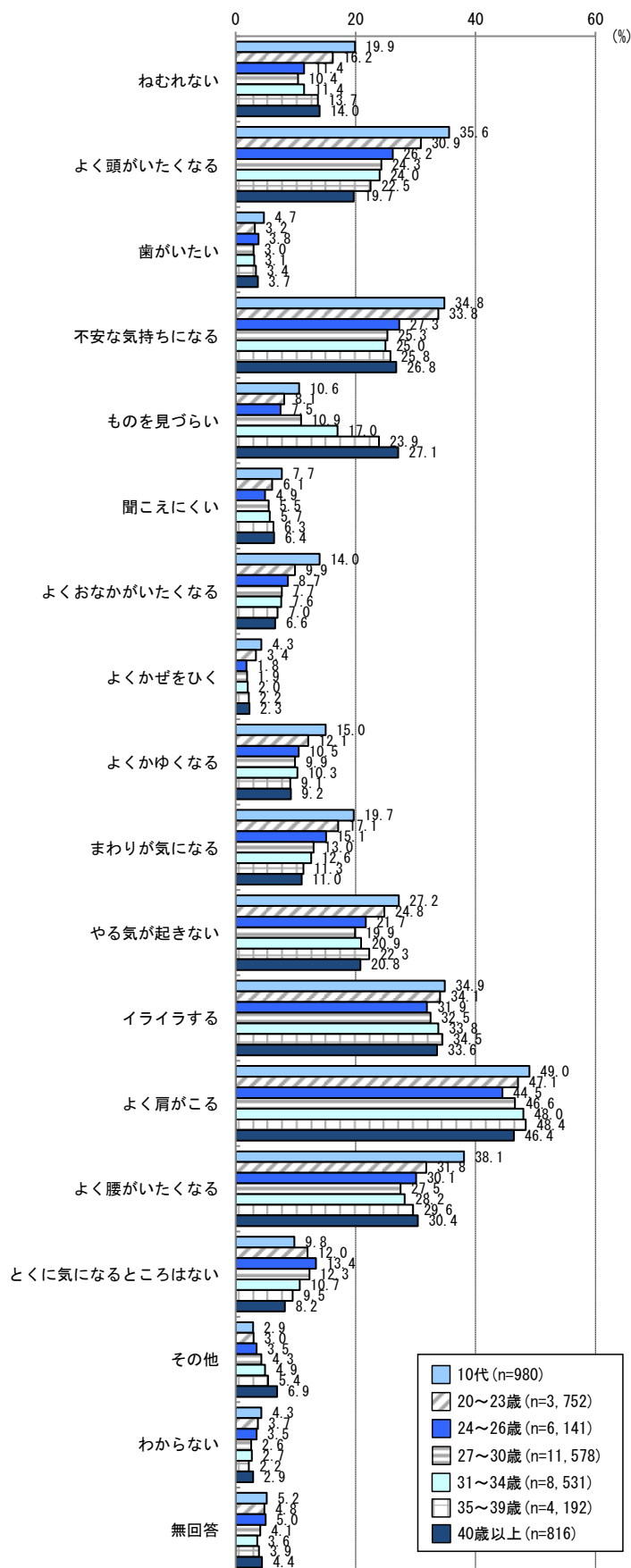


図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）

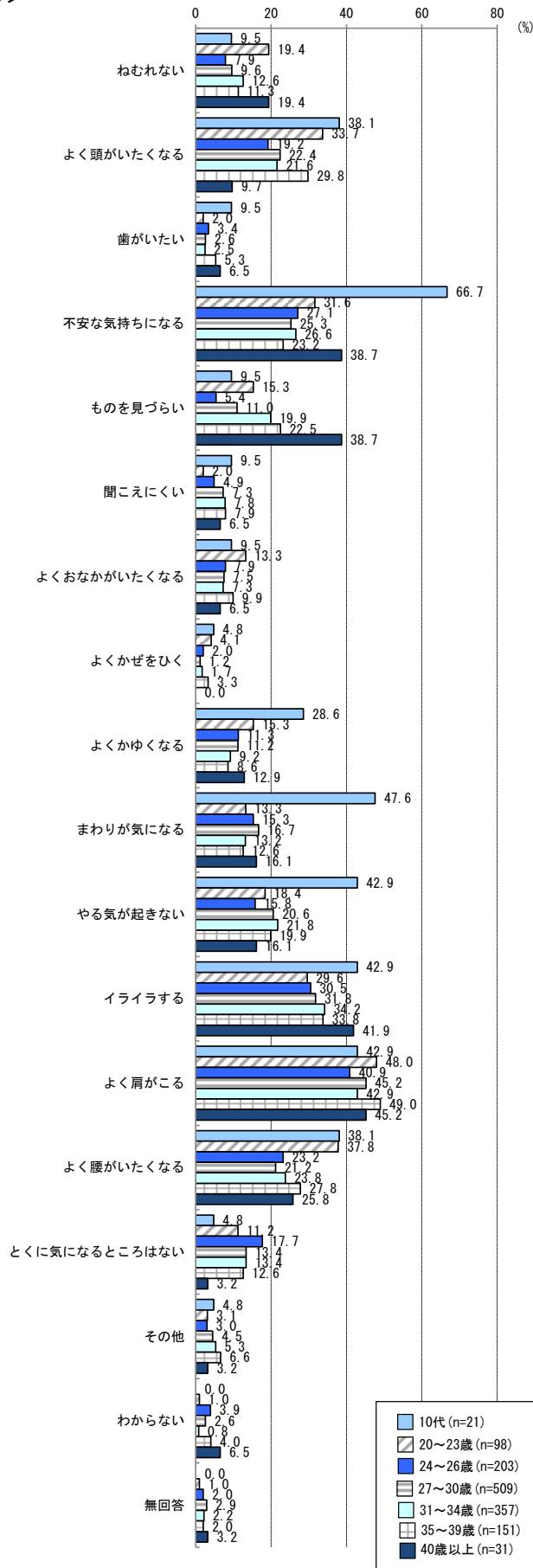
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に就労状況を見ると、10代において「非正規群」の回答は見られなかったが、20～23歳が17.3%で最も高くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 (保護者票問 17×保護者票問 22) ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

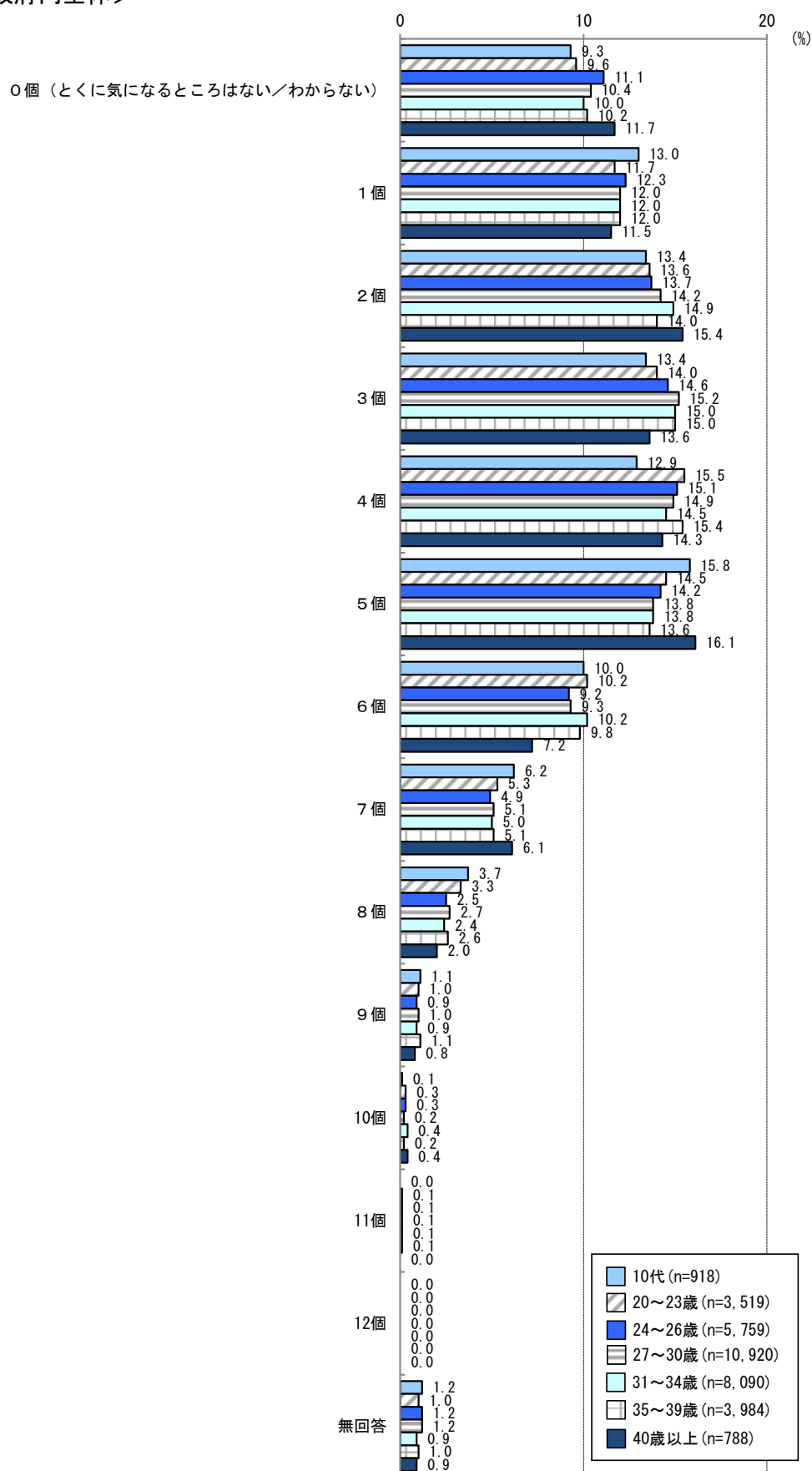


母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、10代は他の年代と比較して「よく頭がいたくなる」や「不安な気持ちになる」、「よくかゆくなる」、「まわりが気になる」、「やる気が起きない」、「イライラする」、「よく腰がいたくなる」の割合が高かった。

図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 17
× 子ども票問 19・20） ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<枚方市>

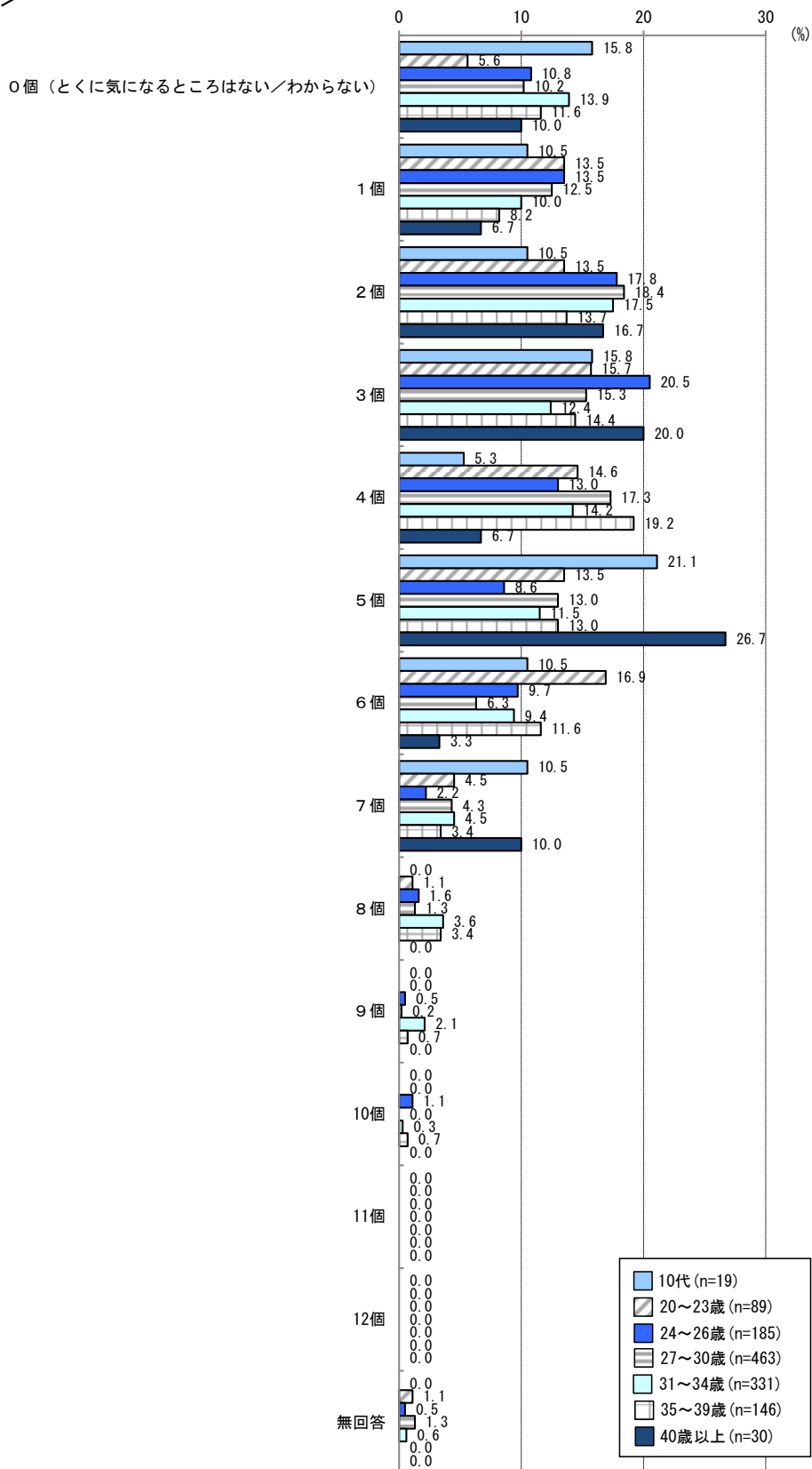
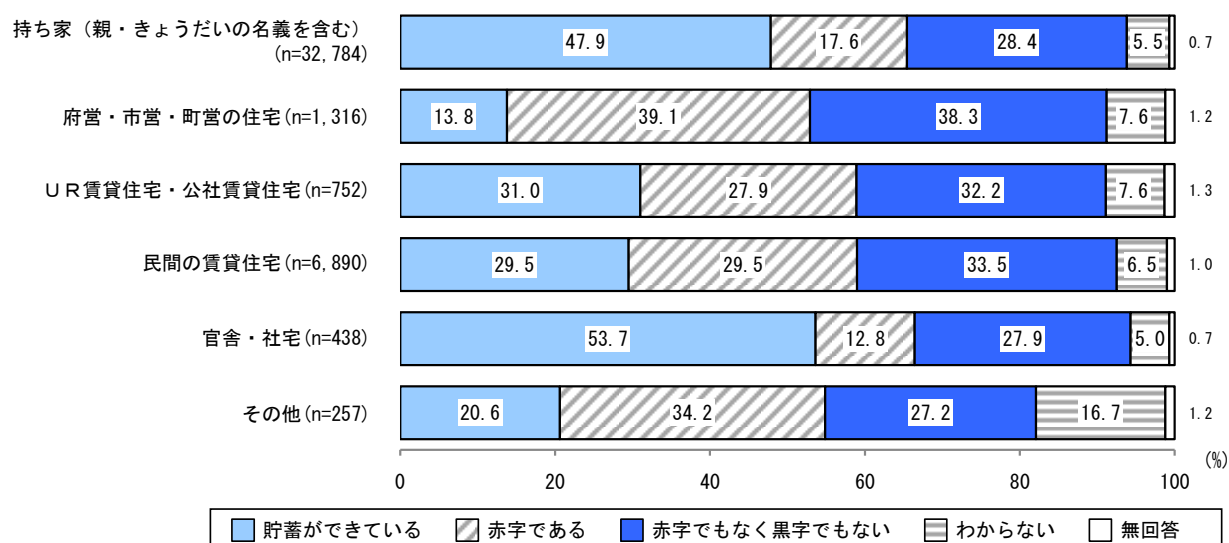


図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代は、他の年代と比較して「0個（とくに気になるところはない／わからない）」（15.8%）と「7個」（10.5%）の割合が最も高かった。

住居形態別に見た、家計の状況（保護者票問5×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

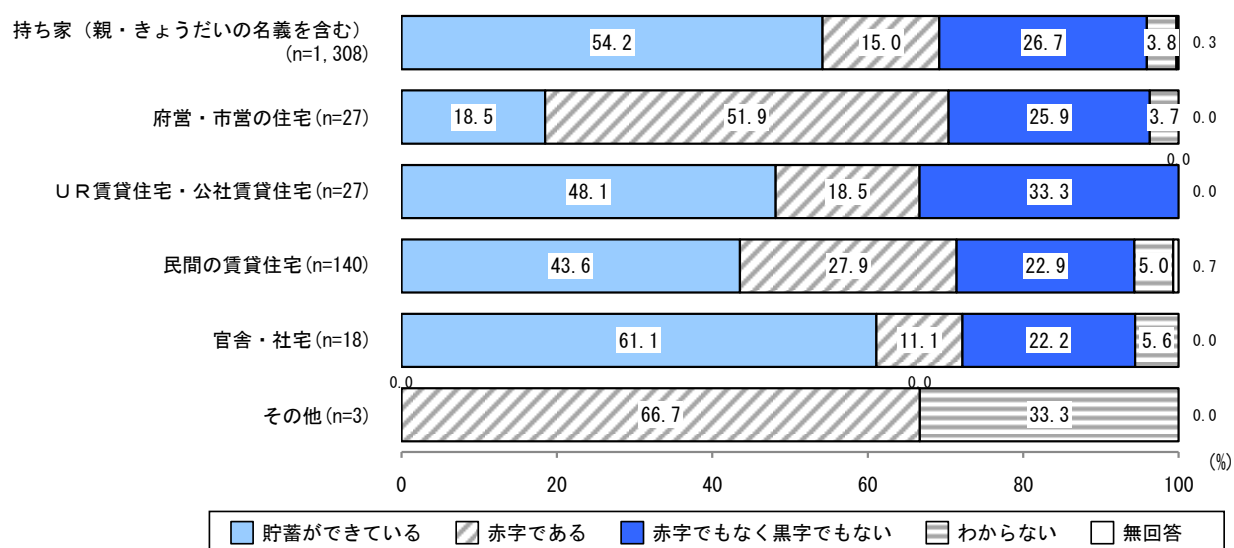
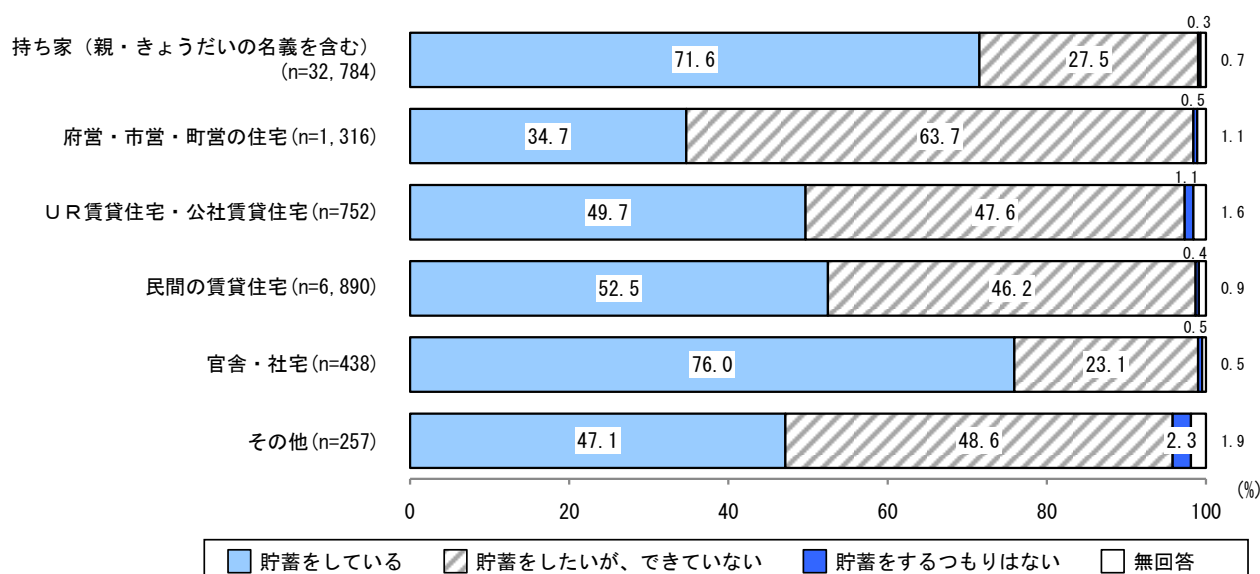


図 29. 住居形態別に見た、家計の状況

住居別到家計状況を見ると、府営・市営の住宅（51.9%）、民間の賃貸住宅（27.9%）に住む人で、「赤字である」と回答した割合が高かった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は15.0%であった。

住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問5×保護者票問6(2)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

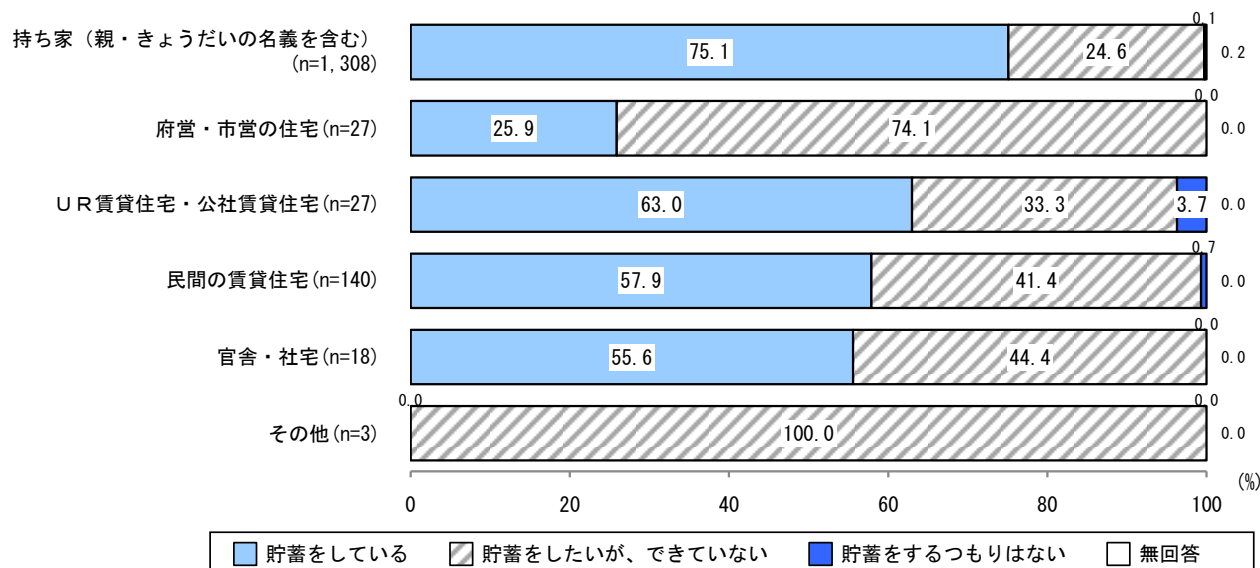
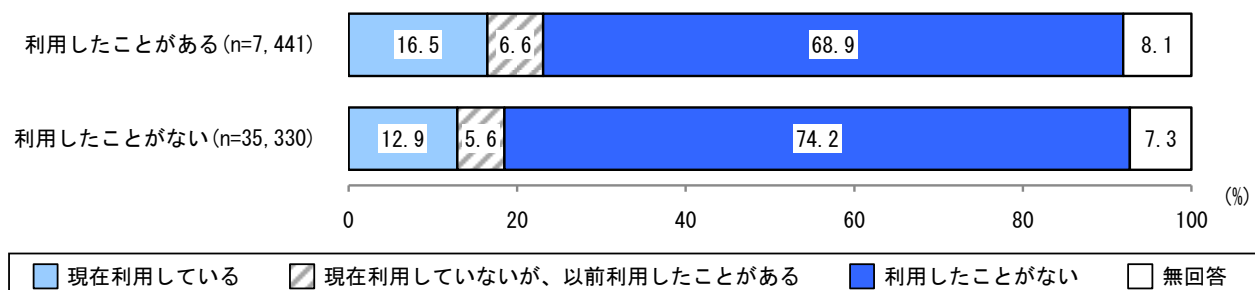


図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

住居形態別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、府営・市営の住宅（74.1%）、官舎・社宅（44.4%）、民間の賃貸住宅（41.4%）に住む人で、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高かった。

子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<枚方市>

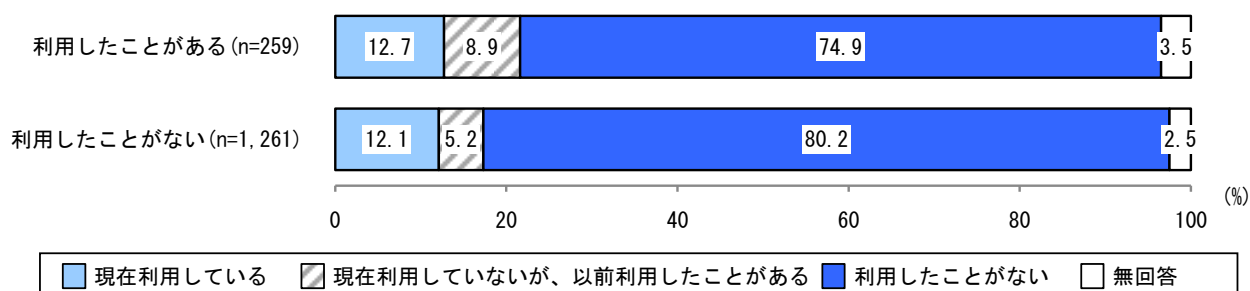
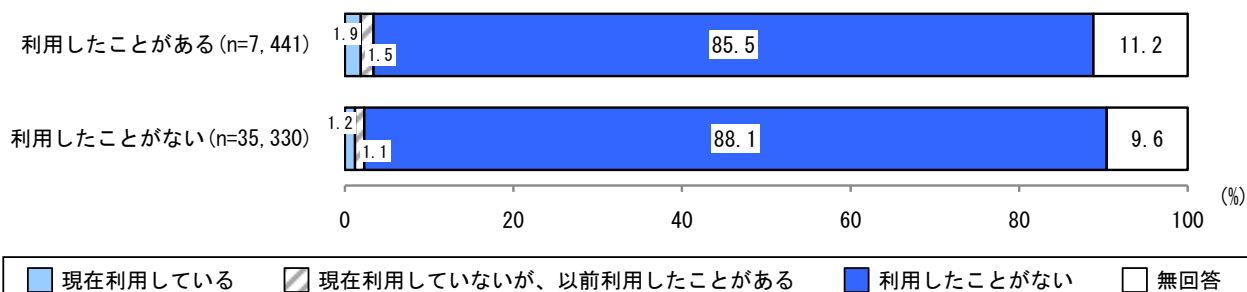


図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に就学援助の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが就学援助を「現在利用している」と回答した割合がやや高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<枚方市>

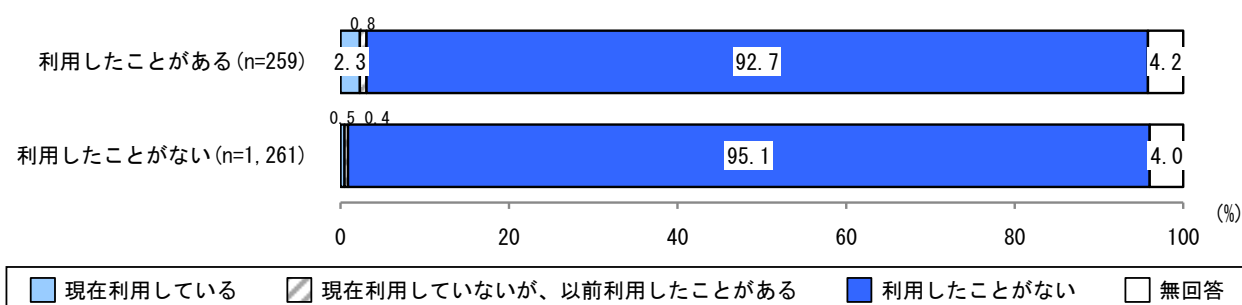
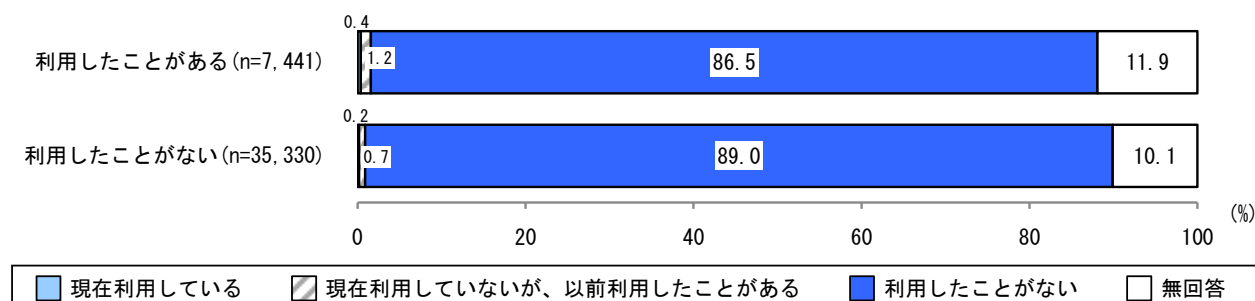


図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活保護の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが生活保護を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<枚方市>

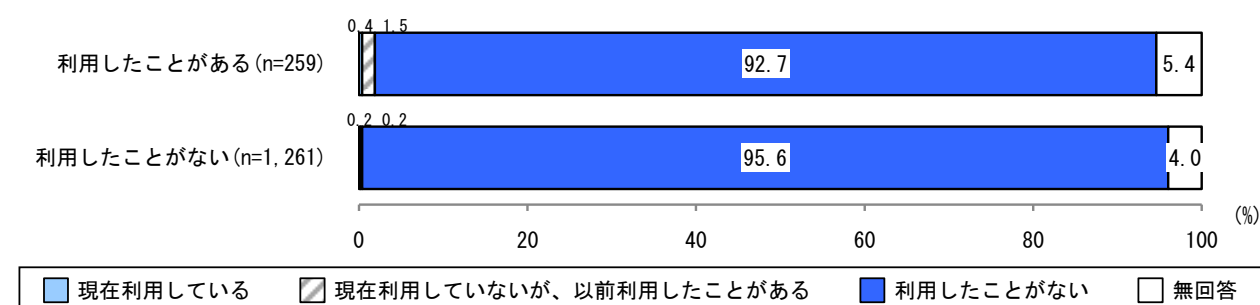
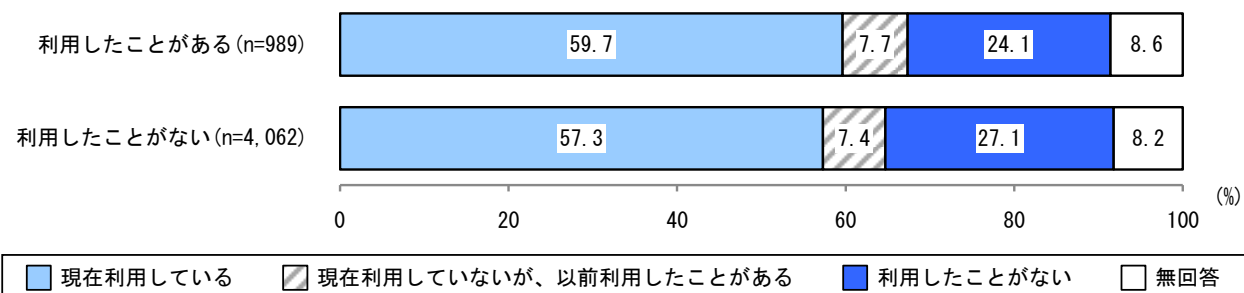


図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが生活困窮者の自立支援相談窓口を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-d)

<大阪府内全体>



<枚方市>

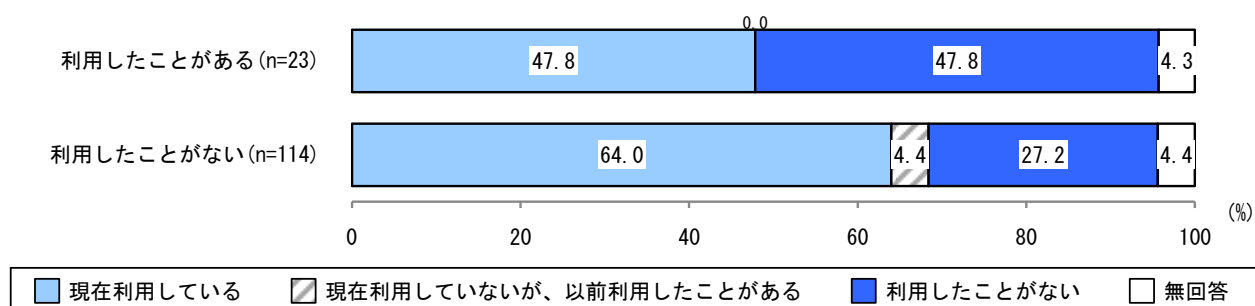
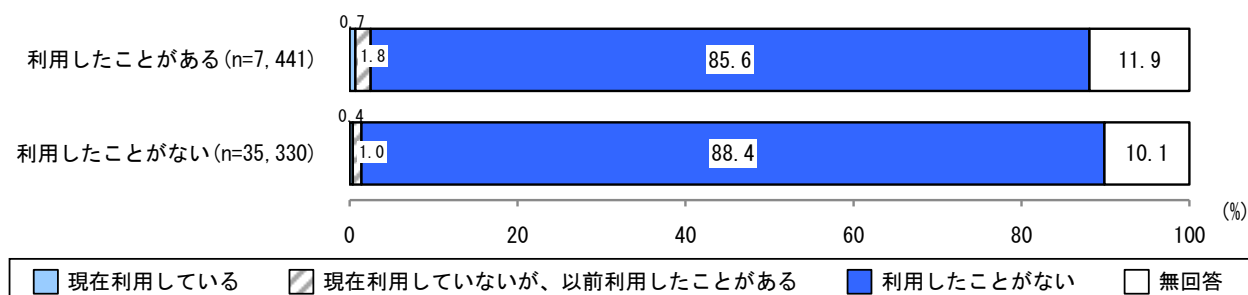


図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

子どもの居場所の利用経験別に児童扶養手当の利用状況をひとり親世帯のみで見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが児童扶養手当を「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<枚方市>

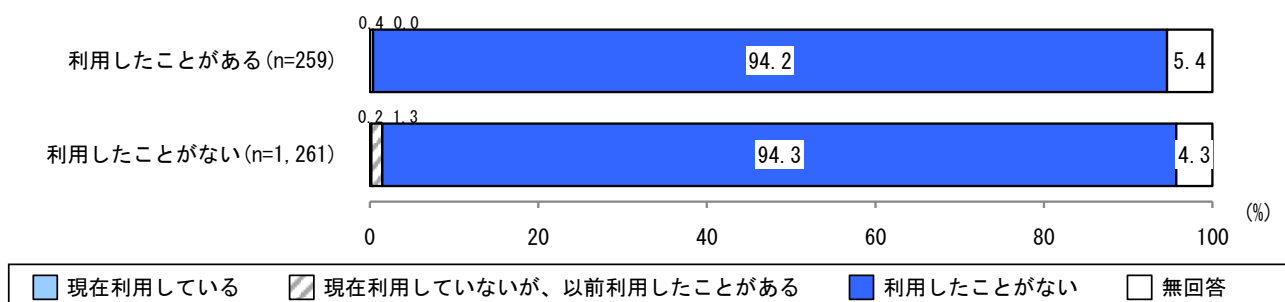
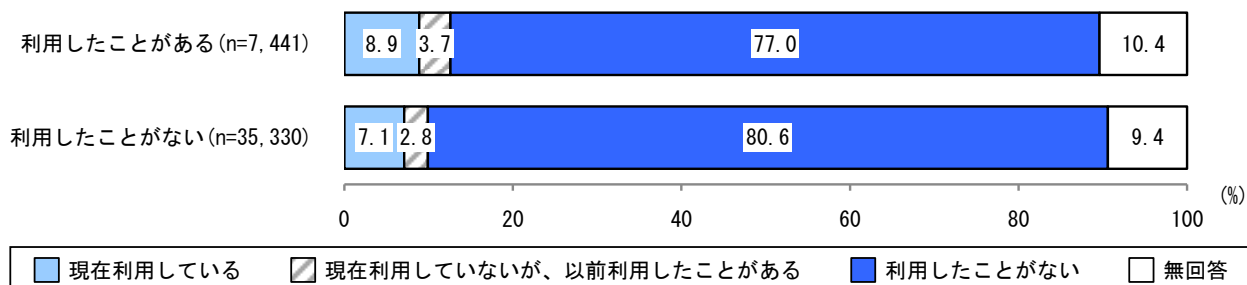


図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

子どもの居場所の利用経験別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、大きな差はみられない。

子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-f)

<大阪府内全体>



<枚方市>

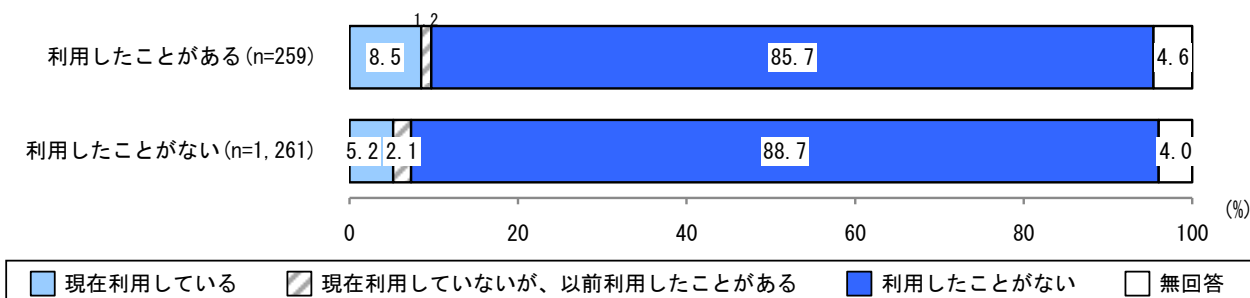
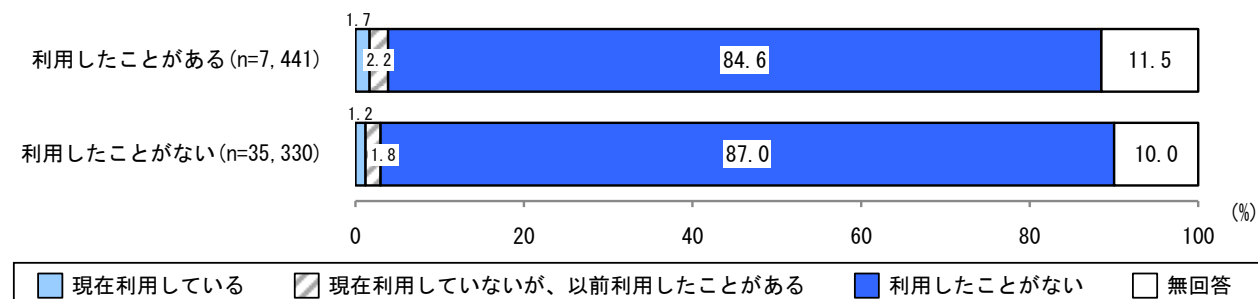


図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-g)

<大阪府内全体>



<枚方市>

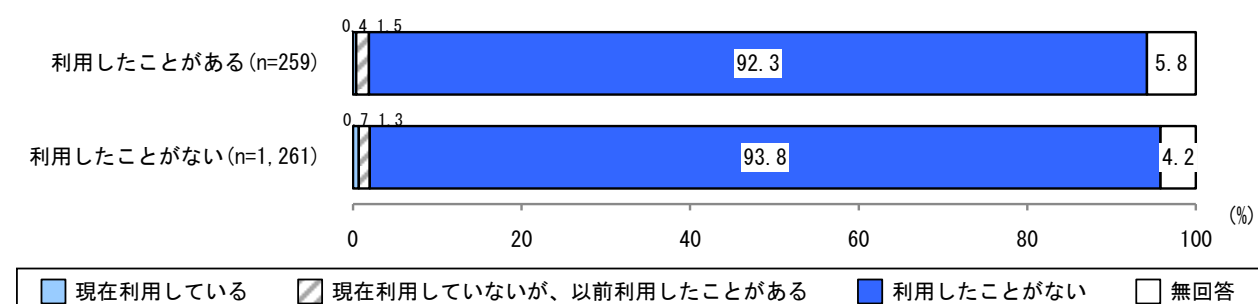
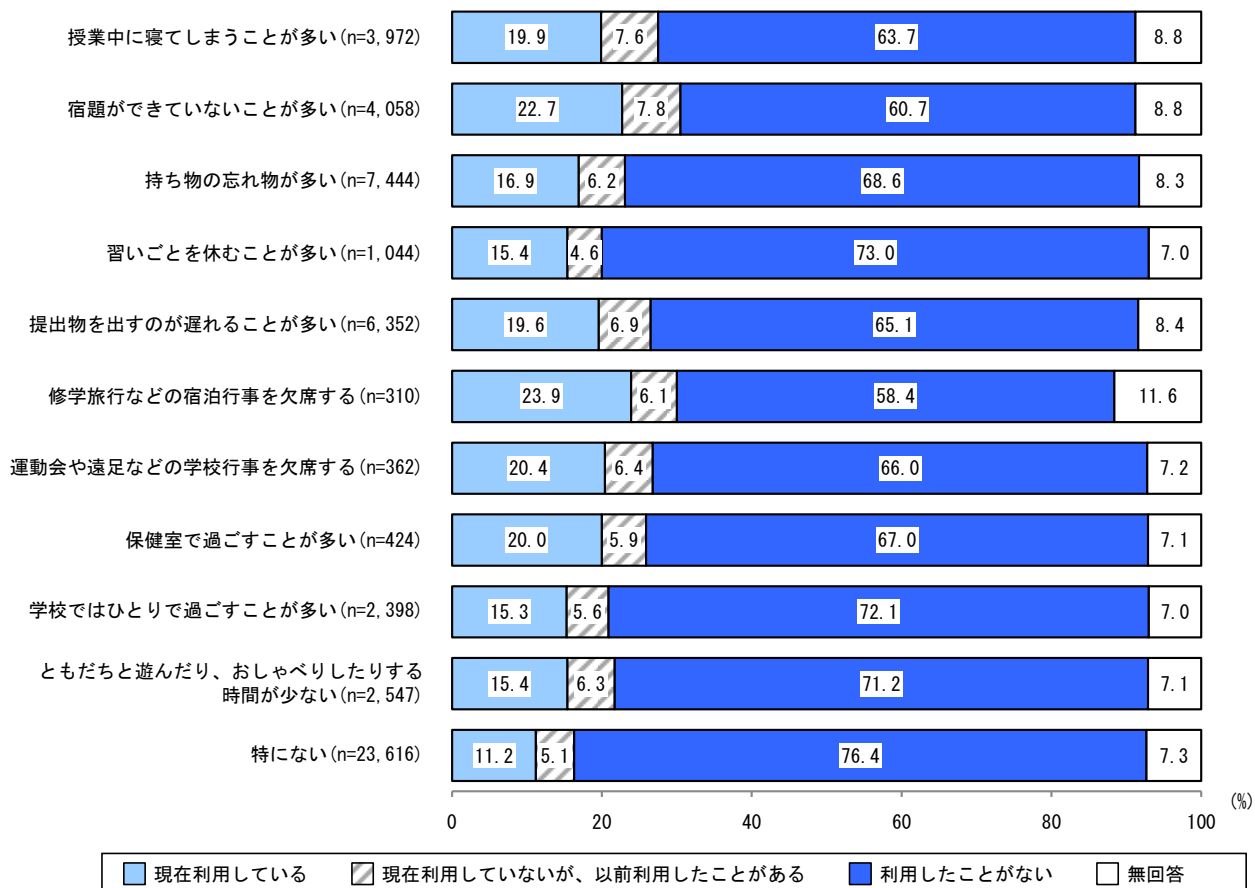


図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<枚方市>

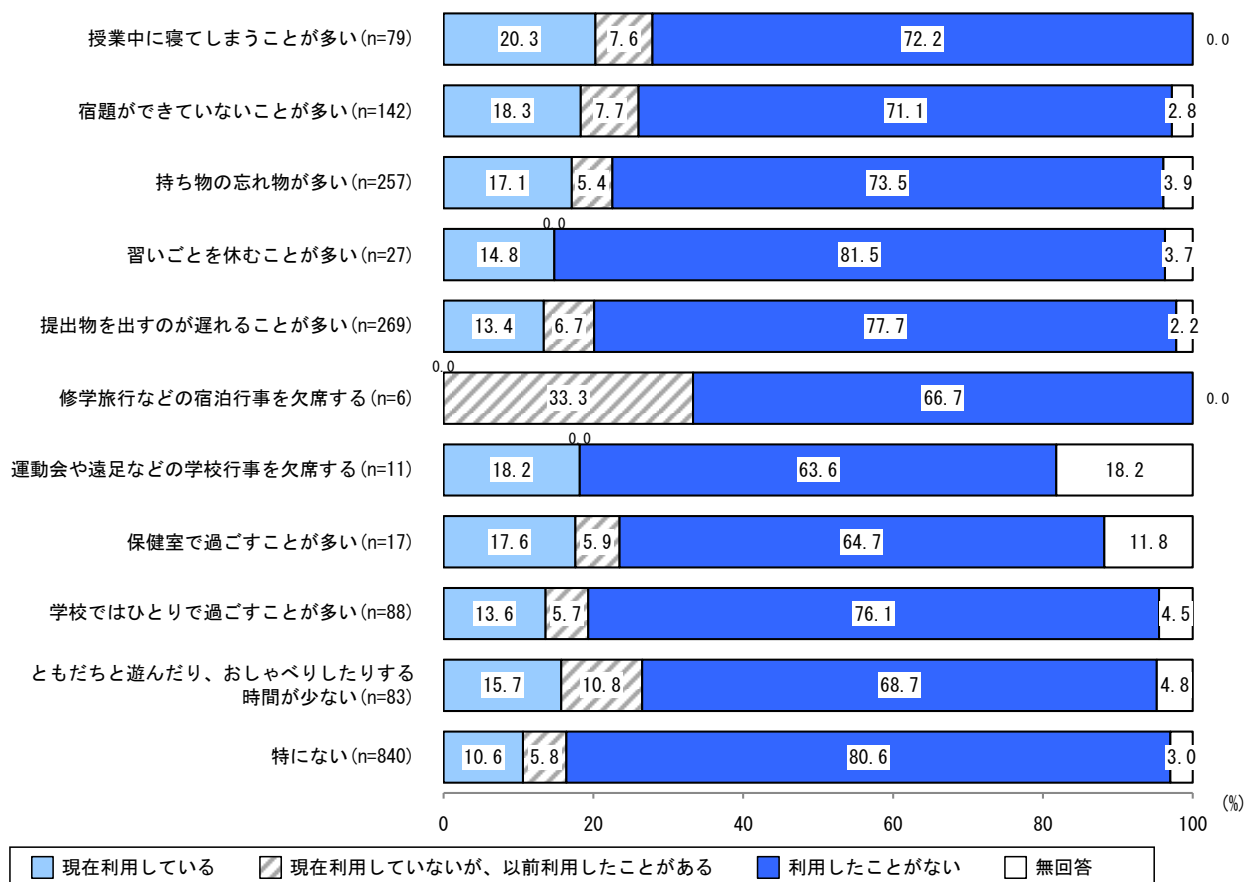
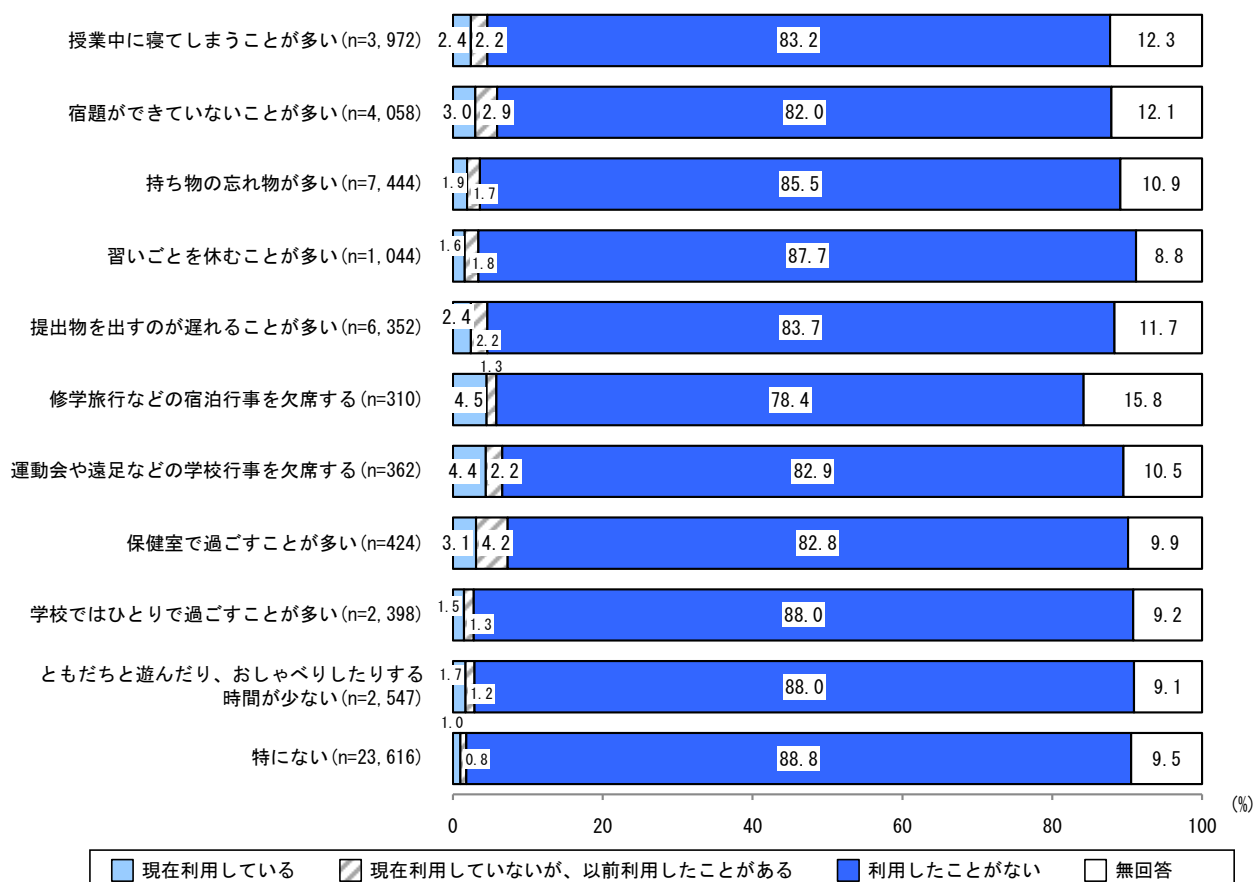


図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「授業中に寝てしまうことが多い」と回答した割合が20.3%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<枚方市>

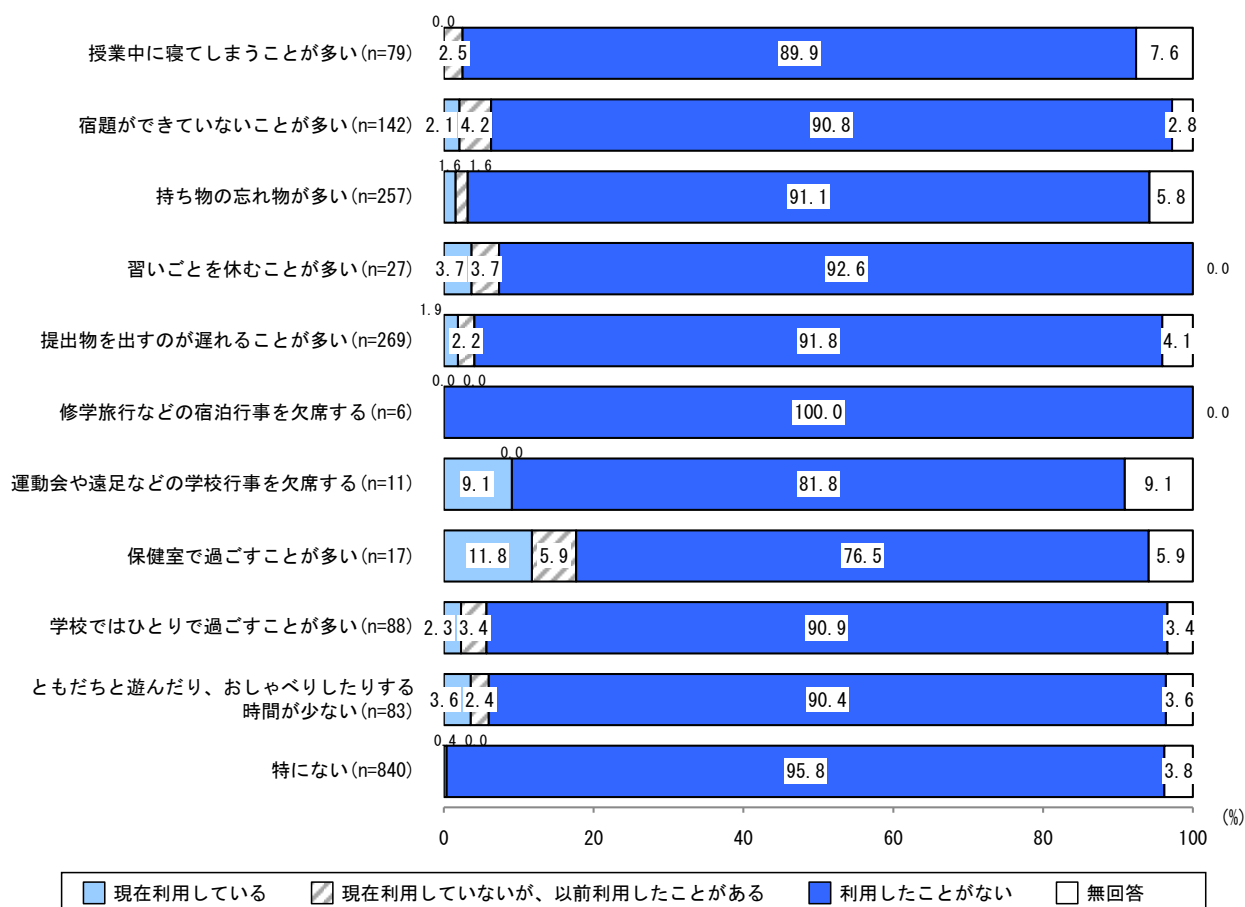
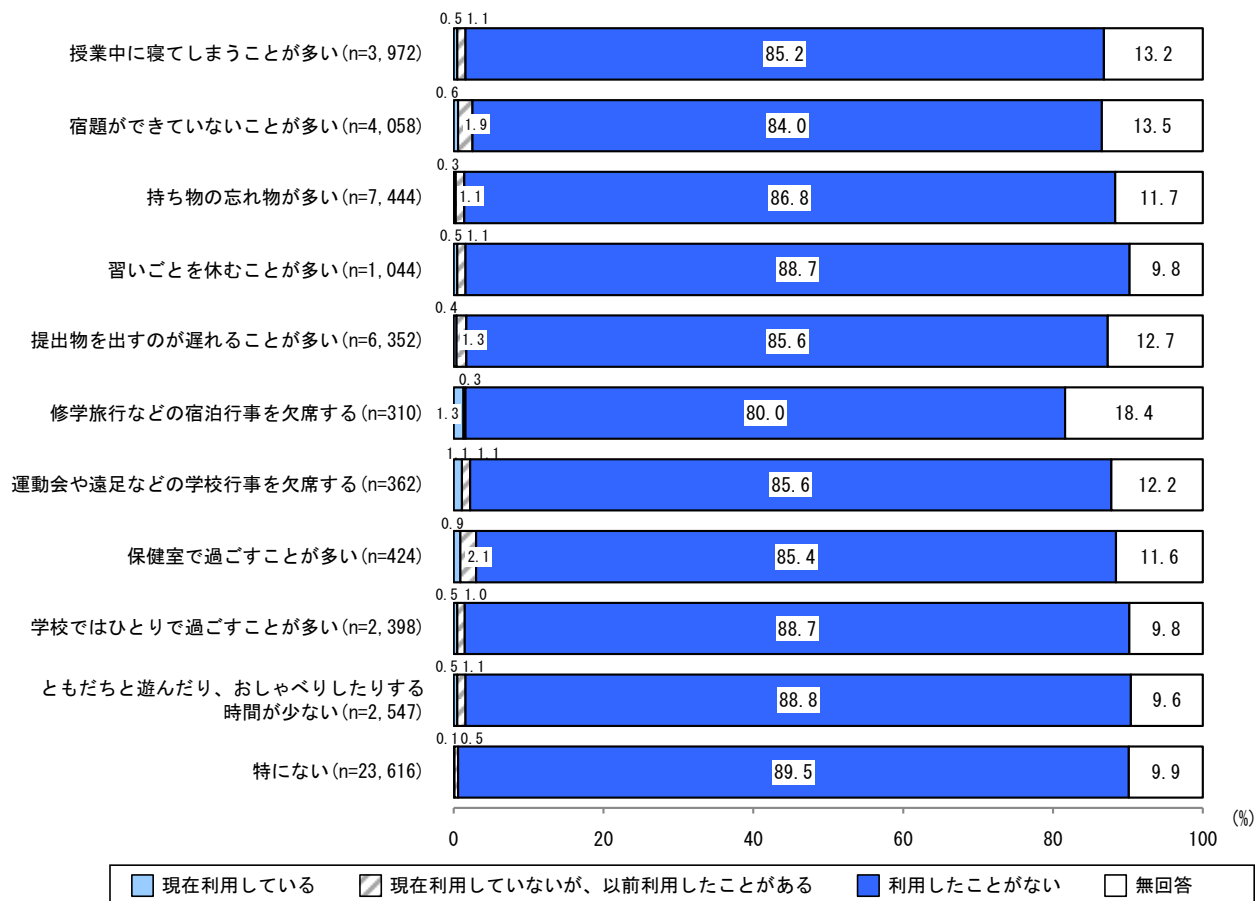


図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が11.8%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<枚方市>

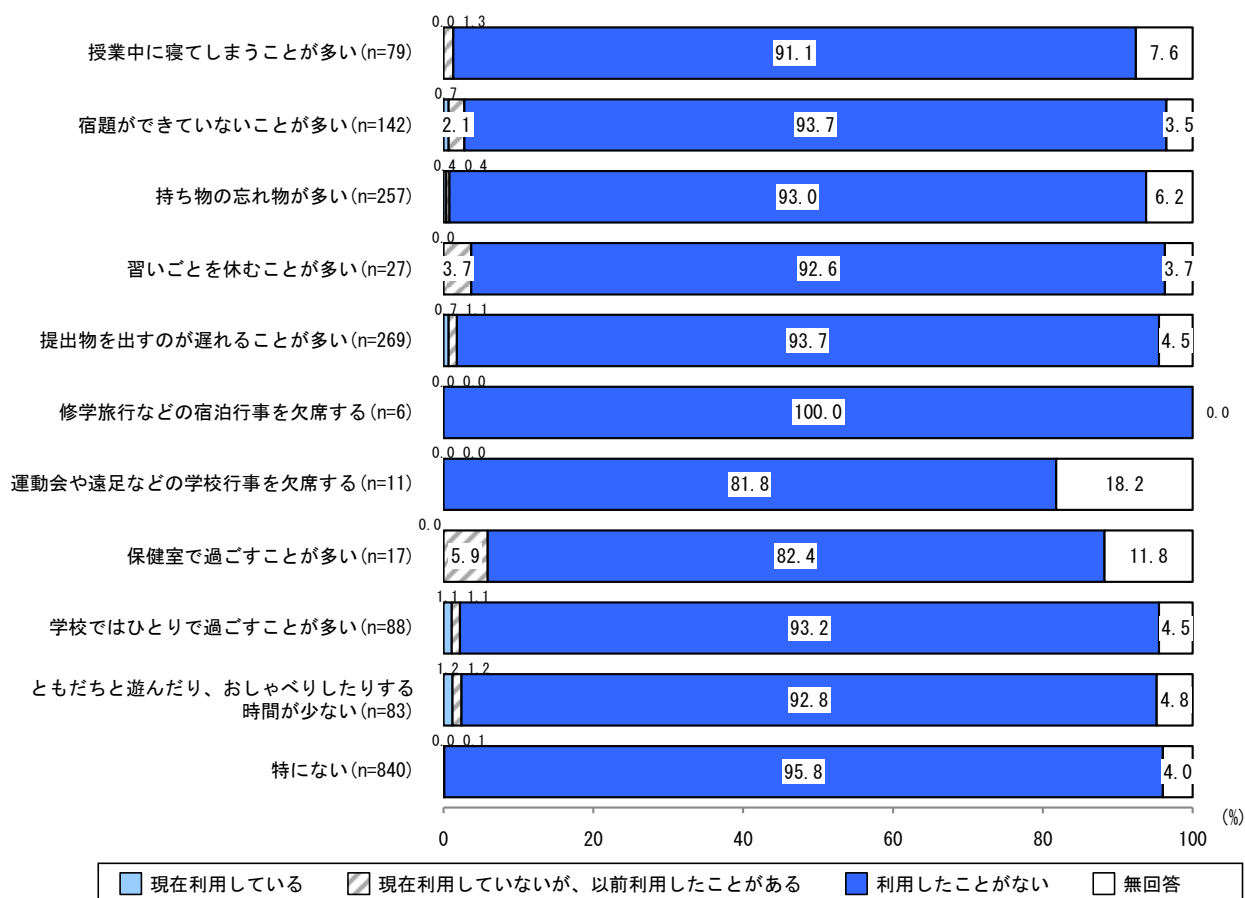
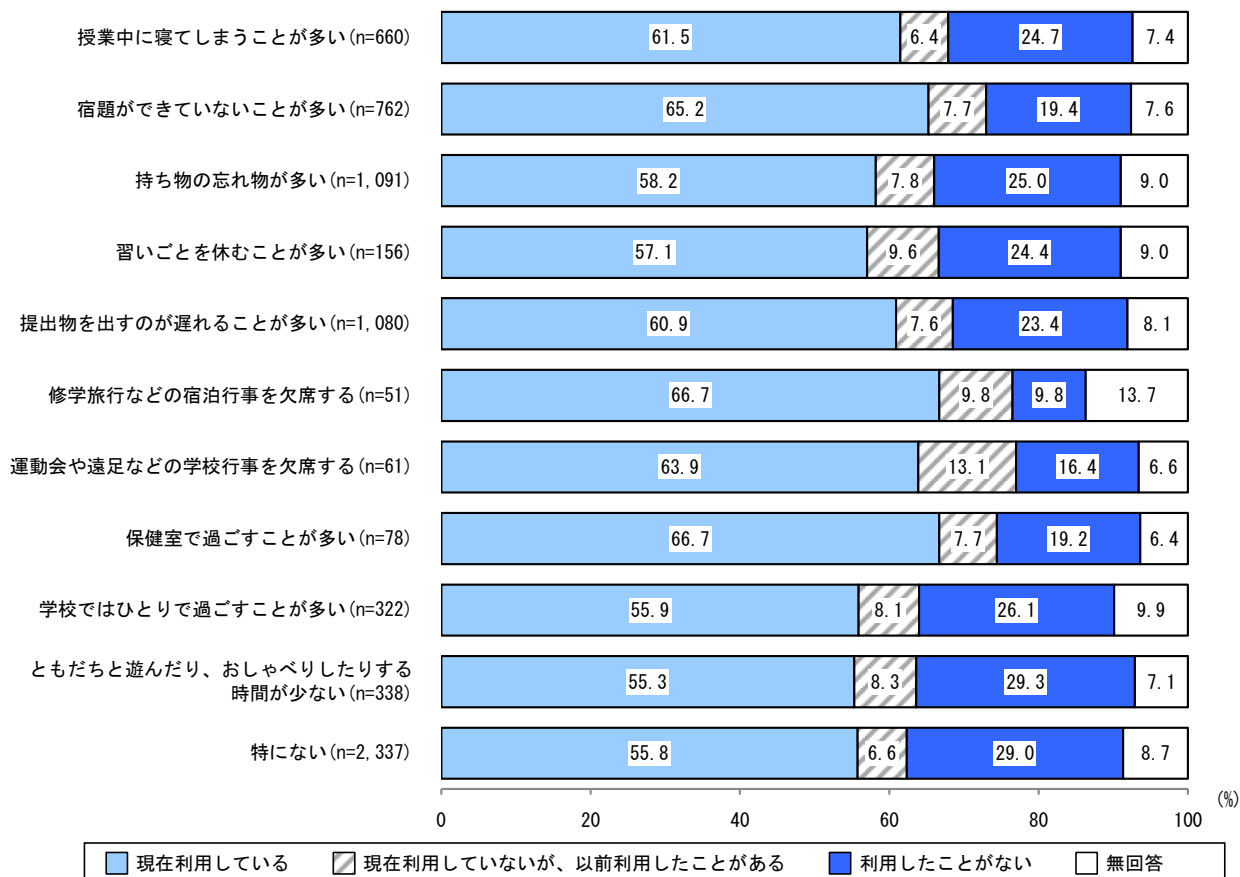


図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が5.9%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（子ども票問 16×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<枚方市>

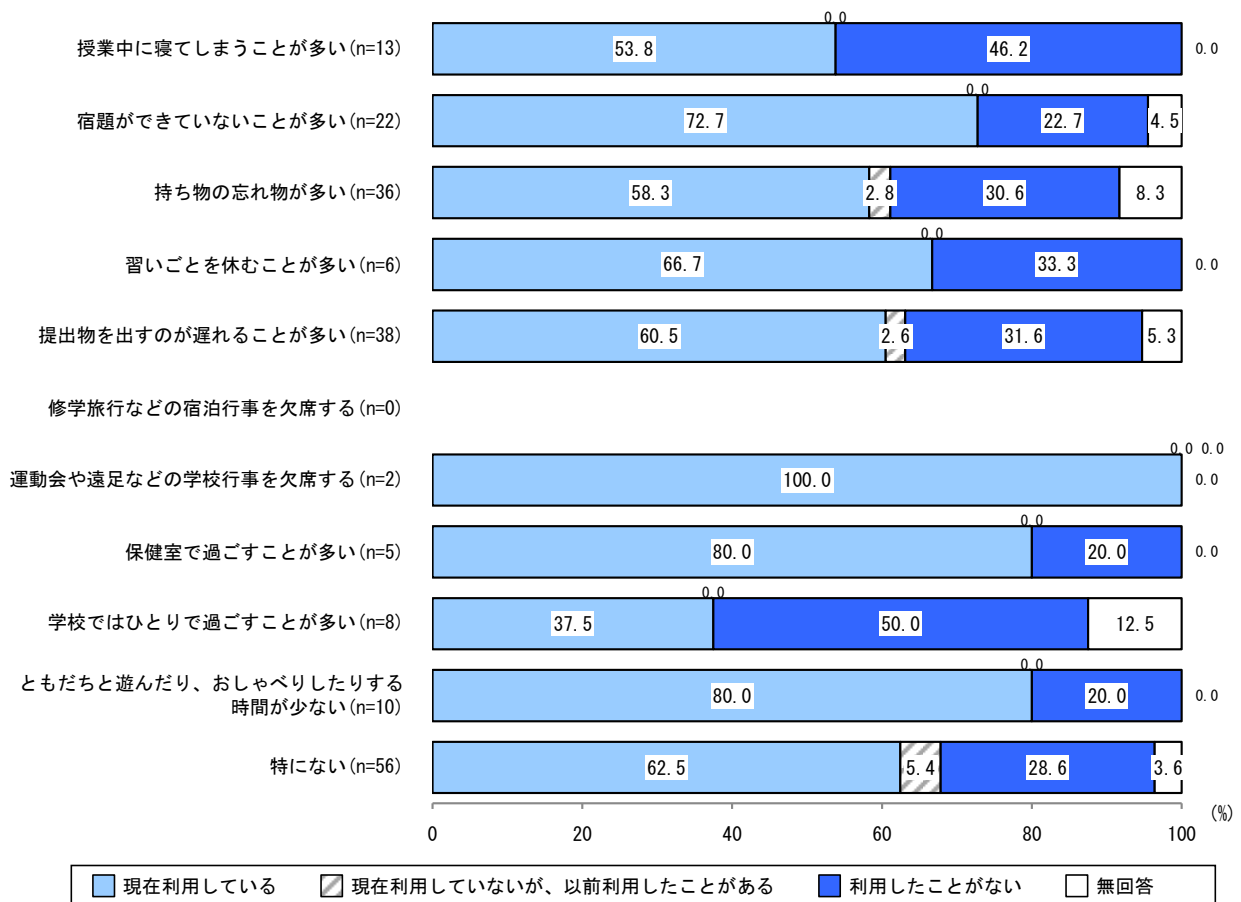
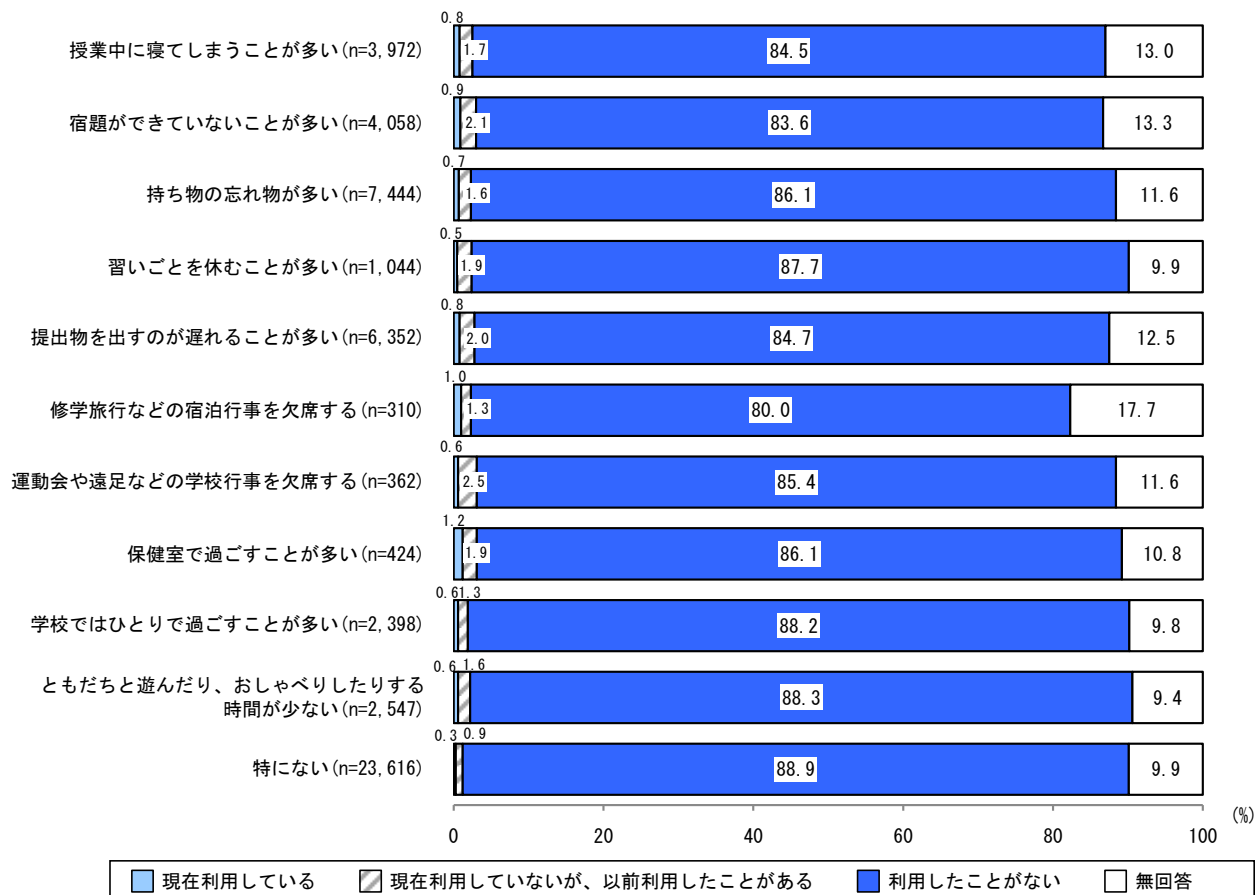


図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

学校や学校の行事等の状況別に児童扶養手当の利用状況をひとり親世帯のみで見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「学校ではひとりで過ごすことが多い」と回答した割合が37.5%で最も低くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<枚方市>

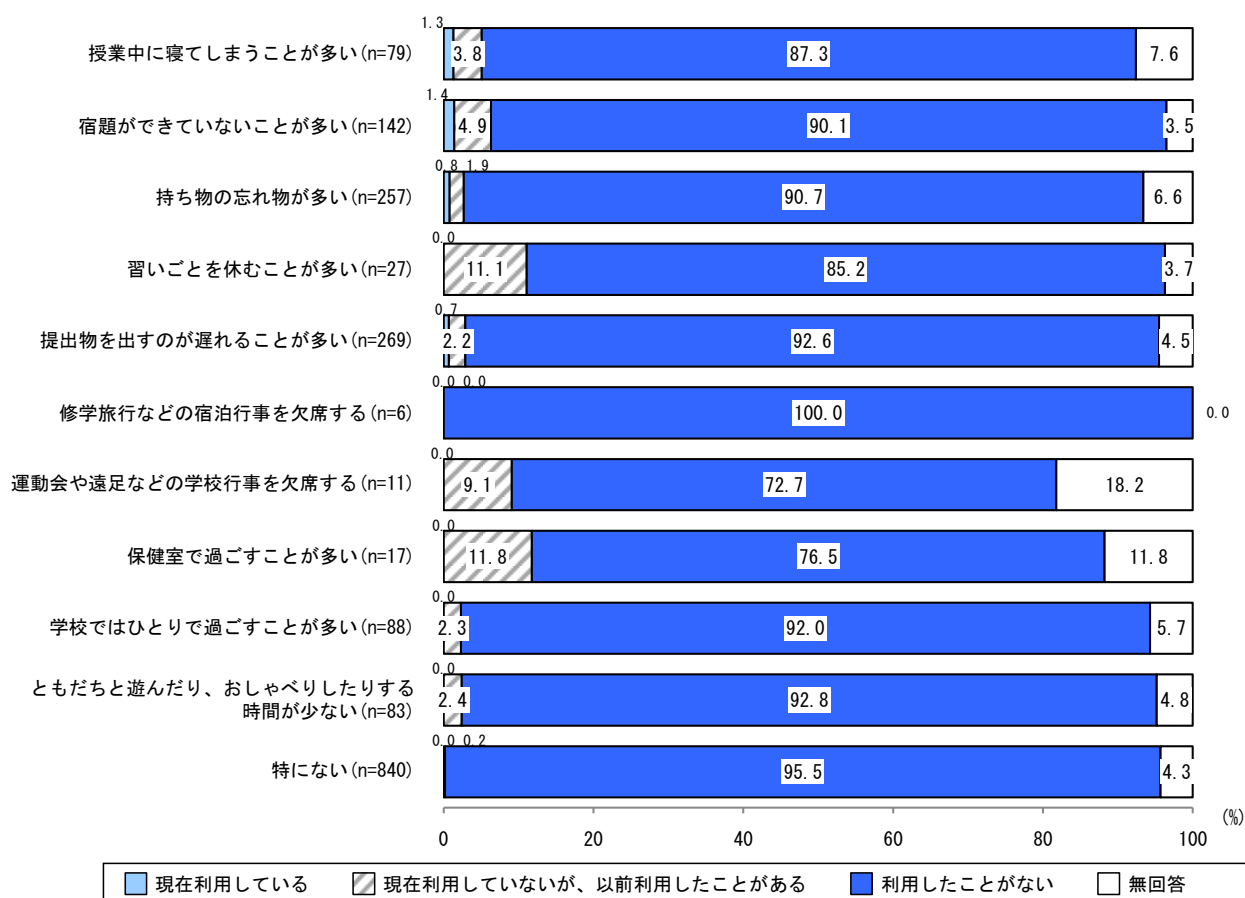
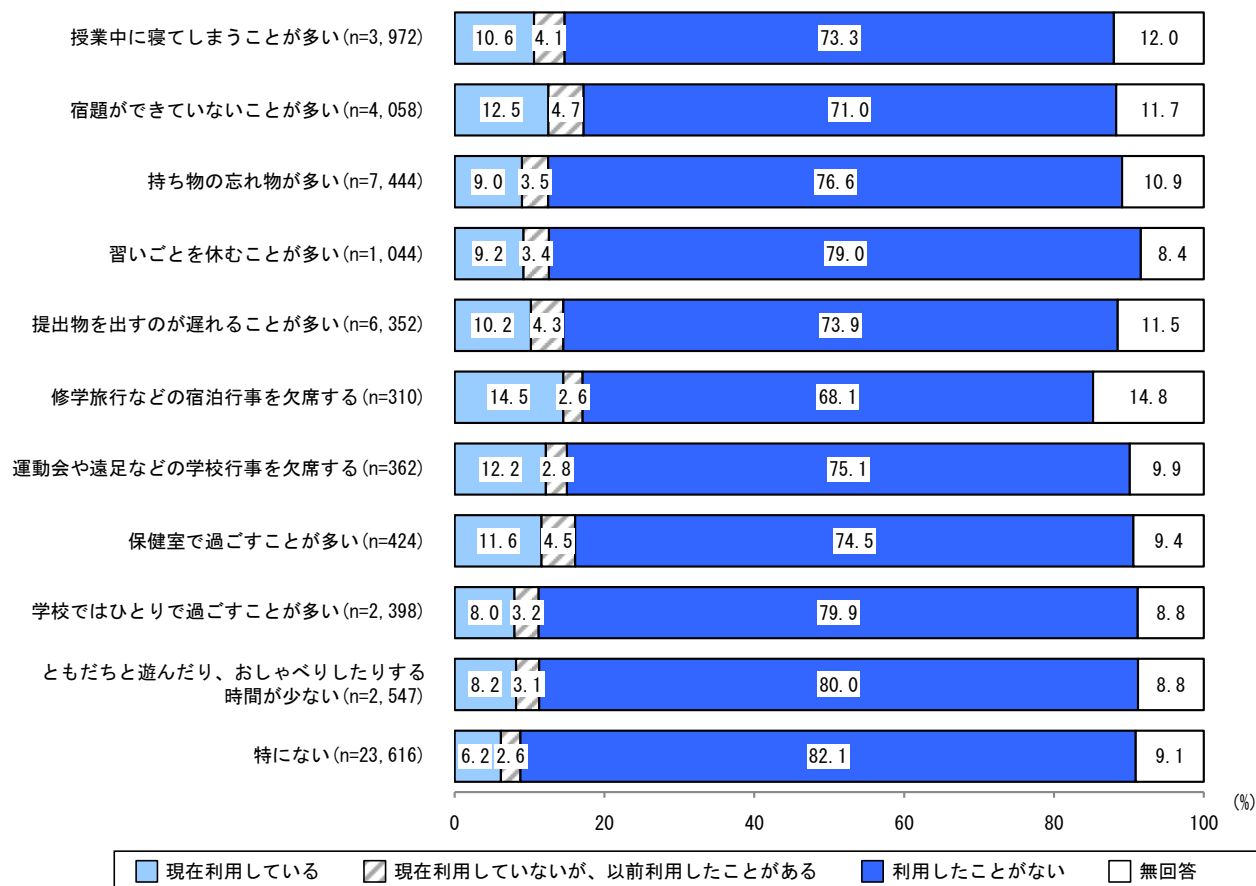


図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

学校や学校の行事等の状況別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「宿題ができていないことが多い」と回答した割合が1.4%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<枚方市>

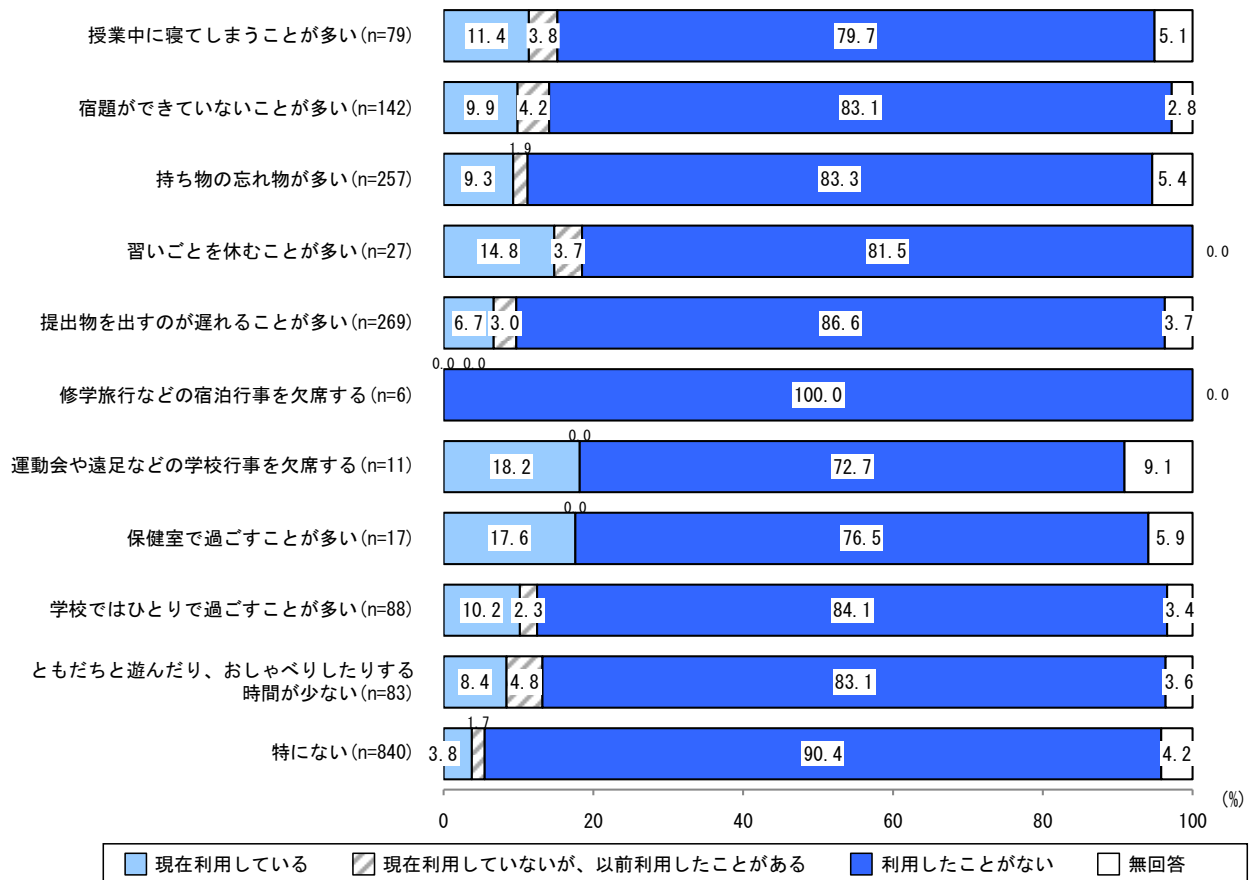
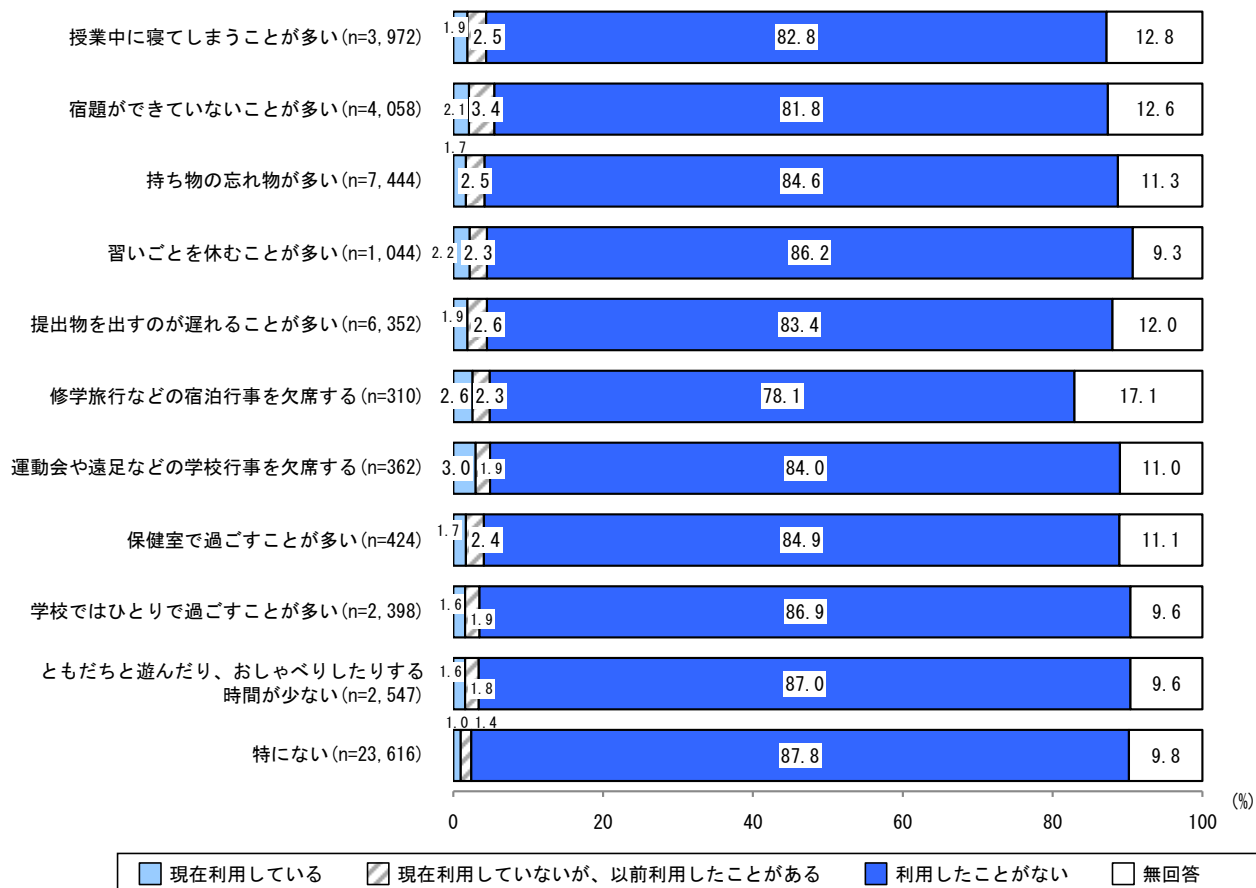


図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」と回答した割合が18.2%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<枚方市>

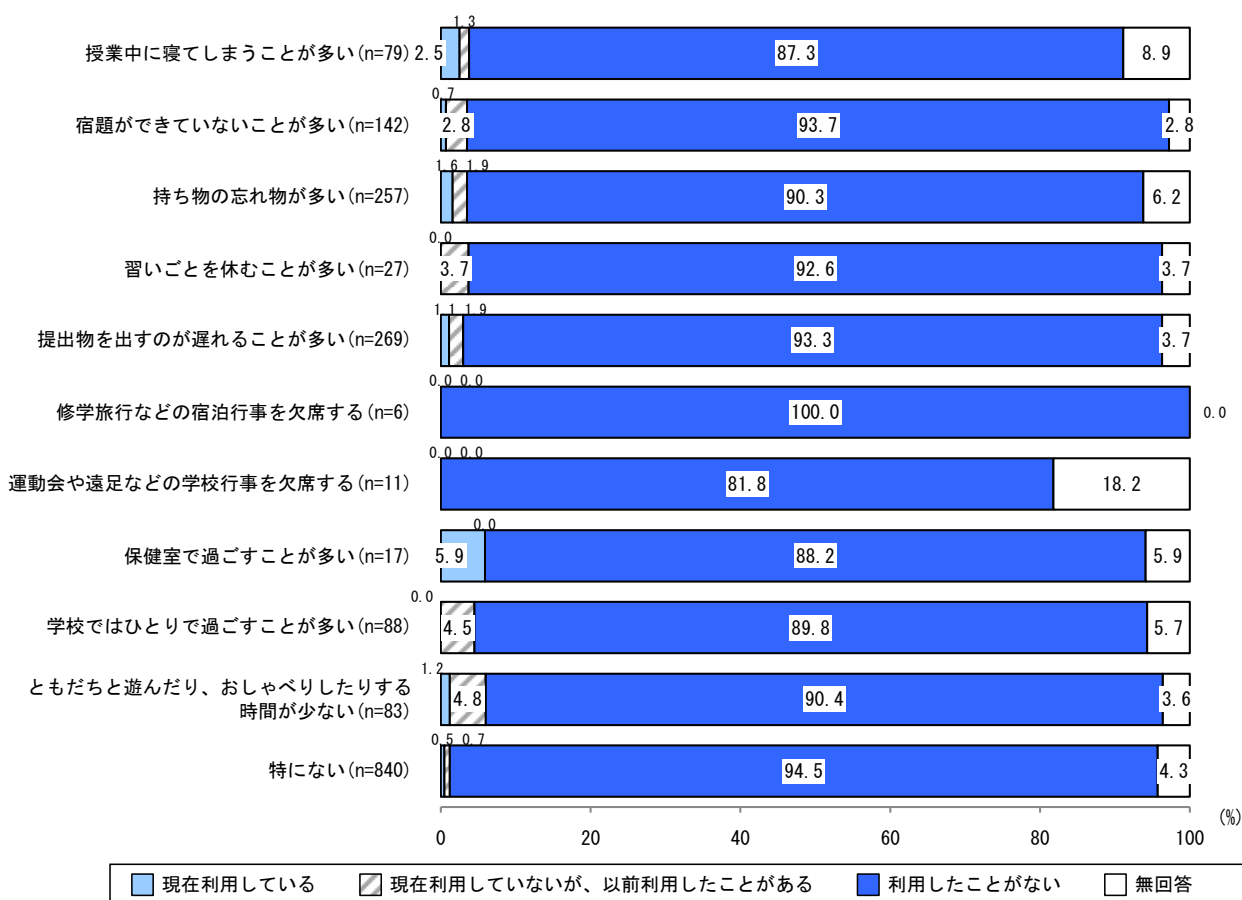
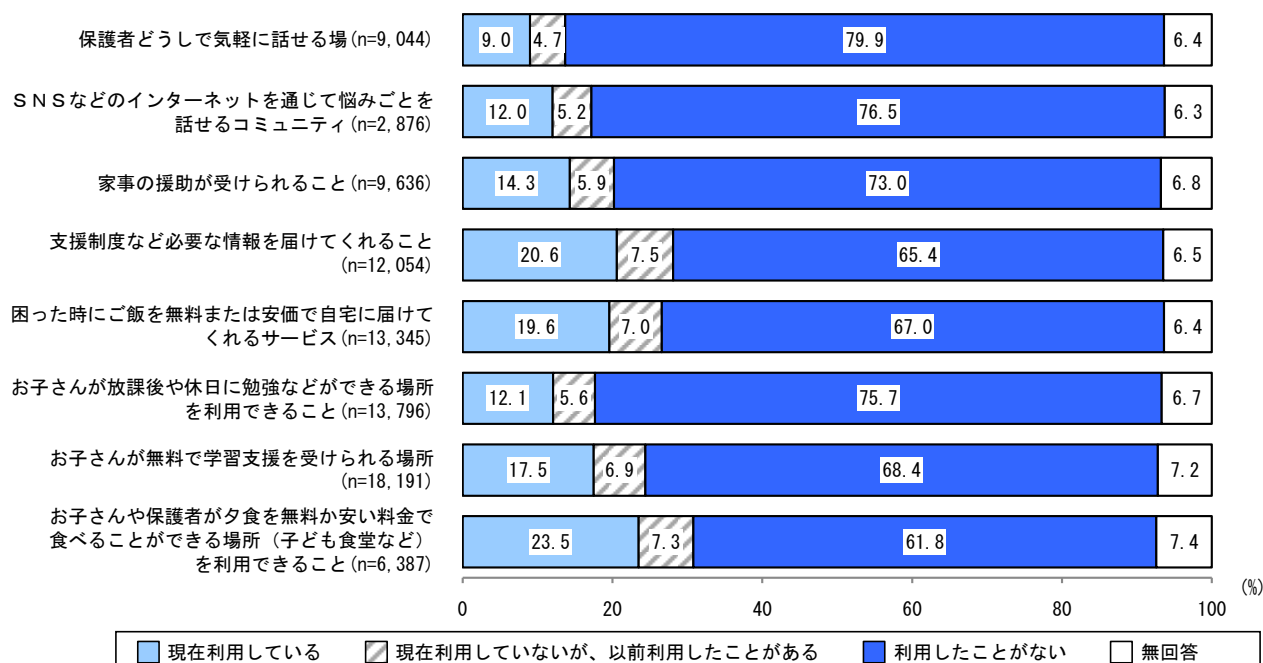


図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が5.9%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<枚方市>

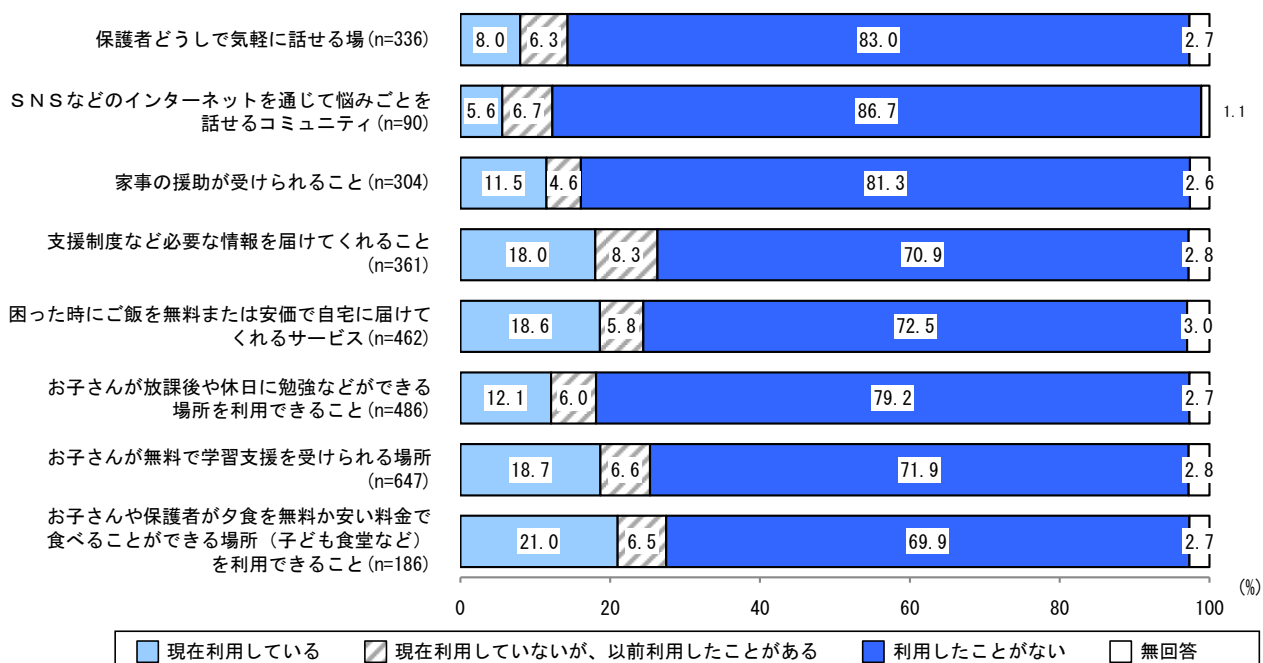
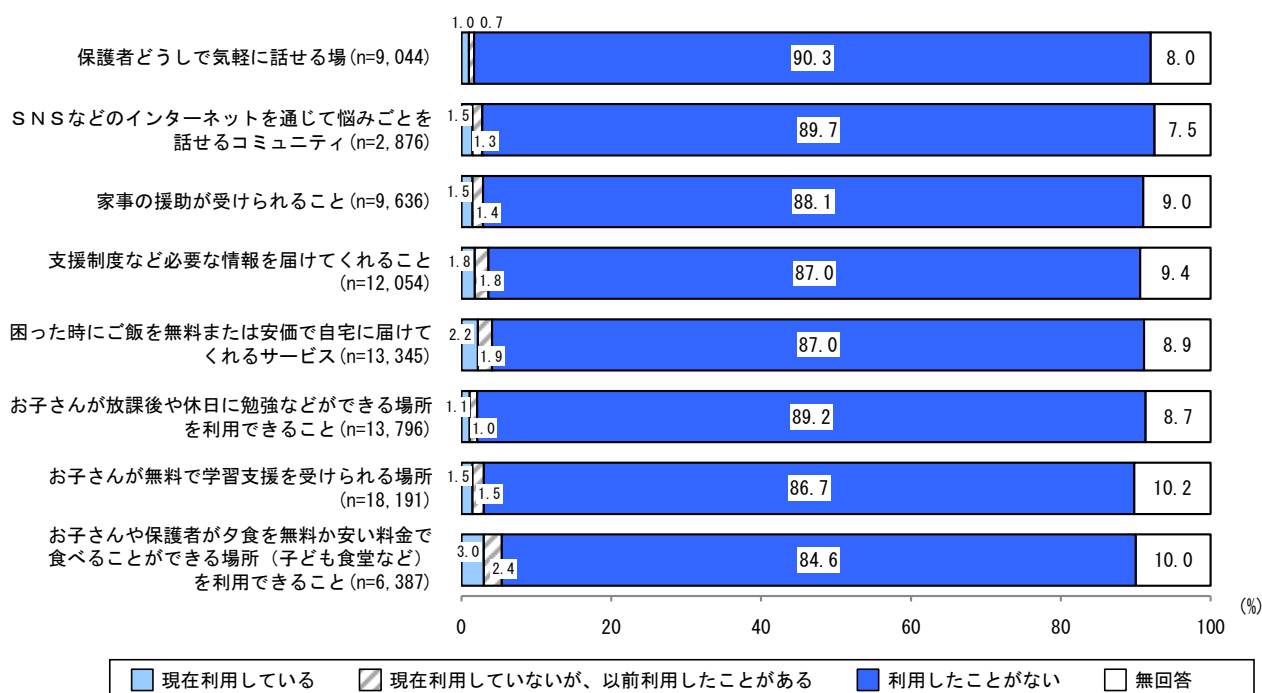


図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が21.0%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<枚方市>

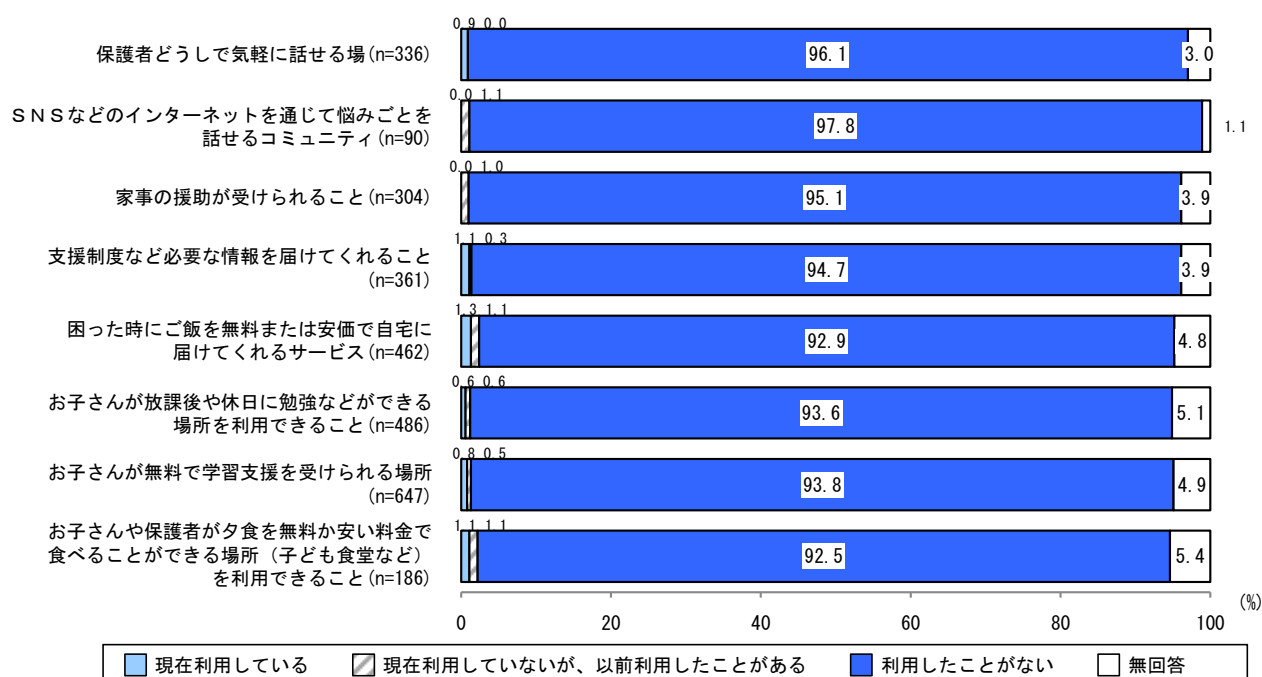
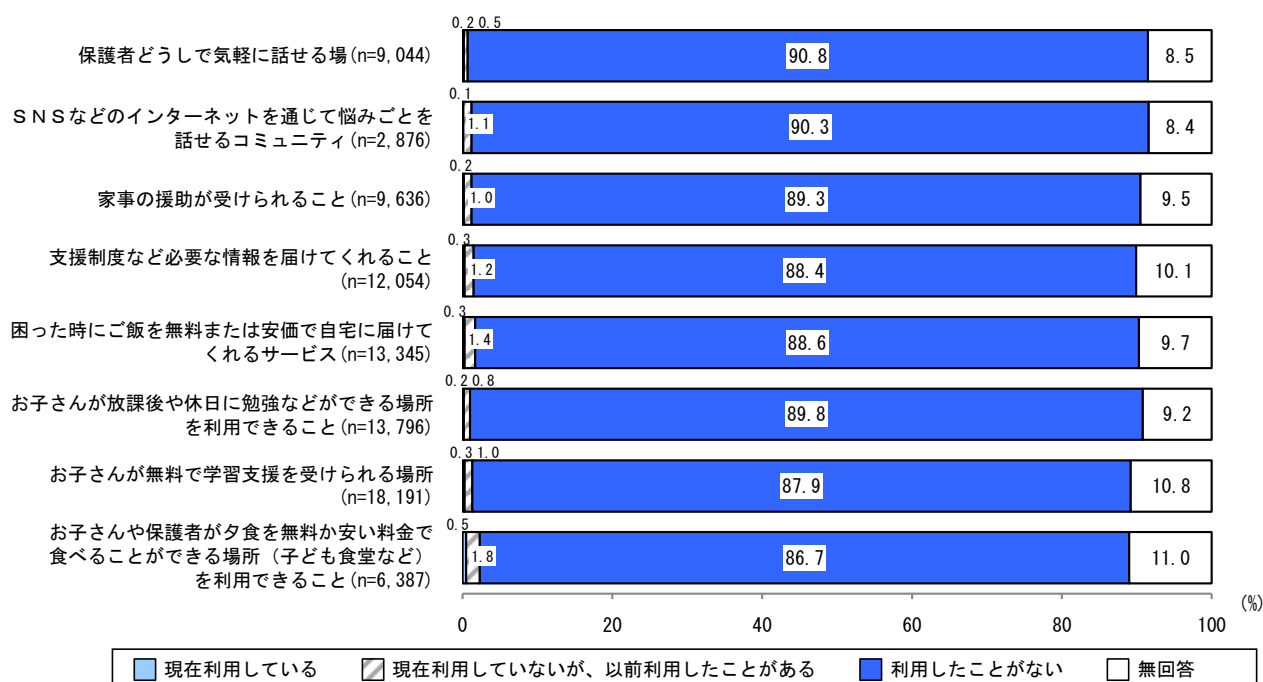


図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」と回答した割合が1.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<枚方市>

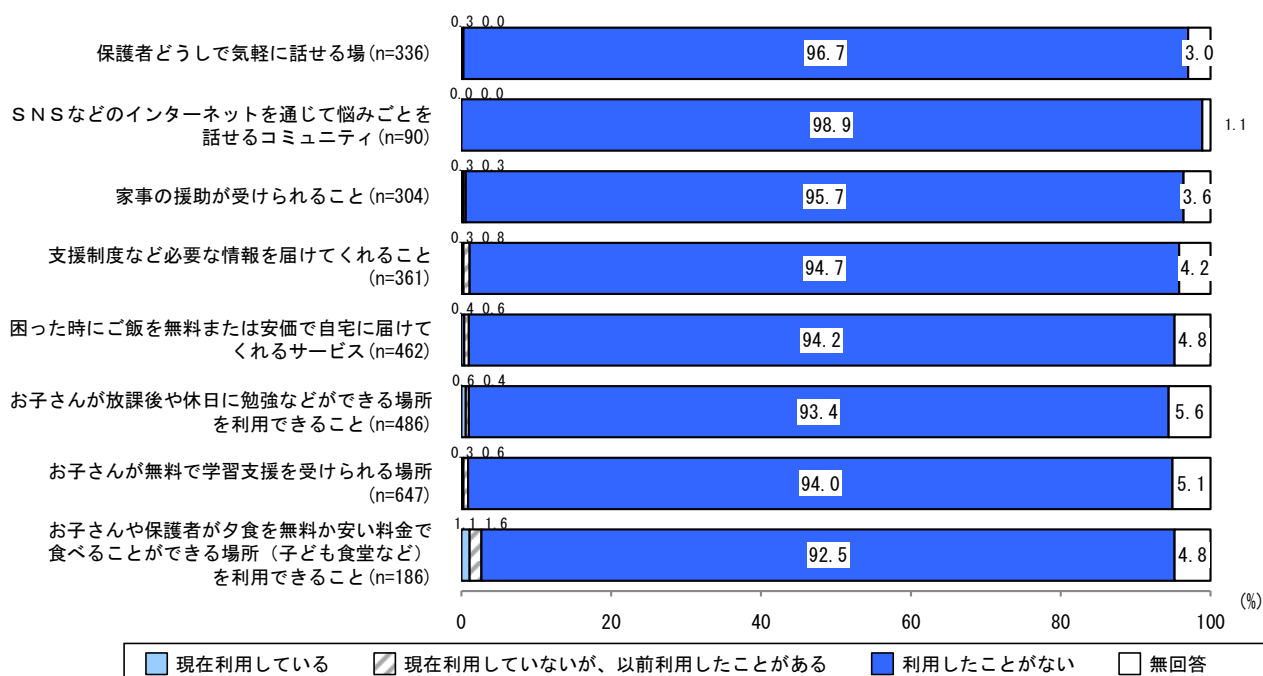
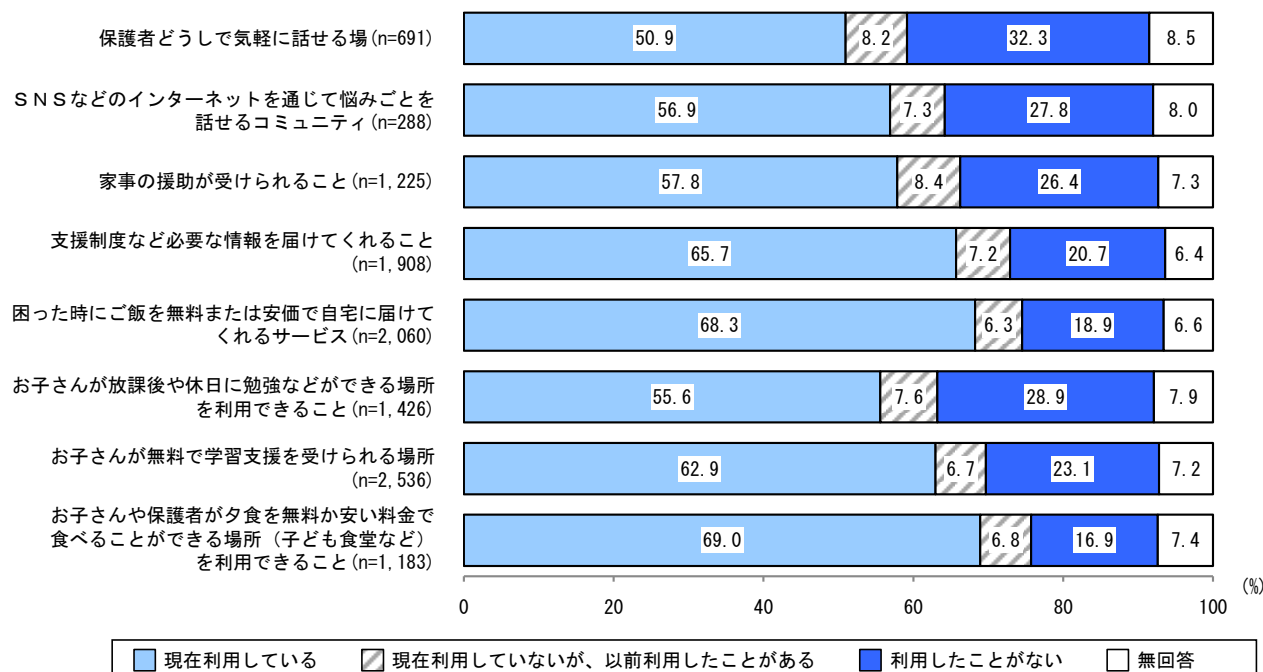


図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 20×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<枚方市>

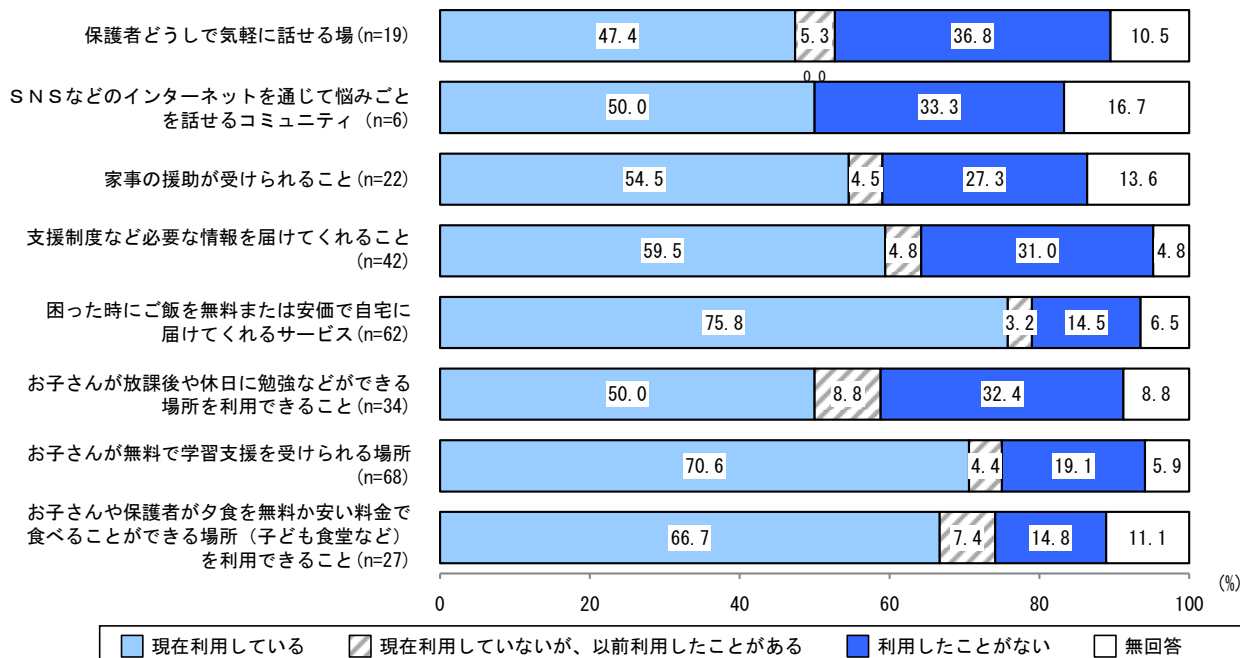
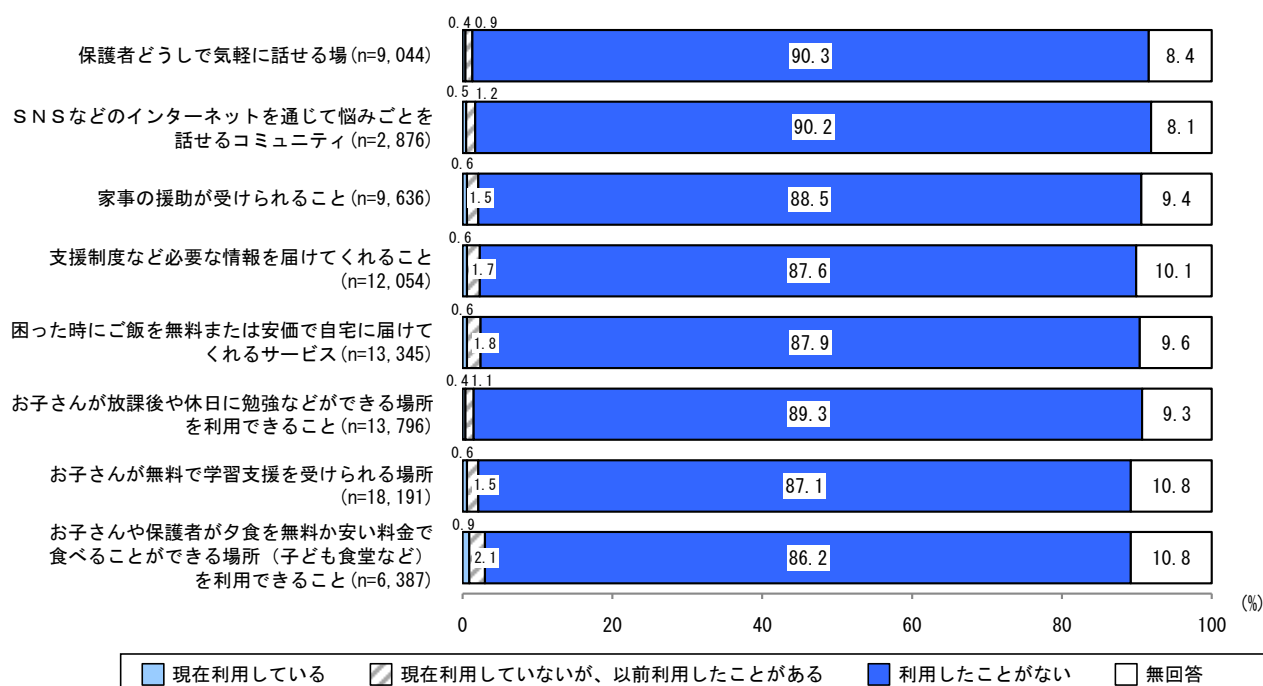


図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

身近にあるといいと思うこと別に児童扶養手当の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」と回答した割合が75.8%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<枚方市>

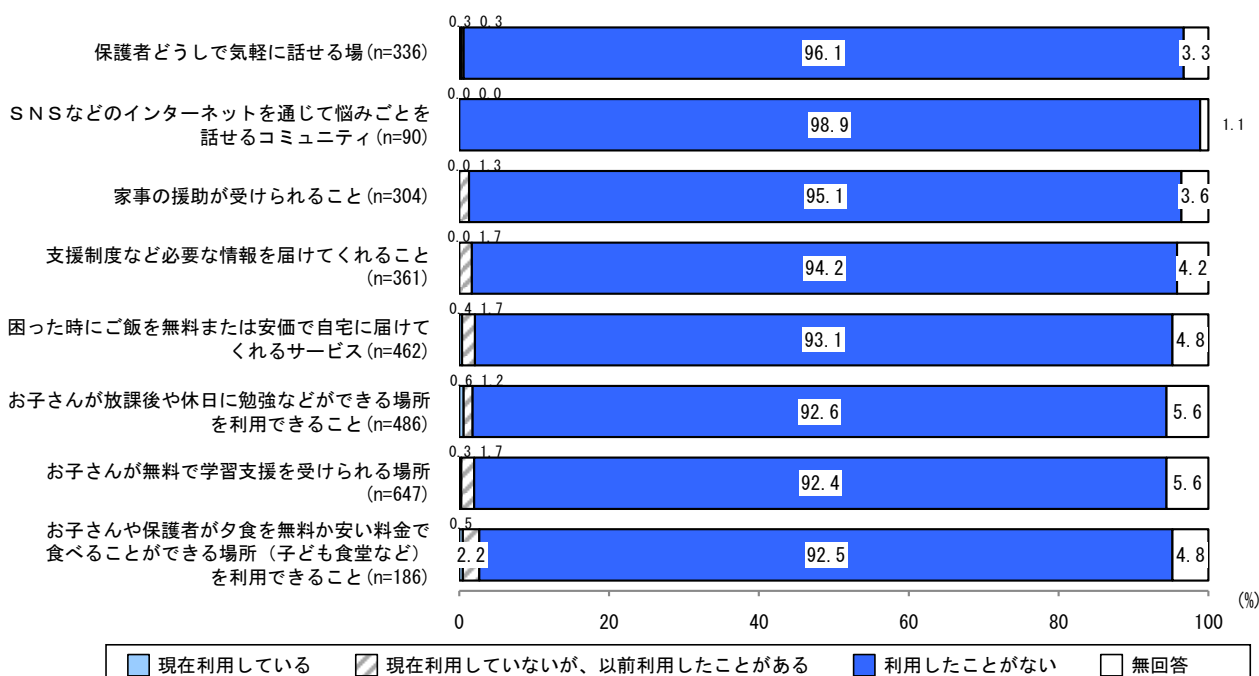
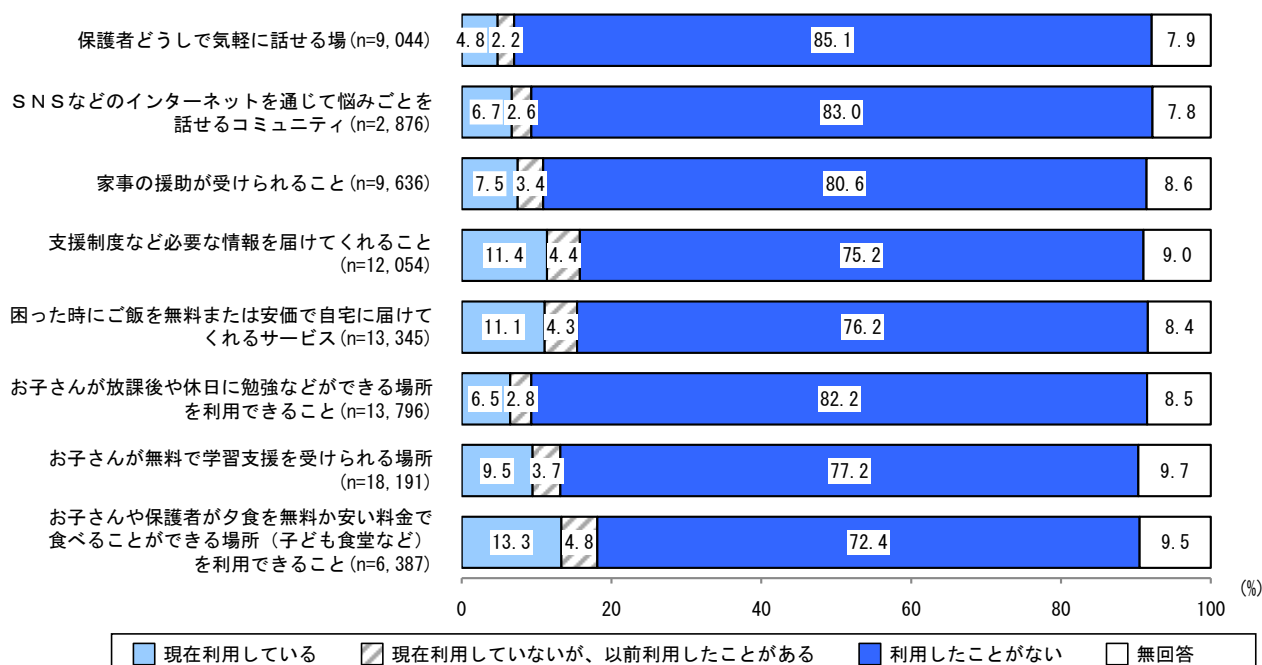


図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

身近にあるといいと思うこと別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<枚方市>

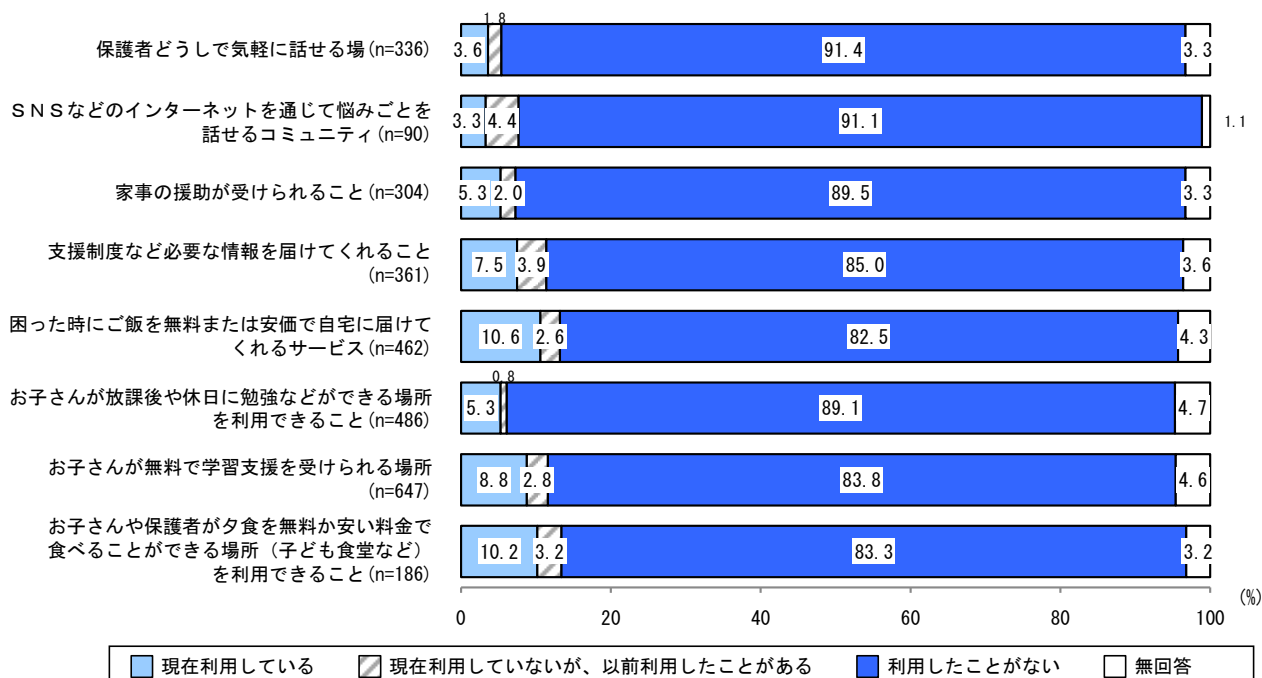
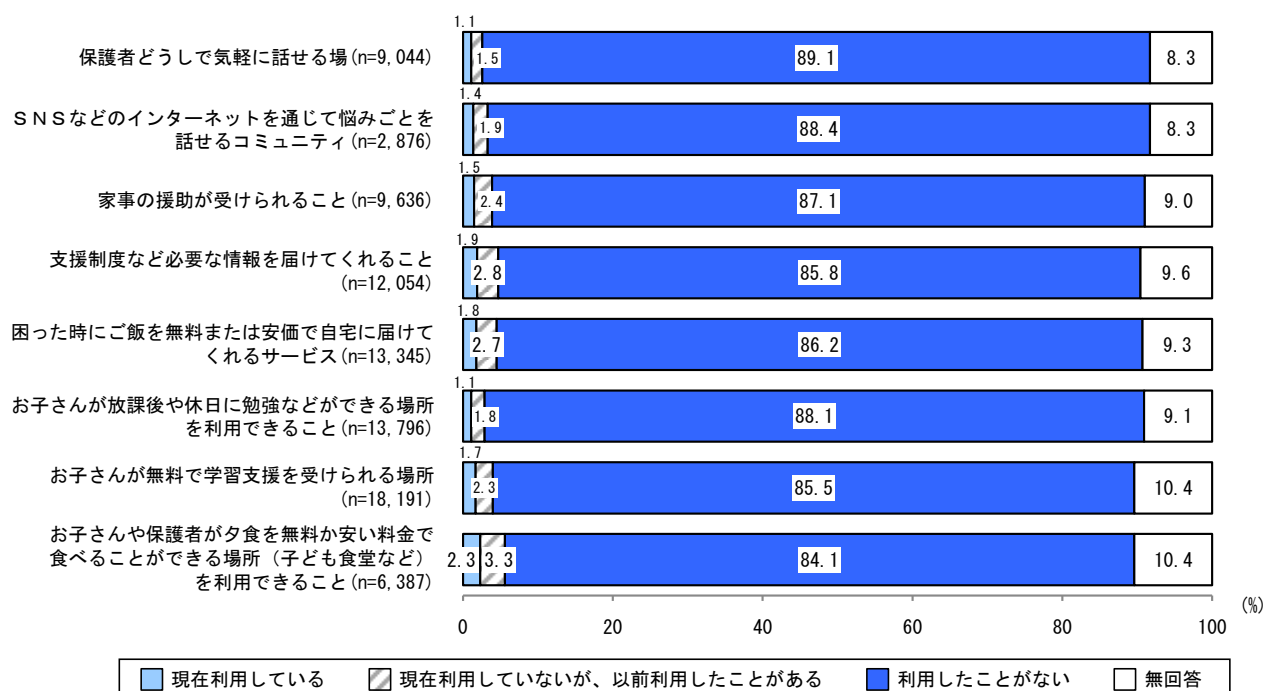


図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」と回答した割合が10.6%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<枚方市>

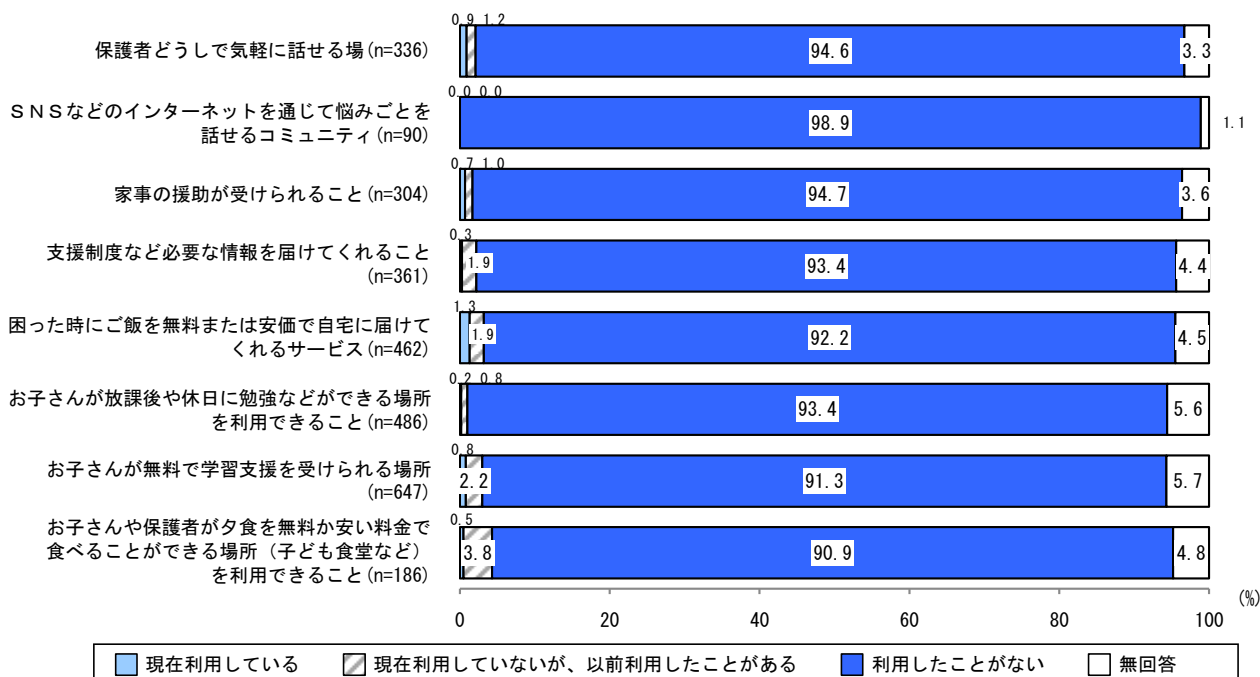


図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

<家庭状況（制度等）に関する考察>

就学援助の利用状況については、全体で、「現在利用している」が12.2%となっている。困窮度Ⅰ群では、53.3%、困窮度Ⅱ群では36.6%を占めている。次にひとり親世帯を対象とする児童扶養手当の利用状況は、全体で61.3%、困窮度Ⅰ群で89.8%、困窮度Ⅱ群で75.0%となっている。生活保護制度の利用状況は、全体で0.8%と低水準にとどまっている。困窮度Ⅰ群では、5.4%、困窮度Ⅱ群では1.4%となっている。今回調査の回答者から一定層の貧困層が漏れ落ちている可能性についても留意しておく必要がある。いずれにしても、社会保障制度の捕捉率を上げるために、給付を必要な世帯が利用しやすいような各制度の要件緩和、手続きの簡素化等の施策が求められている。

ひとり親世帯について、養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は、全体で38.6%にとどまっている。「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で41.7%、困窮度Ⅱ群で63.6%となっている。離別の場合、生活状況の激変のなか、ひとり親自身が養育費の取り決めを行うことは容易なことではないため、相談機関等の支援策の充実が求められる。

初めて親となった年齢と最終学歴について、特に母親に着目すると、「10代」で中学校卒業が23.8%、高等学校中途退学が9.5%と、他の年齢階層に比べて高くなっている。妊娠・出産しても学修を中断せず継続できるような学修面でのサポート体制、子育て支援が求められる。また学びを一時中断した者についても、あとからでも「学び直し」を可能にするような学修機会の提供等が求められる。

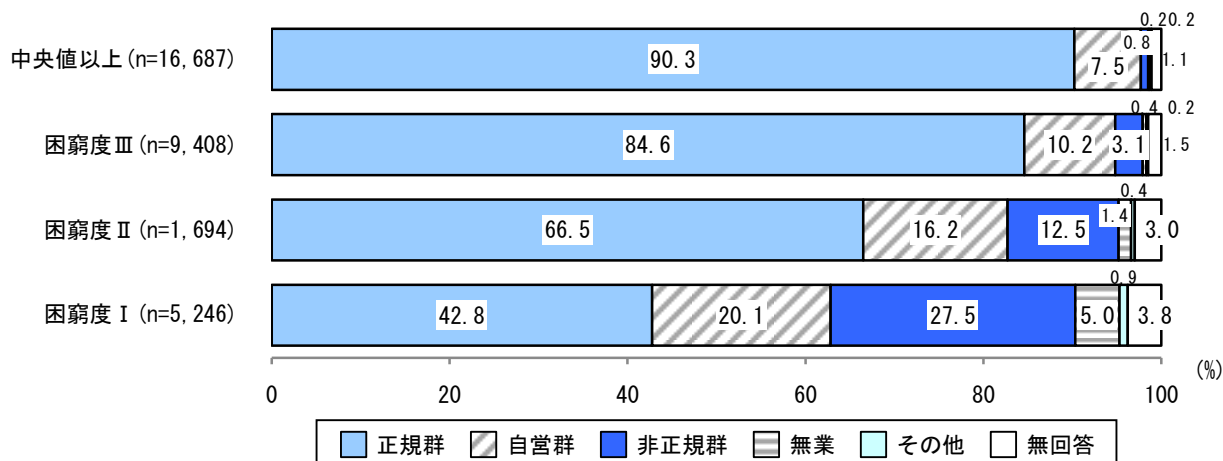
住宅形態別に家計の状況をみると、「府営・市営の住宅」において「赤字である」と回答した者の割合が51.9.%と半数以上を占める。同様に、「府営・市営の住宅」については、「子どもの将来のための貯蓄状況」についても「貯蓄をしたいが、できていない」が74.1%と経済的余裕のなさが示されている。家賃分の負担軽減に加えて、生活費部分の経済的支援の必要性が示されている。

全般的に、公的な資金援助の受給率は困窮度にしたがって高い水準を示している。また、母子世帯における養育費の受け取り世帯の割合が十分ではなく、若くして母親になった者への教育支援の必要性も示唆される。さらに、公共性の高い住宅に居住する世帯ほど、経済的な余裕を欠いている傾向が示されている。

3-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票問9より）

<大阪府内全体>



<枚方市>

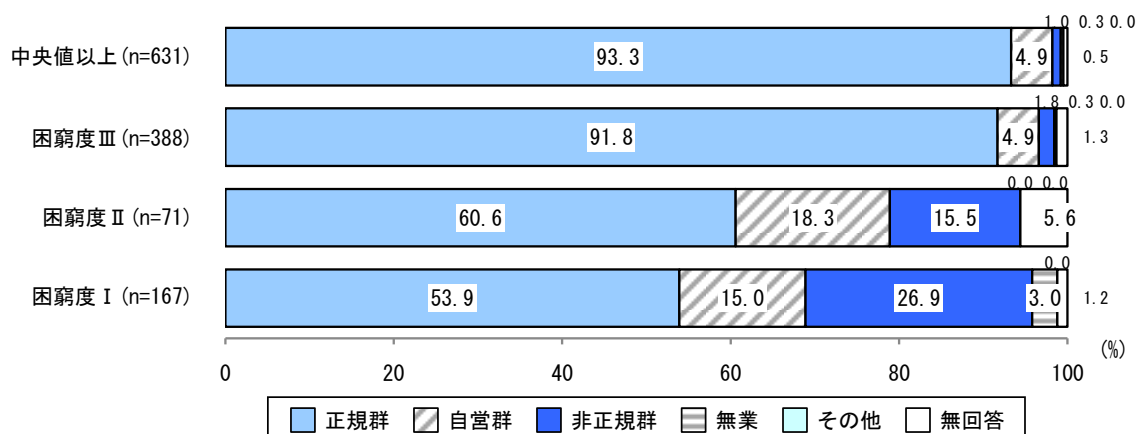


図 52. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「非正規群」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群においては他と比べて「非正規群」、「無業」の割合がやや高く、それぞれ26.9%、3.0%となっている。

※分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、

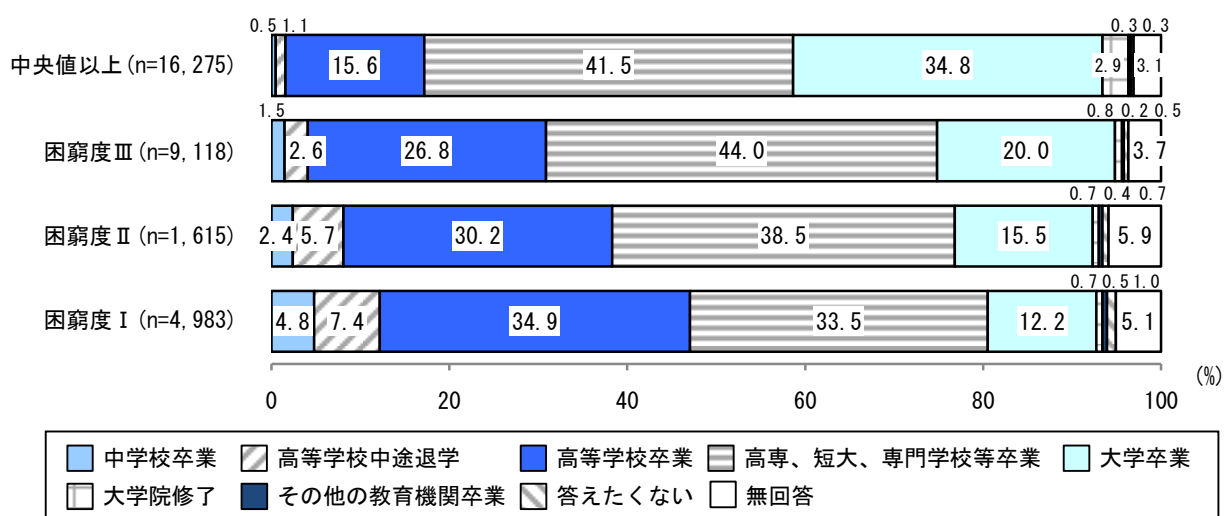
上記以外で、誰も働いていなければ（問9選択肢6、7）無業。

上記以外がその他となる。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す（就業構造基本調査による）。クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

困窮度別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 8）

<大阪府内全体>



<枚方市>

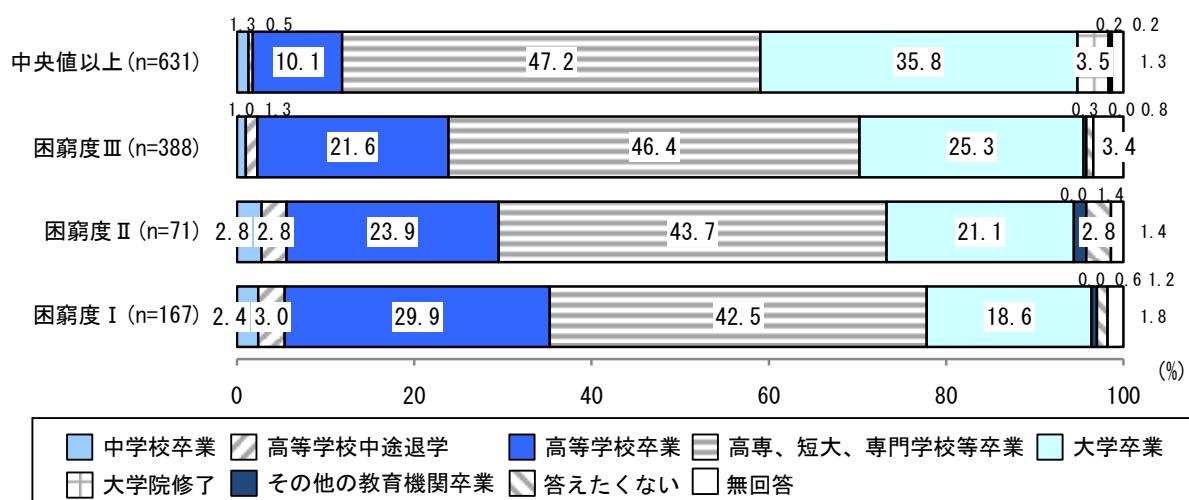
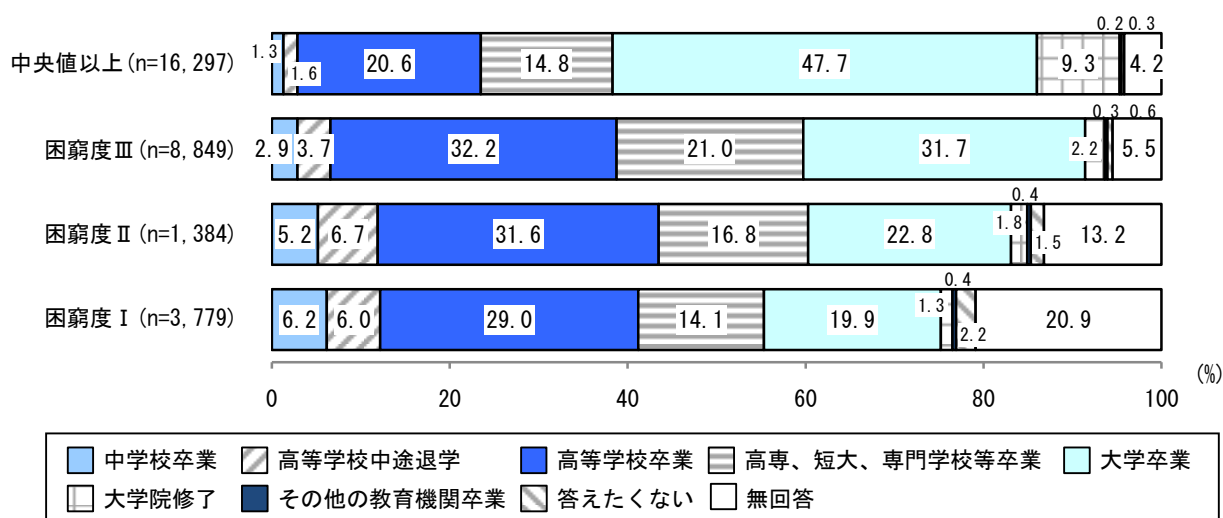


図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度が高まるにつれ、「高校学校中途退学」と「高等学校卒業」の割合が高くなり、一方で「大学卒業」は、困窮度が高まるにつれ、割合が低くなっている。

困窮度別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<枚方市>

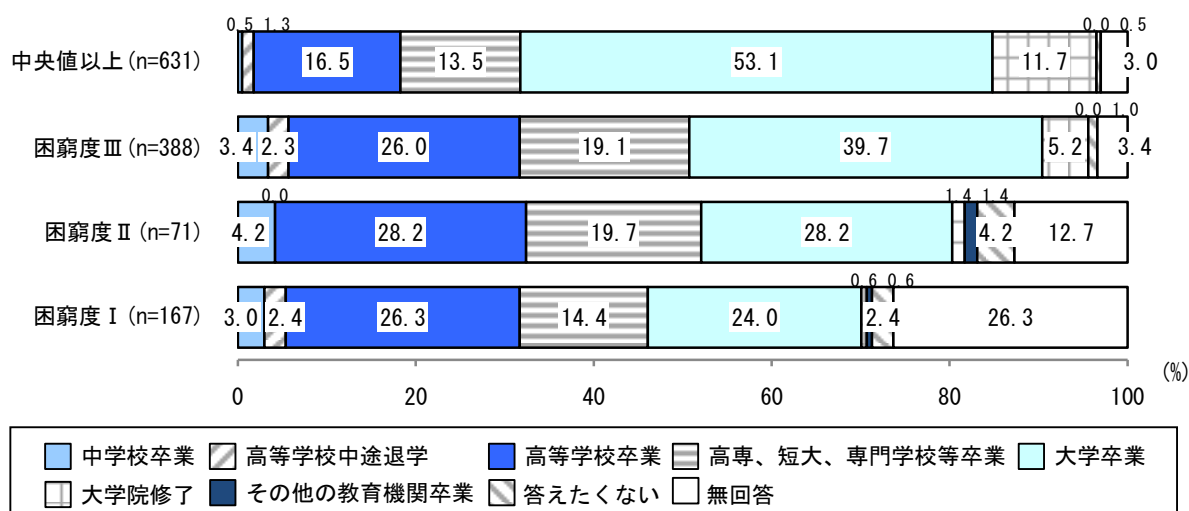
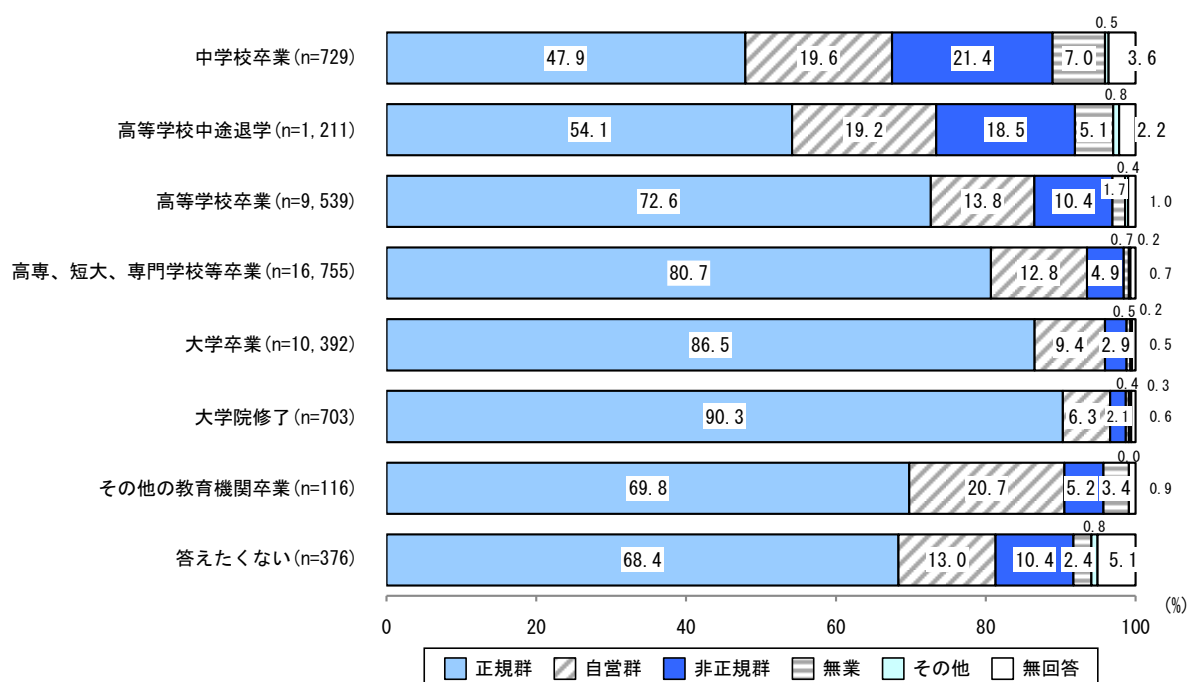


図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、困窮度Ⅰ群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ3.0%、2.4%である。また、困窮度Ⅰ群では無回答（26.3%）の割合も高い。

お母さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問 8 × 保護者票問 9）

<大阪府内全体>



<枚方市>

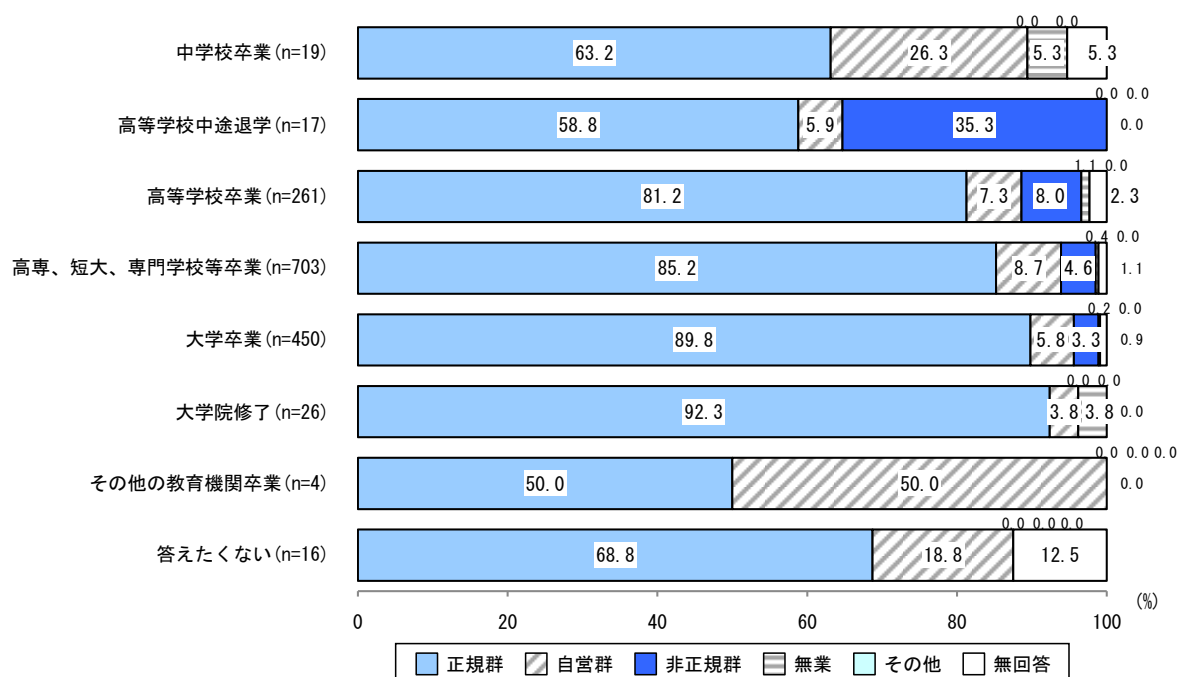
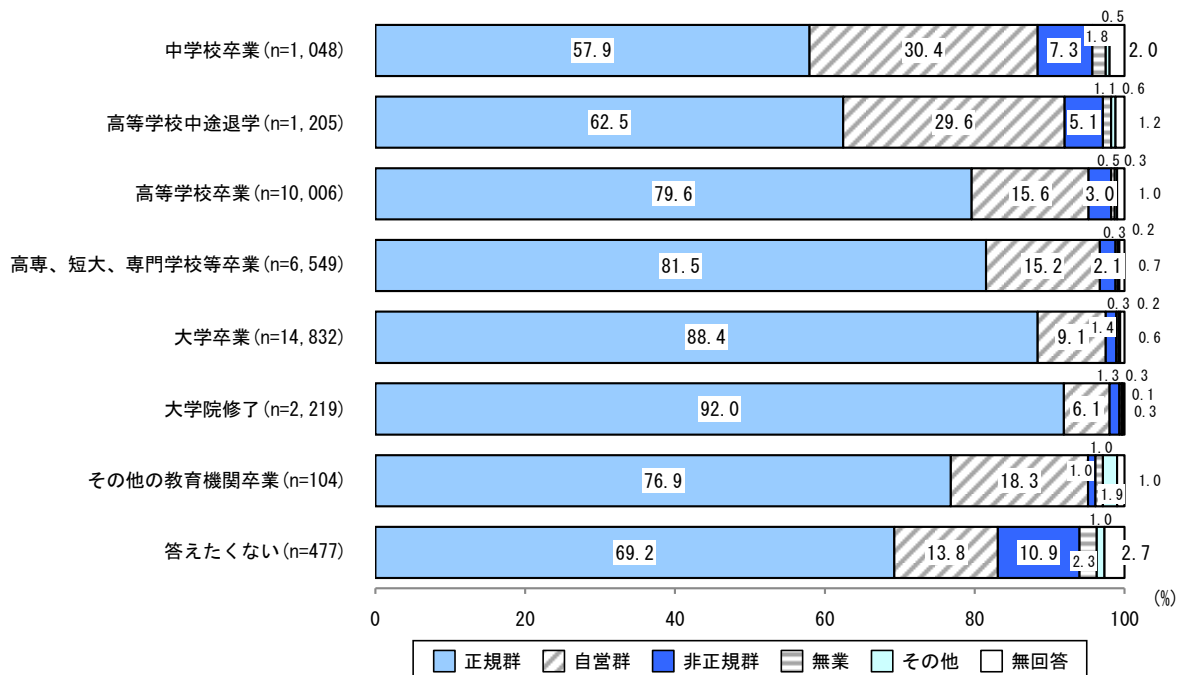


図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

お父さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問 8 × 保護者票問 9）

<大阪府内全体>



<枚方市>

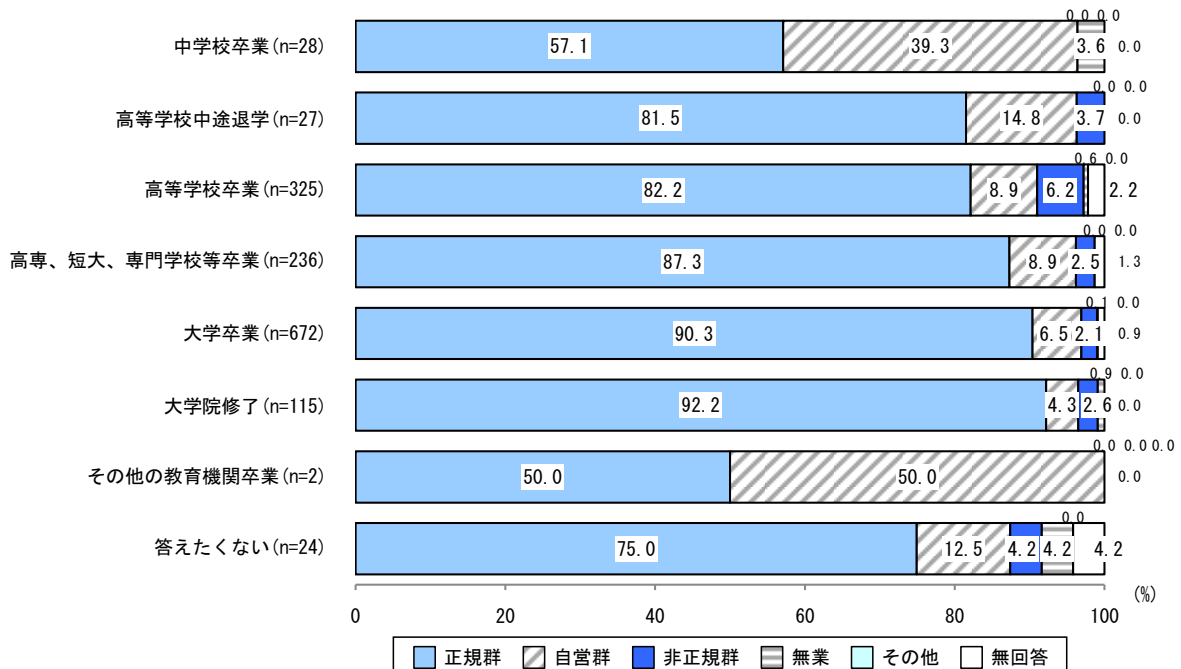
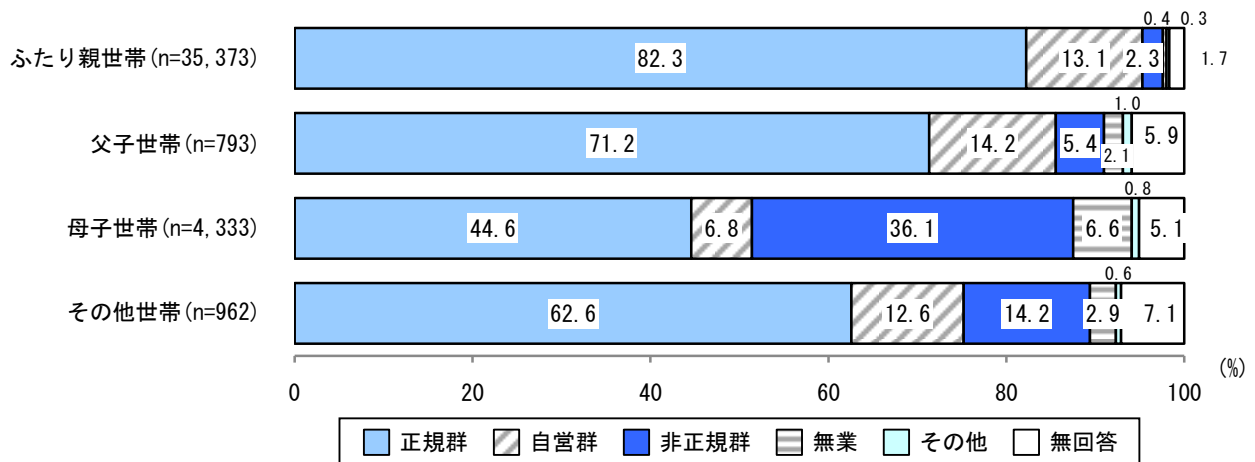


図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、父親の最終学歴が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票問2×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<枚方市>

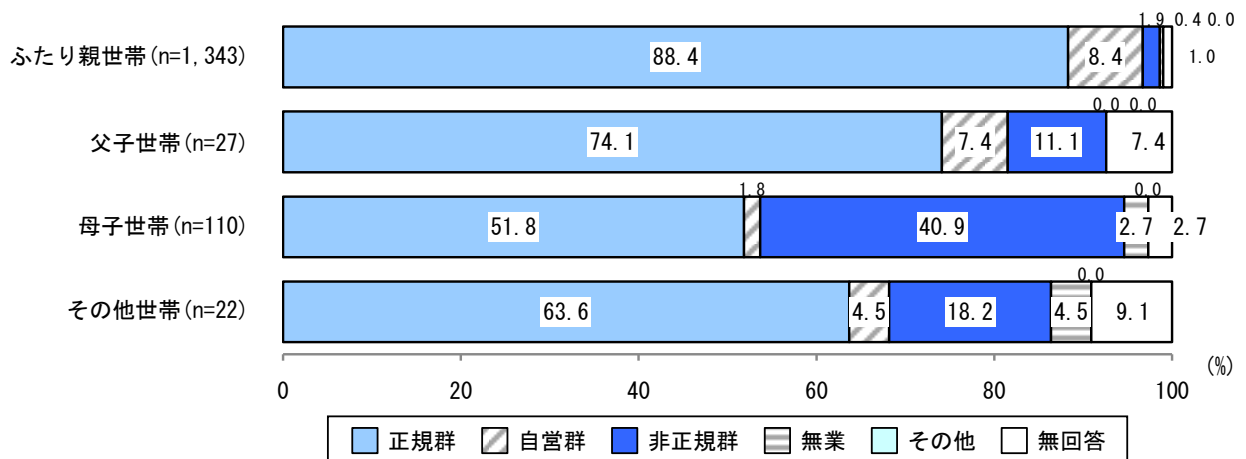
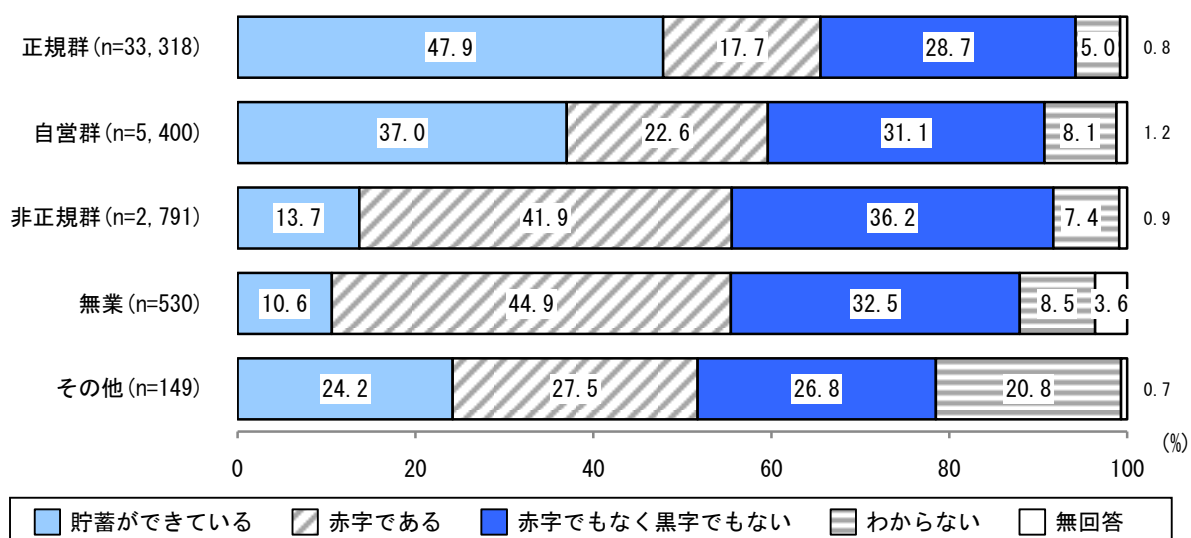


図 57. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が88.4%であるが、「父子世帯」では74.1%、「母子世帯」では51.8%と低くなる。「非正規群」は、「父子世帯」では11.1%、「母子世帯」では40.9%となっている。

就労状況別に見た、家計の状況（保護者票問9×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

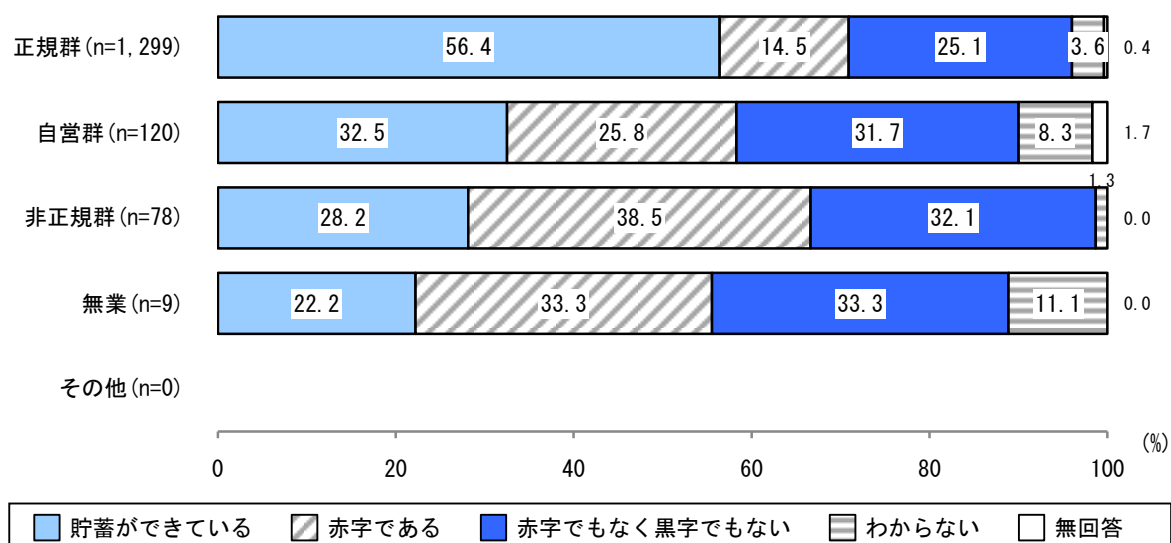


図 58. 就労状況別に見た、家計の状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では「貯蓄ができています」割合がそれぞれ、56.4%、32.5%である。「無業」で「赤字である」と回答した人の割合は、33.3%となっている。

<雇用に関する考察>

はじめに、困窮度別に保護者の就業状況と最終学歴について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。親の就業状況を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「正規」群（93.3%対53.9%）が約40ポイント高く、大きな開きがある。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「非正規」群（26.9%対1.0%）が25ポイント以上高くなっている。また、「自営」群（15.0%対4.9%）でも、困窮度Ⅰ群の方が中央値以上群に比べて10ポイント以上高く、差が見られた。母親の最終学歴を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「大学卒業」群（35.8%対18.6%）で15ポイント以上高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」群（29.9%対10.1%）は約20ポイント高くなっている。同様に、父親の最終学歴においても、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「大学卒業」群（53.1%対24.0%）で約30ポイント高く、「大学院修了」群（11.7%対0.6%）も10ポイント以上高くなっている。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」群（26.3%対16.5%）では、約10ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の保護者の雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが示された。また、困窮度が高い群では学歴が低い傾向が見られる。

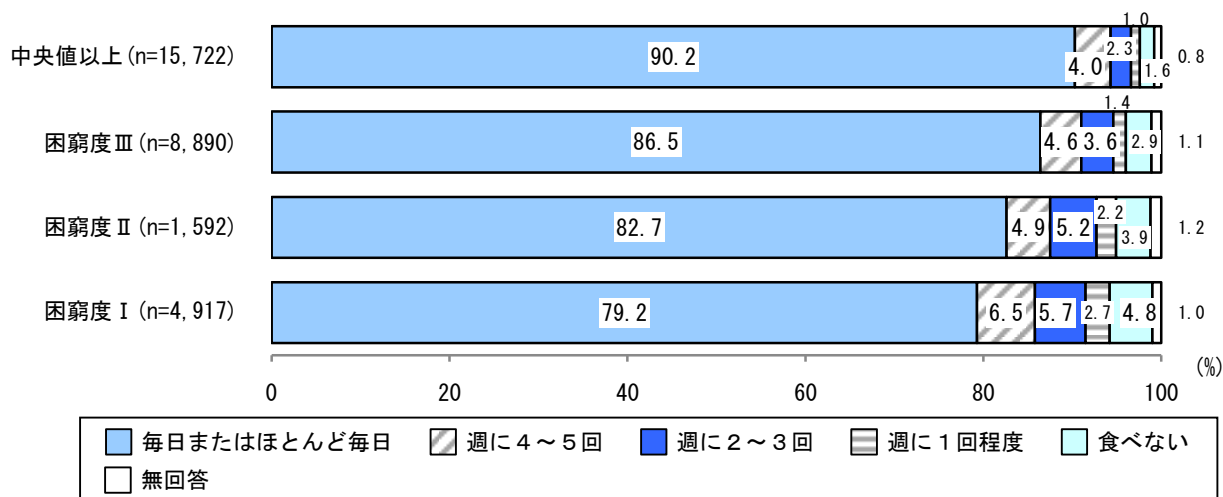
次に、保護者の最終学歴別に就業状況を確認する。母親の最終学歴別に見ると、「高等学校中途退学」群（58.8%）と「中学校卒業」群（63.2%）では「正規」群の比率は6割程度であるのに対して、それ以外では8割以上が「正規」群である。さらに、「非正規」群においては、「高等学校中途退学」群（35.3%）の割合が高く、「大学卒業」群（3.3%）と比べて30ポイント以上高い傾向も見られた。また、父親の最終学歴別でも、「中学校卒業」群（57.1%）の「正規」群の比率が5割程度にとどまっているのに対して、その他の群では8割以上が「正規」群であった。これらの結果から、学歴が上がるほど「正規」群における就業比率が上昇する傾向が表れている。

最後に、保護者の就業状況別に家計状況をみると、親の就労状況が「正規」群の場合には、「非正規」群と比べて「貯蓄が出来ている」（56.4%対28.2%）世帯の割合が高い。反対に、「非正規」群は「正規」群と比べ、家計状況が「赤字である」（38.5%対14.5%）が20ポイント以上高いという対照的な状況となっている。この結果から、保護者の就業状況により貯蓄ができるか否かなど生活の安定に大きな影響を及ぼしていることが示唆されている。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

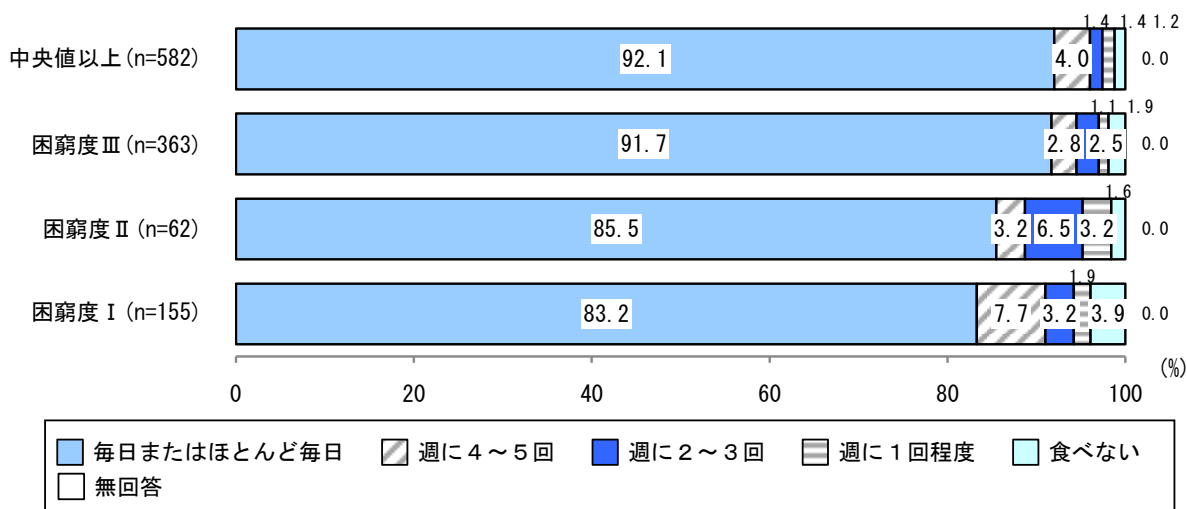
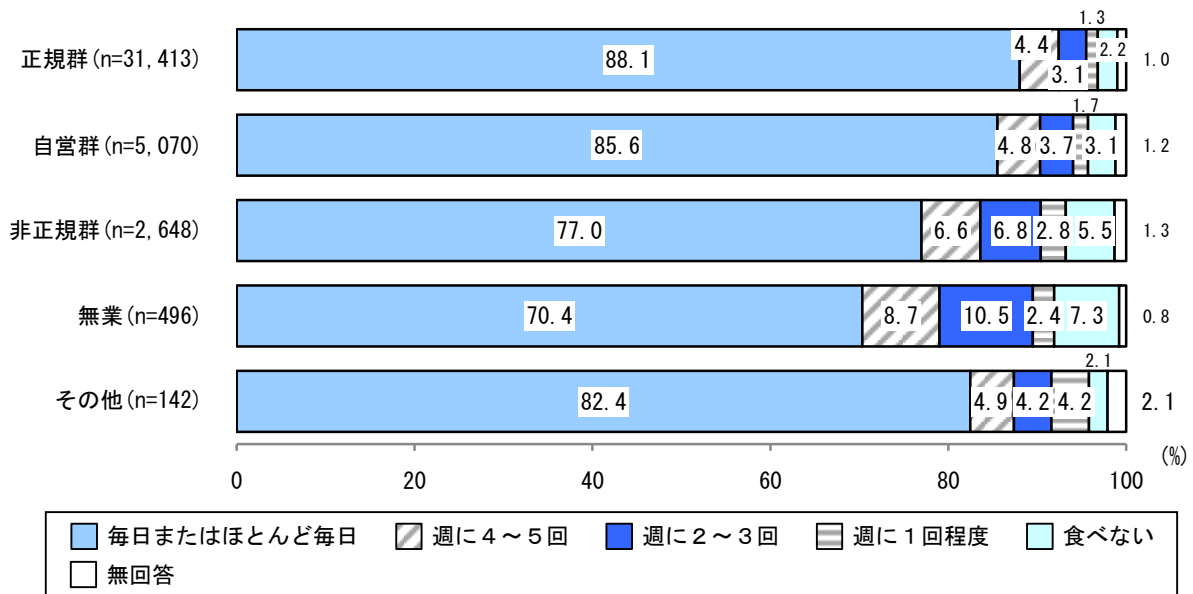


図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにしたがって、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が減る傾向が見られた。困窮度Ⅰ群では、16.7%が「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていないと回答した。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

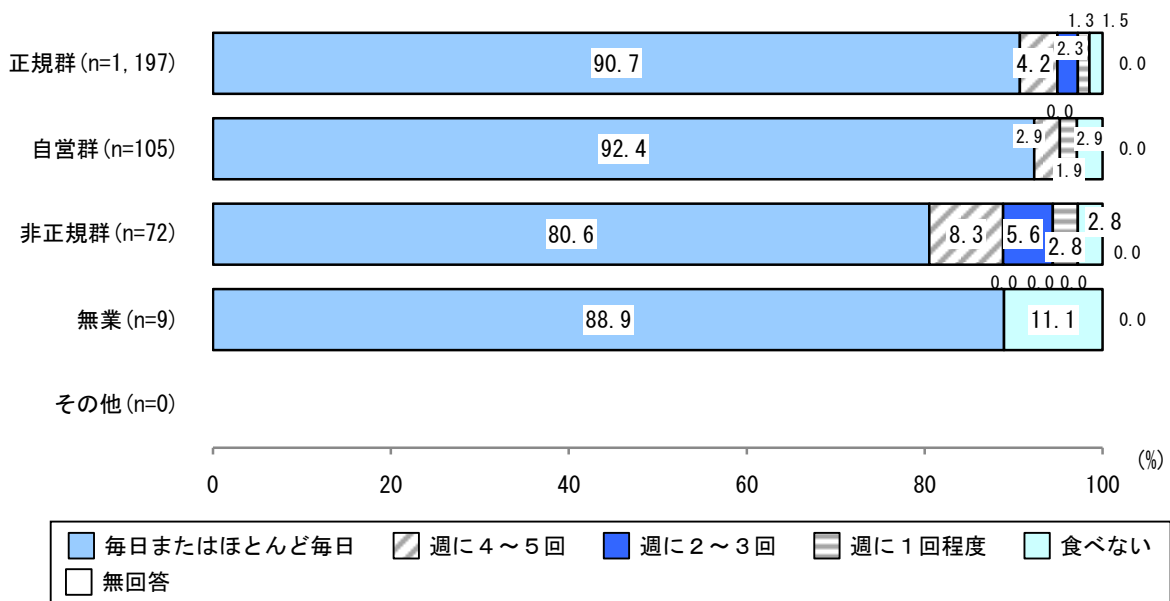
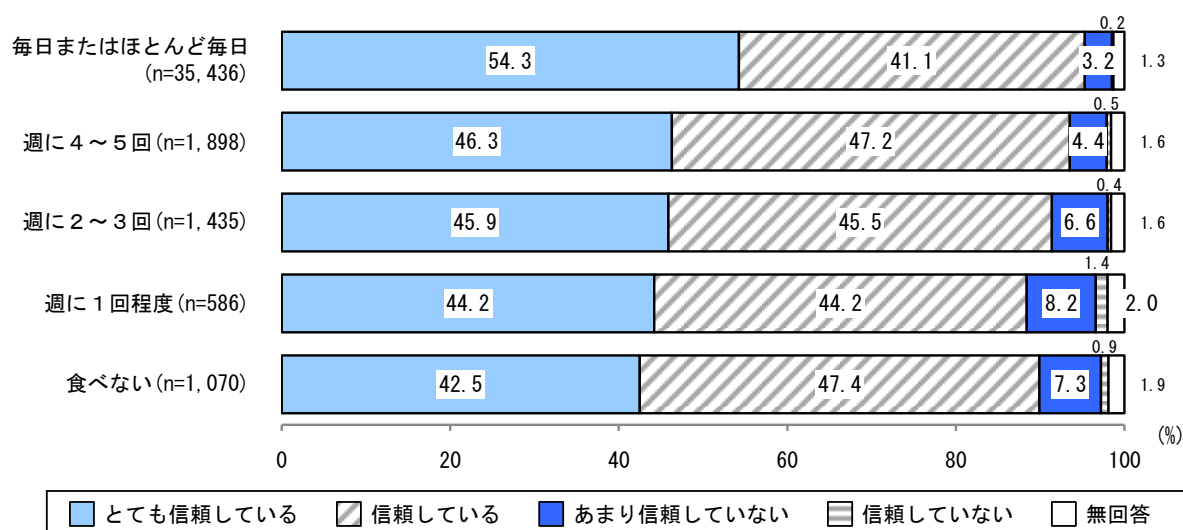


図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「自営群」（92.4%）が最も高く、次いで、「正規群」（90.7%）、「無業」（88.9%）、「非正規群」（80.6%）の順で朝食の頻度が低くなる。

朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問4(1)×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

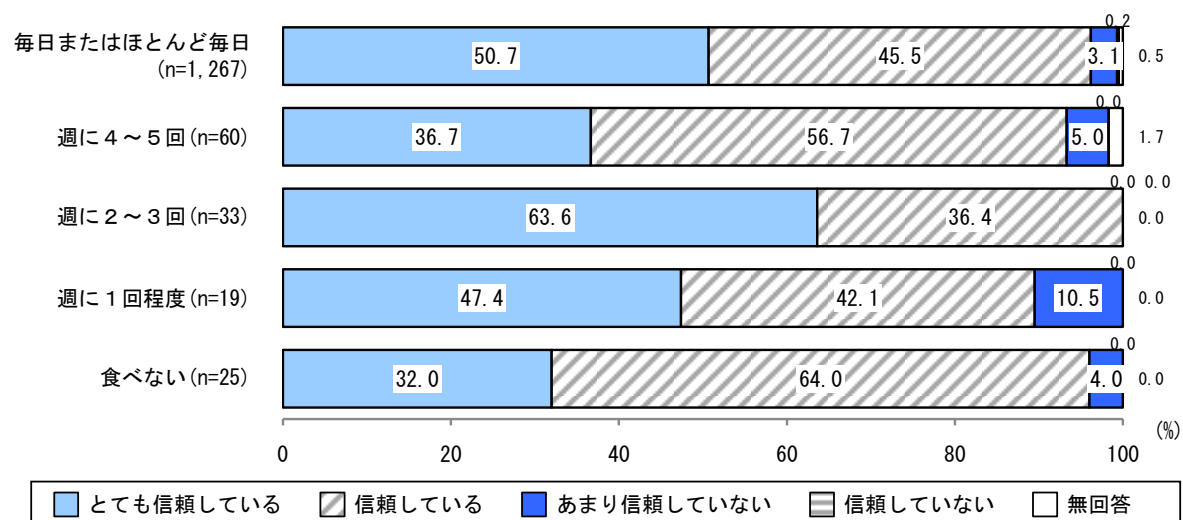
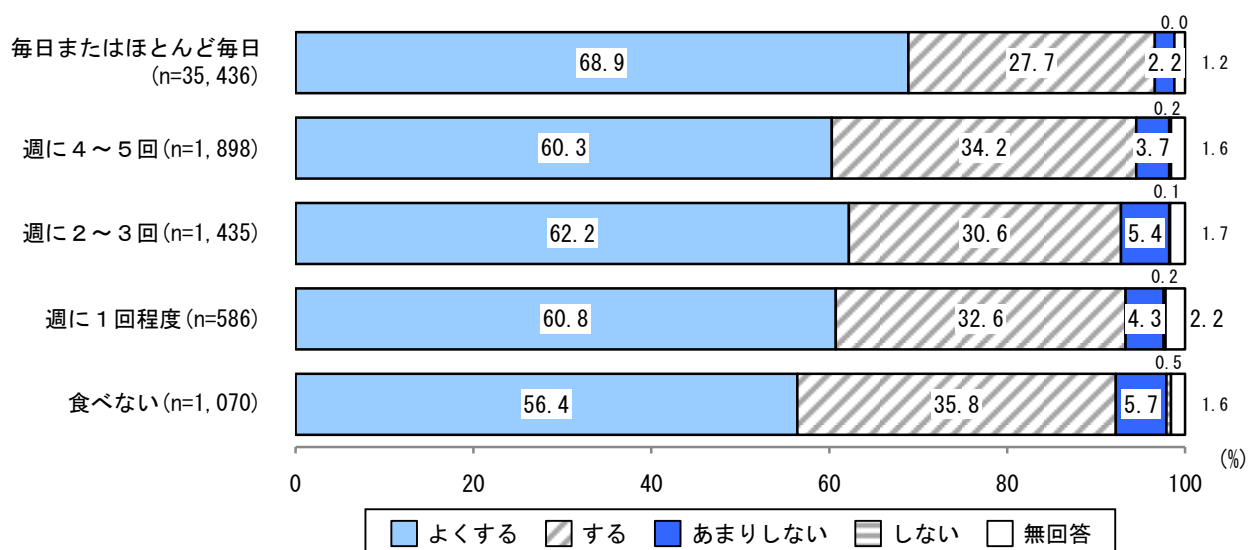


図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度

朝食の頻度別に子どもへの信頼度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が50.7%であるのに対し、「食べない」では、「とても信頼している」と回答した人は32.0%と最も低い。

朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (2)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

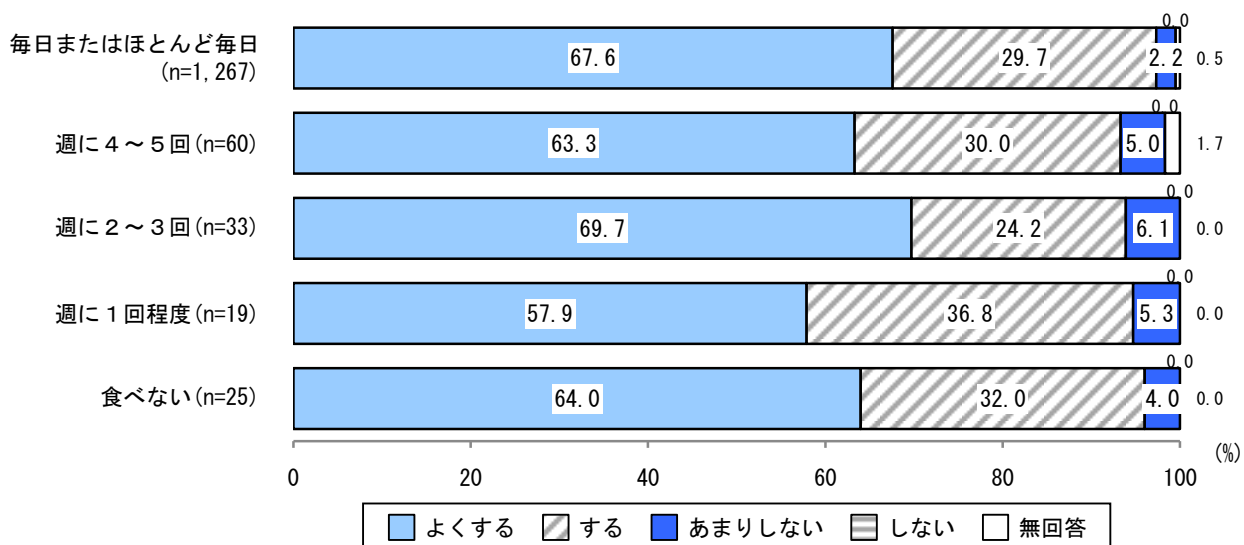
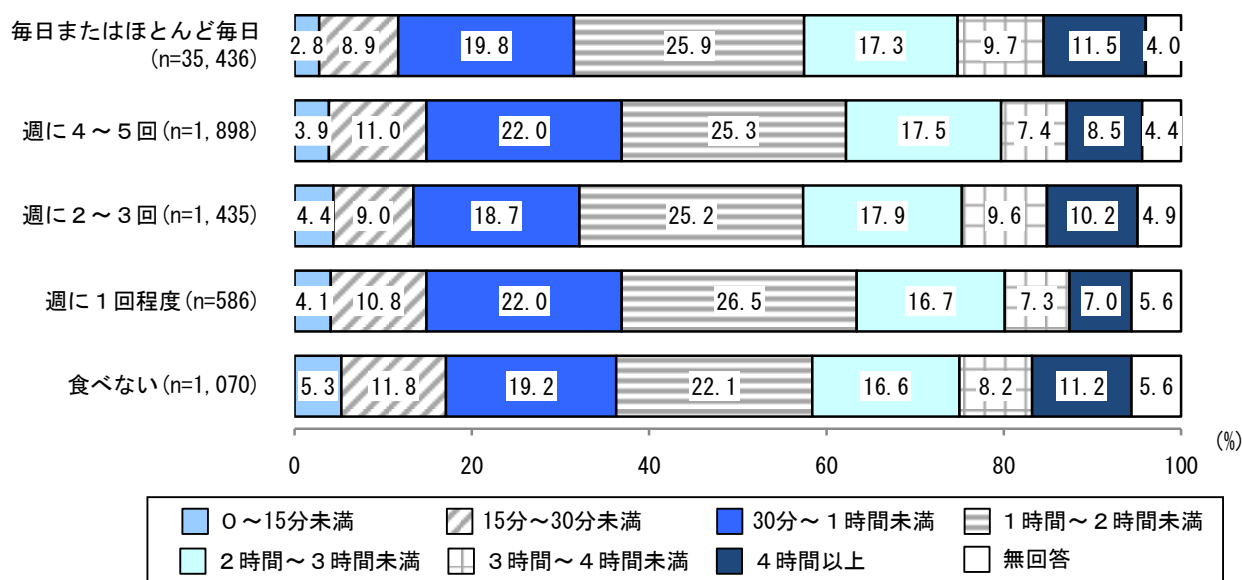


図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度

朝食の頻度別に子どもと会話頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、会話を「よくする」との回答が67.6%であるのに対し、「週に 1 回程度」では、「よくする」と回答した人は57.9%と低い。

朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

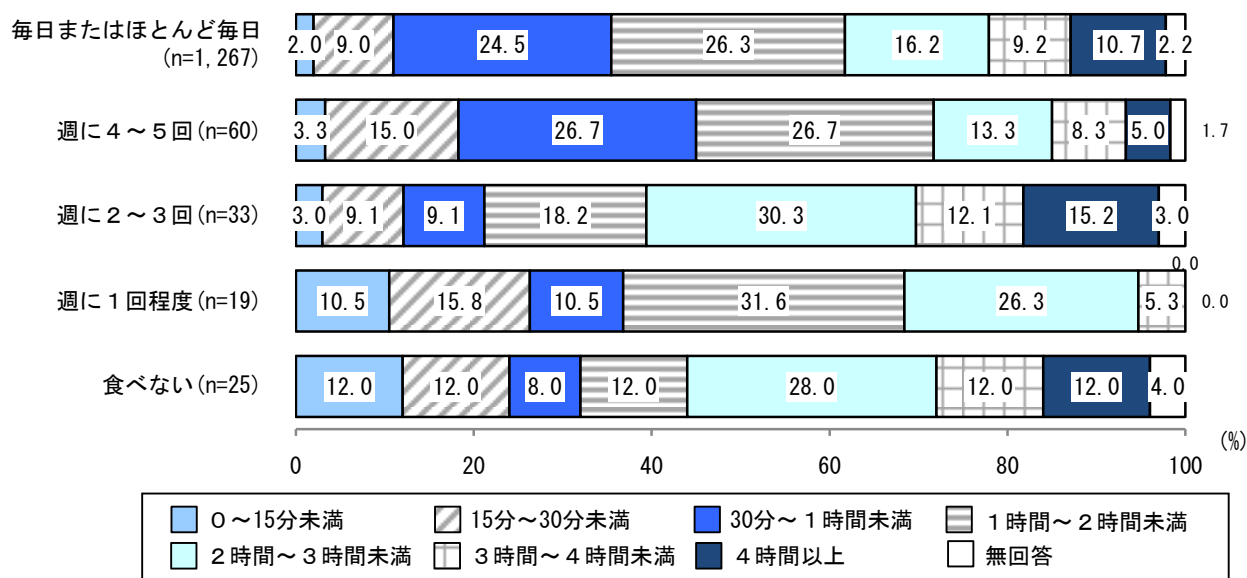
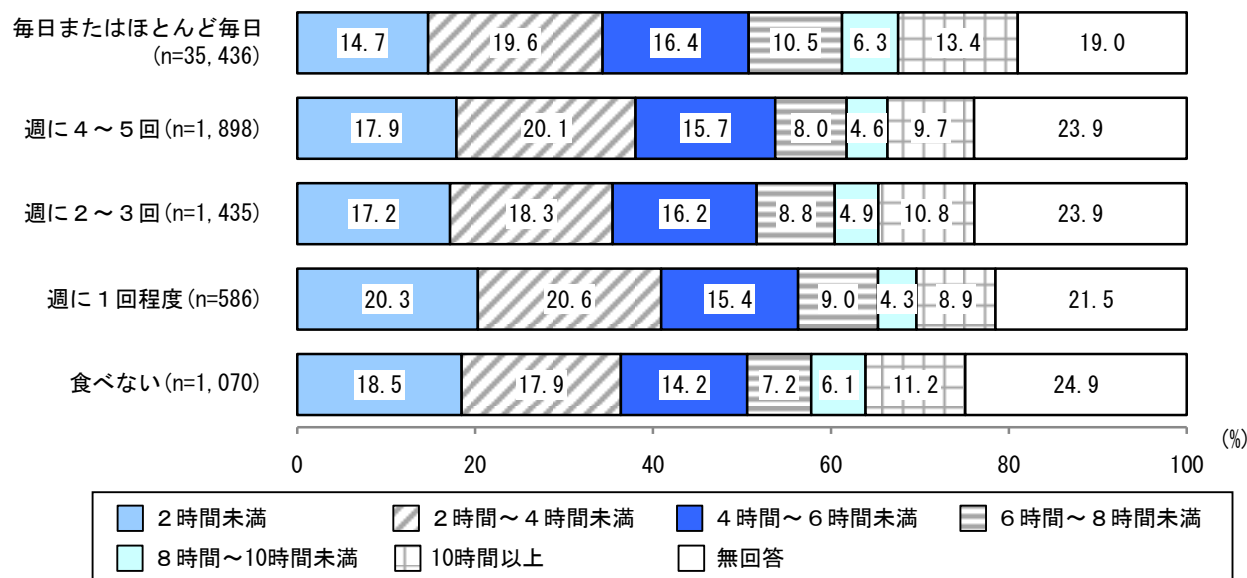


図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、朝食の頻度が週に1回程度の人には、「4時間以上」の回答がみられない。

朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

＜大阪府内全体＞



＜枚方市＞

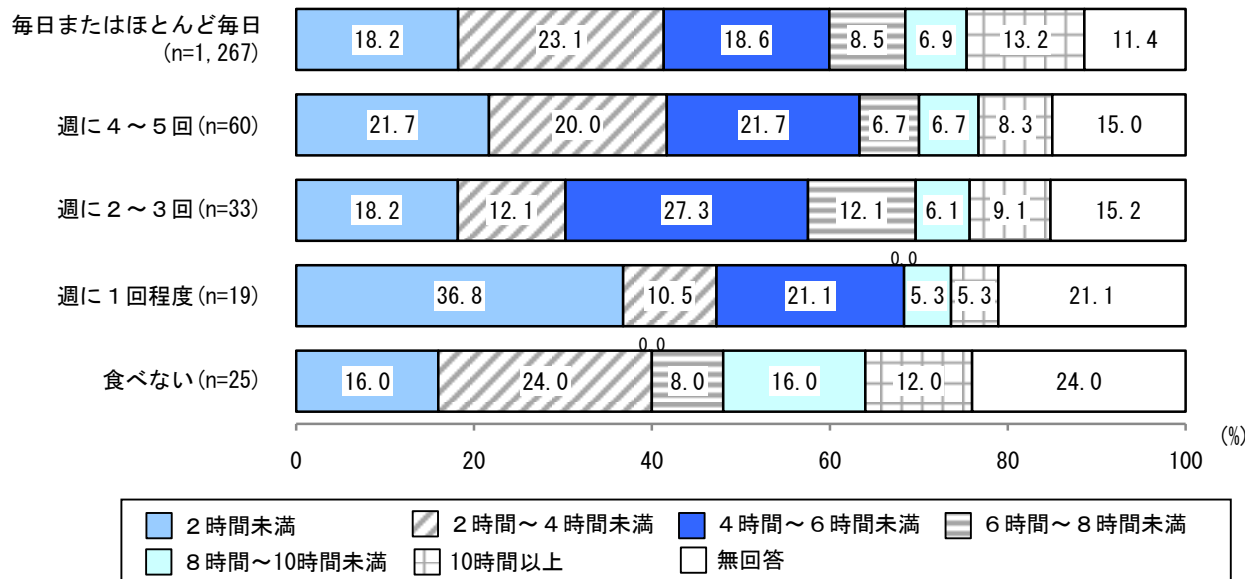
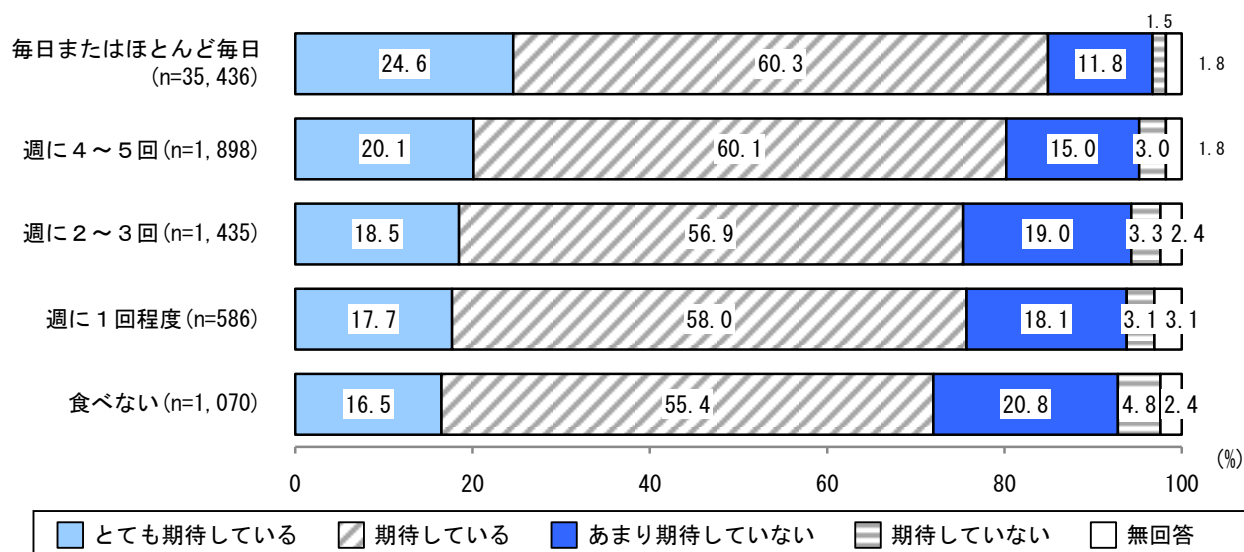


図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、休日での子どもとの関わり時間が「2時間未満」と回答した人の割合は、朝食を週に1回程度食べる人が最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (4)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

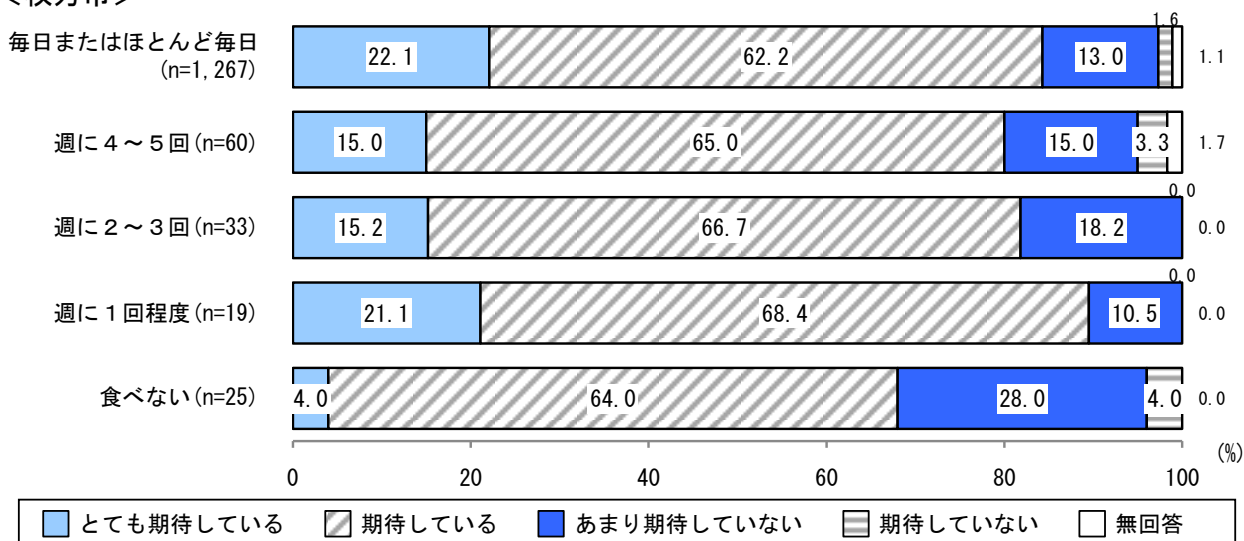


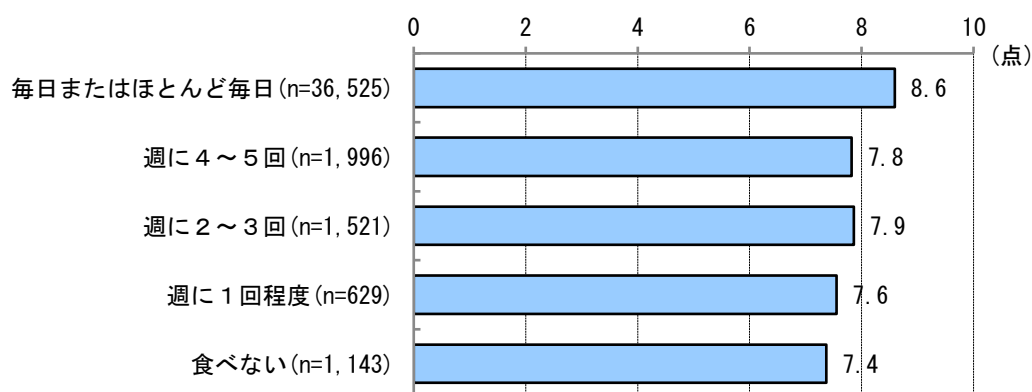
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度

朝食の頻度別に子どもの将来への期待度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、84.3%であるのに対して、「食べない」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて68.0%と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが子どもの将来に対する期待が高い結果となった。

朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問4（1）×子ども票問23）

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「自分の将来の夢や目標を持っている」の3項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪府内全体>



<枚方市>

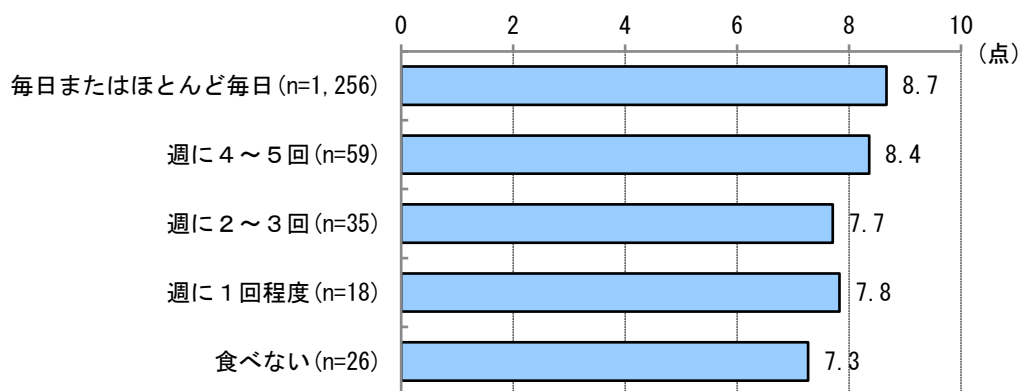
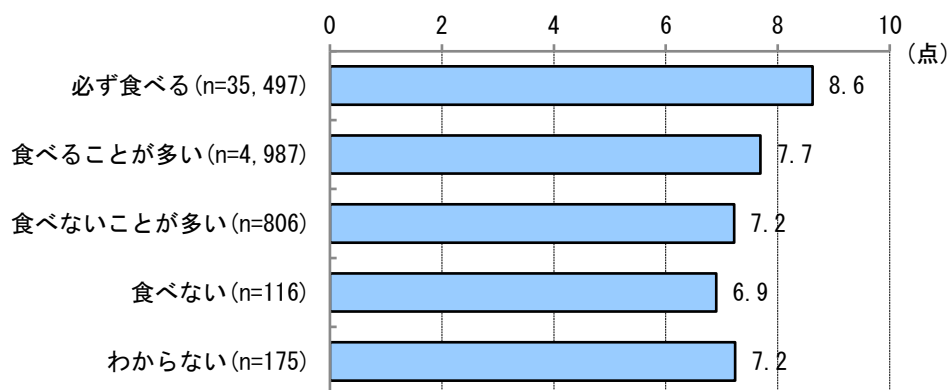


図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、8.7点であるのに対して、「食べない」では、7.3点と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問6(1)×子ども票問23)

<大阪府内全体>



<枚方市>

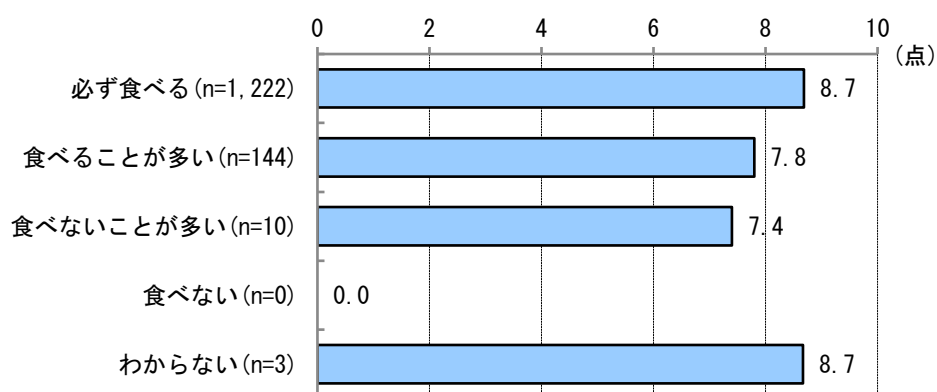
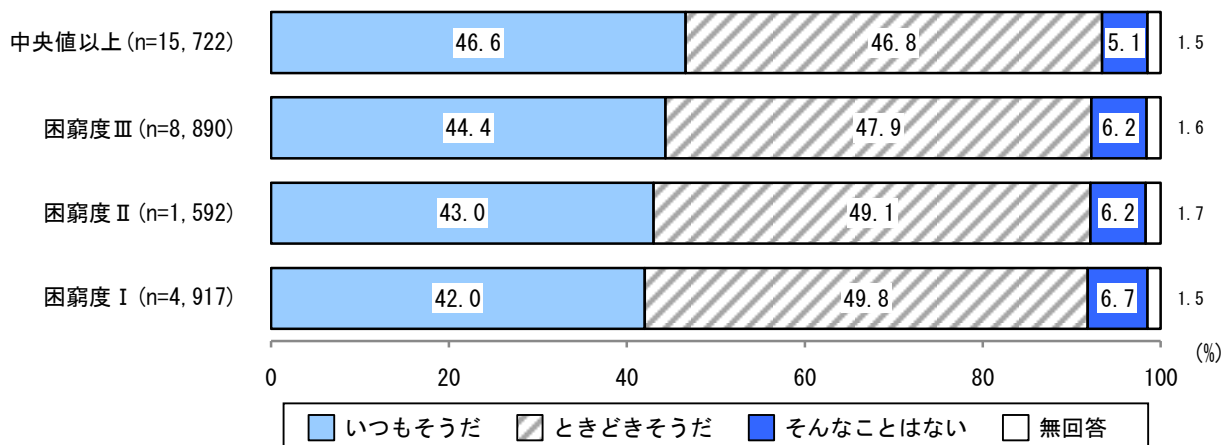


図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が8.7点であるのに対して、「食べないことが多い」と回答した人は7.4点と昼食を「必ず食べる」と回答した人のほうが、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある
(子ども票問 19①)

<大阪府内全体>



<枚方市>

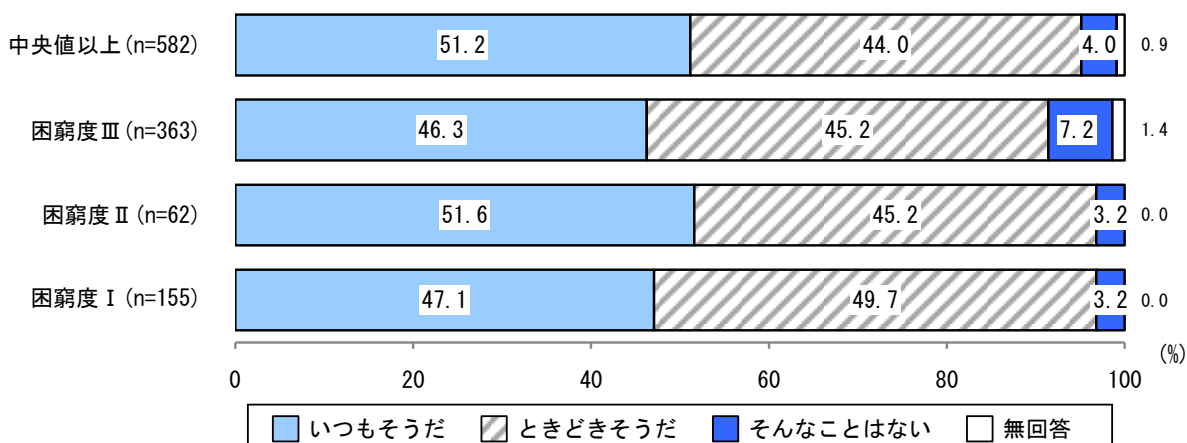
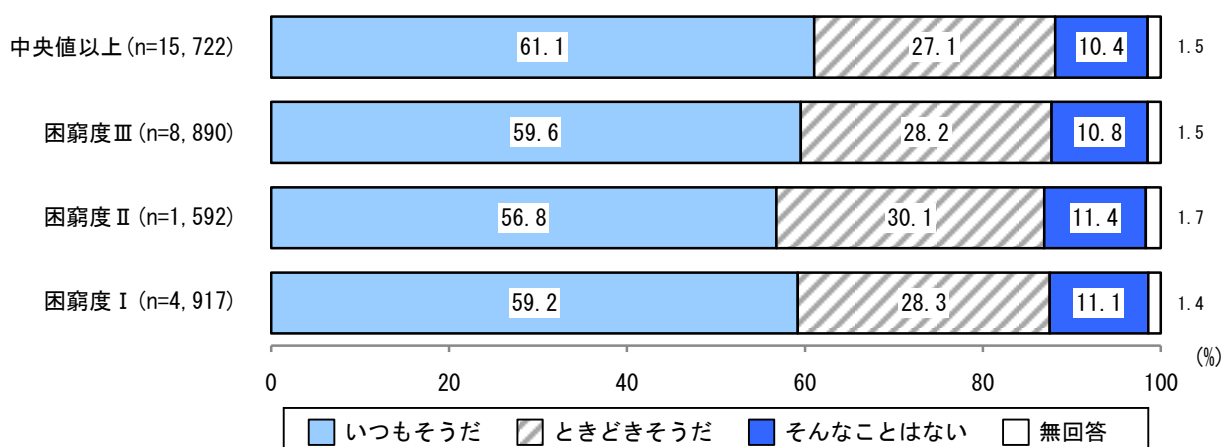


図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、困窮度Ⅱ群のみ、「いつもそうだ」と回答した割合が半数以上を占めている。「そんなことはない」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群（7.2%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ(子ども票問 19②)

<大阪府内全体>



<枚方市>

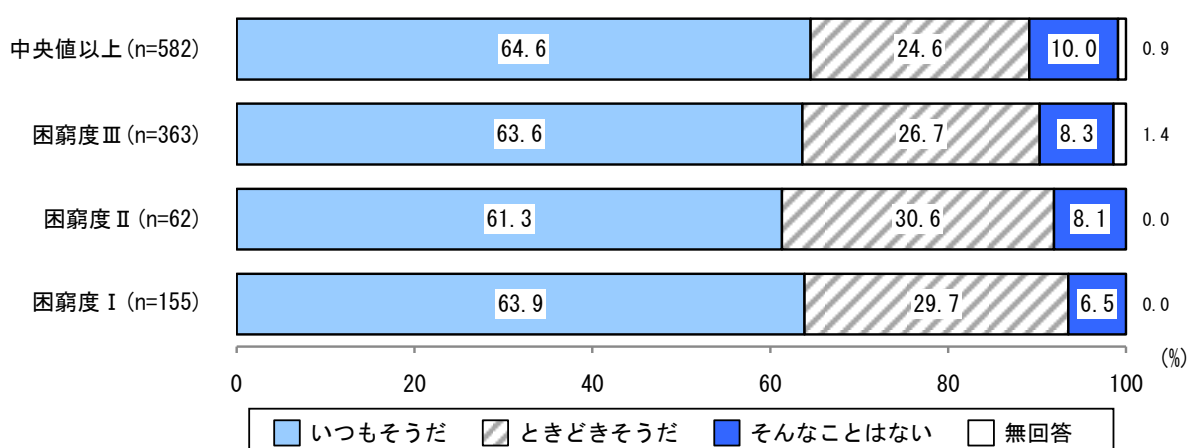
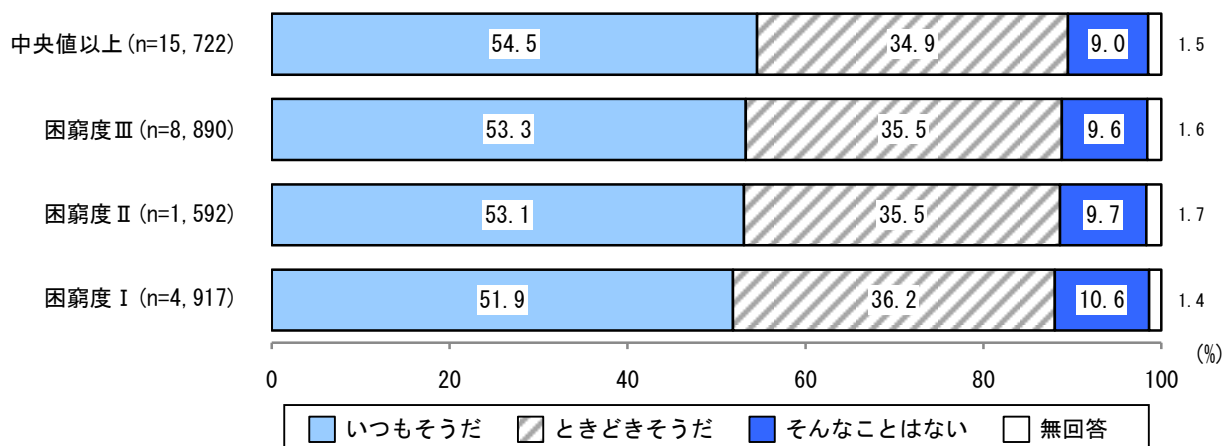


図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅱ群（61.3%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ（子ども票問 19③）

<大阪府内全体>



<枚方市>

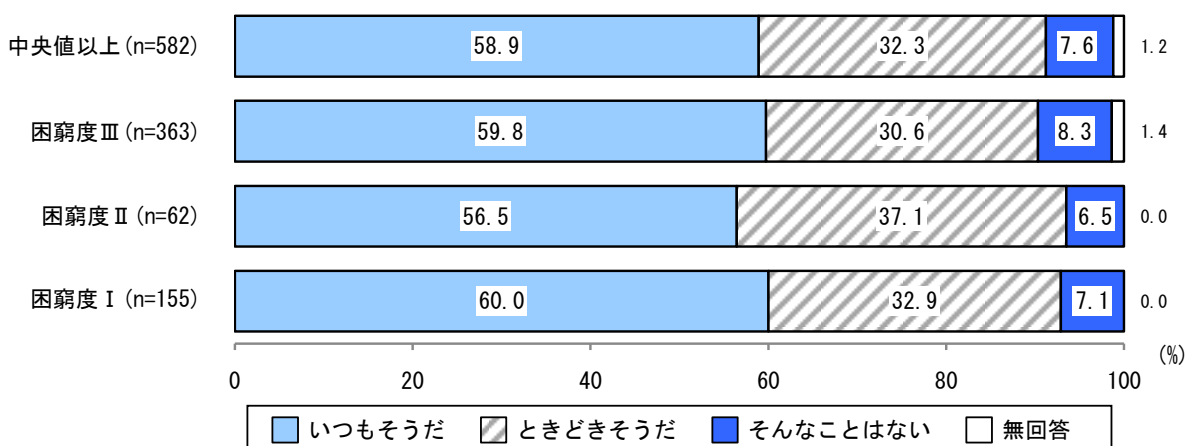
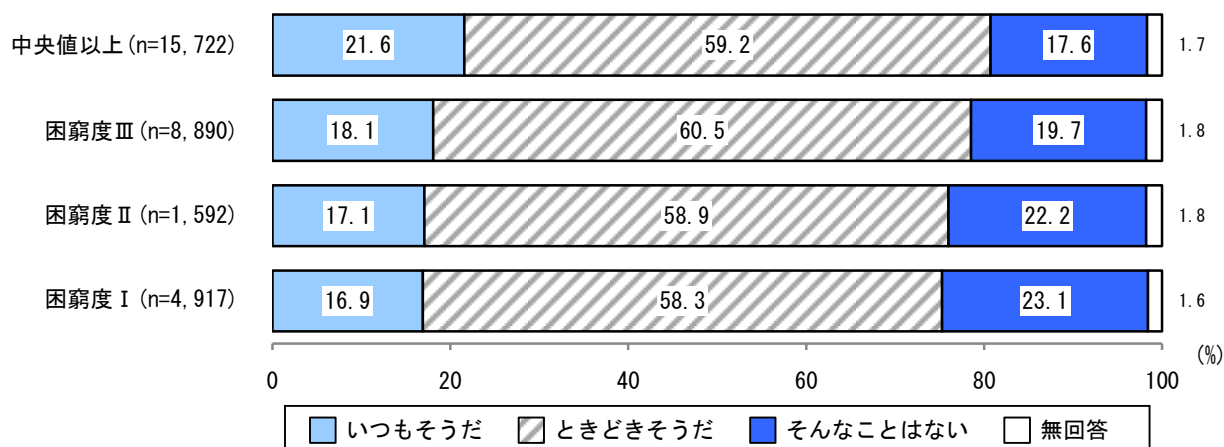


図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅱ群（56.5%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる
(子ども票問 19④)

<大阪府内全体>



<枚方市>

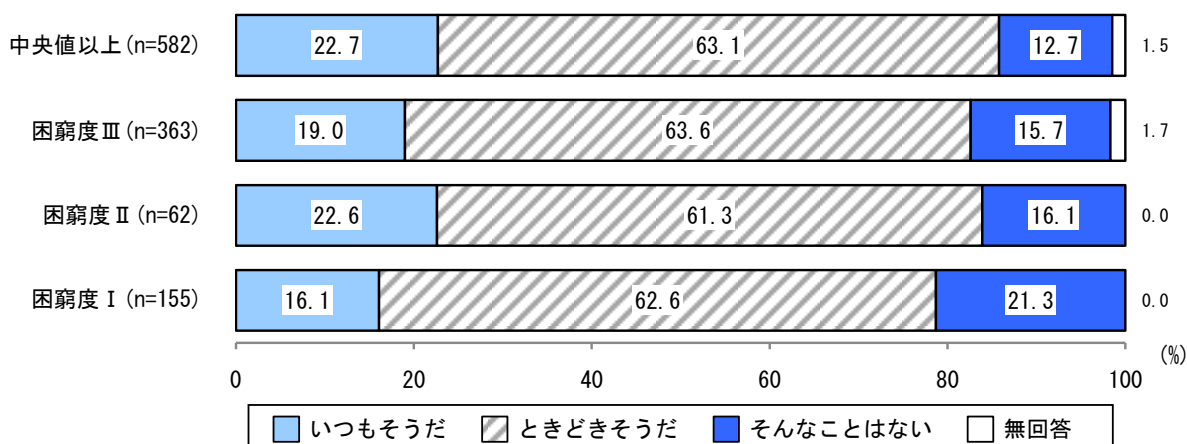
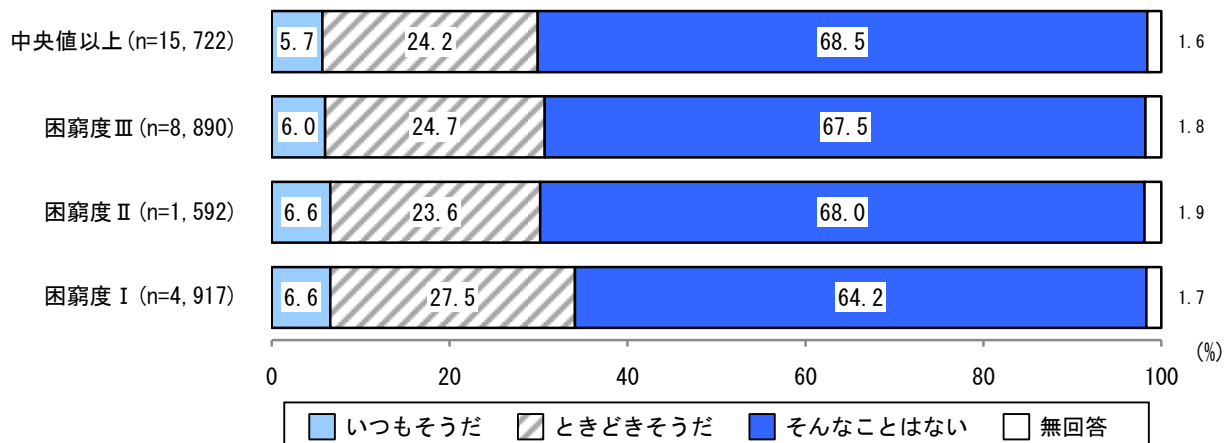


図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅰ群（16.1%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする
(子ども票問 19⑤)

<大阪府内全体>



<枚方市>

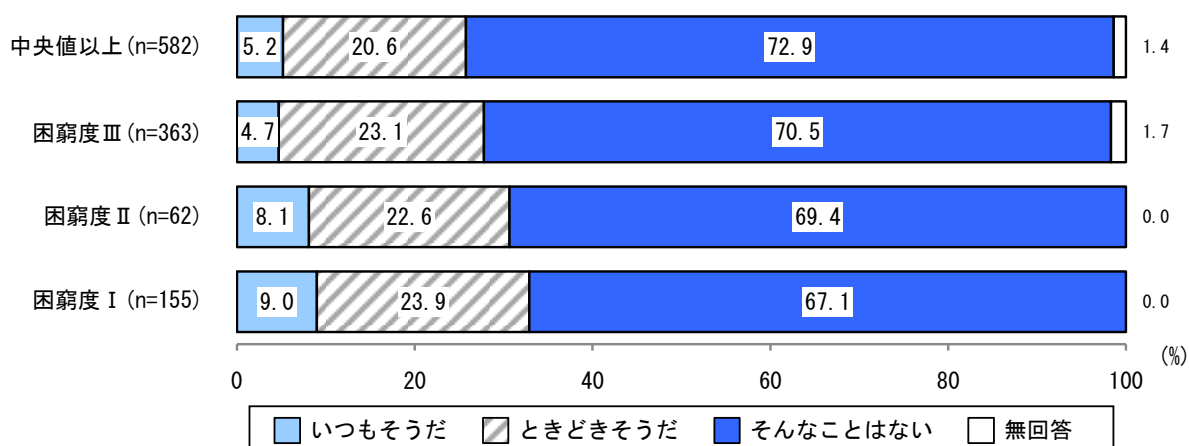
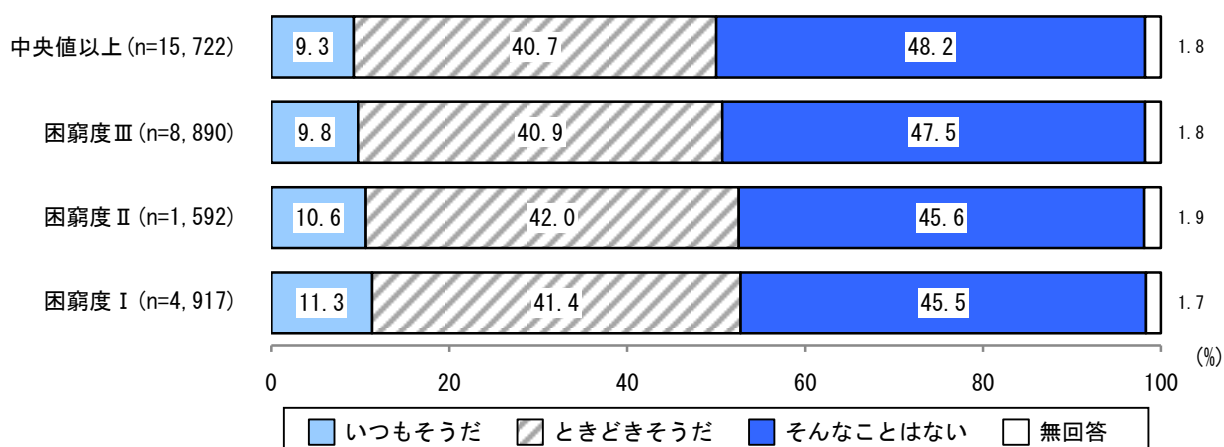


図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅰ群（9.0%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる（子ども票問 19⑥）

<大阪府内全体>



<枚方市>

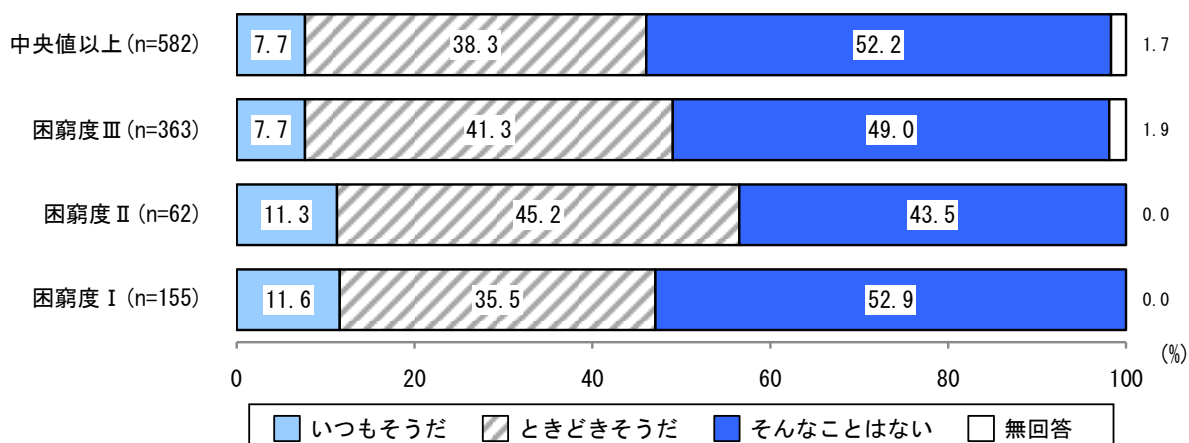
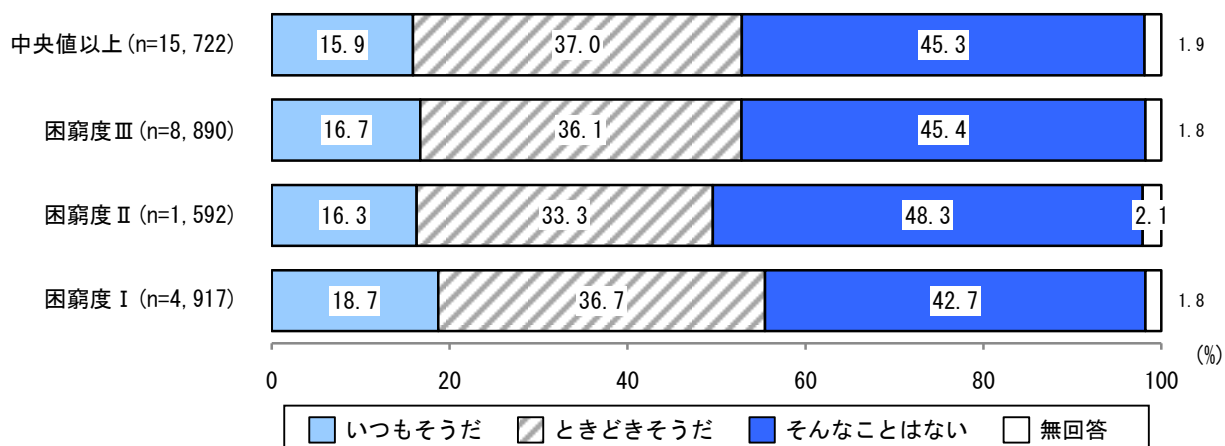


図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅰ群（11.6%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる（子ども票問 19⑦）

<大阪府内全体>



<枚方市>

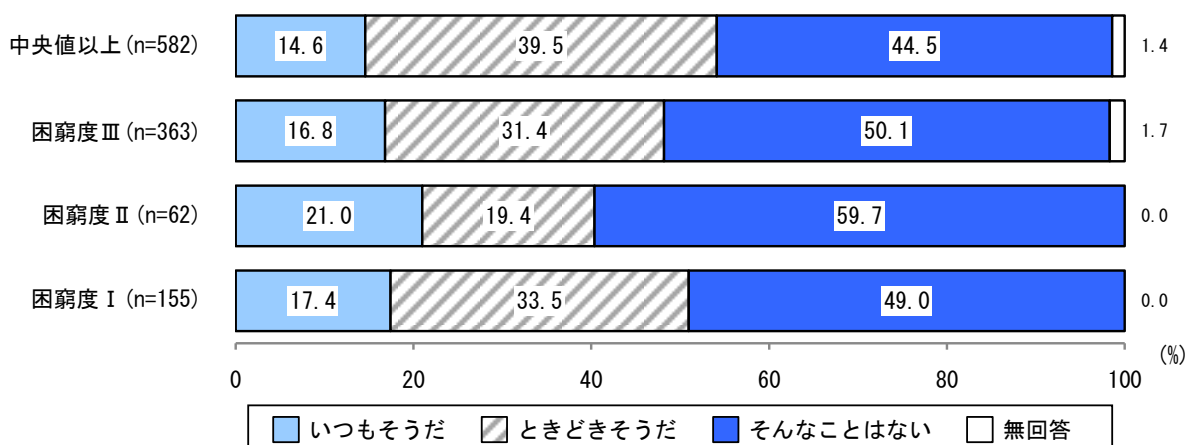
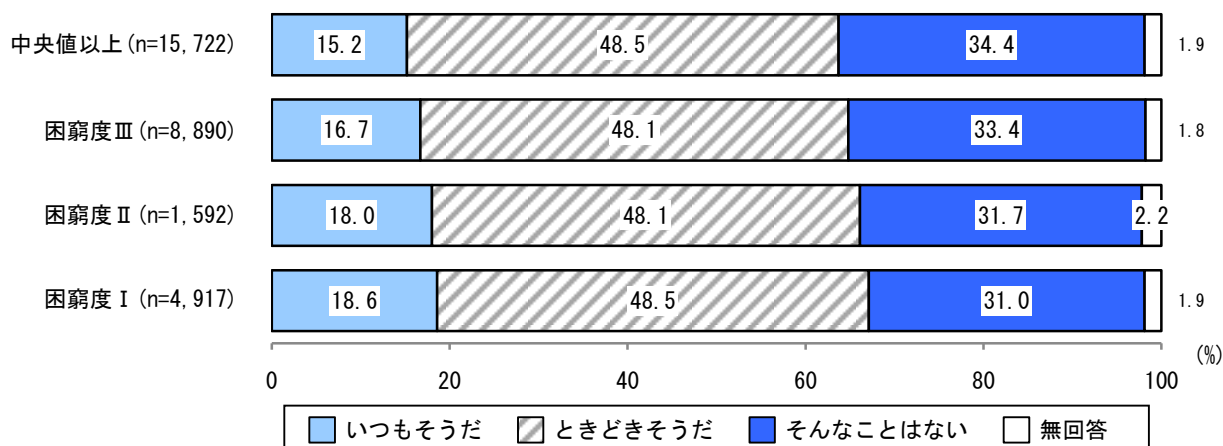


図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅱ群（21.0%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない（子ども票問 19⑧）

<大阪府内全体>



<枚方市>

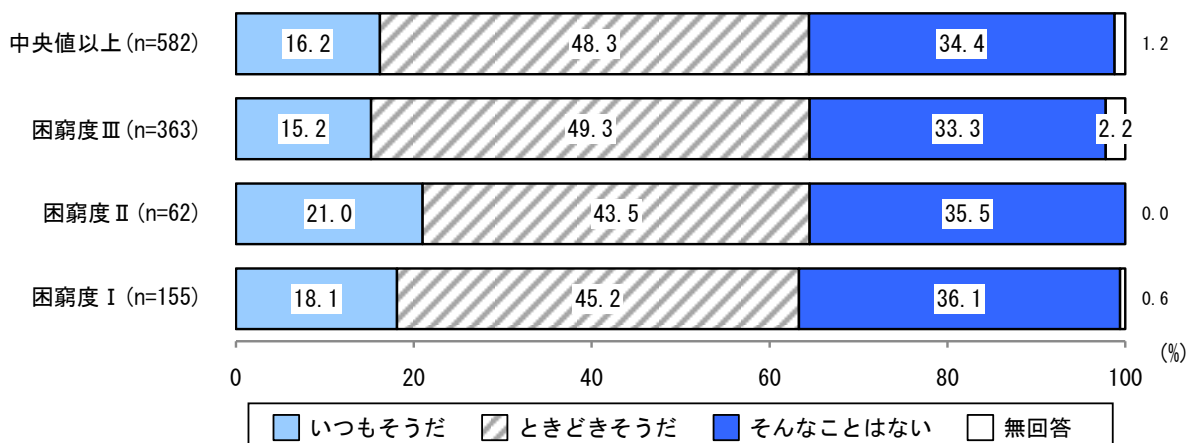
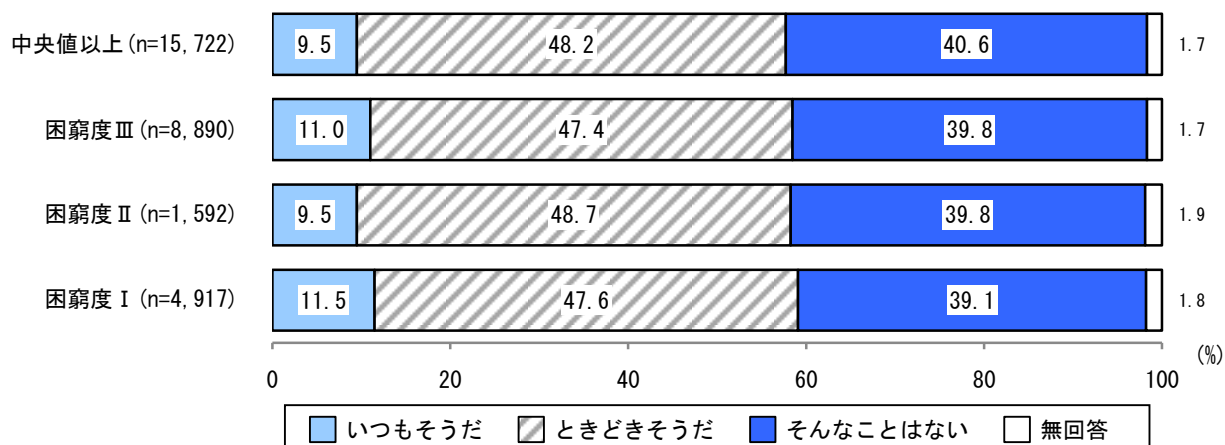


図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅱ群（21.0%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする（子ども票問 19⑨）

<大阪府内全体>



<枚方市>

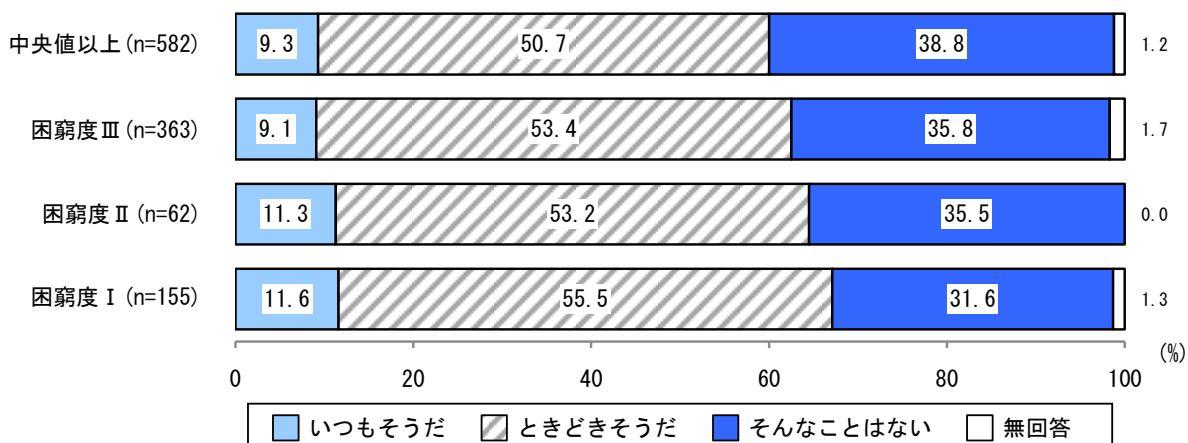
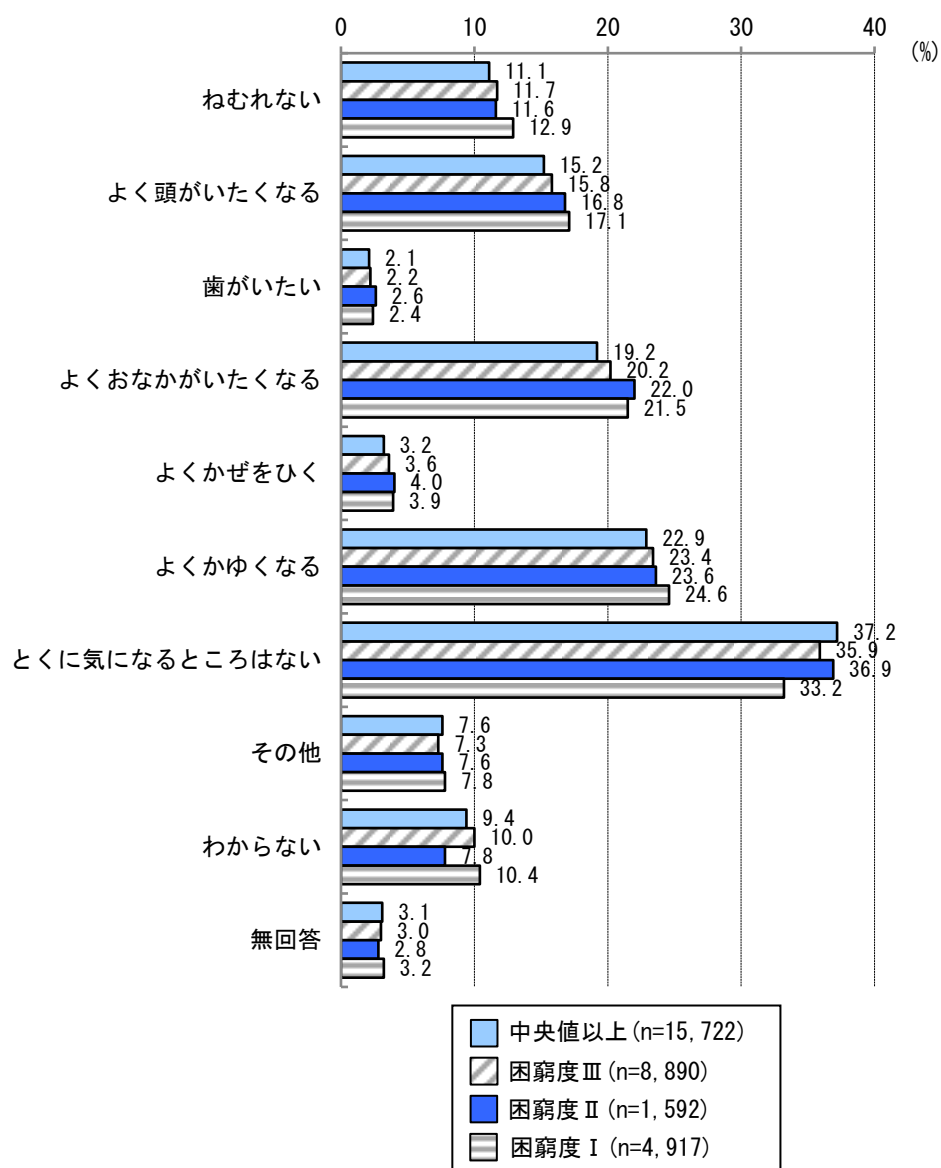


図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、困窮度Ⅰ群（11.6%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること（子ども票問 20）

<大阪府内全体>



<枚方市>

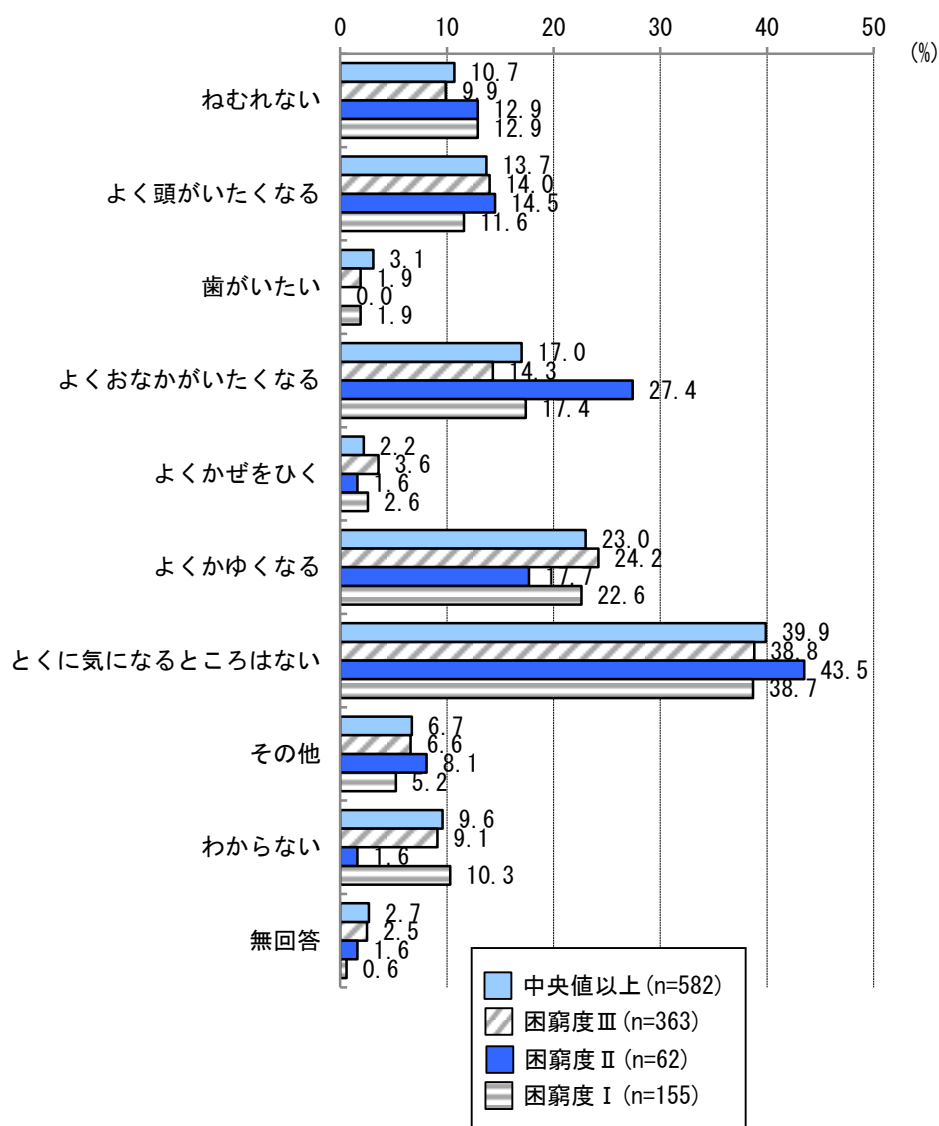
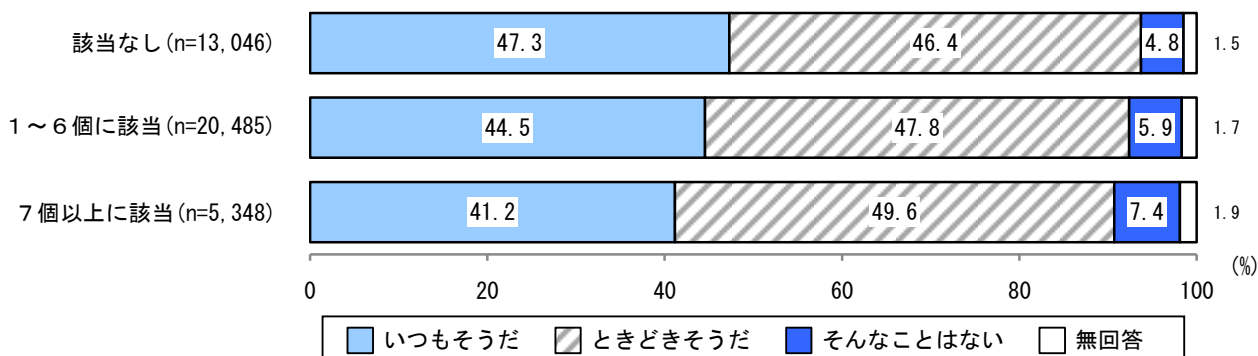


図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること

困窮度別に自分の体の状態で気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ねむれない」12.9%（中央値以上群に対して1.2倍）、「よくかぜをひく」2.6%（同じく1.2倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある（保護者票問7×子ども票問19①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

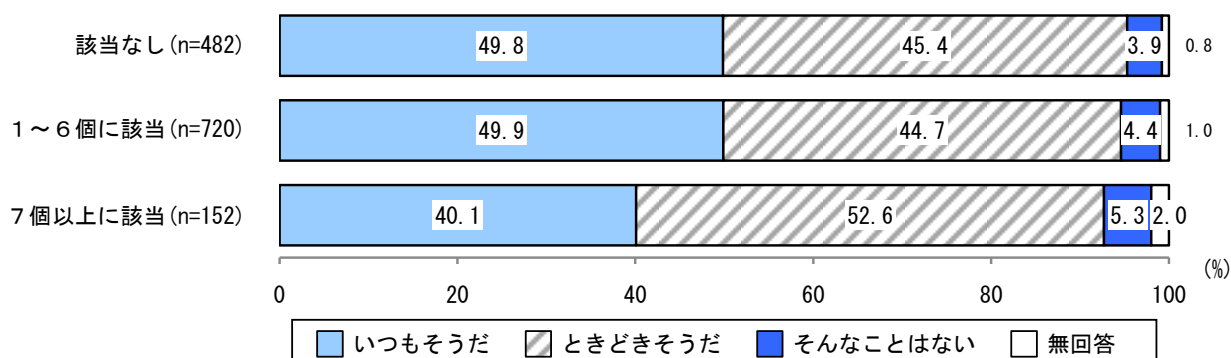
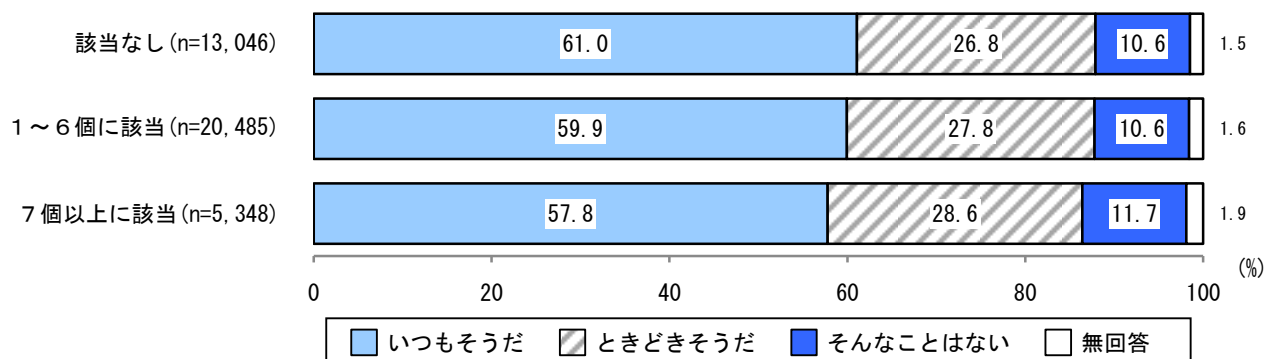


図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
①楽しみにしていることがたくさんある

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「そんなことはない」と回答した割合は、7個以上に該当の人が5.3%で、最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ（保護者票問7×子ども票問19②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

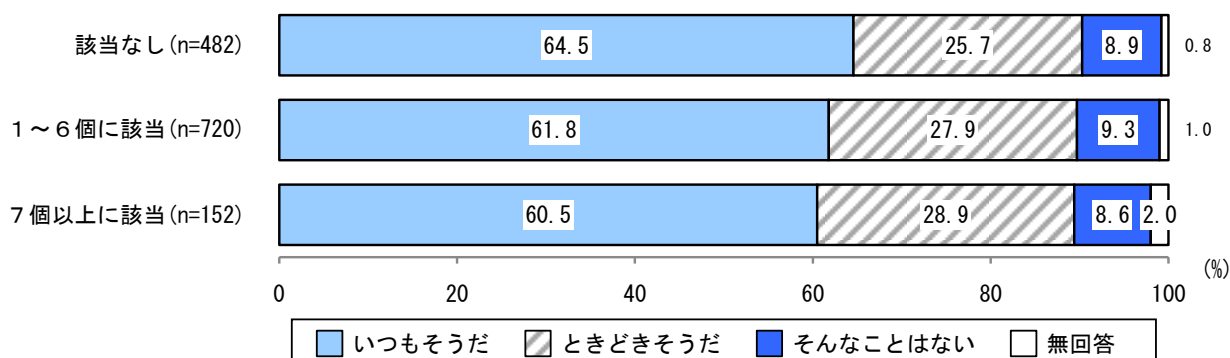
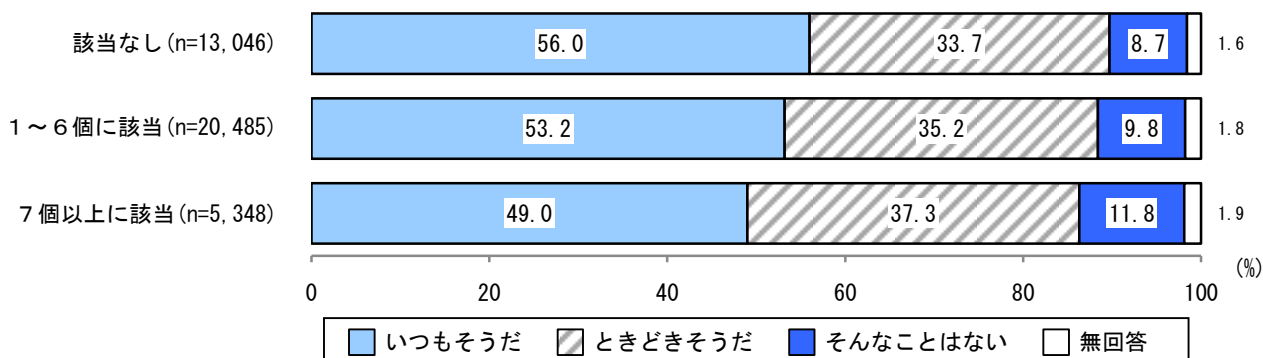


図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
②遊びにでかけるのが好きだ

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は、該当数が多い人ほど割合が低く、7個以上に該当の人（60.5%）で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい
(保護者票問7×子ども票問19③)

<大阪府内全体>



<枚方市>

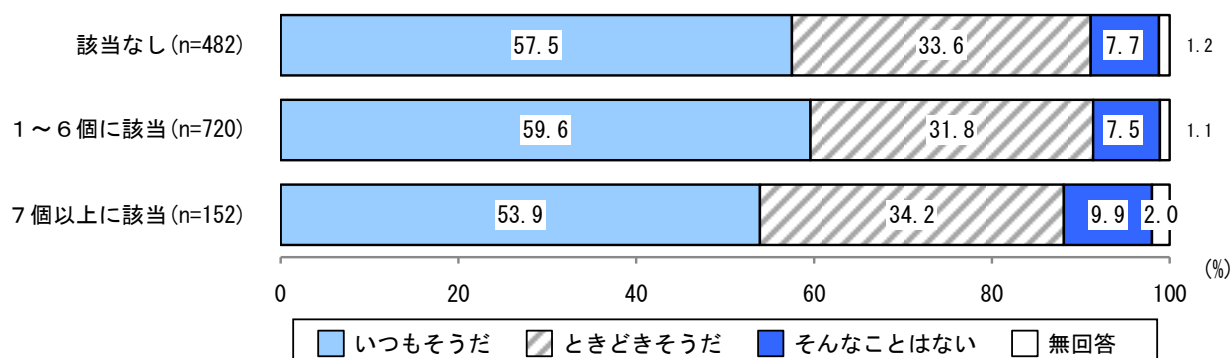
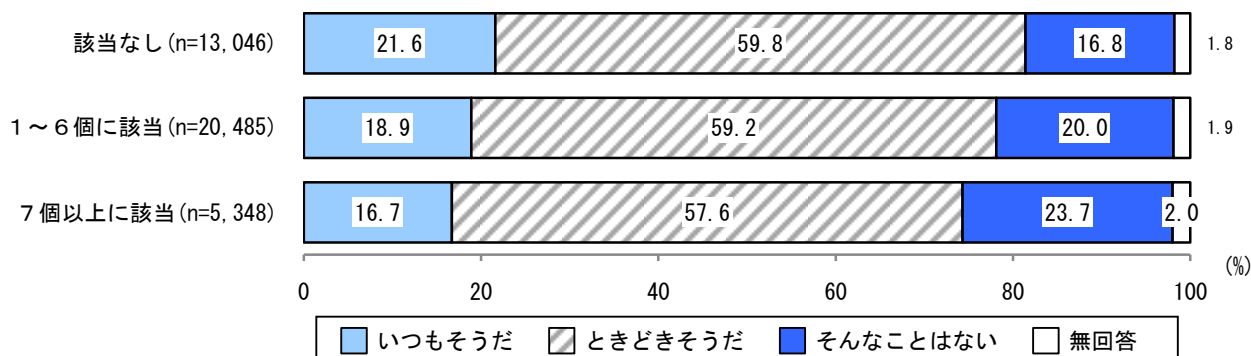


図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は、7個以上に該当の人（53.9%）で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる（保護者票問7×子ども票問19④）

<大阪府内全体>



<枚方市>

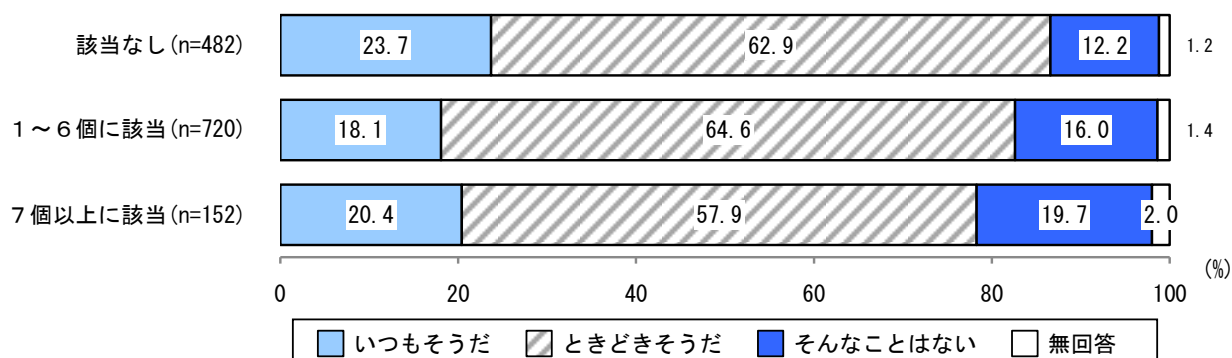
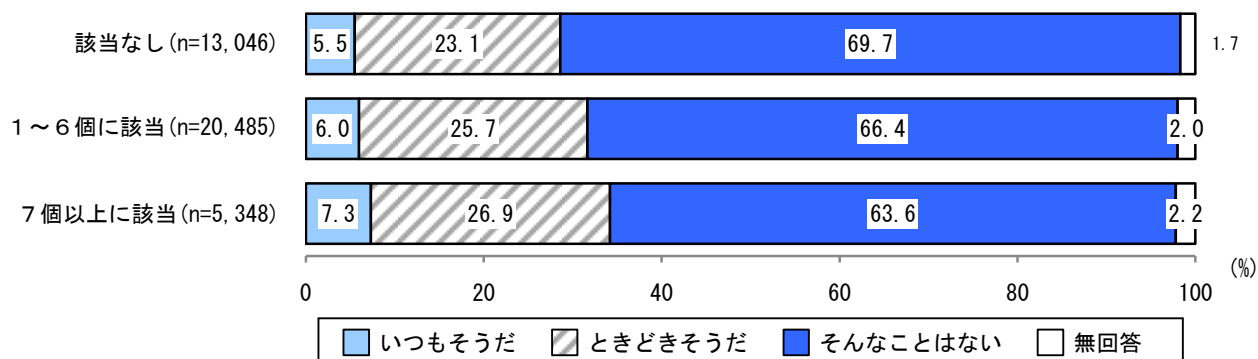


図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
④やろうと思ったことがうまくできる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、1～6個に該当の人（18.1%）で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする（保護者票問7×子ども票問19⑤）

<大阪府内全体>



<枚方市>

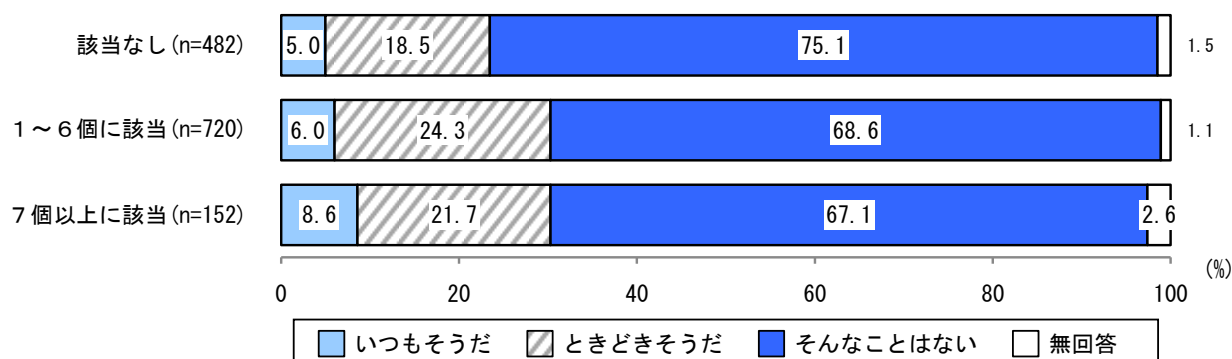


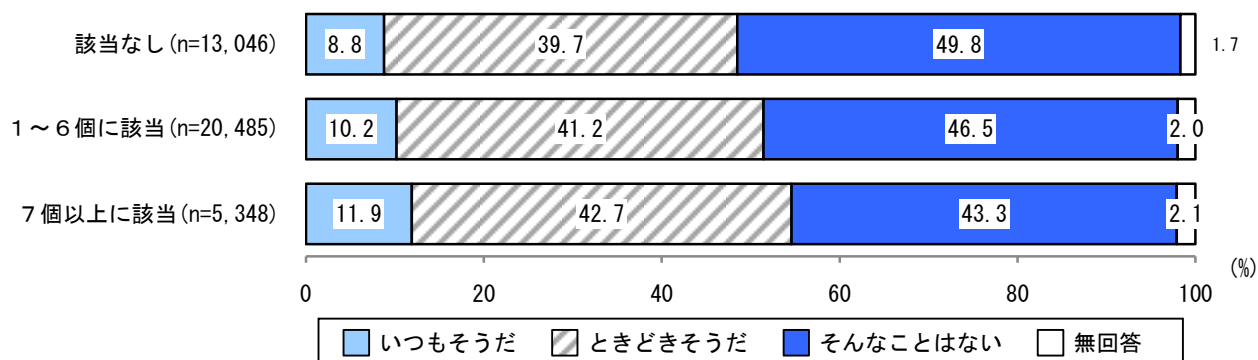
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
⑤一人ぼっちのような気がする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、7個以上に該当の人（8.6%）で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況

⑥不安な気持ちになる（保護者票問7×子ども票問19⑥）

<大阪府内全体>



<枚方市>

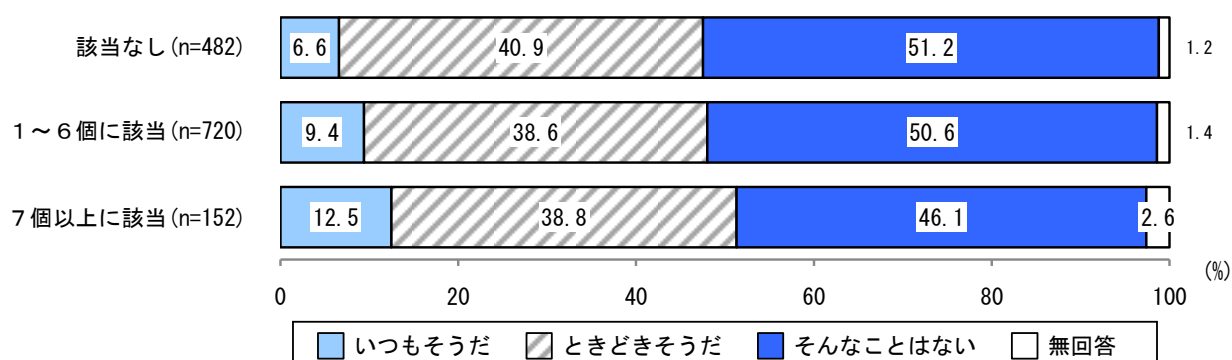
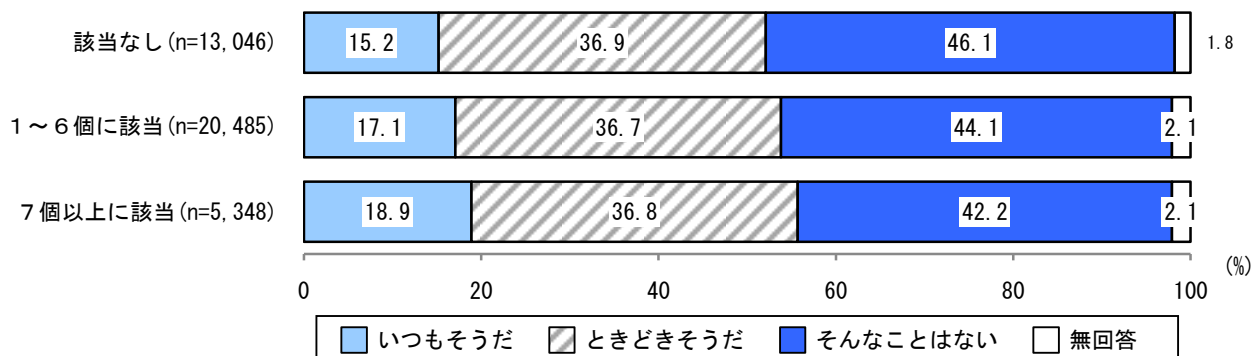


図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、該当数が多い人ほど割合が高く、7個以上に該当の人（12.5%）で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる
(保護者票問7×子ども票問19⑦)

<大阪府内全体>



<枚方市>

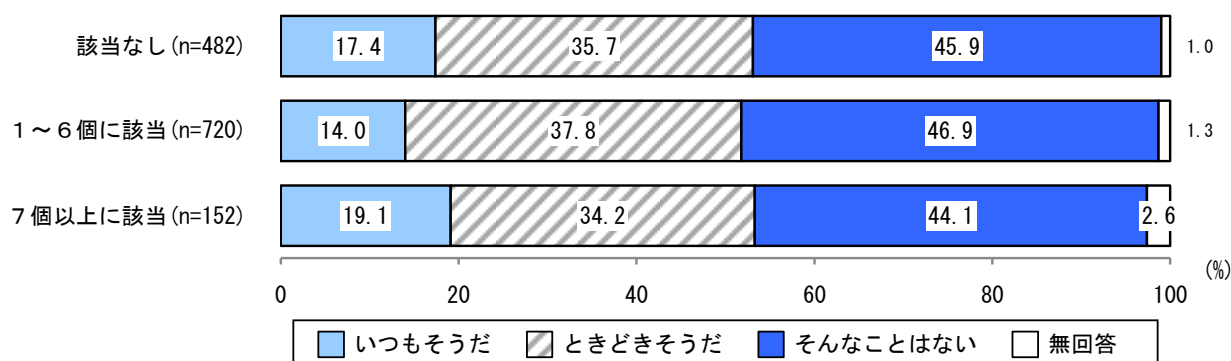
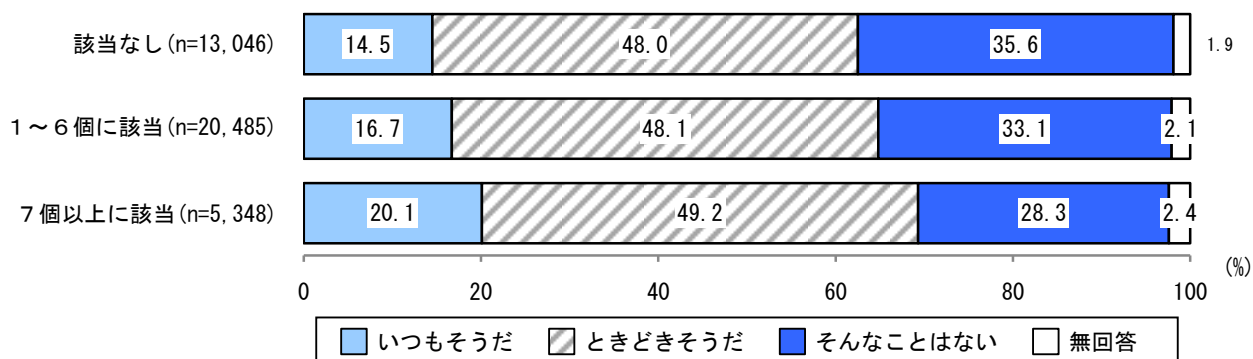


図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、7個以上に該当の人（19.1%）で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない
(保護者票問7×子ども票問19⑧)

<大阪府内全体>



<枚方市>

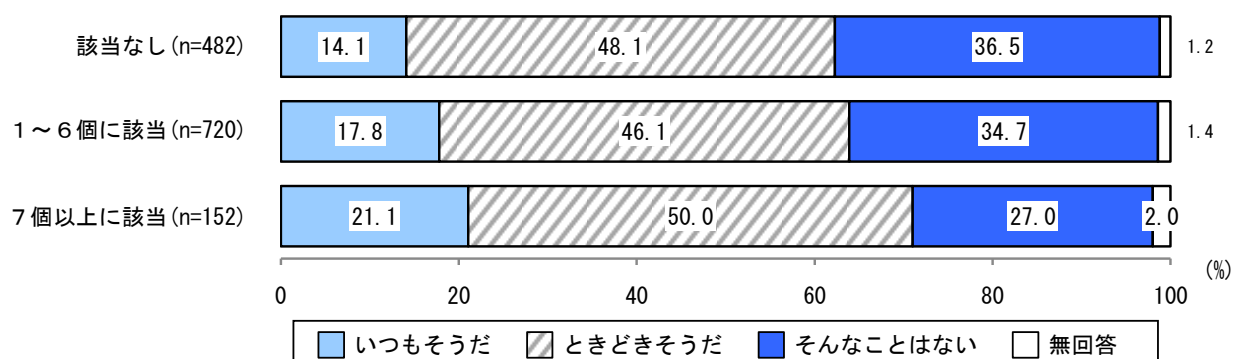
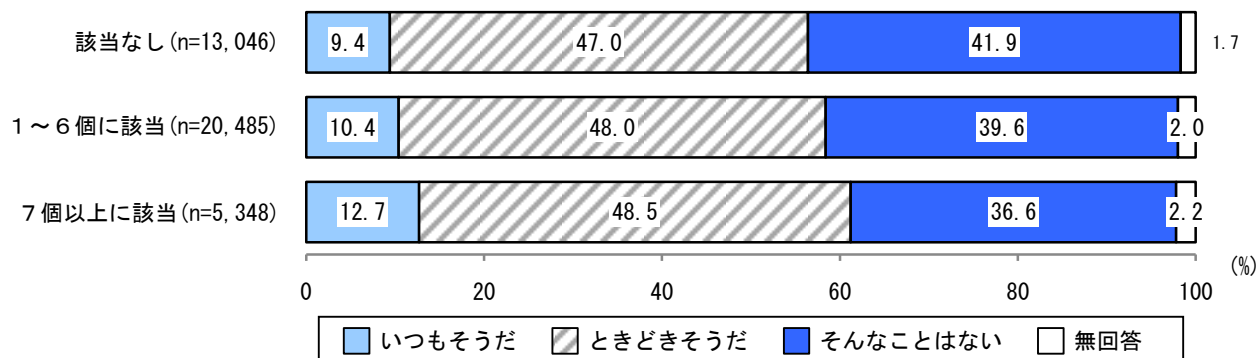


図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、該当数が多い人ほど割合が高く、7個以上に該当の人(21.1%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする
(保護者票問7×子ども票問19⑨)

<大阪府内全体>



<枚方市>

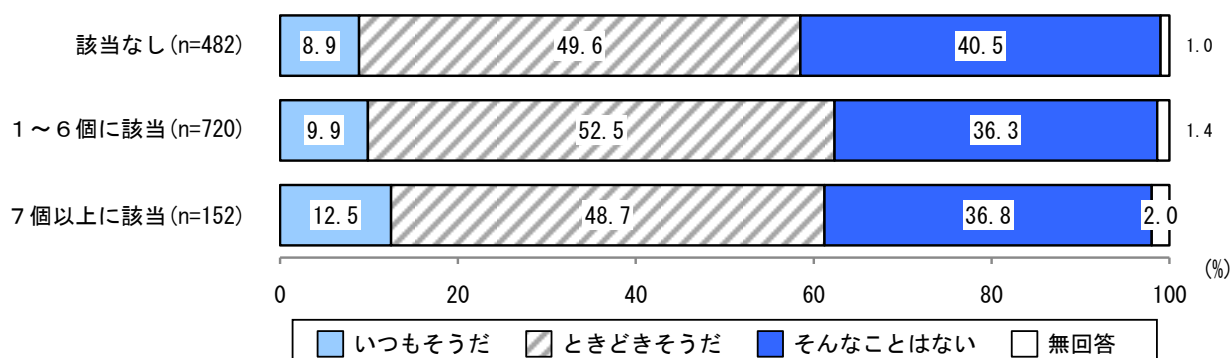
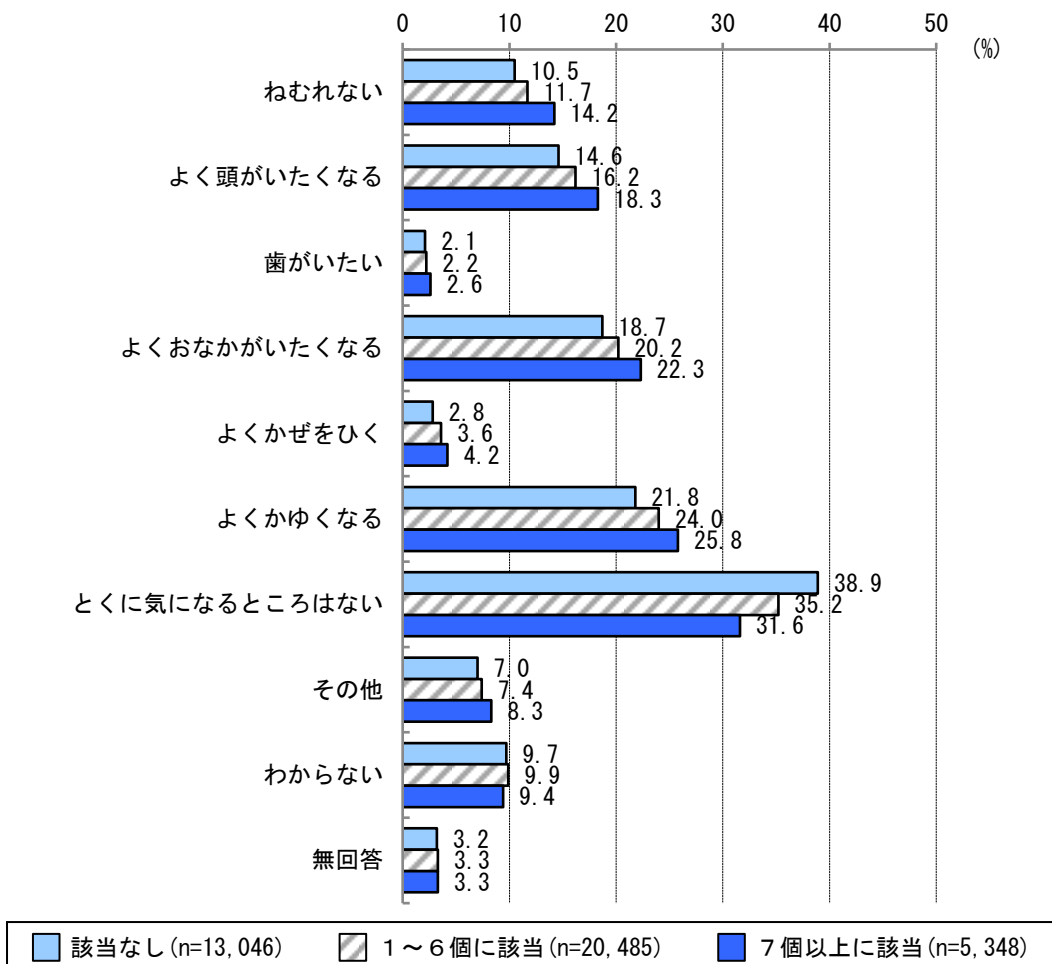


図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でいろいろするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人の割合は、該当数が多い人ほど割合が高く、7個以上に該当の人(12.5%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること
(保護者票問7×子ども票問20)

<大阪府内全体>



<枚方市>

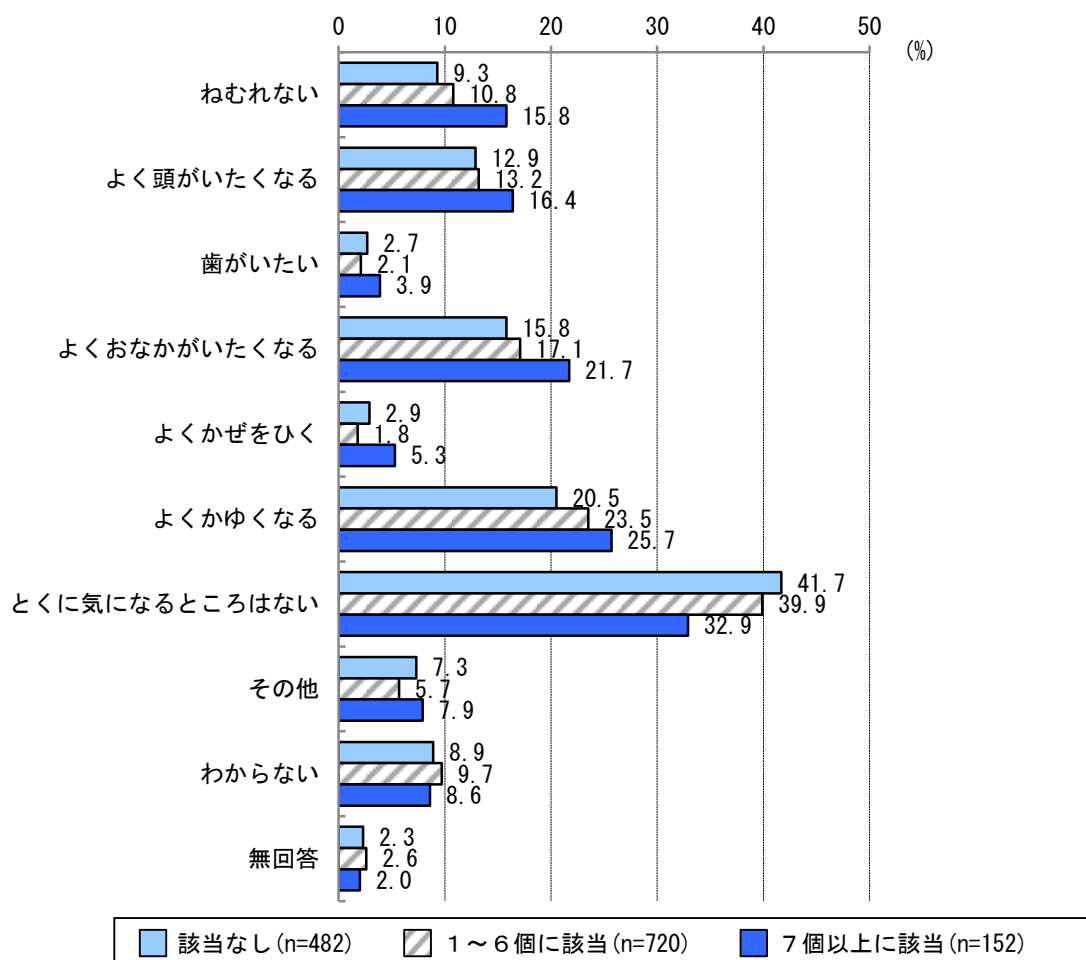
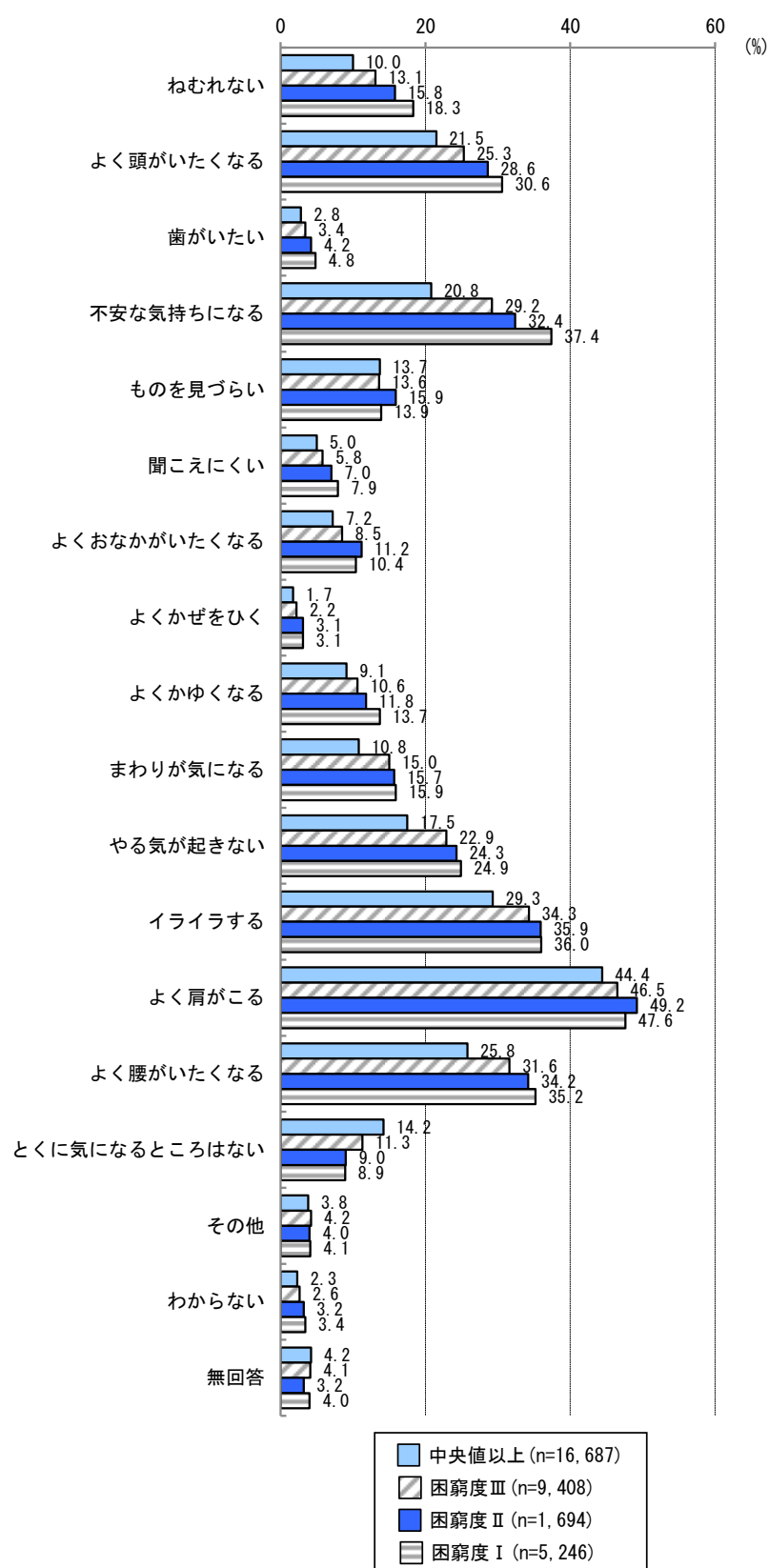


図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体の状態で気になることを見ると、7個以上に該当した人と該当なしと回答した人で差が大きい項目に着目しながら、7個以上に該当群を見ると、「よくかぜをひく」5.3%（「該当なし」群に対して1.8倍）、「ねむれない」15.8%（同じく1.7倍）、「歯がいたい」3.9%（同じく1.4倍）、「よくおなかがいたくなる」21.7%（同じく1.4倍）となっている。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<枚方市>

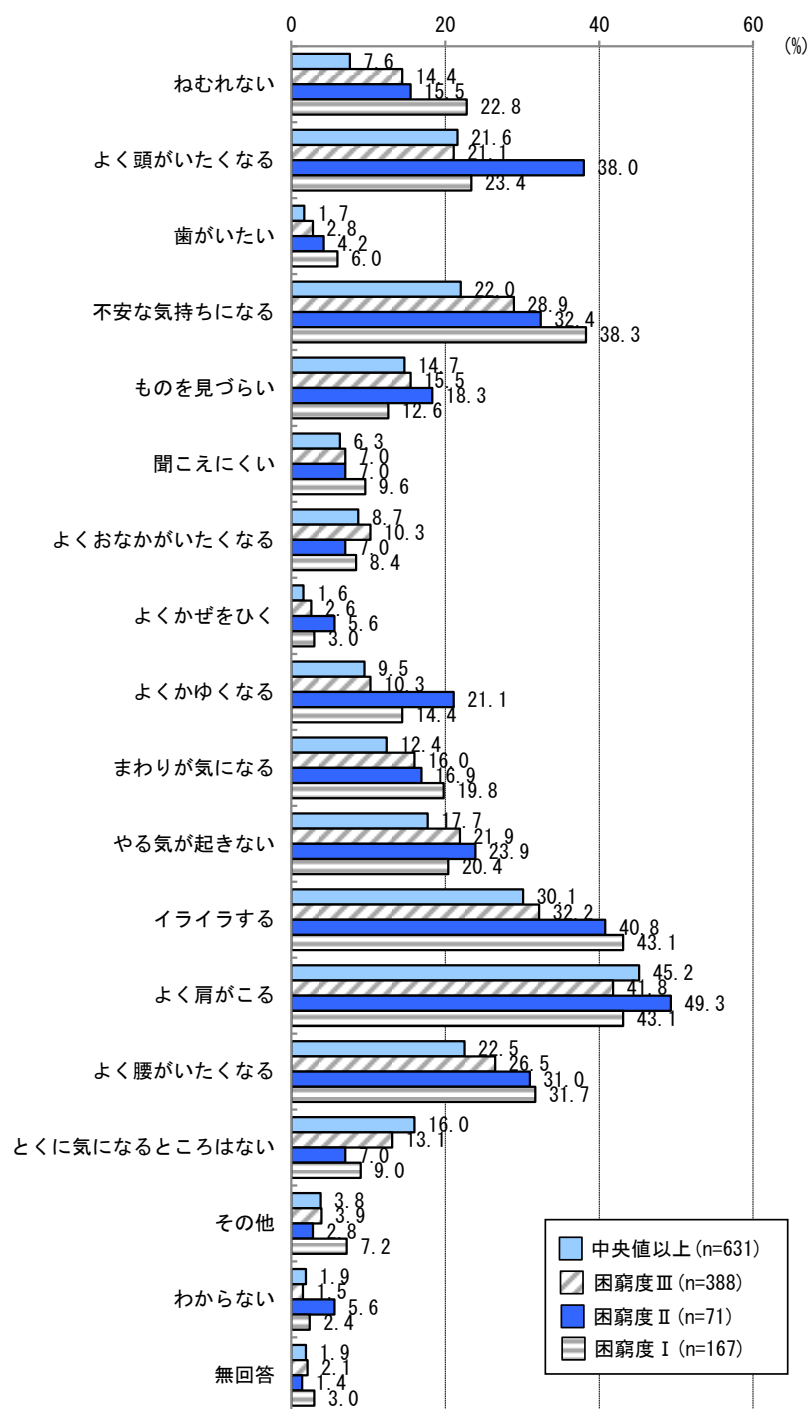
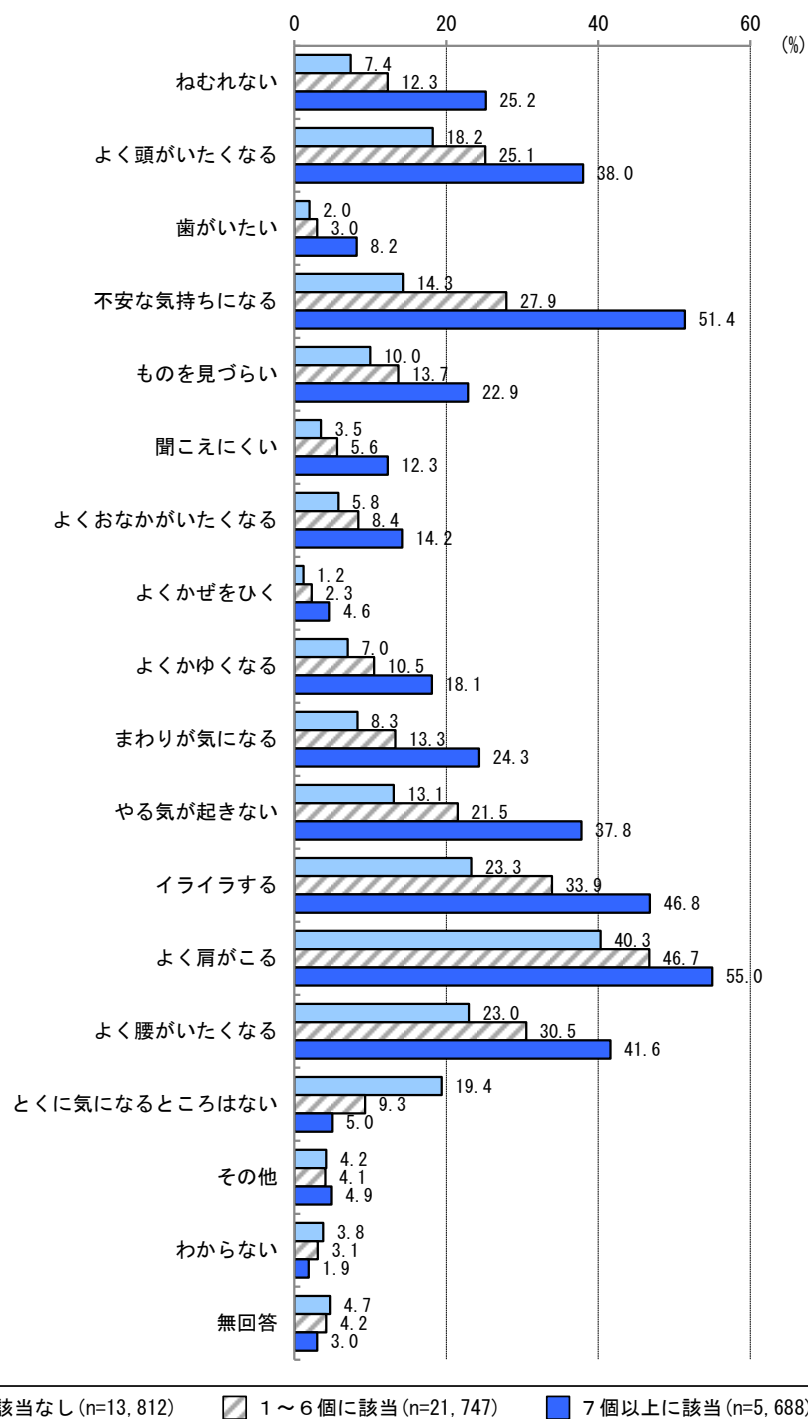


図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「歯がいたい」6.0%（中央値以上群に対し3.5倍）、「ねむれない」22.8%（同じく3.0倍）、「よくかぜをひく」3.0%（同じく1.9倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること
(保護者票問 7 × 保護者票問 22)

<大阪府内全体>



<枚方市>

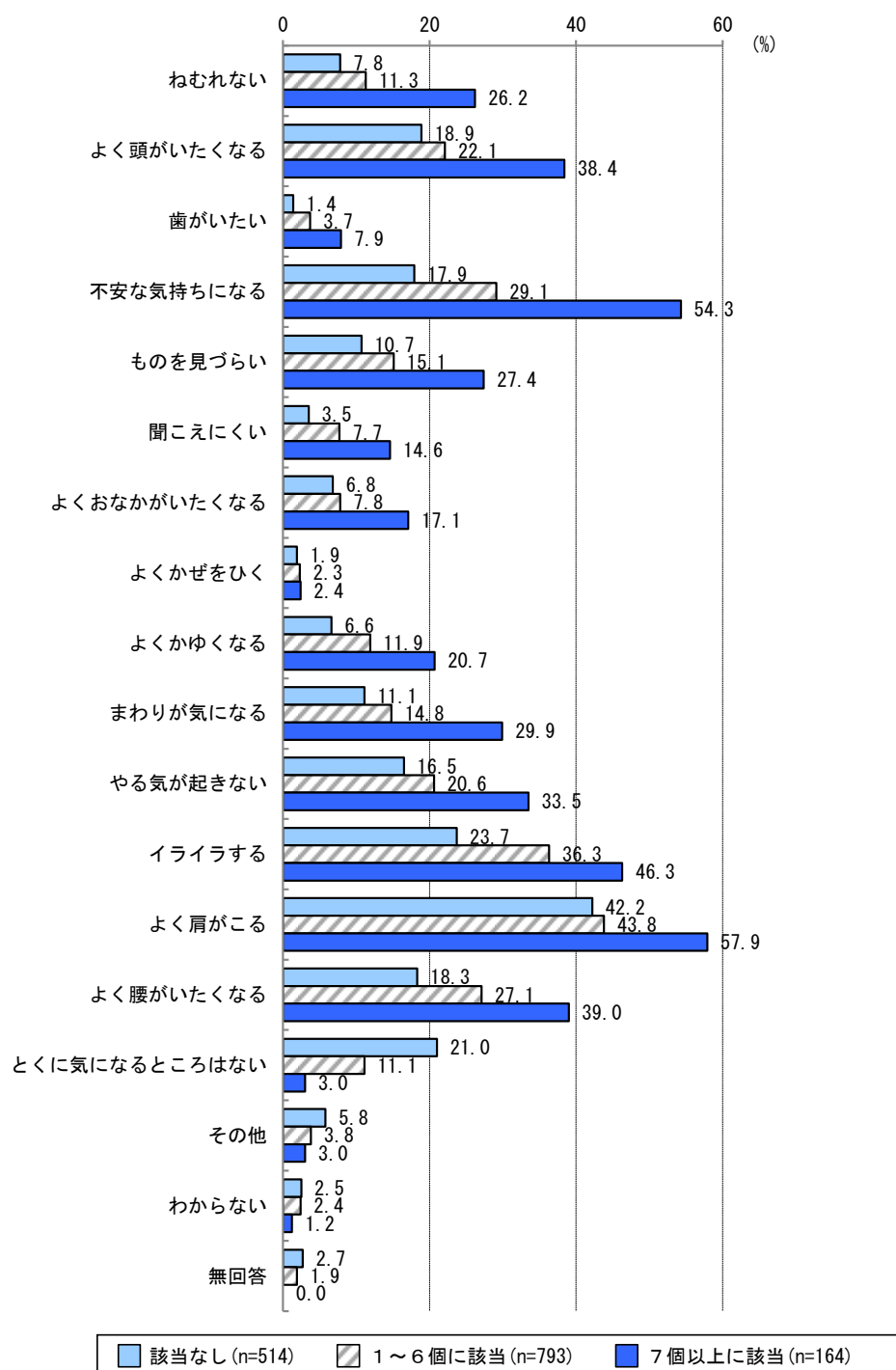
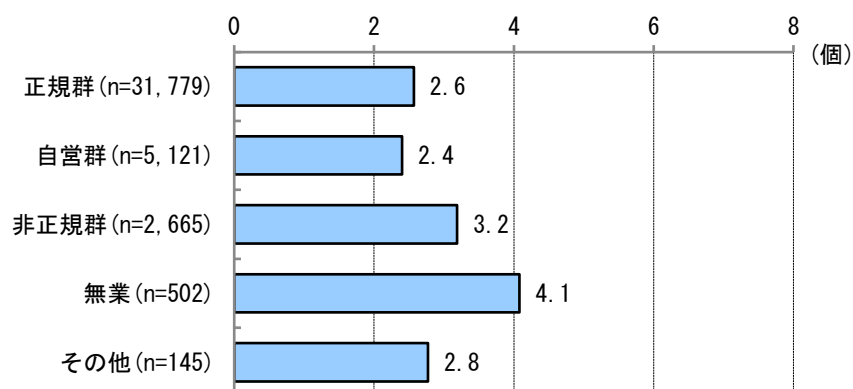


図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になること(保護者)を見ると、7個以上に該当した人と該当なしと回答した人で差が大きい項目に着目しながら、7個以上に該当群を見ると、「歯がいたい」7.9%（「該当なし」に対して5.6倍）、「聞こえにくい」14.6%（同じく4.2倍）、「ねむれない」26.2%（同じく3.4倍）となっている。

就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<枚方市>

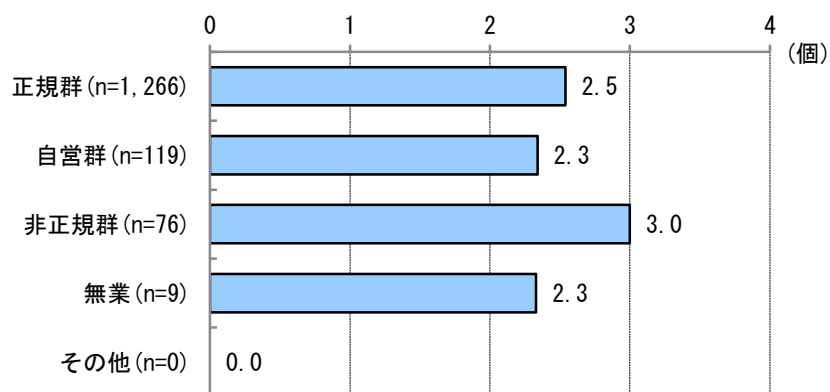


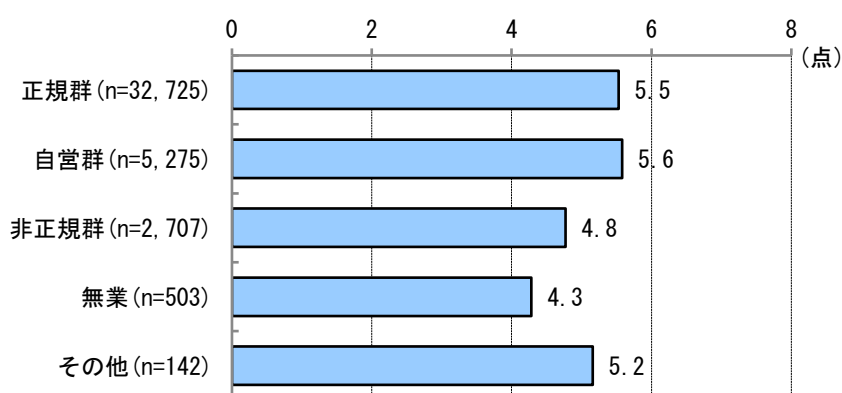
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「非正規群」において、自分の体や気持ちで気になることの該当個数が3.0個と最も多くなっている。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票問18）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいですか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪府内全体>



<枚方市>

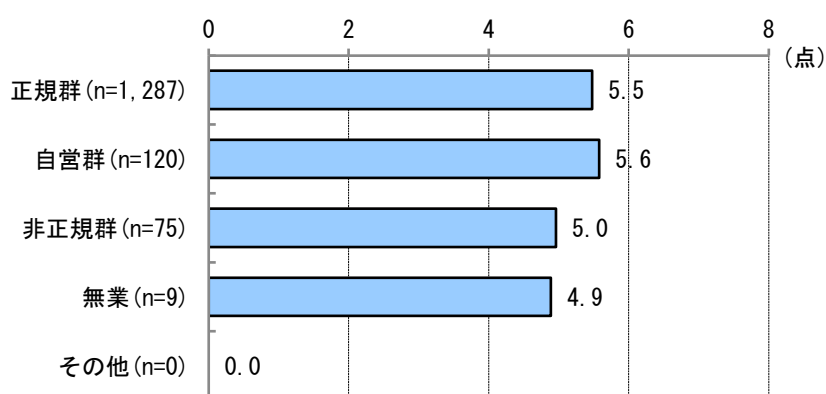
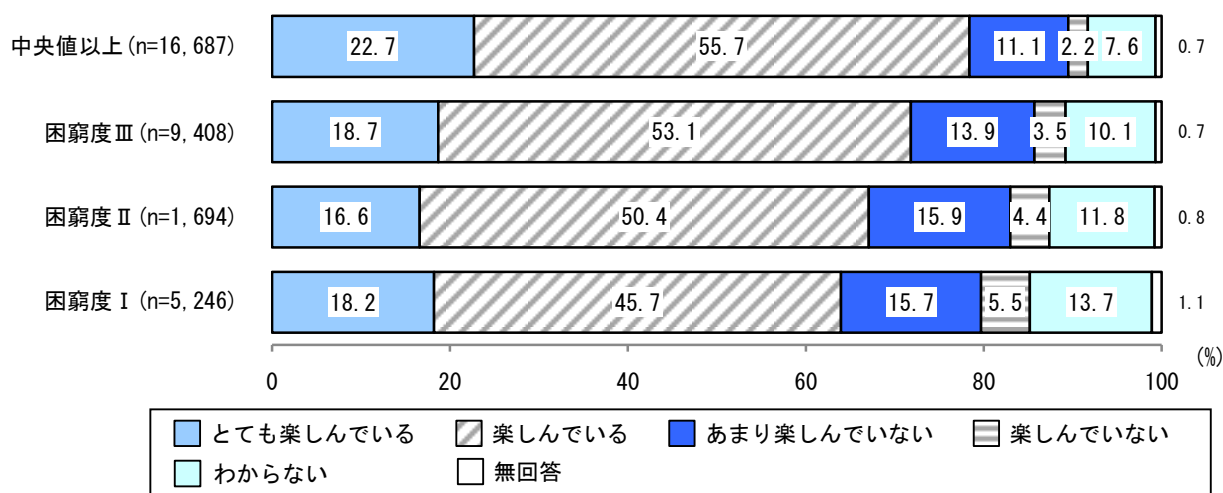


図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」(5.5点)、「自営群」(5.6点)が高く、「非正規群」で5.0点と低下し、「無業」で4.9点と最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票問 21(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

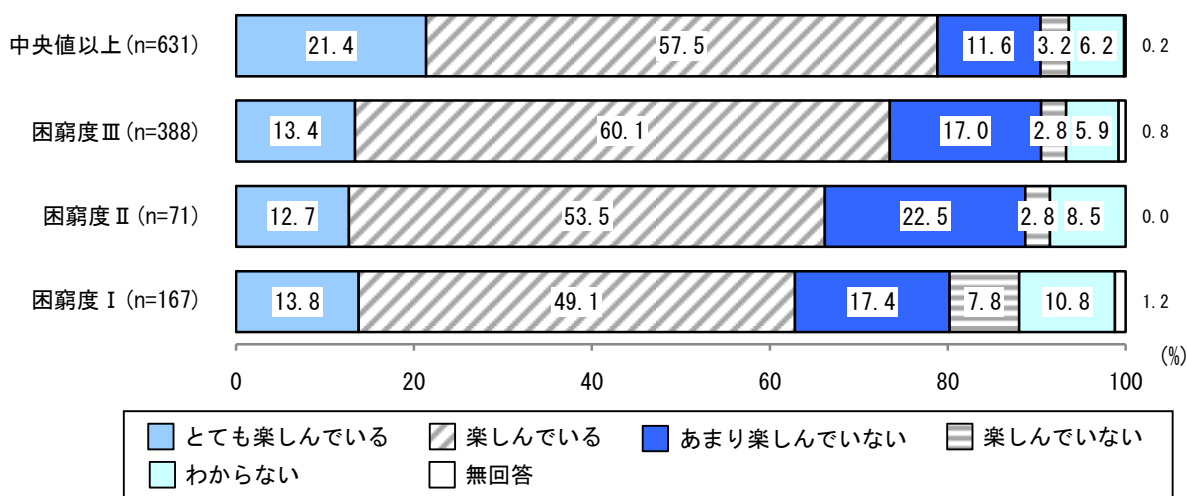
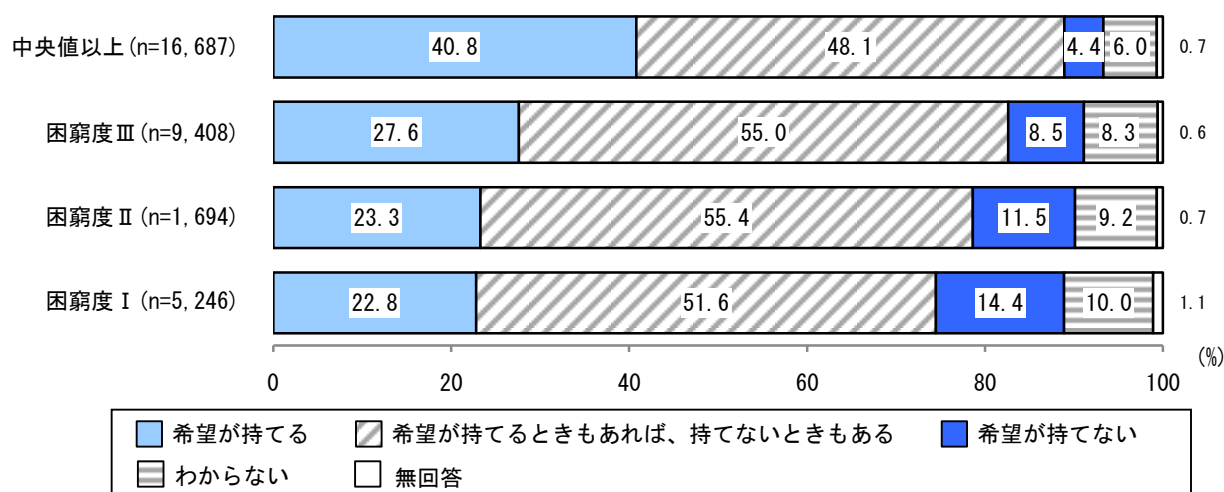


図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、中央値以上群の生活を楽しんでいると回答した割合は、78.9%（「とても楽しんでいる」21.4%、「楽しんでいる」57.5%）で最も高い一方で、困窮度Ⅰ群の生活を楽しんでいると回答した割合は、62.9%（「とても楽しんでいる」13.8%、「楽しんでいる」49.1%）で、最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）（保護者票問 21 (2)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

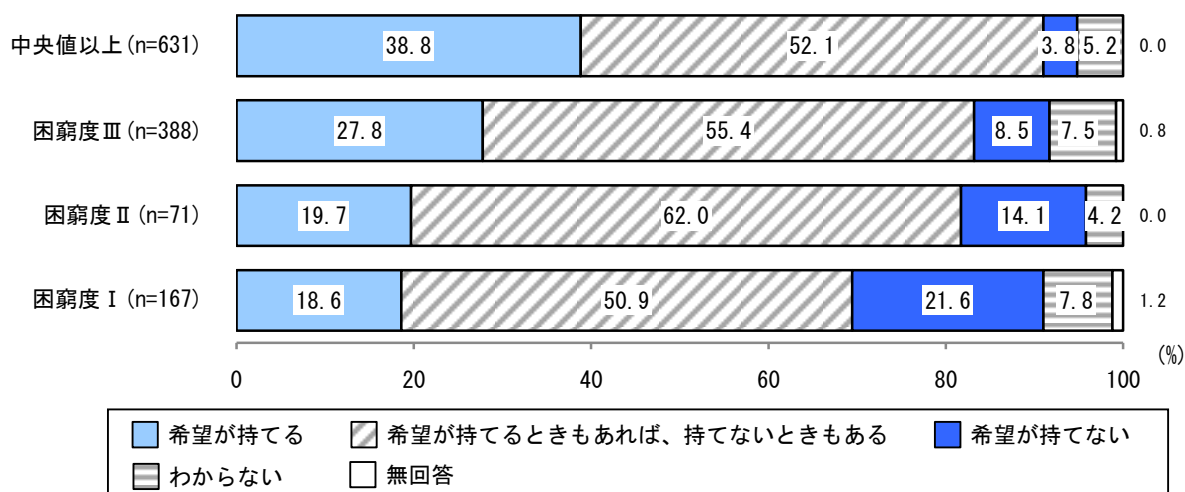
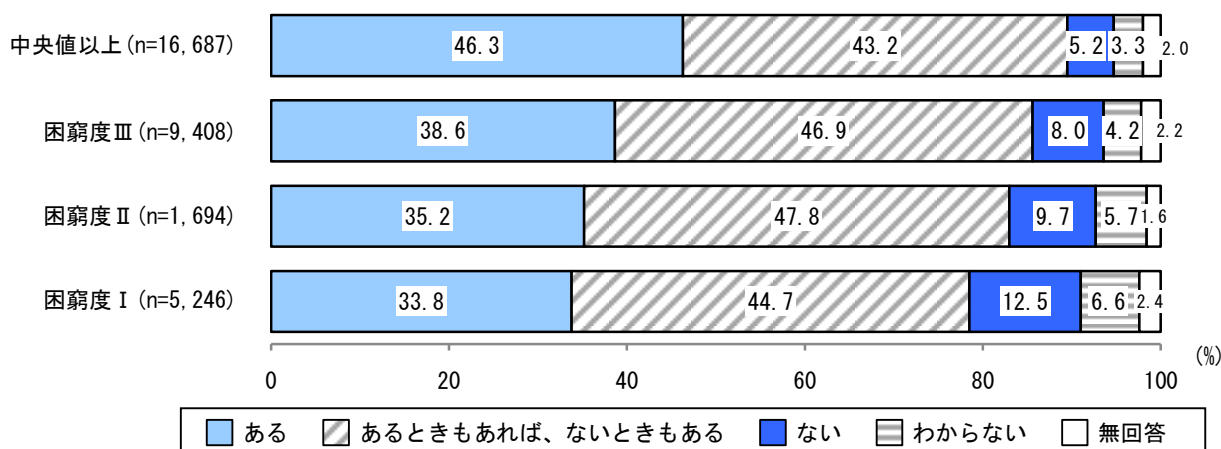


図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）

困窮度別に将来への希望を見ると「希望が持てる」と回答する割合は、中央値以上群が38.8%で最も高く、困窮度Ⅰ群が18.6%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）（保護者票問 21(3)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

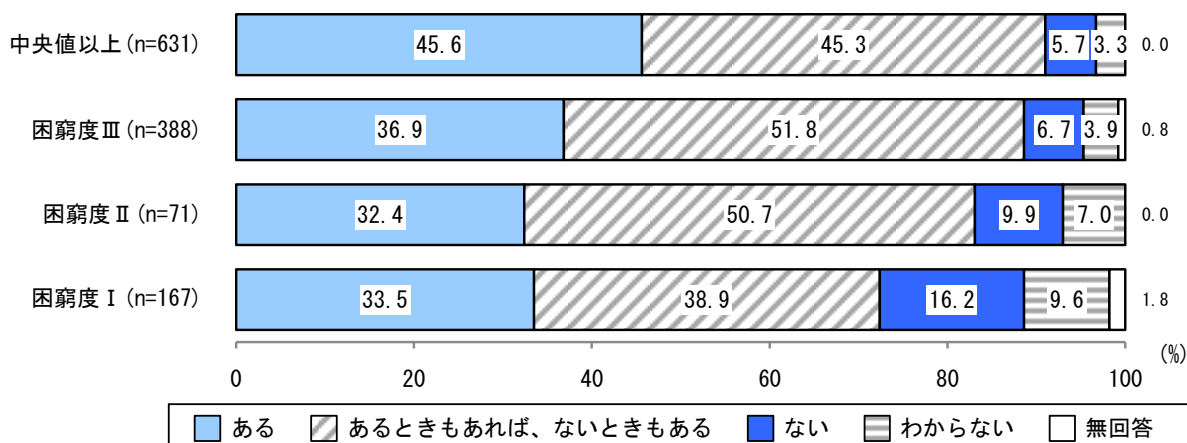
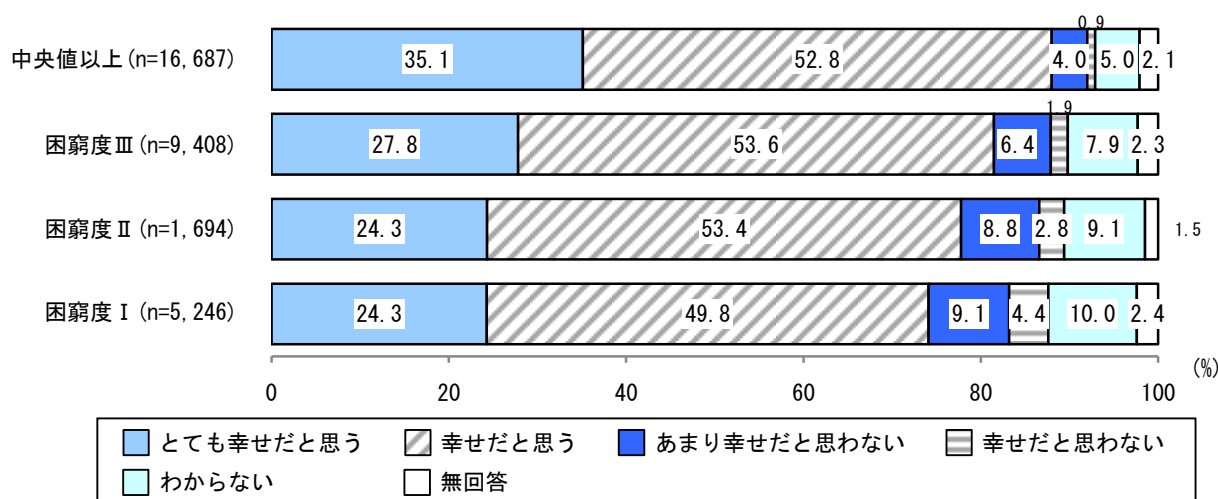


図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が16.2%で最も高く、中央値以上群が5.7%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）（保護者票問 21(4)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

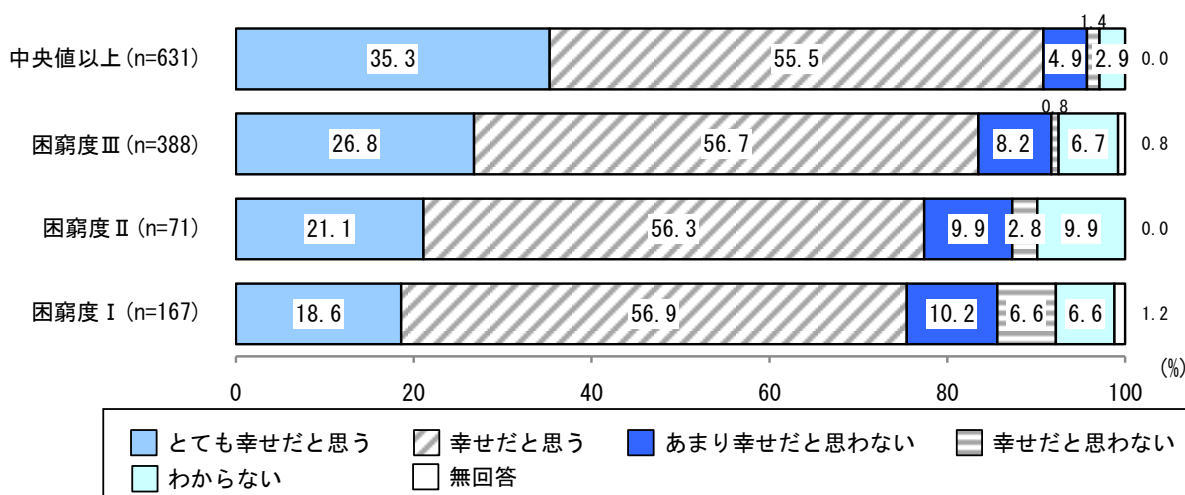


図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、中央値以上群の自分が幸せだと思うと回答した割合は 90.8%（「とても幸せだと思う」35.3%、「幸せだと思う」55.5%）で、最も高い一方で、困窮度Ⅰ群の自分が幸せだと思うと回答した割合は75.5%（「とても幸せだと思う」18.6%、「幸せだと思う」56.9%）で、最も低くなっている。

<健康に関する考察>

まず、困窮度別に生活習慣と健康状態について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。朝食の頻度では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「毎日またはほとんど毎日」(92.1%対83.2%)が約10ポイント高くなっている。子どもの自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、大きく異なる項目はないが、保護者の自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「よくかゆくなる」(14.4%対9.5%)、「まわりが気になる」(19.8%対12.4%)、「よく腰がいたくなる」(31.7%対22.5%)がいずれも5ポイント以上、「ねむれない」(22.8%対7.6%)、「不安な気持ちになる」(38.3%対22.0%)、「イライラする」(43.1%対30.1%)では10ポイント以上高くなっている。また、子どもの心の状態を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「やろうとおもったことがうまくできる」で「そんなことはない」(21.3%対12.7%)が5ポイント以上高くなっている。また、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「一人ぼっちのような気がする」で「そんなことはない」(72.9%対67.1%)が5ポイント以上高くなっている。次に、保護者の心の状態を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、生活を「とても楽しんでいる」(21.4%対13.8%)が5ポイント以上、将来に対して「希望が持てる」(38.8%対18.6%)が20ポイント以上高くなっており、ストレスを発散できるものが「ある」(45.6%対33.5%)が10ポイント以上高くなっているほか、自分が「とても幸せだと思う」(35.3%対18.6%)が15ポイント以上高くなっている。

次に、経済的な理由による保護者の経験の該当数を見ると、個数が増えるにしたがって、子どもは「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」で「いつもそうだ」の割合が高くなる傾向にある。自覚症状では、個数が増えるにしたがって子どもは「眠れない」「よく頭がいたくなる」「よくおなかがいたくなる」「よくかゆくなる」の割合が高くなる傾向にあり、保護者では「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「歯がいたい」「不安な気持ちになる」「ものを見づらい」「聞こえにくい」「よくおなかがいたくなる」「よくかぜをひく」「よくかゆくなる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」「よく肩がこる」「よく腰がいたくなる」の割合が高くなる傾向にある。これらの結果から、経済的に困難な世帯では、保護者では不安やイライラなどのメンタルヘルスに影響が出ている可能性があり、同時に肩こりや腰痛が多く、肉体労働に従事している可能性や、心身の休養が不十分である可能性がうかがえる。また、経済的に困難な世帯では、保護者・子どもいずれも不眠を感じており、将来不安による健康影響が懸念される。一方で経済的に困難のない世帯の保護者は、ストレス発散ができていたり、幸福感を感じていたりするなど、望ましい状態で過ごすことができている。

続いて、保護者の就業状況別の生活習慣や健康状態を述べる。親の就業状況別の朝食の頻度では、「正規群」「自営群」の2群において、「毎日またはほとんど毎日」朝食を摂っている割合が高く(90.7%、92.4%)、「非正規群」「無業」では(80.6%、88.9%)となっている。また、「支えてくれる人得点」の満点(7点)の割合は「正規群」「非正規群」「自営群」「無業」の順に(42.5%、42.5%、34.6%、22.2%)となっている。この結果から、親が正規および自営の世帯では、朝の時間に余裕があることがうかがえる。また親が「非正規」「無業」の世帯ではソーシャルサポートの不足が示唆される。

食事習慣別の親子関係や健康状態に着目する。朝食の頻度別に見ると、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、子どもとの関係について「とても信頼している」(50.7%対32.0%)、子どもの将来に「とても期待している」(22.1%対4.0%)がそれぞれ15ポイント以上高くなっている。また、「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べている群に比べ、休日に子どもと関わる時間が「2時間未満」(36.8%対18.2%)が10ポイント以上高くなっている。「毎日またはほとんど毎日」食べている群に比べ子どもの自己効力感では、朝食を

「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、1点以上高くなっている。これらの結果から、ほぼ毎日規則正しく朝食を摂ることは、保護者と子どもの関係をより良くするとともに、子どもの自己効力感を高める可能性が示唆された。

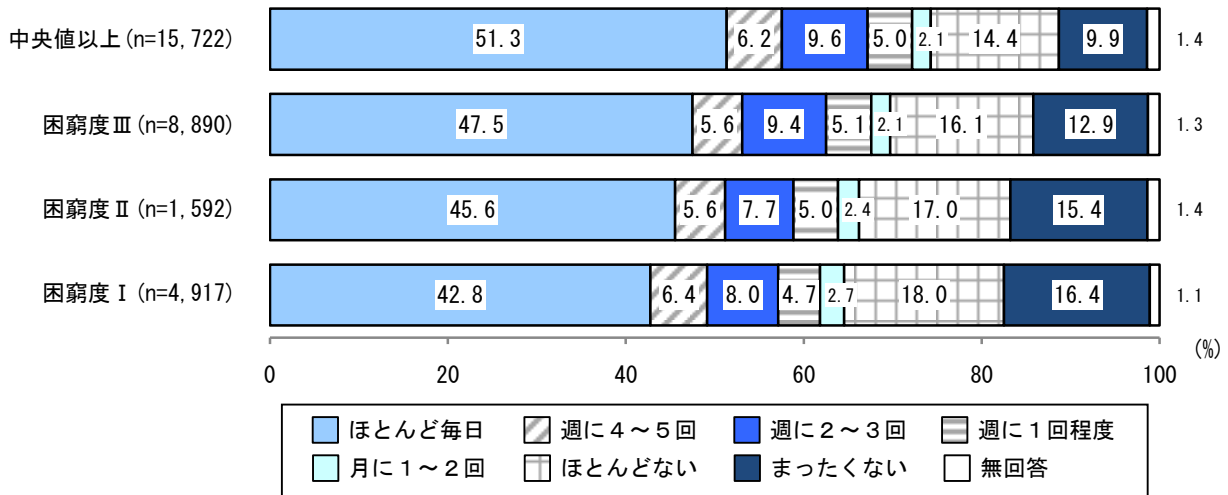
最後に、保護者自身が、将来に対して希望を持っているかについて、親の婚姻状況別に述べる。「希望がもてる」と回答した割合は、「結婚している」群（31.3%）、「離婚」群（27.6%）、「死別」群（8.3%）「未婚」群（11.1%）となっている。また、「とても幸せだと思う」と回答した割合は「結婚している」群（29.4%）、「離婚」群（20.4%）、「死別」群（16.7%）「未婚」群（11.1%）となっている。このことから、親の婚姻状況によって、希望感や幸福感に格差が存在することが示唆される。

※参照データについては一部資料編に掲載

3-4. 家庭生活、学習

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか（子ども票問8①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

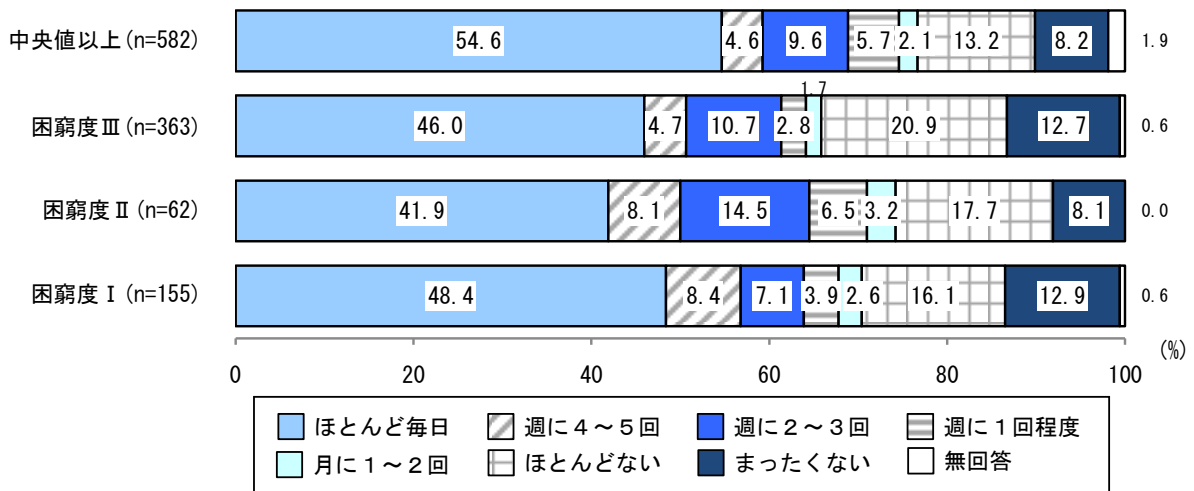
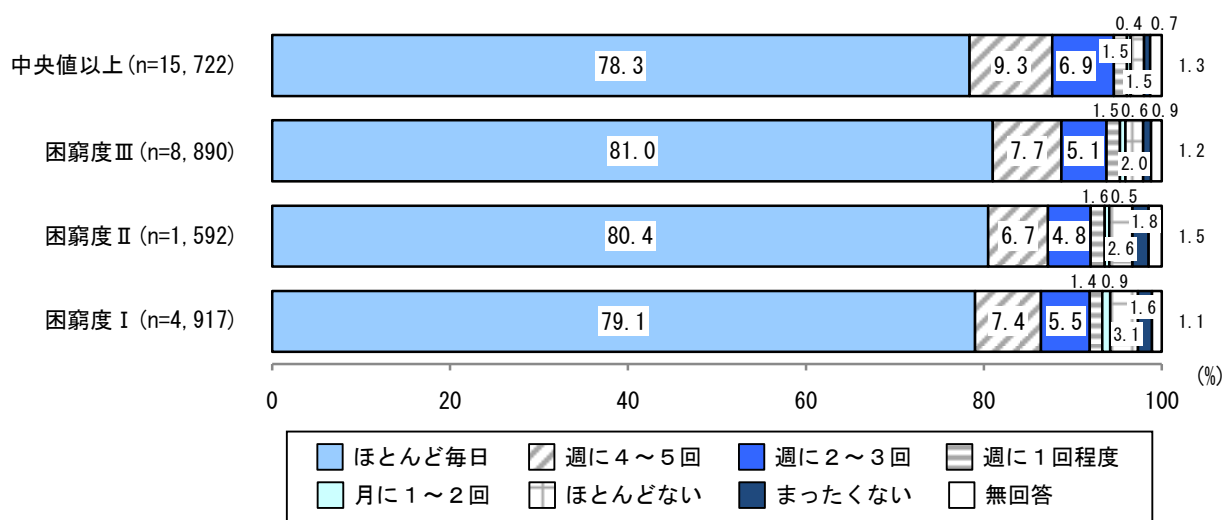


図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」と回答した割合は、中央値以上群が54.6%で、最も高くなっている。一方、「まったくない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が12.9%で、最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか（子ども票問8②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

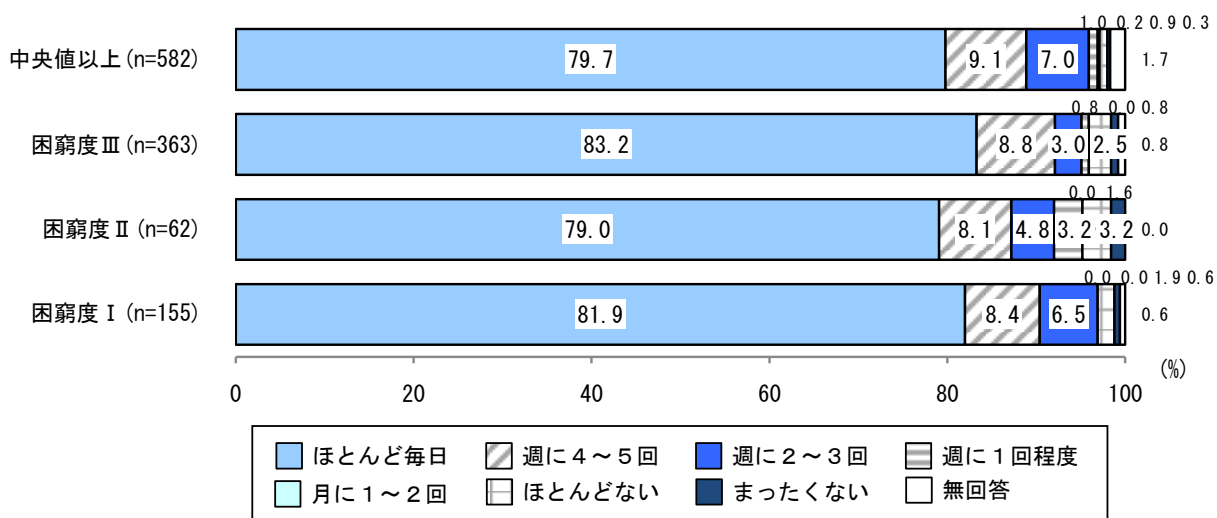
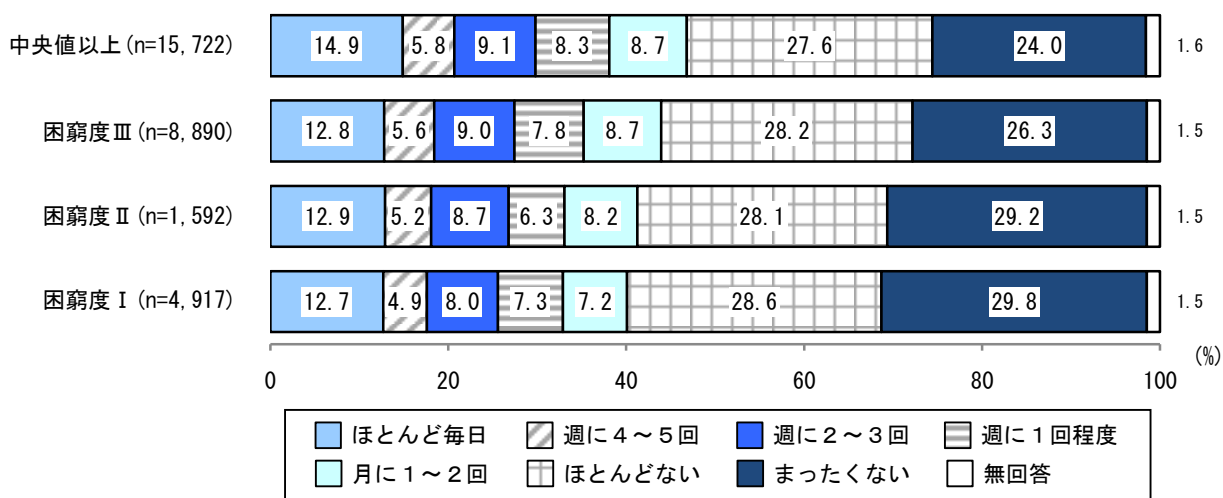


図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群が83.2%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか（子ども票問8⑤）

<大阪府内全体>



<枚方市>

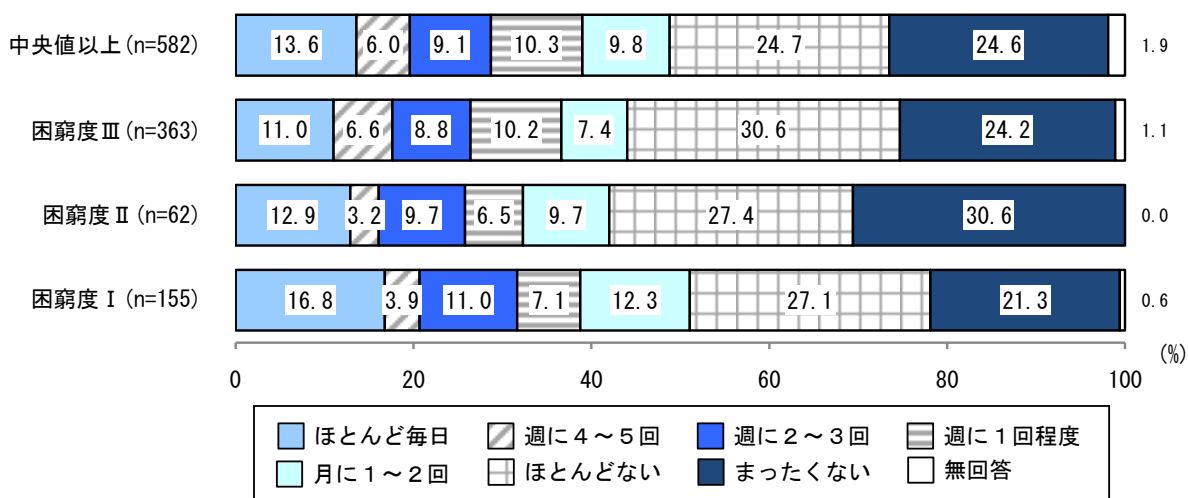
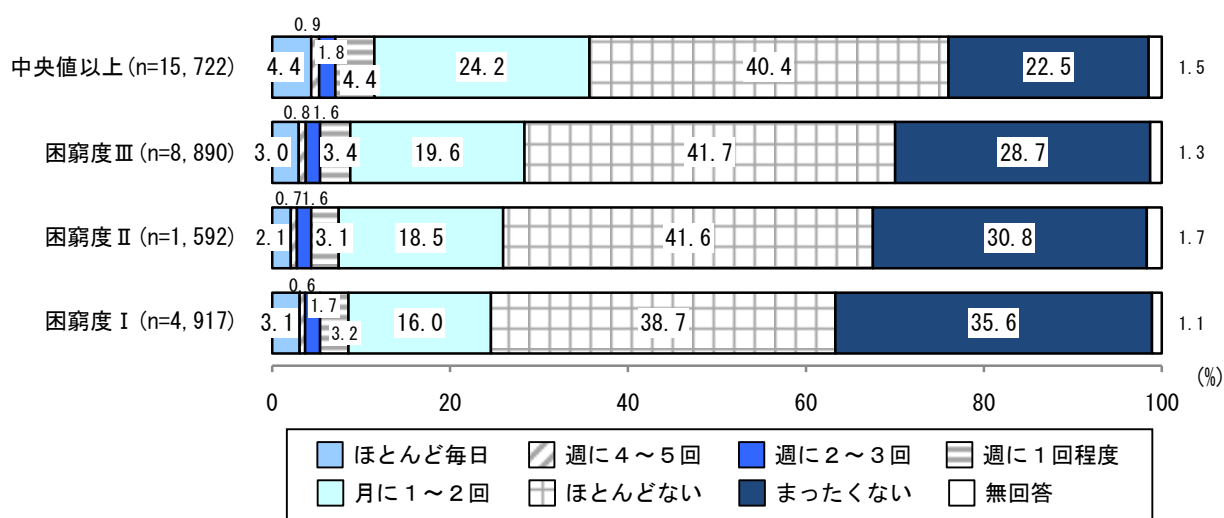


図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、「まったくない」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が30.6%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか（子ども票問8⑨）

<大阪府内全体>



<枚方市>

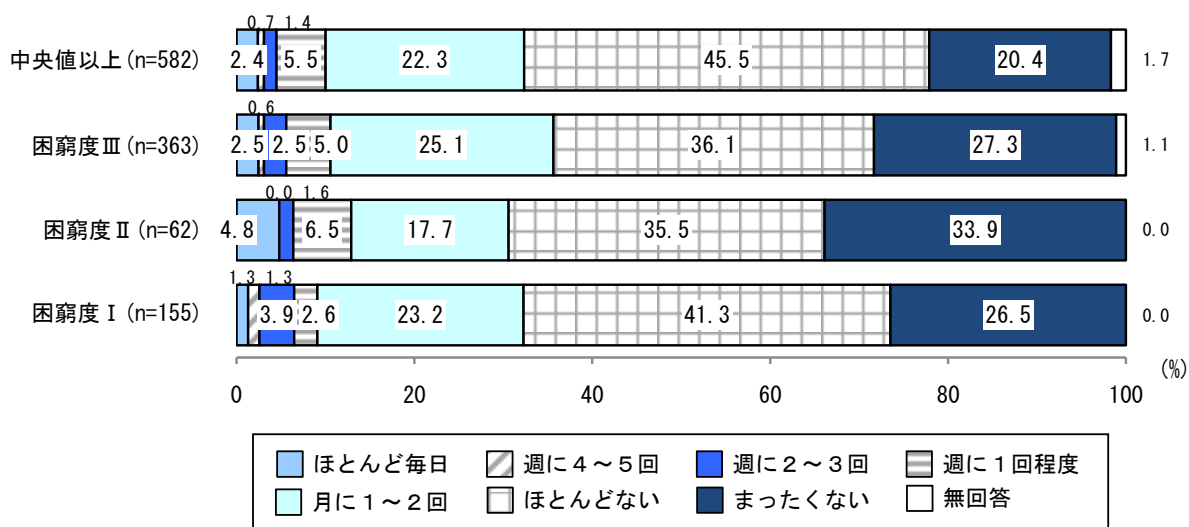
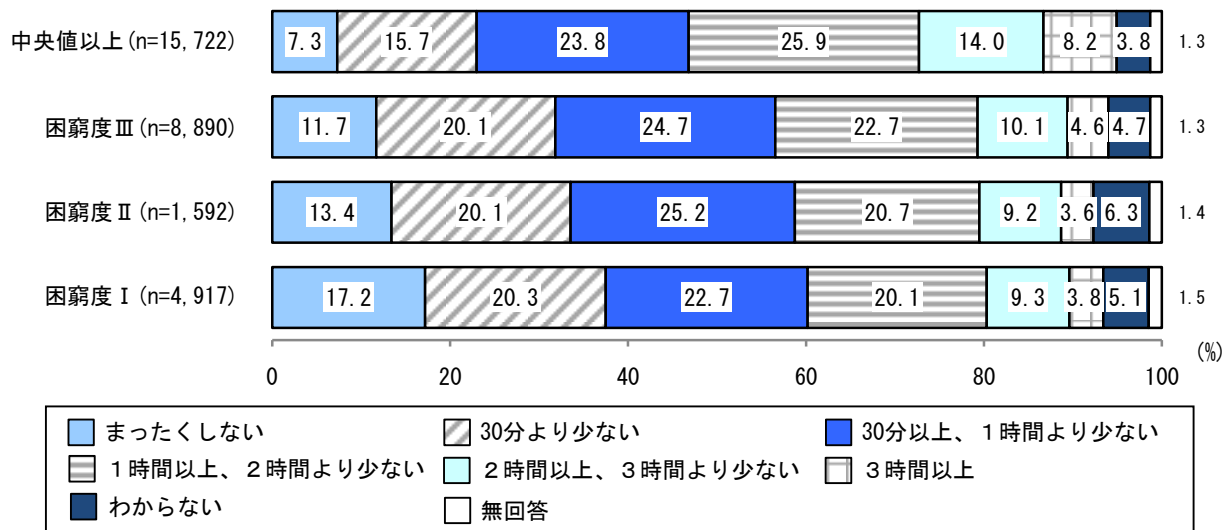


図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

困窮度別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が33.9%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問 13①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

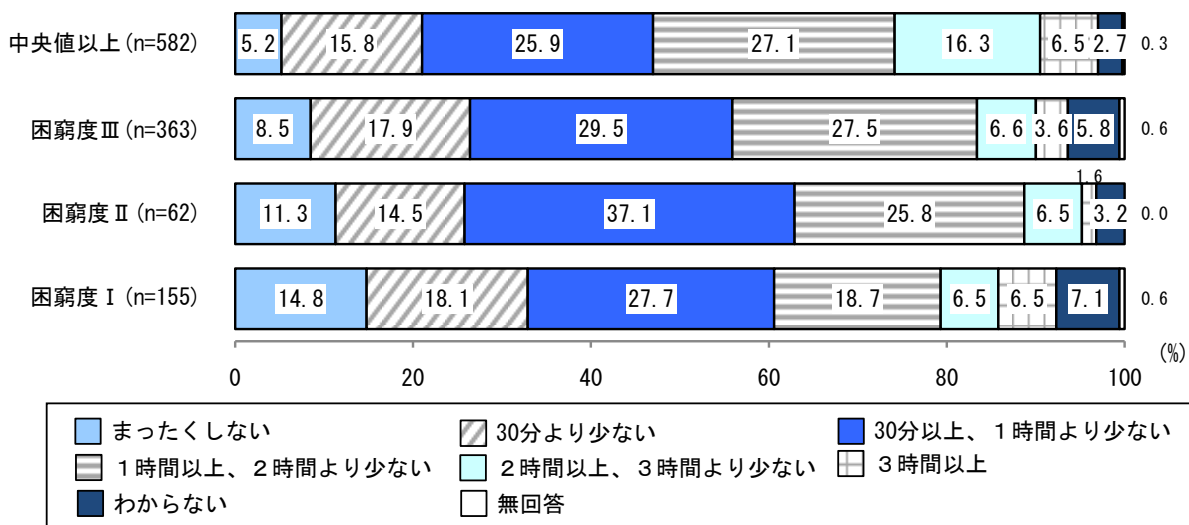
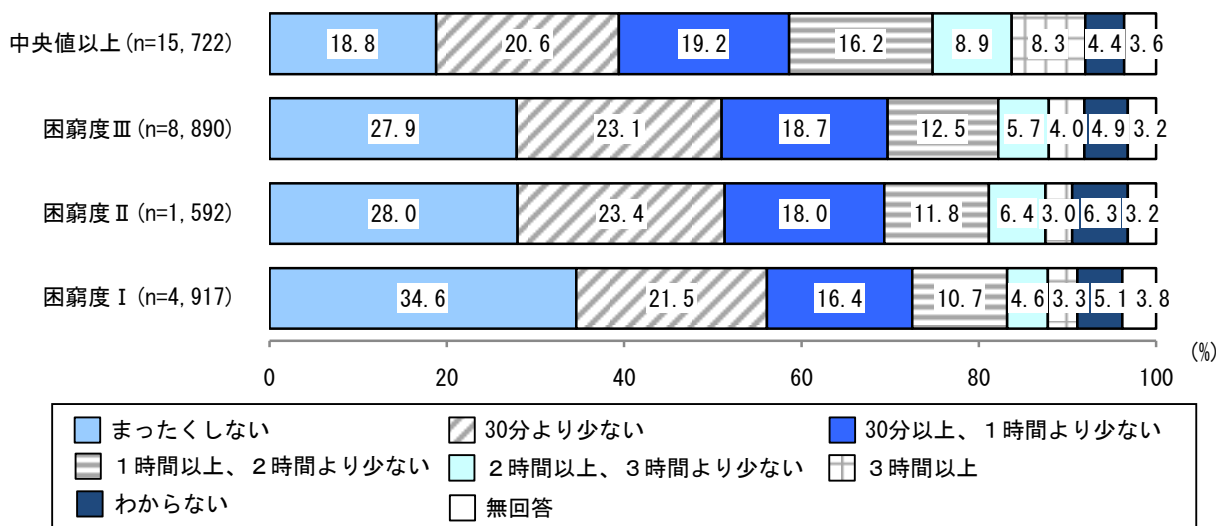


図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間（学校がある日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校のある日では、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は14.8%、「30分より少ない」と回答した人は18.1%である。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）
（子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

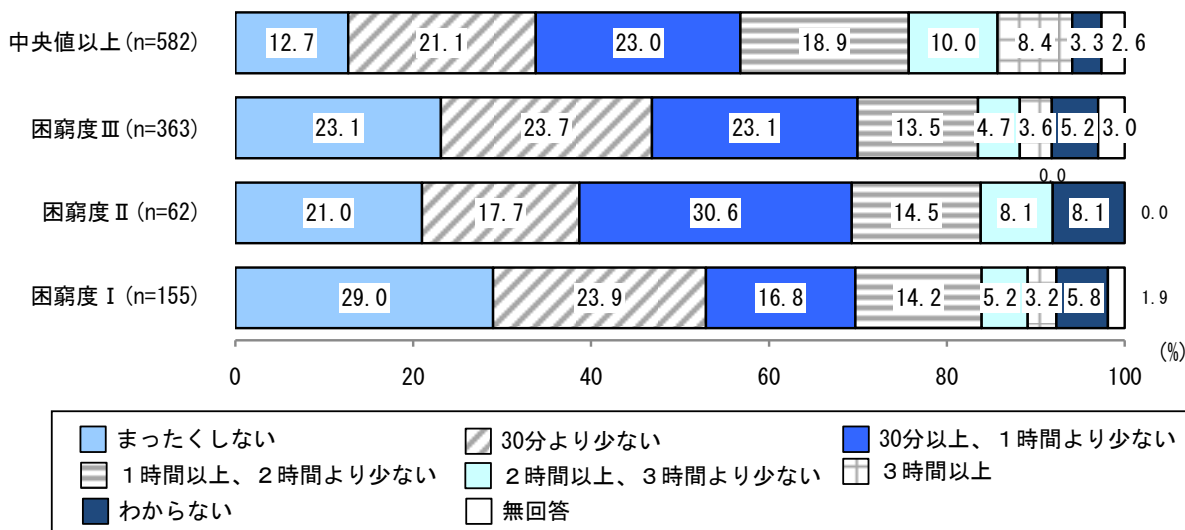
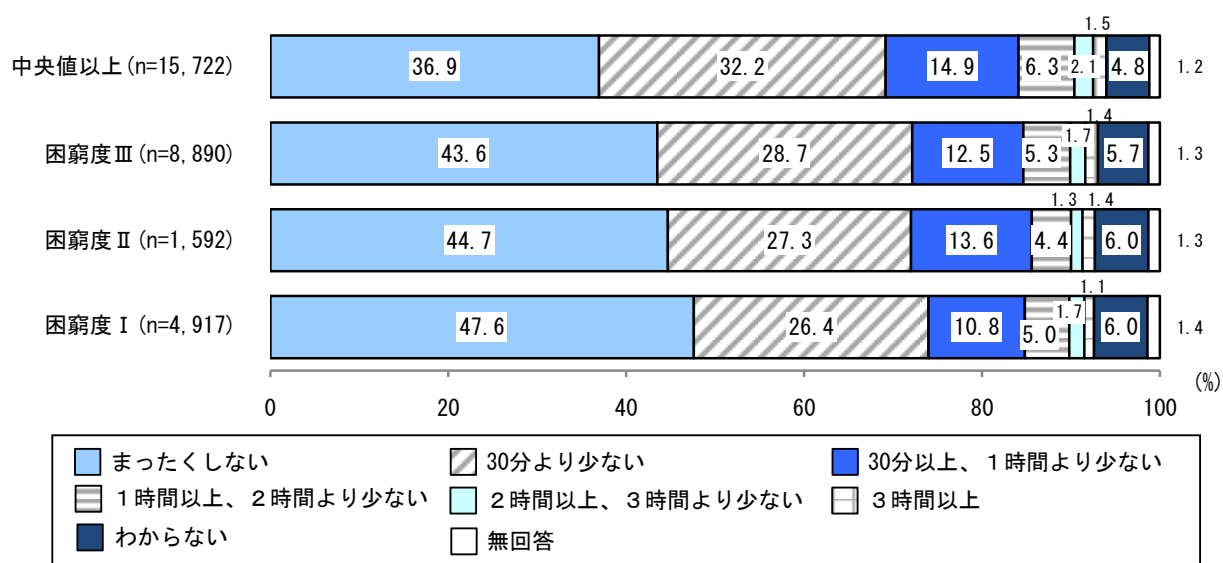


図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校がない日では、「まったくしない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が29.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 15）

<大阪府内全体>



<枚方市>

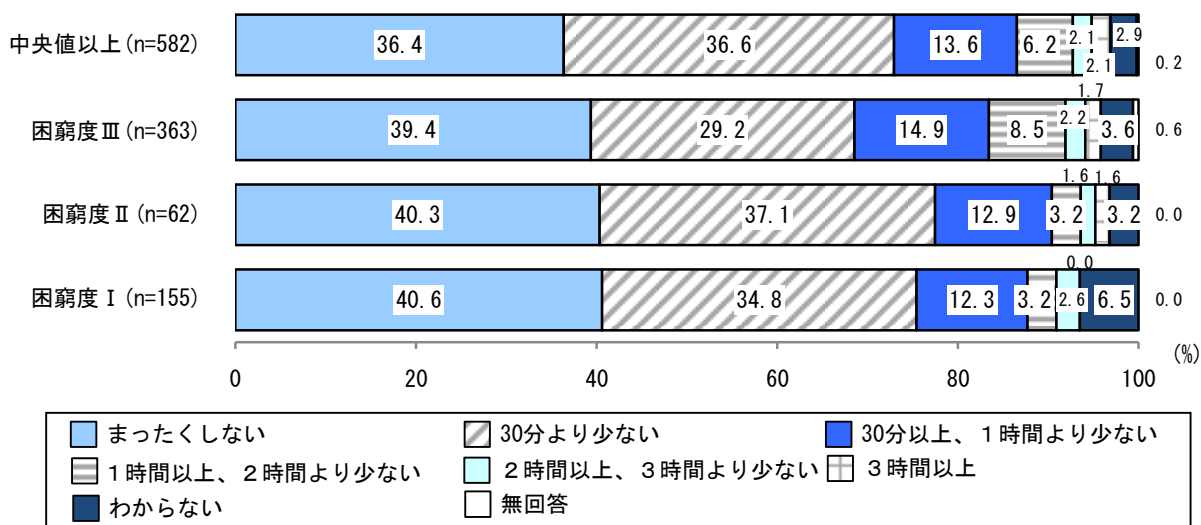
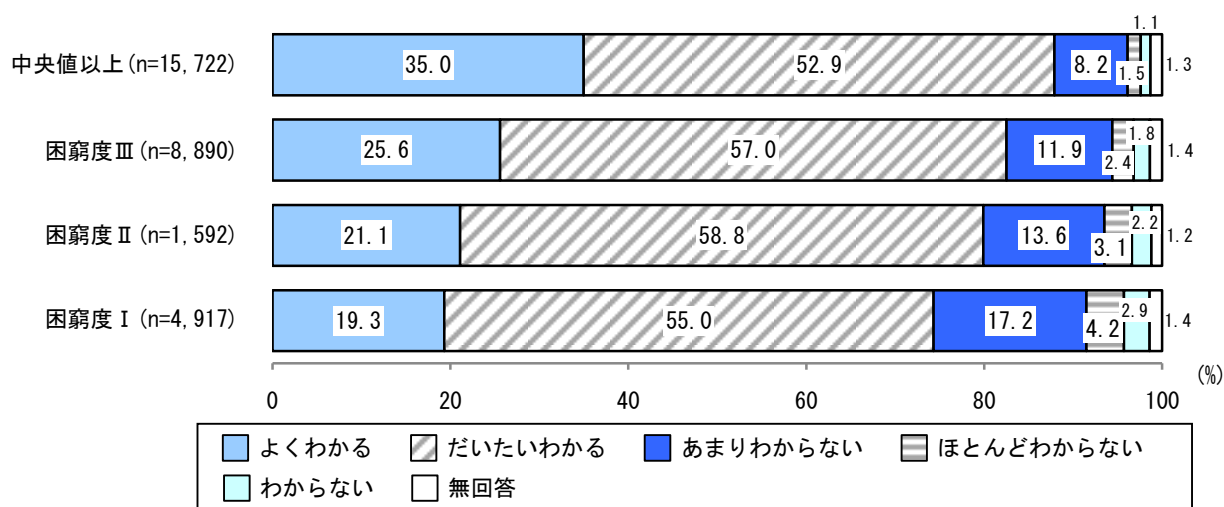


図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別に授業以外の読書時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高く、困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は40.6%、困窮度Ⅱ群では40.3%となっている。

困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問 14(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

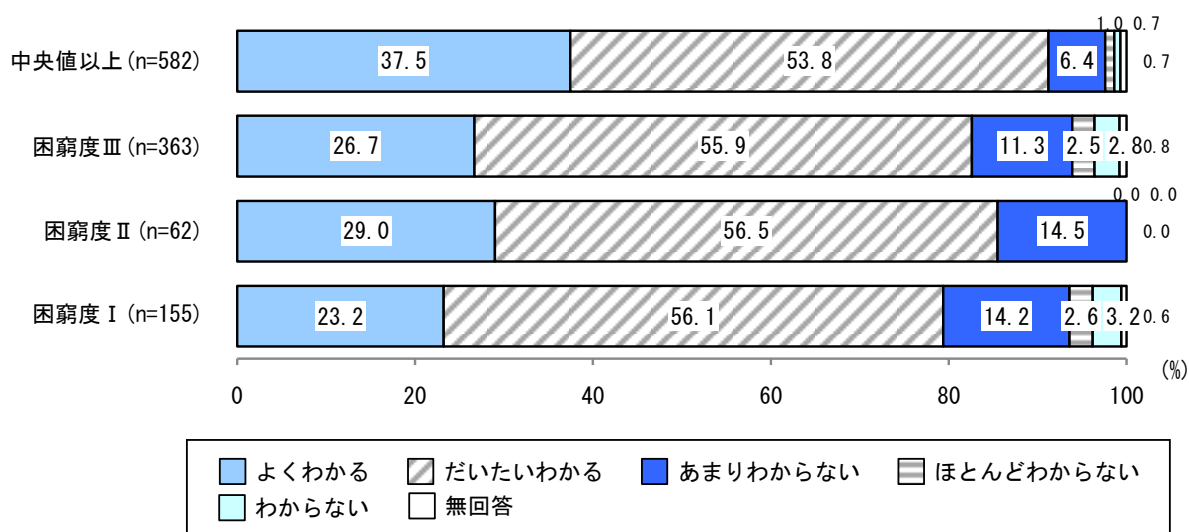


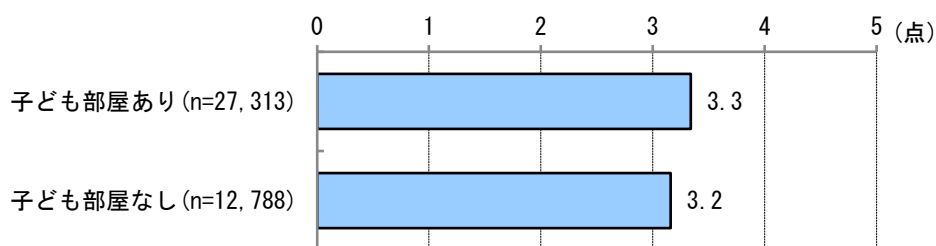
図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

困窮度別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」と回答した割合は、中央値以上群が37.5%で最も高く、困窮度Ⅰ群が23.2%で最も低くなっている。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ①学校がある日
(月～金曜日)(子ども票問 21×子ども票問 13①)

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた(「7. わからない」は除く)。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪府内全体>



<枚方市>

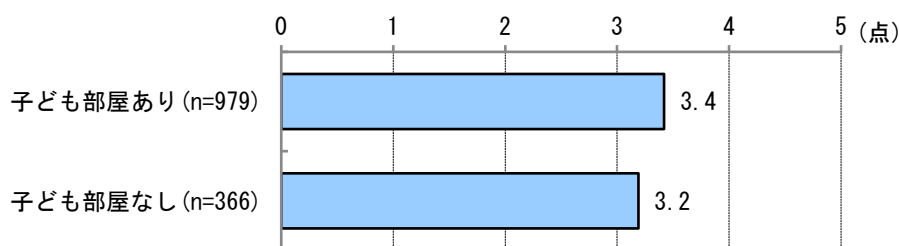
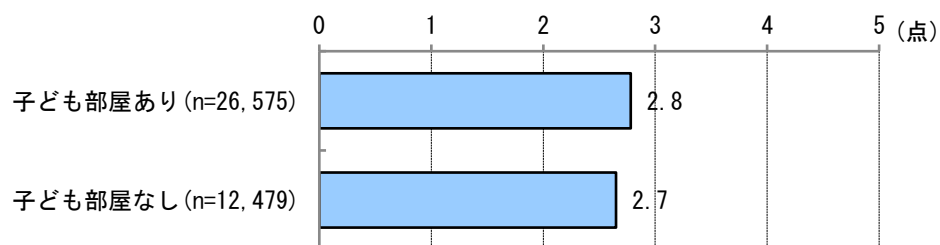


図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がある日)

子ども部屋の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ②学校がない日
(土・日曜日・祝日)(子ども票問21×子ども票問13②)

<大阪府内全体>



<枚方市>

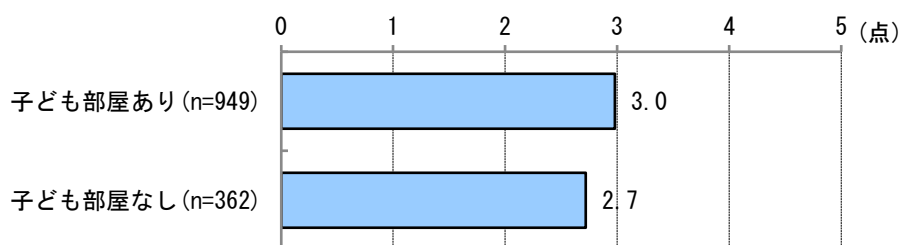
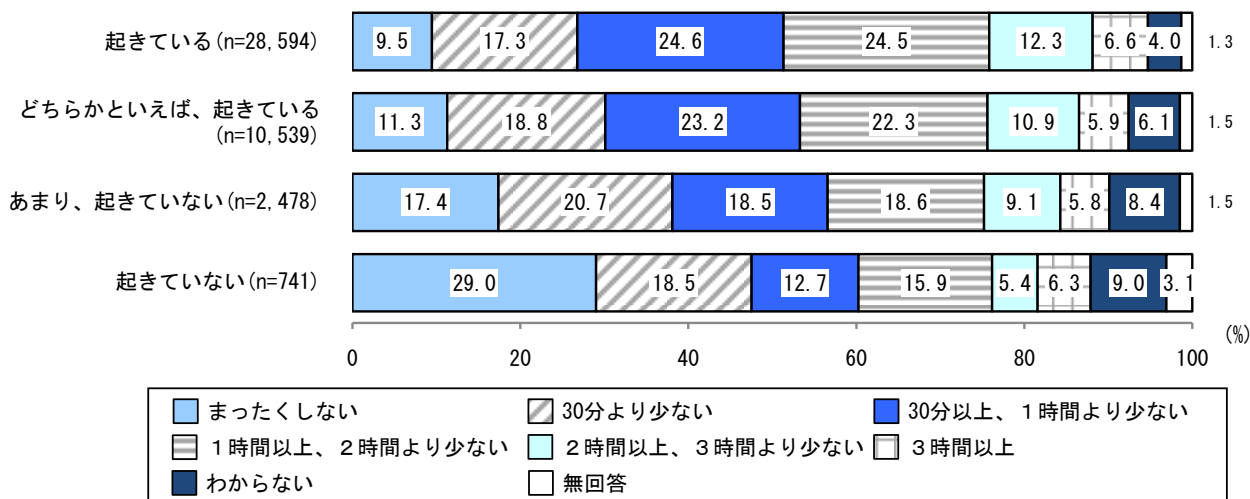


図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がない日)

子ども部屋の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問2×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

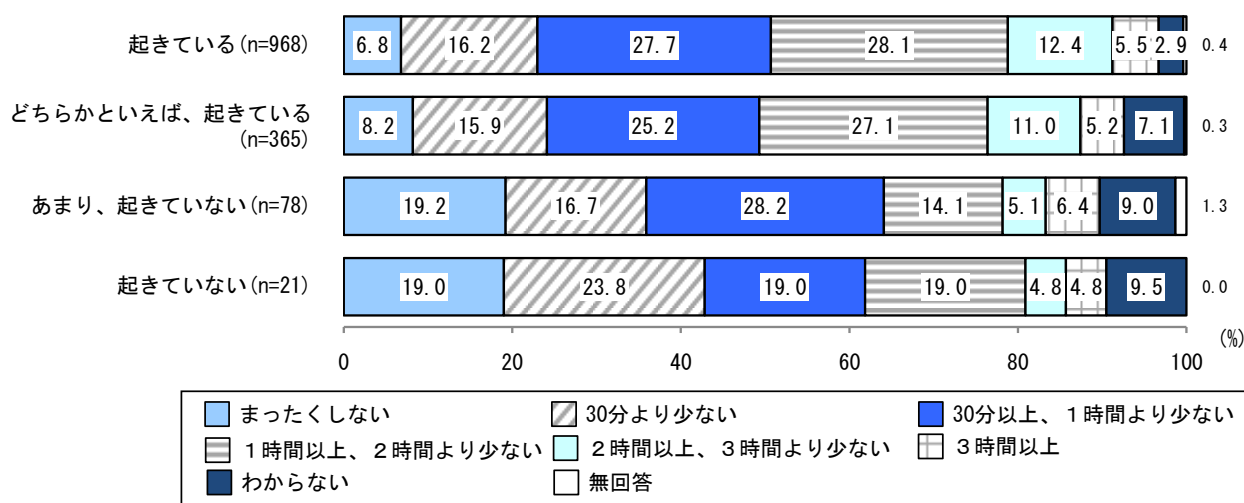
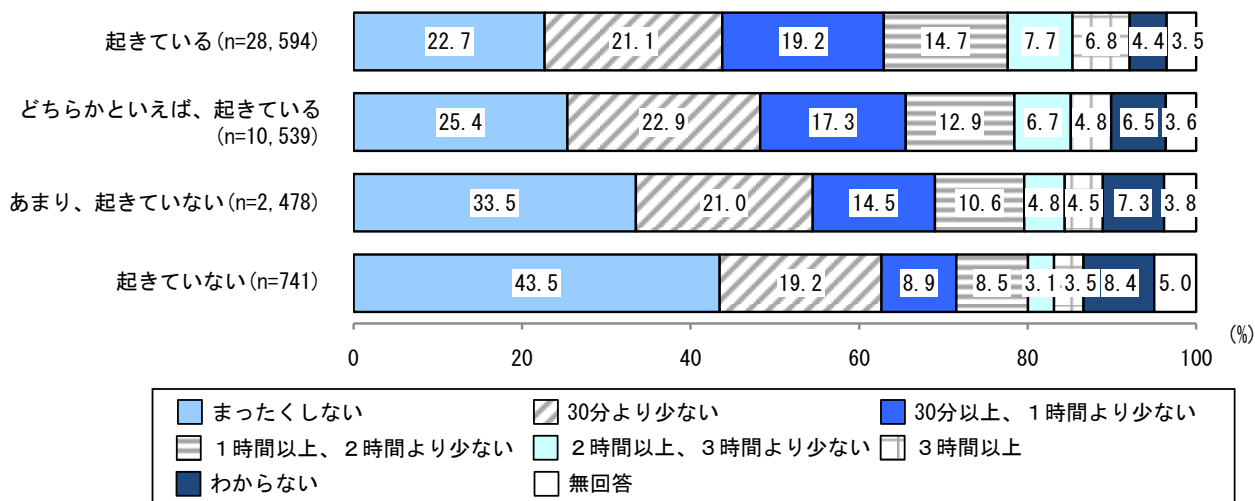


図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

起床時間の規則性別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、概ねふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」と回答した割合が高くなっている。「まったくしない」と回答した割合は、起きていない人で最も低くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問2×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

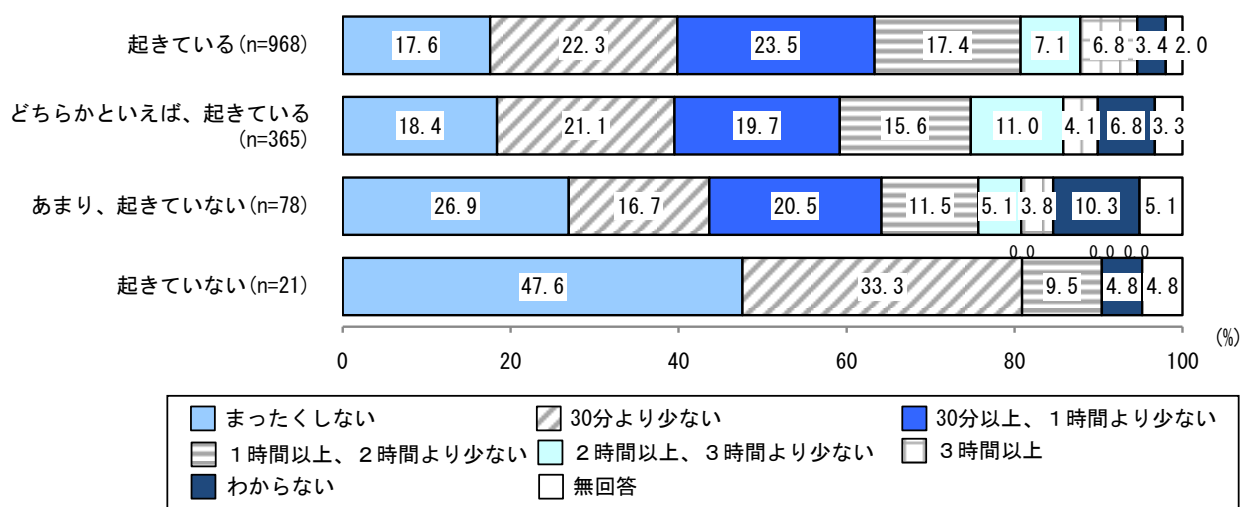
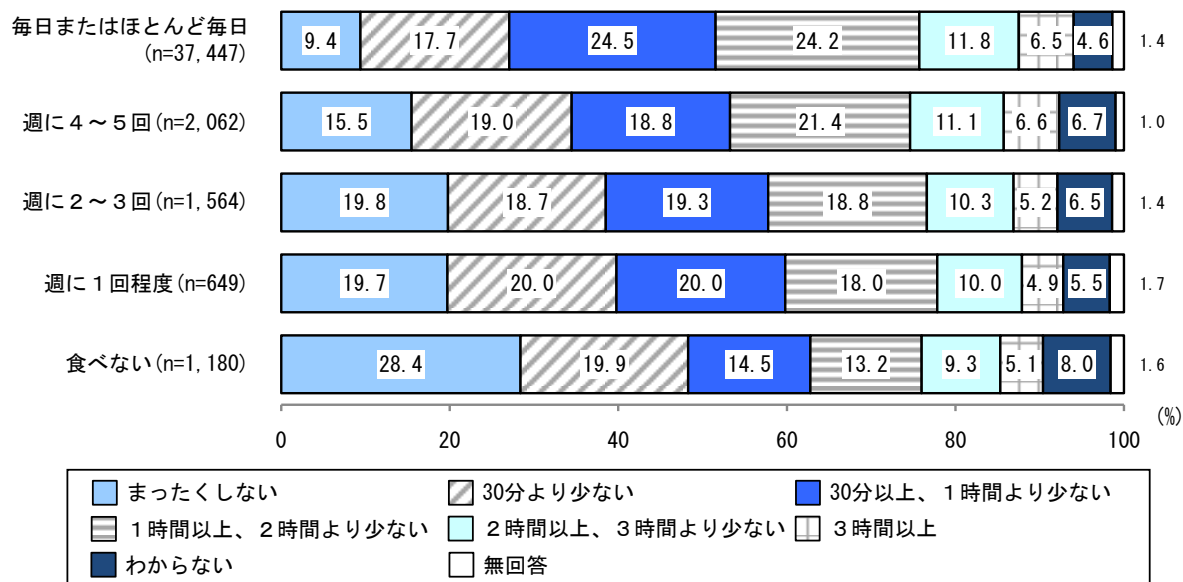


図 107. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

起床時間の規則性別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなっている。「まったくしない」と回答した割合は、起きていない人が47.6%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問4(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

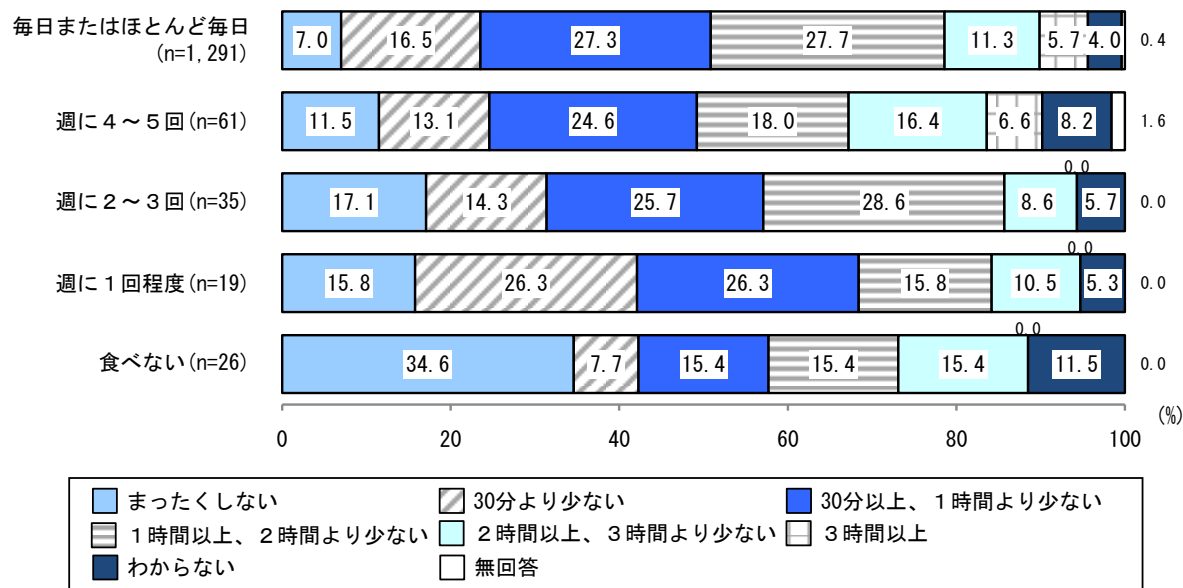
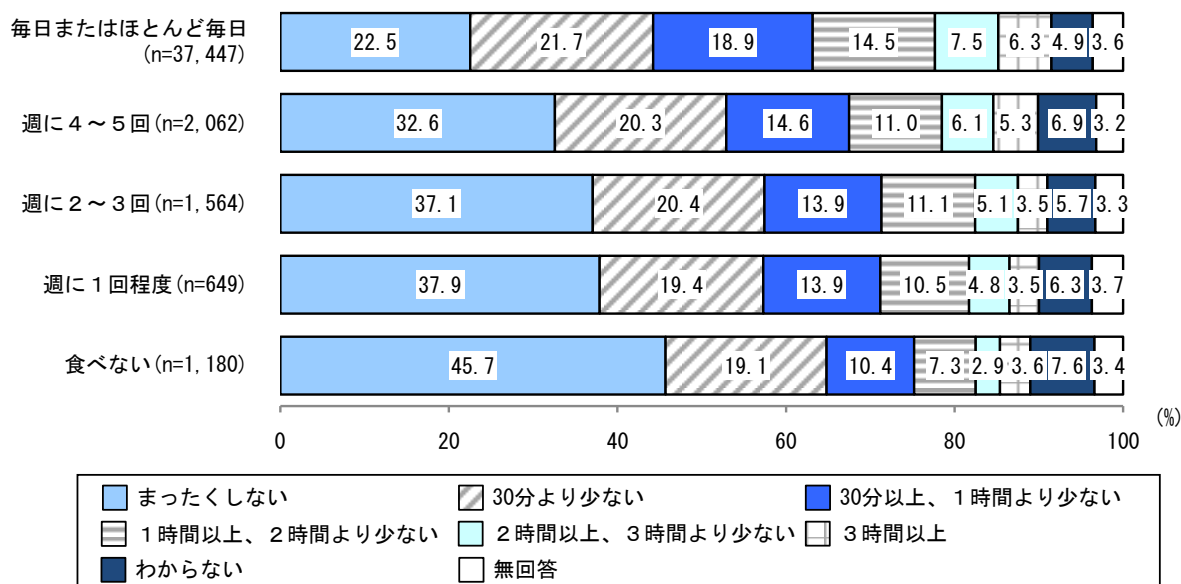


図 108. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

朝食の頻度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、概ね、朝食の頻度が少ない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高く、食べない人が34.6%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問4(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

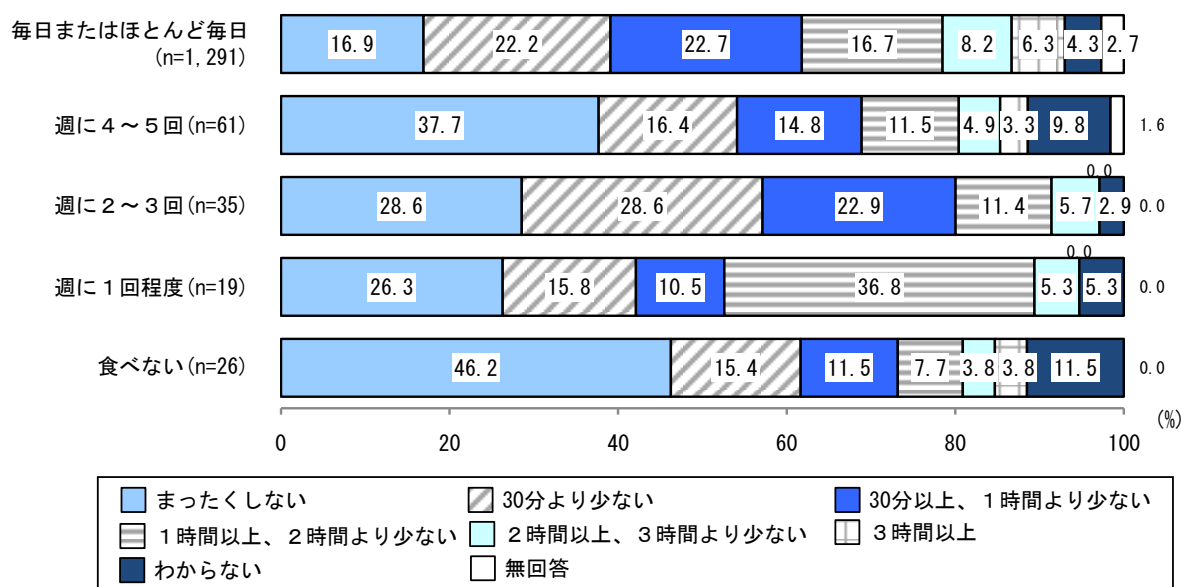
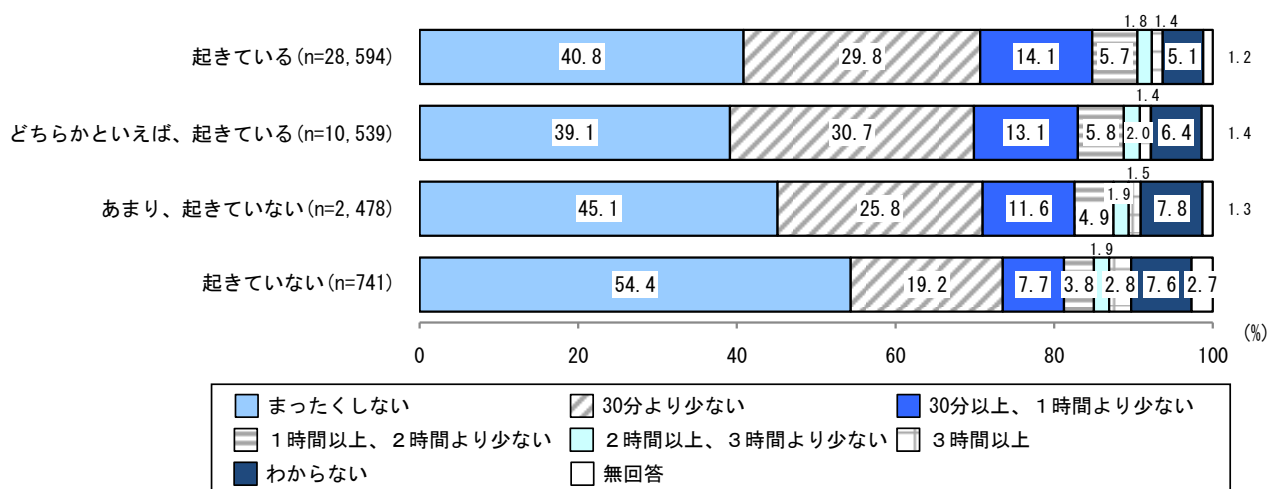


図 109. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

朝食の頻度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、食べない人が46.2%で最も高く、毎日またはほとんど毎日が16.9%で最も低くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問2×子ども票問15）

<大阪府内全体>



<枚方市>

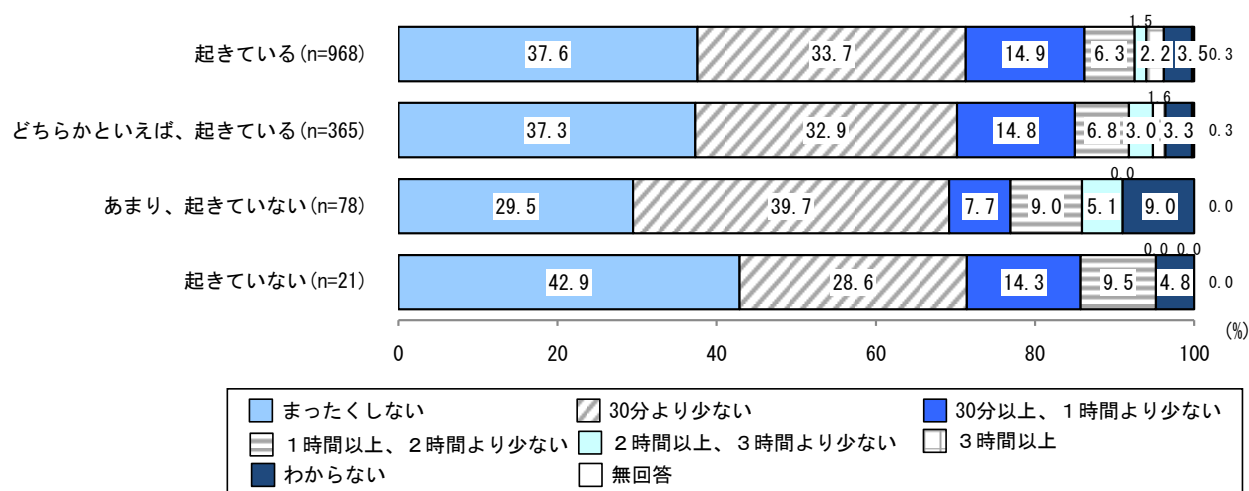
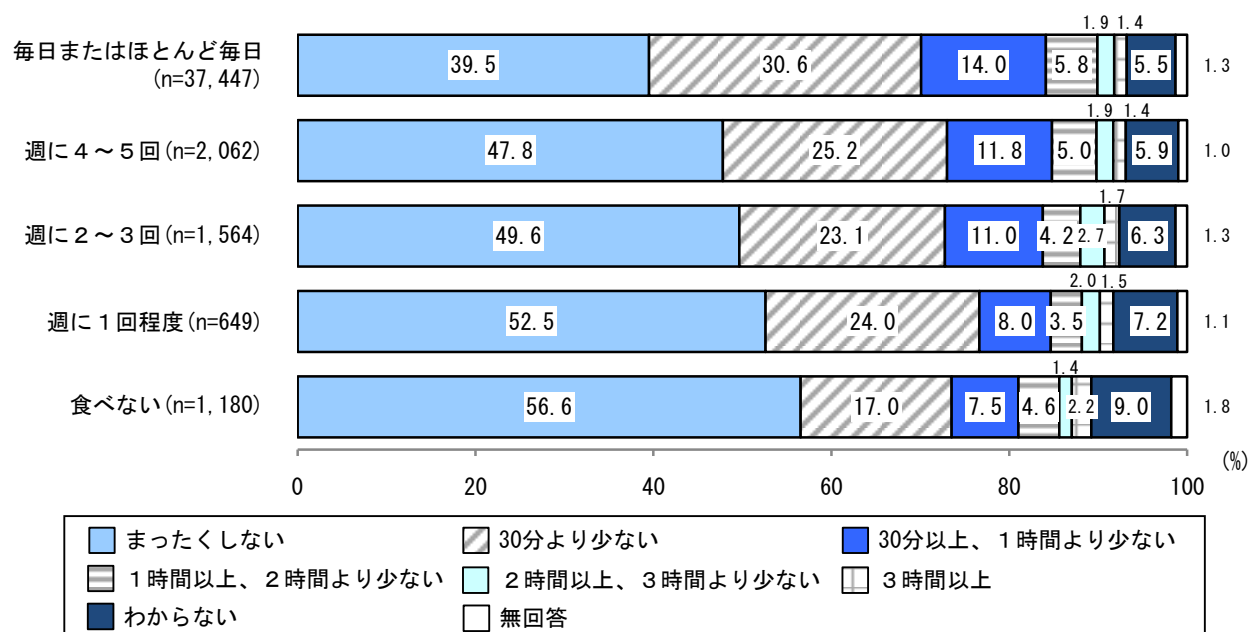


図 110. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、起きていない人では、「まったくしない」と回答した割合は、起きていない人で42.9%と最も高く、あまり起きていない人で29.5%と最も低くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問4(1)×子ども票問15)

<大阪府内全体>



<枚方市>

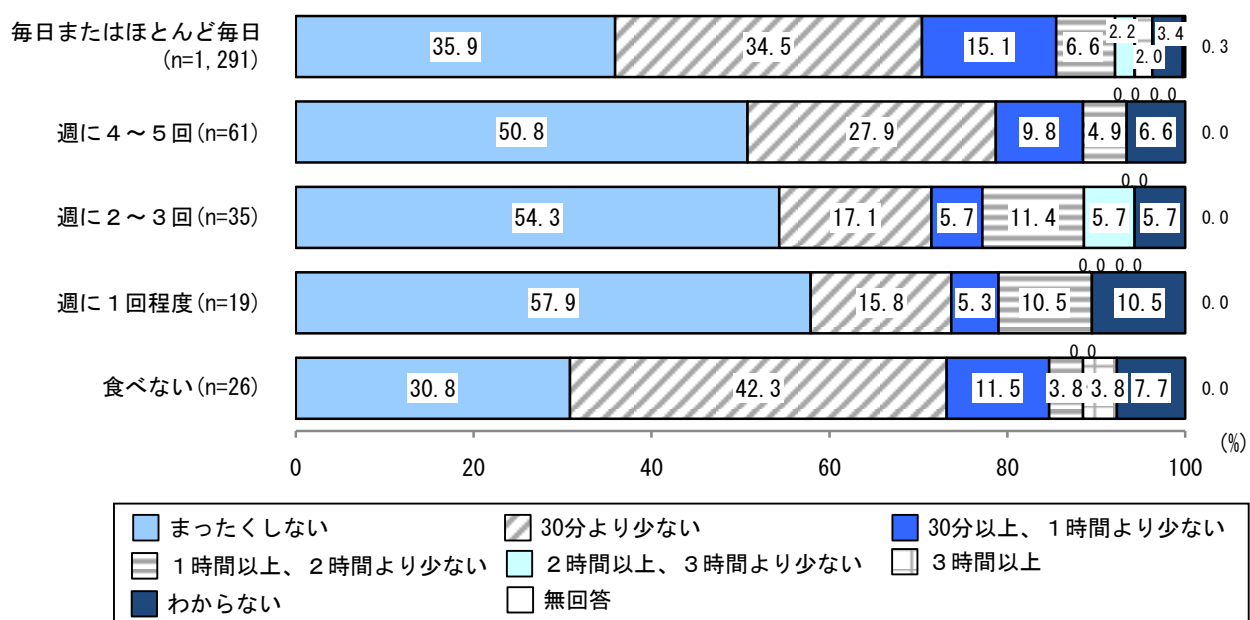
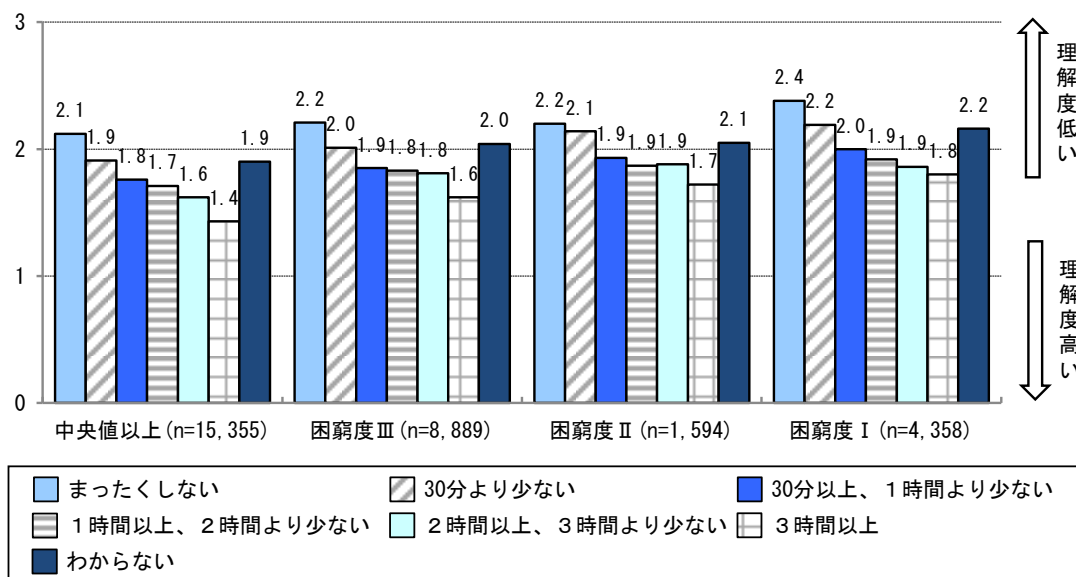


図 111. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、週に1回程度で57.9%と最も高く、次いで週2～3回の人が54.3%となっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

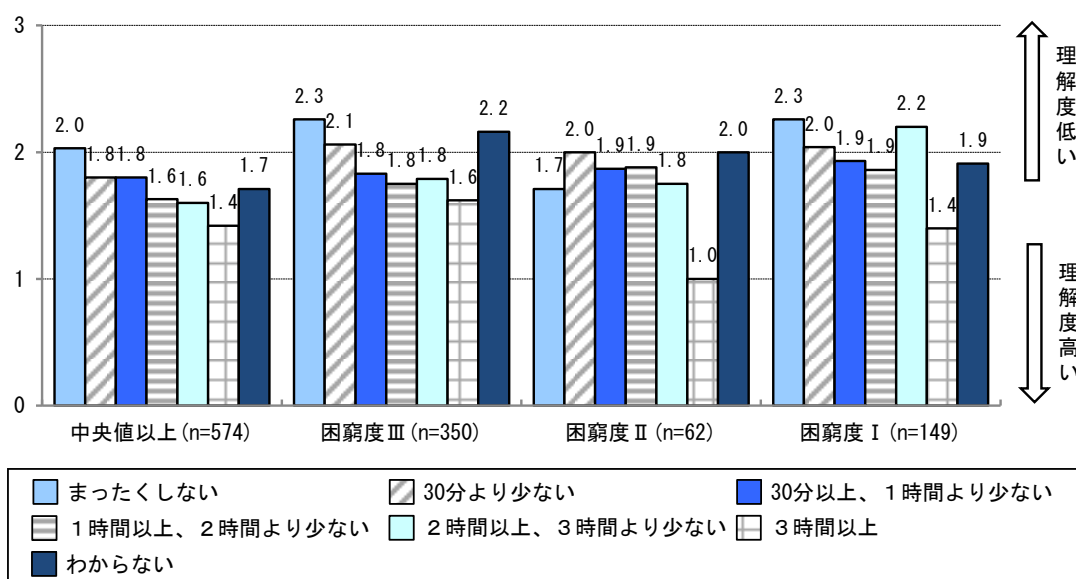
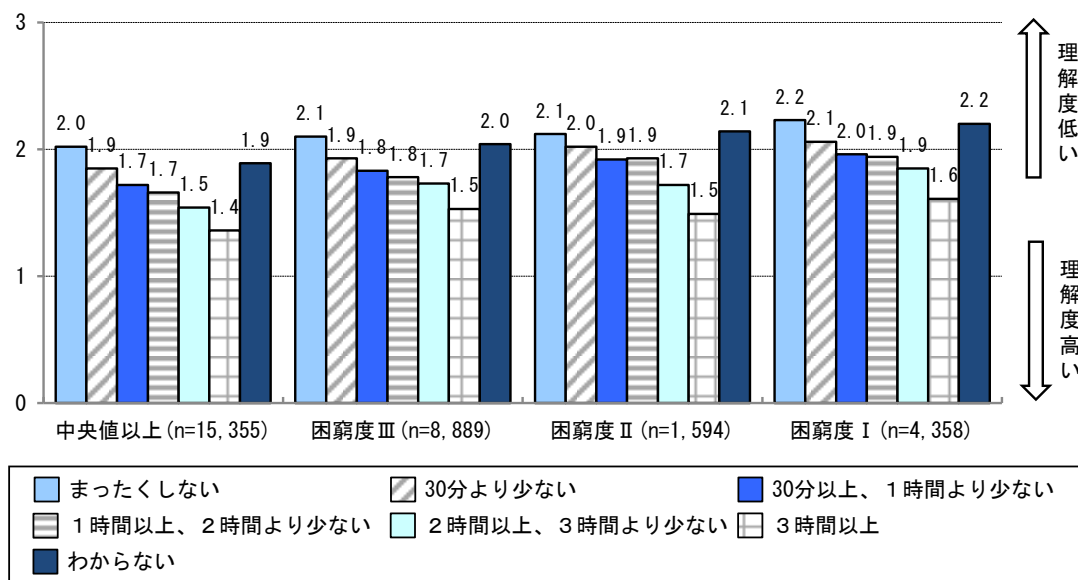


図 112. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群、困窮度Ⅲ群の子どもは、概ね勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まるが、それ以外の群の子どもは、学習時間と学習理解度が関連しない。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

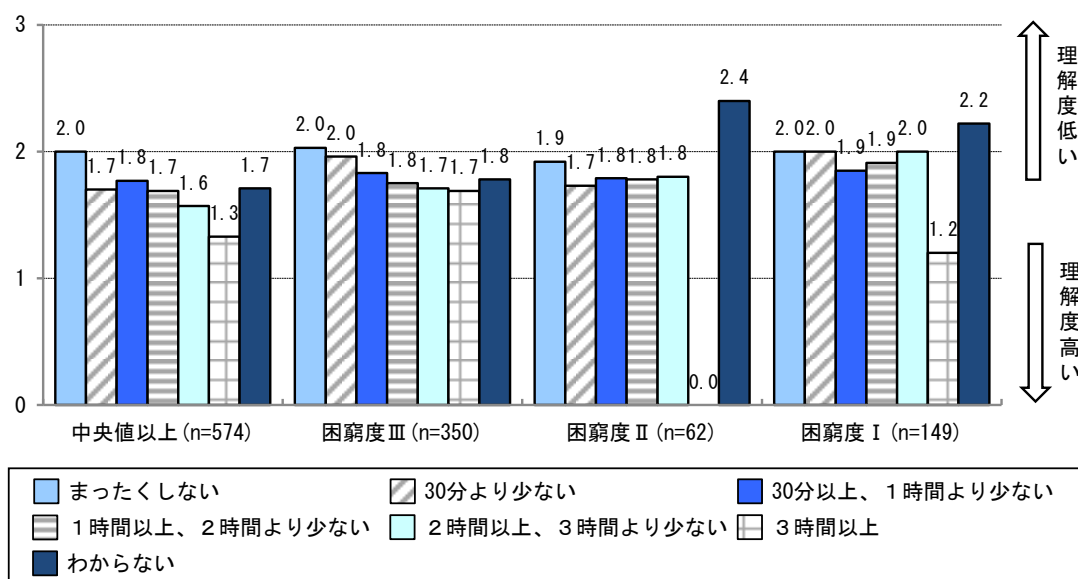
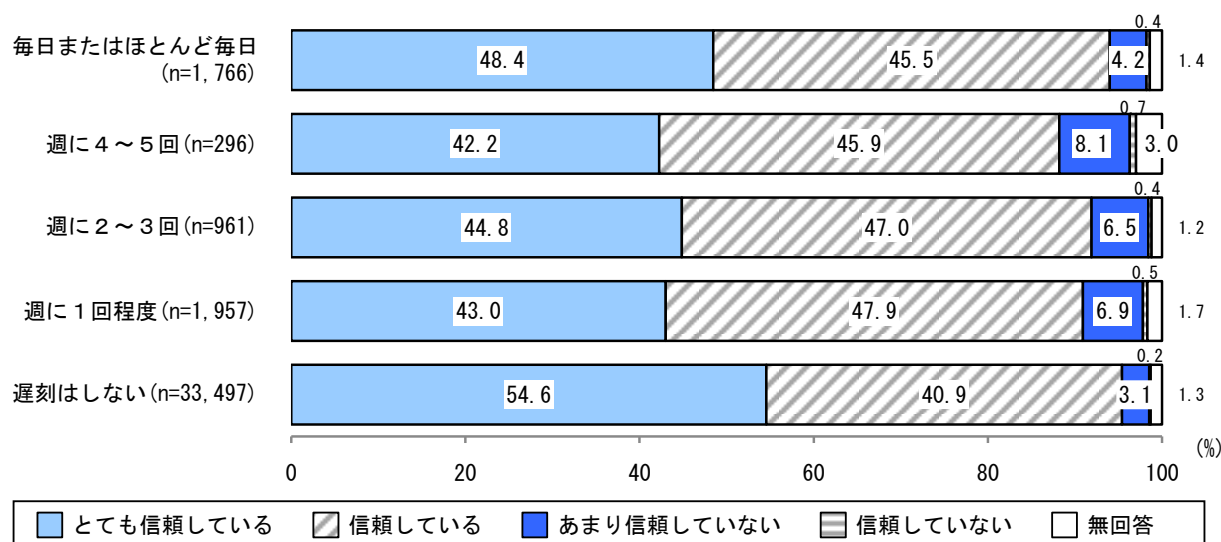


図 113. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、困窮度Ⅲ群の子どもは、概ね勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まるが、それ以外の群の子どもは、学習時間と学習理解度が関連しない。

学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

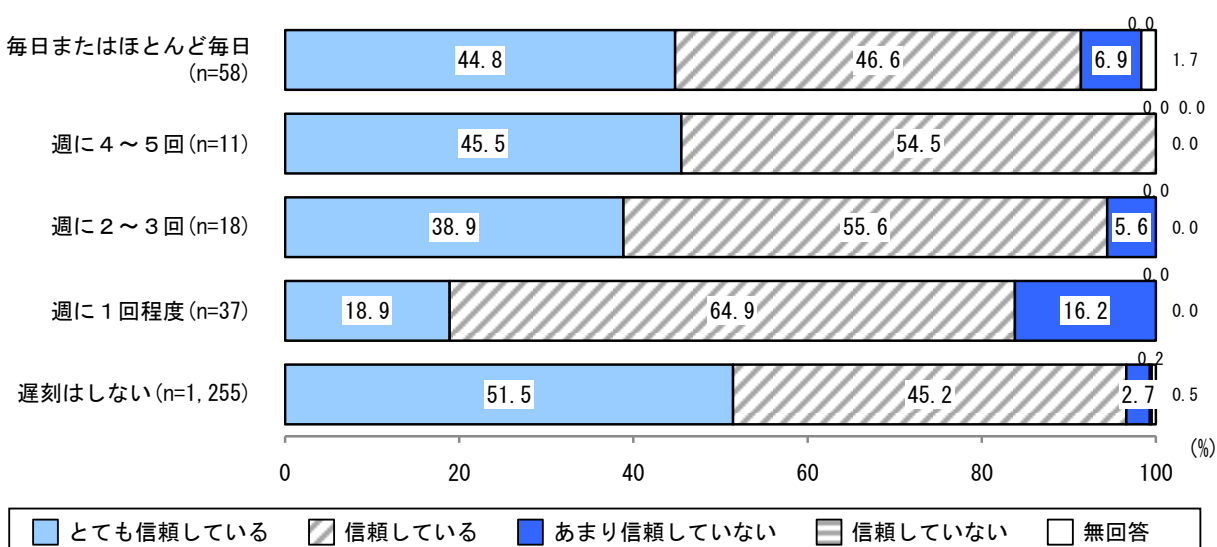
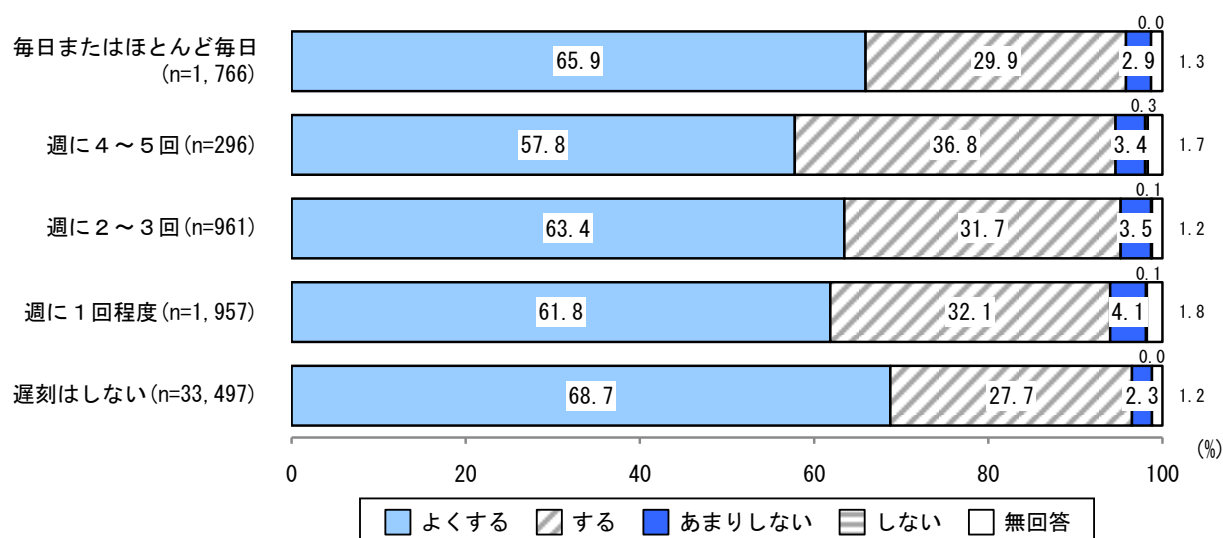


図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度

学校への遅刻別に子どもへの信頼度を見ると、週 1 回程度遅刻をしている子どもの保護者は、「あまり信頼していない」と回答した割合が 16.2%で、他の遅刻状況の子どもの保護者よりも高く、信頼している割合は 83.8%（「とても信頼している」18.9%、「信頼している」64.9%）で最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

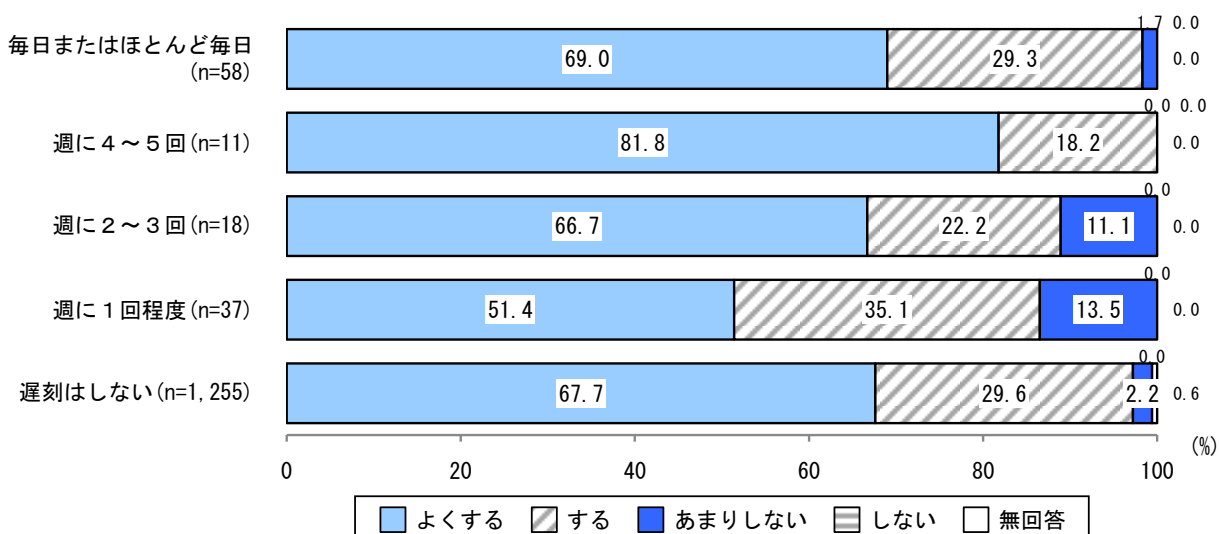
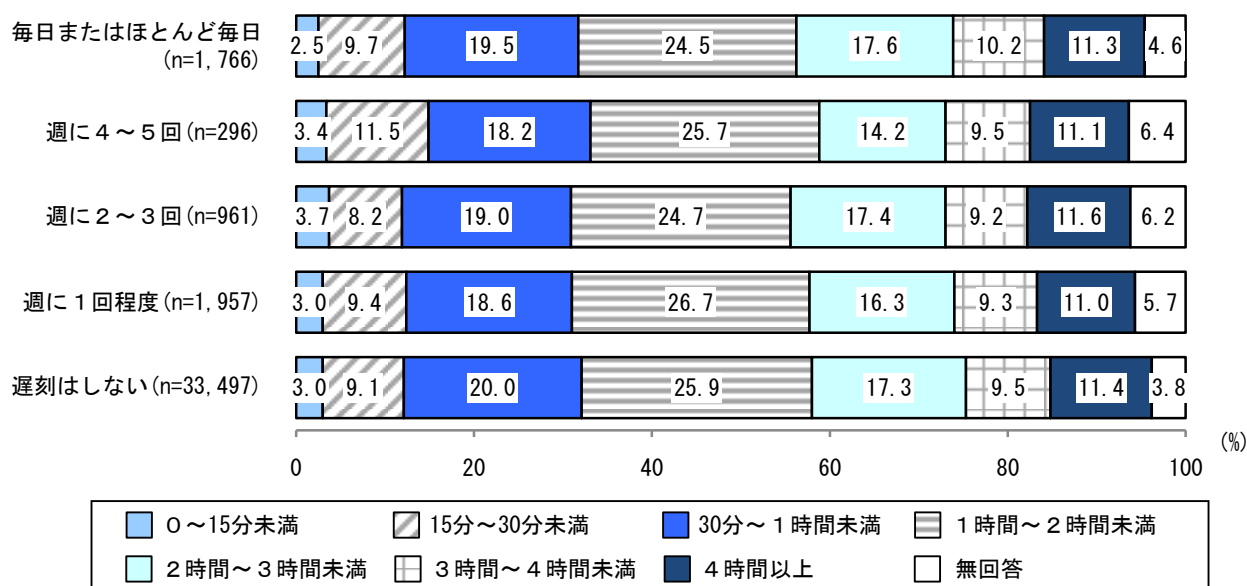


図 115. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度

学校への遅刻別に子どもとの会話頻度を見ると、「週に 4～5 回」の子どもにおいては、会話を「よくする」と回答した割合が最も高く、81.8%である。次いで「毎日またはほとんど毎日」の子どもが69.0%となっている。

学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

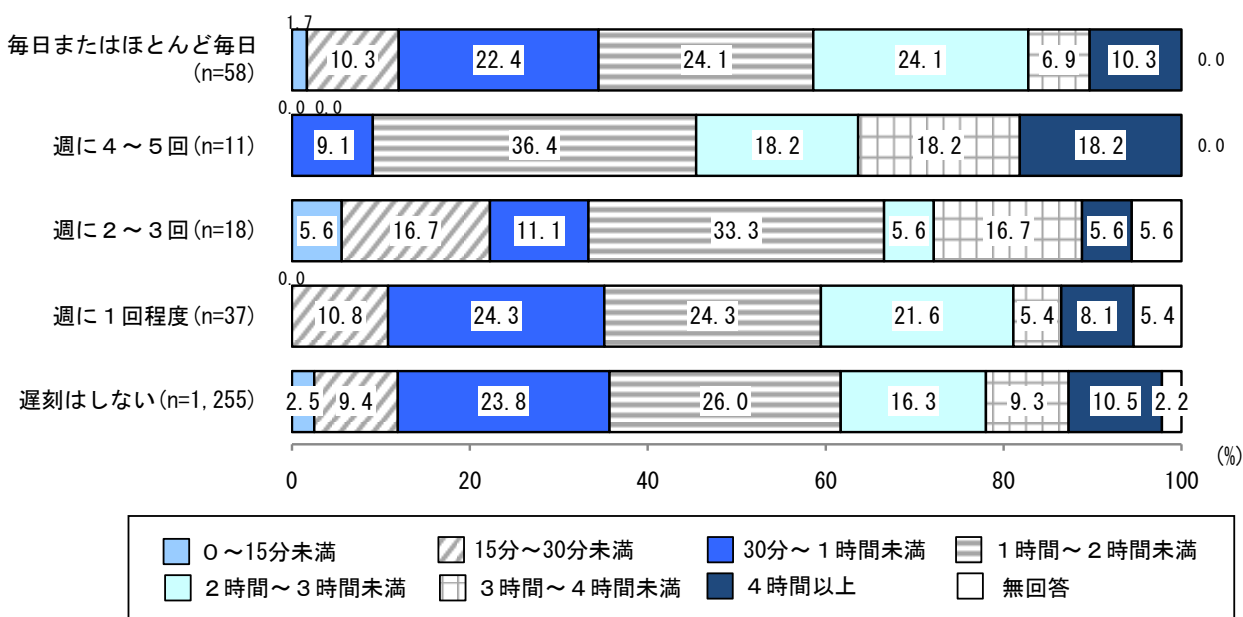
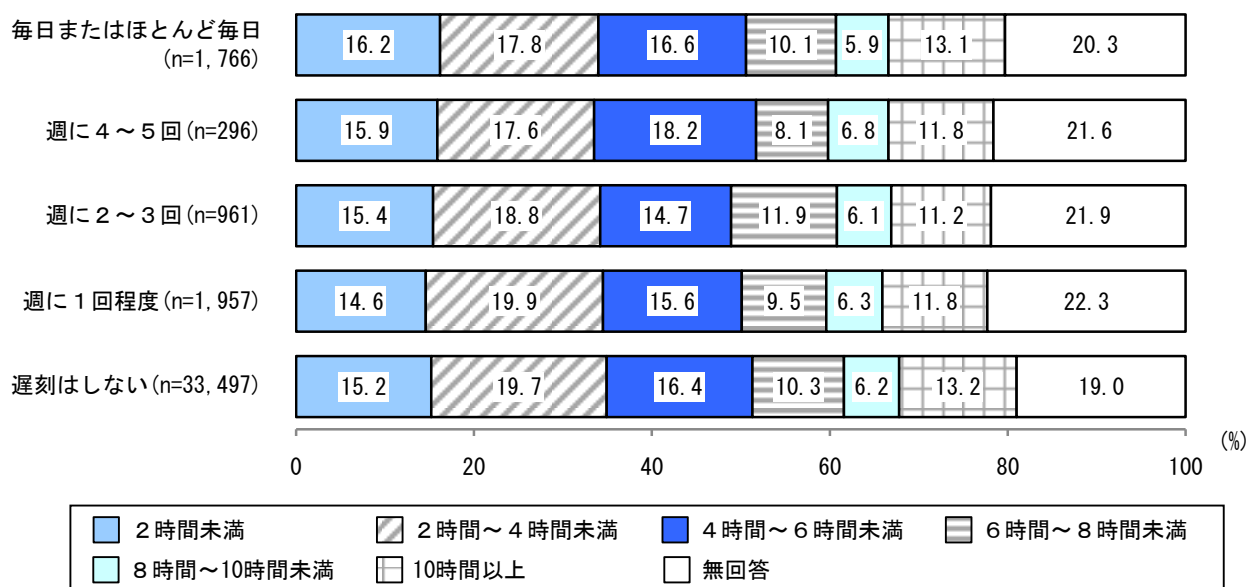


図 116. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、週に1回程度では、「0～15分未満」の回答は見られなかった。

学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

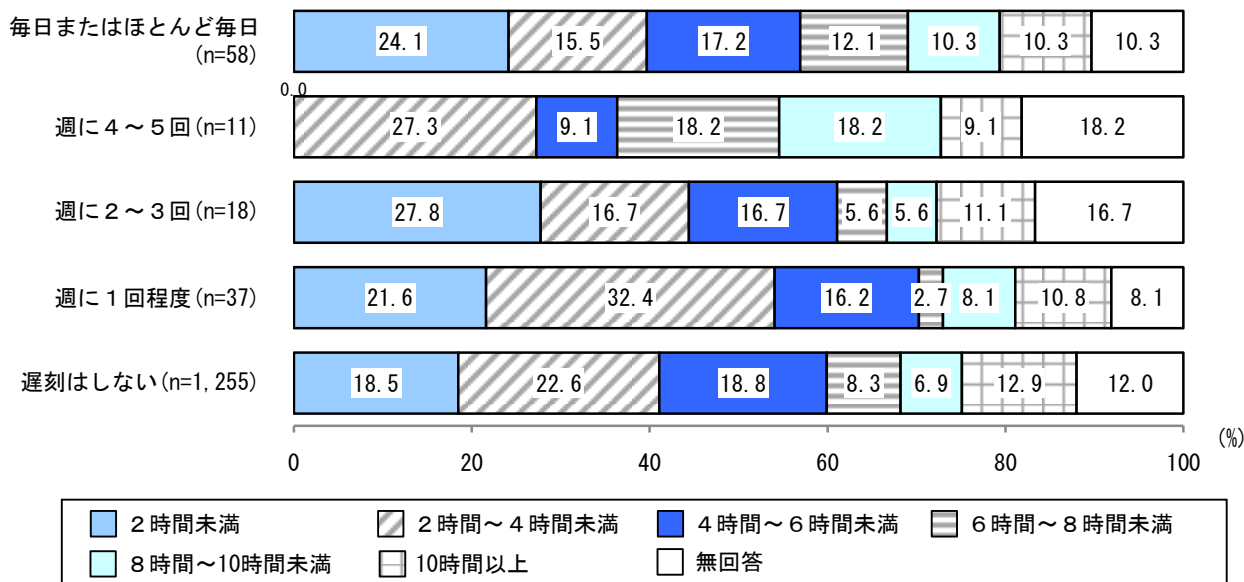
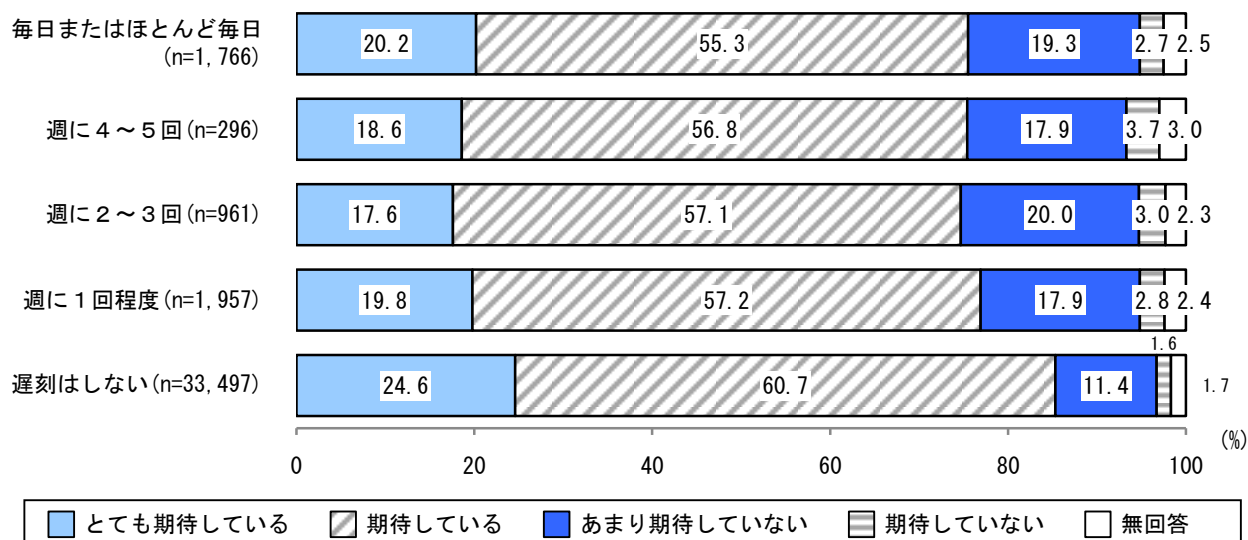


図 117. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「10時間以上」と回答した割合は、遅刻はしない子どもが12.9%で、最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

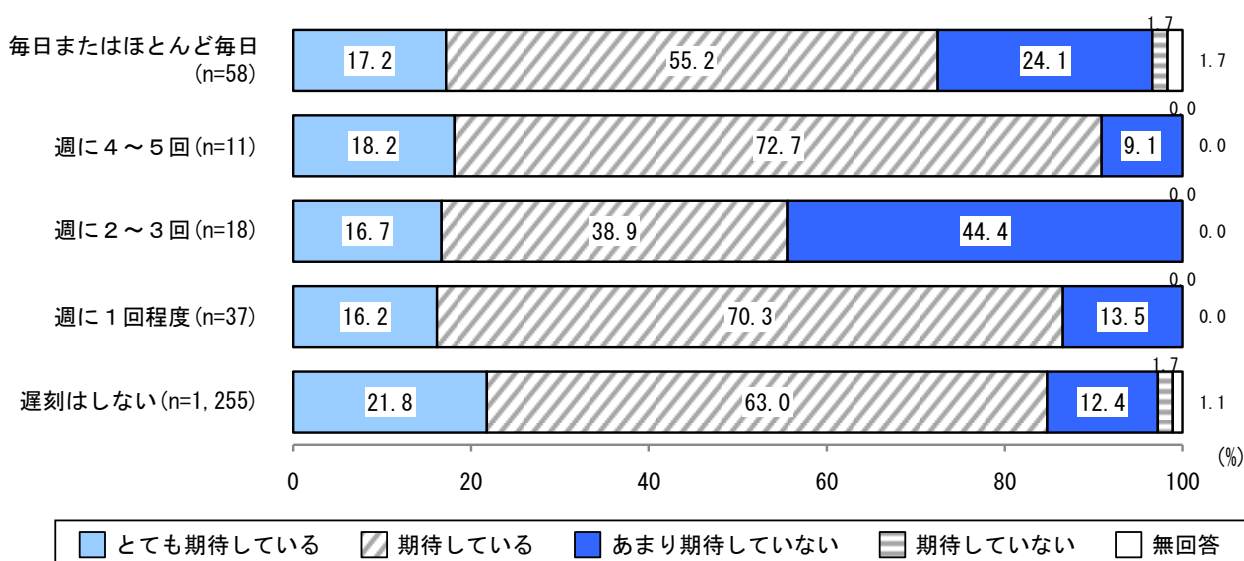
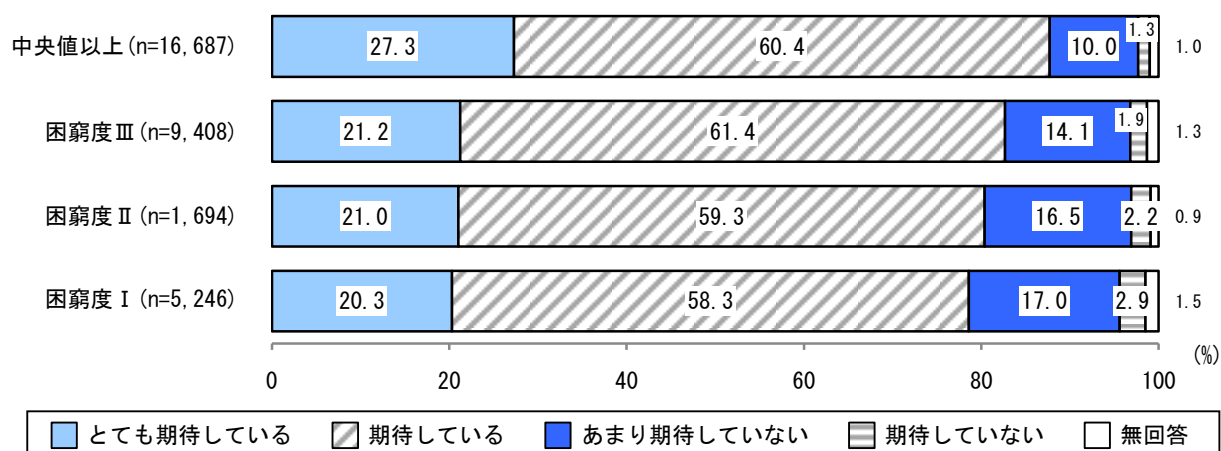


図 118. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度

学校への遅刻別に子どもの将来への期待度を見ると、「遅刻はしない」の子どもにおいては、「とても期待している」の割合が21.8%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来への期待度（保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

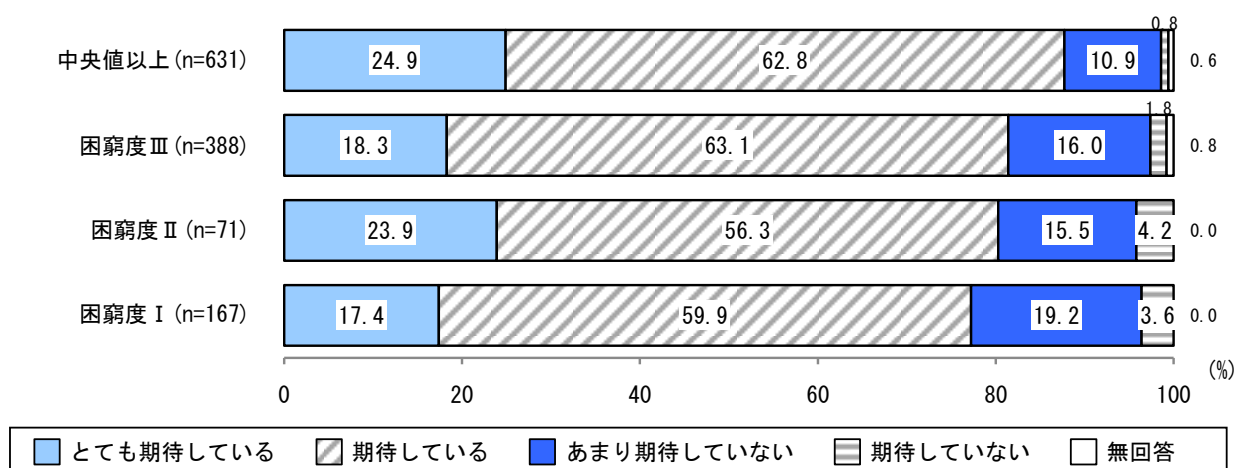
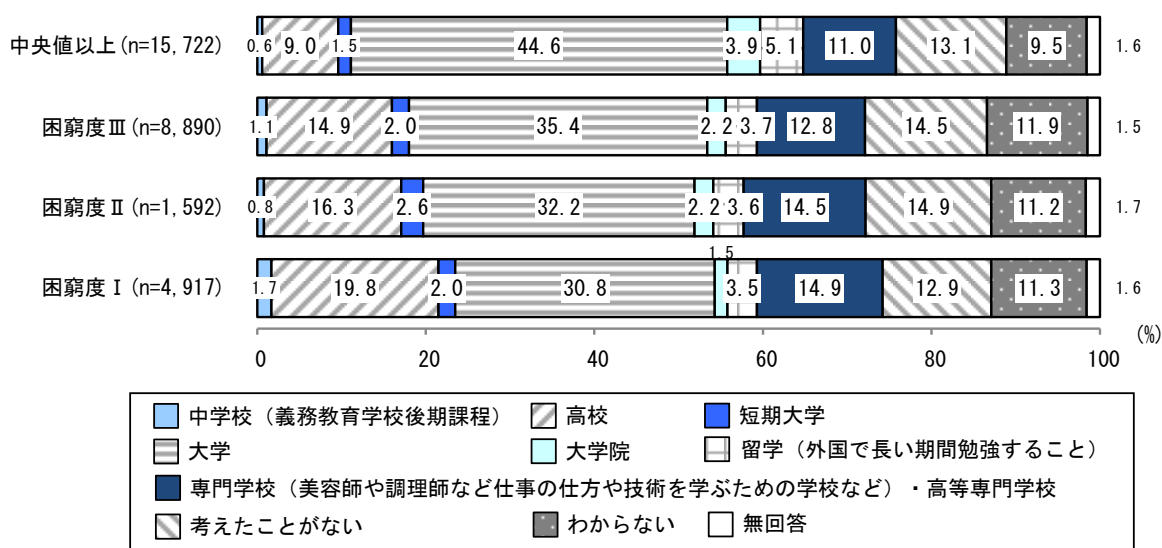


図 119. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度

困窮度別に子どもの将来への期待度を見ると、「とても期待している」の割合は、中央値以上群が24.9%で最も高く、困窮度Ⅰ群が17.4%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<枚方市>

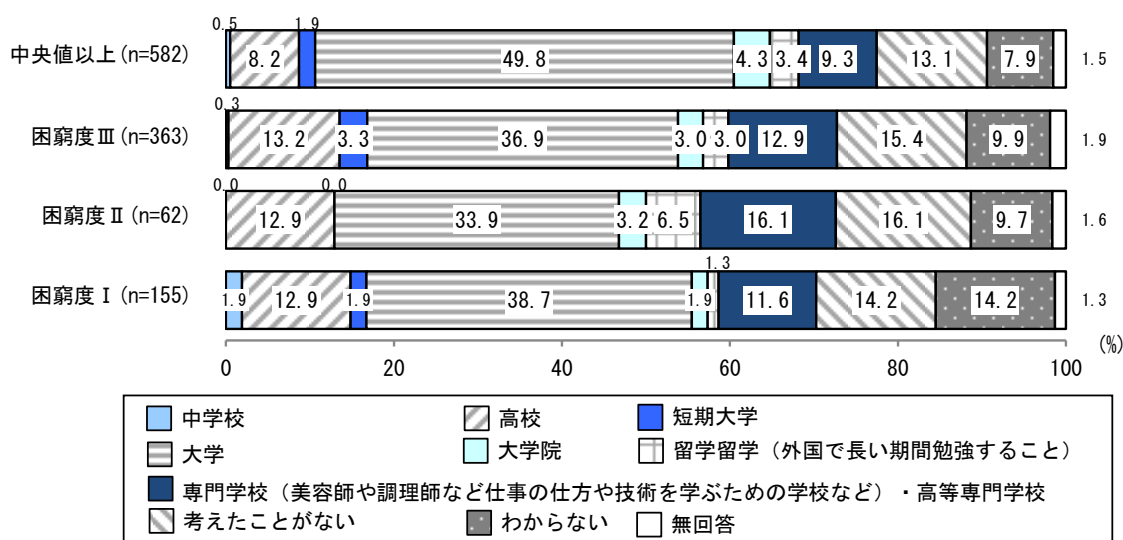
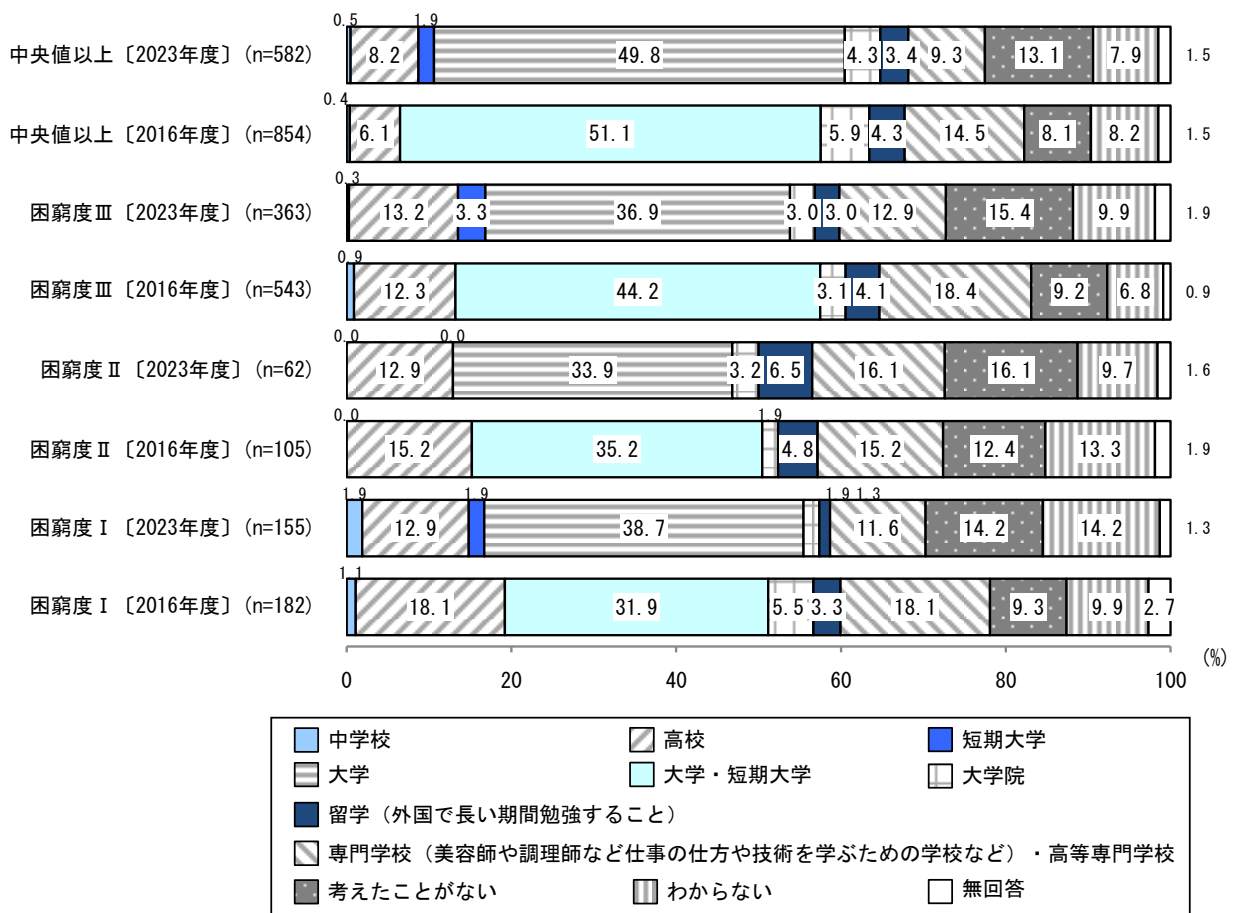


図 120. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、中学校卒業までと回答した割合が、困窮度Ⅰ群が1.9%で、最も高くなっている。

<2016 年度調査との比較／枚方市>



※1 「短期大学」「大学」は、2016 年度調査では「大学・短期大学」

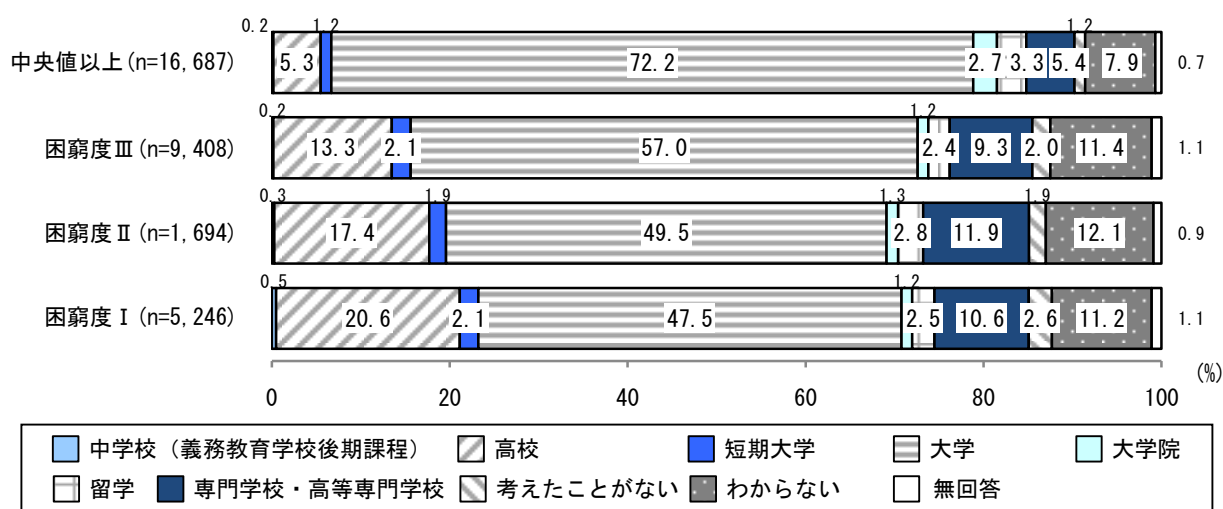
※2 「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」は、2016 年度調査では「専門学校」

図 121. 困窮度別に見た、希望する進学先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「高校」と回答した割合は、中央値以上群、困窮度Ⅲ群では、2016 年度調査と比べて高くなっている。

困窮度別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 14）

<大阪府内全体>



<枚方市>

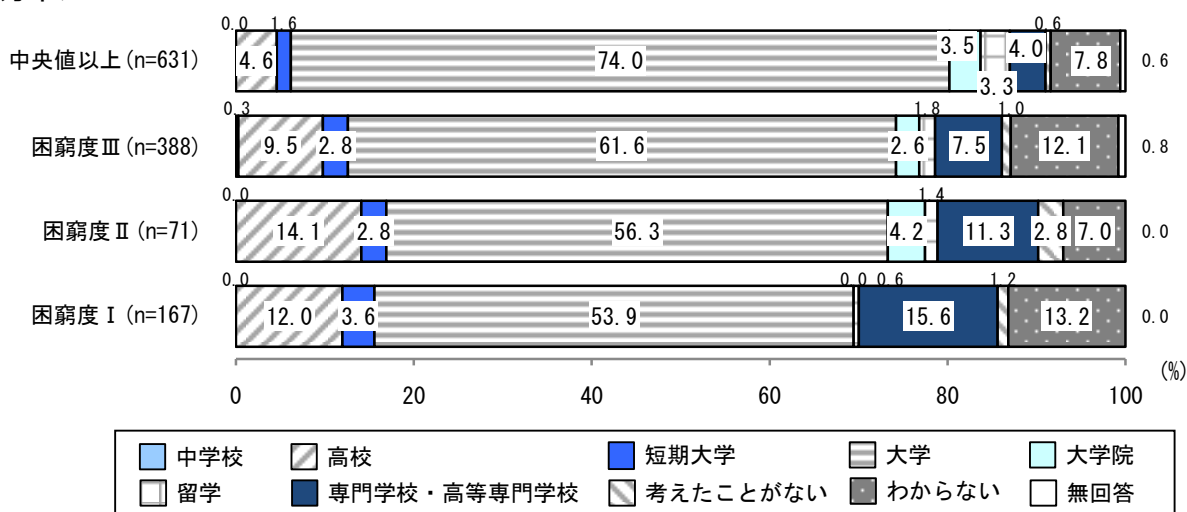
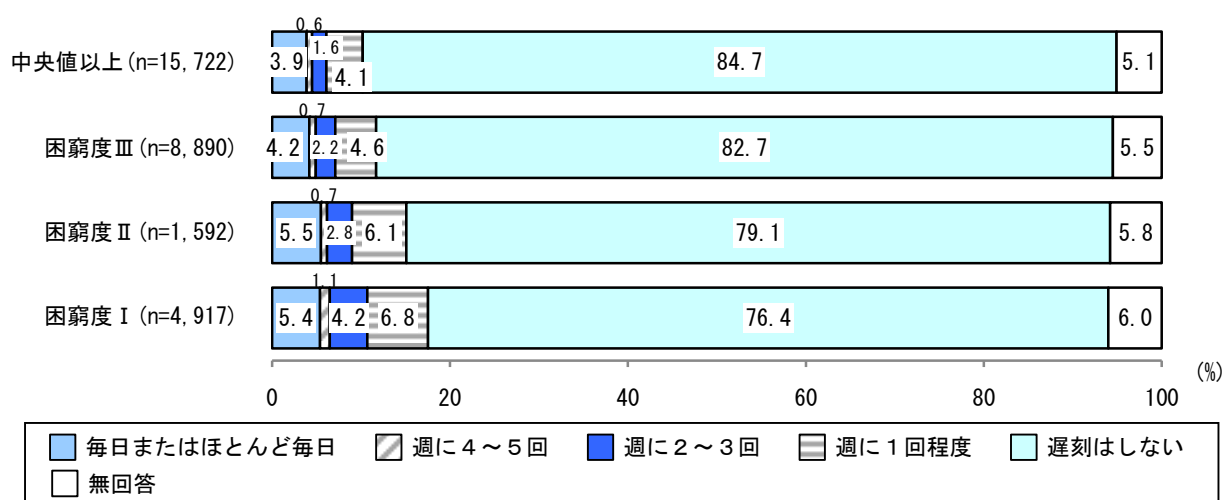


図 122. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、「大学」と回答した割合は、中央値以上群が74.0%で最も高く、困窮度Ⅰ群が53.9%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票問7）

<大阪府内全体>



<枚方市>

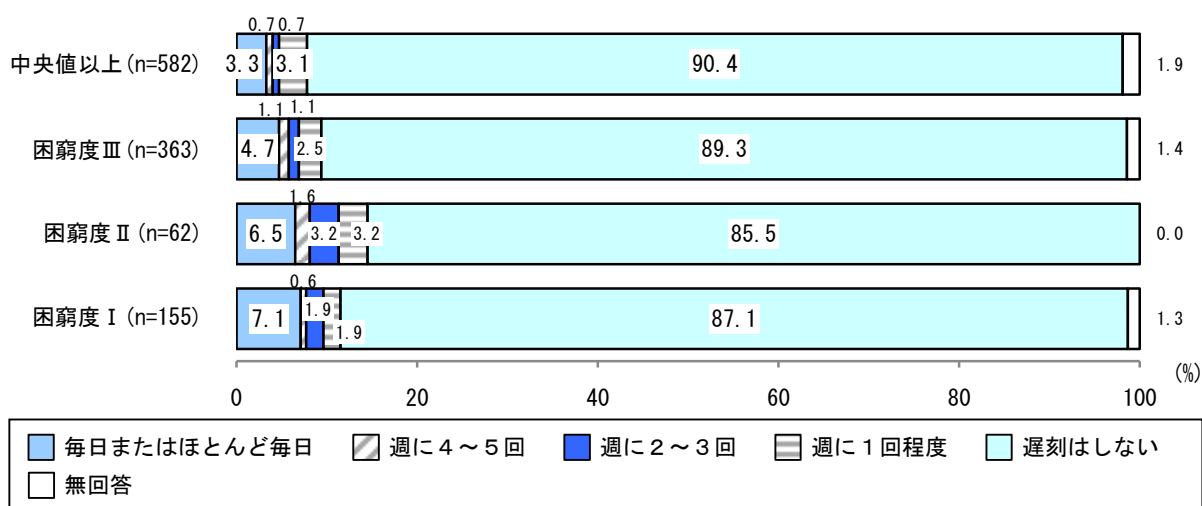
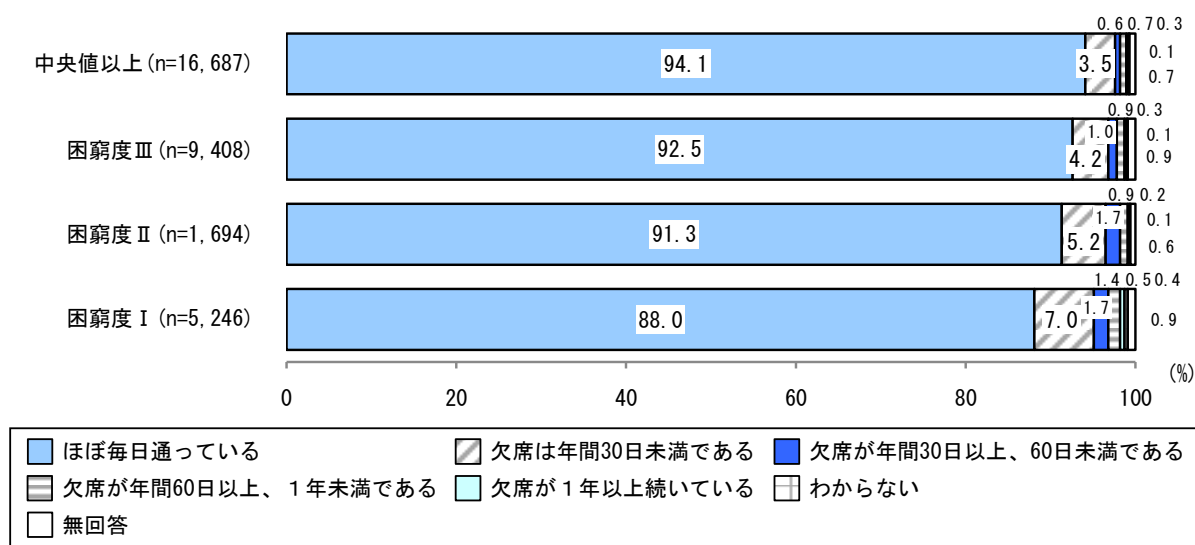


図 123. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、「毎日またはほとんど毎日」は困窮度Ⅰ群が7.1%と最も高くなっている。「週に2～3回」、「週に1回程度」は困窮度Ⅱ群が最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票問 15）

<大阪府内全体>



<枚方市>

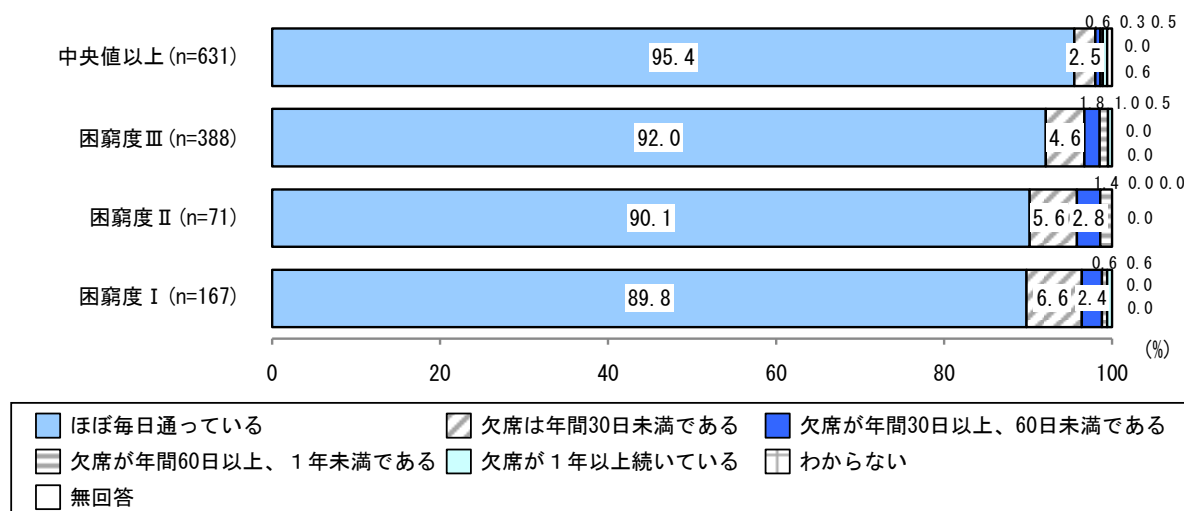
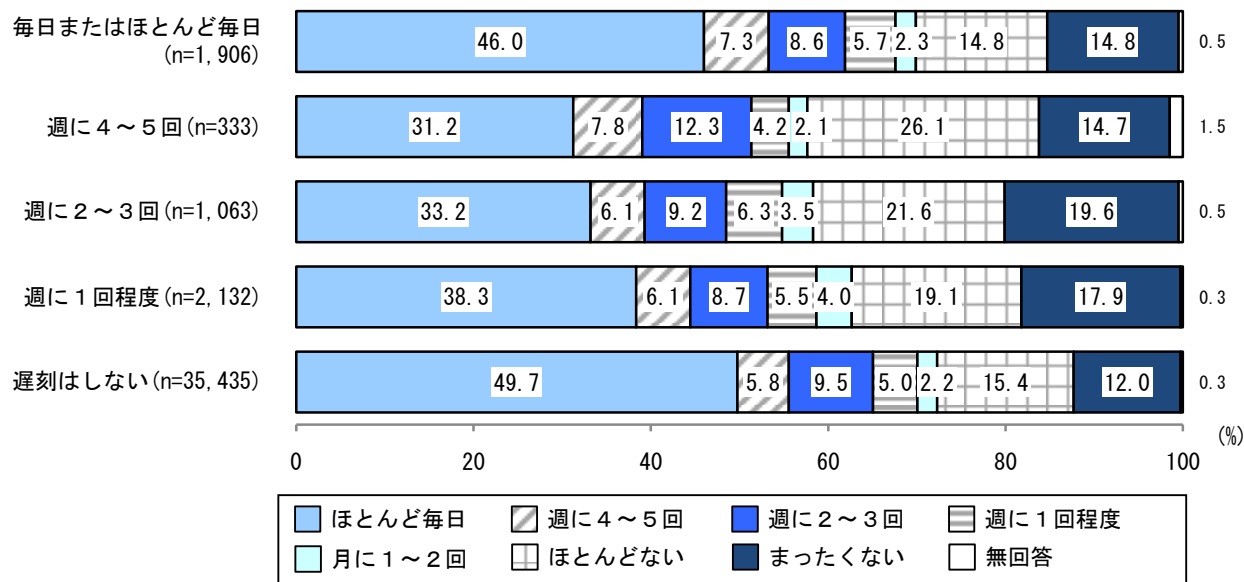


図 124. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の割合が低くなり、困窮度Ⅰ群が89.8%と最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8①)

<大阪府内全体>



<枚方市>

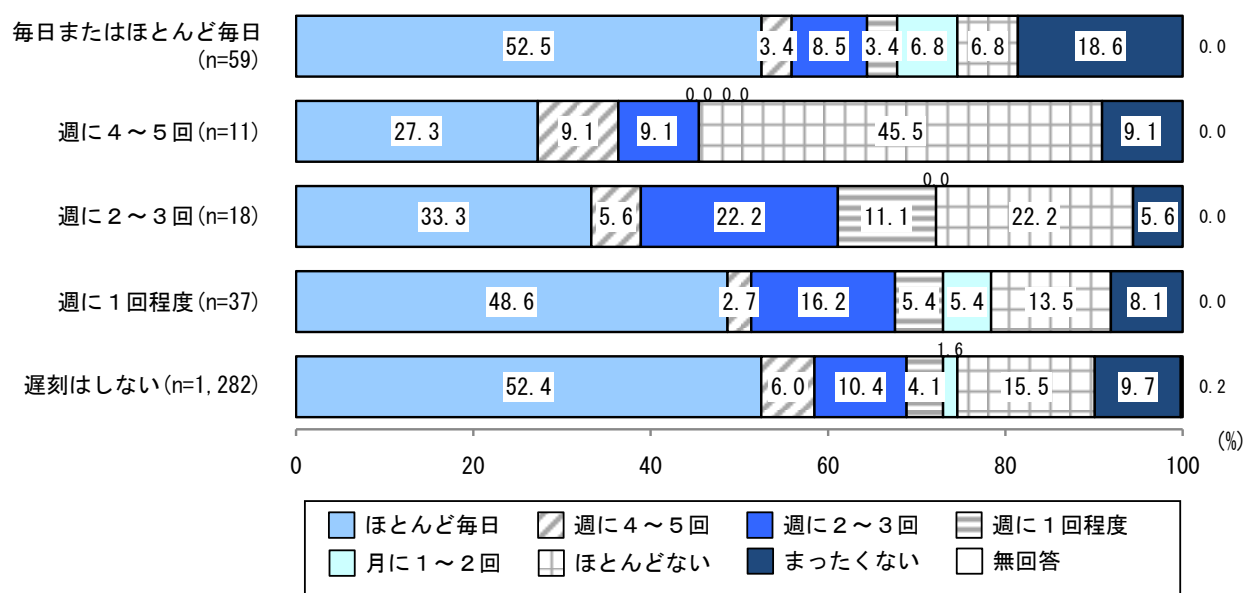
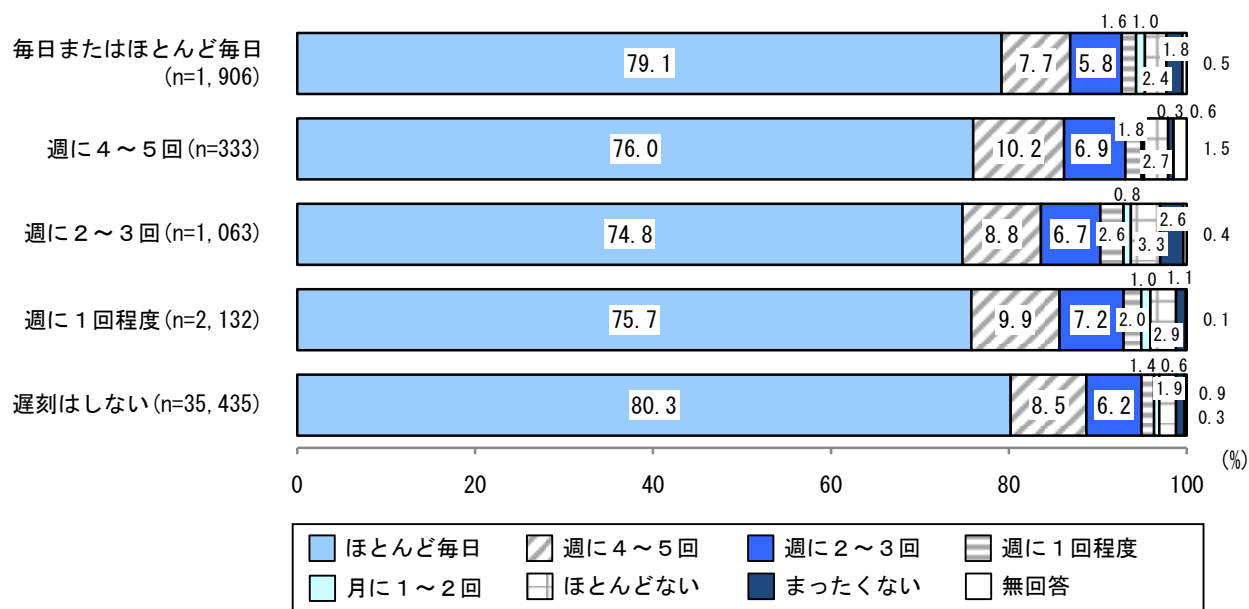


図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「まったくない」と回答する割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが18.6%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8②)

<大阪府内全体>



<枚方市>

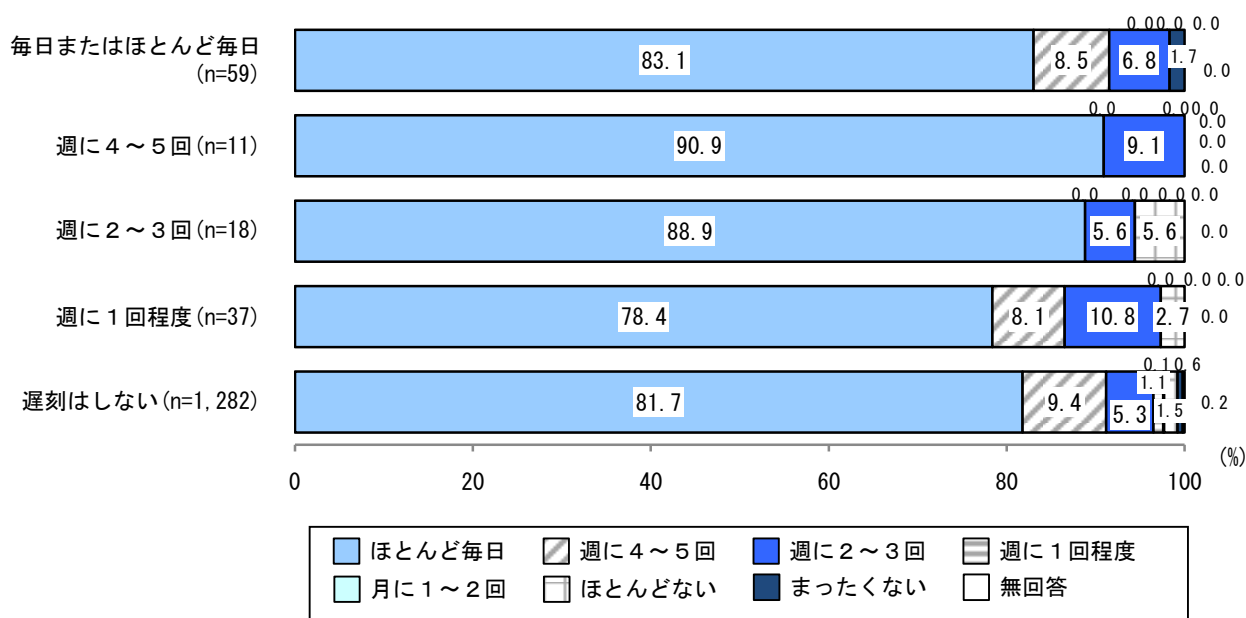
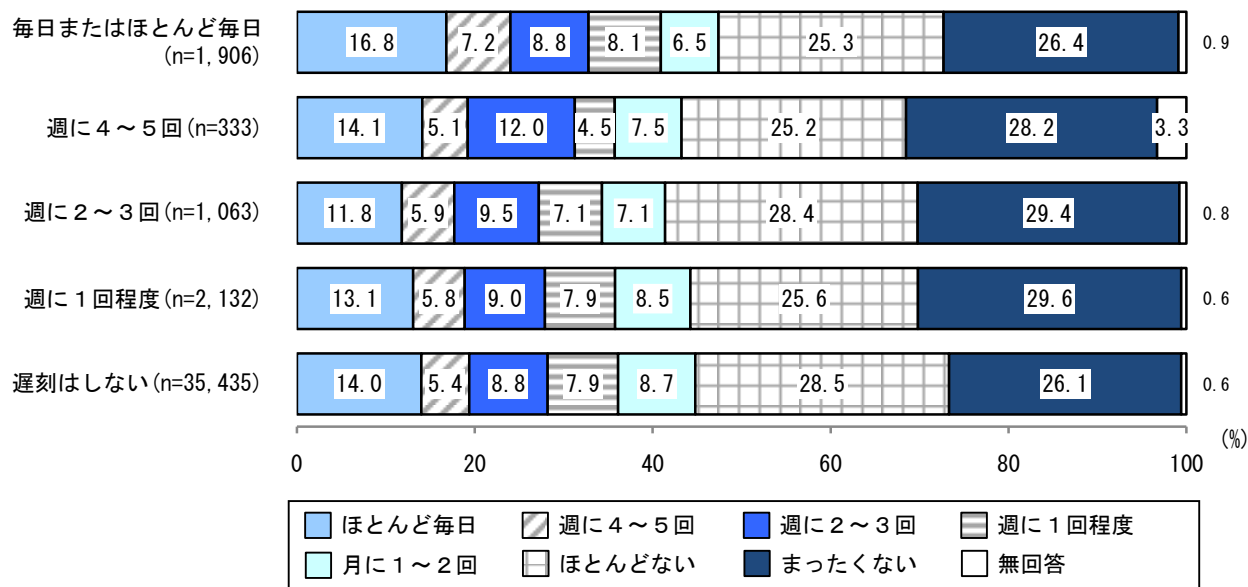


図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「まったくない」と回答する割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが1.7%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（子ども票問7×保護者票問8⑤）

<大阪府内全体>



<枚方市>

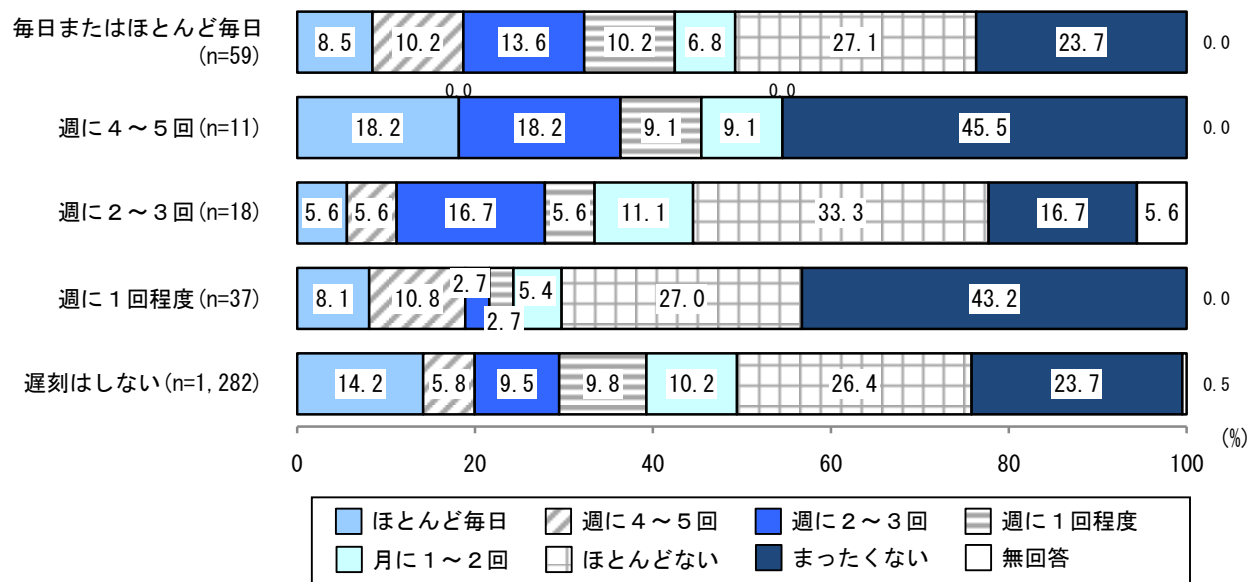
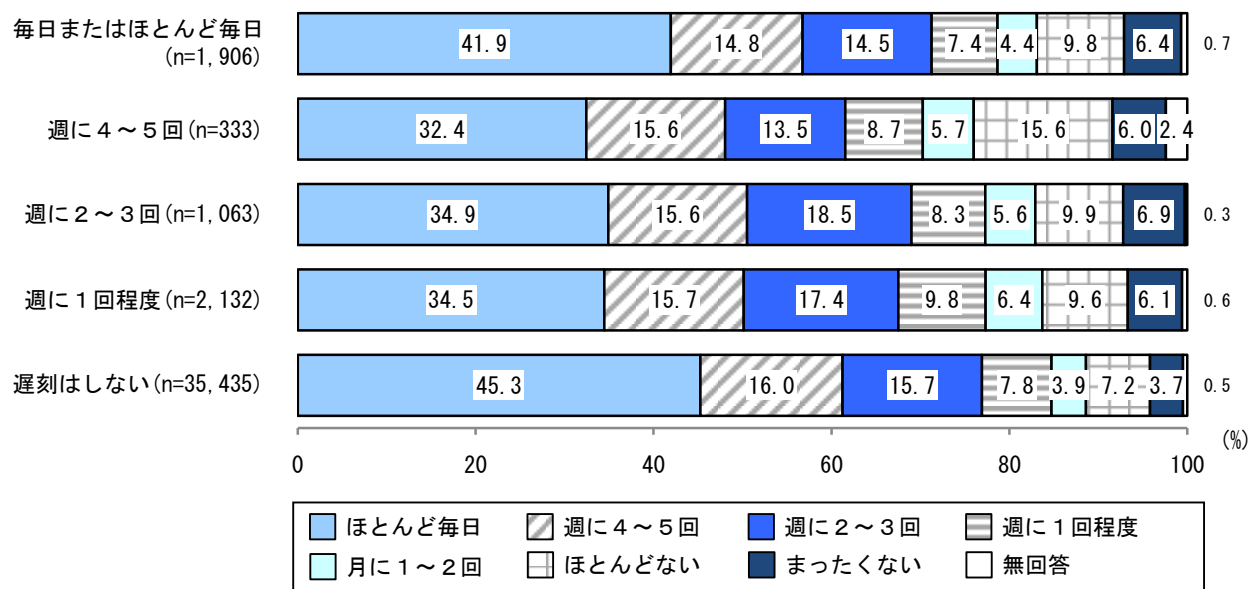


図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

学校への遅刻別におうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、週に4～5回遅刻をしている子どもが45.5%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑥)

<大阪府内全体>



<枚方市>

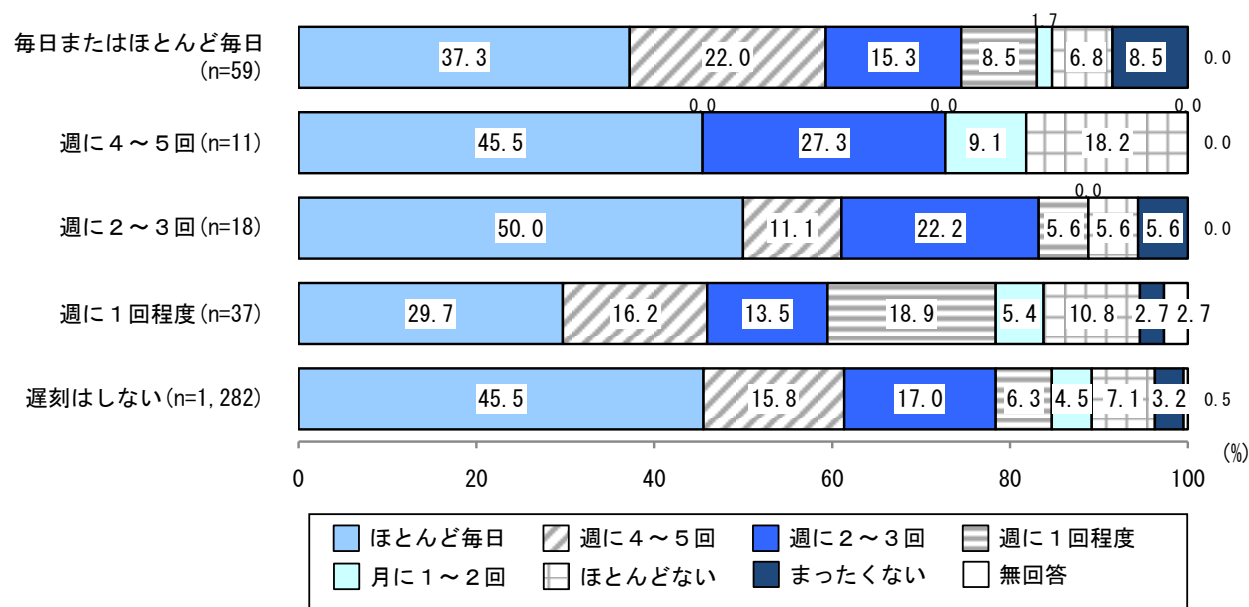
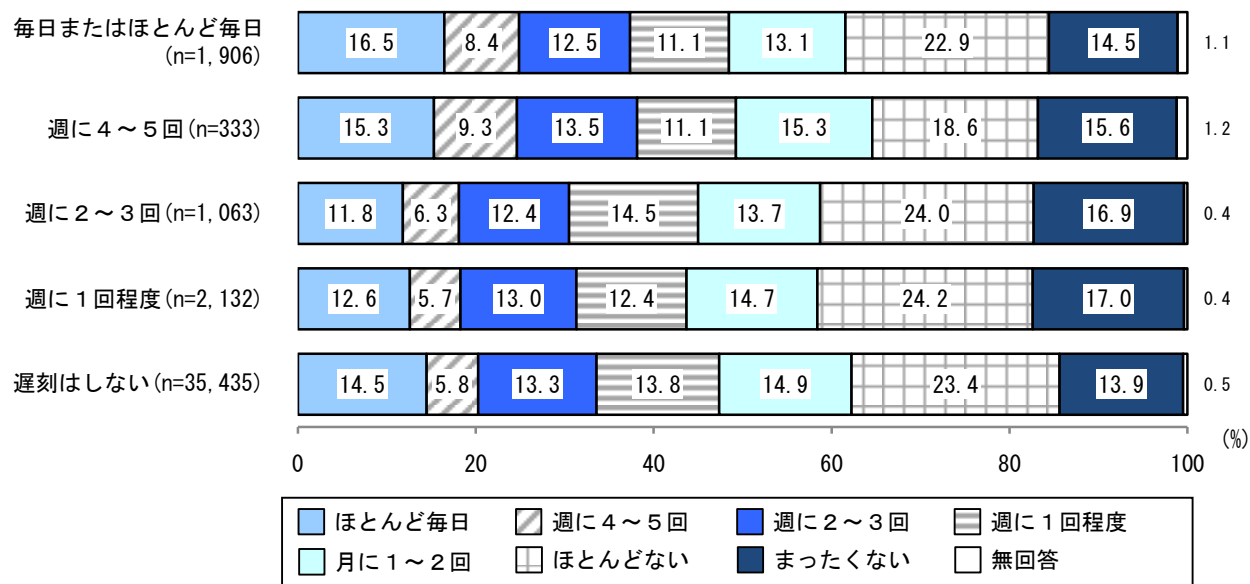


図 128. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが8.5%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(子ども票問7×保護者票問8⑦)

<大阪府内全体>



<枚方市>

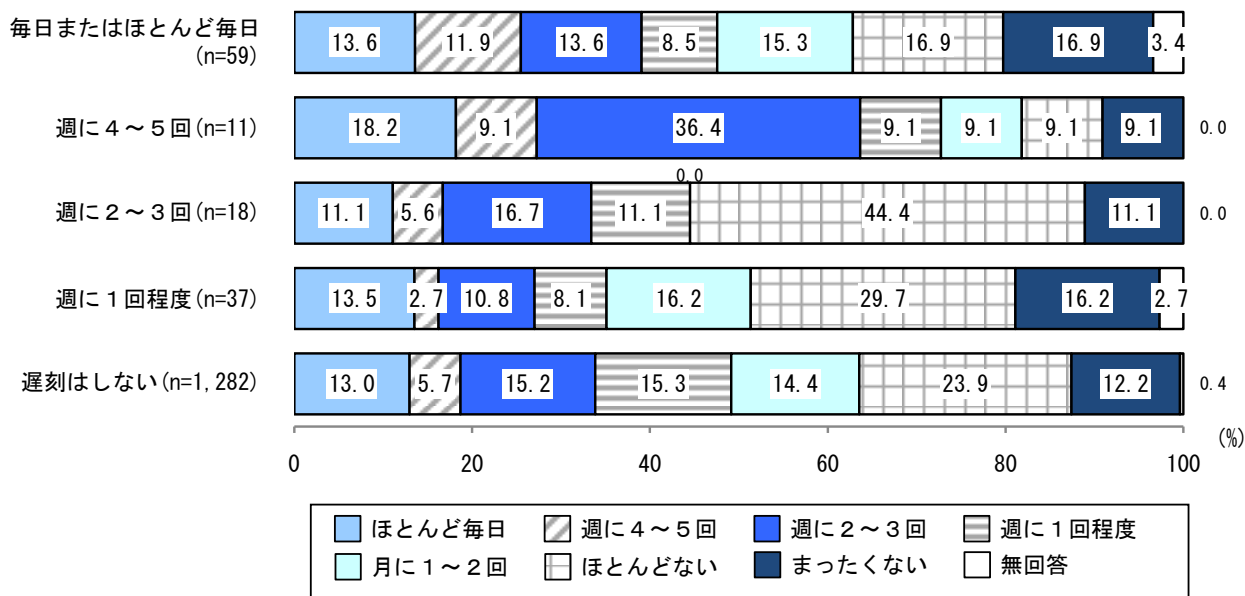
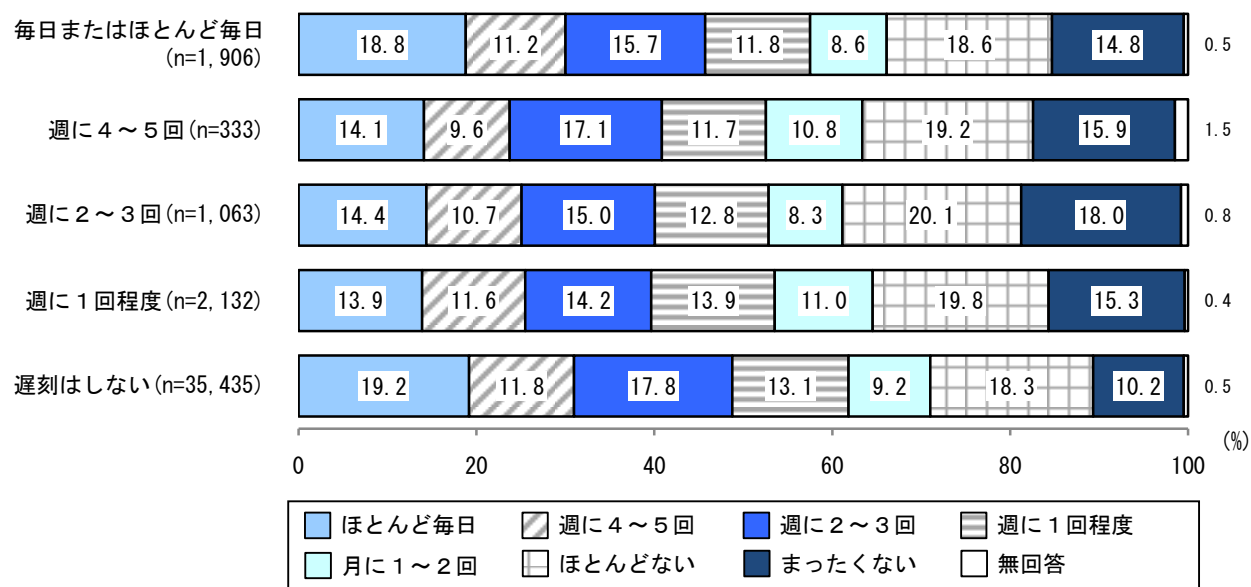


図 129. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は、週に4～5回遅刻をしている子どもが18.2%で最も高く、一方で、「まったくない」の割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもの割合が16.9%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑧)

<大阪府内全体>



<枚方市>

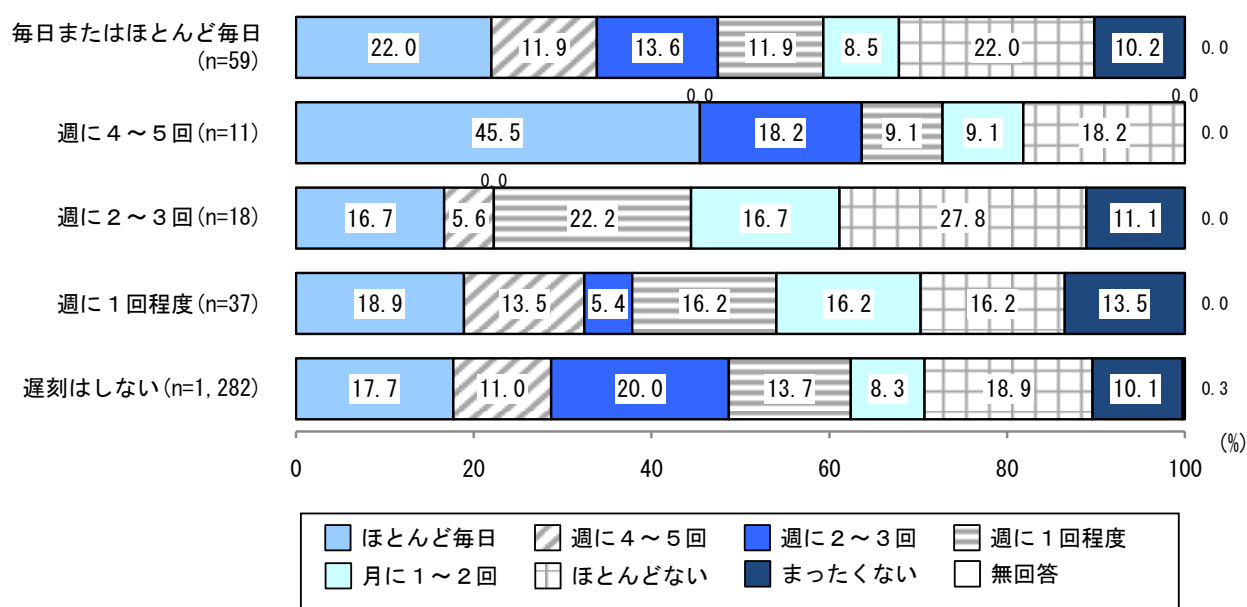
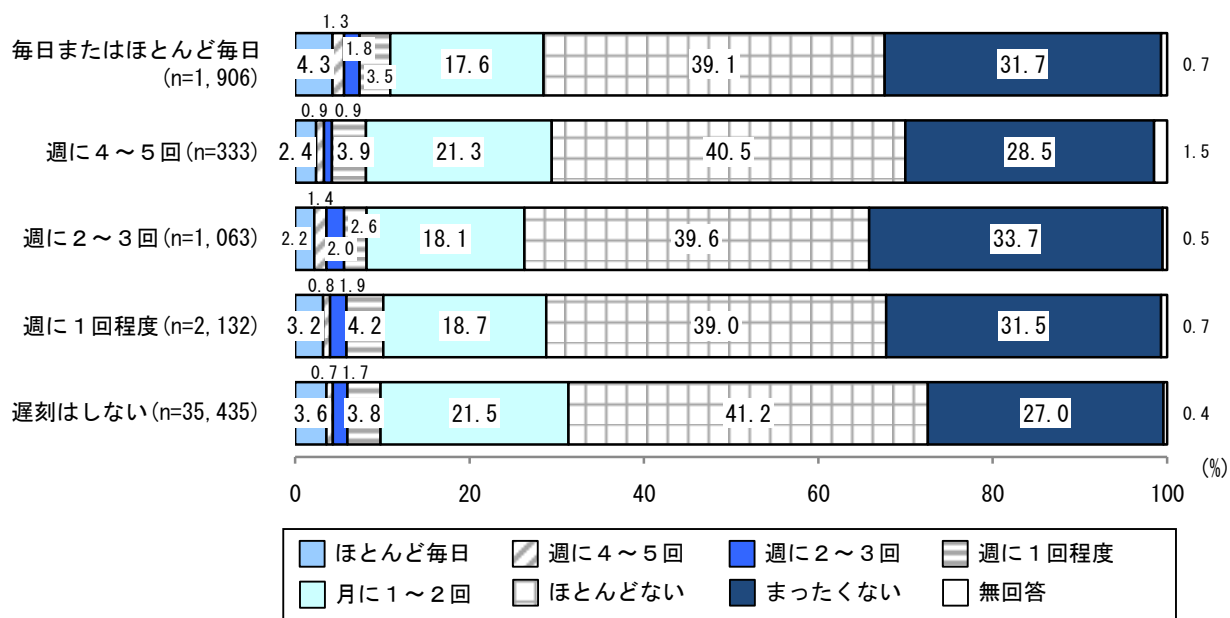


図 130. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は、週に4～5回遅刻をする子どもが45.5%で最も高く、一方で、「まったくない」の割合は、週に1回程度遅刻をしている子どもが13.5%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか
(子ども票問7×保護者票問8⑨)

<大阪府内全体>



<枚方市>

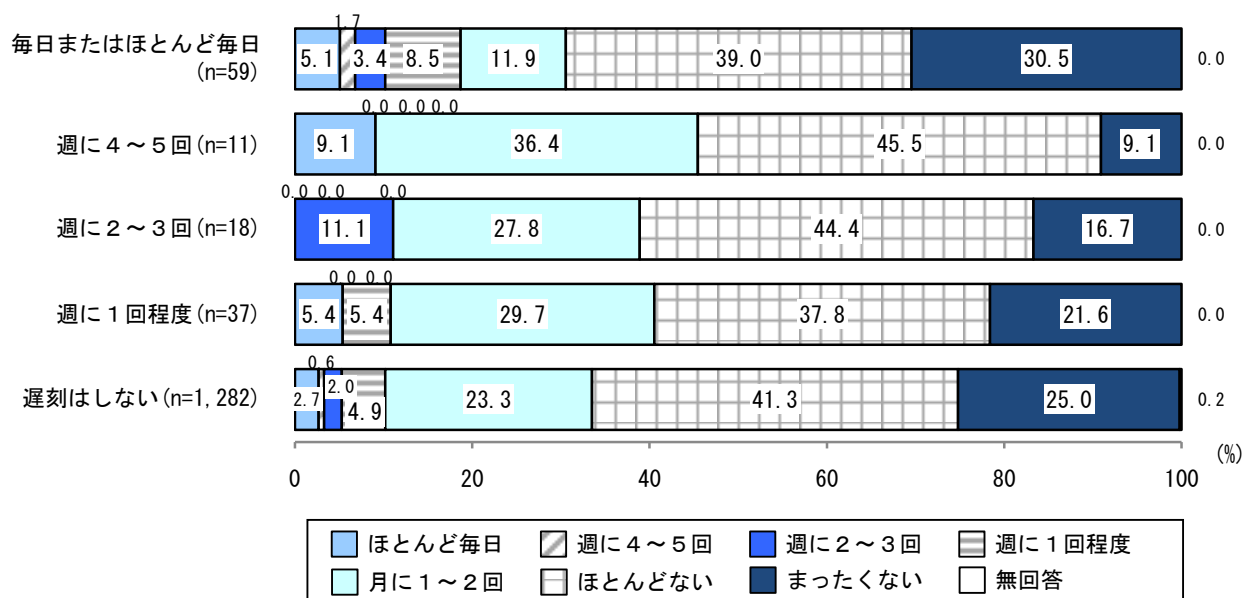
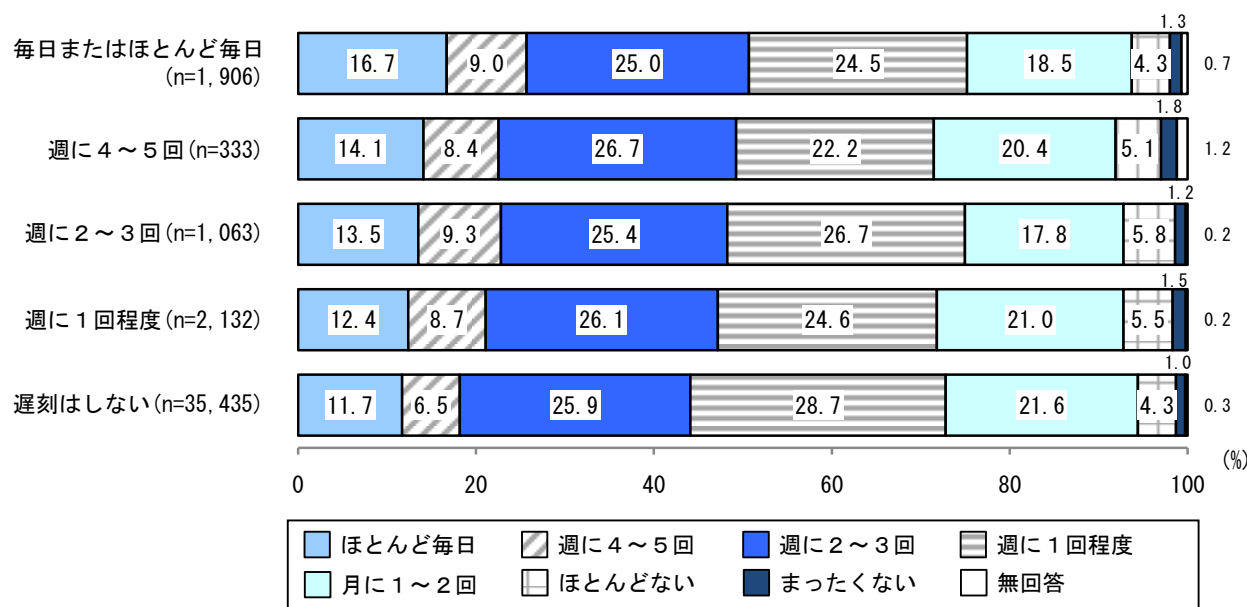


図 131. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」と回答した割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが30.5%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(子ども票問7×保護者票問8⑩)

<大阪府内全体>



<枚方市>

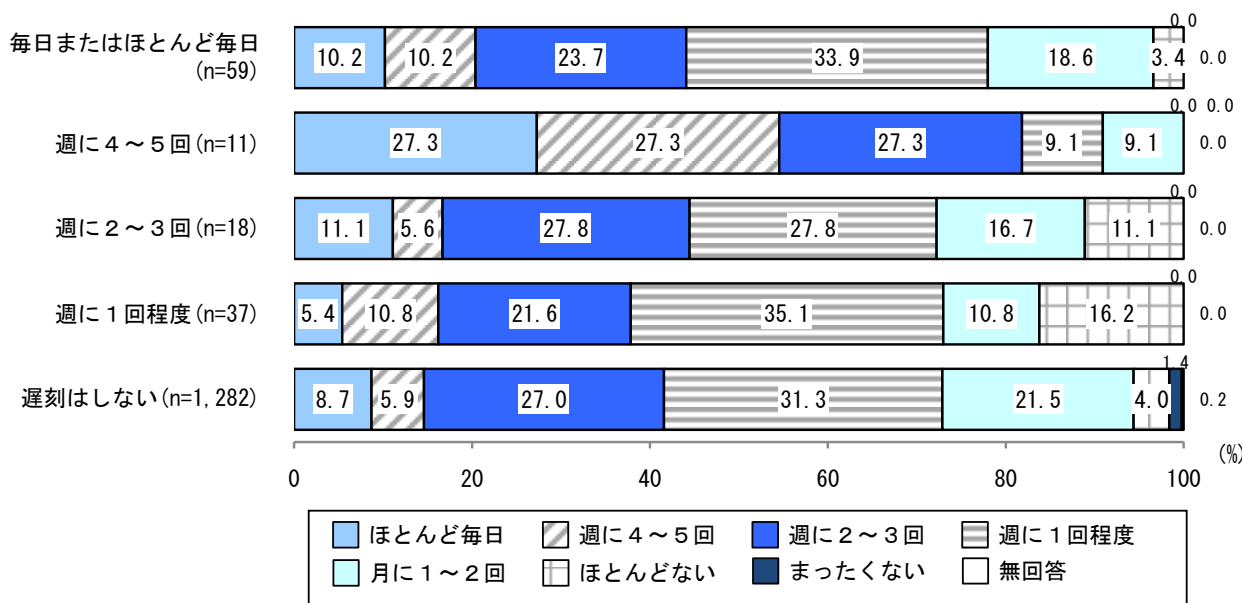
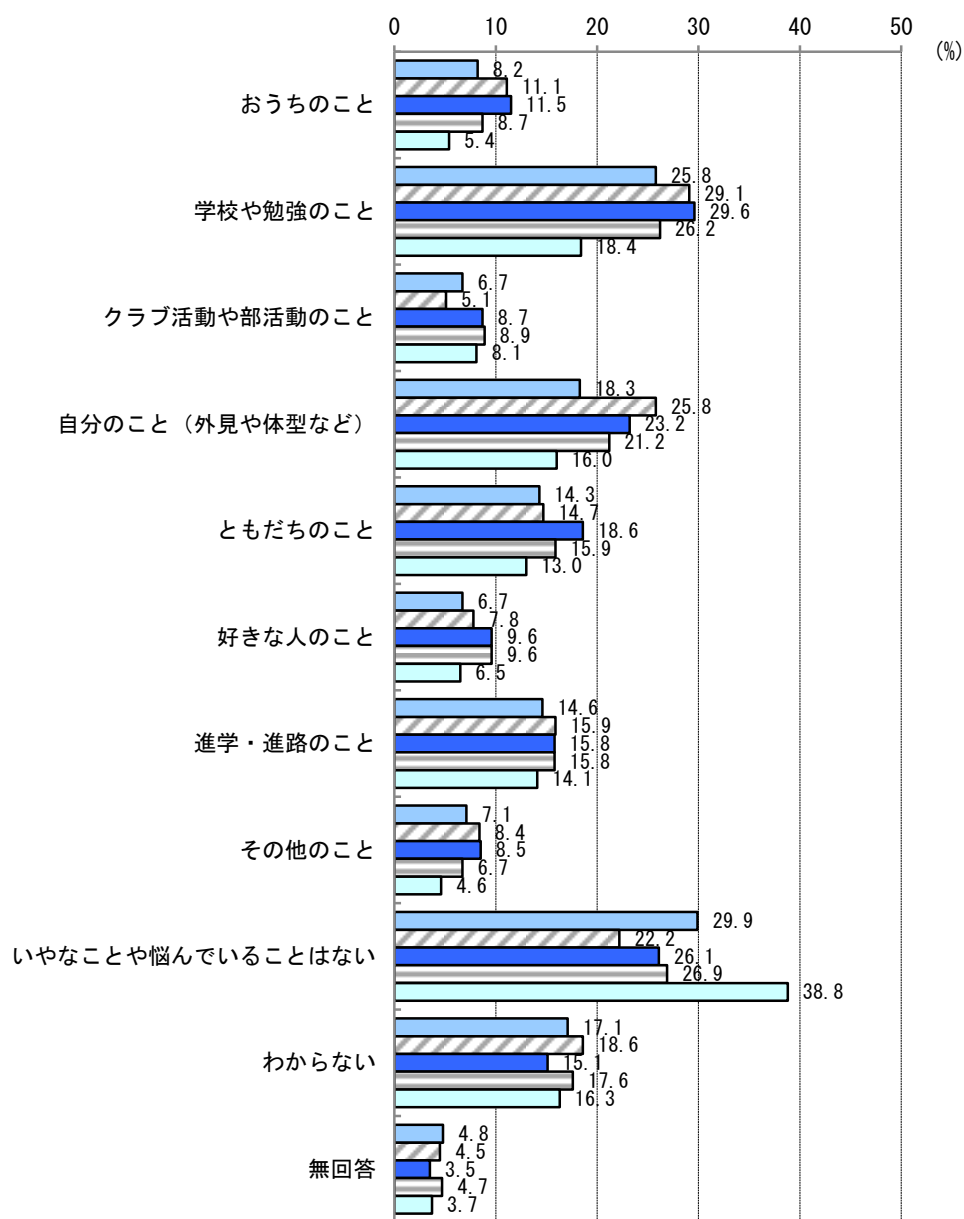


図 132. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもが27.3%で割合が最も高く、一方で、「ほとんどない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が16.2%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問7×子ども票問17）

<大阪府内全体>



■ 毎日またはほとんど毎日 (n=1,906)
 ■ 週に4～5回 (n=333)
 ■ 週に2～3回 (n=1,063)
■ 週に1回程度 (n=2,132)
■ 遅刻はしない (n=35,435)

<枚方市>

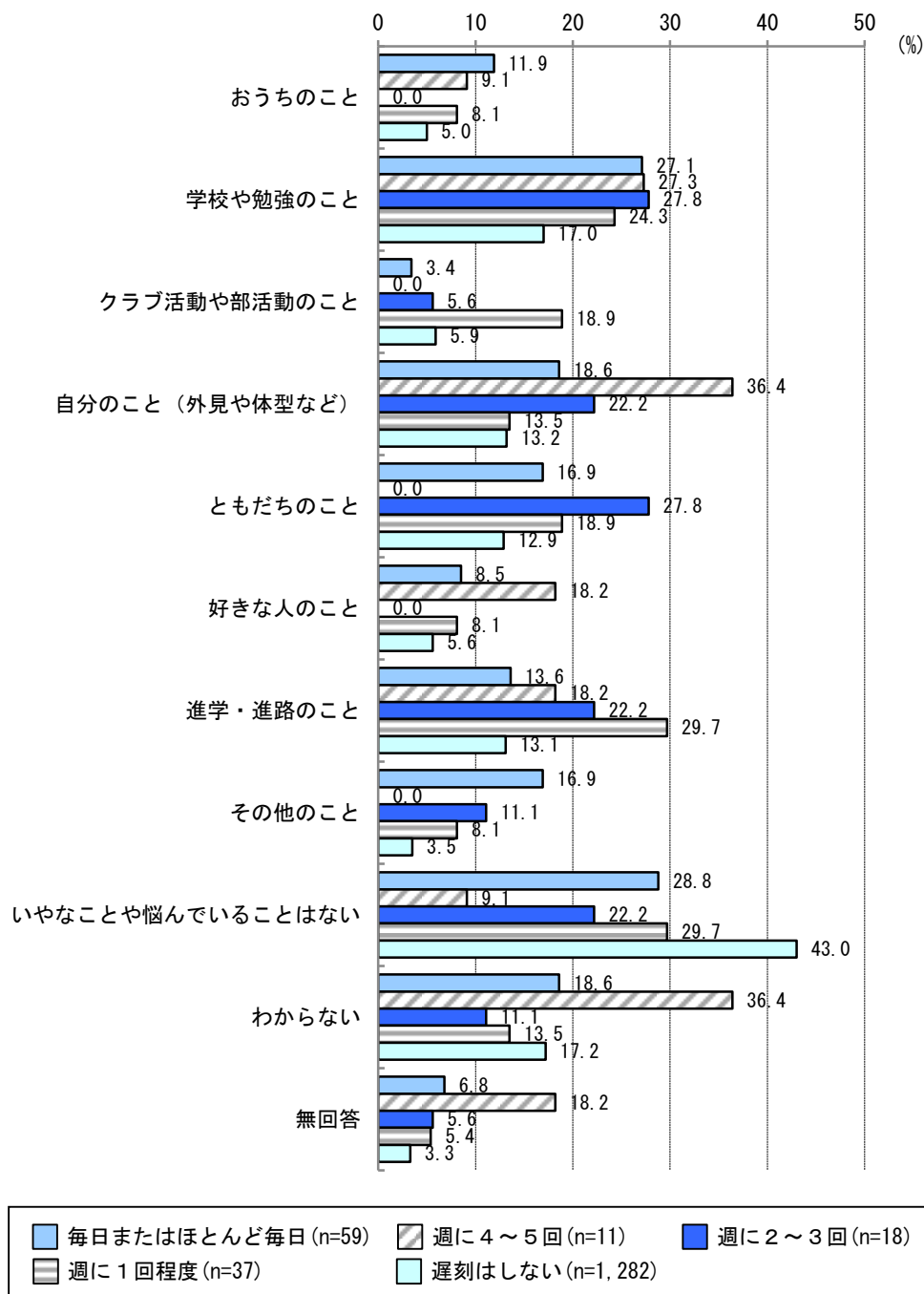
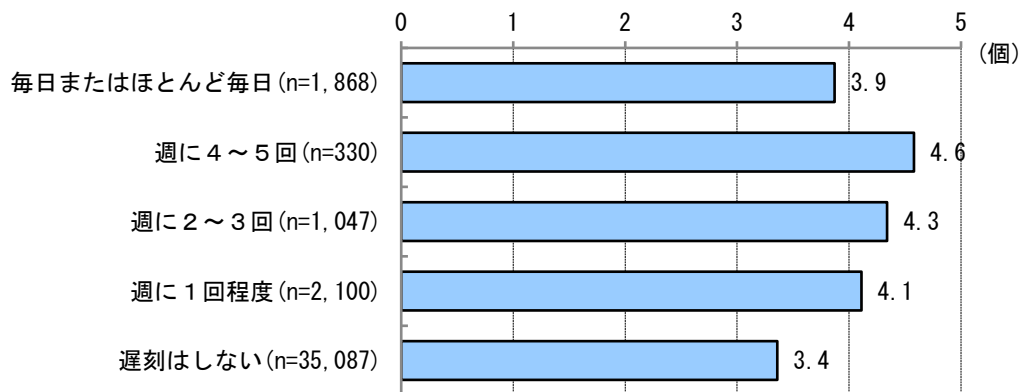


図 133. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること

学校への遅刻別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「おうちのこと」の割合は、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが11.9%で割合が最も高く、一方で、「いやなことや悩んでいることはない」は、遅刻はしない子どもの割合が43.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(子ども票問7×子ども票問19・20)

<大阪府内全体>



<枚方市>

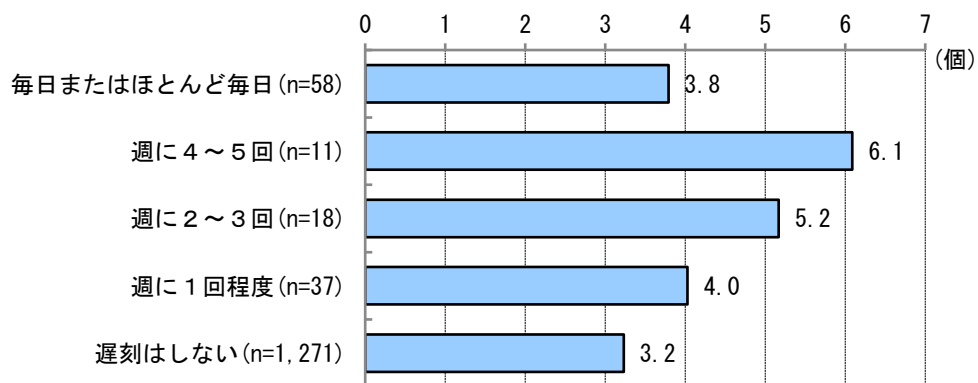
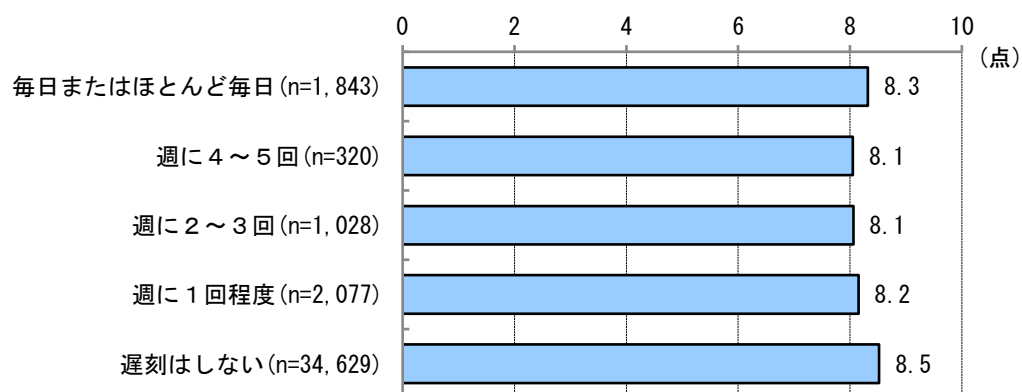


図 134. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

学校への遅刻別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週に4～5回」遅刻をしている子どもが6.1個で最も多く、次いで「週に2～3回」の子どもが5.2個となっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問7×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<枚方市>

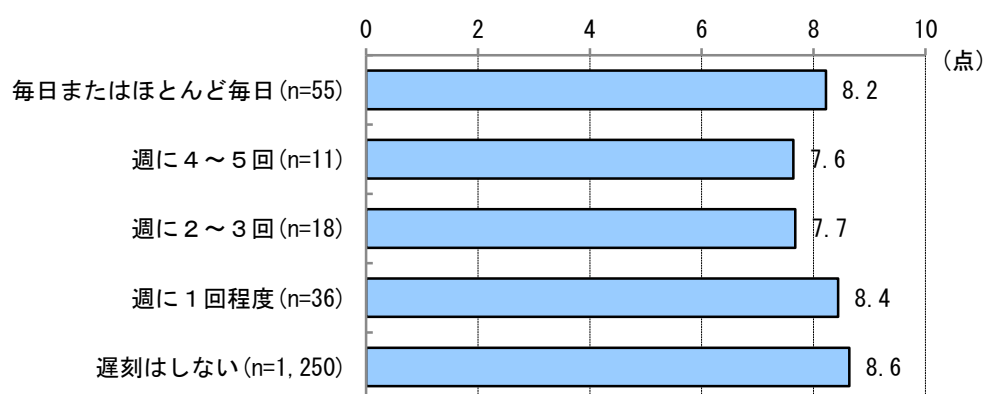
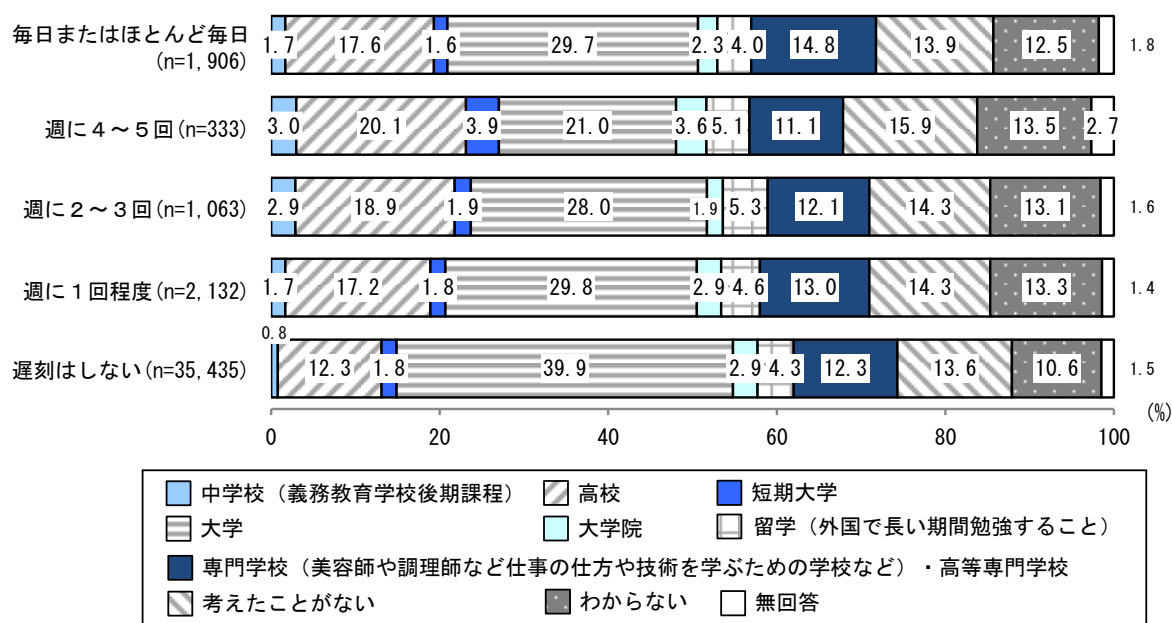


図 135. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻している子どもは「遅刻はしない」子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低い。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票問7×子ども票問24）

<大阪府内全体>



<枚方市>

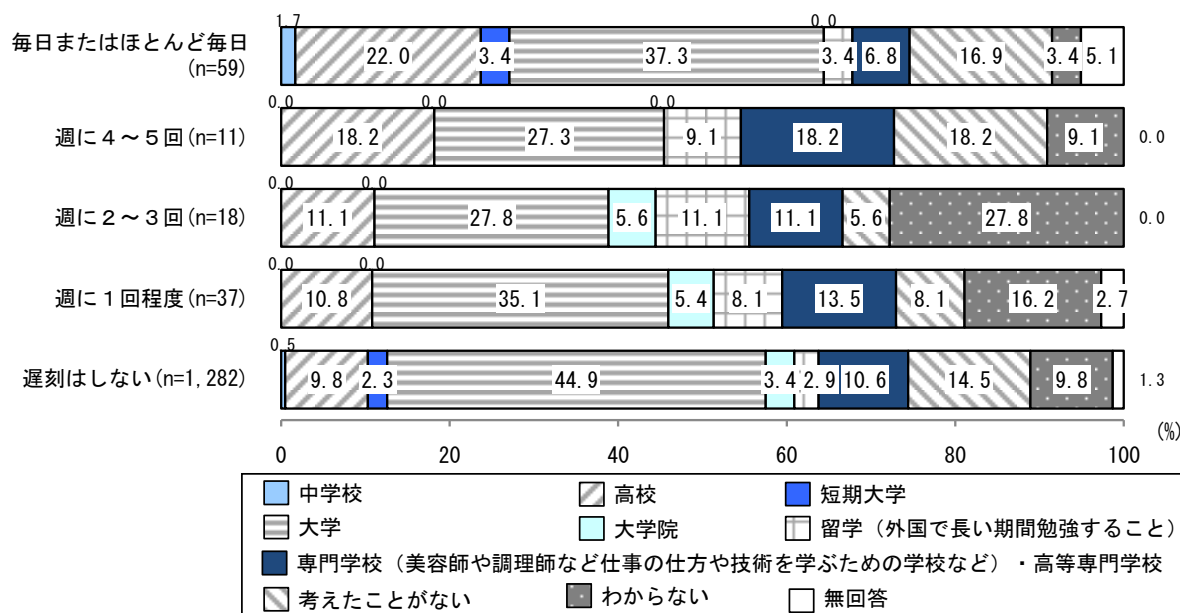
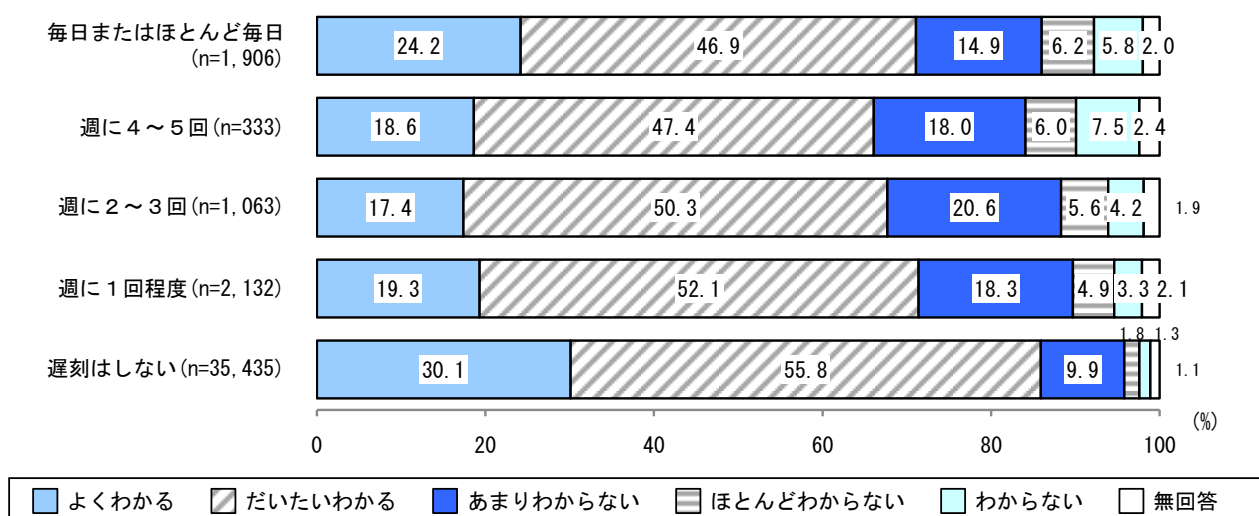


図 136. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に希望する進学先を見ると、「大学」では遅刻はしない子どもの割合が44.9%で、最も高くなっている。また、遅刻の頻度が高くなるにつれ、「高校」と回答した割合が高くなっている。

学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問7×子ども票問14(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

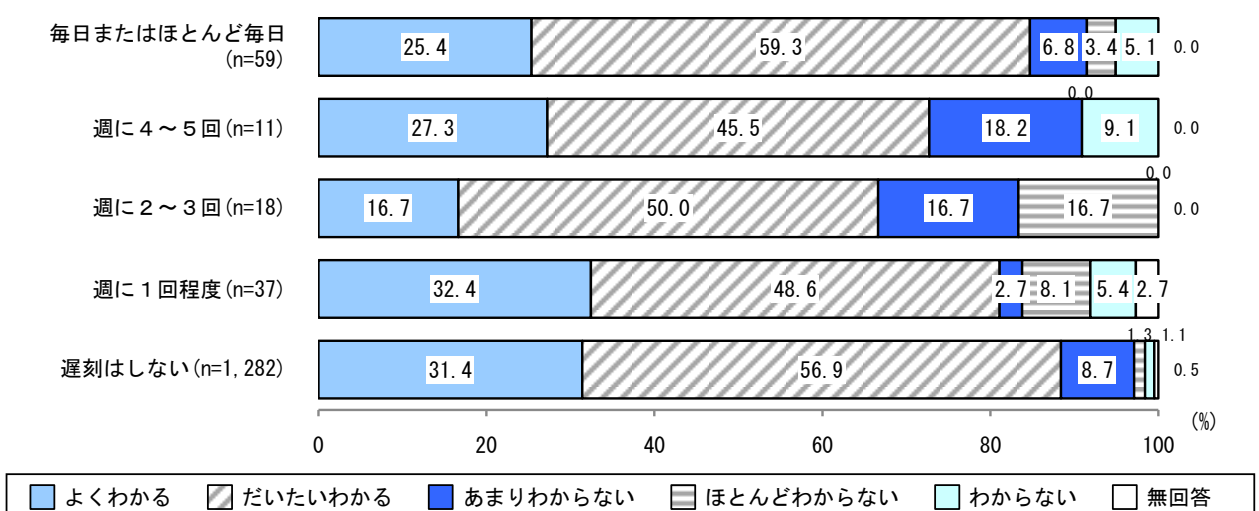
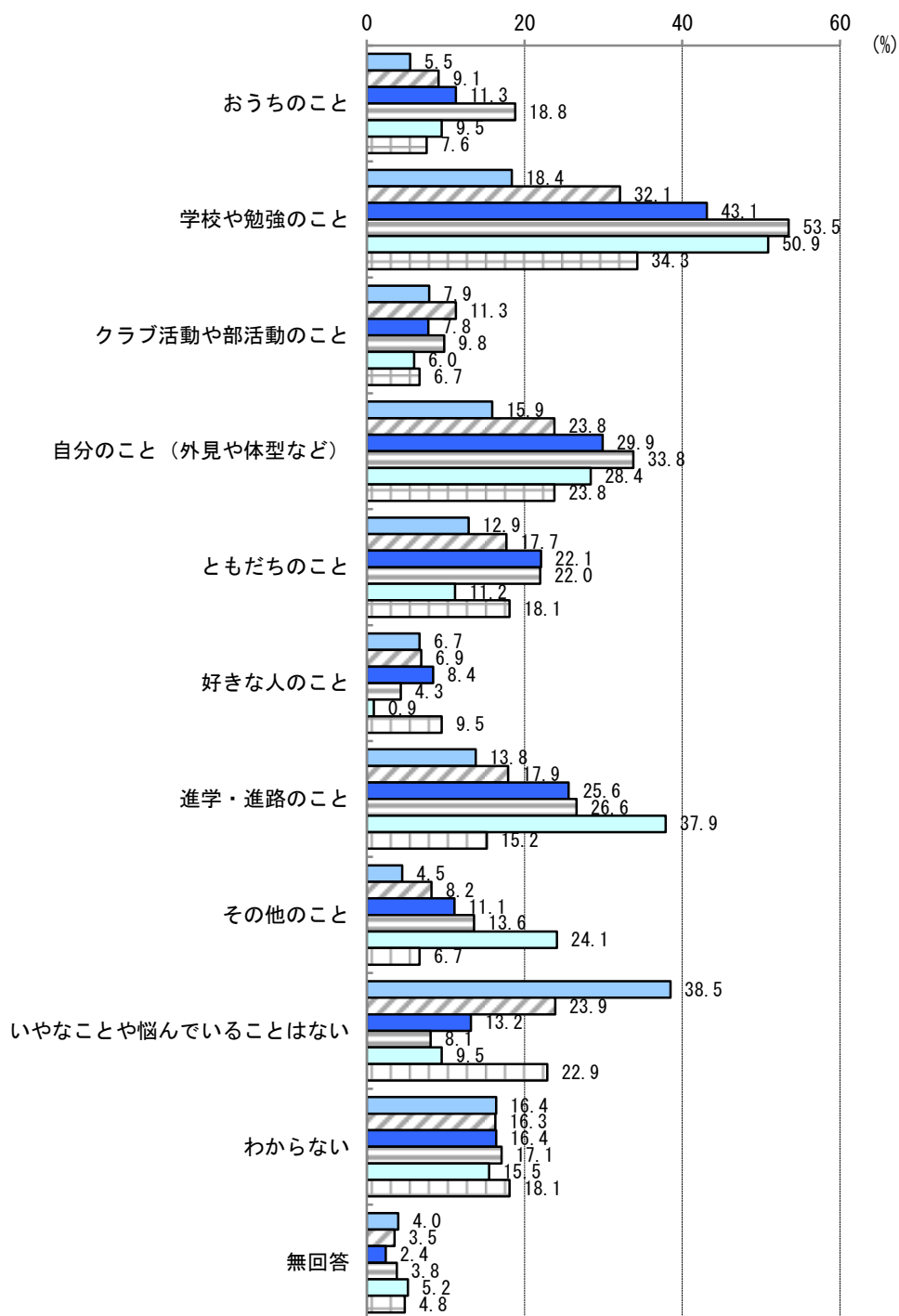


図 137. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

学校への遅刻別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」は、週に1回程度遅刻をする子どもの割合が32.4%で最も高く、「わからない」は、週に4～5回遅刻をする子どもの割合が9.1%で最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること（保護者票問 15×子ども票問 17）

<大阪府内全体>



■ ほぼ毎日通っている (n=37,661)
 ■ 欠席は年間30日未満である (n=1,775)
 ■ 欠席が年間30日以上、60日未満である (n=371)
 ■ 欠席が年間60日以上、1年未満である (n=346)
 ■ 欠席が1年以上続いている (n=116)
 ■ わからない (n=105)

<枚方市>

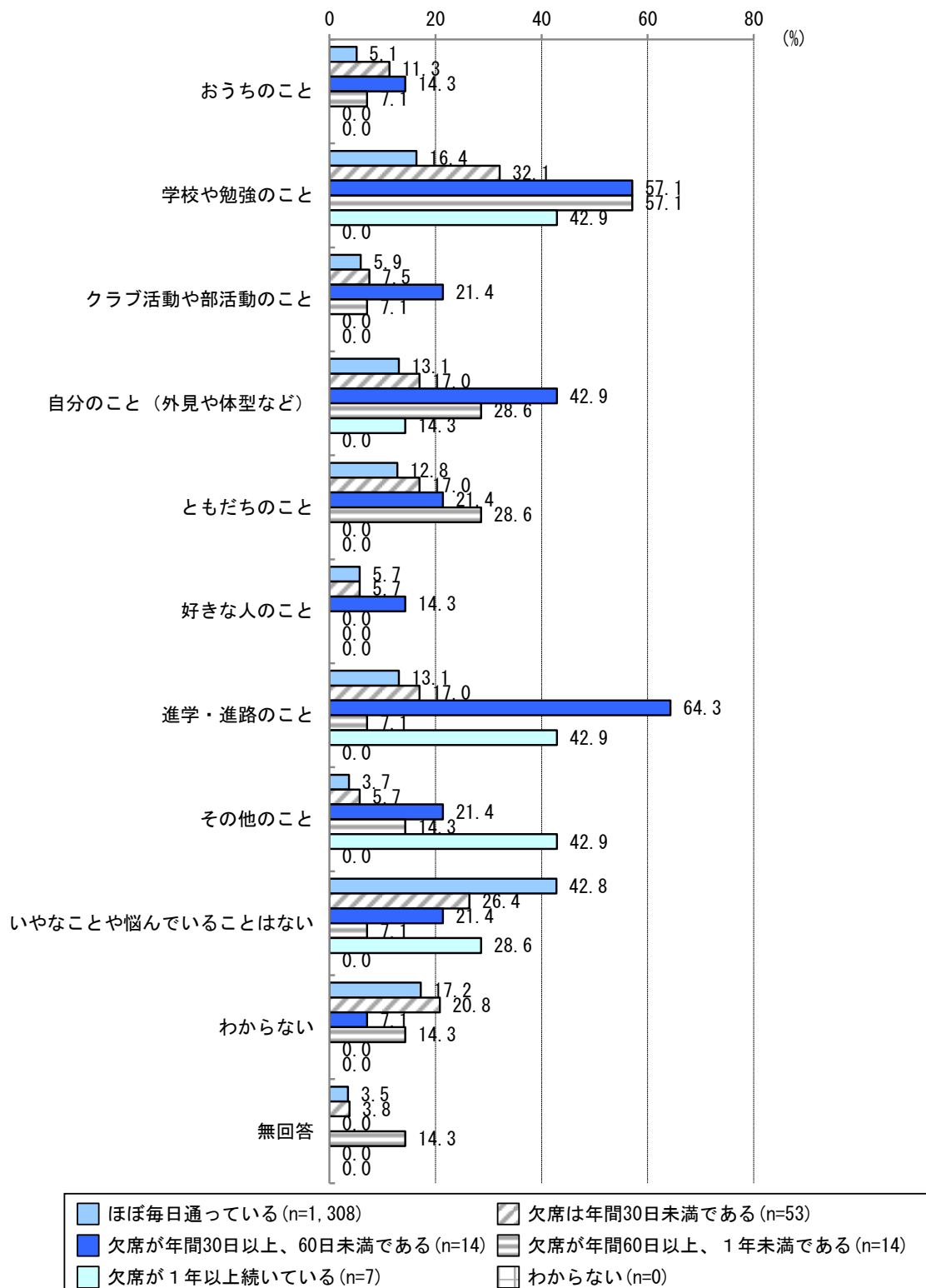
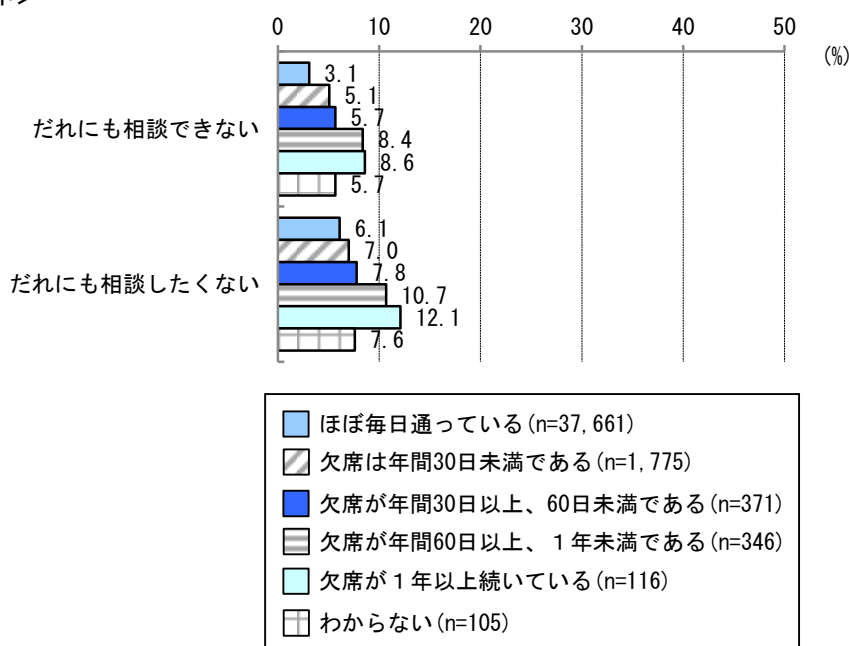


図 138. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること

子どもの通学状況別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「いやなことや悩んでいることはない」と回答した割合は、「ほぼ毎日通っている」が42.8%で最も高く、「欠席が年間60日以上、1年未満である」が7.1%で最も低くなっている。

子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合
(保護者票問 15×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<枚方市>

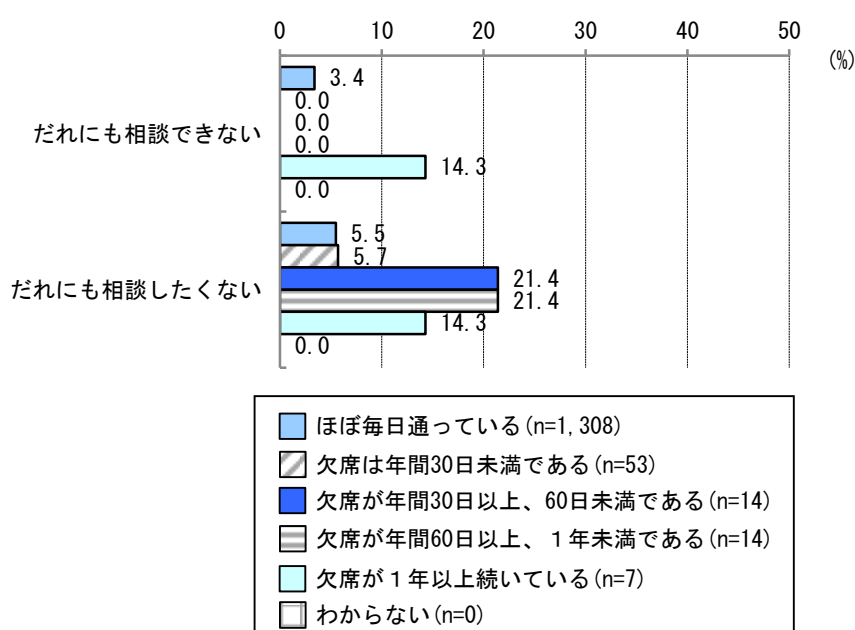
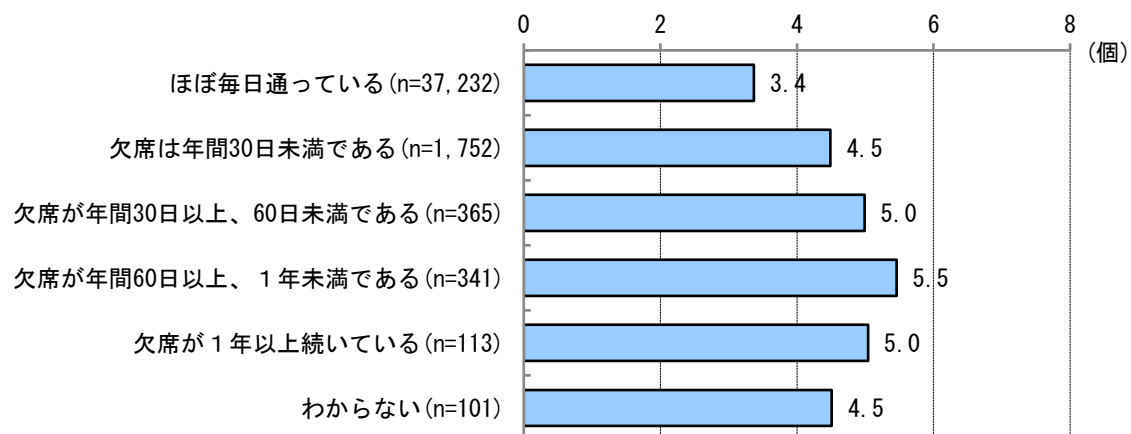


図 139. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合

子どもの通学状況別に悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合を見ると、「だれにも相談できない」と回答した人の割合は、欠席が1年以上続いている人が14.3%で最も高く、「だれにも相談したくない」と回答した人の割合は、欠席が年間30日以上、60日未満であると欠席が年間60日以上、1年未満であると回答した割合がともに21.4%で最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(保護者票問 15×子ども票問 19・20)

<大阪府内全体>



<枚方市>

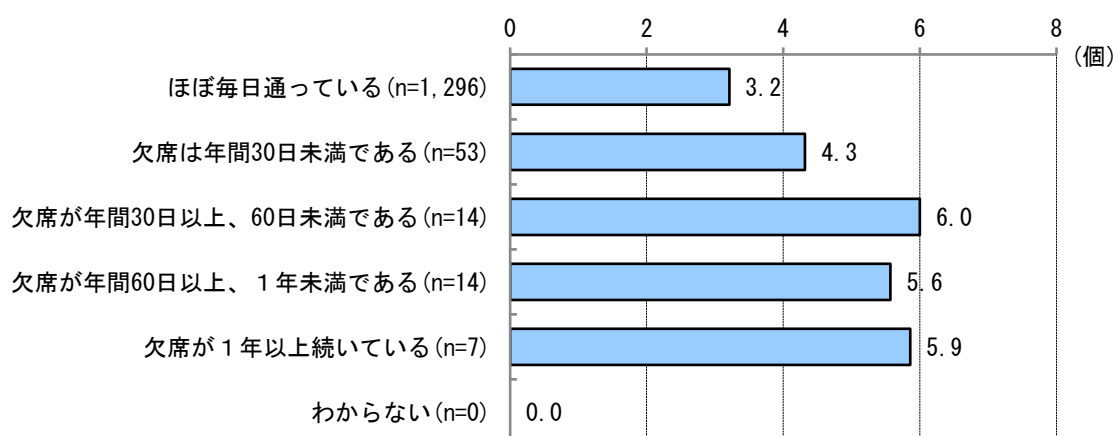
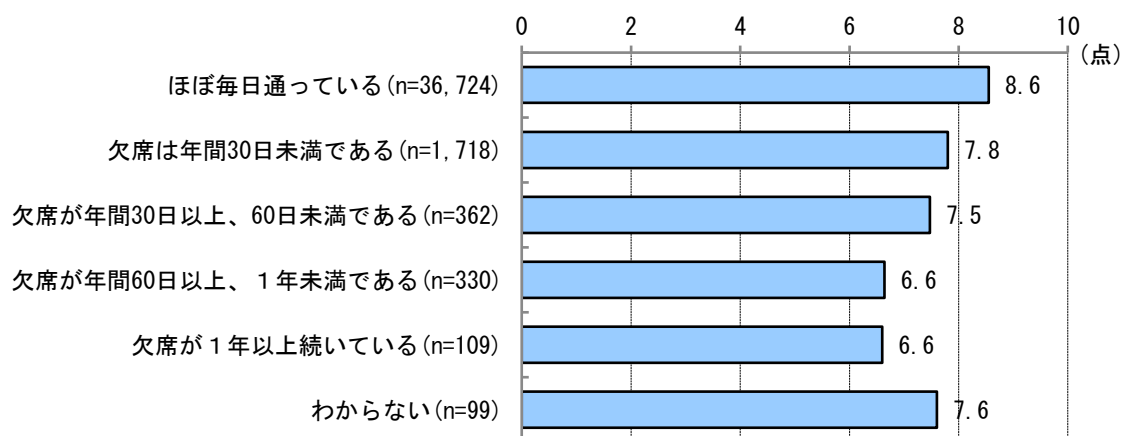


図 140. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

子どもの通学状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「欠席が年間30日以上、60日未満である」と回答した人が6.0個で最も多く、次いで「欠席が1年以上続いている」と回答した人が5.9個となっている。

子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（保護者票問 15×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<枚方市>

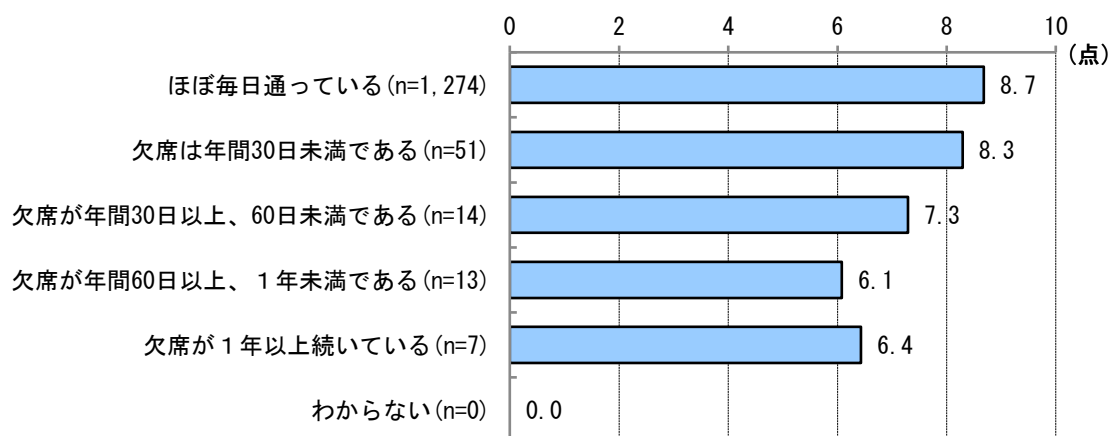
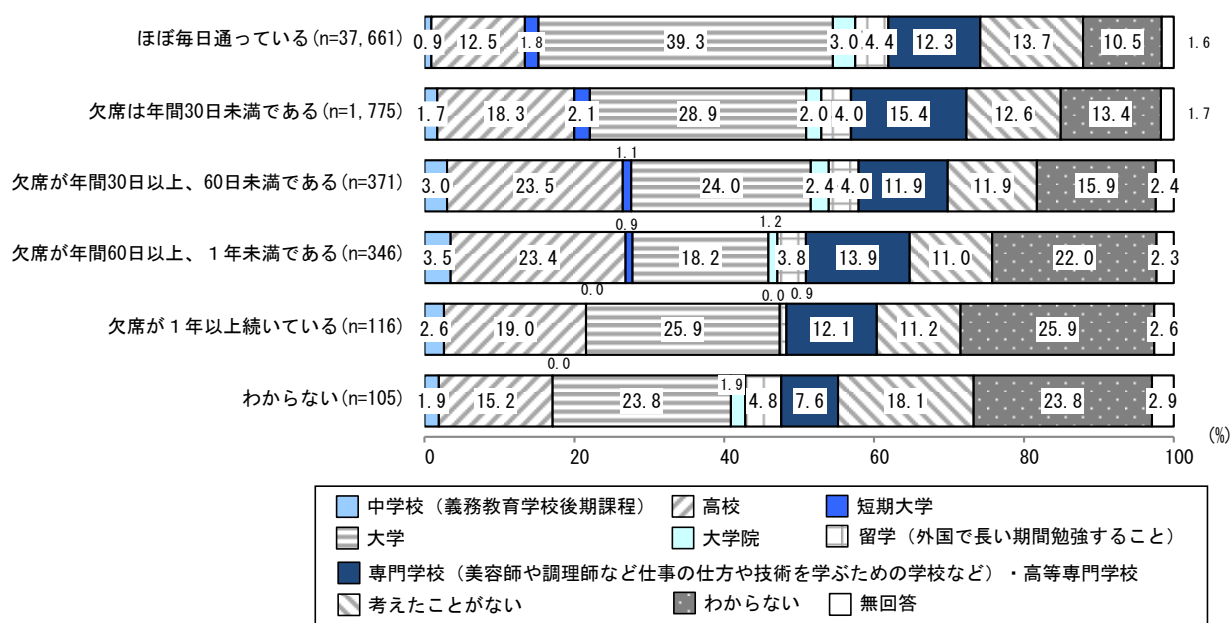


図 141. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの通学状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した人は8.7点で最も高く、「欠席が年間60日以上、1年未満である」と回答した人は6.1点で最も低くなっている。

子どもの通学状況別に見た、希望する進学先（保護者票問 15×子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<枚方市>

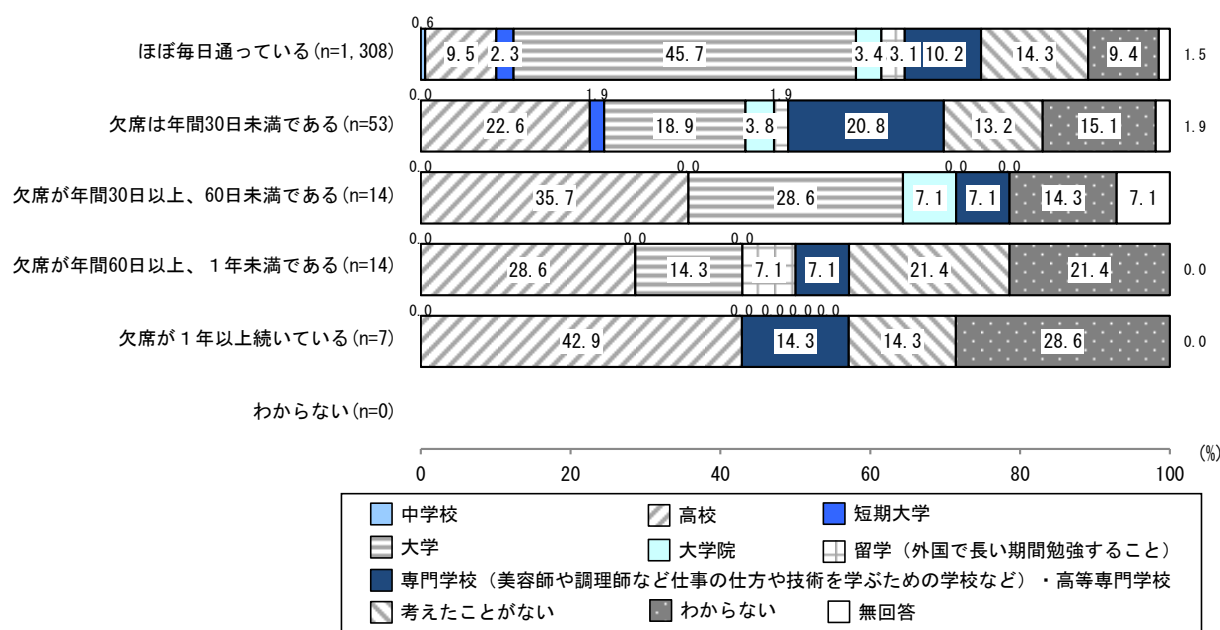
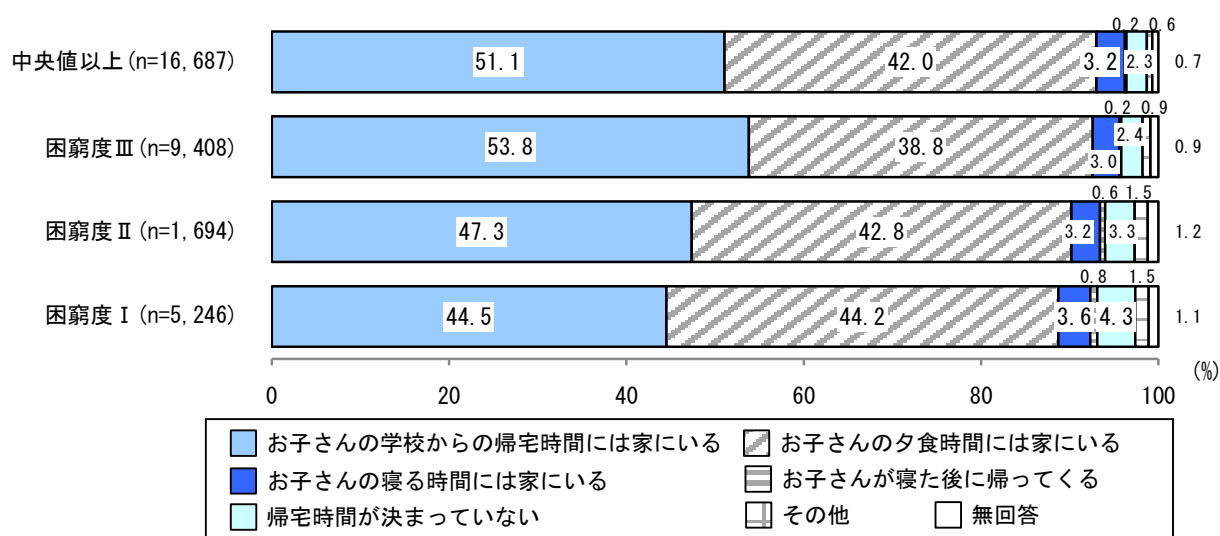


図 142. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先

子どもの通学状況別に希望する進学先を見ると、「大学」はほぼ毎日通っていると回答した人の割合が45.7%で最も高く、「高校」は欠席が1年以上続いていると回答した人の割合が、42.9%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯（保護者票問 10）

<大阪府内全体>



<枚方市>

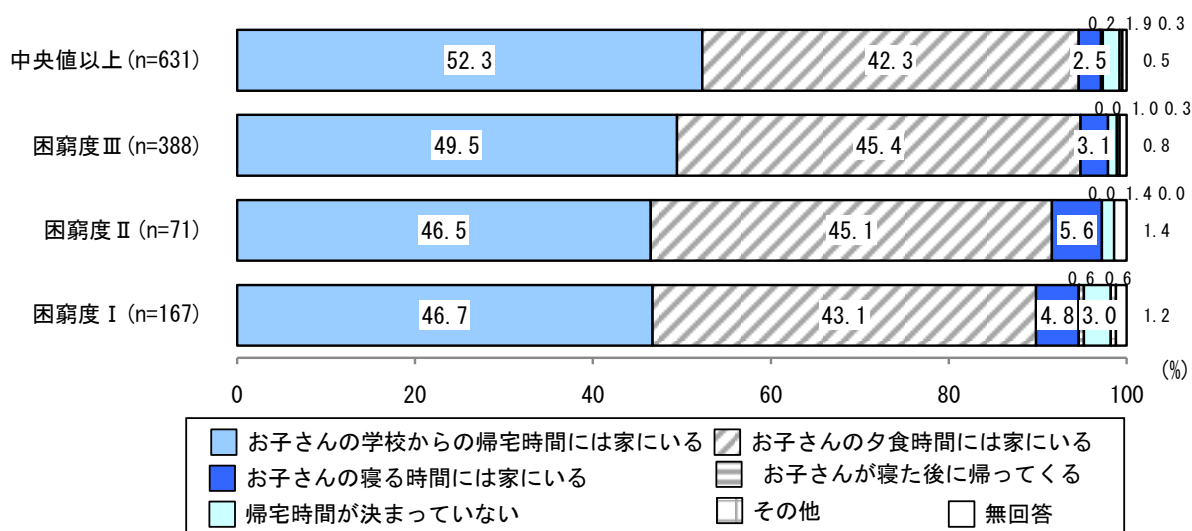
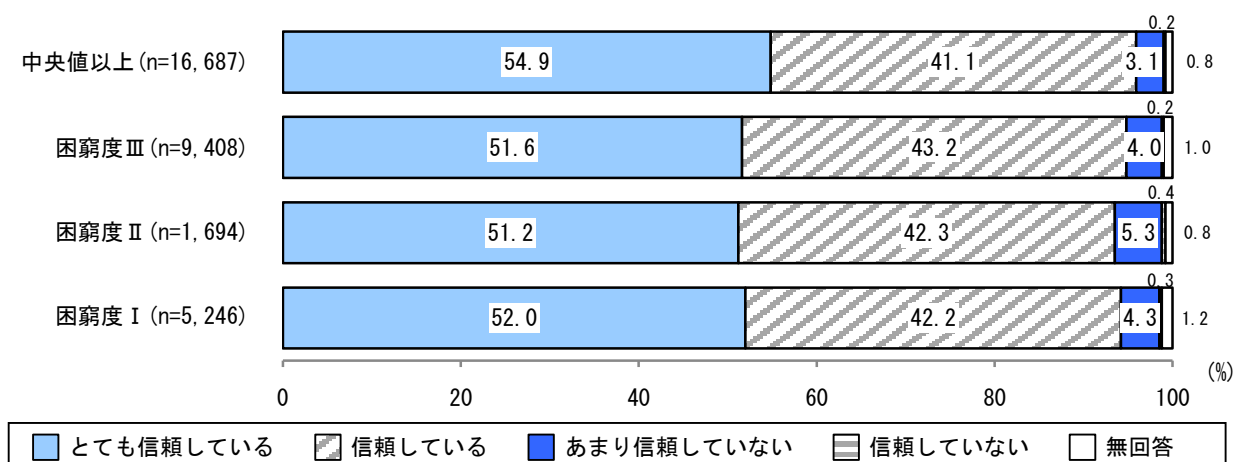


図 143. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯

困窮度別に保護者が家にいる時間帯を見ると、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」と回答した割合は、中央値以上が52.3%で最も高く、「帰宅時間が決まっていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が3.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもへの信頼度（保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

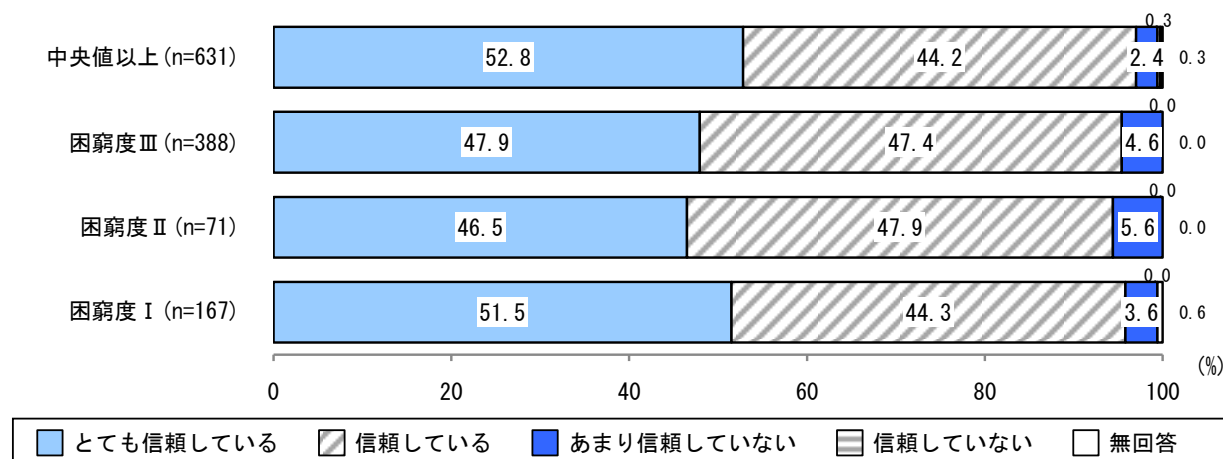
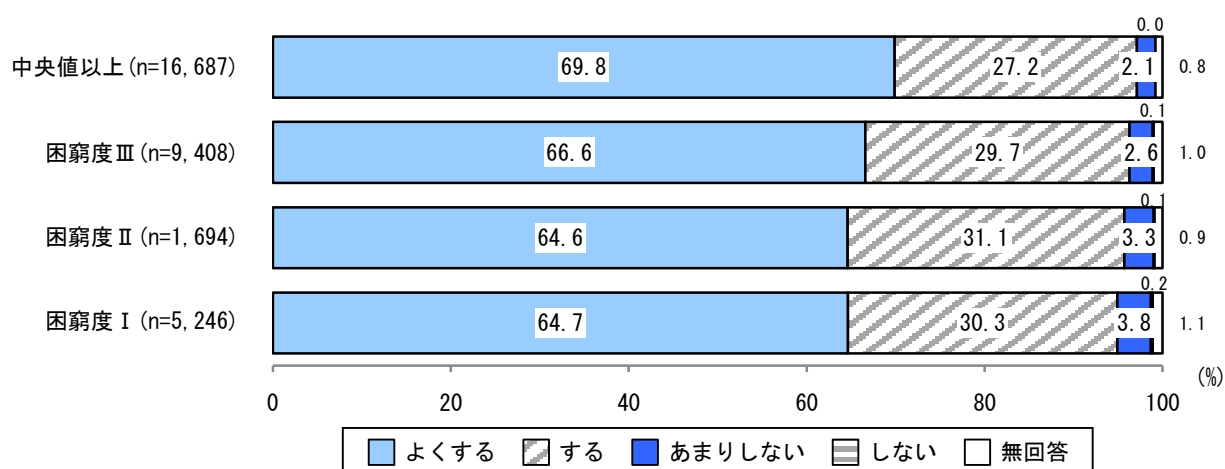


図 144. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度

困窮度別に子どもへの信頼度を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は中央値以上群が52.8%で最も高く、「あまり信頼していない」と回答した割合は困窮度Ⅱ群が5.6%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもとの会話頻度（保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

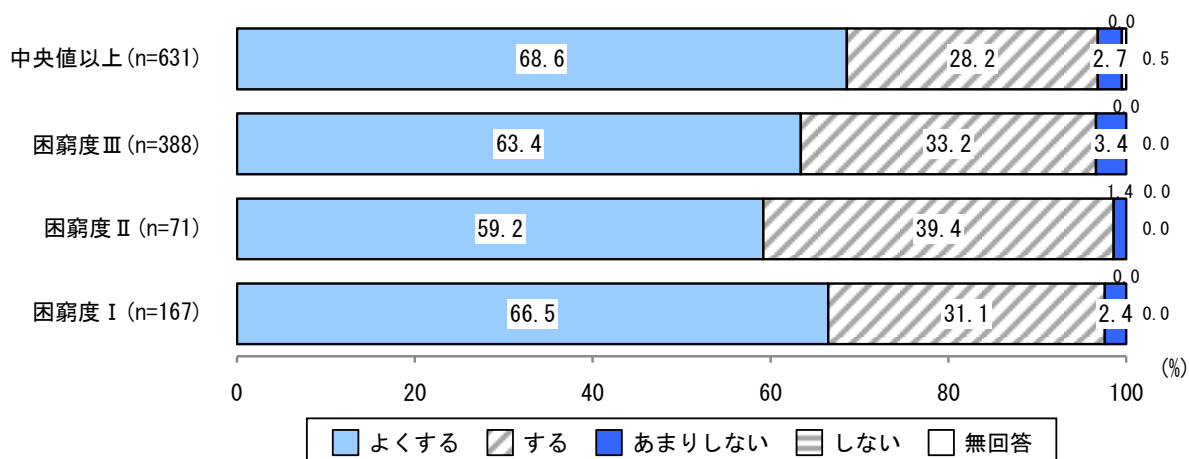
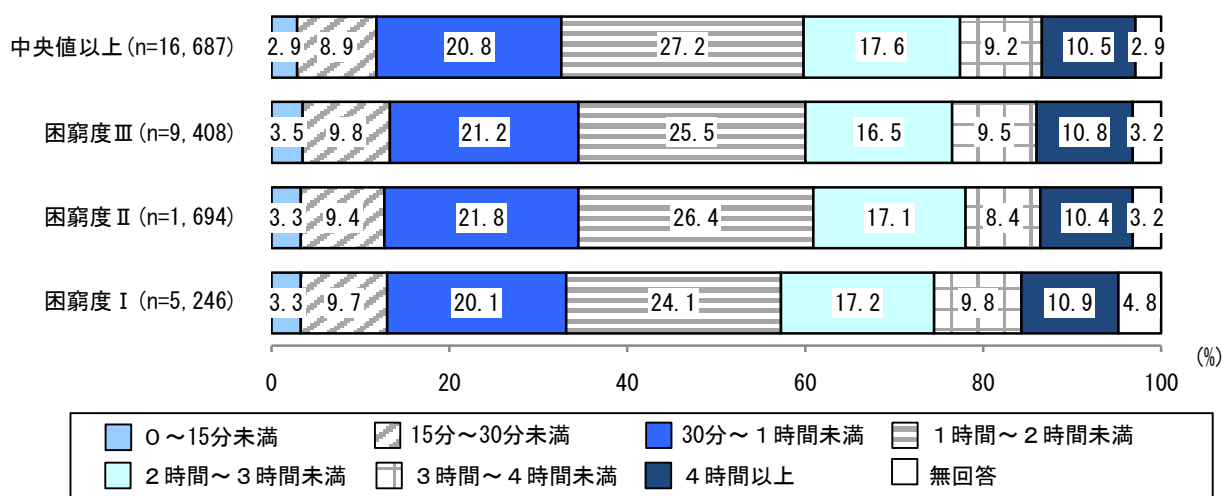


図 145. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度

困窮度別に子どもとの会話頻度を見ると、「よくする」と回答した割合は困窮度Ⅱ群が59.2%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

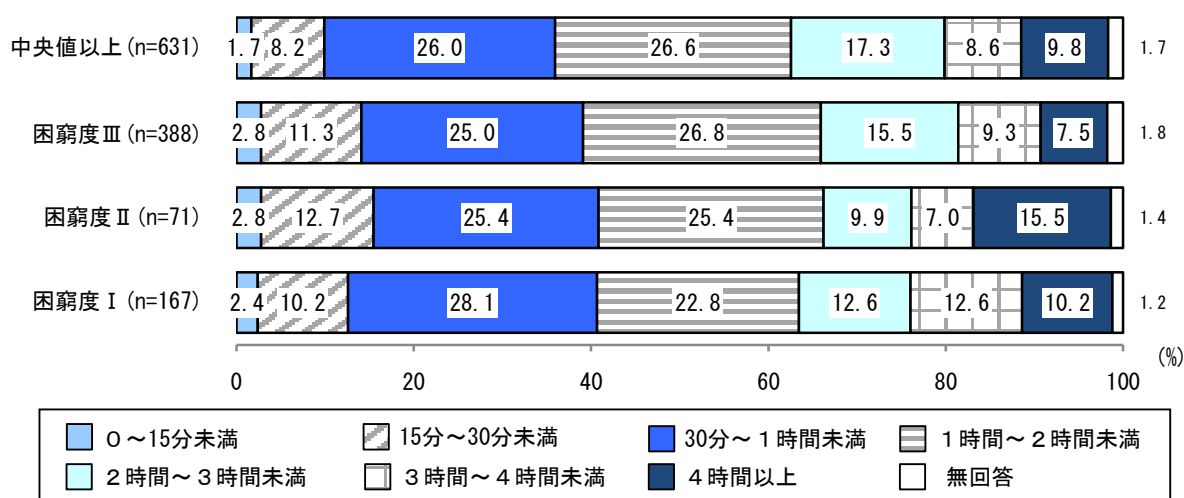
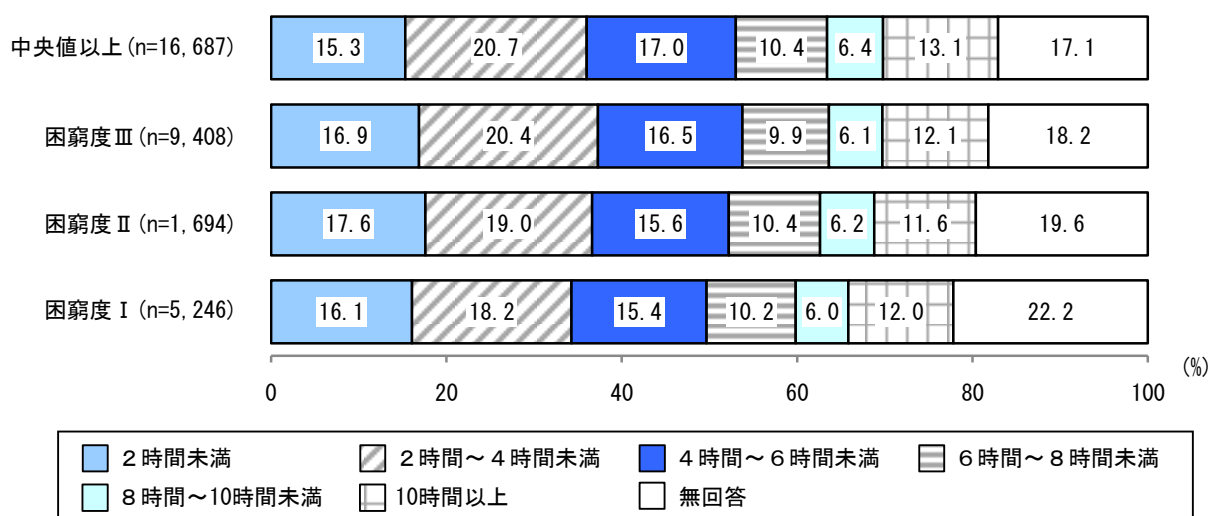


図 146. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

困窮度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「4時間以上」と回答した割合が困窮度Ⅱ群で最も高く、15.5%である。

困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

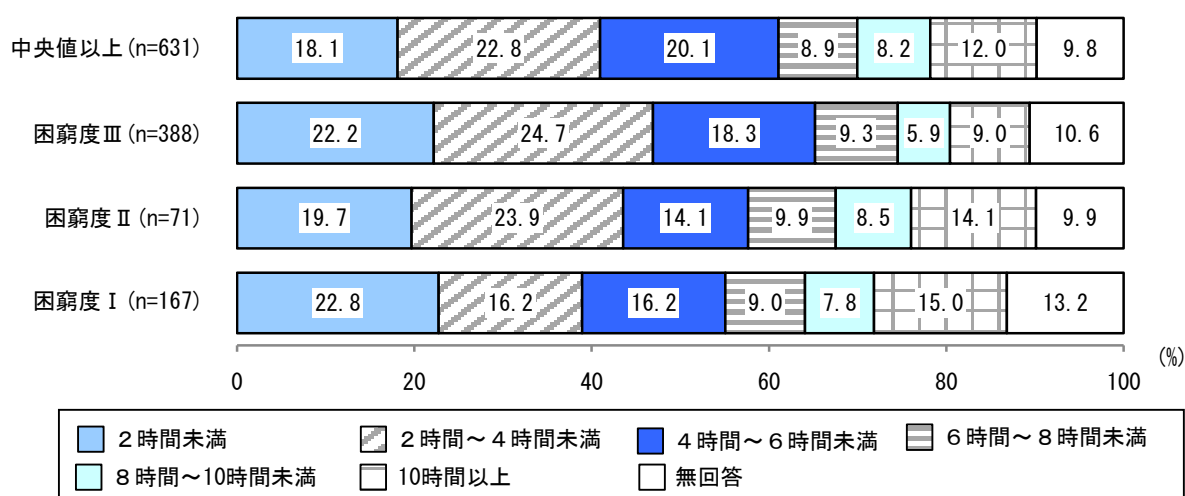
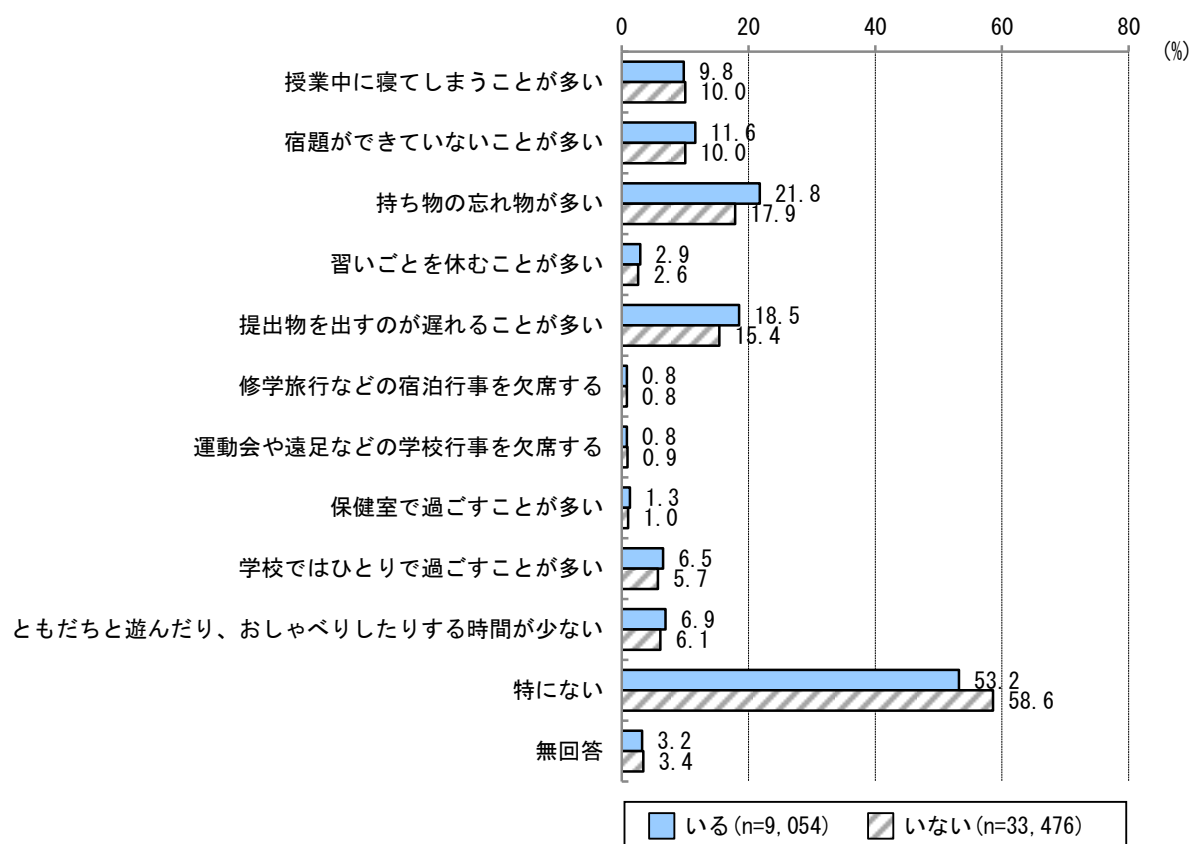


図 147. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

困窮度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「2時間未満」と回答した割合が困窮度Ⅰ群で最も高く、22.8%である。また、「2～4時間未満」と回答した割合は、困窮度Ⅲ群が24.7%で最も高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 16)

<大阪府内全体>



<枚方市>

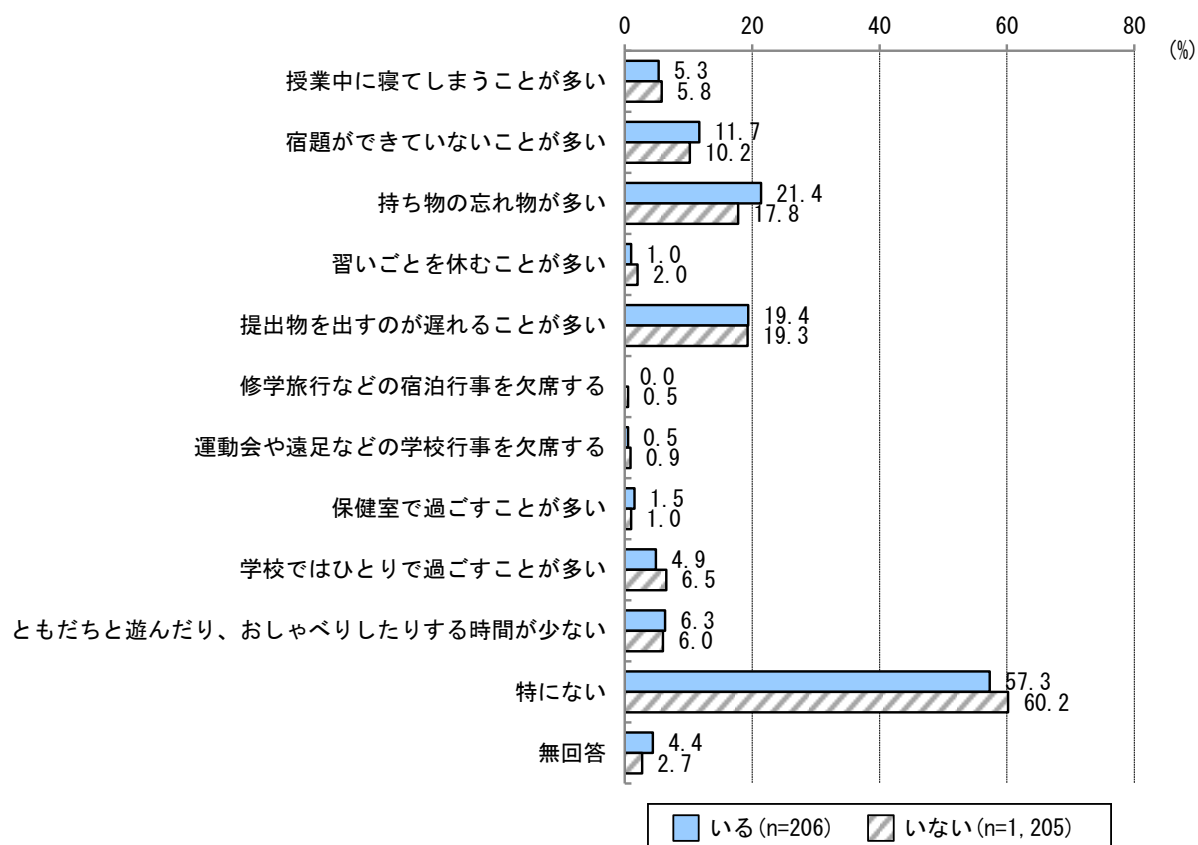
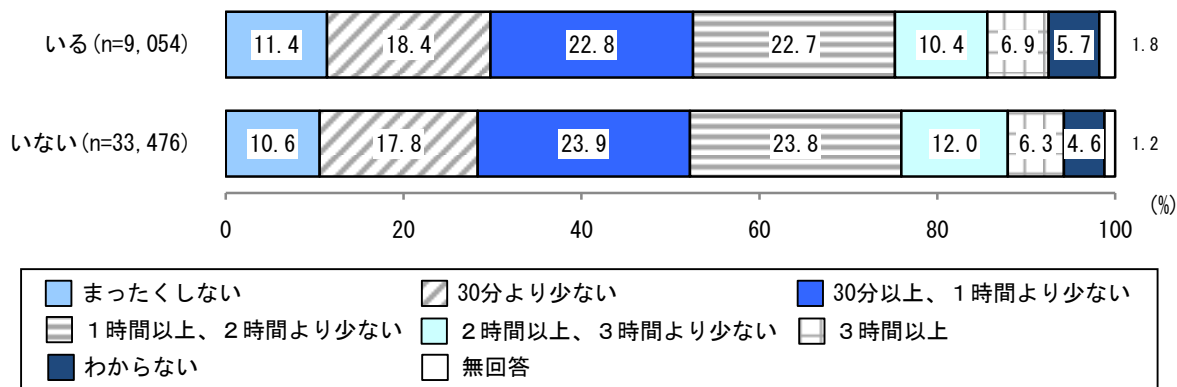


図 148. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況

自分が世話をしている人の有無別に学校や学校の行事等の状況を見ると、「持ち物の忘れ物が多い」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」割合より「いる」割合のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問26(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

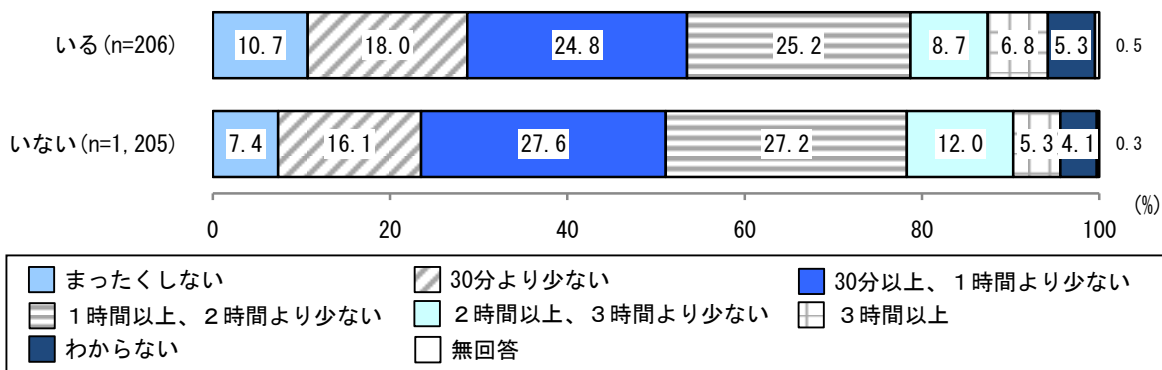
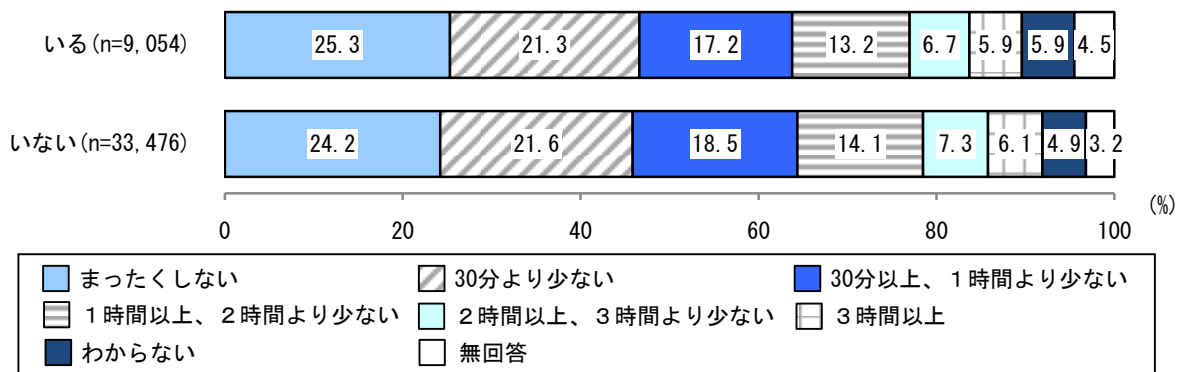


図 149. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」、「30分より少ない」、「3時間以上」と回答した割合は、世話をしている人がいない子どもより、いる子どものほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問26(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

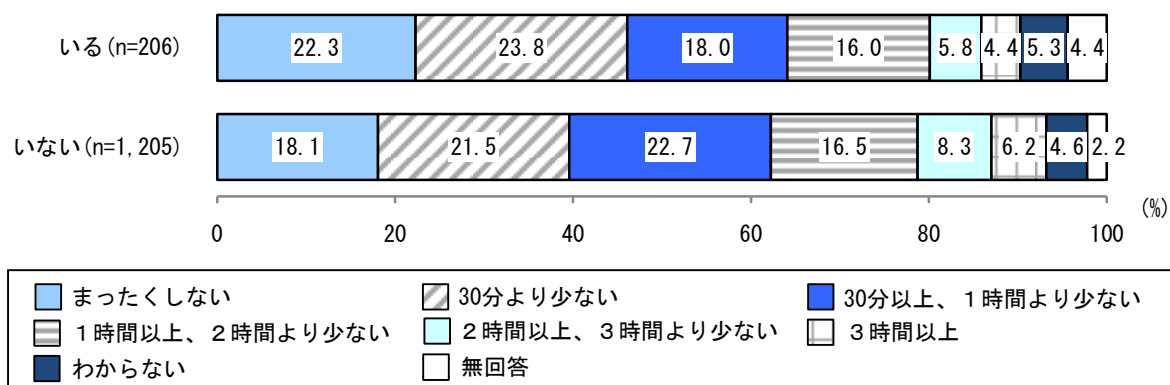


図 150. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、世話をしている人がいない子どもより、いる子どものほうが割合が高くなっている。

<家庭生活・学習に関する考察>

まず、経済状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目しながら確認する。おうちの大人の人と朝食をとる頻度を見ると、「ほとんど毎日」(54.6%対48.4%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ、6.2ポイント高くなっている。また、保護者が家にいる時間帯を見ると、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」(52.3%対46.7%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ、5.6ポイント高くなっている。一方、おうちの大人の人と文化活動をする頻度では、「まったくしない」(26.5%対20.4%)が困窮度Ⅰ群では中央値以上群と比べ、6.1ポイント高くなっている。これらの結果から、経済状況が保護者と子どもの間のコミュニケーションの深さや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。

次に、学校への遅刻状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について確認する。保護者の子どもに対する信頼度を見ると、「遅刻はしない」群は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、「とても信頼している」(51.5%対44.8%)と回答した保護者の割合が6.7ポイント高くなっている。また、子どもの将来への期待度を見ると、「遅刻はしない」群は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、「とても期待している」と「期待している」の合計(84.8%対72.4%)が12.4ポイント高くなっている。これらの結果から、朝の習慣が身についていないことが、保護者の子どもに対する信頼の深さや期待の高さにも影響を及ぼしている可能性があり、遅刻頻度の多さは保護者と子どもの関係性の希薄さを暗示しうると考えられる。さらに、悩んでいることを見ると、「遅刻はしない」群では、「いやなことや悩んでいることはない」と回答する割合が最も高くなっている。一方、遅刻頻度の高い群では、「学校や勉強のこと」「自分のこと(外見や体型など)」「ともだちのこと」で悩んでいる子どもたちが多く、保護者から期待されていない希薄な関係性の状況の中で、様々な悩みを抱えこんでいる可能性も考えられる。

経済状況と子どもの学習にかかわる習慣や学習理解度、そして進学希望の関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目して述べる。通学状況を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「ほぼ毎日通っている」(95.4%対89.8%)が5.6ポイント高くなっている。学校がある日の勉強時間では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「まったくしない」(14.8%対5.2%)が9.6ポイント、学校がない日の勉強時間では、「まったくしない」(29.0%対12.7%)が16.3ポイント高くなっている。学習理解度を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「あまりわからない」「よくわかる」(37.5%対23.2%)が14.3ポイント高くなっている。希望進学先を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、子ども自身の希望する進学先で「大学」(49.8%対38.7%)が11.1ポイント、保護者の希望する進学先でも「大学」(74.0%対53.9%)が20.1ポイント高くなっており大きな差が開いている。一方、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、子ども自身の希望する進学先で「わからない」(14.2%対7.9%)が6.3ポイント、保護者の希望する進学先で「高校」(12.0%対4.6%)が7.4ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣が定着しにくく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の高いレベルの教育を望みにくく、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。

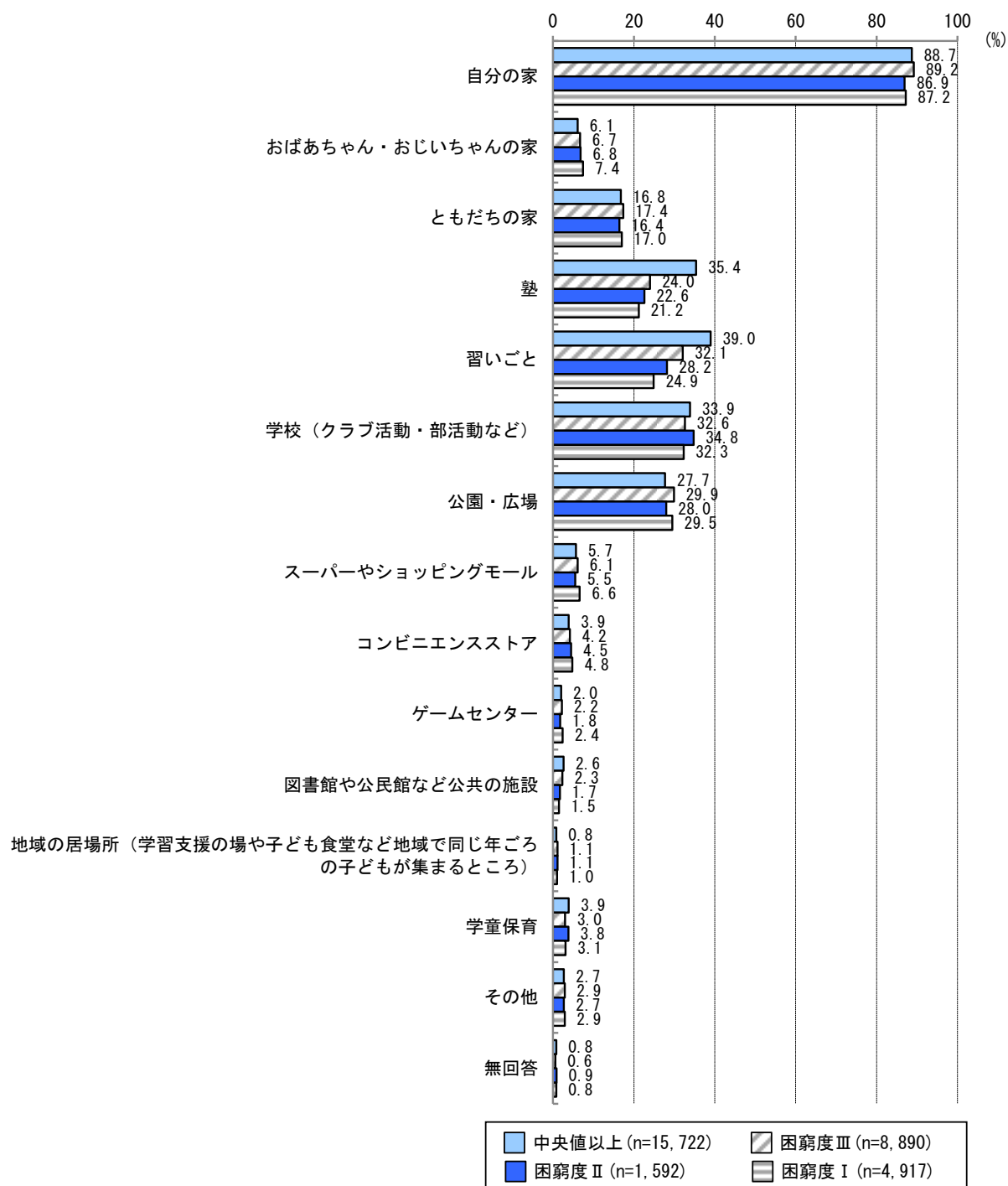
最後に、朝の習慣や学校への遅刻状況と子どもの学習にかかわる習慣の関連について確認する。起床時間の規則性や学習時間を見ると、ほぼ同じ時刻に「起きていない」群は「起きている」群と比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(19.0%対6.8%)が12.2ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」(47.6%対17.6%)が30.0ポイント高くなっている。また、朝食の頻度別に見ると、朝食を「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べる群

に比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(34.6%対7.0%)が27.6ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」(46.2%対16.9%)が29.3ポイント高くなっている。これらの結果から、朝の習慣が身についていないことは、学習習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、朝の習慣が身についていないと遅刻につながり、授業を受けられていないため学習理解に影響が出ている可能性があると考えられる。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後を過ごす場所（子ども票問11）

<大阪府内全体>



<枚方市>

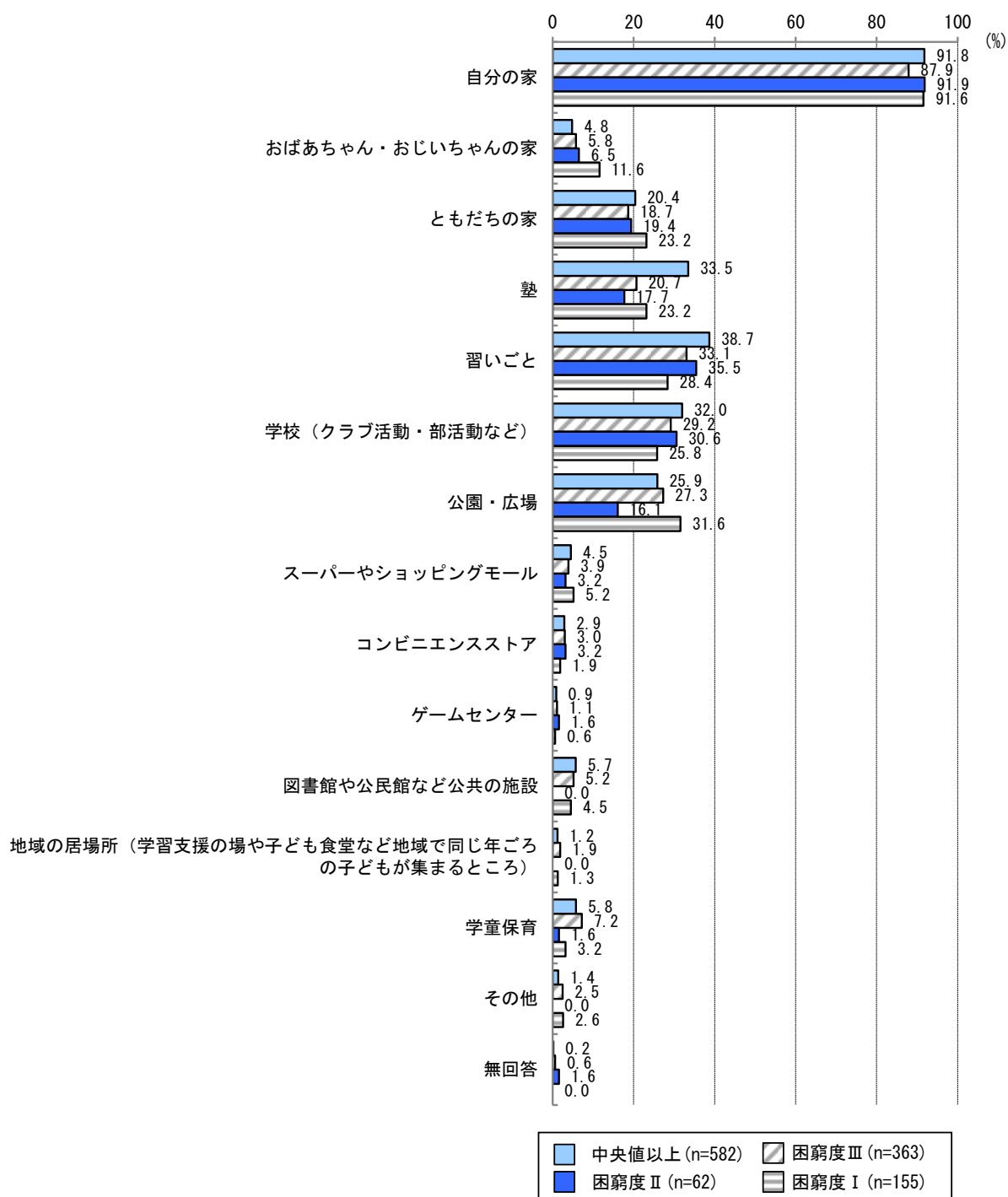
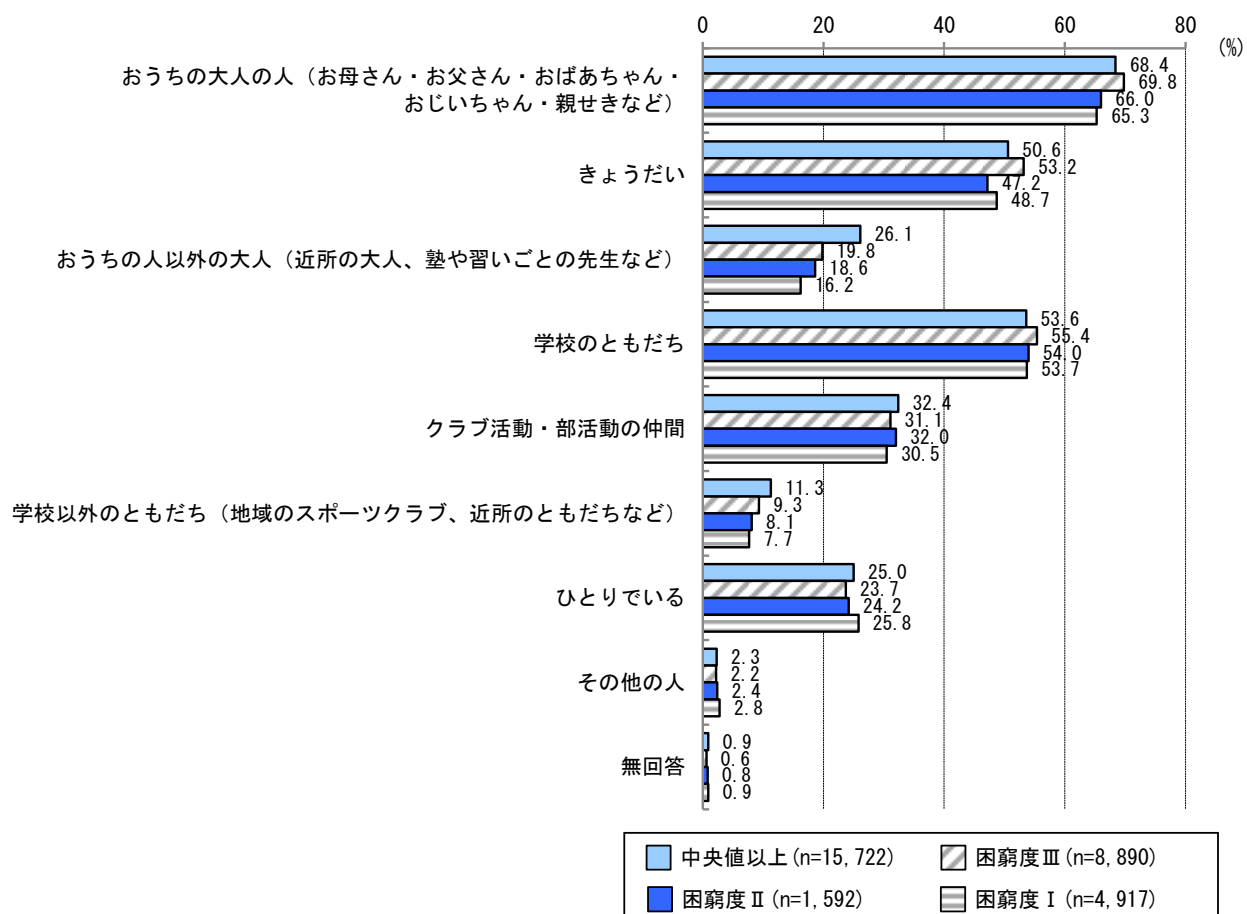


図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「おばあちゃん・おじいちゃんの家」11.6%（中央値以上群に対して2.4倍）、「公園・広場」31.6%（同じく1.2倍）となっている。一方、中央値以上群では、「学童保育」5.8%（困窮度Ⅰ群に対して1.8倍）、「コンビニエンスストア」2.9%（同じく1.5倍）、「ゲームセンター」0.9%（同じく1.5倍）、「塾」33.5%（同じく1.4倍）、「習いごと」38.7%（同じく1.4倍）が高かった。

困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人（子ども票問 10）

<大阪府内全体>



<枚方市>

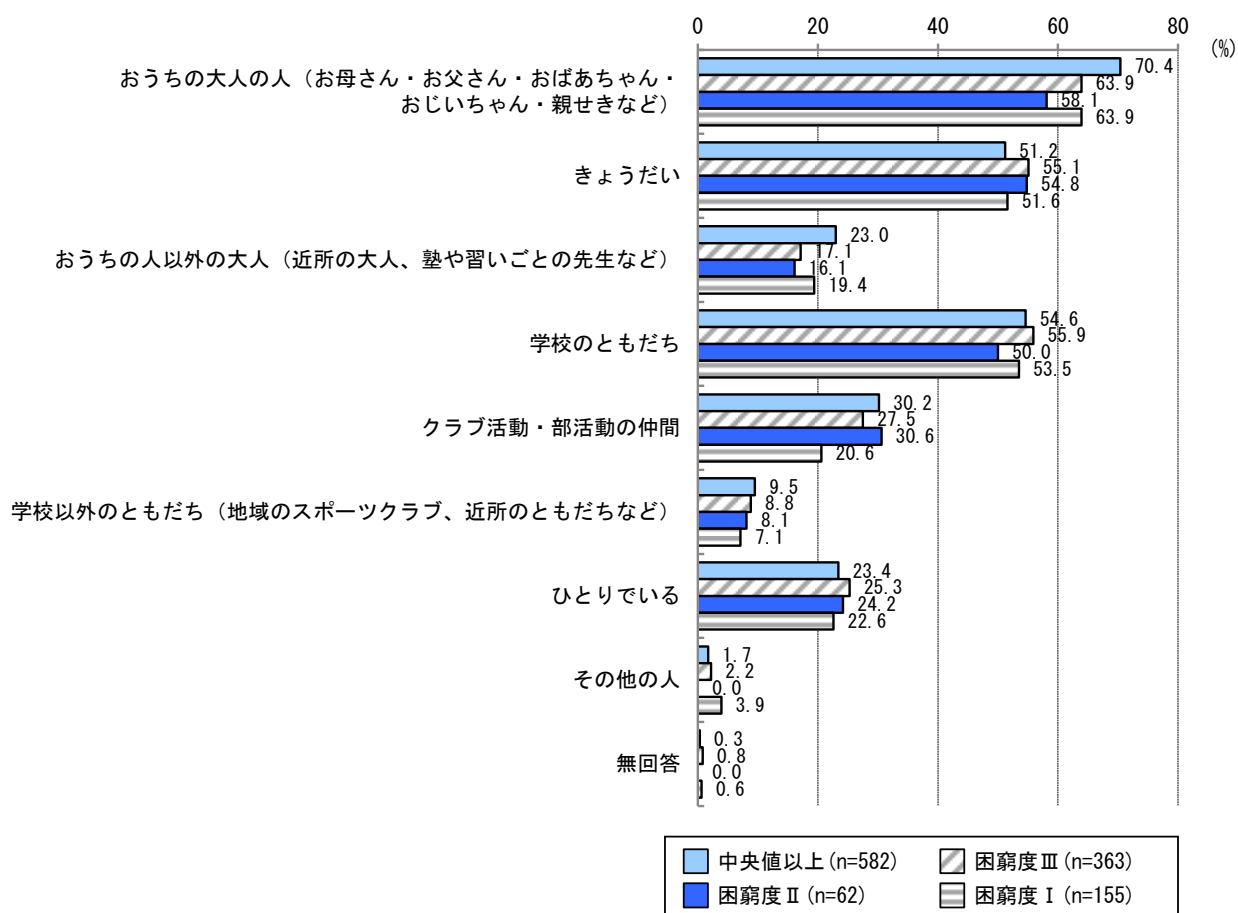
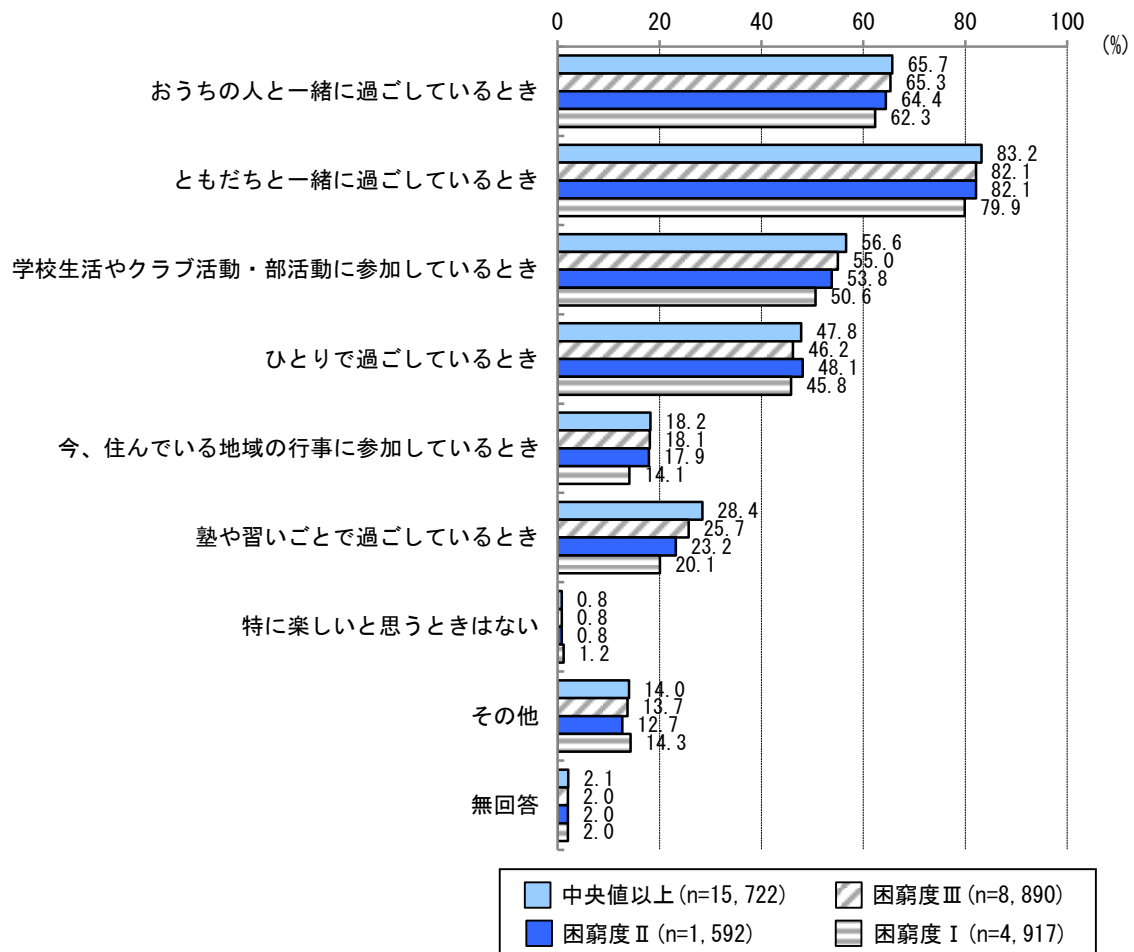


図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「クラブ活動・部活動の仲間」30.2%（困窮度Ⅰ群に対して1.5倍）、「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」9.5%（同じく1.3倍）、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」23.0%（同じく1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票問9）

<大阪府内全体>



<枚方市>

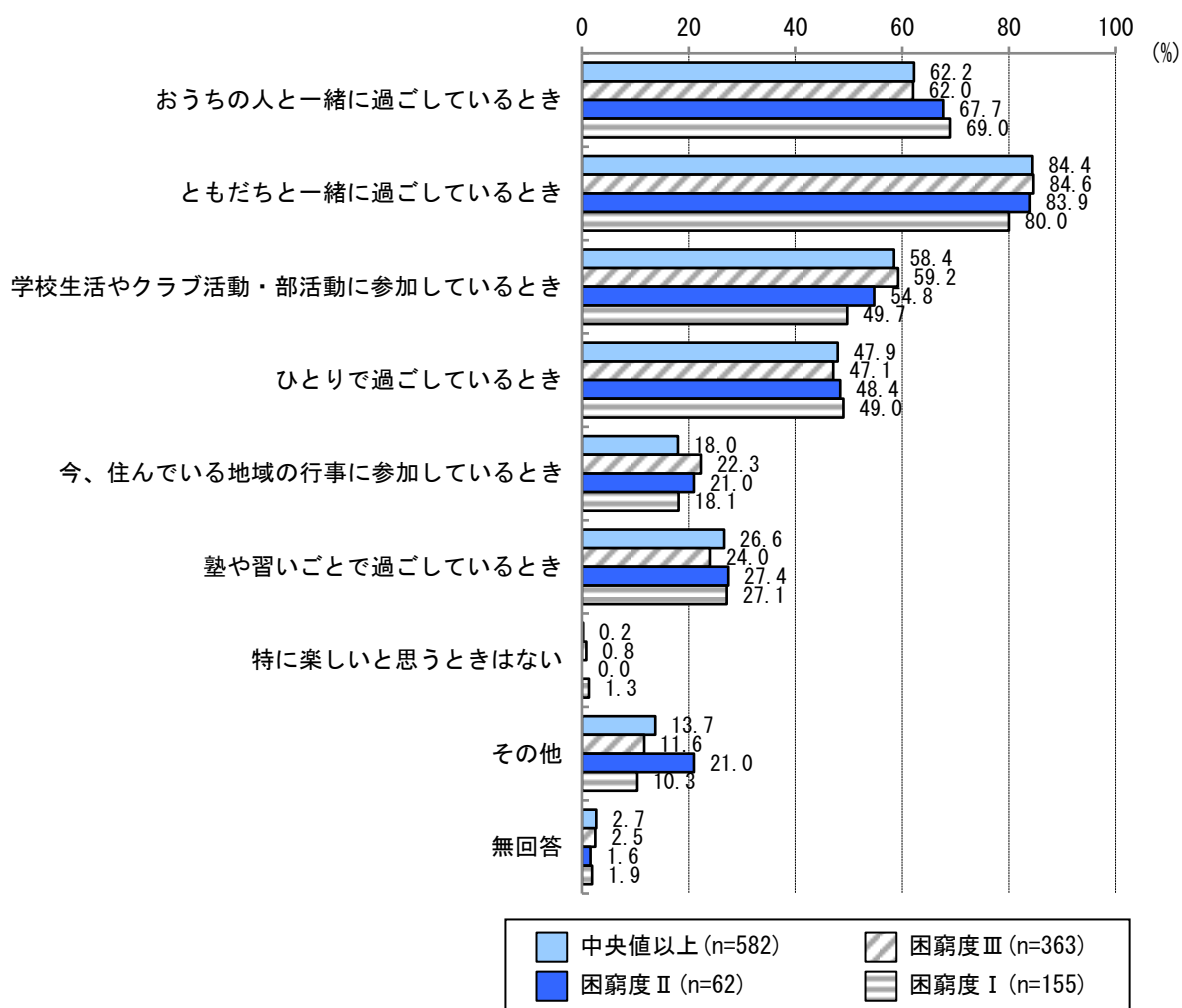
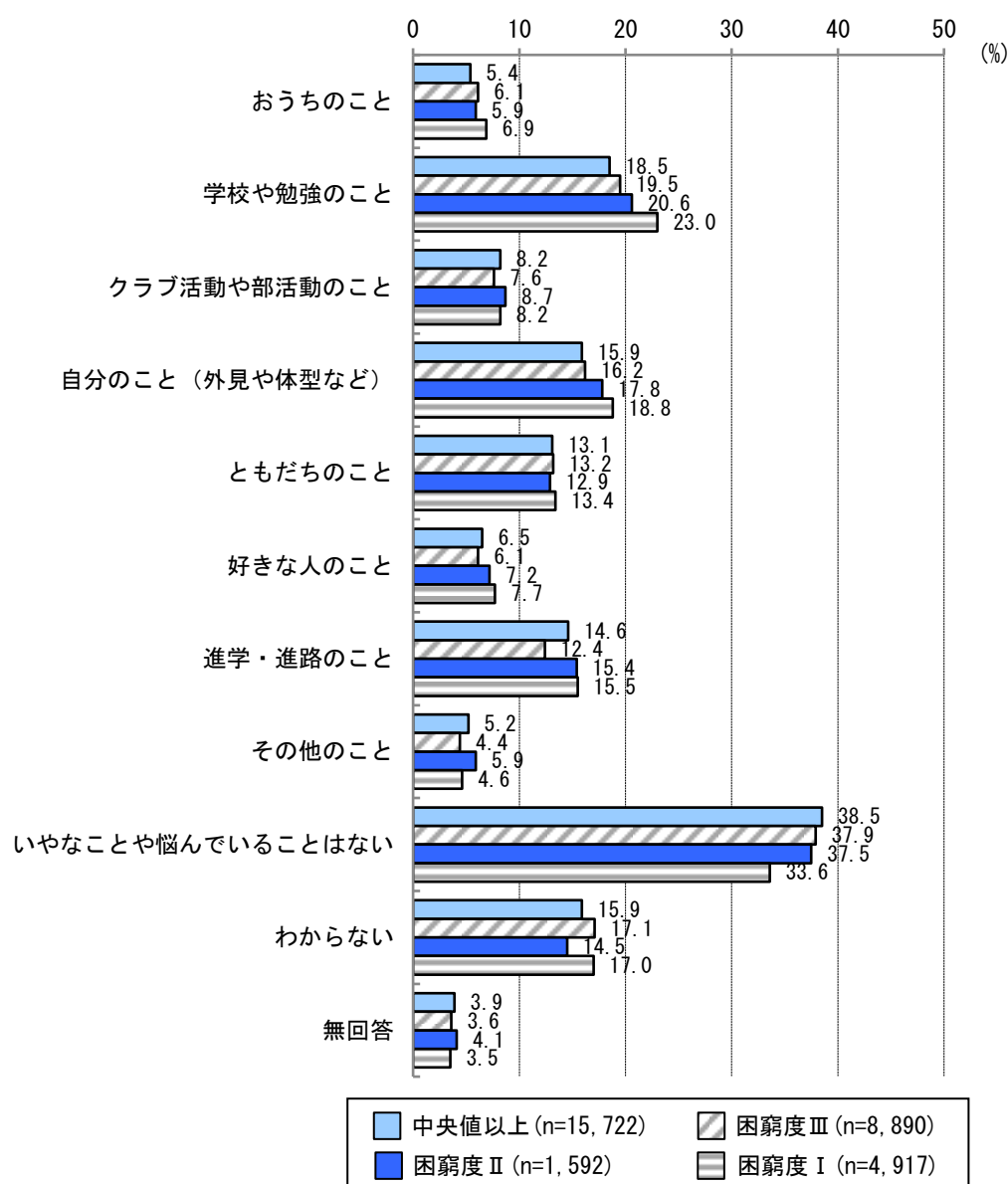


図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群の数値を挙げると、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」58.4%（困窮度Ⅰ群に対して1.2倍）、「ともだちと一緒に過ごしているとき」84.4%（同じく1.1倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問17）

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

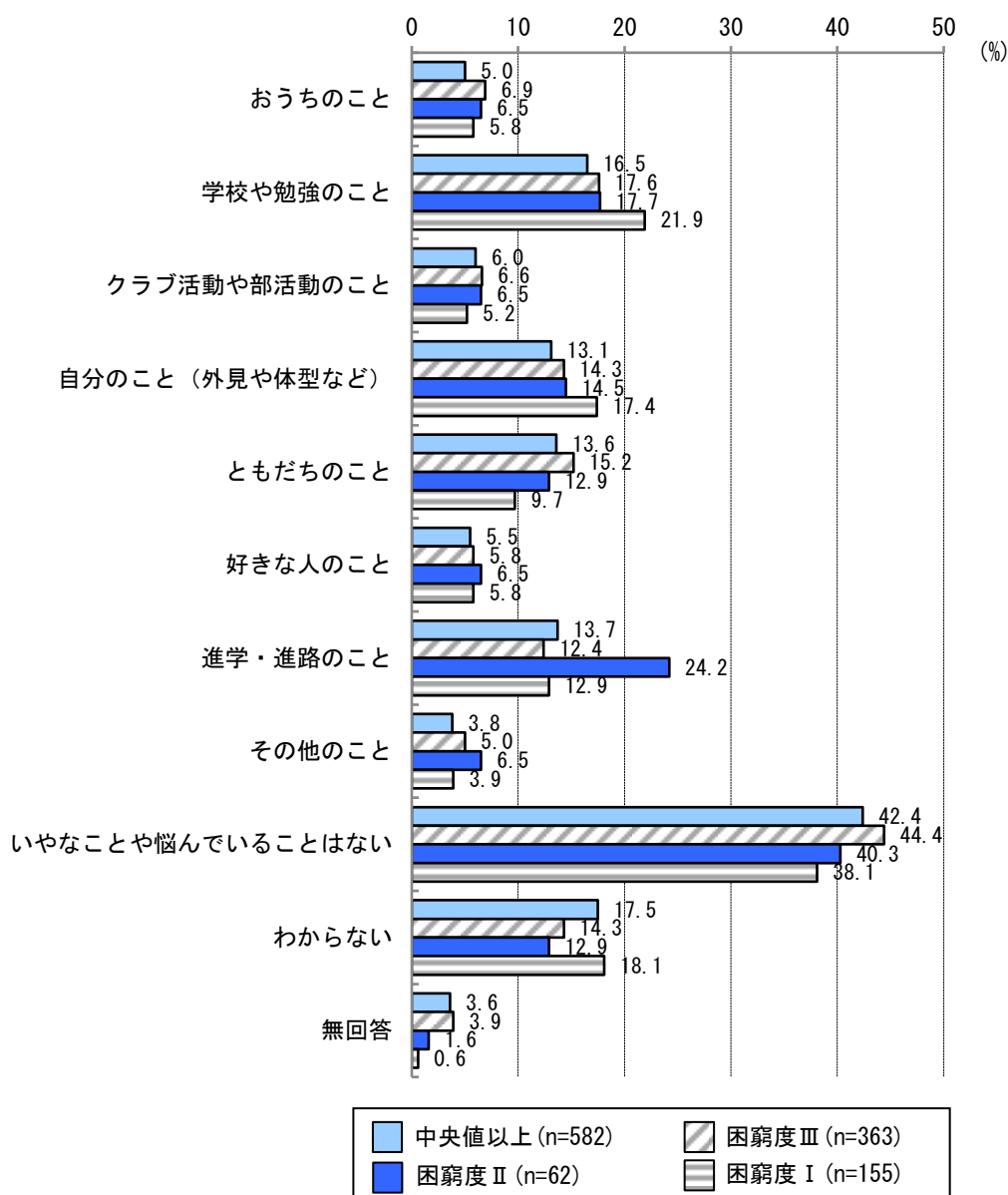
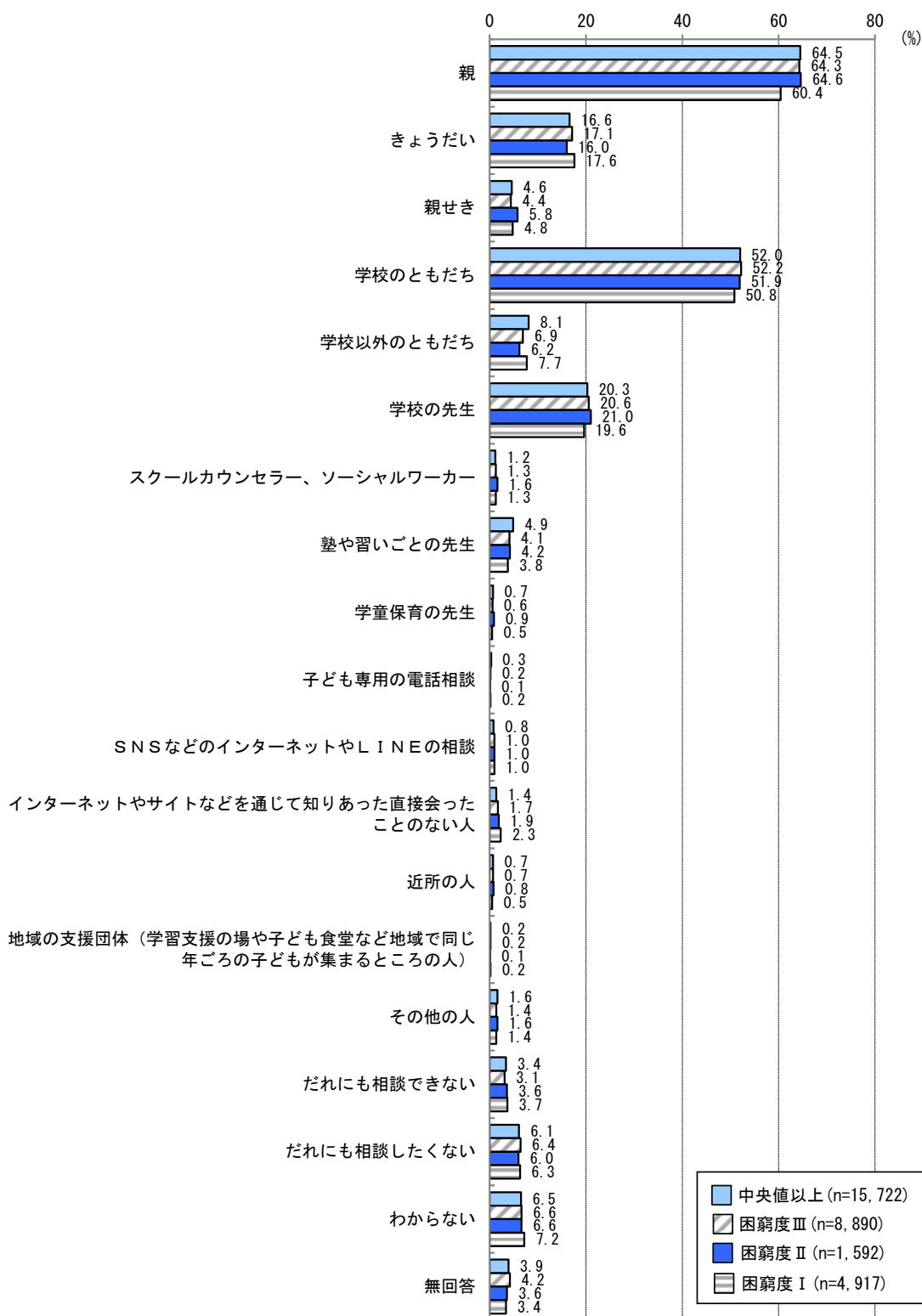


図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度 I 群では、「学校や勉強のこと」21.9%（中央値以上群に対して1.3倍）、「自分のこと（外見や体型など）」17.4%（同じく1.3倍）、「おうちのこと」5.8%（同じく1.2倍）が高く、中央値以上群では「ともだちのこと」13.6%（困窮度 I 群に対して1.4倍）、「クラブ活動や部活動のこと」6.0%（同じく1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 18）

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

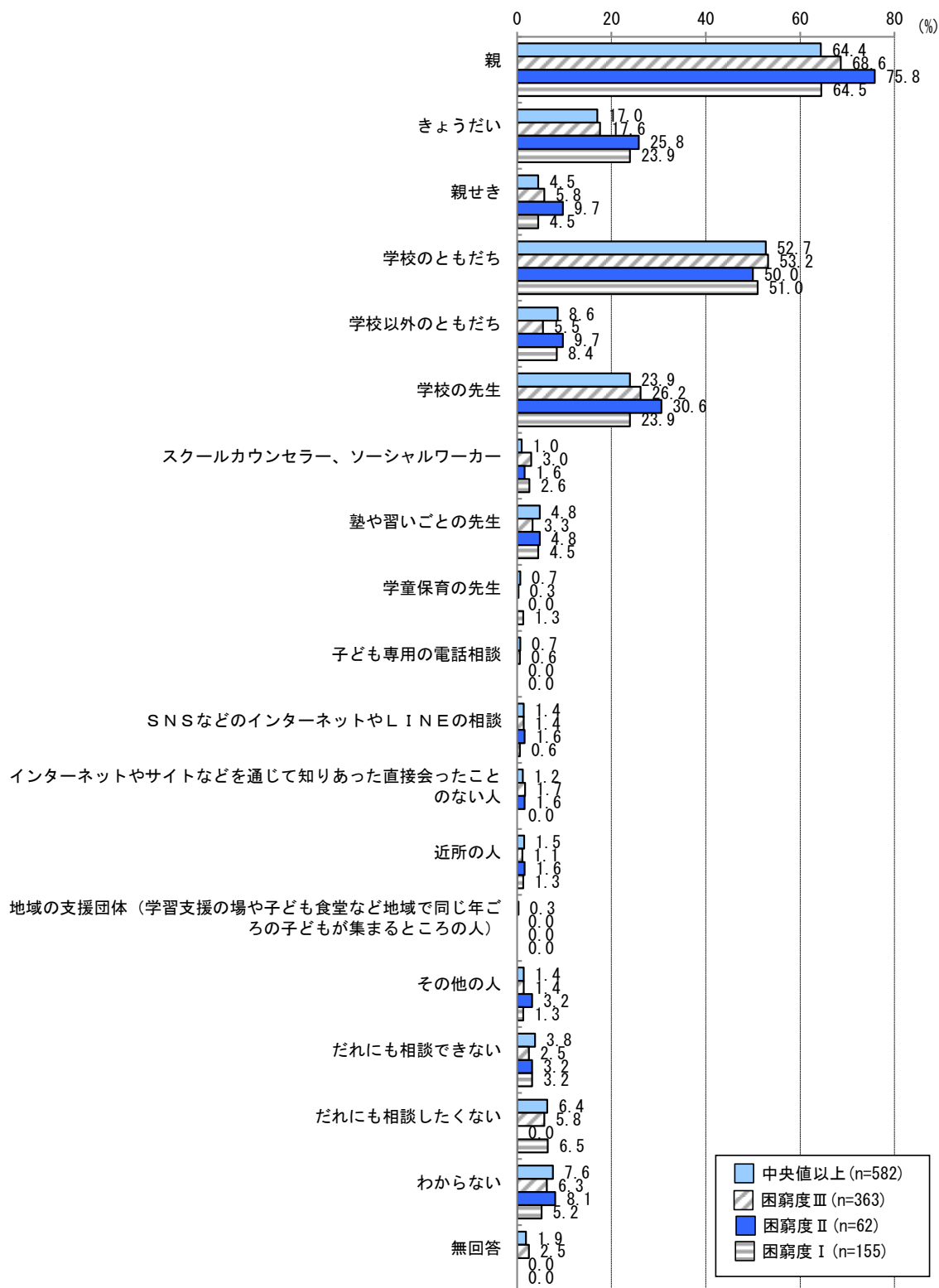
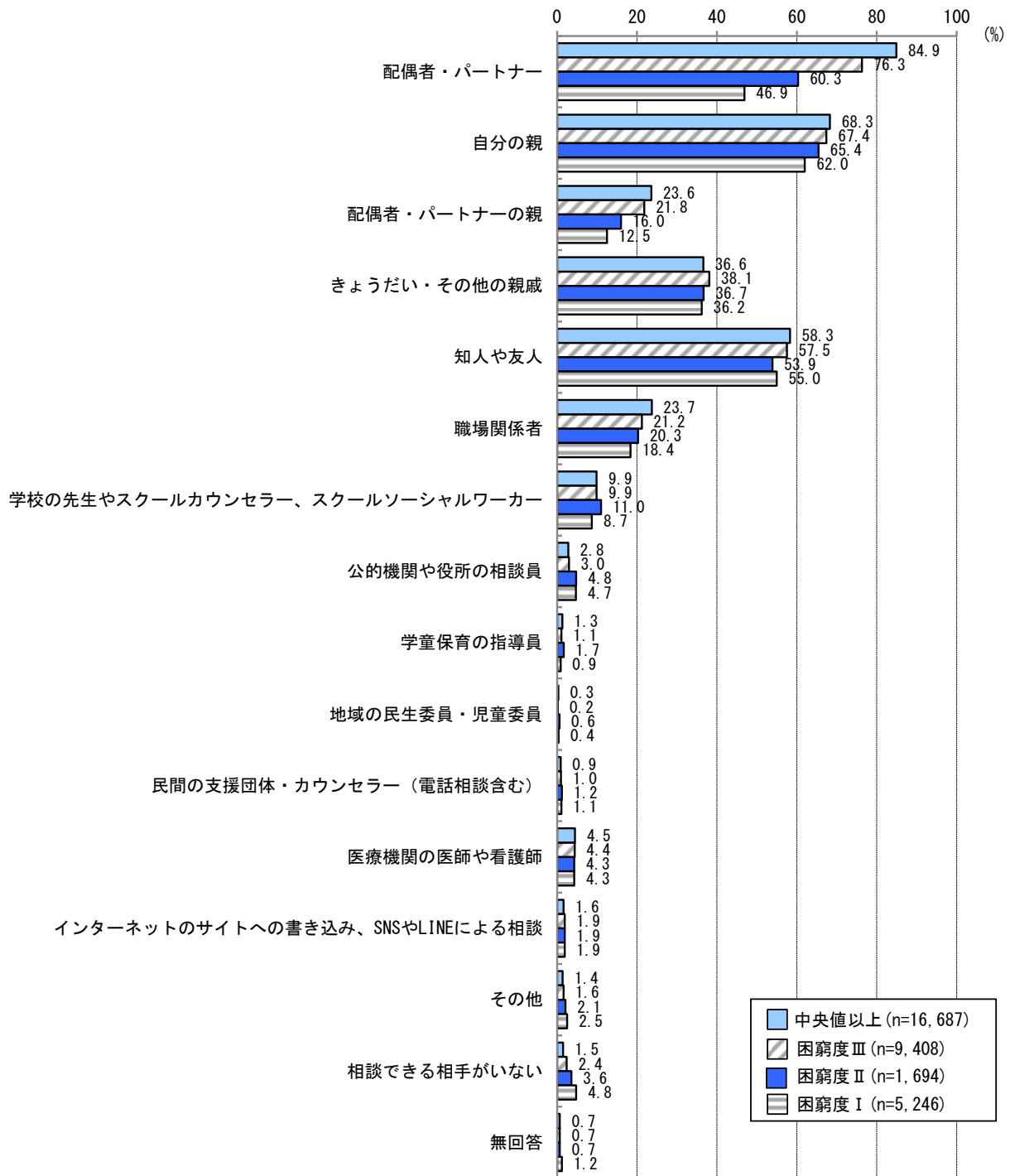


図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー」2.6%（中央値以上群に対して2.6倍）、「学童保育の先生」1.3%（同じく1.9倍）、「きょうだい」23.9%（同じく1.4倍）となっている。

困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 19）

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

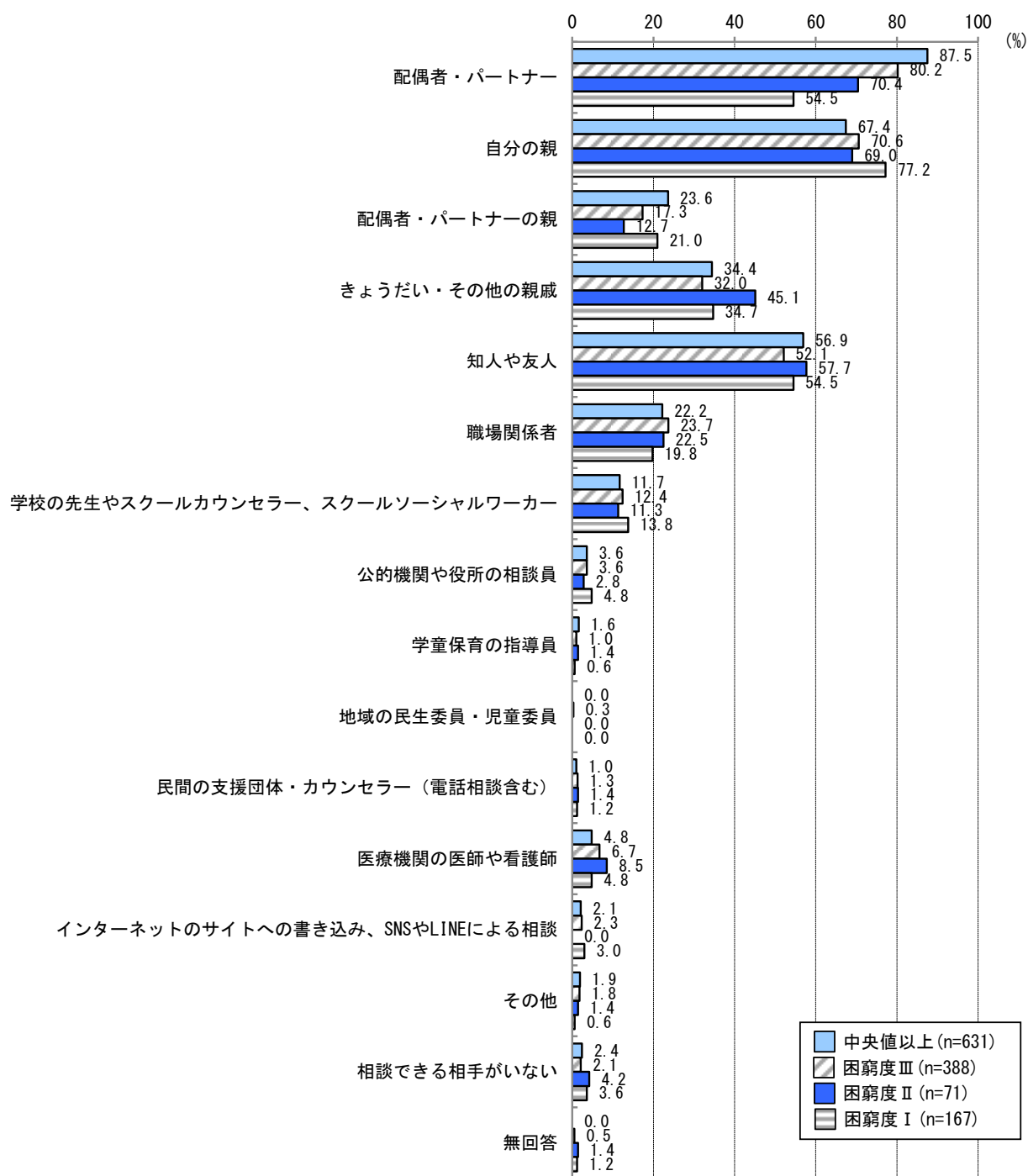
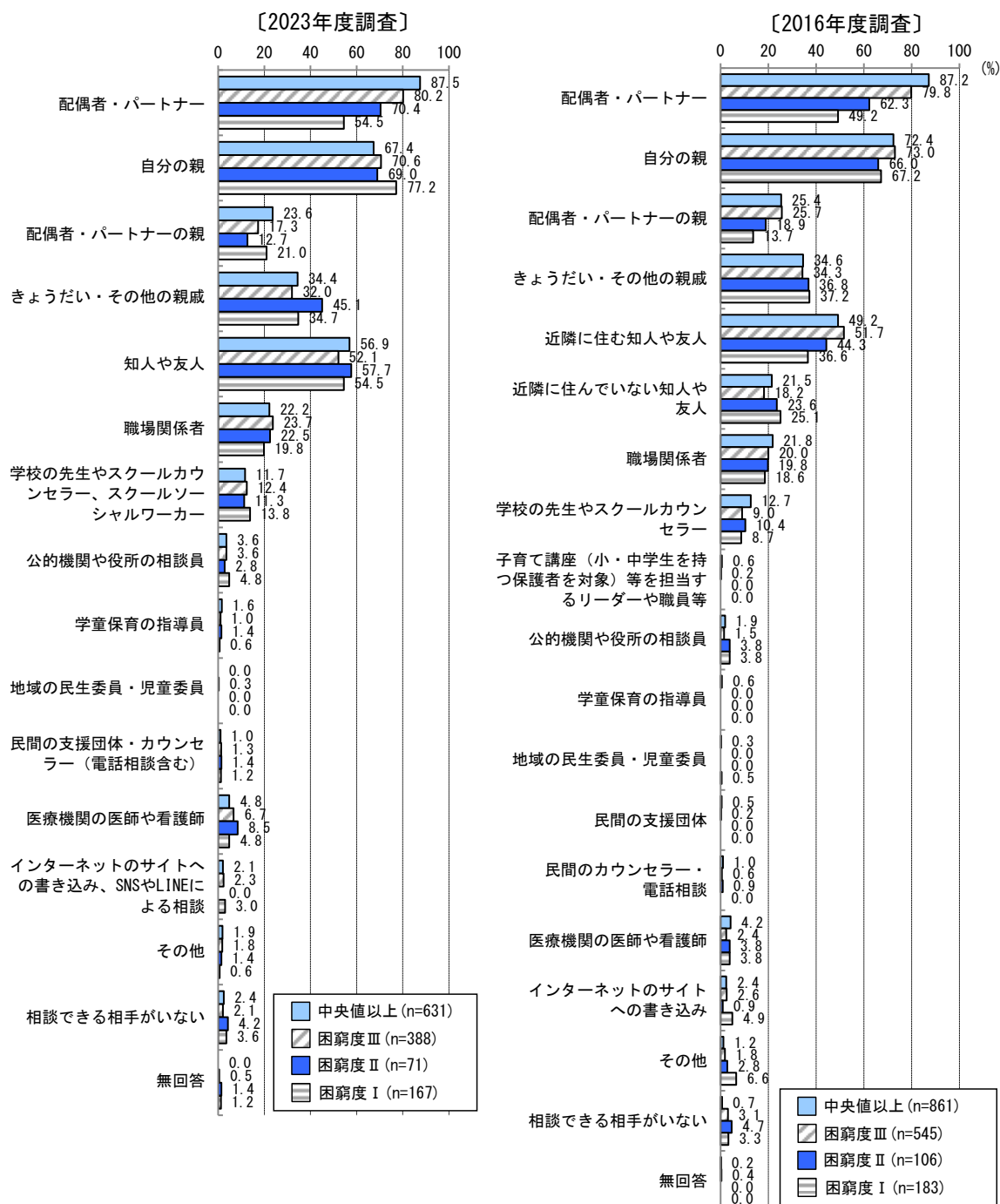


図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

困窮度別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」3.6%（中央値以上群に対して1.5倍）、「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」3.0%（同じく1.4倍）、「公的機関や役所の相談員」4.8%（同じく1.3倍）となっている。中央値以上群の数値を挙げると、「学童保育の指導員」1.6%（困窮度Ⅰ群に対して2.7倍）、「配偶者・パートナー」87.5%（同じく1.6倍）となっている。

<2016 年度調査との比較／枚方市>



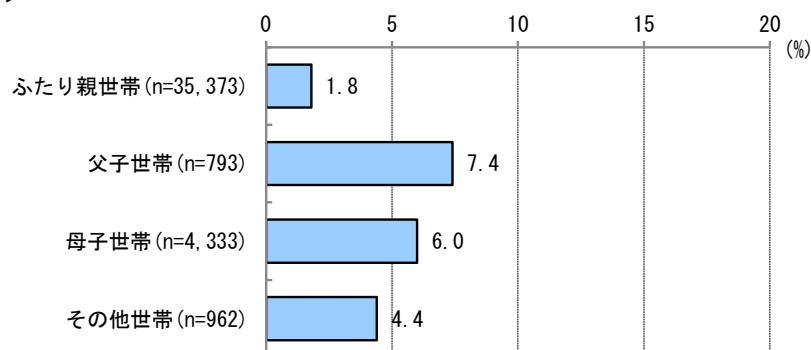
- ※1 「知人や友人」は、2016年度調査では「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」
 ※2 「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」は、2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」
 ※3 2016年度調査の「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」は今回は削除
 ※3 「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」は、2016年度調査では「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」
 ※4 「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」は、2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「配偶者・パートナー」「職場関係者」「学童保育の指導員」「医療機関の医師や看護師」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて高くなっている。

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合
(保護者票問2×保護者票問19)

<大阪府内全体>



<枚方市>

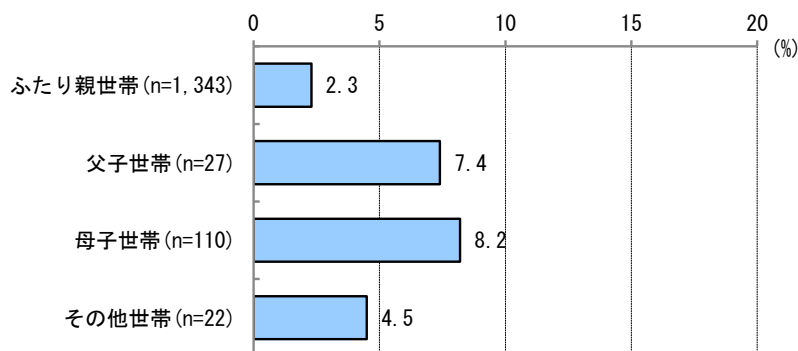


図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合

世帯構成別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合を見ると、「相談できる相手がない」と回答した人は、父子世帯で7.4%、母子世帯で8.2%いる。

<2016年度調査との比較／枚方市>

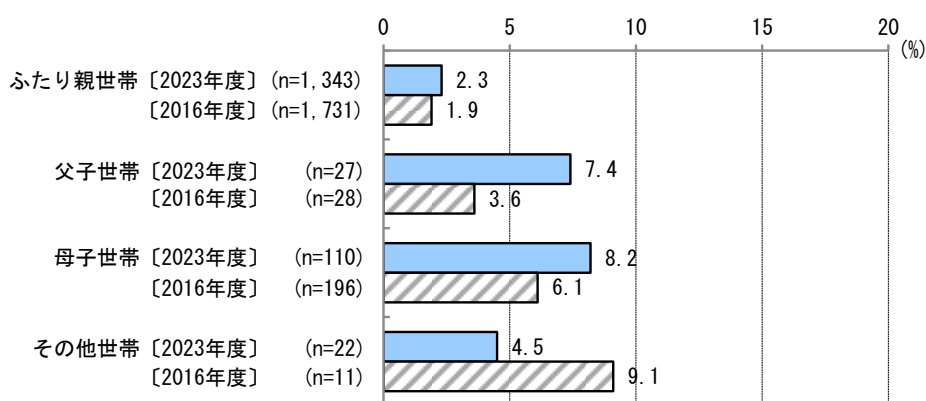
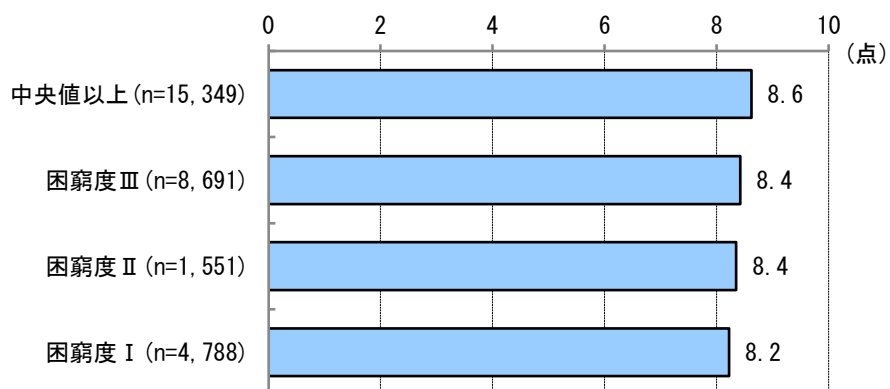


図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合
(2016年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、ふたり親世帯、父子世帯、母子世帯の割合は、2016年度調査に比べて高くなっており、一方で、その他世帯は2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）（子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<枚方市>

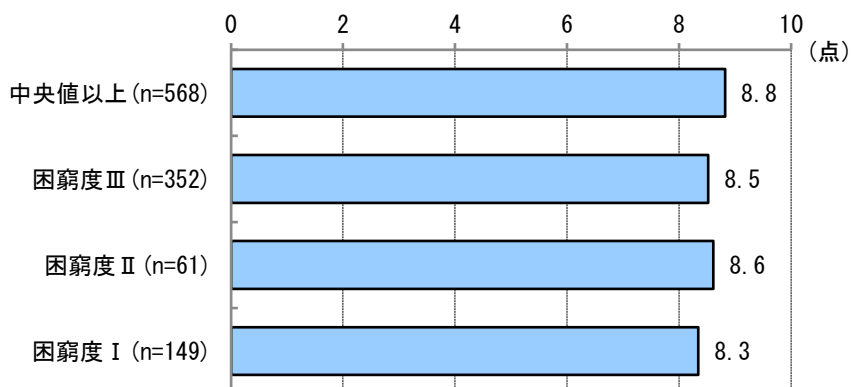
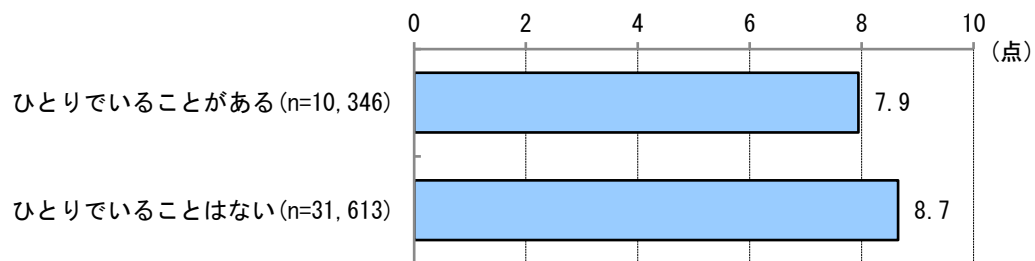


図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、困窮度Ⅰ群のセルフ・エフィカシーが最も低くなっている。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問 10×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<枚方市>

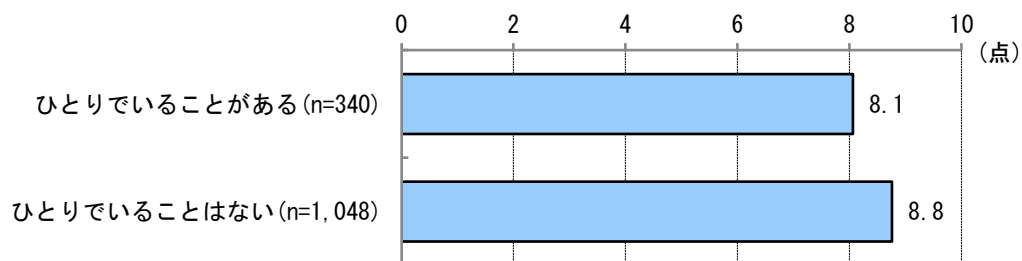


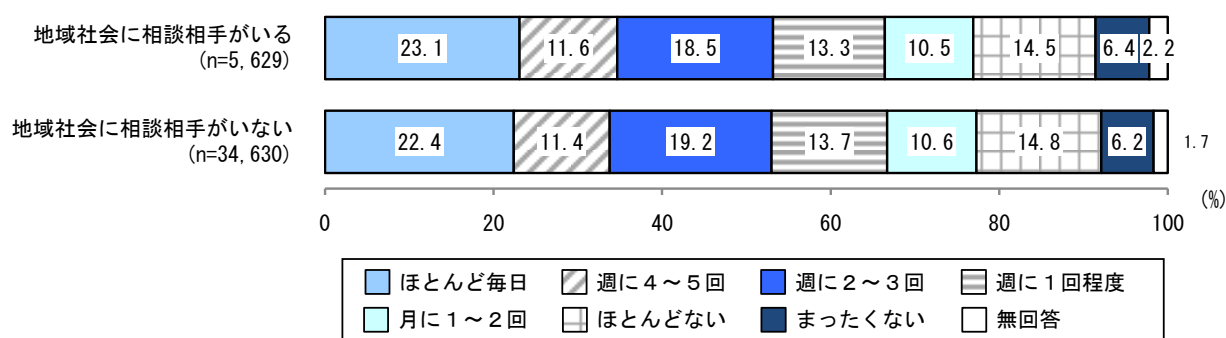
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方がそれでない子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか
(保護者票問 19×子ども票問 8④)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問に対し、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪府内全体>



<枚方市>

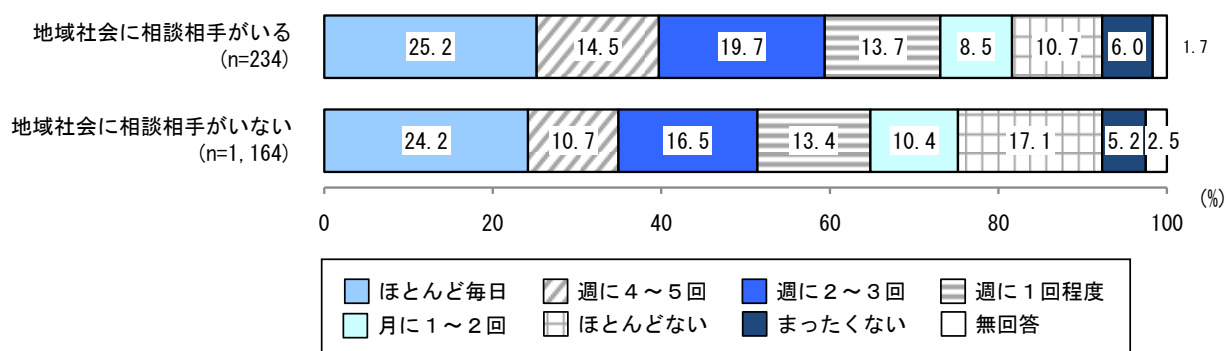
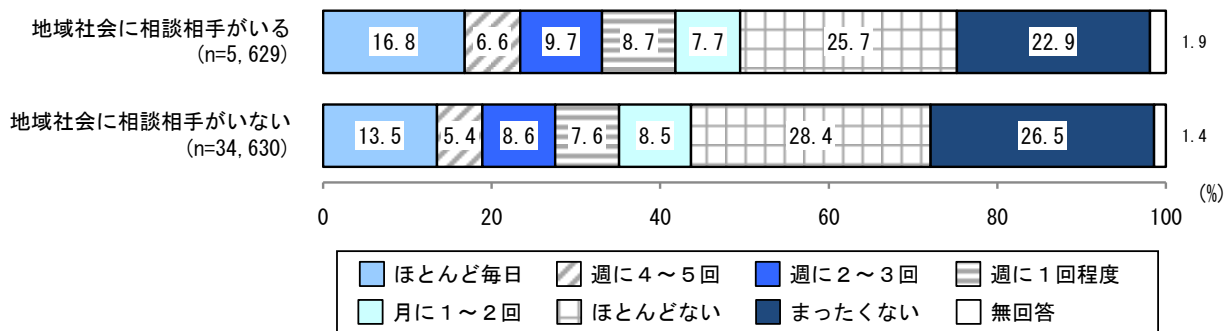


図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、家の手伝いをしているかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもがおうちの手伝いをしているかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」、「週に2～3回」、「週に1回程度」、「まったくない」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（保護者票問 19×子ども票問 8⑤）

<大阪府内全体>



<枚方市>

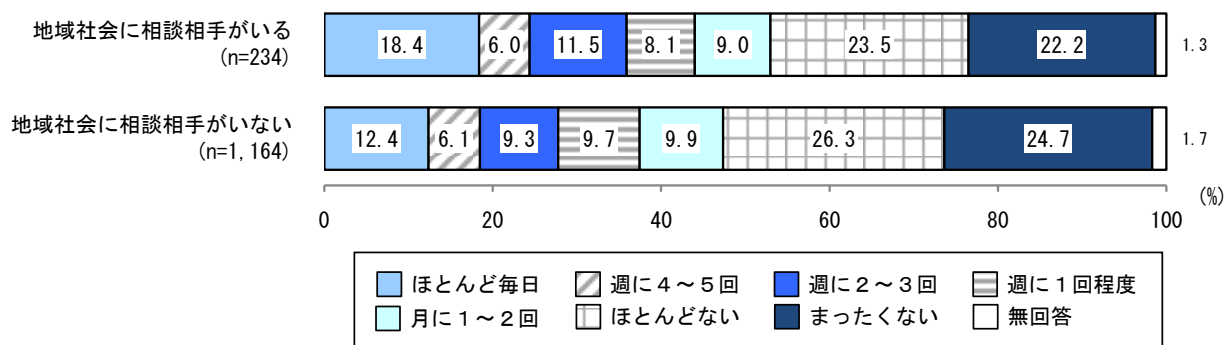
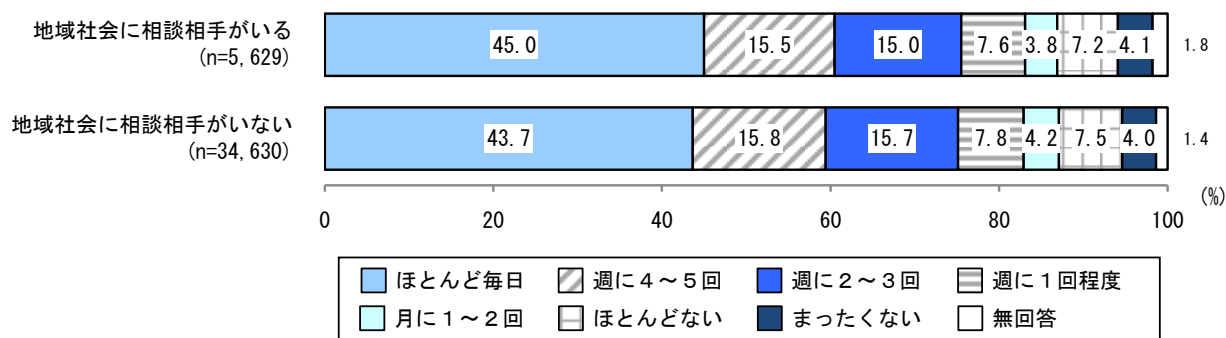


図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっているかに「ほとんど毎日」、「週に2～3回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑥)

<大阪府内全体>



<枚方市>

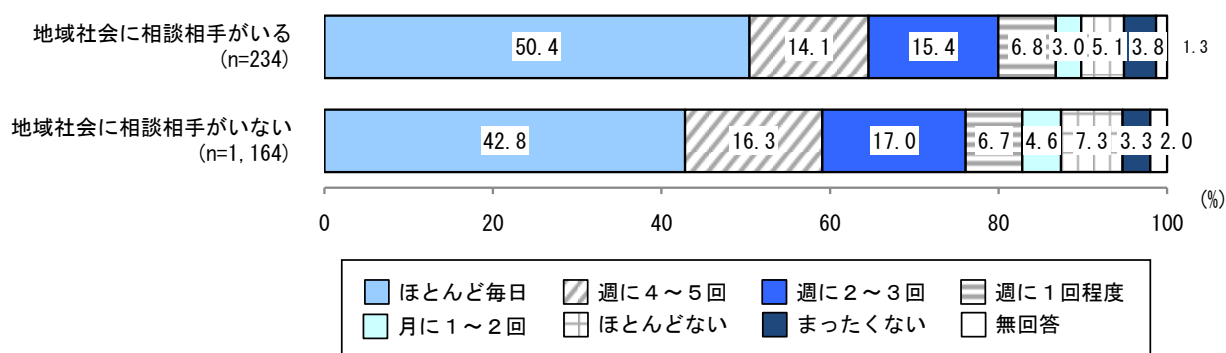
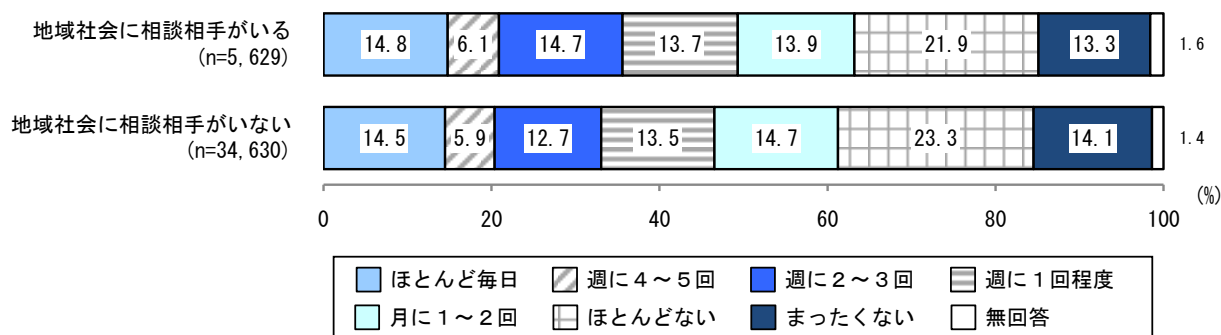


図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかに「ほとんど毎日」、「週に1回程度」、「まったくない」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑦)

<大阪府内全体>



<枚方市>

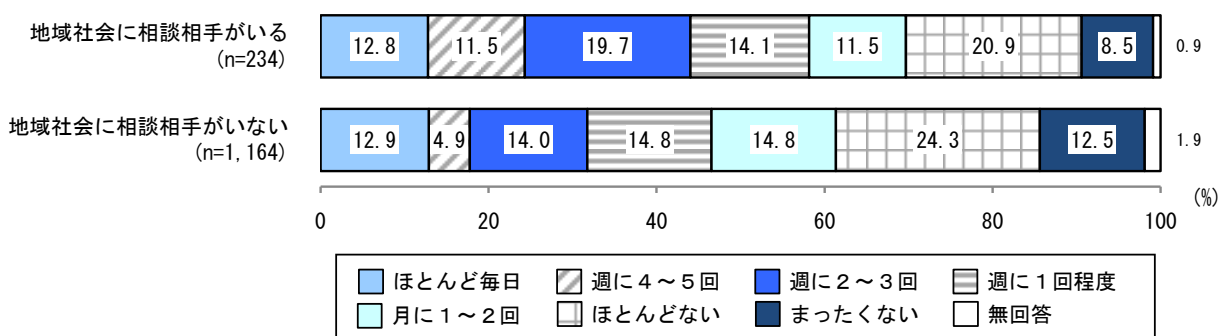
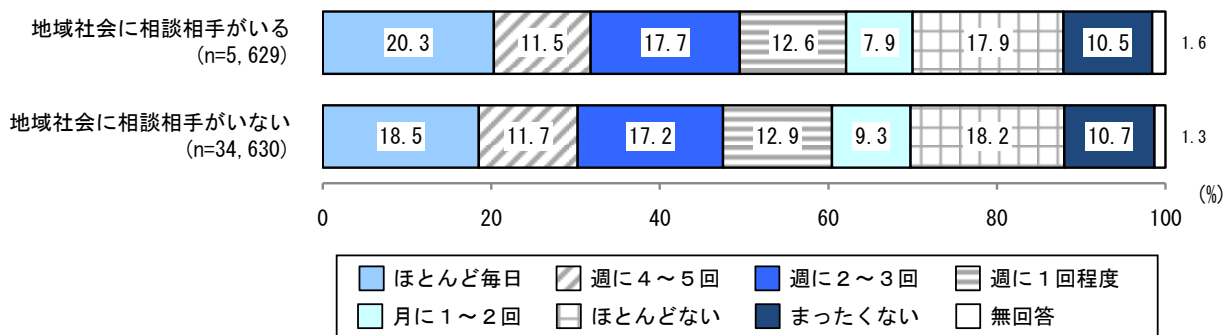


図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかに「ほとんど毎日」、「週に1回程度」、「月に1～2回」、「ほとんどない」、「まったくなく」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑧）

<大阪府内全体>



<枚方市>

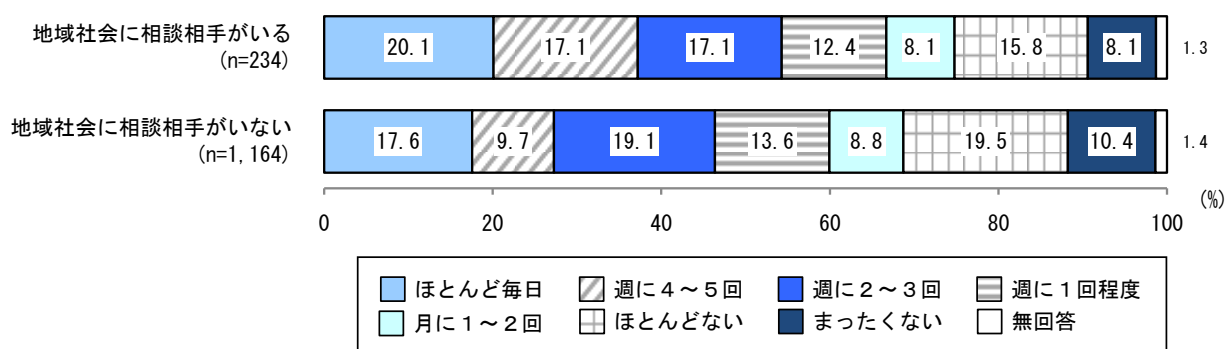
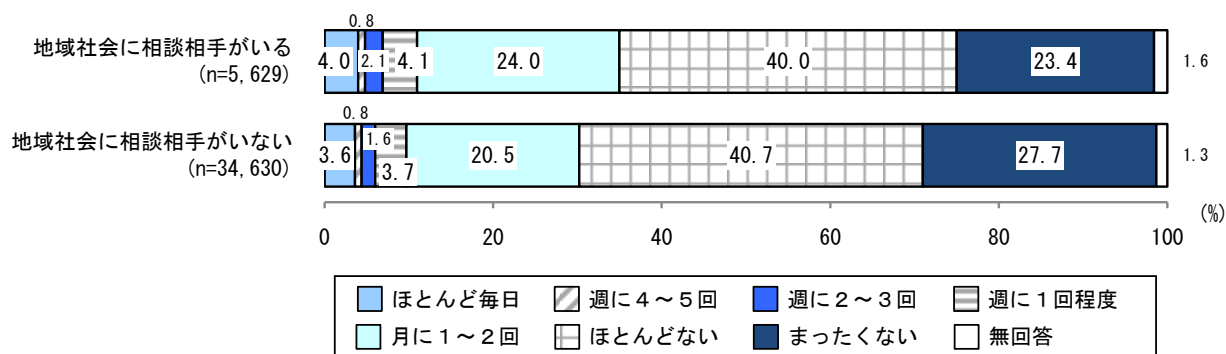


図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑨)

<大阪府内全体>



<枚方市>

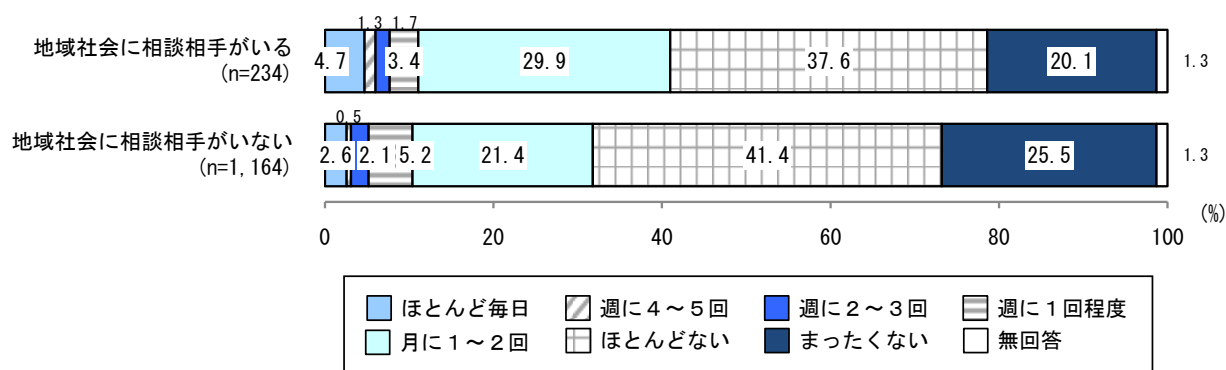
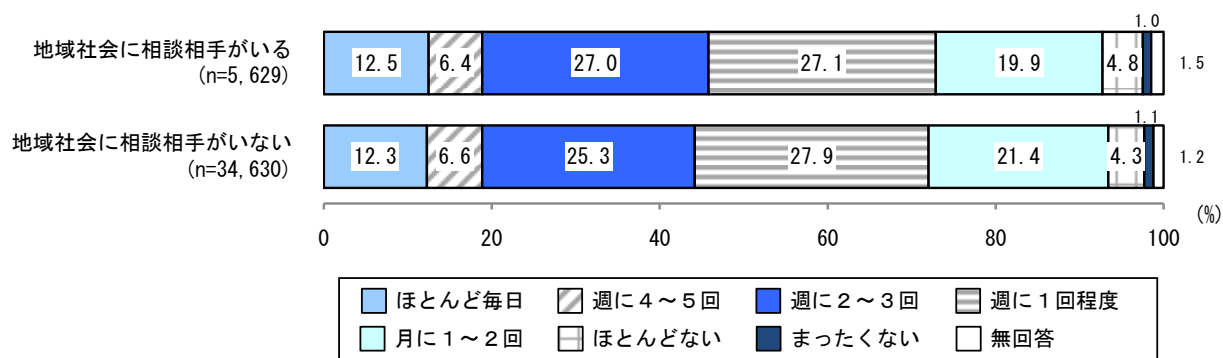


図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と文化活動をするかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」、「月に1～2回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑩)

<大阪府内全体>



<枚方市>

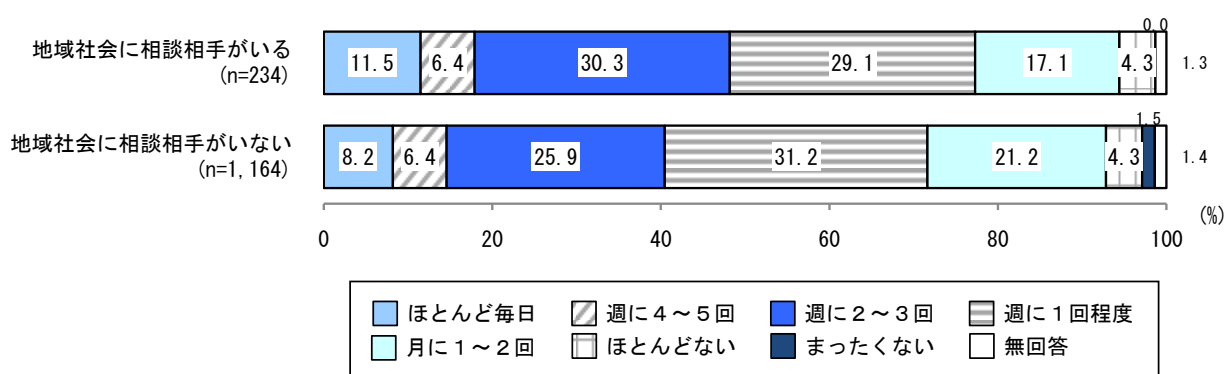
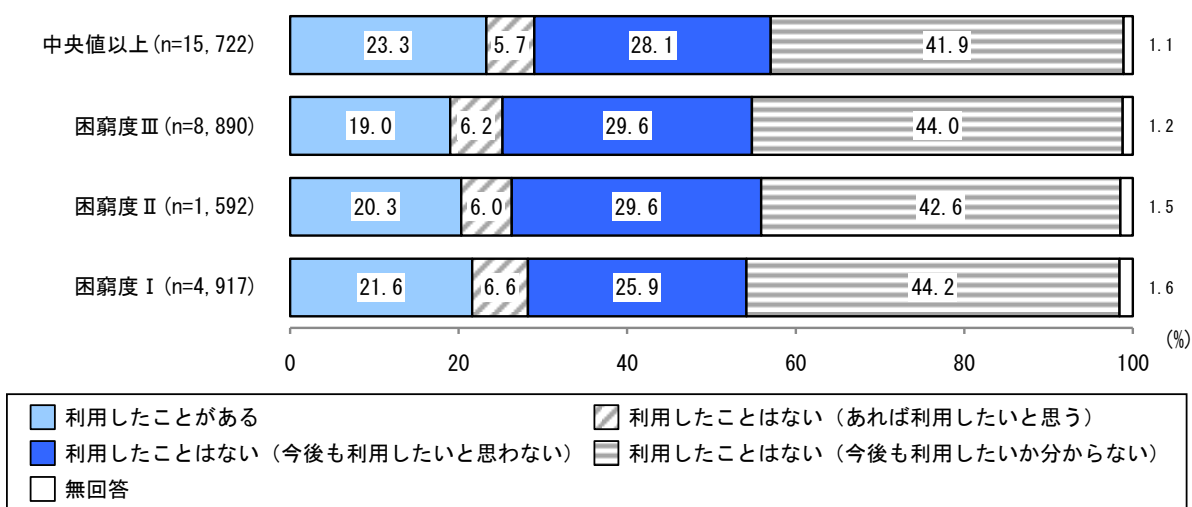


図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と一緒に外出するかに「ほとんど毎日」、「週に2～3回」と回答する割合が高かった。

困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所（子ども票問 25(1)①）

<大阪府内全体>



<枚方市>

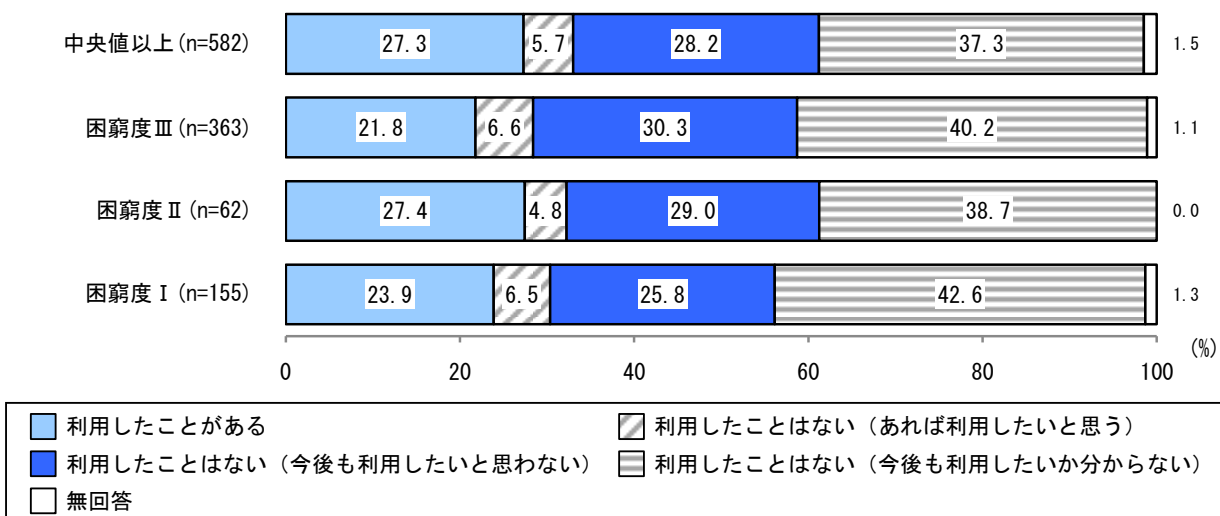
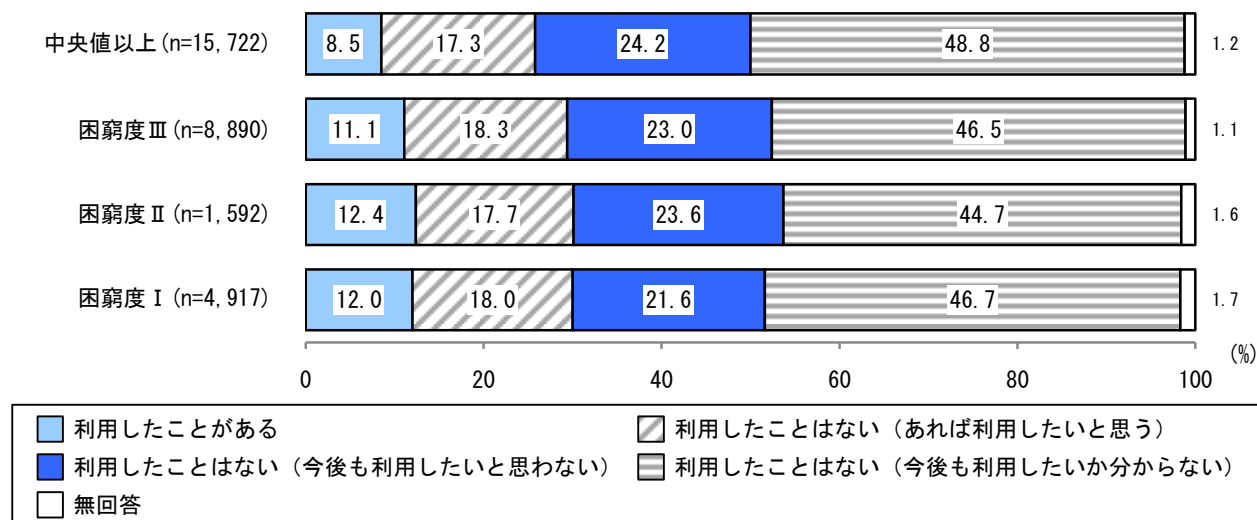


図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

困窮度別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群で27.4%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所
(子ども票問 25(1)②)

<大阪府内全体>



<枚方市>

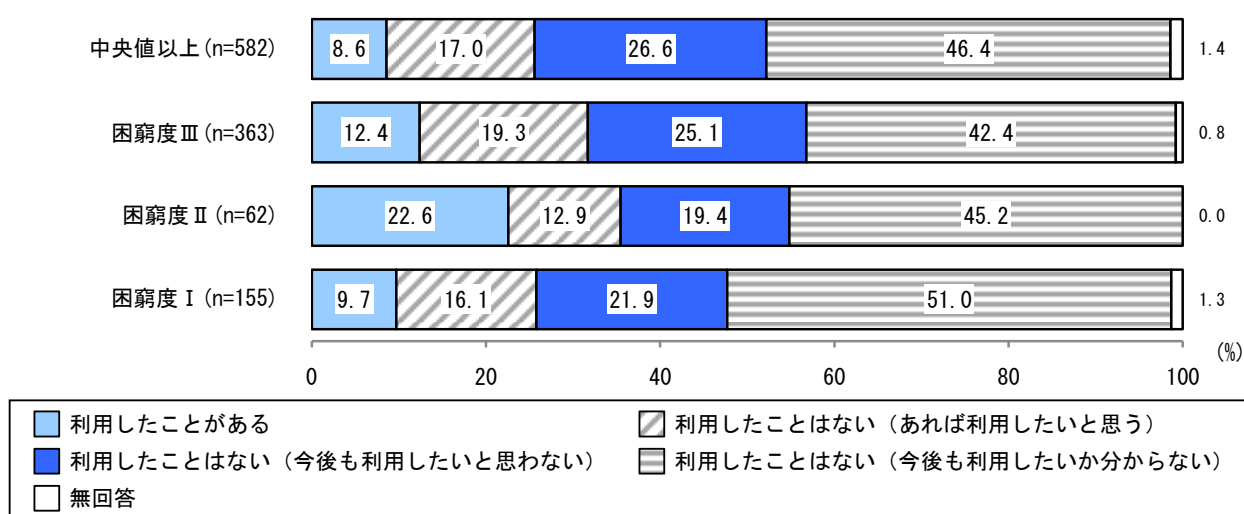
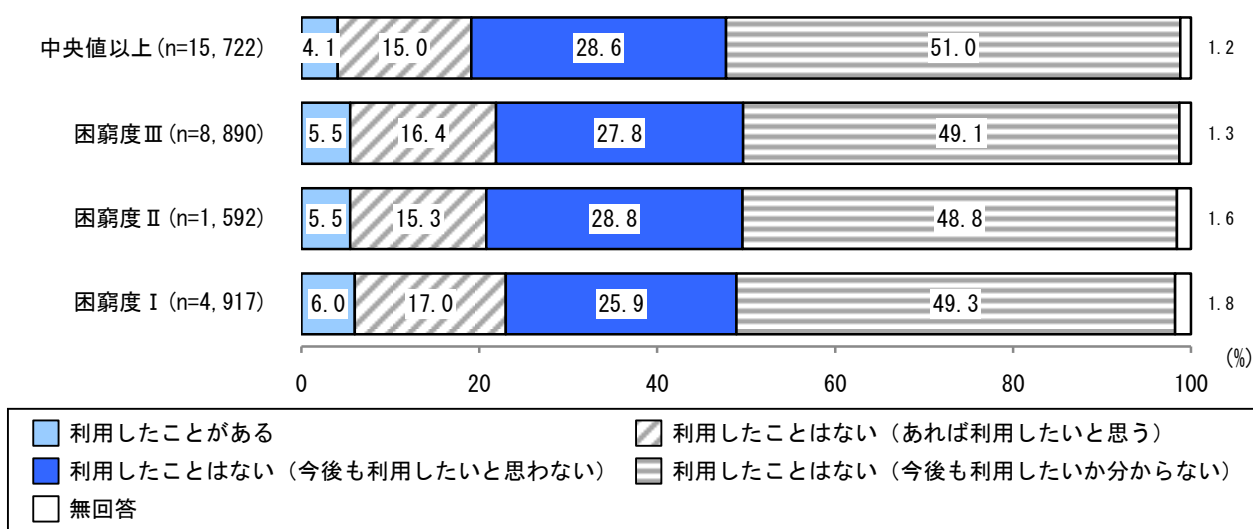


図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

困窮度別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことはない (今後も利用したいか分からない)」と回答する割合が困窮度Ⅰ群で51.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所（子ども票問 25(1)③）

<大阪府内全体>



<枚方市>

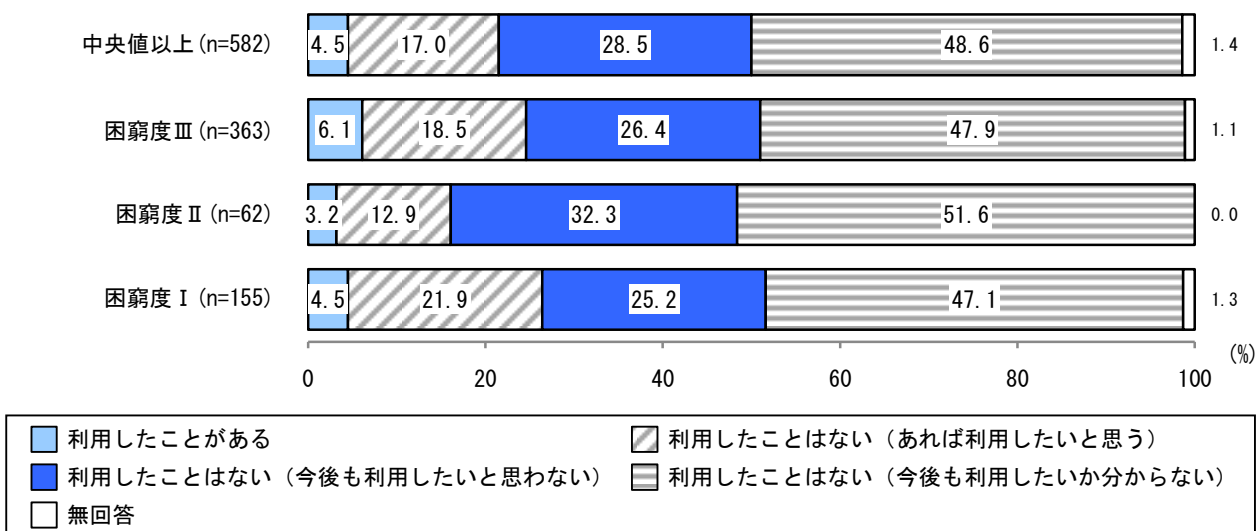
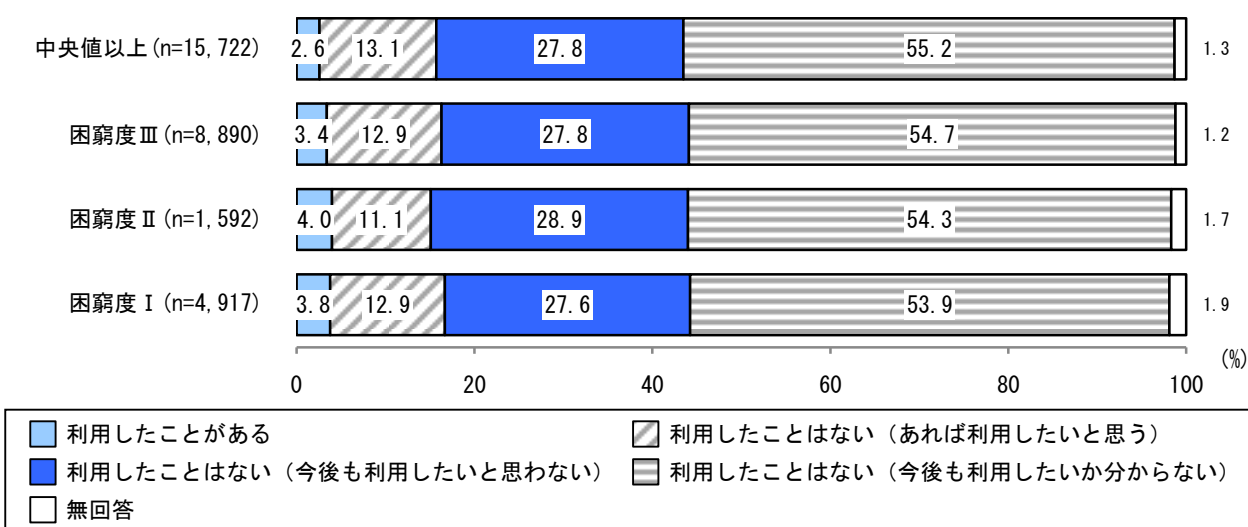


図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所

困窮度別に勉強を無料か安い料金でみてる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が困窮度Ⅲ群で6.1%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、何でも相談できる場所（子ども票問 25(1)④）

<大阪府内全体>



<枚方市>

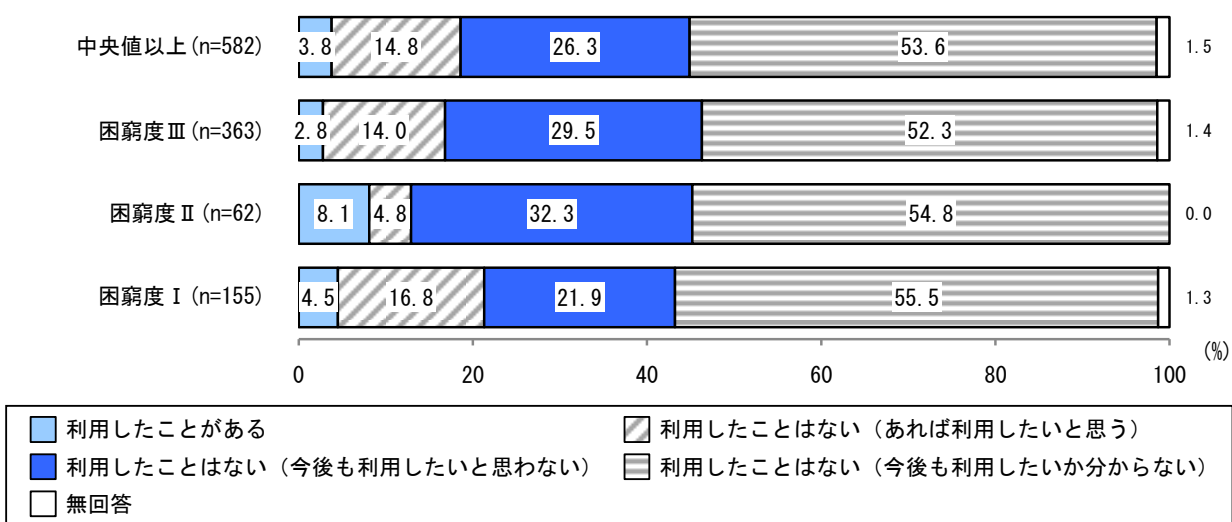
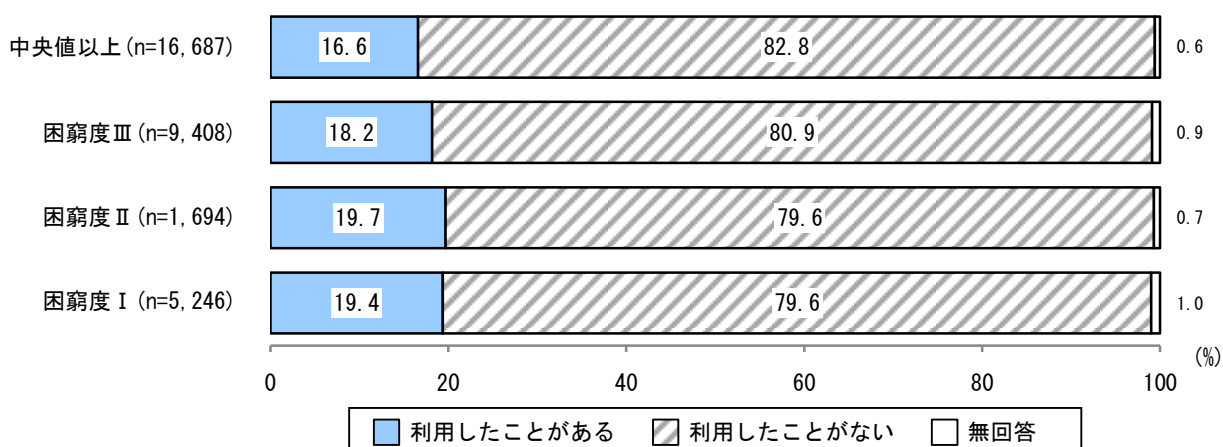


図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所

困窮度別に何でも相談できる場所を見ると、概ね困窮度が高まるにつれて、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」と回答する割合が高くなっている。一方、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群で8.1%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験（保護者票問 16(1)）

<大阪府内全体>



<枚方市>

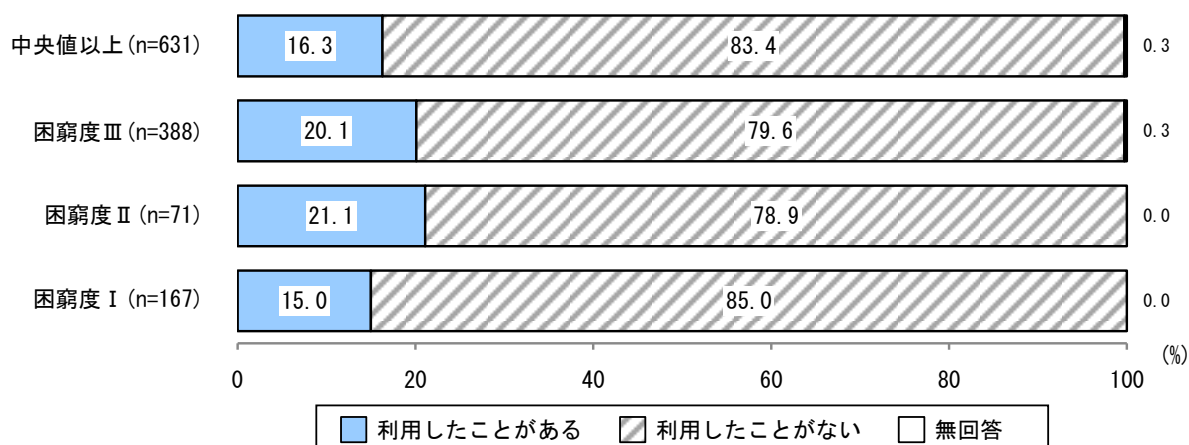
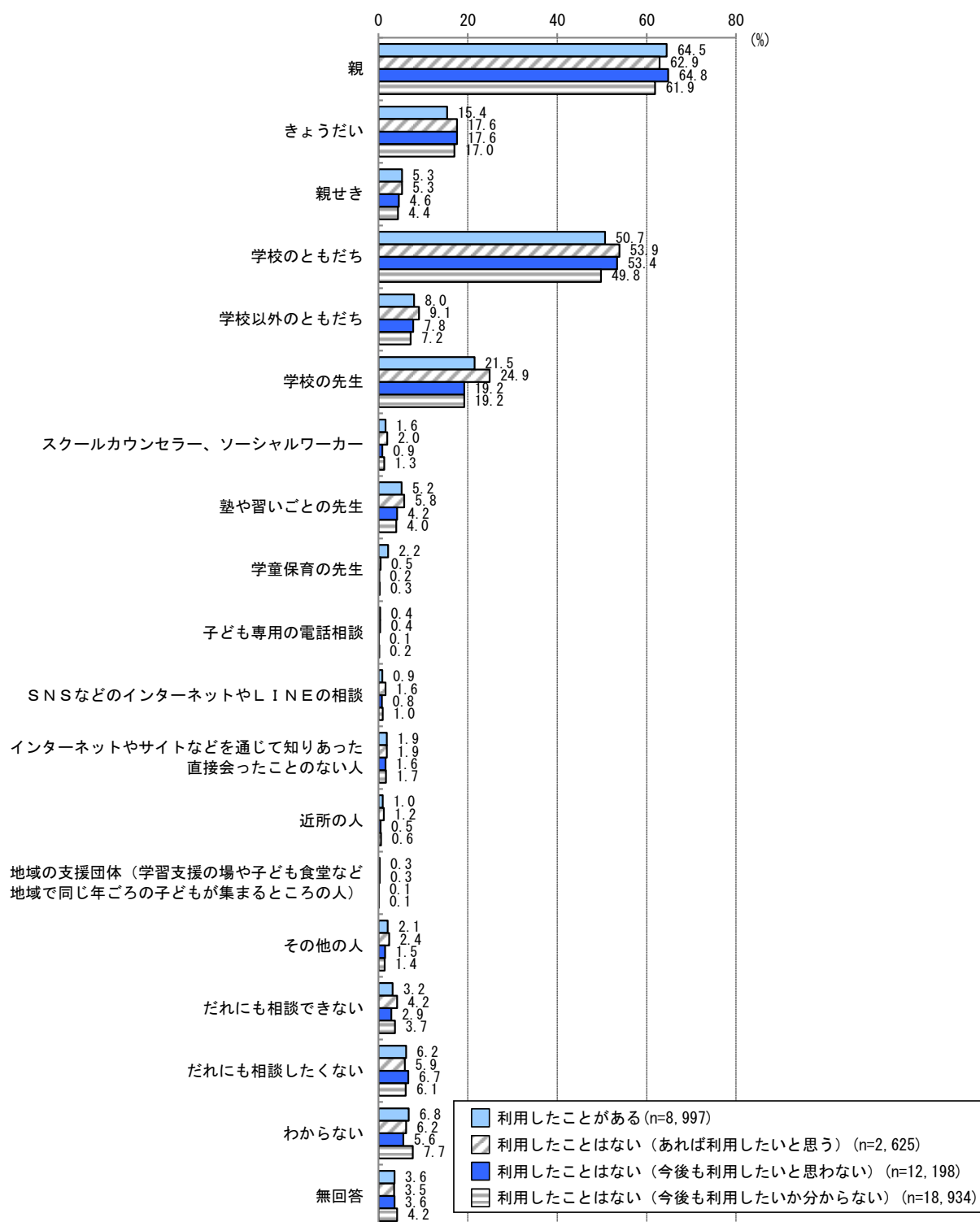


図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験

困窮度別に子どもの居場所の利用経験を見ると、「利用したことがある」と回答する割合は困窮度Ⅰ群が15.0%で最も低く、困窮度Ⅱ群が21.1%で最も高くなっている。

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)①×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<枚方市>

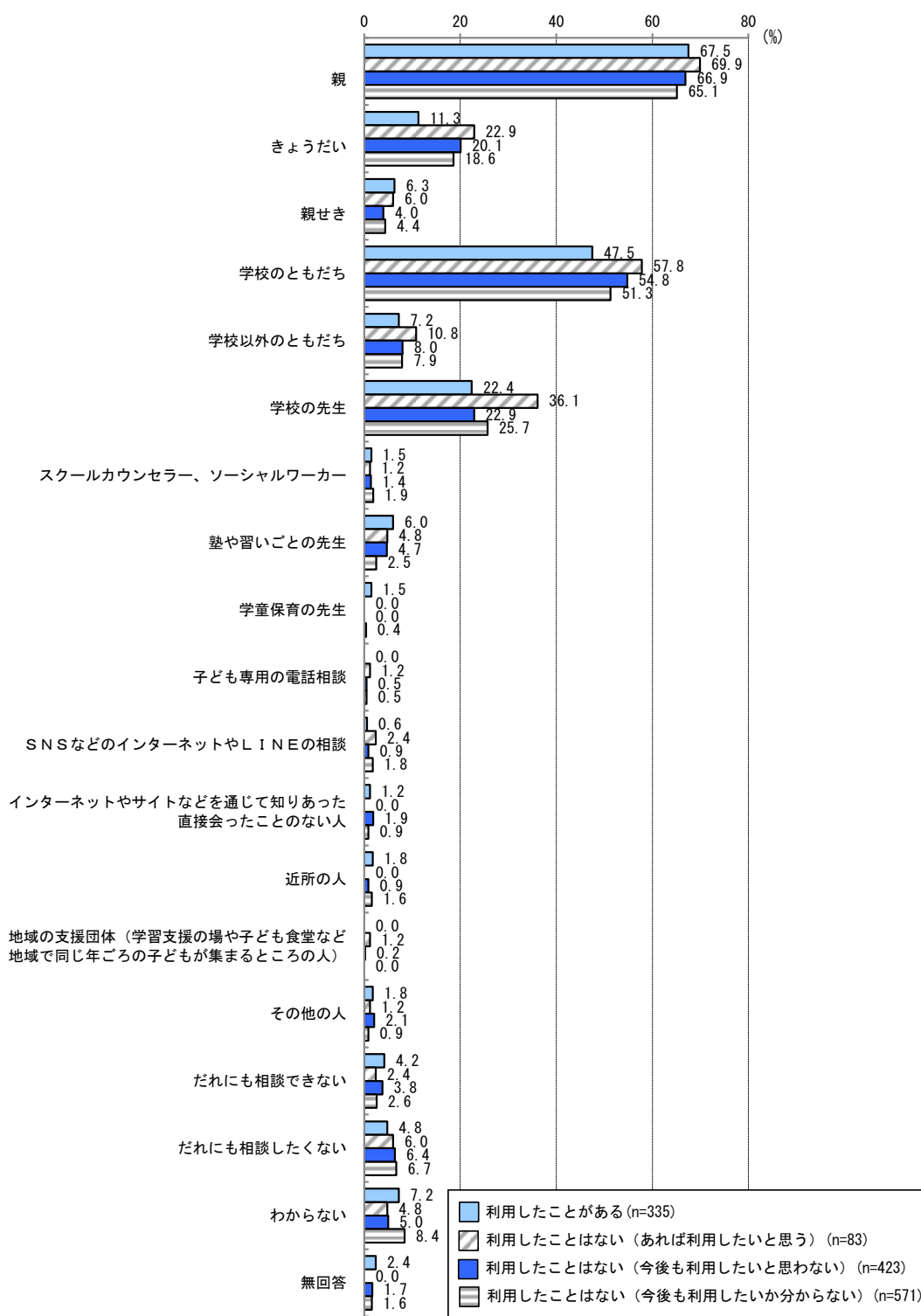
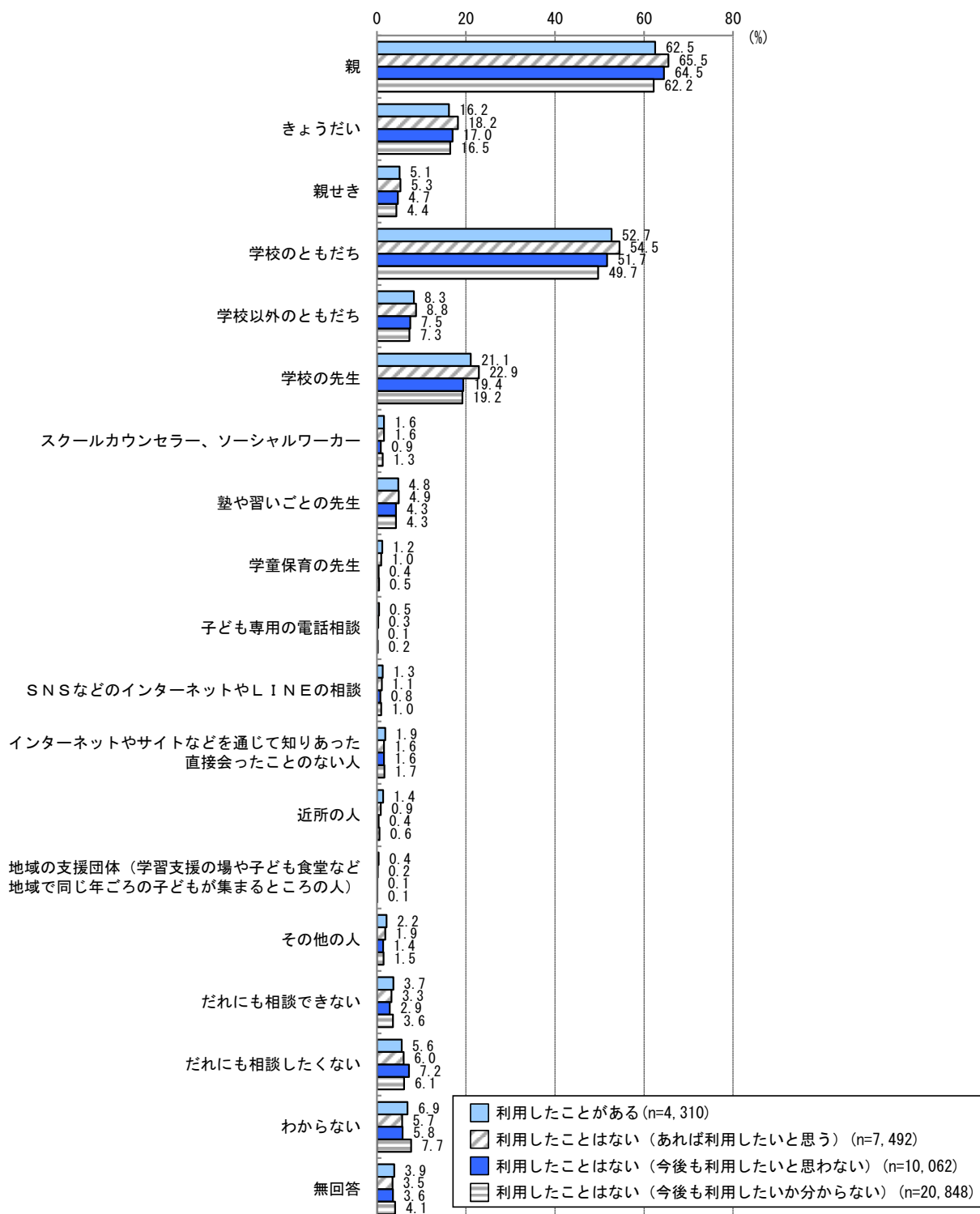


図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人が69.9%で最も高く、次いで「利用したことがある」と回答した人が67.5%で高くなっている。

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 25 (1)②×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

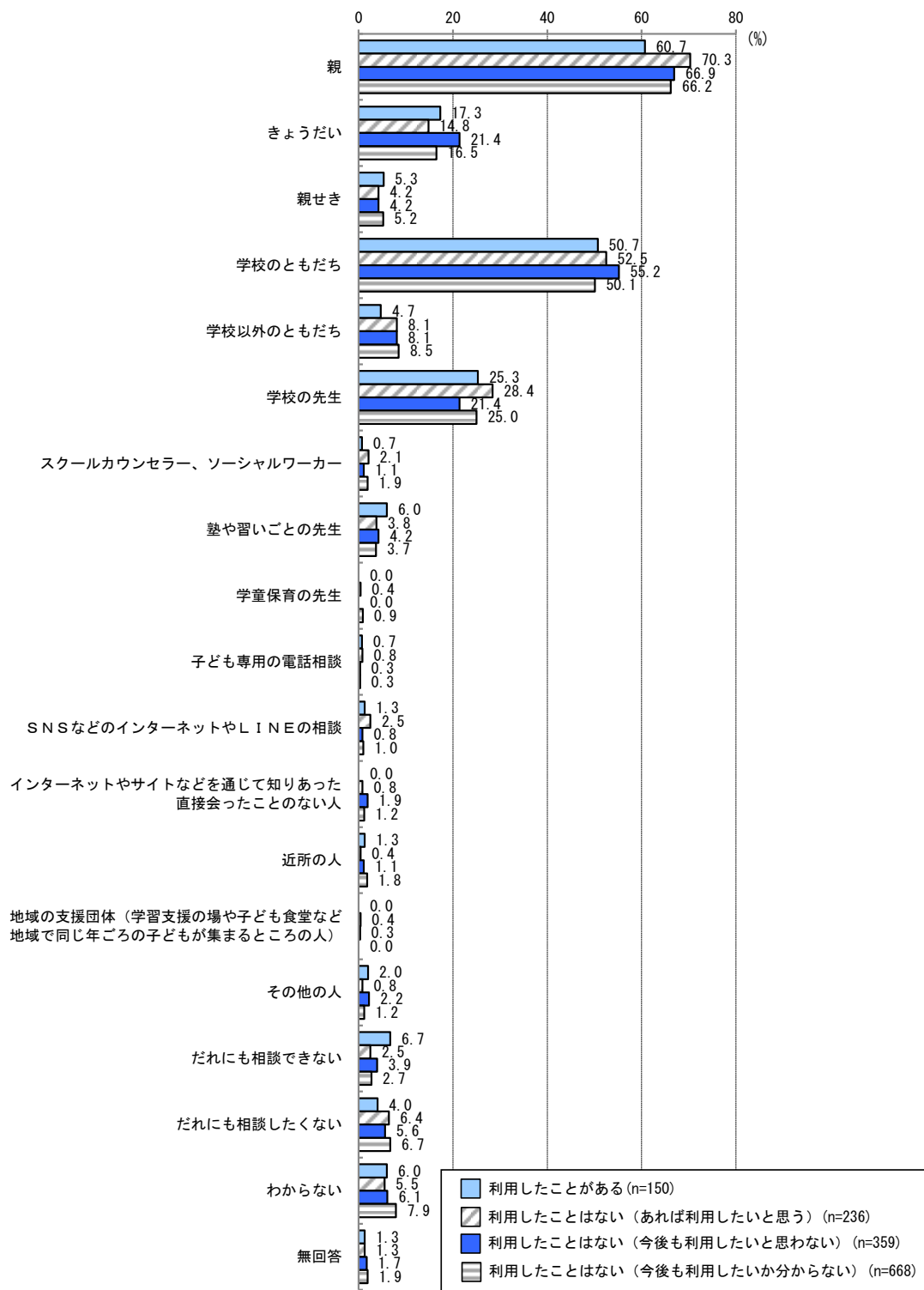
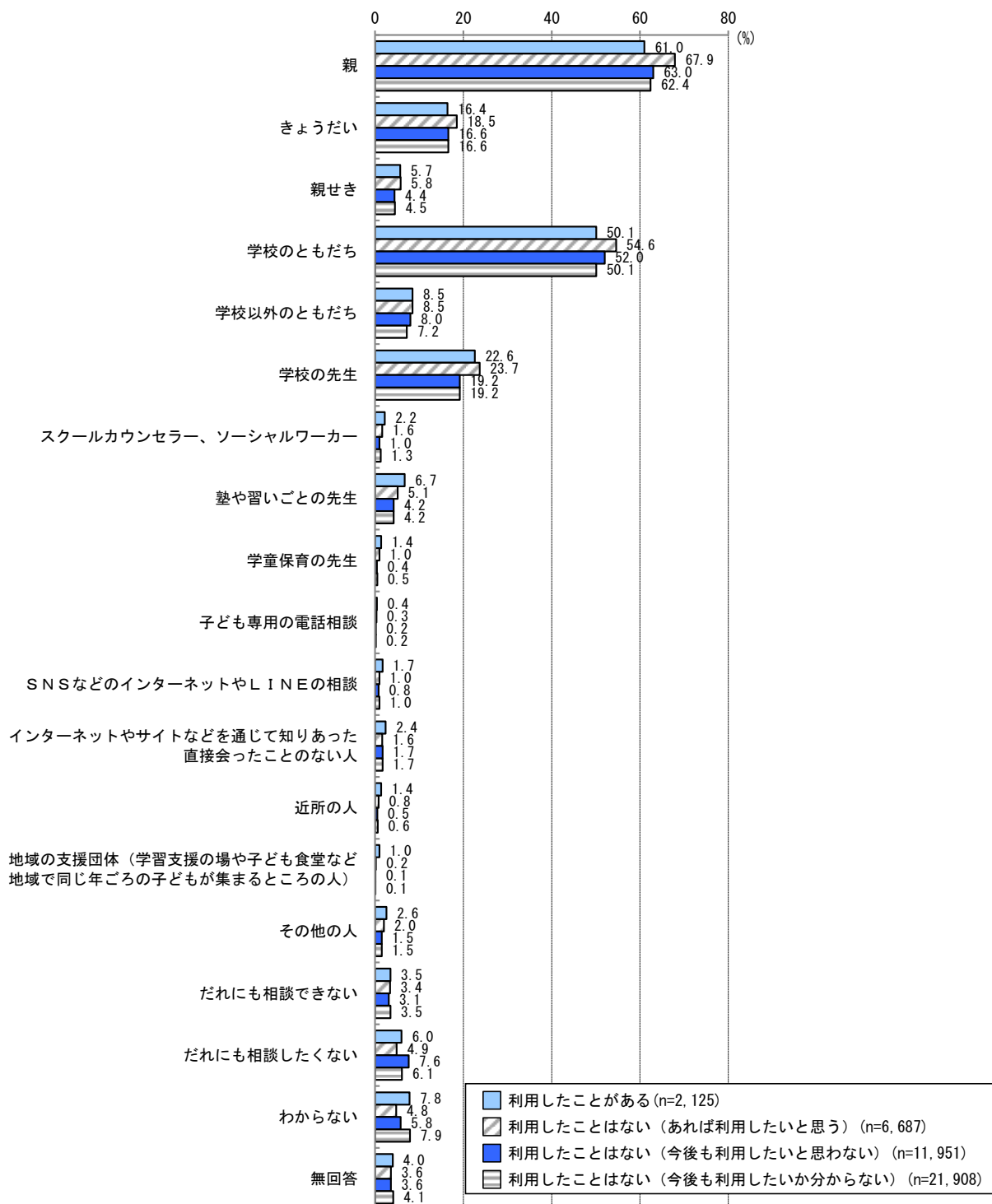


図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「きょうだい」と回答した割合は、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」と回答した人が21.4%で最も高く、次いで「利用したことがある」と回答した人が17.3%で高くなっている。

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)③×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<枚方市>

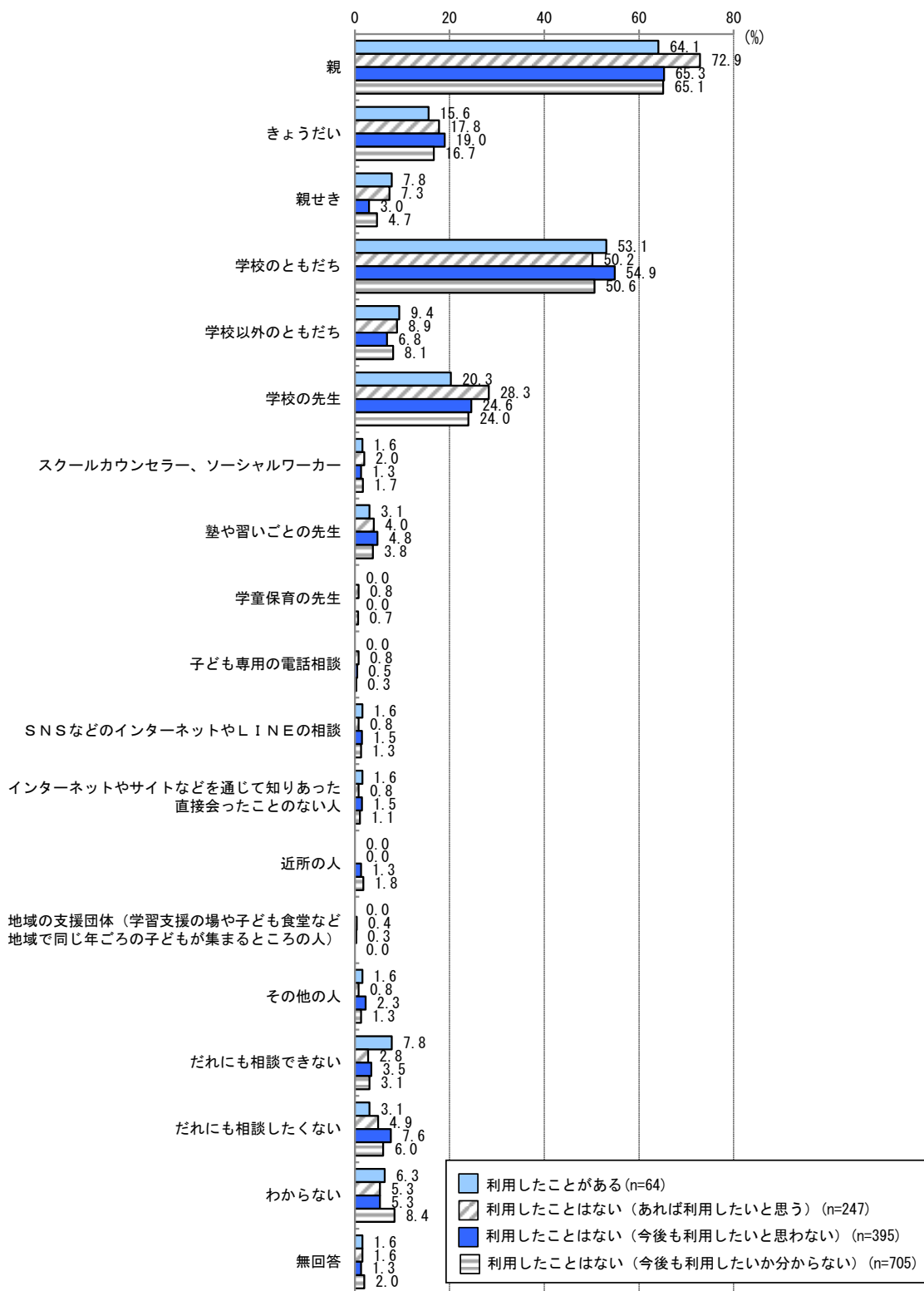
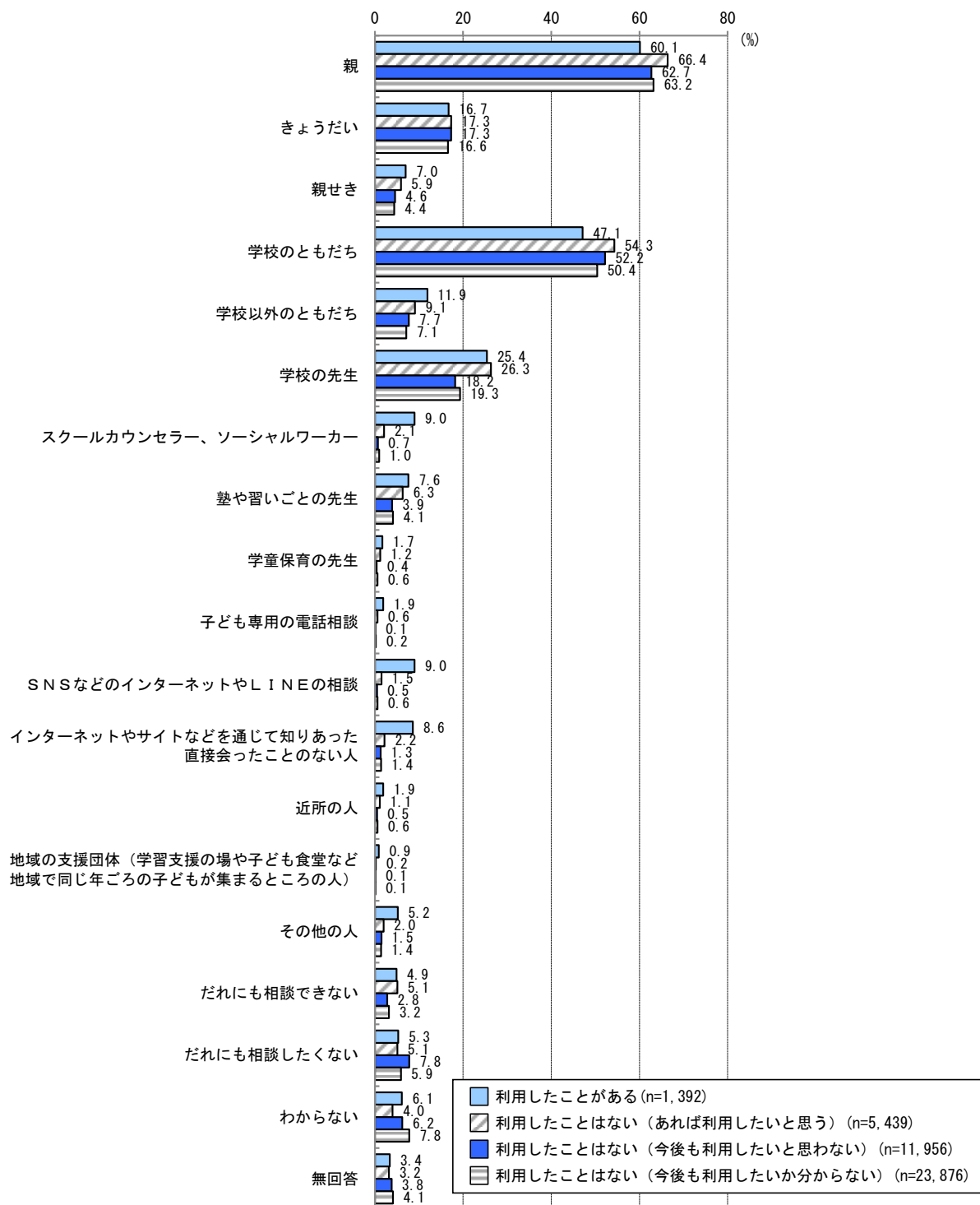


図 176. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人が72.9%で最も高く、「利用したことがある」と回答した人が64.1%で最も低くなっている。

何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)④×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<枚方市>

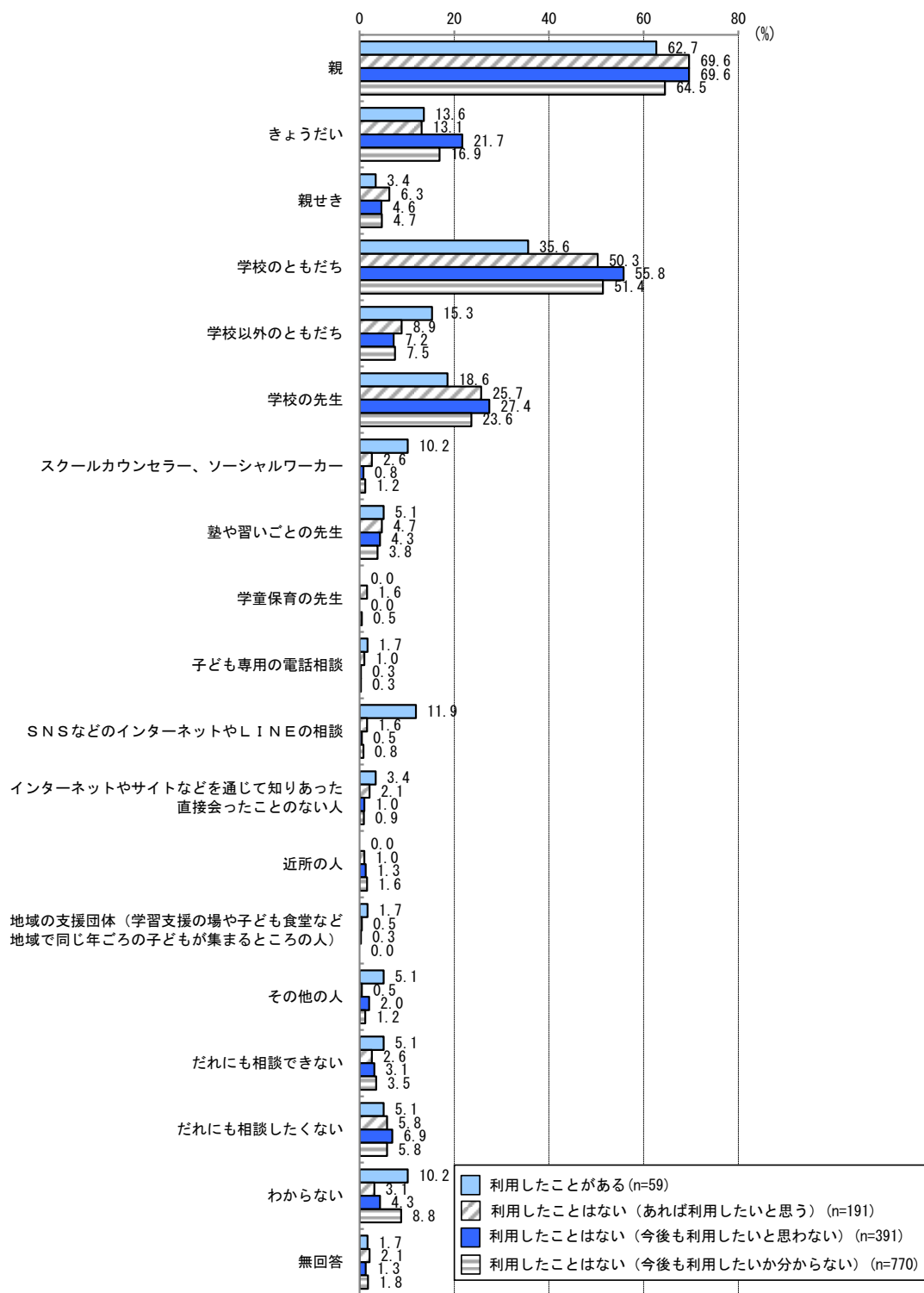
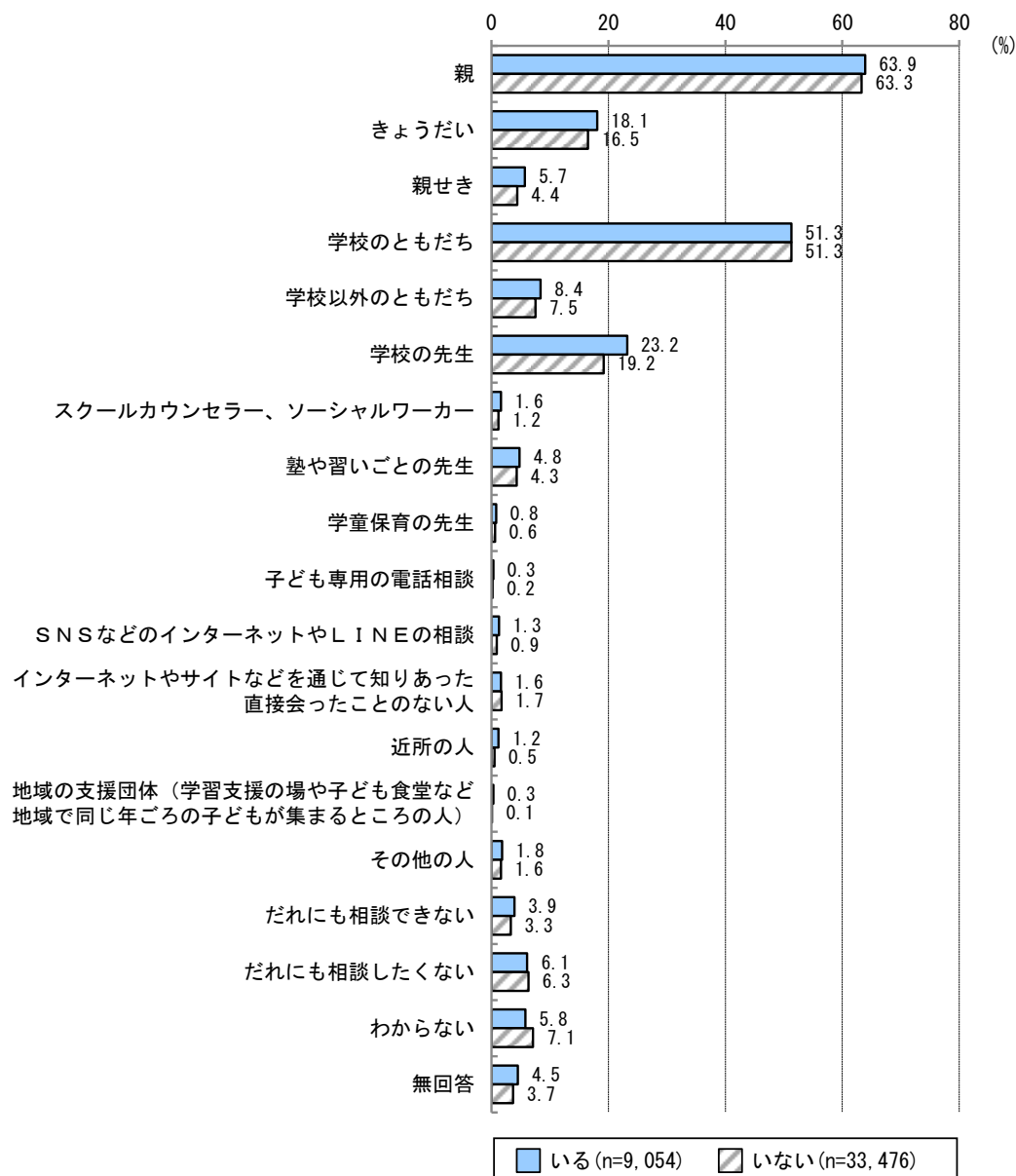


図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

何でも相談できる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」と回答した人がともに69.6%で最も高く、「利用したことがある」と回答した人が62.7%で最も低くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<枚方市>

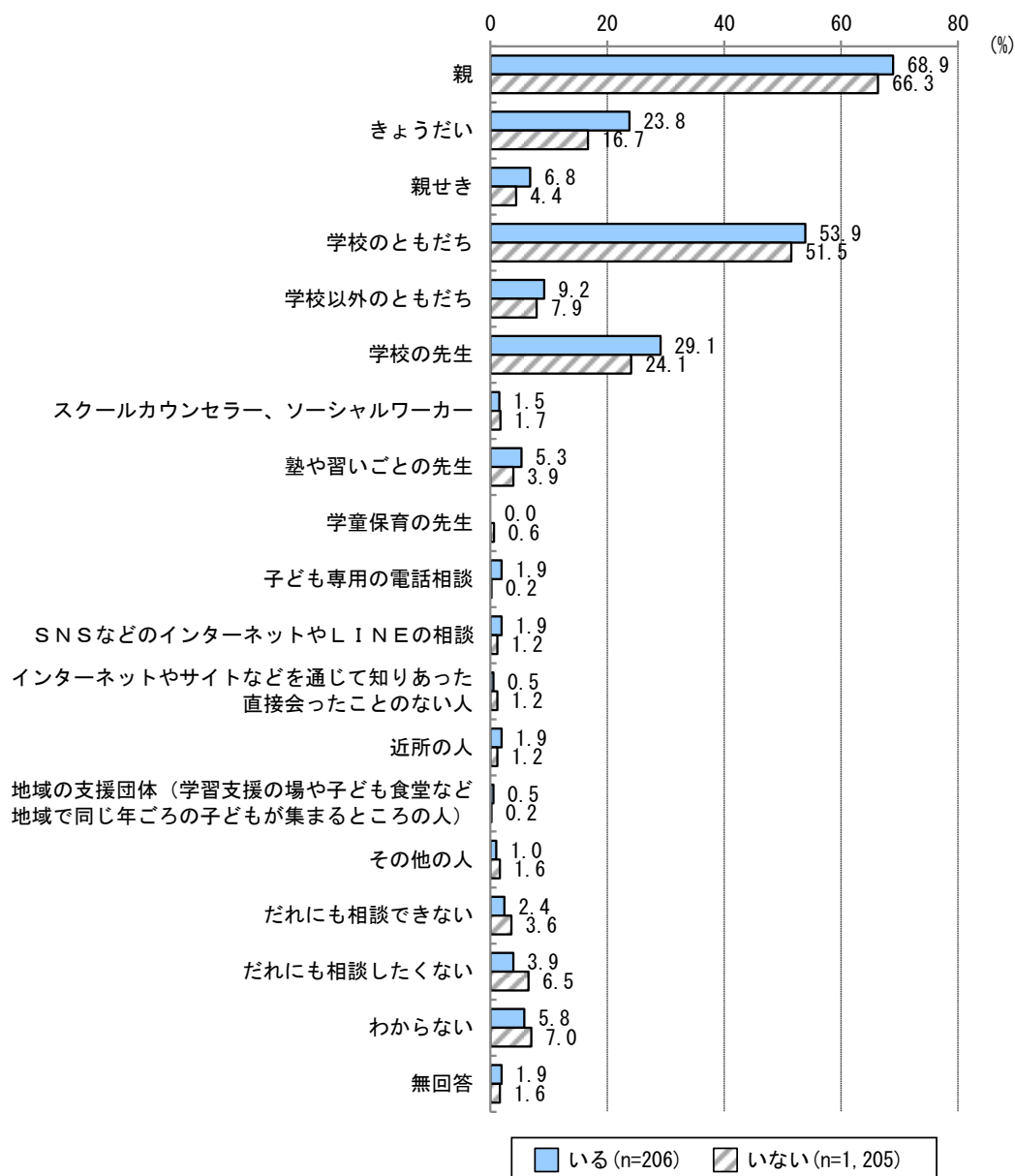
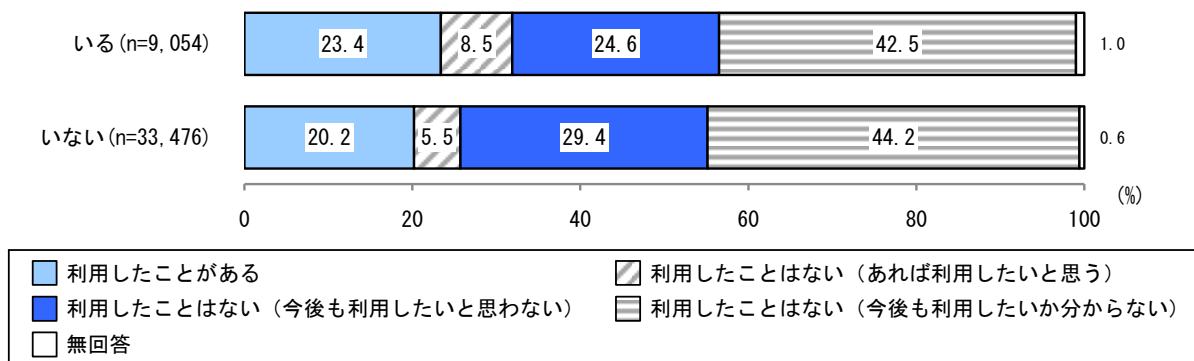


図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

自分が世話をしている人の有無別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手をみると、相談相手が「きょうだい」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人より、いる人のほうが割合が高く、世話をしている人では23.8%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<枚方市>

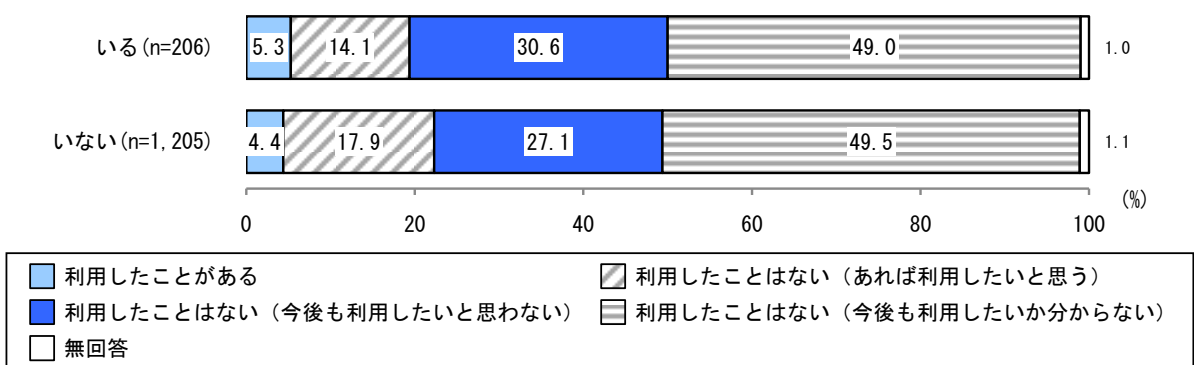
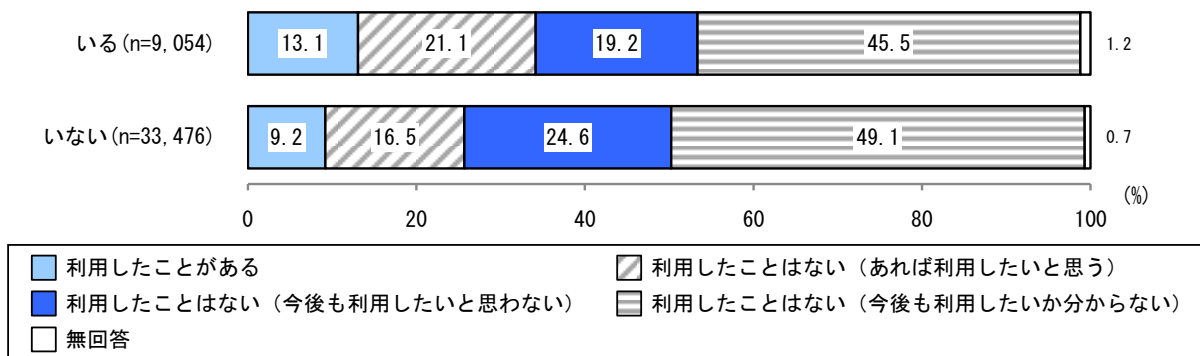


図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

自分が世話をしている人の有無別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、平日の夜や休日を過ごすことができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (今後も利用したいと思わない)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人より、いる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

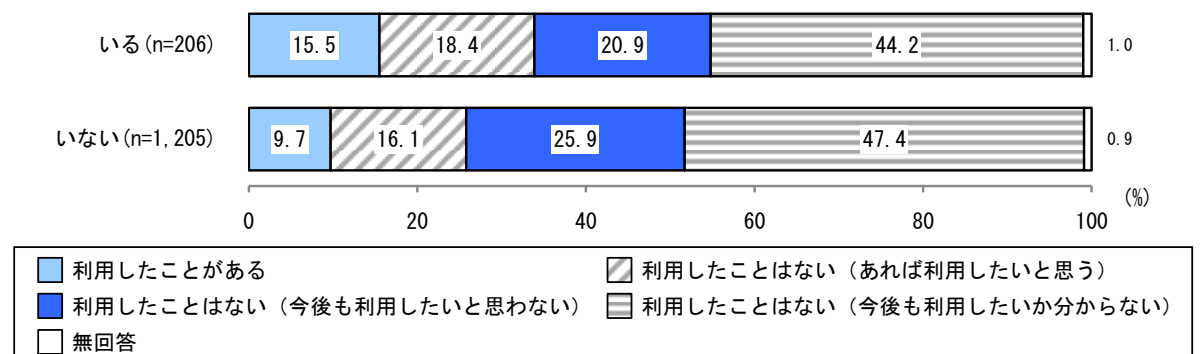
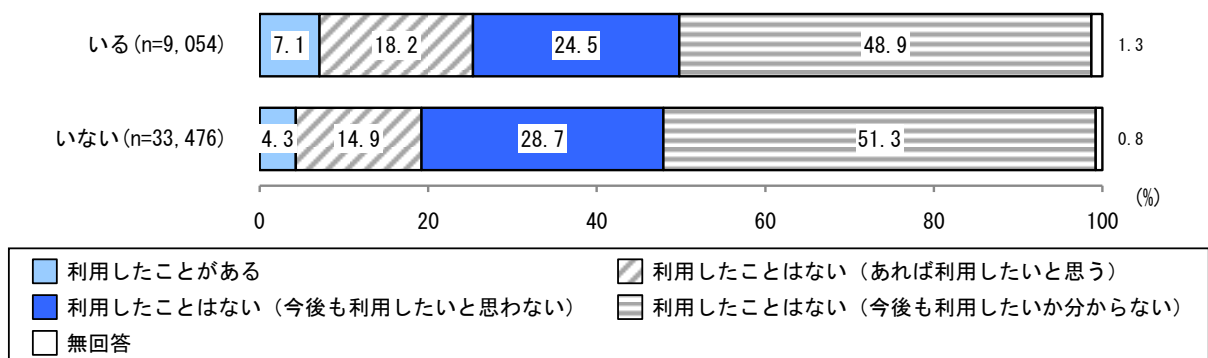


図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

自分が世話をしている人の有無別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人より、いる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<枚方市>

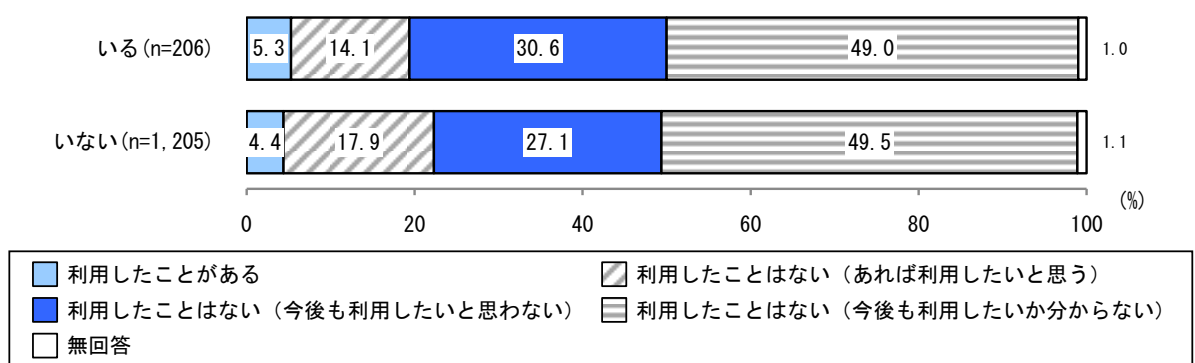
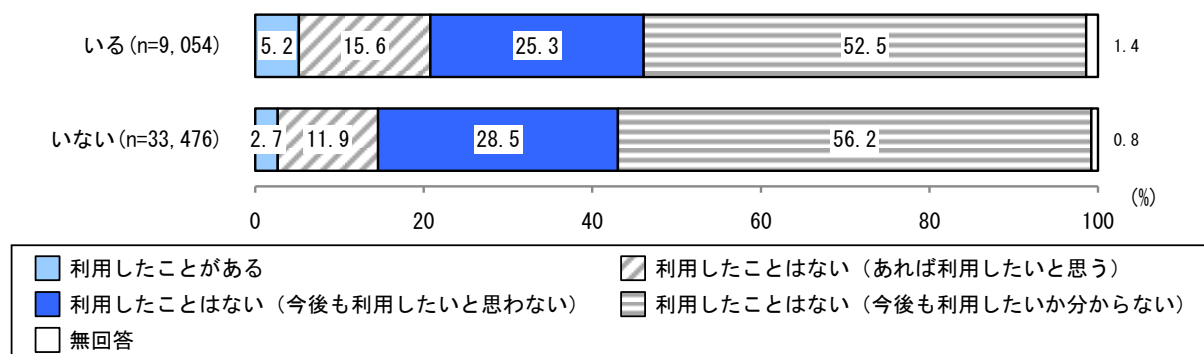


図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

自分が世話をしている人の有無別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を「利用したことがある」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人より、いる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<枚方市>

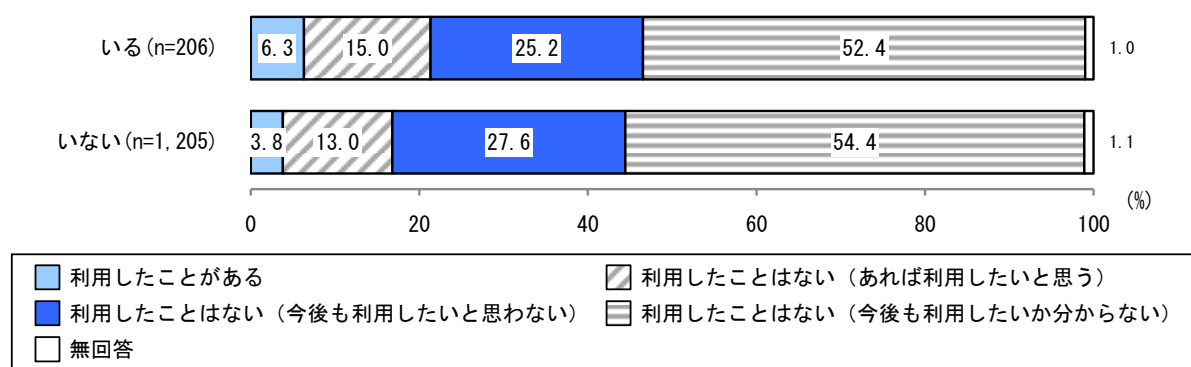
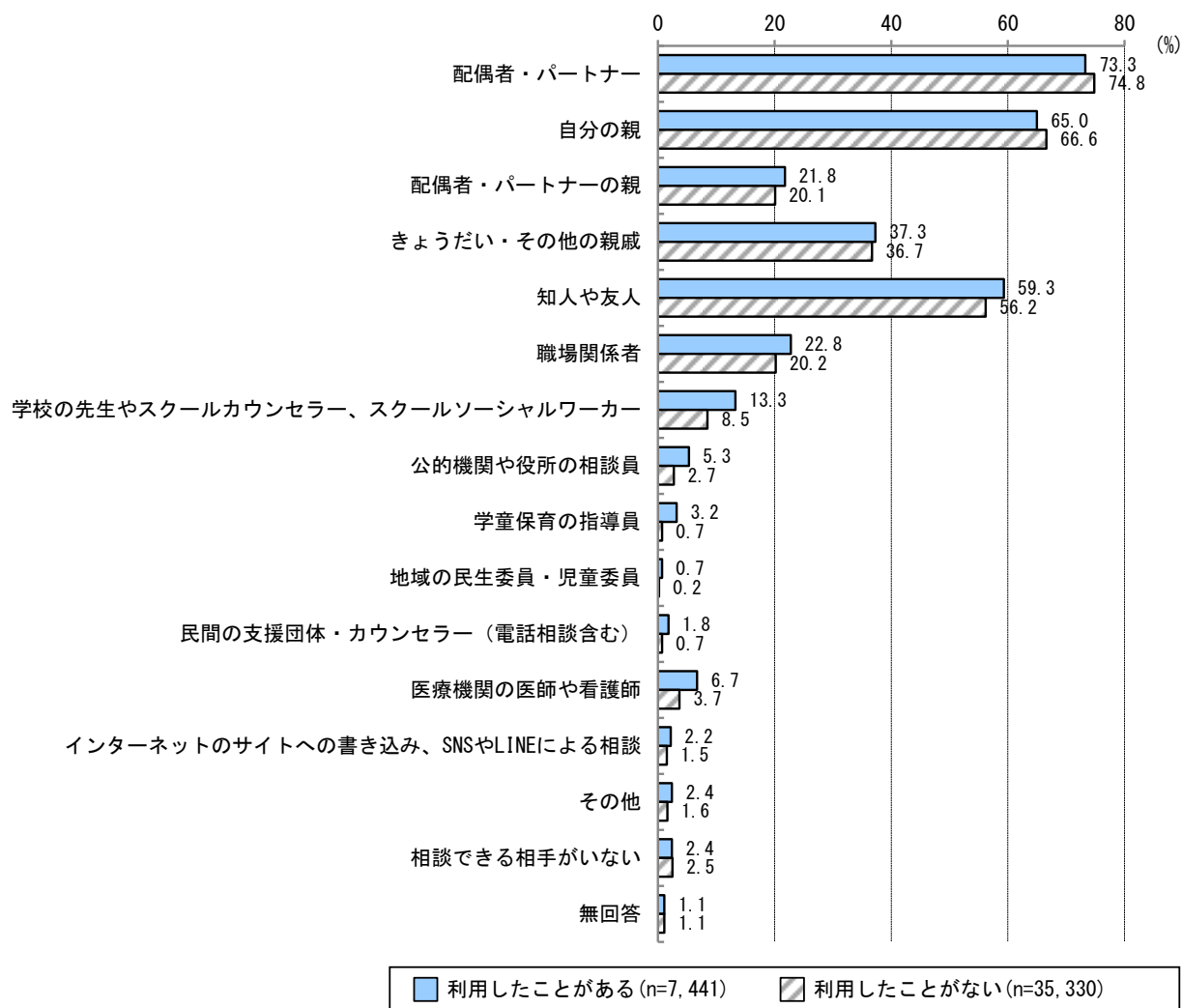


図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所

自分が世話をしている人の有無別に何でも相談できる場所を見ると、何でも相談できる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人より、いる人のほうが割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 19)

<大阪府内全体>



<枚方市>

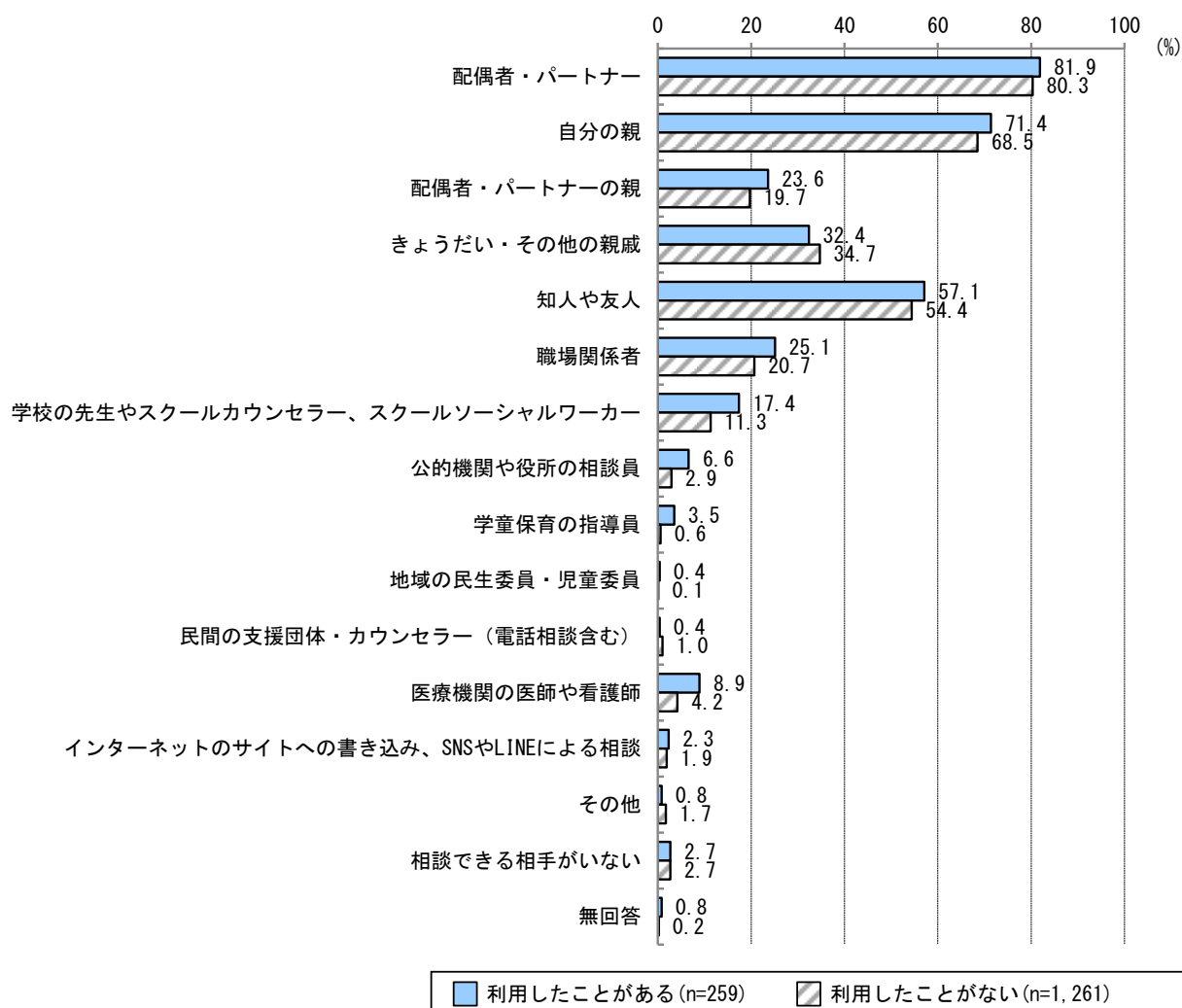


図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

子どもの居場所の利用経験別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、複数の項目で子どもの居場所を利用したことがない人より、利用したことがある人のほうが回答した割合が高くなっている。一方、「きょうだい・その他の親戚」と回答した人の割合は、利用したことがない人の方が回答した割合が高くなっている。

<枚方市>

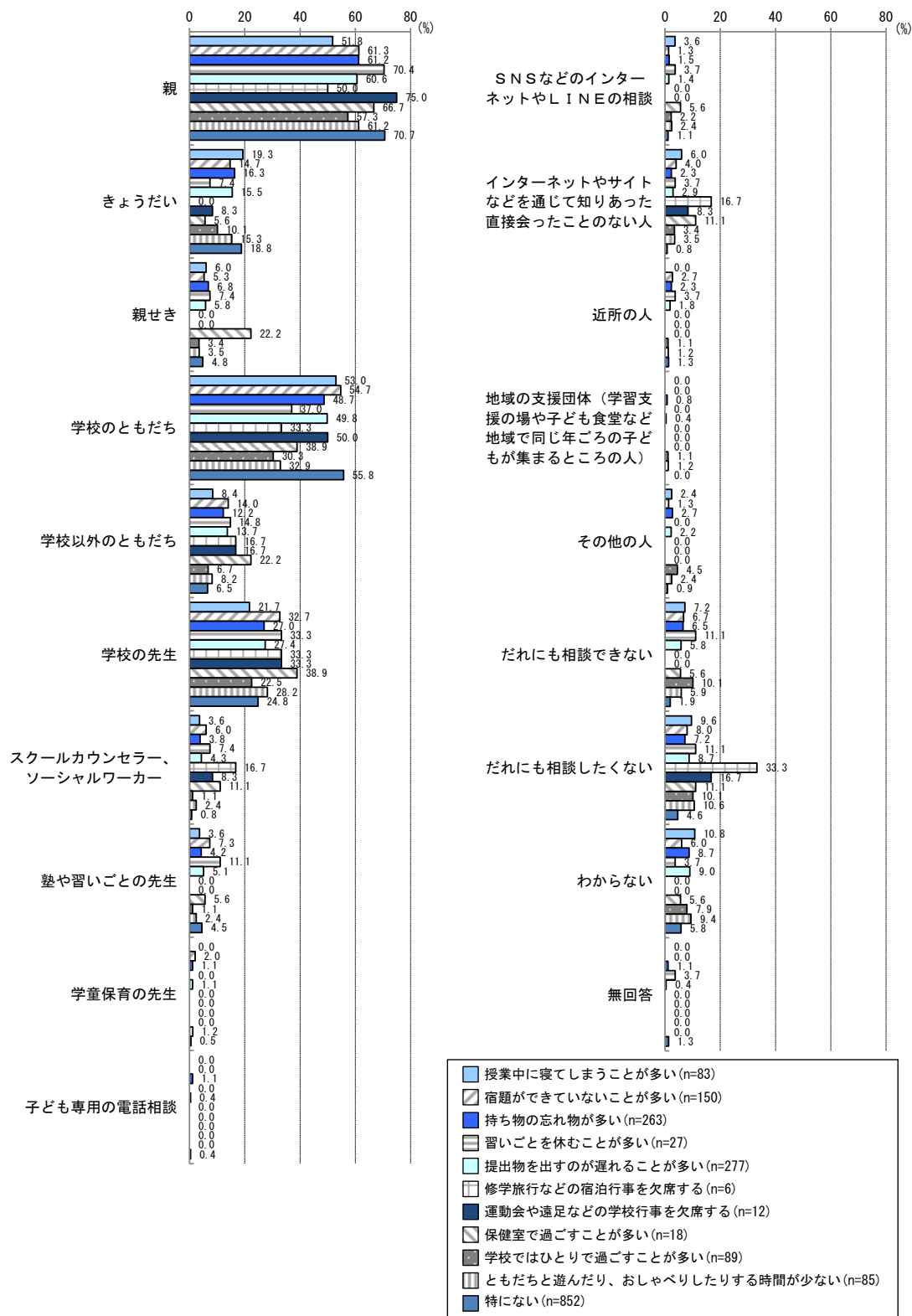
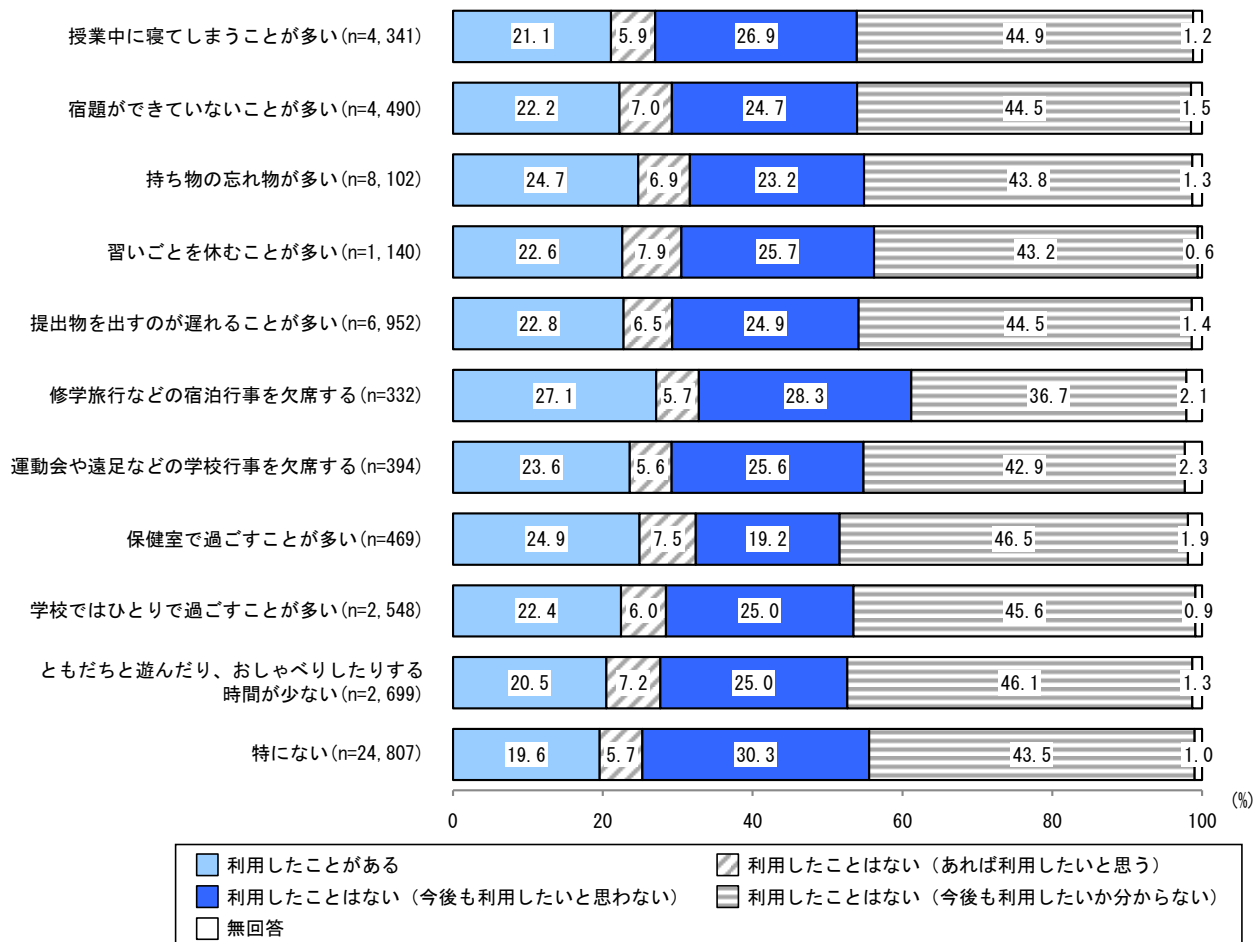


図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

学校や学校の行事等の状況別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、「親」と回答した人の割合は「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」と回答した人の割合が75.0%で最も高く、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した人の割合が50.0%で最も低くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<枚方市>

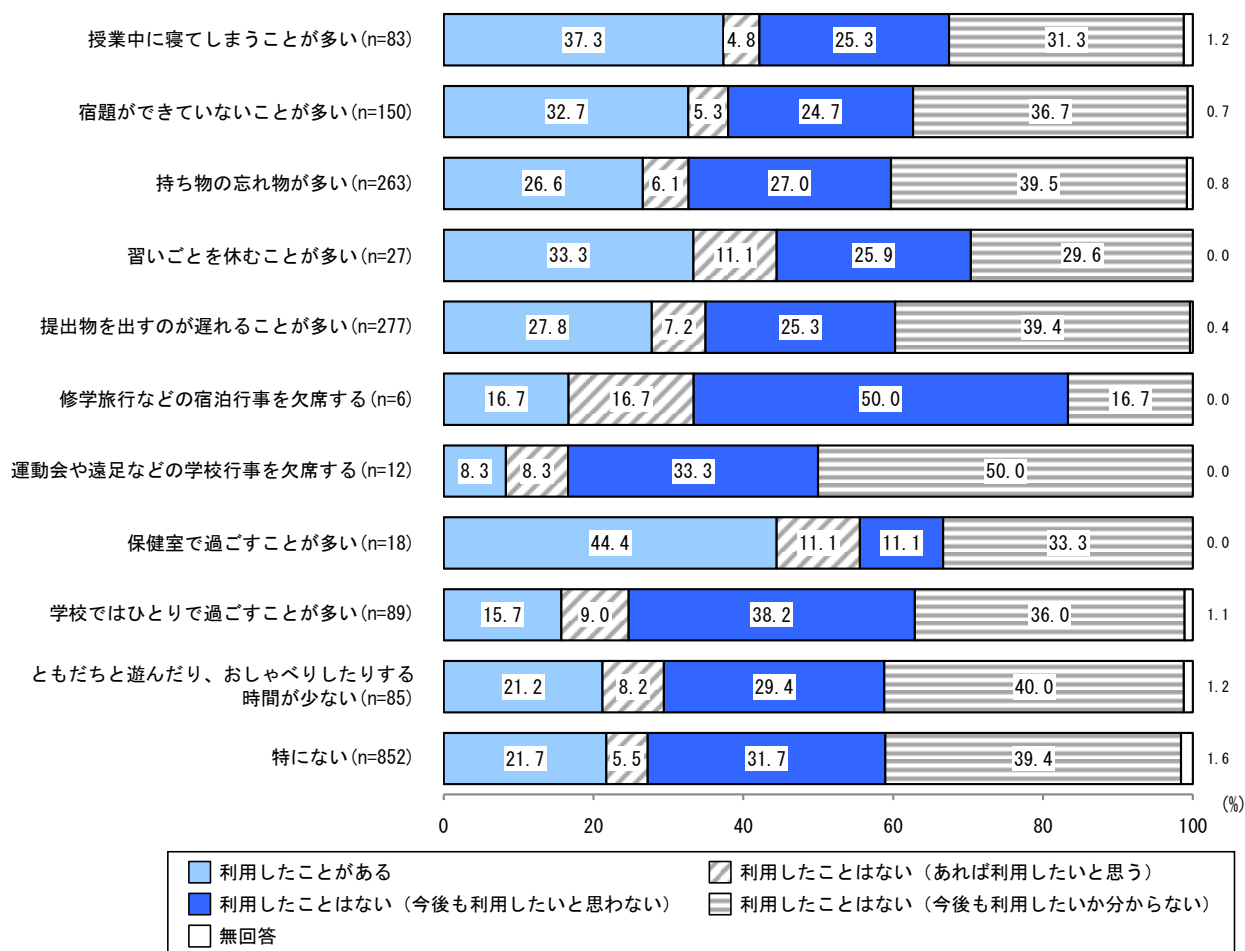
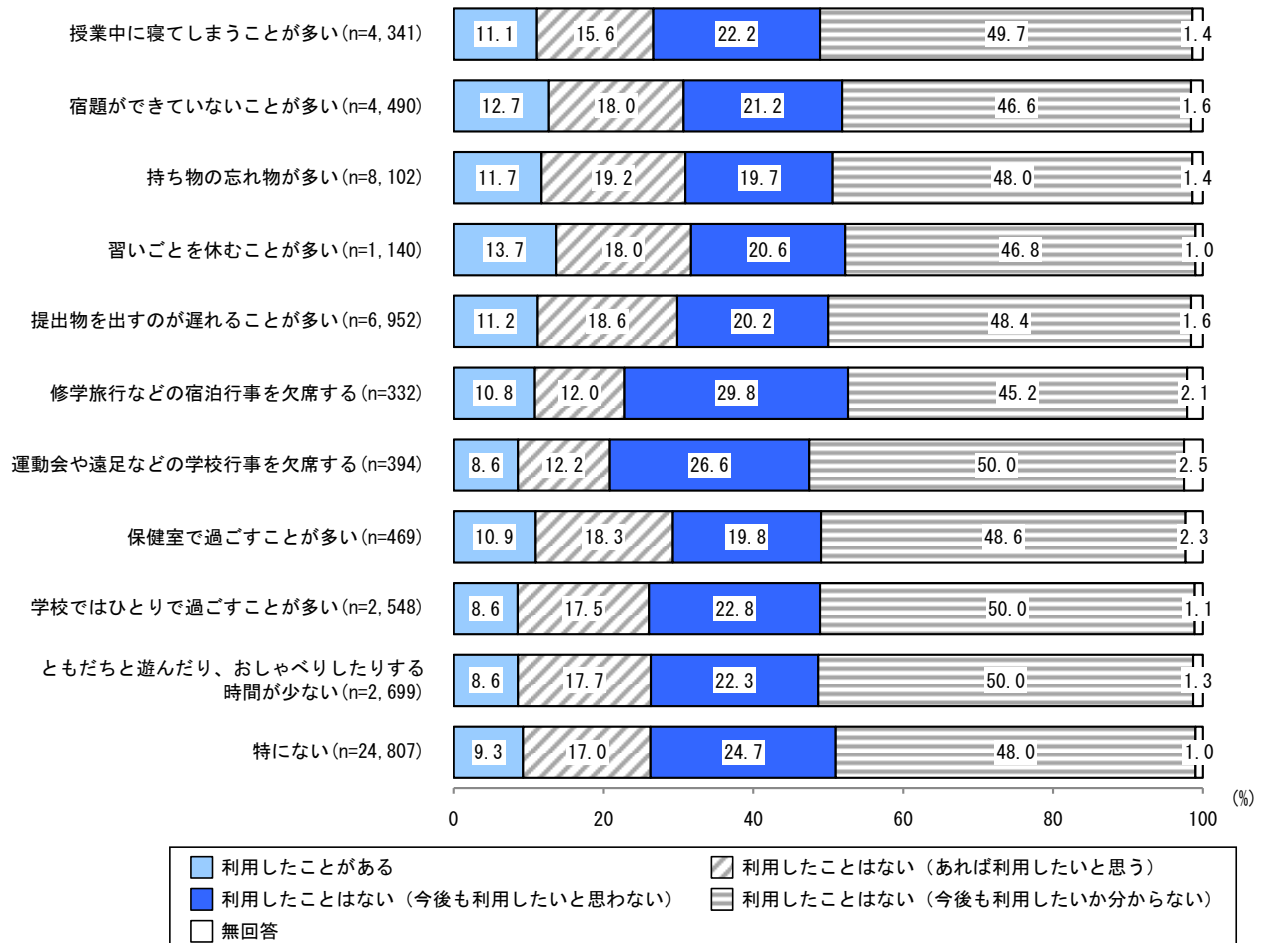


図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

学校や学校の行事等の状況別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「保健室で過ごすことが多い」が44.4%で、最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 16×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



＜枚方市＞

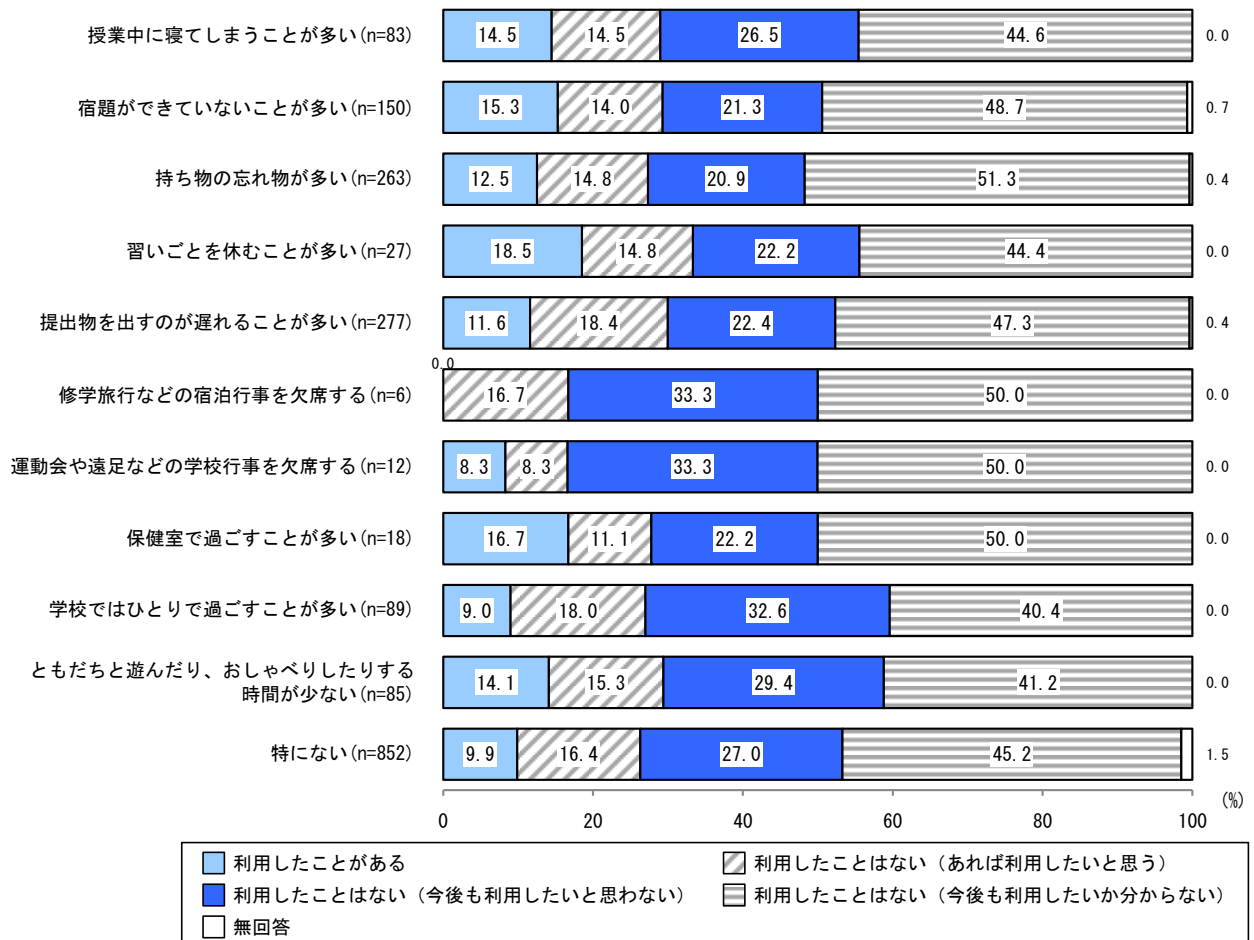
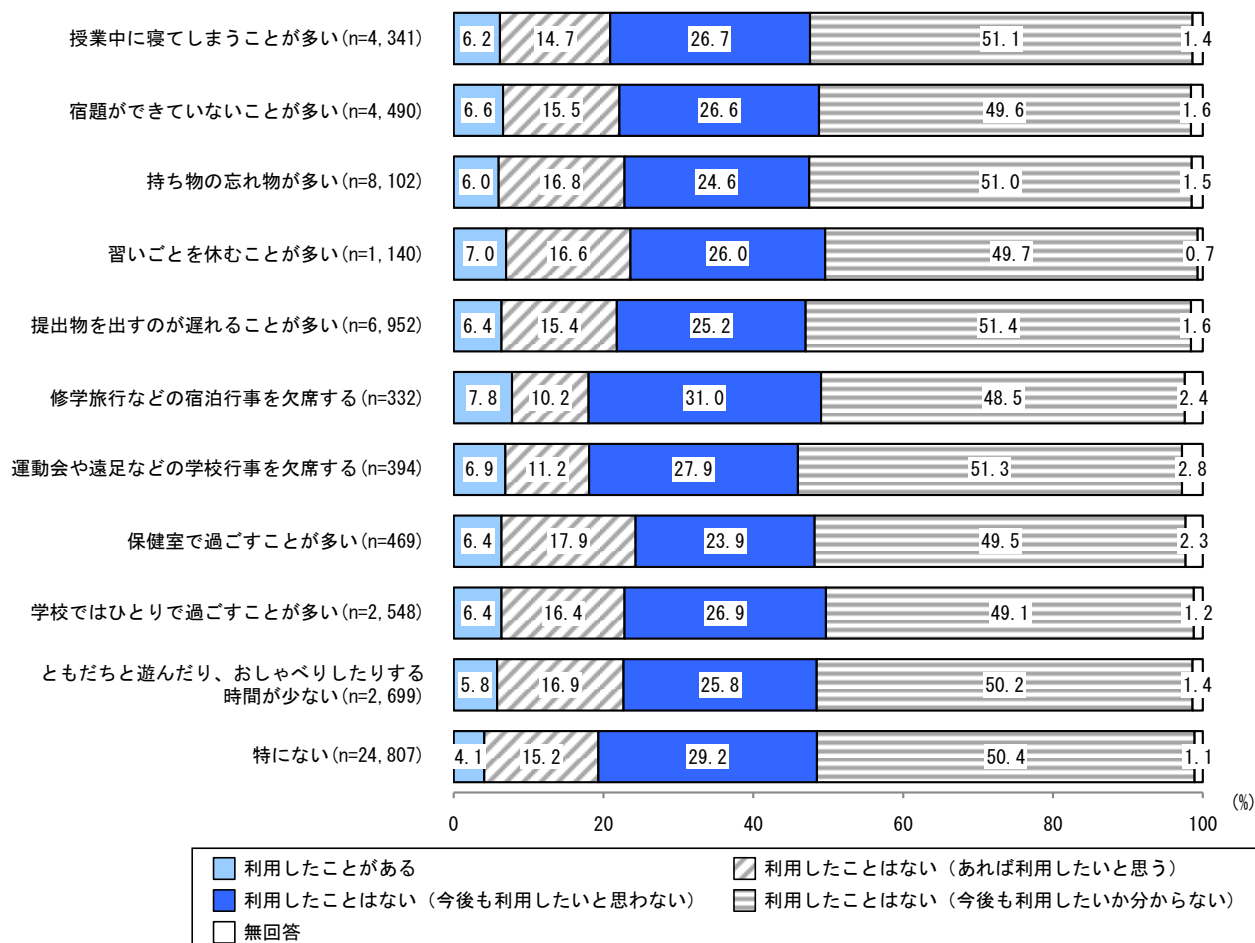


図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

学校や学校の行事等の状況別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「習いごとを休むことが多い」が18.5%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<枚方市>

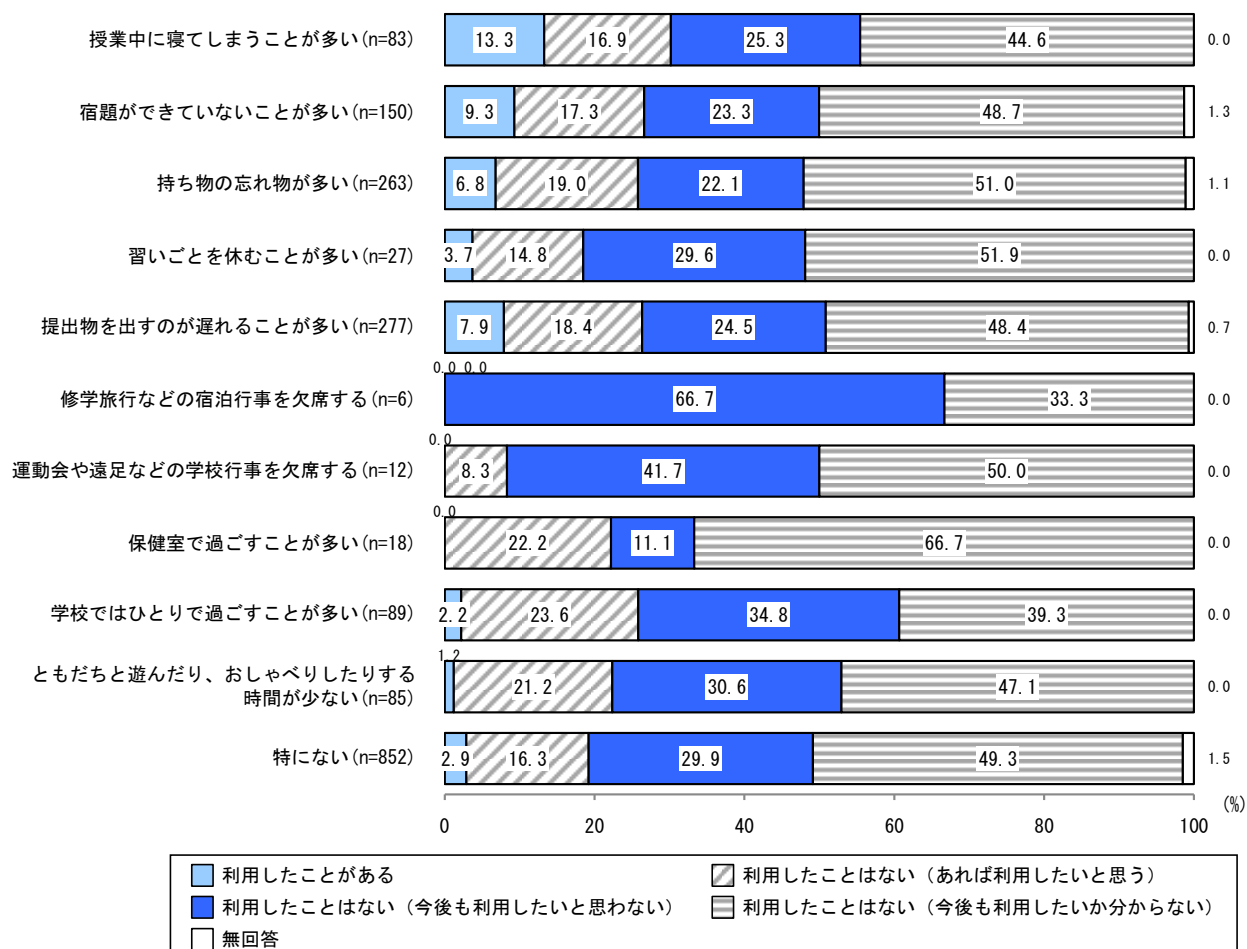
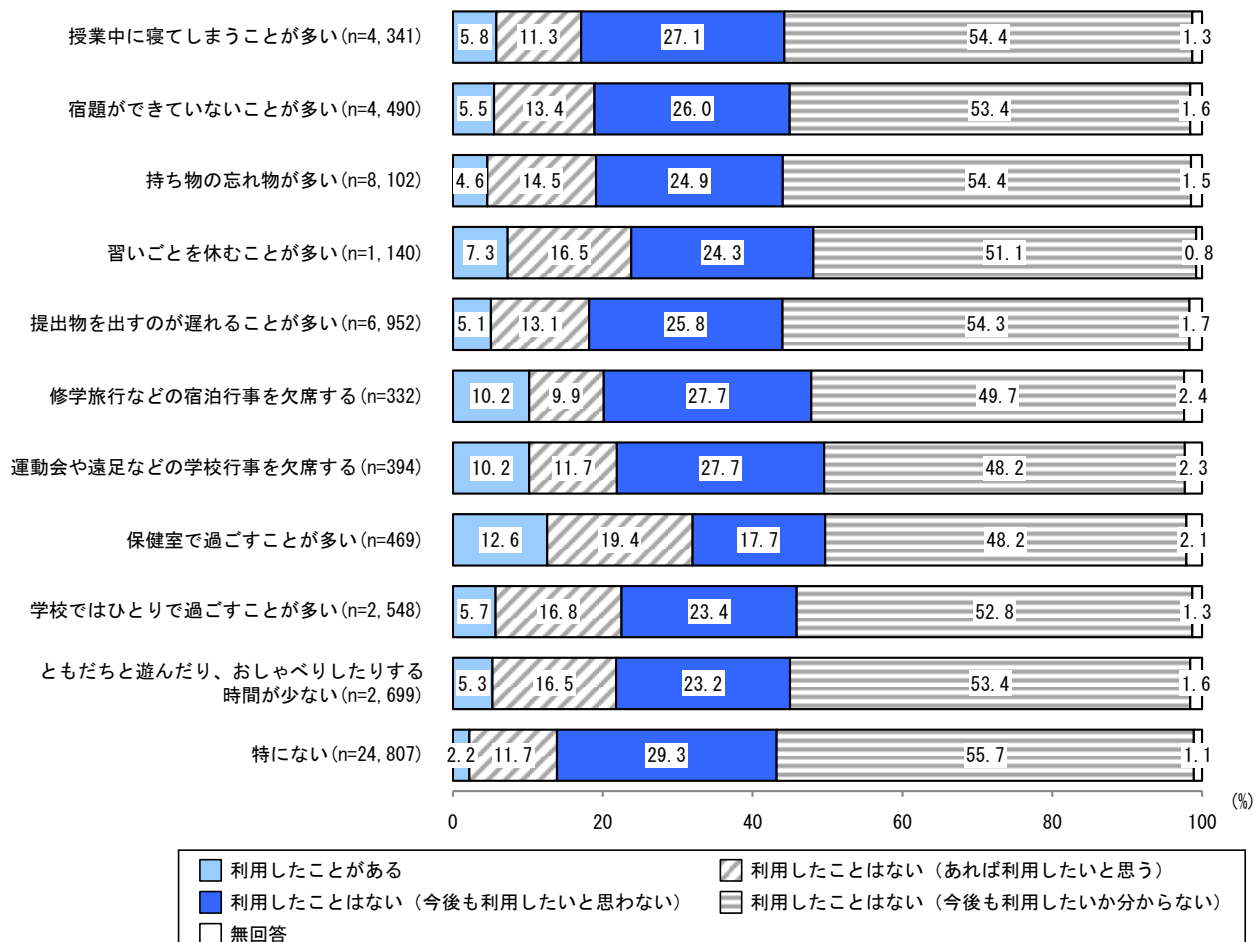


図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

学校や学校の行事等の状況別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「授業中に寝てしまうことが多い」が13.3%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<枚方市>

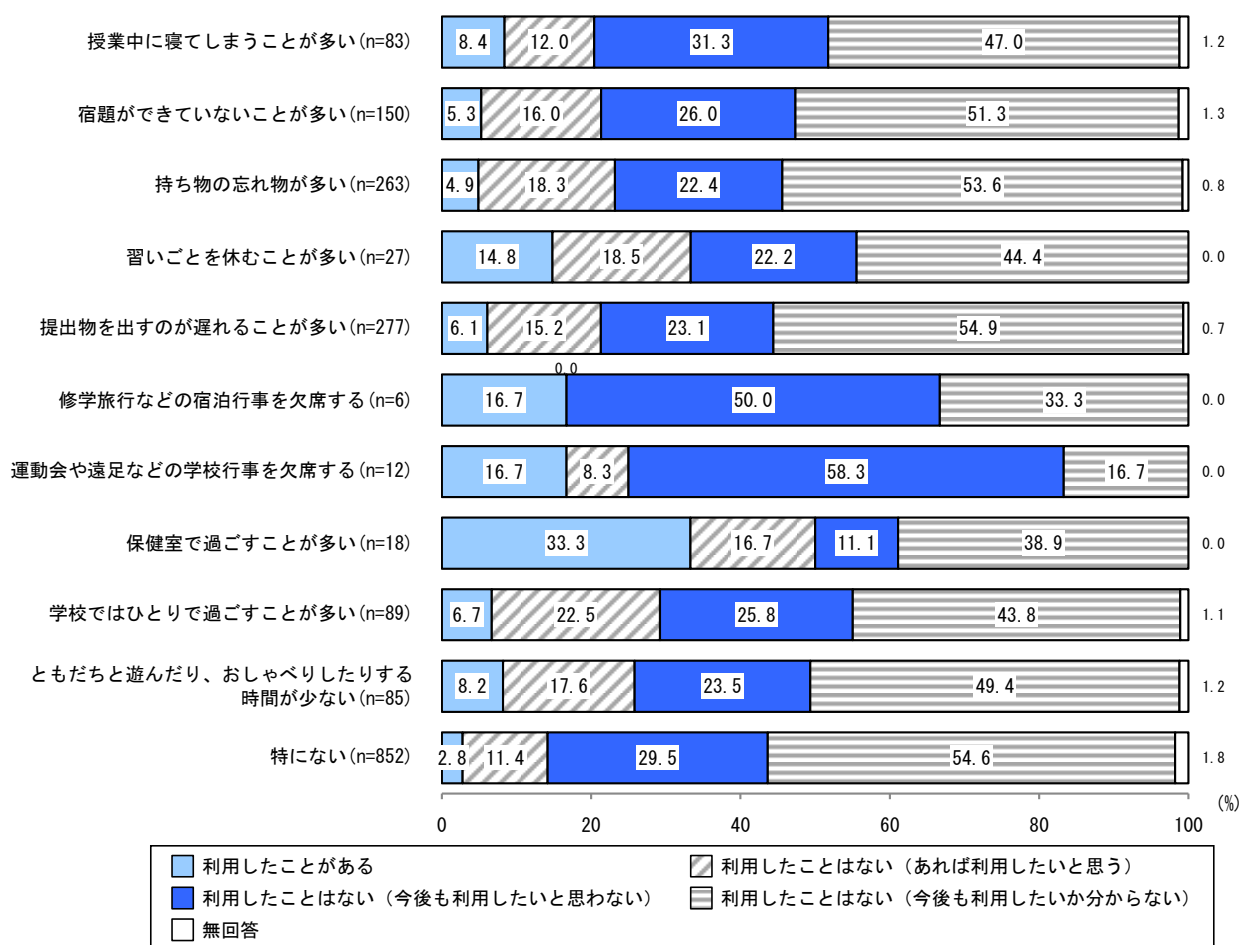
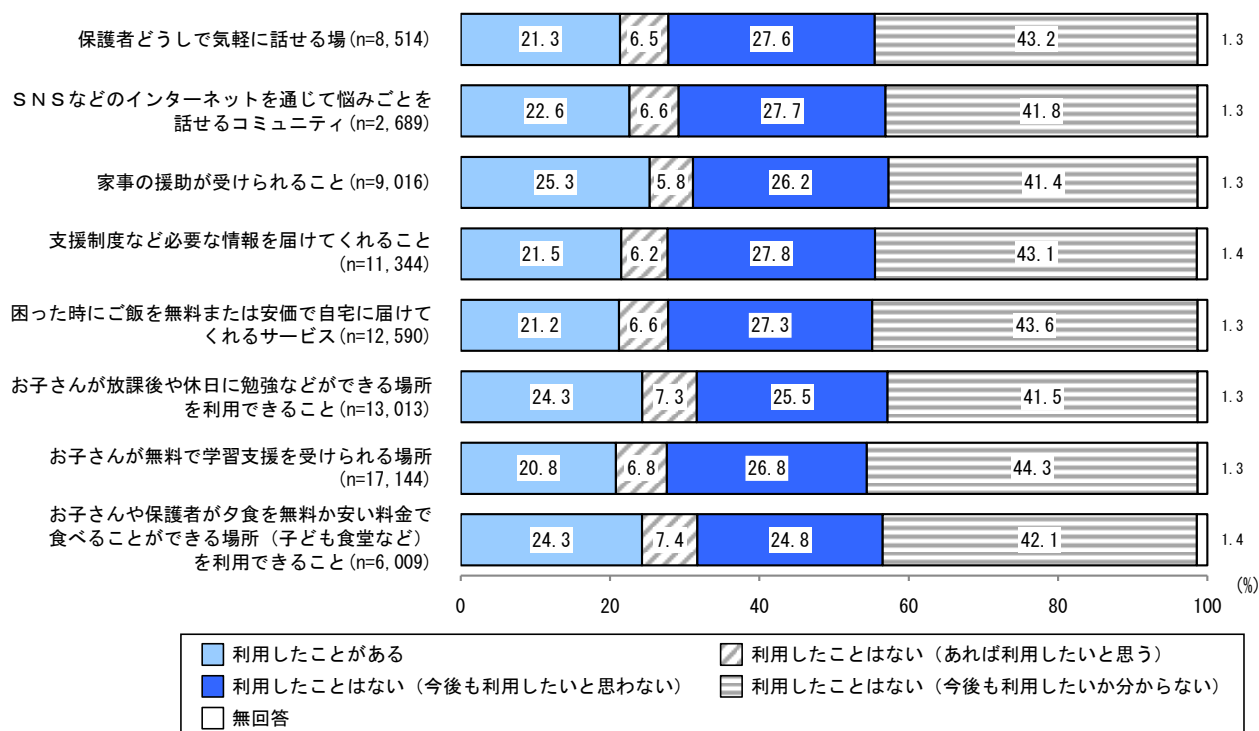


図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所

学校や学校の行事等の状況別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「保健室で過ごすことが多い」が33.3%で最も高く、次いで「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」、「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」がともに16.7%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<枚方市>

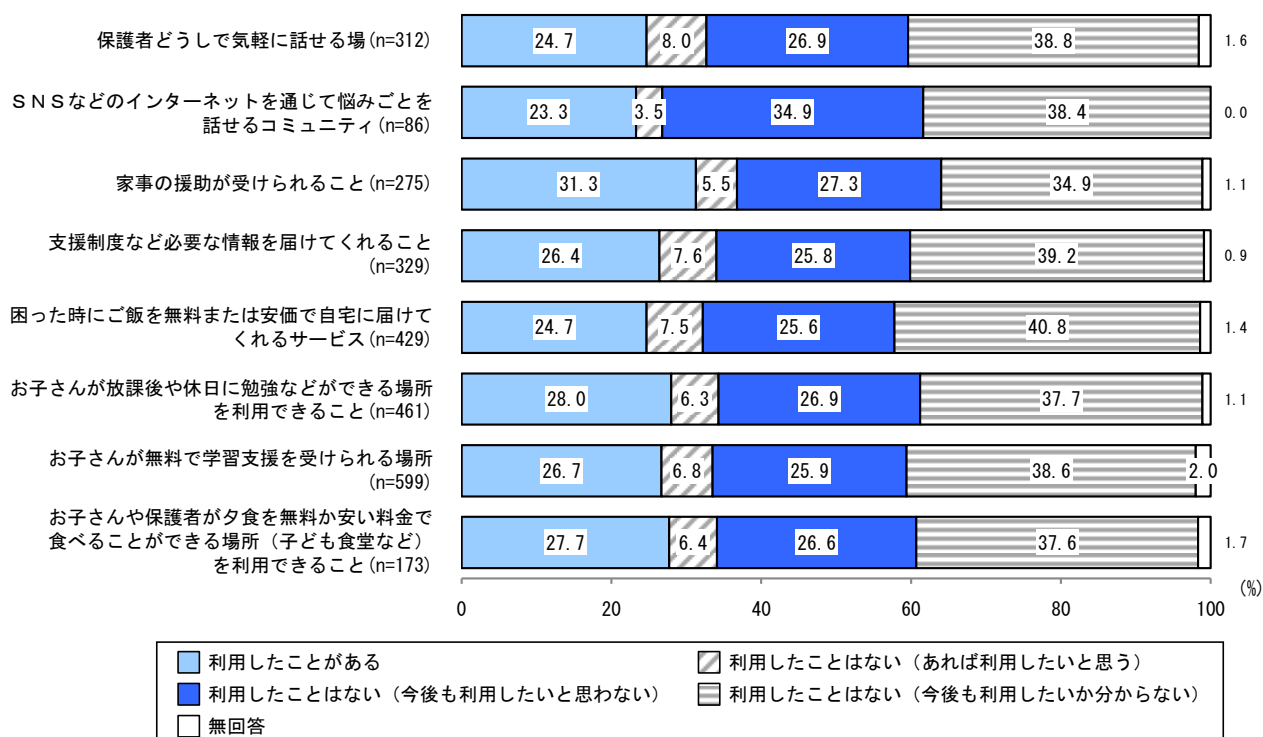
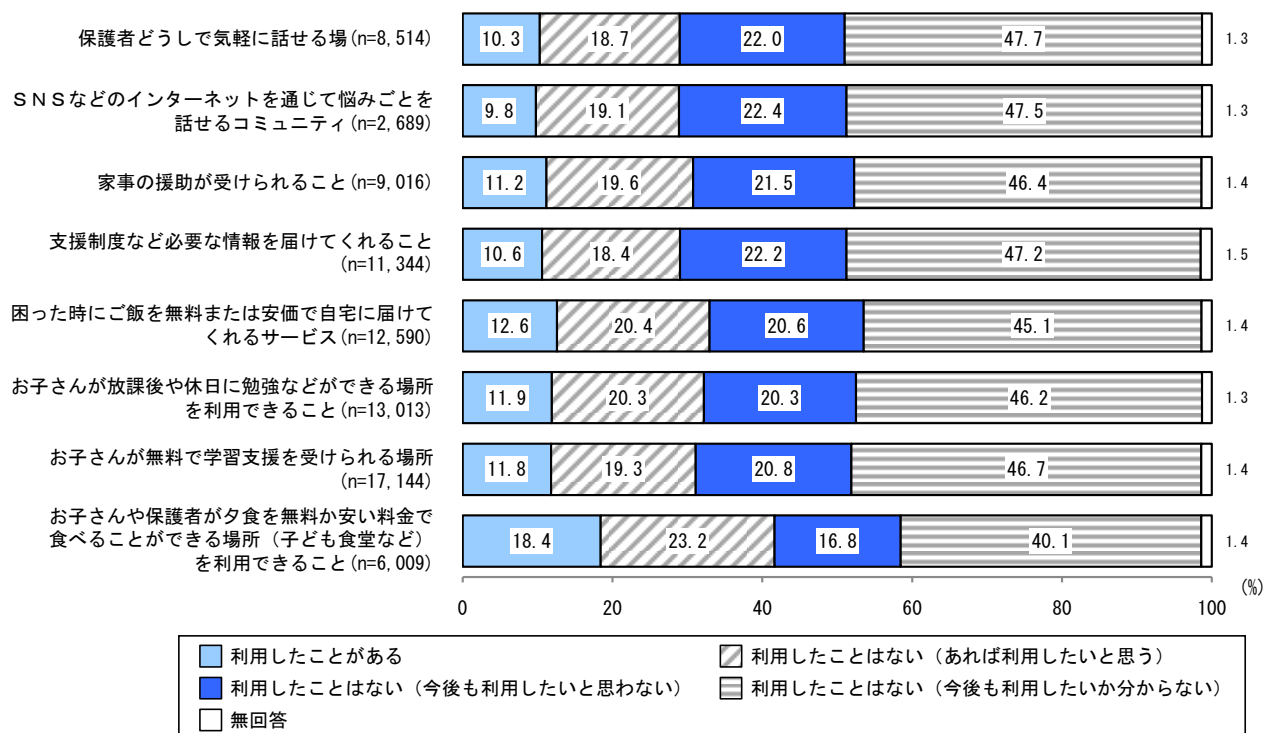


図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

身近にあるといいと思うこと別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「家事の援助が受けられること」が31.3%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が28.0%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所（保護者票問 20×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<枚方市>

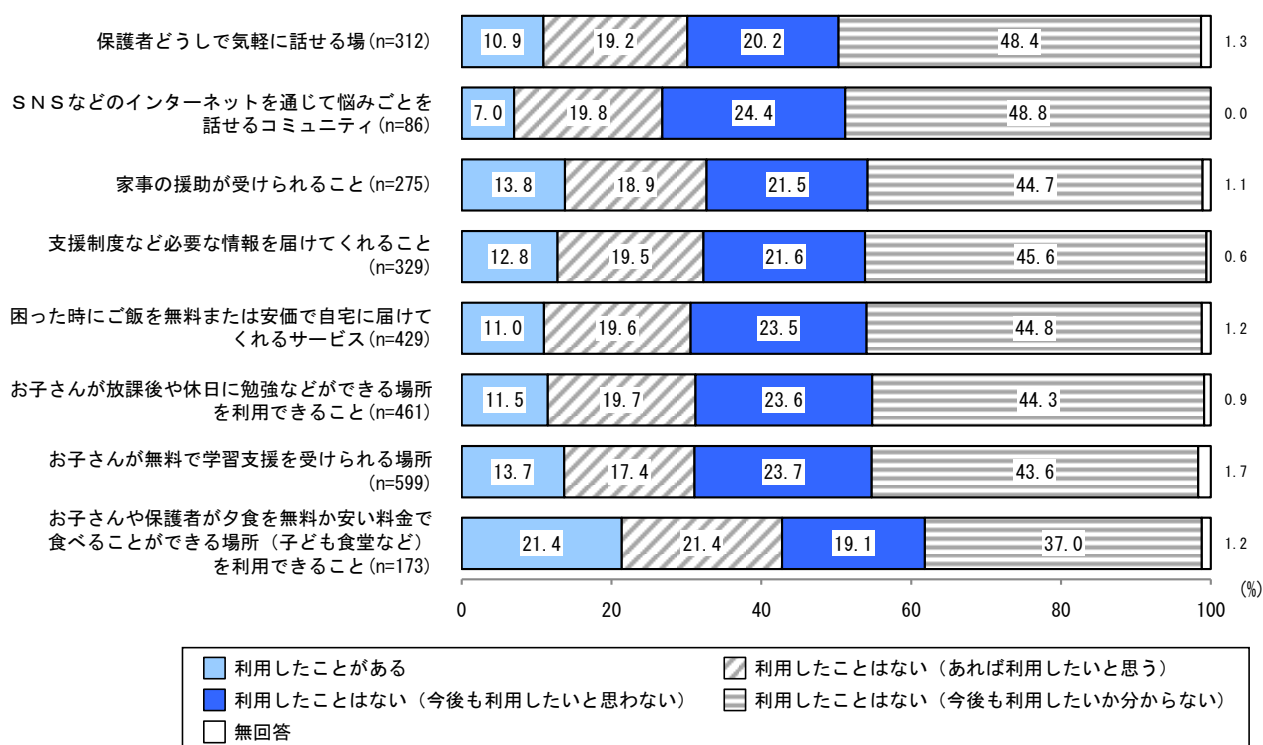
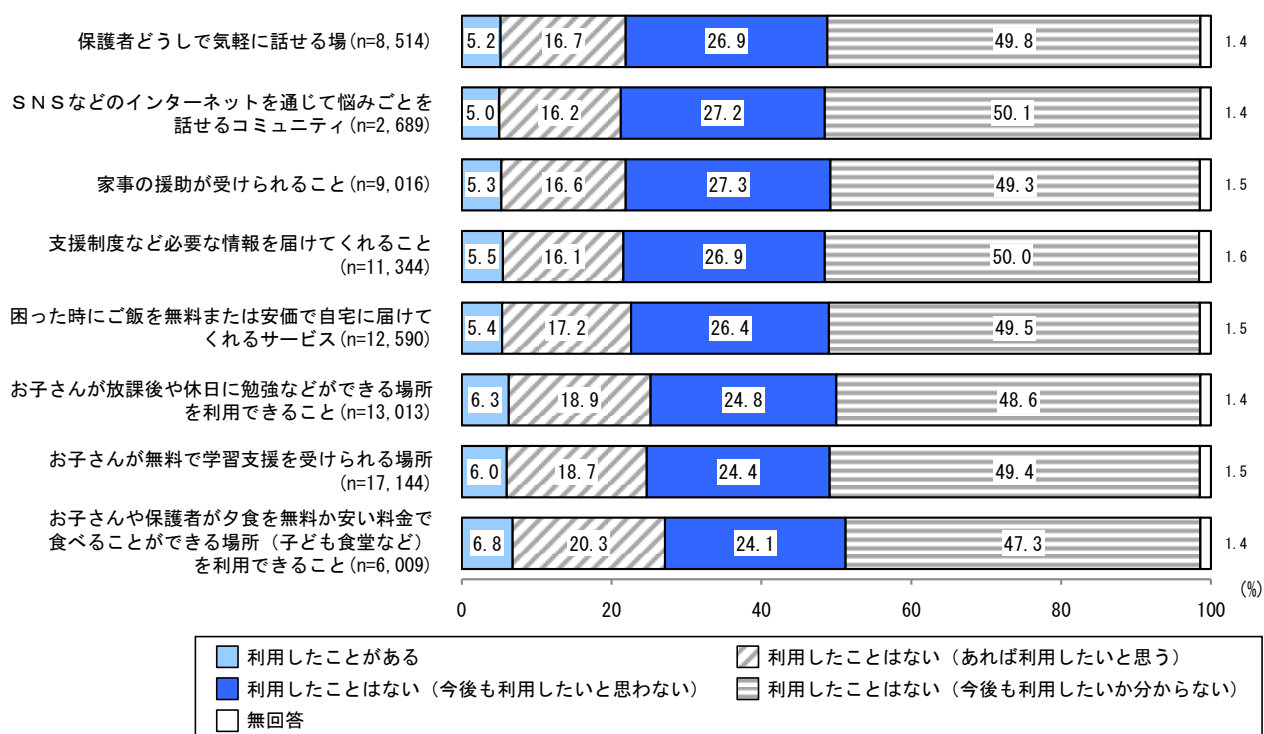


図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

身近にあるといいと思うこと別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が21.4%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<枚方市>

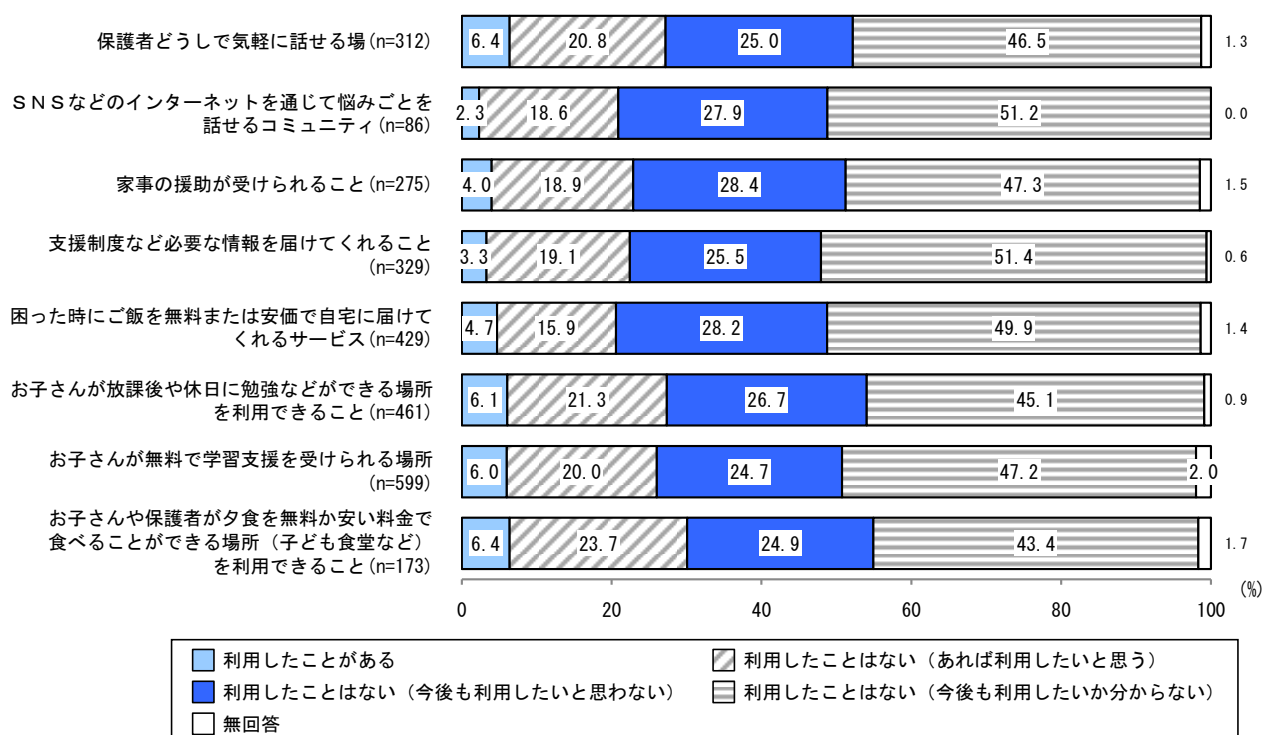
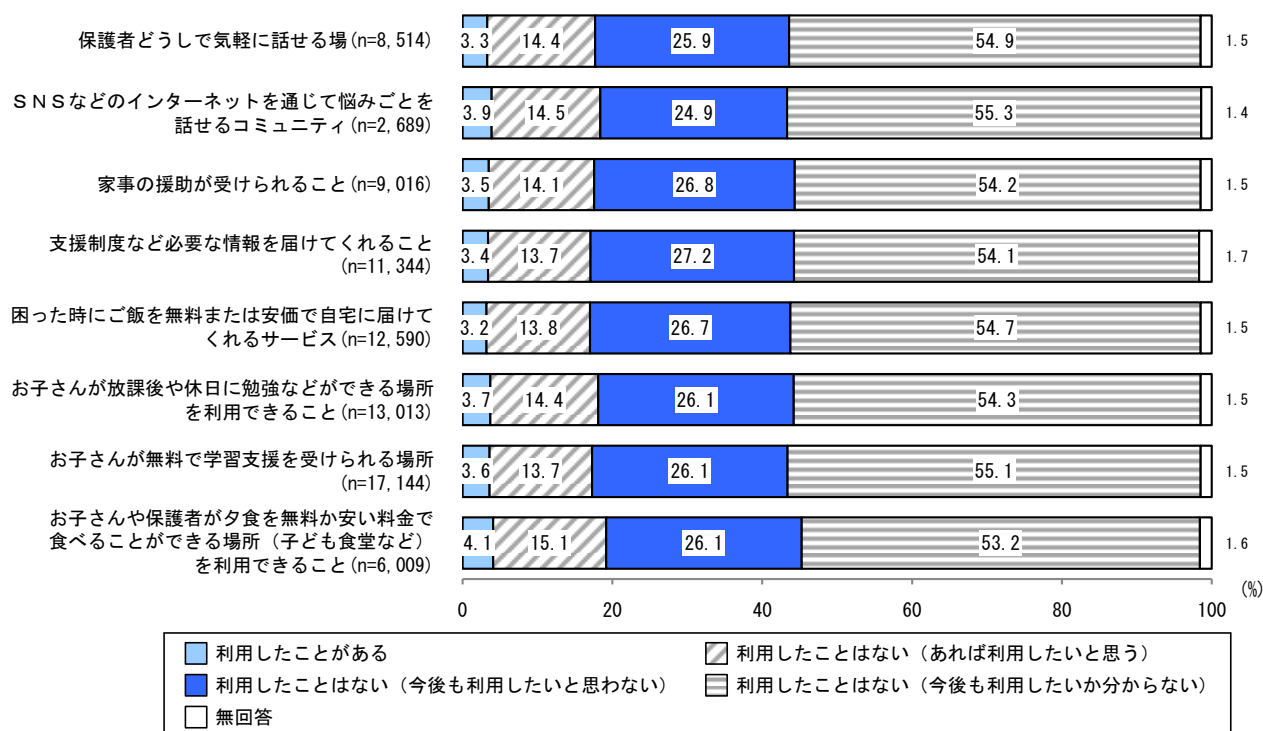


図 191. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

身近にあるといいと思うこと別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が23.7%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<枚方市>

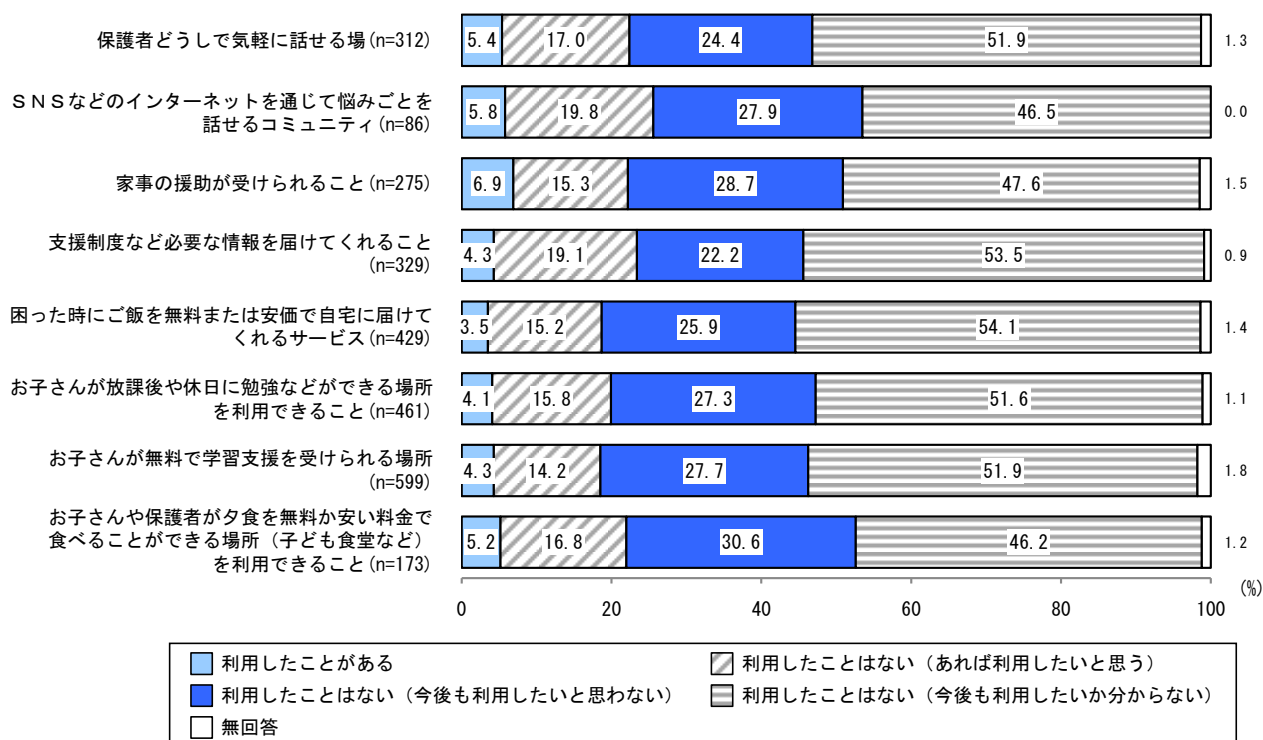
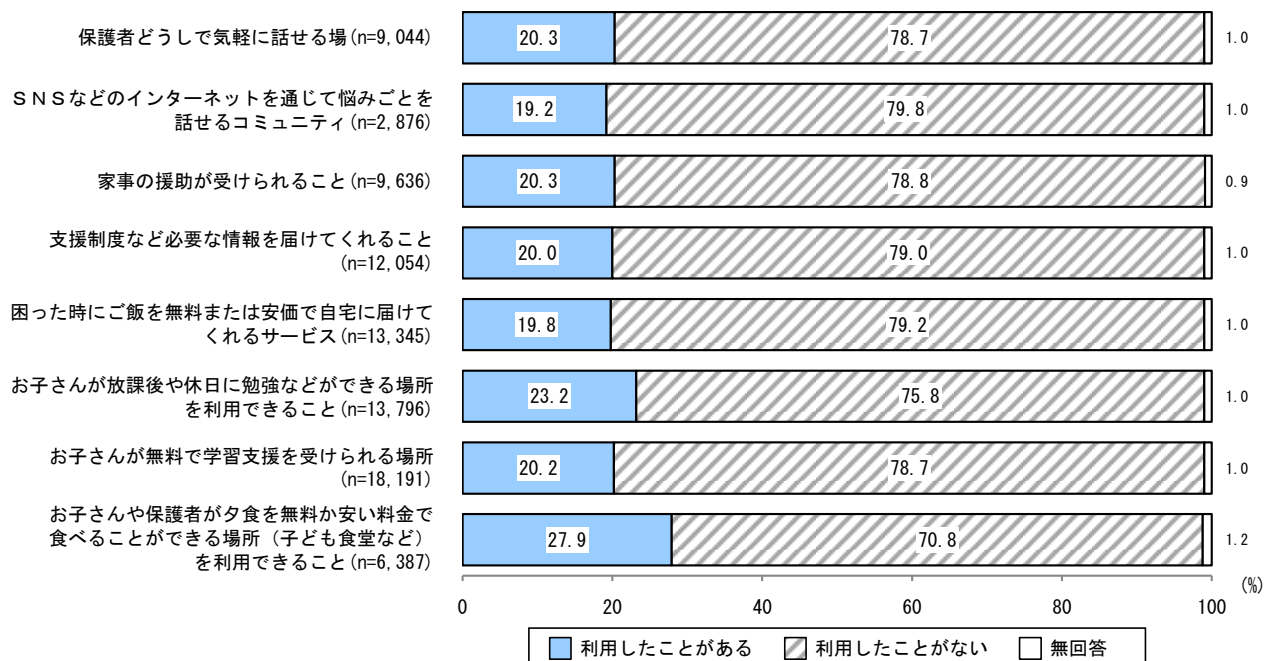


図 192. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所

身近にあるといいと思うこと別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」が19.8%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無
(保護者票問 20×保護者票問 16(1))

<大阪府内全体>



<枚方市>

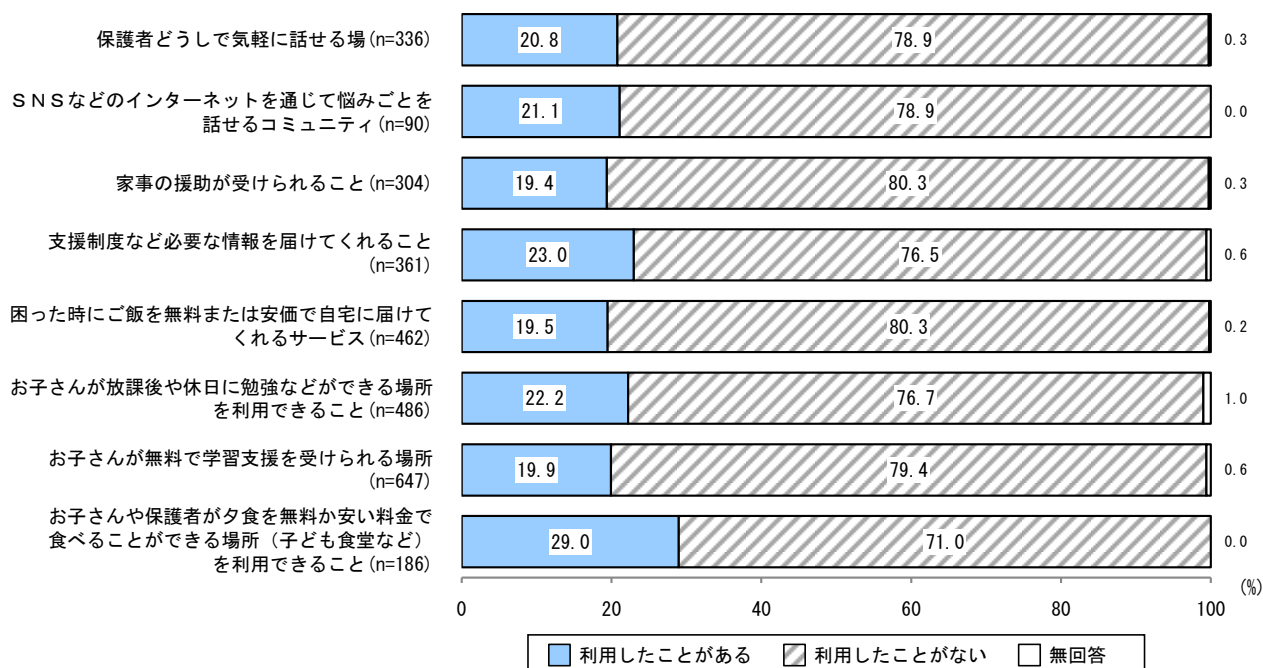
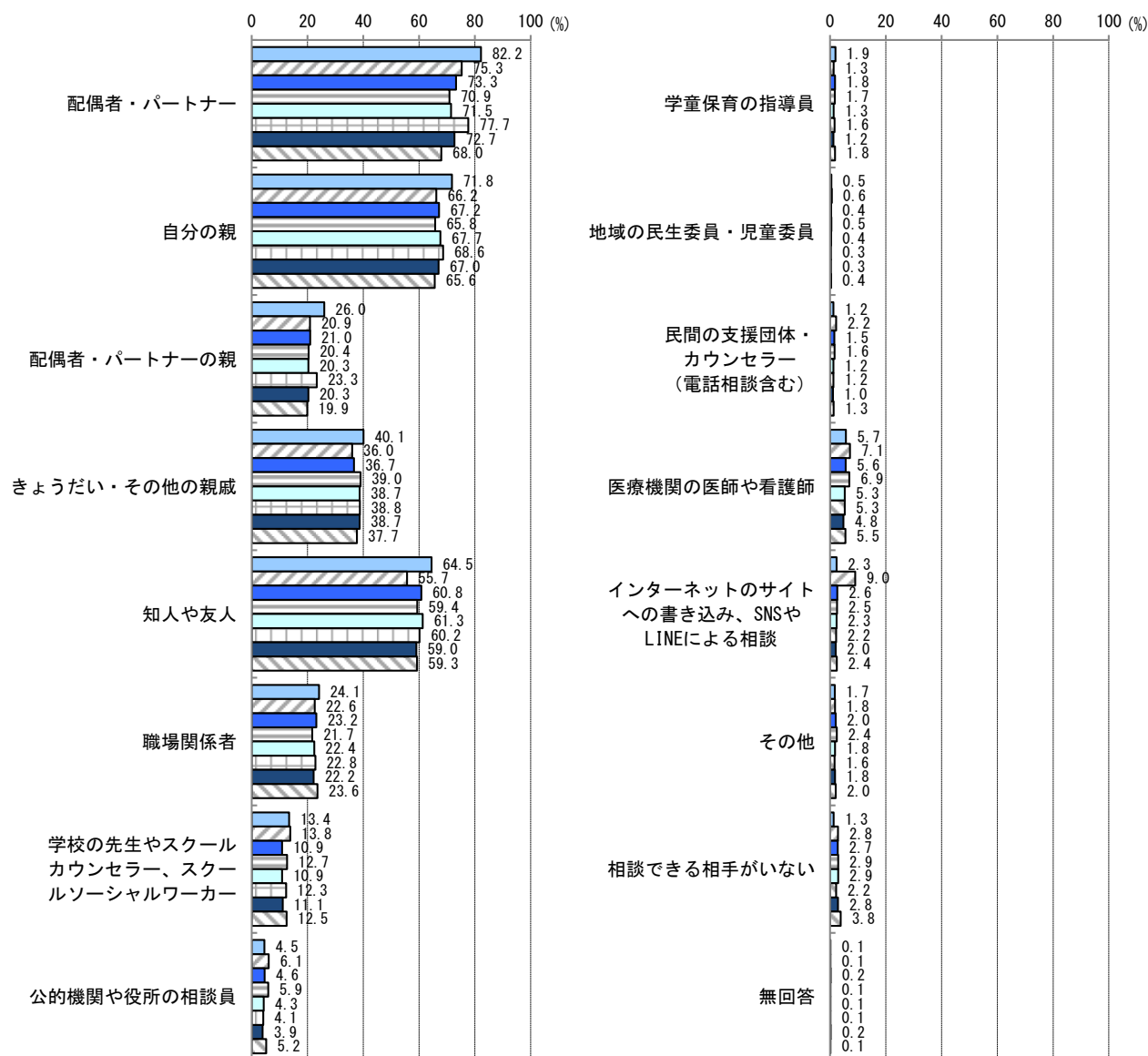


図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無

身近にあるといいと思うこと別に子どもの居場所の利用有無を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が29.0%で最も高く、次いで「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が23.0%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 20×保護者票問 19）

<大阪府内全体>



- 保護者どうして気軽に話せる場 (n=9,044)
- SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ (n=2,876)
- 家事の援助が受けられること (n=9,636)
- 支援制度など必要な情報を届けてくれること (n=12,054)
- 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス (n=13,345)
- お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること (n=13,796)
- お子さんが無料で学習支援を受けられる場所 (n=18,191)
- お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること (n=6,387)

<枚方市>

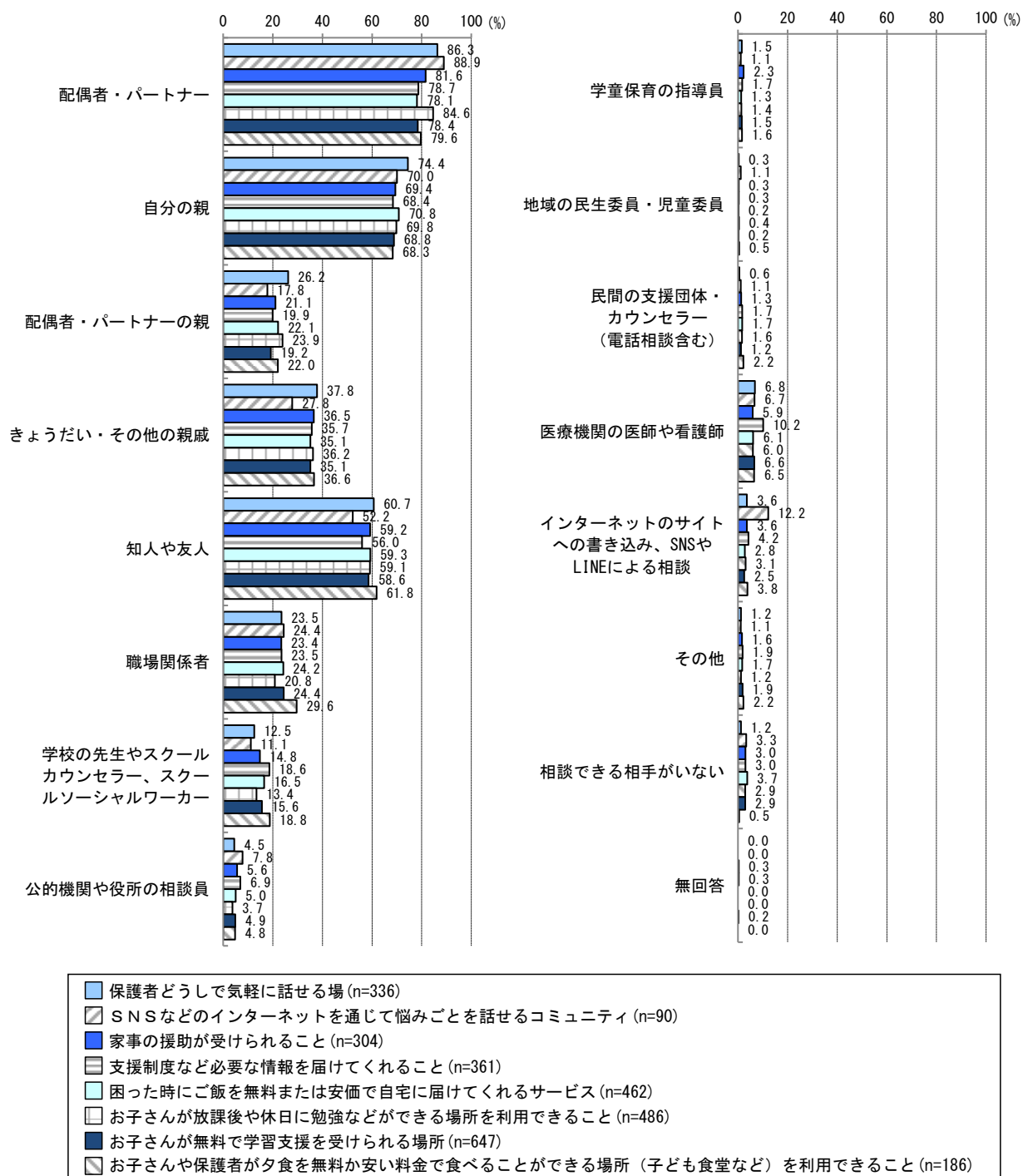


図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

身近にあるといいと思うこと別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナー」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」が88.9%で最も高く、次いで「保護者どうして気軽に話せる場」が86.3%となっている。

＜対人関係に関する考察＞

中央値以上群と困窮度Ⅰ群間の差が大きい項目に着目し分析結果を以下にまとめる。子どもが「放課後に過ごす場所」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「塾」(33.5%対23.2%)と「習いごと」(38.7%対28.4%)が10ポイント以上、「学校(クラブ活動・部活動など)」(32.0%対25.8%)の利用が5ポイント以上高くなっている一方、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「おばあちゃん・おじいちゃんの家」(11.6%対4.8%)、「公園・広場」(31.6%対25.9%)が5ポイント以上高くなっている。子どもが「放課後を一緒に過ごす人」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「うちの大人の人」(70.4%対63.9%)、「クラブ活動・部活動の仲間」(30.2%対20.6%)が5ポイント以上高くなっている。毎日の生活で楽しいことでは、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」(58.4%対49.7%)が5ポイント以上、「ともだちと一緒に過ごしているとき」(84.4%対80.0%)が高くなっている。一方、悩んでいることでは、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「学校や勉強のこと」(21.9%対16.5%)、「自分のこと(外見や体型など)」(17.4%対13.1%)、が約5ポイント高くなっている。また、子どもの自己効力感では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群よりも高く(平均点8.82対8.34)、放課後一人で過ごさない子どもは過ごす子どもよりも高くなっている(平均点8.76対8.06)。これらの結果から、経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆される。

子どもが「放課後や休日に自分や友達の家以外で利用した場所」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「利用したことがある」(16.3%対15.0%)が高く、とくに「平日の夜や休日に過ごすことができる場所(学童保育など)」(27.3%対23.9%)が高くなっている。一方、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所(子ども食堂など)」(9.7%対8.6%)、「何でも相談できる場所」(4.5%対3.8%)の利用が高くなっている。嫌なことや悩んでいるときの相談相手は、自分が世話をしている人がいる子ども群はいない群と比べ、「きょうだい」(23.8%対16.7%)、「学校の先生」(29.1%対24.1%)が5ポイント以上高く、「平日の夜や休日を過ごすことができる場所(学童保育など)」(26.2%対23.2%)、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所(子ども食堂など)」(15.5%対9.7%)、「勉強を無料か安い料金でみてくれる場所」(5.3%対4.4%)、「何でも相談できる場所」(6.3%対3.8%)を利用している割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭や子どもが家族の世話を担っているケースでは、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆される。

本当に困ったときや悩みがあるときの保護者の相談相手・相談先では、子どもの居場所を利用したことがある群はない群と比べ、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」(17.4%対11.3%)が5ポイント以上、「医療機関の医師や看護師」(8.9%対4.2%)、「配偶者・パートナーの親」(23.6%対19.7%)、「公的機関や役所の相談員」(6.6%対2.9%)が高くなっている。これらの結果から、子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。

Ⅲ 総合考察

本報告書における「子どもの貧困」概念の捉え方であるが、基本的に、2016年の調査で扱った貧困概念に基づいている。簡単に述べると、子どもの貧困を相対的貧困で捉えた上で、①所得や資産などの経済的資本、②健康や教育などのヒューマン・キャピタル、③つながりやネットワークなどのソーシャル・キャピタルの3つのキャピタルの欠如を枠組みとしている。この数年で、「子どもの貧困」「相対的貧困」概念も十分に知られるようになったことから、詳細な説明はここでは割愛するが、山野則子編著（2019）を参照されたい。

次に、総合考察において大阪府つまりほかにも各市町村が実施した数値で検討を行う（大阪府は府が直接実施した25市町村分であり前回比較2016年度実施の30市町村分で行う）。各ページにはグラフコメントやクロス分析を考察したセクションコメント（経済状況、雇用、健康、家庭状況制度、家庭生活と学習、対人関係）を記載している。総合考察において、同じことを書くのではなく、総合考察として、これらセクションコメントを踏まえ、2016年度と比較し変化のあるものや新規項目など、まさに考察すべきものを中心に記載している（一部、要望により同傾向でも記載あり）。単純集計はセクションコメントに出てこないのもので、可能な限り数字を入れて説明する。そして、全体はこれらの結果から政策の評価を行うものである。

1）大阪府共同調査の意義

本調査では、枚方市の調査のみならず大阪府内43自治体を共同実施して把握したことは、その回答者数の多さにおいても都道府県レベルで域内すべての自治体の対象者が入っている点においても、意義がある。その上で、大阪府内全自治体の結果は、傾向として枚方市の調査結果を裏付けるものであった。これは無作為抽出であっても全体と比較してみると、傾向の把握が可能であり、信頼性があることを示すものとなった。

本報告では、すべての項目に大阪府内全自治体のグラフを入れることで、結果をわかりやすくしている。本調査は、子どもの貧困対策の評価につながる基礎調査である。

2）単純集計

<経済面・家庭状況制度面>

枚方市では、2016年度の前回調査（以後、前回調査とする）では21.5%の世帯が赤字であったが、今回はやや低くなり、16.9%であった。前は、中2の世帯が小5の世帯よりも高くなっているが、今回はその逆であり、むしろ小5の世帯のほうが高くなっている。この結果から、前回明らかにした、クラブや塾など小学生よりも中学生の方が家計を圧迫していることに対応がなされていることが考えられる。また、子どものための貯蓄をしたいができない状態が、前回30.7%が今回27.6%であった。持ち家率は前回85.0%だったのが、今回85.7%とわずかに上がっている。赤字・貯蓄ともにおおむね3ポイント以上改善された結果の中で、持ち家の傾向をどう見るのかはコロナも含め災害が多発することで持ち家への価値観が変化し、安定感を求める人が増加しているとも考えられる。

経済的な理由で経験できなかったこと（はく奪項目）について、生活における食費の切りつけやレジャーの出費を減らすなどの多くの項目は、2016年に比較して該当率が下がっている。

それに呼応して、どれにもあてはまらないという回答は前回28.1%、今回33.7%と高くなっている。家計の赤字の数も減り、全体を見たときに、2016年度から少しではあるが、好転しているようにとらえられる。

ただし、経済的理由による子どもに関する経験（子どものはく奪）に関しては、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」が前回1.6%、今回0.3%と四分の一まで減少しており、この結果は、医療面での子どものいる世帯への施策が、各自治体において広く実施された成果であると思われる。ほかにも好転した項目が多く、「子どもにおこづかいを渡すことができなかった」が前回8.5%、今回5.9%、「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」が前回9.1%、今回6.3%、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」が前回11.3%、今回9.3%、「どれにもあてはまらない」は前回59.3%、今回69.9%と、10ポイント以上伸びた。その中で、「子どもの進路を変更した」は前回1.2%、今回1.5%、「子どもを習い事に通わすことができなかった」が前回9.4%、今回9.6%、進路に影響する項目で該当割合がわずかに高くなっている。

また、子どもが持っているものや使えるのを見ると、本は前回82.0%、今回75.7%、子ども部屋が前回79.1%、今回71.5%、インターネットにつながるパソコンが前回42.8%、今回32.0%、運動道具が前回80.2%、今回74.0%、自転車が前回93.7%、今回88.0%と下がっているものが多い中、極端に上がったのは、スマートフォンやタブレット（前回54.2%、今回76.3%）であり、これらは学校からの配布の成果であろう。やや上がったものは自分で選んだ服が前回72.0%、今回74.6%、キャラクターグッズが前回62.3%、今回66.0%であり、上述の割合が下がったものとあわせて考えると、子どもたちの遊びや過ごし方がよりインドアかつ個／孤なものとなっていることがうかがえる。

以上から、家計の状況は少し改善がみられるが、医療を受けられないという究極のケースは少なくなるなど効果的であったが、基本的には家計の改善を子どもに回す余裕には至っていない。経済的理由により子どもにできなかった経験（上記に挙げたようなこと）がどの家庭でも実現できるような方策が非常に重要である。

2016年度調査では養育費の取り決めについての設問を入れていなかったため、枚方市での正確な比較はできないが、今回養育費の取り決めをして受け取っているのは約4割であった。反面、養育費を取り決めているが、受け取っていないのは1割強であった。2016年度全国ひとり親世帯等調査（厚生労働省2017）では、ひとり親家庭のうち養育費についての取り決めをしている割合が母子世帯で62.9%、父子世帯で20.8%、ひとり親家庭で養育費を受け取っていない子どもの割合が、母子世帯69.8%、父子世帯90.2%という値であり、今回の結果は、養育費関連の施策の成果はあったのではないかと想定できる。

<雇用・健康>

持ち家など居住形態など2016年度と大きな変化はない。学歴については、母親の学歴を取り上げると、高校卒業が前回23.7%、今回17.1%、約5ポイント減少しており、一方、大学卒業が前回21.1%、今回29.5%、約8ポイント上昇した。雇用状況では、何らかに仕事をしている母親は、前回77.1%、今回83.5%と増加している。そのなかで、正規職員が前回16.3%、今回25.9%で約10ポイント増えている。これらは、これらは、世の中の人手不足と相まって働く人が増加

したことにより、可処分所得も増加したことと関連するであろう。社会の認識の変化や政策による変化があったのではないかと考えられる。子どもの貧困の世論が広まり、各所に出された政策の効果と考えられよう。

支援制度の利用状況は、就学援助は前回13.8%、今回12.2%、児童扶養手当が前回8.7%、今回12.3%、生活保護が前回0.5%、今回0.8%であった。就学援助制度について、「利用したことがない」との回答が前回60.6%、今回79.2%であり、かなり増加し、その理由を今回のみ聞いているが、「自身が該当しない」が92.8%でほぼ皆がそう思っていることがわかった。この数値は可処分所得の結果から考えてももっと受けることができる世帯があると思われるが、受けていない。前回も「あなたが受けることができる権利がある」メッセージを必要な人にどう届けるのか大きな課題であったが、改善に至っていない。各制度を正しく知らせ、他人ごとにせず、そこでのスティグマを無くし受けやすくする工夫がさらに必要である。

<健康・家庭生活・学習・対人関係>

まず食事から確認する。「朝食を食べない」(週に1回も食べていない)が前回1.0%、今回1.8%、約1ポイントではあるが増えている。食べない理由に「用意されていないから」が、前回2.4%、今回0.7%、「食べる習慣がない」が前回3.1%、今回3.5%であった。小学生の54名が毎日食べていない。このことは、2016年度も話題になったが、改善すべき喫緊の課題である。また、家族の人と食事をしていない子どもは、「ほとんどない」、「まったくない」を合計して、朝食では、小学5年生の子どもが約172名、夕食では小学5年生で約12名の子どもがおうちの人と夕食を食べていない。これらは2016年の1回目に警鐘をならすべきこととしてとらえられていたが、より重視すべきである。

おうちの人と関わる設問は、2016年と傾向はほぼ変わらなかった。放課後過ごす場所は、「友だちの家」が前回27.3%、今回20.5%、「学校(クラブ活動など)」が前回39.0%、今回29.8%と減っており、コロナの影響による社会的交流が減ったことからの可能性が考えられる。友人との関係性が薄れることは、孤立や孤独へ向かう懸念も生じる。

勉強に関しては、今回調査から「授業がわからなくなった時期」小学生なら3・4年生(47.5%)、中学生なら1年生(49.1%)でつまづいていることがわかった。相談相手では、誰にも相談できない、相談したくないと感じている子どもは、前回14.5%、今回は9.4%、約5ポイント減っている。前は身体や気持ちで気になることを聞き、今回は身体の状態で気になること、「この1週間の気持ちの状況」で気になることを聞いているため単純に比較はできないが、「特に気になるところがない」が前回29.2%、今回39.4%(体調)、「やる気が起きない」において「そんなことはない」が34.0%であった。

悩みについては、2016年度と数値も傾向も変わらない。最も多いのが「学校や勉強のこと」、ついで「進学・進路のこと」「自分のこと(外見や体型のこと)」であった。

制度やサービスでいうと、子どもの居場所において、「平日の夜や休日過ごす居場所」の利用では小5が26.6%、中2が19.3%の子どもが利用したことがあり、「食事提供の居場所」は小5が10.9%、中2が10.1%、「学習支援の居場所」は小5が2.6%、中2が7.1%、「何でも相談できる場所」は、小5が4.4%、中2が3.6%の子どもが利用したことがあった。これら合わせて居場所の効果として「友だちの増加」が小学生で40.2%、中学生で26.8%、「生活の中に楽しみなこと

が増えた」は小5が20.9%、中2が6.8%、「気軽に話せる大人が増えた」は小5で13.5%、中2で7.9%という結果であった。このことは今後の展開に大きな意味をなすであろう。ただし、中学2年生は、友達が増えたと回答する反面、同じくらい「特に変化なし」(31.6%)と回答している。そのため、早期に居場所に繋ぎ、居場所が誰にとっても当たり前の選択肢にする必要がある。「平日の夜や休日過ごせる居場所」以外は、利用頻度は「食事提供の居場所」約10%、「学習支援の居場所」所約3~7%、「何でも相談できる場所」は3~4%と少なくなり、将来の利用に関する積極的な利用希望も「食事提供の居場所」が小中合わせて16.5%、「学習支援の居場所」が小中合わせて17.2%ほどになる。子どもたちの希望があるととらえられ、「放課後過ごす場所」において、「友だちの家」や「学校(クラブ活動など)」が減少していることと併せて、子どもたちに多くの選択肢を提供できる方がよいと考えられること、自分には関係ないと考える傾向があるかもしれないこと、などから居場所の充実とより自然な提供が望まれる。

最後にヤングケアラーの項目である「家族に世話をしている人」がいるかどうかについては、厚生労働省の研究事業として実施された調査の結果と比べると、小学生6.5%(日本総研2022)、中学生5.7%(MURC2021)という値よりはるかに高い、小5が18.2%、中2が9.1%であり、内容もきょうだいの世話が最も多く、小5は73.0%(小学6年生28.5%:日本総研2022)、中2が63.6%(中学生79.8%:MURC2021)である。小学生の世話が国に比べてきょうだいの世話の割合が高い。「家事」は、本調査では複数の質問にまたがっていることや複数回答可にしていることから単純に比較できないが、先述した厚生労働省の研究事業では、小6の世話の内容を家事と答えたのが、35.2%(日本総研2022)できょうだいの世話より高いが、本調査では逆であった。時間をみると1時間以内が最も多く、定義のあいまいさが子どもにゆだねにくくさせている可能性もあるであろう。今後、イギリスのように定義を明確にしていくことも検討を行う必要がある。

今回の調査で保護者が身近にあるといいと思うことは、上位3つが「無料で学習支援が受けられる場所」42.4%、「放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」31.8%、「困ったときにご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」30.3%であった。学習に関して最も気にしていることがわかり、これらのサービスを利用している率の低さから、身近に届けられるような工夫が必要である。

3) クロス集計

各セクションコメントでは、2023年度の項目のみで確認してきたが、ここでは可能な限り2016年と比較する。まず経済面では、できなかった経験、つまりはく奪指標として、2016年度も検討してきた項目でまず確認する。

経済面から確認する。「食費を切りつめた」「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」「国民年金の支払いが滞ったことがある」「金融機関などに借金をしたことがある」などの項目では、2016年度と比較して、該当率が減少しており、特に困窮度Ⅰ群においては顕著な減少がみられる。ただし「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」の減少はそこまで大きくなく、将来への不安感の減少にまで至っていない。経済的な大人のはく奪に比べ、子どものはく奪に関して、「子どもにおこづかいを渡すことができなかった」「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」などの項目では、2016年度と比

較して、該当率が減少しており、特に困窮度Ⅰ群においては顕著な減少がみられる。これらの結果から、経済状況の改善は、子どものはく奪の減少にもつながっていると考えられる。ただし、「お子さんの進路を変更した」「お子さんを習い事に通わすことができなかった」などの項目はほとんど変化がみられない。これは、コロナ禍となったこともあり、経済的リスクのしわ寄せが子どもに向かったと考えられる。しかし、絶対避けないといけないことであり、警鐘を鳴らす必要性とともに対策を講ずべきである。また、家計を住居の所有状況別にみると、「府営・市営の住宅」において、家計が赤字の世帯の割合が約半数（前回43.6%、今回51.9%）、子どものために「貯蓄したいが、できていない」割合が約7割（前回71.8%、今回74.1%）と他と比較して家計の厳しさが示されたと言える。

支援制度に関しては、まず就学支援制度は、申請すれば利用できるはずである困窮度Ⅰ群であっても利用したことがない人が、2016年度15.8%あり、これを減らすことを第一目的に考えたほどであったが、2023年度最も厳しい困窮度Ⅰ群において37.7%と増加している。現在利用している人をとってみても、2016年度65.6%だったところ2023年度は53.3%と減少している。児童扶養手当（ひとり親）も困窮度Ⅰ群で利用したことがない人が、2016年度10.4%、2023年度5.1%まで半減している。「生活保護制度」について、困窮度Ⅰ群において「利用している」が2016年度1.6%から2023年度5.4%とやや高くなったが、やはり利用は少ない。これら設問の文言（例「受けたことがある」→「利用したことがある」など）の違いはあるものの、困窮度Ⅰ群にとって、つまり厳しい家庭にとって、制度利用は決して進んでおらず、さらに厳しい状況となったとも推察できる。

子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況は、本調査において全体で6.4%、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金は1.2%である。全国レベルのデータを見ると、2020年コロナ発生後の10月の調査（厚生労働科学特別研究）において、収入200万未満の世帯で35.6%（山野研究室2021）である。これらの数値を直接比較することはできないが、いずれにおいても割合の低さから、2016年以降子どもの貧困が周知されるようになり、コロナ禍となって、さらに支援制度の広がりや周知が今まで以上になされたが、大阪においてもその活用が広がり切れなかったと言わざるを得ない。これら最も厳しい世帯における利用が減少した要因を探る必要があろう。

10代で親になった世帯の厳しさは2016年度同様であり、たとえば母親の最終学歴について初めて親となった年齢別では、中卒（「中学校卒業」および「高等学校中途退学」）が3割程度であり、他の年齢群に比べて高い割合を示している。また、就労状況において正規社員の割合が、他の多くの年齢群と比べて低くなっている。出産などによって学業を中断せざるを得なかった10代への教育支援や就業支援もさることながら、そもそもの予防的支援として、自分を大切にすることや将来を見せるような教育的支援が必要である。例えば、小学生から高校生まで、性教育含む生きる教育（西澤・西岡ほか2022）の積極的に導入を進めるべきである。またスウェーデンで行われる、実際の社会問題と向き合い、制度を知り選択できる力を養う社会科授業の実施など、思い切った根本的な教育改革が必要である。

雇用に関しては、質問形態が違うため安易に2016年と比較できないが、困窮度が増すほど、非正規雇用の割合が高くなることや、最終学歴が高卒（「中学校卒業」と「高等学校中途退学」、「高等学校卒業」）の割合が高くなる傾向は2016年と同じである。世帯構成と就労状況の関係を見ると、ふたり親世帯と比べて、母子世帯では非正規雇用の割合が前回33.3%、今回40.9%とやや高

くなっており、さらなる重点支援を検討すべきである。

健康に関しても傾向は、2016年度と2023年度はほぼ変わらない。つまり困窮度が増すほど身体面、精神面不調が高くなる。セクションコメントで述べてきたように、毎日の規則正しい朝食・昼食摂取が、保護者と子どもがよりよい関係となって、子どもの自己効力感を高める可能性があり、自己肯定感や将来の夢や目標があるほど、日常生活の中で元気に過ごしているという傾向があることから、基本的な生活習慣を維持できるような取り組み、将来の夢や目標が持てるような取り組みの工夫が必要である。

家庭生活や学習に関する傾向も2016年度の調査と変わらない。経済状況が保護者と子どもの間のコミュニケーションの深さや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。遅刻頻度の多さは保護者と子どものコミュニケーション不足を暗示しうる。経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣や家庭内での文化活動の習慣がなく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の高いレベルの教育を望まなくなっており、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。子どもの将来に関して、困窮度Ⅰ群と中央値以上群の差は2016年から変わっていない。つまり、将来への希望が持てていない。

生活習慣や学習習慣・読書習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、生活習慣が身につけていないと遅刻につながり、学習理解に影響が出ている可能性がある。こうした学習習慣と家庭状況は大きく関係するため、横断的に判断できて支援に繋ぐような、例えば家庭学習を補完するためにも、学習支援や学校での少し先輩である就学前児童なら小学生、小学生なら中学生、中学生なら高校生、など年齢の近い年上の子ども・若者を各所で導入する仕組みを作ったり、校内でサポートを展開するメンターの導入などが望ましい。(イギリスやアメリカで活用されるメンター制度など)

対人関係においても2016年の結果とクロスの傾向は変わらない。変わるところに述べると、放課後過ごす人の回答は「クラブ活動・部活動の仲間」が前回、困窮度Ⅰ群が38.5%、中央値以上群が39.8%とほとんど変化がみられないのに対して、今回、困窮度Ⅰ群が20.6%、中央値以上群が30.2%といずれも減少傾向であり、差がはるかに広がった。また、場所としても、前は困窮度Ⅰ群対中央値以上群では、公園・広場が26.9%対24.1%、スーパーやショッピングモールが4.9%対3.2%、コンビニが4.4%対1.4%と特徴的で困窮度Ⅰ群の方が高かったが、今回は同じく、公園・広場が31.6%対25.9%、スーパーが5.2%対4.5%であり、コンビニが1.9%対2.9%とやや逆転した。塾や習い事は、前は困窮度Ⅰ群対中央値以上群では塾が17.0%対34.8%、習い事が23.1%対39.2%、今回は同じく塾が23.2%対33.5%、習い事が28.4%対38.7%と格差が縮まった。コロナ禍でコンビニでさえ出なくなっていることも懸念される。

経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆された。また、経済的に困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族の世話をしている子どもにとって、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆された。経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、とくに困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示された。子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として

機能していると考えられる。

最後に、子どもが保護者以外に話せる機会が必要である。しかし、家庭と学校しかないソーシャルキャピタルを持たない子どもたちにとって、今回の調査において、「おうちの人に関する悩み」は「おうちの人」と「学校の友だち」に話しにくいという結果であった。これは、ますます経済的に厳しい子どもたちを孤立させ、ソーシャルキャピタルを欠如させてしまう。おうちの人や学校の友だちに相談すること自体難しいと考えられるが、おうちの人や友だちに話せないという今回の結果から、自然と話せるような場や人材を確保し、すべての子どもが自然に通う、学校から自然に構えずに参加できる、流れるような仕組みを創設または充実させる必要がある。

IV 資料編

おおさかふ こ せいかつ かん じったいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査

しょうがくせい ちゅうがく せい む ちようさ ちようさひよう ひらかたし
小学生・中学生向け調査 調査票【枚方市】

ちようさ きょうりよく ねが
< 調査への協力のお願い >

- ◆この調査は、大阪府内の小学生・中学生のみなさんの学校や家での生活の様子、将来についての考えや希望などについてたずねるものです。
- ◆この調査は、小学生または中学生のあなたが自分で答えてください。
- ◆名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。
- ◆答えたくない質問は答える必要はありません。
- ◆答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
- ◆あなたが答えた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。
- ◆大阪府と枚方市はこの調査結果を参考に、子どもたちのために何ができるかを考えていきますので、ご協力をお願いします。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年7月31日までに回答してください。

うえぶ かいとう
(1) Webによるご回答

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、16ページをざらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

かみ ちようさ ひよう かいとう
(2) 紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「小学生・中学生用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、おうちの人に渡してください。

きげん れいわ ねん がつ にち げつようび
◆期限： 令和5年7月31日（月曜日）◆

ちようさ かん と あ さき
【調査に関する問い合わせ先】

ひらかたし こ みらいぶ こ せいしょうねんせいさくか
枚方市 子ども未来部 子ども青少年政策課

でんわ 072-841-1375 (直通) ※9:00~17:30 土日祝日を除く
ふあくしみり

ファクシミリ 072-843-2244

※この調査は大阪府と枚方市が共同で実施しています。

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように答えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしたがってください。

あなたについておたずねします。

問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 小学生	2. 中学生

あなたのふだんの生活のことについておたずねします。

問2 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時刻に起きていますか。
(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 起きている	3. あまり、起きていない
2. どちらかといえば、起きている	4. 起きていない

問3 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に寝ていますか。
(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 午後9時より前	4. 午後11時台	7. きまっていない
2. 午後9時台	5. 午前0時台	
3. 午後10時台	6. 午前1時より後	

問4 朝食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、朝食を食べていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが朝食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問5 夕食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、夕食を食べていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが夕食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問6 お休みの日の昼食についておたずねします。

(1) あなたは、学校がお休みの日に昼食を食べますか。(夏休みなどの長期のお休みの日もふくみます。)(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 必ず食べる	3. 食べないことが多い	5. わからない
2. 食べることが多い	4. 食べない	

(2) 前の質問で「1. 必ず食べる」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが、学校がお休みの日に昼食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問7 あなたは、学校に遅刻することがありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 遅刻はしない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	



とい 問8 あなたは、次のようなことをどのくらいしていますか。（①～⑩それぞれについて、あてはまる番号ばんごう
ひと まる
1つに○をつけてください）

	ほとんど毎日 まいにち	週に4～5回 しゅう かい	週に2～3回 しゅう かい	週に1回程度 しゅう かい 程度	月に1～2回 つき かい	ほとんどない	まったくない
① おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
② おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
③ おうちの大人のひとに朝、起こしてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
④ おうちのてっだの手伝いをしていますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑤ おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑥ おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑦ おうちの大人のひととあそんだり、体を動かしたりしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑧ おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑨ おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑩ おうちの大人のひとと一緒に外出しますか。（さんぽ 散歩する・か もの で がいしょく 買い物に出かける・外食をするなど）	1	2	3	4	5	6	7

とい 問9 あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいとおもいますか。

（あてはまる番号ばんごうすべてに○をつけてください）

1. おうちのひとと一緒にすごしているとき	5. いま す 今、住んでいる地域の行事に参加しているとき
2. ともだちと一緒にすごしているとき	6. じゅく なら 塾や習いごとですごしているとき
3. がっこうせいかつ くら ぶ かつどう ぶ かつどう さん か 学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	7. とく たの おも 特に楽しいと思うときはない
4. ひとりですごしているとき	8. た 他

とい
問10 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、だれと過ごしますか。
 （あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）
2. きょうだい
3. おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）
4. 学校のともだち
5. クラブ活動・部活動の仲間
6. 学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）
7. ひとりである
8. その他の人

とい
問11 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。
 （あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 自分の家	9. コンビニエンスストア
2. おばあちゃん・おじいちゃんの家	10. ゲームセンター
3. ともだちの家	11. 図書館や公民館など公共の施設
4. 塾	12. 地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）
5. 習いごと	13. 学童保育（※）
6. 学校（クラブ活動・部活動など）	14. その他
7. 公園・広場	
8. スーパーやショッピングモール	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」もふくみます。

とい
問12 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。
 ※勉強には学校の宿題もふくみます。（あてはまるものすべてに○をつけてください）

1. 自分で勉強する	6. おうちの人に教えてもらう
2. 塾で勉強する	7. ともだちと勉強する
3. 学校の補習を受ける	8. その他
4. 家庭教師に教えてもらう	9. 学校の授業以外で勉強はしない
5. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	

とい 問13 あなたは、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
 (塾などの時間もふくみます。) (①、②それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上	わからない
① 学校がある日 (月～金曜日)	1	2	3	4	5	6	7
② 学校がない日 (土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6	7

はんぶん
あと半分だよ。
がんばってね！

とい 問14 学校の勉強についておたずねします。
 (1) 学校の勉強について、一番あなたの気持ちに近いものはどれですか。
 (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よくわかる	3. あまりわからない	5. わからない
2. だいたいわかる	4. ほとんどわからない	

(2) 前の質問で「3. あまりわからない」「4. ほとんどわからない」「5. わからない」に○をつけた方に
 おたずねします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。
 (あてはまるもの1つに○をつけてください)

1. 小学1・2年生のころ	3. 小学5年生になってから	5. 中学1年生のころ
2. 小学3・4年生のころ	4. 小学6年生のころ	6. 中学2年生になってから

とい 問15 あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。
 (教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます。) (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. まったくしない	5. 2時間以上、3時間より少ない
2. 30分より少ない	6. 3時間以上
3. 30分以上、1時間より少ない	7. わからない
4. 1時間以上、2時間より少ない	

とい 問16 あなたは、^{がっこう}学校や^{がっこう}学校の^{ぎょうじ}行事等で次のようなことがありますか。

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{じゅぎょう} 授業中に ^ね 寝てしまうことが多い	7. ^{うんどうかい} 運動会や ^{えんそく} 遠足などの ^{がっこうぎょうじ} 学校行事を ^{けっせき} 欠席する
2. ^{しゅくだい} 宿題ができていないことが多い	8. ^{ほけんしつ} 保健室で ^す 過ごすことが多い
3. ^も 持ち物の ^{わす} 忘れ物が多い	9. ^{がっこう} 学校では ^す ひとりで ^{おほ} 過ごすことが多い
4. ^{なら} 新しい ^{やす} ことを ^{おほ} 休むことが多い	10. ^{ともだち} ともだちと ^{あそ} 遊んだり、 ^{おしゃべり} おしゃべりしたりする ^{じかん} 時間が
5. ^{ていしゅつぶつ} 提出物を ^だ 出すのが ^{おく} 遅れることが多い	^{すく} 少ない
6. ^{しゅうがくりょこう} 修学旅行などの ^{しゅくはくぎょうじ} 宿泊行事を ^{けっせき} 欠席する	11. ^{とく} 特にない

とい 問17 今、あなたは、^{いま}いやなことや^{なや}悩んでいることはありますか。

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{うち} おうちのこと	6. ^す 好きな ^{ひと} 人のこと
2. ^{がっこう} 学校や ^{べんきょう} 勉強のこと	7. ^{しんがく} 進学・ ^{しんろ} 進路のこと
3. ^{くらぶ} クラブ活動や ^{ぶかつどう} 部活動のこと	8. ^た その他のこと
4. ^{じぶん} 自分のこと（ ^{がいけん} 外見や ^{たいけい} 体型など）	9. ^{なや} いやなことや悩んでいることはない
5. ^{ともだち} ともだちのこと	10. ^{わからぬ} わからない

とい 問18 あなたは、^{なや}いやなことや悩んでいることがあるとき、^{そうだん}だれかに相談しますか。（^{はな}だれに話しますか。）

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{おや} 親	12. ^{いんたーねっと} インターネットや ^{さいと} サイトなどを ^{つうし} 通じて ^し 知りあった
2. ^{きょうだい} きょうだい	^{ちよくせつ} 直接 ^あ 会った ^{ひと} ことのない人
3. ^{しん} 親せき	13. ^{きんじょ} 近所の ^{ひと} 人
4. ^{がっこう} 学校の ^{ともだち} ともだち	14. ^{ちいき} 地域の ^{しえんだんたい} 支援団体
5. ^{がっこうがい} 学校以外の ^{ともだち} ともだち	^{がくしゅうしえん} （学習支援の ^ば 場や ^こ 子ども ^{しょくどう} 食堂など ^{ちいき} 地域で
6. ^{がっこう} 学校の ^{せんせい} 先生	^{おなとし} 同じ ^こ 年ごろの ^{あつ} 子どもが ^{ひと} 集まるところの人）
7. ^{すくー} スクール ^{かうんせらー} カウンセラー、 ^{そーしゃるわーかー} ソーシャルワーカー	15. ^た その他の ^{ひと} 人
8. ^{じゅく} 塾や ^{なら} 習いごとの ^{せんせい} 先生	16. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談できない
9. ^{がくどうほいく} 学童保育の ^{せんせい} 先生（※）	17. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談したくない
10. ^こ 子ども ^{せんよう} 専用の ^{でんわ} 電話 ^{そうだん} 相談	18. ^{わからぬ} わからない
11. ^{えすえぬえす} SNSなどの ^{いんたーねっと} インターネットや ^{らいん} LINEの ^{そうだん} 相談	

※「学童保育」とは、「^{がくどうほいく}放課後児童クラブ」、「^{ほしかい}いきいき放課後児童クラブ」、「^{るす}留守家庭児童会（室）」
、「^{がくどうくらぶ}学童クラブ」、「^{なかよ}仲良し^{くらぶ}クラブ」もふくみます。

問19 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。あなたが、この一週間、どんな気持ちや状況だったのか、教えてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。

(①～⑨それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

	そう いつも だも	とき そう だき	そ は な い こ と
① 楽しみにしていることがたくさんある	1	2	3
② 遊びにでかけるのが好きだ	1	2	3
③ 元気いっぱいだ	1	2	3
④ やろうと思ったことがうまくできる	1	2	3
⑤ 一人ぼっちのような気がする	1	2	3
⑥ 不安な気持ちになる	1	2	3
⑦ まわりが気になる	1	2	3
⑧ やる気が起きない	1	2	3
⑨ いらいらする	1	2	3

問20 あなたは、自分の体の状態で気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	6. よくかゆくなる
2. よく頭がいたくなる	7. とくに気になるところはない
3. 歯がいたい	8. その他
4. よくおなかがいたくなる	9. わからない
5. よくかぜをひく	



枚方市 ひこぼしくん

答えたくない質問は答える必要はないよ。

答えに迷うときは、あなたの気持ちや考えに

できるだけ近いものを選んでね。

とい 問21 あなたが、持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 本 (学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく)	8. テレビ
2. マンガ・雑誌	9. けいたい電話
3. 子ども部屋 (ひとり部屋やきょうだいと 一緒に使っている部屋など)	10. スマートフォン・タブレット機器
4. インターネットにつながるパソコン (学校のパソコンはのぞく)	11. 化粧品・アクセサリ
5. 運動用具 (ボール・ラケットなど)	12. 習いごとなどの道具 (ピアノなど)
6. ゲーム機	13. 自分で選んだ服
7. 自転車	14. キャラクターグッズ
	15. その他
	16. あてはまるものはない

あなたが、ふだん 考 えていることについておたずねします。

とい 問22 あなたは、つらいことがあってもすぐ立ち直ることができますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. そう思う	3. どちらかというそう思わない
2. どちらかというそう思う	4. そう思わない

とい 問23 あなたがふだん 考 えていることについて、次の (1) ~ (3) について教えてください。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

(1) 自分に自信がある

1. ある	3. どちらかというない
2. どちらかというとある	4. ない

(2) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

1. できる	3. どちらかというとできない
2. どちらかというとできる	4. できない

(3) 自分の将来の夢や目標を持っている

1. 持っている	3. どちらかというと持っていない
2. どちらかというと持っている	4. 持っていない

問24 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	6. 留学 (外国で長い期間勉強すること)
2. 高校	7. 専門学校 (美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など) ・高等
3. 短期大学	せんもんがっこう
4. 大学	専門学校
5. 大学院	8. 考えたことがない
	9. わからない

あともう少しだよ！

がんばってね！



©2014 大阪府もずやん

あなたのことについて、おたずねします。

問25 自分やともだちの家以外の場所についておたずねします。

(1) あなたは、次の①～④のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思いますか。

(①～④それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	利用 した こと が あ る	利用 した こと は な い (あ れ ば 利 用 し た い と 思 う)	利用 した こと は な い (今 後 も 利 用 し た い と 思 わ な い)	利用 した こと は な い (今 後 も 利 用 し た い か 分 か ら な い)
① 平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (学童保育など)	1	2	3	4
② 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など)	1	2	3	4
③ 勉強を無料か安い料金でみしてくれる場所 (一般的な学習塾とはちがう学習支援など)	1	2	3	4
④ 何でも相談できる場所 (電話やネットの相談をふくむ。)	1	2	3	4

(2) 前の質問で、1つでも「利用したことがある」と答えた方におたずねします。そこを利用したことで、次のような変化がありましたか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ともだちが増えた	6. 勉強がわかるようになった
2. 気軽に話せる大人が増えた	7. 勉強する時間が増えた
3. 生活の中で楽しみなことが増えた	8. その他
4. ほっとできる時間が増えた	9. 特に変化はない
5. 栄養のある食事をとれることが増えた	

(3) 問25(1)の質問で、「利用したことがある」に○をつけた方以外におたずねします。利用したことがないのはなぜですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから	7. Wi-fi (インターネット通信環境) がないから
2. 家の近く(ひとりでいける場所)にないから	8. 行きたいと思わないから
3. 家で過ごしたいと思うから	9. 何をしているかわからないから
4. 楽しくなさそうだから	10. 利用していることを近所の人やともだちに知られたくないから
5. 「行っはいいけない」と親などの大人にいわれるから	11. その他
6. 行きたい日・時間に開いていないから	

問26 あなたがうちでしているお世話の様子についておたずねします。

(1) うちの人のなかあなたが世話をしている人はいますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. いる	2. いない

(2) 前の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。誰のお世話をしていますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじいちゃん
2. お父さん	5. きょうだい
3. おばあちゃん	6. その他

(3) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 料理や買い物、食器洗いなど	5. 病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など
2. 洗濯など	6. その他
3. そうじやゴミ捨てなど	
4. きょうだいのめんどろを見ることや保育所のおむかえなど	

(4) 前の質問で「6. その他」に○をつけた方は、具体的な内容を書いてください。

(5) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をするのはどれくらいありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日	3. 週に1日または2日
2. 週に3日～5日	4. 1か月に数日

(6) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。学校がある日に、お世話を1日のうちどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 1時間より少ない	4. 3時間以上、5時間より少ない
2. 1時間以上、2時間より少ない	5. 5時間以上、7時間より少ない
3. 2時間以上、3時間より少ない	6. 7時間より多い

(7) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をしていることによって次のようなことがありますか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. おうちの人と話したり遊んだりすることが ふ 増える	8. とても疲れることがある
2. 時間の使い方を工夫できる	9. いろいろしやすい
3. 家の中で気持ちよく過ごすことができる	10. 気持ちが落ち込む
4. おうちの人健康に過ごすことができる	11. 学校を欠席や遅刻、早退することがある
5. 「お世話」にやりがいを感じる	12. その他
6. おうちの人以外と話す時間が減る	13. 特にない
7. 自分のことをする時間がない	

問27 あなたの性別をえらんでください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 男子	3. その他
2. 女子	4. 答えたくない

質問はこれで終わりです。調査にご協力いただきありがとうございました。

「小学生・中学生用」と書いてある封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、保護者の方に渡してください。

相談窓口のご案内

枚方市

<子どもの笑顔を守るコール>

学校や友だちのこと、困っていることやわからないこと、心配なことは何でも相談してください。

◎いじめ専用ホットライン TEL: 072-809-7867

◎教育安心ホットライン TEL: 072-809-2975

月曜日～金曜日 : 9時～17時 (※祝日・年末年始を除く)



枚方市ひこぼしくん

<家庭児童相談>

18歳未満の子どもに関するさまざまな相談に乗っています。

TEL: 050-7102-3221

月曜日～金曜日 : 9時～17時30分 (※祝日・年末年始を除く)

大阪府

<すこやかホットライン>

TEL: 06-6607-7361

月曜日～金曜日 : 9時～17時30分 (※祝日・年末年始を除く)

Eメール sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp



©2014 大阪府もずやん

<子どもの悩み相談フリーダイヤル>

TEL: 0120-7285-25

24時間 365日

<親子のための相談LINE>



【ひとりで悩まないで、相談してね。】

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

■ WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。

■ 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src/2700082>

- ◆ 最初の画面がでてきたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

おおさかふ こ せいかつ かん じつたいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査
ほごしや む ちようさ ちようさひよう ひらかたし
保護者向け調査 調査票 【枚方市】

＜ ちようさ きようりよく ねが
調査への協力をお願い ＞

- ◆この調査は、保護者の方に家庭状況などをお聞きし、大阪府と枚方市の子どものための支援策に役立てるために実施します。皆様からの回答を支援策の充実や改善につなげていきたいと考えていますので、お忙しい中お手数ですが、調査への協力をお願いします。
- ◆調査の対象は、小学5年生と中学2年生の約半分の世帯です。
- ◆お名前や住所を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人や学校を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
- ◆この調査で「お子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。「お子さん」と書かれた質問には調査票を受け取ったお子さんについてのみお答えください。
- ◆ごきょうだいなどで、この調査用紙が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについて、それぞれの調査用紙（またはWebフォーム）に回答してください。
- ◆回答するときには、お子さんと別々に、お互いの回答を見ないように記入してください。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年7月31日までに回答してください。

（1）Webによるご回答

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、16ページをごらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

（2）紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「保護者用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがして封をしてください。お子さんの回答の入った「小学生・中学生用封筒」と「保護者用封筒」を返信用封筒にまとめて入れ、提出期限までに郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

◆期限： 令和5年7月31日（月曜日）◆

（学校に提出するものではありません。郵便ポストに投函してください。）

【調査に関する問い合わせ先】

枚方市 子ども未来部 子ども青少年政策課

電話 072-841-1375（直通） ※9:00～17:30 土日祝日を除く

ファクシミリ 072-843-2244

※この調査は大阪府と枚方市が共同で実施しています。

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしたがってください。

最初に、あなたとお子さんの関係についておたずねします。

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじ、おばなど親戚
2. お父さん	5. 施設職員・ファミリーホーム・里親
3. おじいさん・おばあさん	6. その他の人

世帯の状況についておたずねします。

※あなたの世帯について、令和5年4月1日現在の状況を教えてください。

※世帯とは、普段、住居と生計を共にしている方々(世帯員)の集まりをいいます。血縁関係のない人でも同居していれば世帯に含んでください。また、単身赴任の方も含みます。

※世帯員には、旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人を含みます。

※また、病院・診療所に入院している人を含みますが、住民登録を病院・診療所に移している人は除きます。さらに、学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人を除きます。

問2 あなたの世帯の構成と人数をお答えください。（①～⑧それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください）（⑧は、あなたや対象のお子さんを含んだ人数をお答えください。）

①おばあさん	②おじいさん	③お母さん	④お父さん	⑧合計 (あなたや対象のお子さんを含む)
0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人	0. いない 1. 1人	1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人 5. 6人 6. 7人 7. 8人 8. 9人 9. 10人以上
⑤姉・兄	対象のお子さん (本人) (※)	⑥妹・弟	⑦その他	
0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	1人	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	

※「対象のお子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。

問3 お子さんと同居し、生計を共にしている親の婚姻状況を教えてください。
(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 結婚している（再婚や事実婚を含む。） 2. 離婚 3. 死別	4. 未婚 5. わからない 6. いない

問4 前の質問で「2. 離婚」に○をつけた方におたずねします。

離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。

また養育費を現在受け取っていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 取り決めをしており、受け取っている 2. 特に取り決めはしていないが、受け取っている 3. 取り決めをしているが、受け取っていない 4. 取り決めをしておらず、受け取っていない

問5 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. 持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	4. 民間の賃貸住宅
2. 府営・市営の住宅	5. 官舎・社宅
3. UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	6. その他

問6 あなたの家計の収支状況についておたずねします。

（1）前年（2022年）の1年間のあなたの家計の状況について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 貯蓄ができています	3. 赤字でもなく黒字でもない
2. 赤字である	4. わからない

（2）お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. 貯蓄をしている	3. 貯蓄をするつもりはない
2. 貯蓄をしたいが、できていない	

問7 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 食費を切りつめた	13. 鉄道やバスの利用を控え、自転車を使ったり歩くようにした
2. 電気・ガス・水道などが止められた	14. 電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞ったことがある
3. 医療機関を受診できなかった	15. 家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある
4. 国民健康保険料の支払いが滞ったことがある	16. 趣味やレジャーの出費を減らした
5. 国民年金の支払いが滞ったことがある	17. 冷暖房の使用を控えた
6. 金融機関などに借金をしたことがある	18. 友人・知人との外食を控えた
7. クレジットカードの利用が停止になったことがある	19. 敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した
8. 新しい衣服・靴を買うのを控えた	20. 理髪店・美容院に行く回数を減らした
9. 新聞や雑誌を買うのを控えた	21. 子ども部屋が欲しかったがつくれなかった
10. スマートフォンへの切替・利用を断念した	22. 1～21の項目には、どれもあてはまらない
11. 冠婚葬祭のつきあいを控えた	
12. 生活の見通しがたたなくて不安になったことがある	

問8 お子さんのお母さんとお父さんの最後に通った学校を教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）（現在、ひとりでお子さんを育てている場合（ひとり親の場合）はあてはまる方だけに○をつけてください。）

お母さん	お父さん
1. 中学校卒業	1. 中学校卒業
2. 高等学校中途退学	2. 高等学校中途退学
3. 高等学校卒業	3. 高等学校卒業
4. 高専、短大、専門学校等卒業	4. 高専、短大、専門学校等卒業
5. 大学卒業	5. 大学卒業
6. 大学院修了	6. 大学院修了
7. その他の教育機関卒業	7. その他の教育機関卒業
8. 答えたくない	8. 答えたくない

問9 お子さんの保護者の方の現在の就業状況についておたずねします。（複数か所にお勤めされている方はあてはまる番号をすべて選んでください）

※お母さん、お父さん以外の方が主として家計を支えている場合、「お母さん、お父さん以外の方」にもご記入をお願いします。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号を選んでください。

お母さん	1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他

とう お父さん	1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他

お母さん、お父さん以外に主として家計を支えている方（おばあさん、おじいさん、おじ、おば、親戚など）	
1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他

問10 お子さんの保護者の方が家にいる時間帯で、多い時間帯を選んでください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※保護者の方には、おばあさん、おじいさん、おじ、おばなど親戚を含みます。

※自宅が仕事場の場合は、お仕事が終わる時間帯を選んでください。

1. お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	4. お子さんが寝た後に帰ってくる
2. お子さんの夕食時間には家にいる	5. 帰宅時間が決まっていない
3. お子さんの寝る時間には家にいる	6. その他

問11 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 日本語のみを使用している
2. 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
3. 日本語以外の言語を使うことが多い

お子さんに関することについておたずねします。

問12 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。（おおむね1年の間でお考えください。）（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. お子さんを医療機関に受診させることができなかった	9. お子さんを学習塾に通わせることができなかった
2. お子さんの進路を変更した	10. お子さんの誕生日を祝えなかった
3. お子さんのための本や絵本が買えなかった	11. お子さんにお年玉をあげることができなかった
4. お子さんにおこづかいを渡すことができなかった	12. お子さんの学校行事などに参加することができなかった
5. お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった	13. 子ども会、地域の行事（祭りなど）の活動に参加することができなかった
6. お子さんを学校の遠足や修学旅行へ参加させることができなかった	14. 家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった
7. お子さんを習い事に通わすことができなかった	15. 1～14の項目には、どれにもあてはまらない
8. お子さんを学校のクラブ活動・部活動に参加させられなかった	

とい 問13 あなたとお子さんとの関係について、次の項目でもっとも近いものを選んでください。

(1) あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても信頼している	3. あまり信頼していない
2. 信頼している	4. 信頼していない

(2) あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よくする	3. あまりしない
2. する	4. しない

(3) あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1 日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。(平日、休日それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

平日	休日
1. 0～15 分未満	1. 2 時間未満
2. 15 分～30 分未満	2. 2 時間～4 時間未満
3. 30 分～1 時間未満	3. 4 時間～6 時間未満
4. 1 時間～2 時間未満	4. 6 時間～8 時間未満
5. 2 時間～3 時間未満	5. 8 時間～10 時間未満
6. 3 時間～4 時間未満	6. 10 時間以上
7. 4 時間以上	

(4) あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても期待している	3. あまり期待していない
2. 期待している	4. 期待していない

(5) お子さんの授業参観や運動会などの学校行事に参加していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よく参加している	3. あまり参加していない
2. ととき参加している	4. まったく参加していない

とい 問14 あなたは、お子さんの進学について、どこまで希望されていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	4. 大学	7. 専門学校・高等専門学校
2. 高校	5. 大学院	8. 考えたことがない
3. 短期大学	6. 留学	9. わからない

問15 お子さんの通学状況について、もっとも近いもの1つに○をつけてください。

1. ほぼ毎日通っている
2. 欠席は年間30日未満である
3. 欠席が年間30日以上、60日未満である
4. 欠席が年間60日以上、1年未満である
5. 欠席が1年以上続いている
6. わからない

問16 子どもの居場所について、おたずねします。

(1) あなたのお子さんは、次のような「子どもの居場所」を利用したことがありますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- ・自宅や学校以外の場所で、子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所
- ・子どもが無料又は低額で食事ができる場所（子ども食堂）
- ・自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える学習支援の場

1. 利用したことがある	2. 利用したことがない

(2) 前の質問で「1. 利用したことがある」と答えた方におたずねします。

お子さんが子どもの居場所を利用することで良いと思うことは何ですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 地域の人とつながれるから 2. お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから 3. 栄養バランスのとれた食事がとれるから 4. 運営者が相談に乗ってくれるから 5. 低額（または無料）でご飯が食べられるから	6. 宿題など勉強を見ってくれるから 7. お子さんが楽しんでいるから 8. 特になし 9. その他

(3) 問16(1)の質問で「2. 利用したことがない」と答えた方におたずねします。

子どもの居場所を利用しないのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. どこにあるかわからないから 2. 家の近く（小学校区内）にないから 3. 家で過ごしてほしいと思うから 4. 居場所のイメージがよくないから 5. お子さんが「行きたくない」と言っているから	6. 行きたい日・時間に開いていないから 7. 利用したいと思わないから 8. 何をしているかわからないから 9. その他

あなたのことについておたずねします。

問17 初めて親となった年齢はいくつですか。(実子以外も含みます)

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 10代	3. 24～26歳	5. 31～34歳	7. 40歳以上
2. 20～23歳	4. 27～30歳	6. 35～39歳	

問18 次の①～⑦について、おうちの方を含め（お子さんは除く）、あなたを支えてくれて、手伝ってくれる人はいますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

	いる	いない	わからない
① 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人	1	2	3
② あなたの気持ちを察して思いやってくれる人	1	2	3
③ 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人	1	2	3
④ お子さんとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人	1	2	3
⑤ お子さんの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人 (運動や文化活動)	1	2	3
⑥ お子さんの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人	1	2	3
⑦ 留守を頼める人	1	2	3

問19 あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 配偶者・パートナー	9. 学童保育の指導員(※)
2. 自分の親	10. 地域の民生委員・児童委員
3. 配偶者・パートナーの親	11. 民間の支援団体・カウンセラー(電話相談含む)
4. きょうだい・その他の親戚	12. 医療機関の医師や看護師
5. 知人や友人	13. インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談
6. 職場関係者	14. その他
7. 学校の先生やスクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	15. 相談できる相手がいない
8. 公的機関や役所の相談員	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会(室)」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」も含みます。

とい 問20 次のうち、身近にあるといいと思うことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 保護者^{ほごしや}どうして気軽に^{きがる}話せる^{はな}場^ば 2. SNS^{えすえぬえす}などのインターネット^{いんたーねっと}を通じて^{つう}悩み^{なや}ごとを話せる^{はな}コミュニティ^{こみゆにてい} 3. 家事^{かじ}の援助^{えんじよ}が受けられる^うこと 4. 支援^{しえん}制度^{せいど}など必要な^{ひつよう}情報^{じょうほう}を届^{とど}けてくれる^くこと 5. 困^{こま}った時^{とき}にご飯^{はん}を無料^{むりよう}または安価^{あんか}で自宅^{じたく}に届^{とど}けてくれる^くサービス^{さーびす}	6. お子^こさんが放課後^{ほうかご}や休日^{きゅうじつ}に勉強^{べんきょう}などができる^{できる}場所^{ばしょ}を利用^{りよう}できる^{できる}こと 7. お子^こさんが無料^{むりよう}で学習^{がくしゅう}支援^{しえん}を受けられる^う場所^{ばしょ} 8. お子^こさんや保護者^{ほごしや}が夕食^{ゆうしょく}を無料^{むりよう}か安い^{やす}料金^{りょうきん}で食べる^たこととができる^{できる}場所^{ばしょ}（子ども食堂^{こどもしきどう}など）を利用^{りよう}できる^{できる}こと

とい 問21 あなたの心^{こころ}の状態^{じょうたい}についておたずねします。

（1）生活^{せいかつ}を楽し^{たの}んでいますか（仕事^{しごと}や家事^{かじ}、育児^{いくじ}など）。

（あてはまる番号^{ばんごう}1つに○をつけてください）

1. とても楽し ^{たの} んでいる	3. あまり楽し ^{たの} んでいない	5. わからない
2. 楽し ^{たの} んでいる	4. 楽し ^{たの} んでいない	

（2）将来^{しょうらい}に対して希望^{たい}を持^{きぼう}っていますか。（あてはまる番号^{ばんごう}1つに○をつけてください）

1. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てる	3. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てない
2. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てるときもあれば、持 ^も てないときもある	4. わからない

（3）ストレス^{すとれす}を発散^{はつさん}できるものがありますか。（あてはまる番号^{ばんごう}1つに○をつけてください）

1. ある	3. ない
2. あるときもあれば、ないときもある	4. わからない

（4）あなた^{じぶん}は、ご自分^{しあわ}が幸^{おも}せだと思^{おも}いますか。（あてはまる番号^{ばんごう}1つに○をつけてください）

1. とても幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} う	4. 幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} わない
2. 幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} う	5. わからない
3. あまり幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} わない	

とい
問22 あなたは、自分の^{じぶん}体^{からだ}や^き気持ち^もで^き気になることはありますか。

(あてはまる^{ばんごう}番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	10. まわりが ^き 気になる
2. よく ^{あたま} 頭 ^き がいたくなる	11. やる ^き 気が ^お 起きない
3. ^は 歯 ^{いら} がいたい	12. ^{いら} イライラする
4. 不安 ^{ふあん} な ^き 気持ち ^も になる	13. よく ^{かた} 肩 ^{こし} がこる
5. ものを見 ^み づらい	14. よく ^{こし} 腰 ^き がいたくなる
6. ^き 聞こえにくい	15. とくに ^き 気 ^き になるところはない
7. よくおなかがいたくなる	16. その他 ^た
8. よくかぜをひく	17. わからない
9. よくかゆくなる	

^{こた}答え^{しつもん}たくない^{こた}質問^{ひつよう}に^{こた}答^{ひつよう}える^{ひつよう}必要^{ひつよう}はありません。

^{こた}答^{まよ}え^{ばあい}に迷^きう^も場合^{かんが}には、あな^{ちか}たの^{えら}気^{えら}持ち^{えら}や^{えら}考^{えら}え^{えら}に^{えら}でき^{えら}る^{えら}だ^{えら}け^{えら}近^{えら}い^{えら}もの^{えら}を^{えら}選^{えら}ぶ^{えら}よう^{えら}に^{えら}し^{えら}て^{えら}く^{えら}だ^{えら}さ^{えら}い。

問23 あなたの世帯では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

(a～gそれぞれについて、1～3のあてはまる番号1つに○をつけてください)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまる番号1つに○をつけてください)

	a 就学援助 ※1	b 生活保護 ※2	c 生活困窮者の 自立支援相談窓口 ※3	d 児童扶養手当 ※4	e 母子家庭等就業・ 自立支援センター ※5	f 低所得の子育て世帯に対する子育て 世帯生活支援特別給付金 ※6	g 新型コロナウイルス感染症に伴う 生活福祉資金(貸付金) ※7
現在利用している	1	1	1	1	1	1	1
現在利用していないが、 以前利用したことがある	2	2	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3	3	3
制度の対象外 (収入などの条件を 満たさない) だと思う から	①	①	①	①	①	①	①
利用はできるが、特に 利用したいと思わな かったから	②	②	②	②	②	②	②
利用したいが、今まで この支援制度を知ら なかったから	③	③	③	③	③	③	③
利用したいが、手続が わからなかったり、 利用しにくいから	④	④	④	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

3に○をつけた場合、
①～⑤のあてはまるもの1つに○をつけてください

(参考)

※1 就学援助：経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度。

- ※ 2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※ 3 生活困窮者の自立支援相談窓口：お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う。
- ※ 4 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
- ※ 5 母子家庭等就業・自立支援センター：ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けることができる。
- ※ 6 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金：新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、低所得の子育て世帯（児童扶養手当受給者など）に対し子育て世帯生活支援特別給付金を支給する制度。
- ※ 7 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）：新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業などにより、一時的又は継続的に収入減少した世帯を対象に、生活福祉資金貸付制度における生活支援費などを支給する制度。

世帯の経済状況についておたずねします。

問24 前年（2022年）のあなたの世帯の手取り収入の合計額は、およそいくらでしたか。

（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※収入には、働いて得た給料だけでなく、株式配当や副収入を含めて合計してください。

税金や社会保険料を払ったあとの額でお答えください。

※また、公的な援助手当や養育費・仕送りを含んだ額でお答えください。

1. 50万円未満	12. 550～600万円未満	23. 1,200～1,300万円未満
2. 50～100万円未満	13. 600～650万円未満	24. 1,300～1,400万円未満
3. 100～150万円未満	14. 650～700万円未満	25. 1,400～1,500万円未満
4. 150～200万円未満	15. 700～750万円未満	26. 1,500～1,750万円未満
5. 200～250万円未満	16. 750～800万円未満	27. 1,750～2,000万円未満
6. 250～300万円未満	17. 800～850万円未満	28. 2,000～2,250万円未満
7. 300～350万円未満	18. 850～900万円未満	29. 2,250～2,500万円未満
8. 350～400万円未満	19. 900～950万円未満	30. 2,500～2,750万円未満
9. 400～450万円未満	20. 950～1,000万円未満	31. 2,750～3,000万円未満
10. 450～500万円未満	21. 1,000～1,100万円未満	32. 3,000万円以上
11. 500～550万円未満	22. 1,100～1,200万円未満	33. わからない

新型コロナウイルスの感染状況についておたずねします。

問25 この1年間でお子さんを含め、同居家族が新型コロナウイルスに感染したのべ回数を教えてください。
（例：母 1回、長男 1回 ⇒ 2回とお答えください。）

かい
回

問26 あなたの住居環境についておたずねします。

（1）あなたが住まいの住居の間取りは、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号 1 つに
まる
○をつけてください）

1. ワンルーム	3. 居室2部屋（2K、2DK、2LDK）
2. 居室1部屋（1K、1DK、1LDK）	4. 居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上

（2）その住居には、何人でお住まいですか。（□に数字をお書きください。）

にん
人

質問は以上です。調査にご協力いただきありがとうございました。

相談窓口のご案内

枚方市

家庭児童相談

親子関係、子育て、友達のことなど、18歳未満のお子さんについての様々な相談をお受けします。

TEL：050-7102-3221 月～金（祝日・年末年始を除く）9時～17時30分

ひとり親家庭相談支援センター

ひとり親のみなさんやこれからひとり親になるかもしれない方の自立のための相談をお受けします。

TEL：050-7102-3227 月～金（祝日・年末年始を除く）9時～17時30分

子育ていつでも電話相談

子育てに関する悩みなどさまざまなことについて、夜間や休日にも相談をお受けします。

TEL：072-850-7337 24時間

大阪府

生活困窮者自立支援相談窓口



大阪府立母子・父子福祉センター



親子のための相談LINE



パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

- WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。
- 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src/2700081>

- ◆ 最初の画面が表示されたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

子ども・保護者のみなさまに本調査にご協力いただきました。ご多忙の中快くお引き受けくださりご協力くださいましたことを、ここに厚くお礼申し上げます。

枚方市子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

枚方市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学